岡山縣
同教育會
同聖學會
贊助

正宗敦夫編輯

蕃山全集

第四冊

蕃山全集刊行會發行

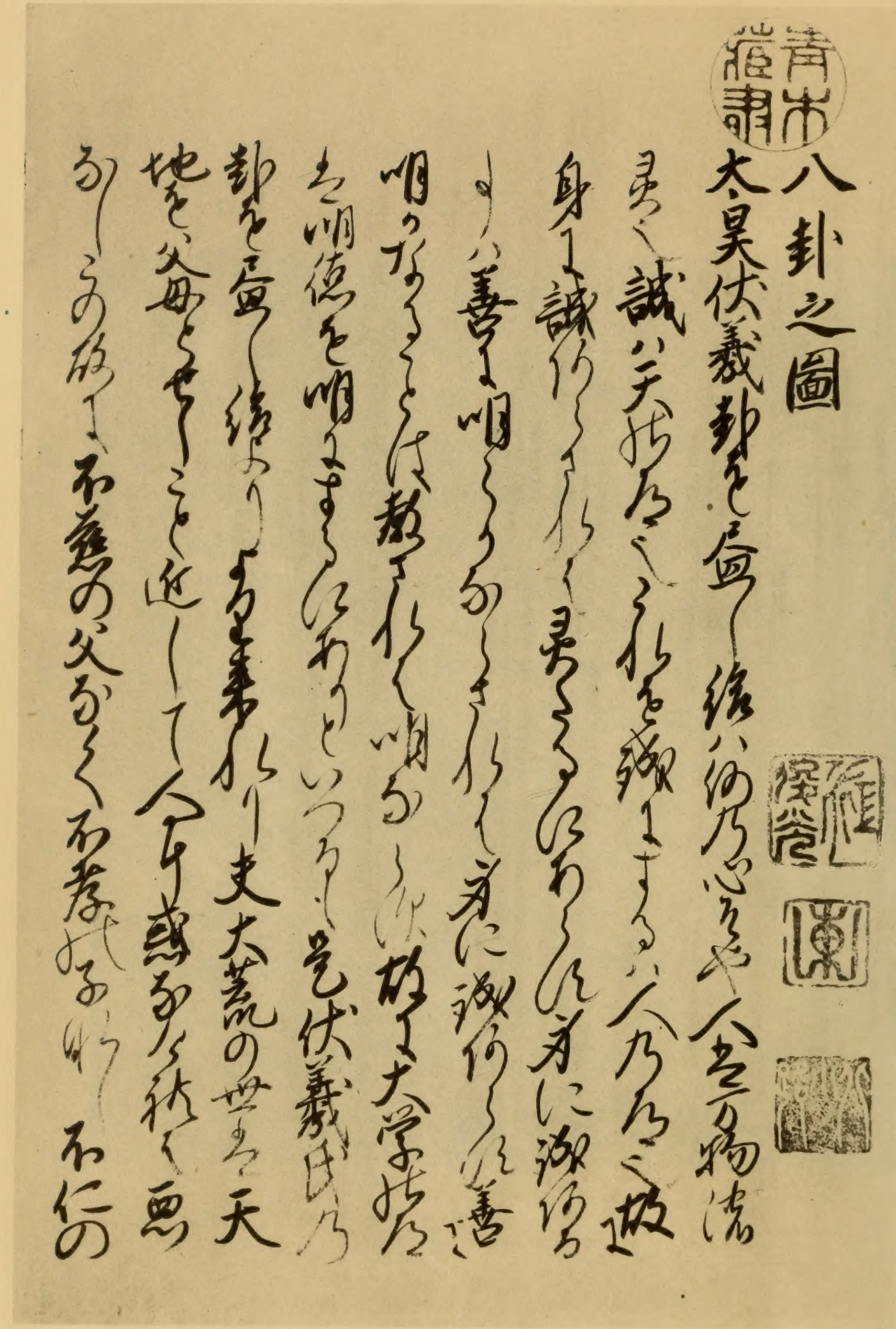
子路第十三

子路問政子曰先之勞之請益曰無倦

鄉註 孝弟忠信の道ハなりむる民の業を修めん所ハなるべく是ハ農桑乃事も時をうしなはず用意し井川池堤ハ堅固にし道路舟橋ハ通し常に民事に労ハ無倦なるハ士民ハなるほどくにもろ仁を行をバなり

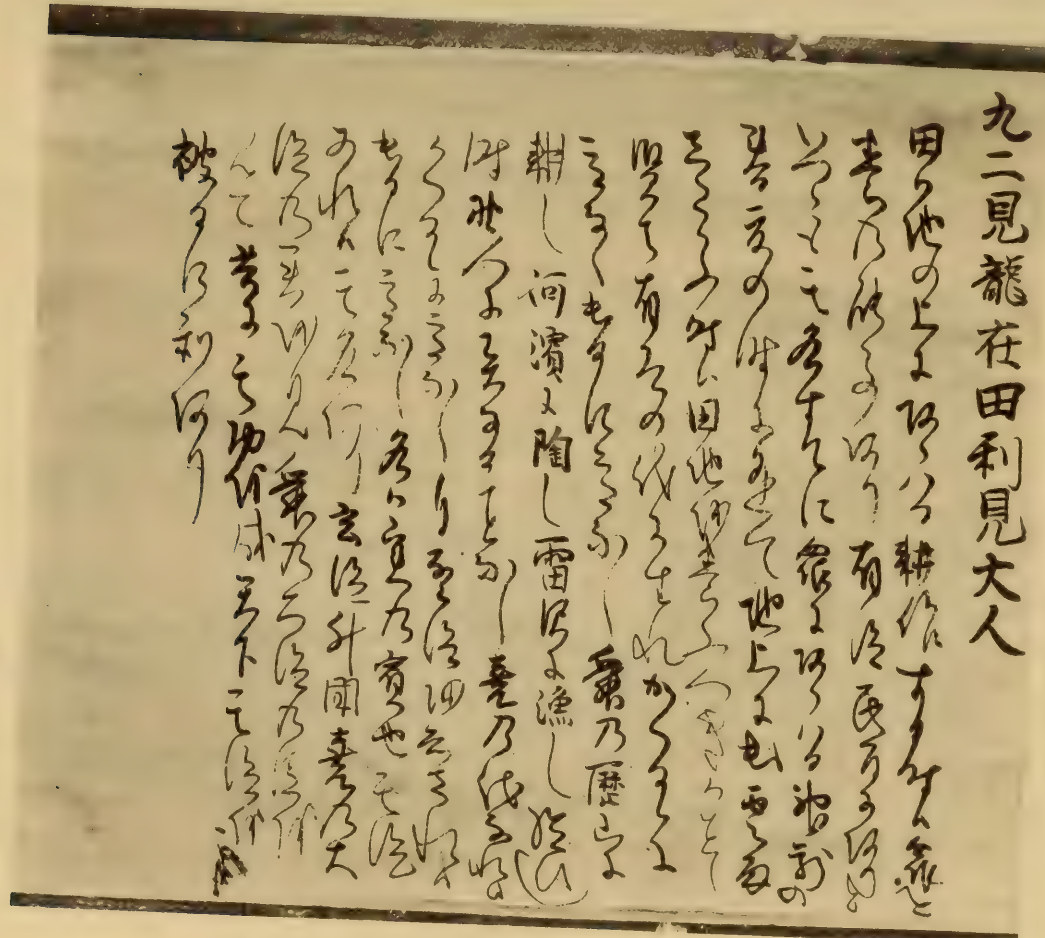
仲弓爲季氏宰問政子曰先有司赦小過擧賢才曰焉知賢才而擧之曰擧爾所知爾所不知人其舍諸

宰ハ惣ばうる也今乃老中のごとし有司ハやくにんの役人也其役〃の罪にあたるものハゆるくべ置ても政の才一也後世ハ[illegible]ひろうてみるべき人を進退するゆゑに



八卦之圖
太昊伏羲卦を画し給ハ何乃心ぞや 人ハ万物の霊
是ハ誠ハ天地乃[illegible]を識まするハ人乃心の故
身ニ誠ありて 是を[illegible]ハ身に識[illegible]
よハ善を明らかにさせて身に識[illegible]善
明のなることは教を行て明なる 故ニ大学[illegible]
是明徳を明らかにするにありといへり 先伏羲氏乃
卦を画し給ひしより事にあり 夫大意の世より天
地を父母とせしことを述して 人と[illegible]悪
なし その故ニ 不慈の父なく 不孝の子なし 不仁の

八卦之圖（北小路俊光自筆本）



蕃山先生自筆　易經小解　（正樂寺藏）

蕃山全集第四冊目次

卷頭玻璃版目錄　論語小解版本（十三卷）・八卦之圖（北小路俊光自筆本）・易經小解（蕃山先生自筆、正樂寺藏）各一葉

解題……一―一五

論語小解……一―二六一……（通頁首）一

八卦之圖……一―一八……二六三

易經小解……一九―一三一……二八一

繫辭傳……一―九七……三九五

論語小解解題

蕃山先生が論語に對する考は、集義和書巻第八、義論之第一の巻頭に

心友問、論語の教は仁を主とし、大學の教は知を主とするとは何ぞや。答云、論語は聖人いまして直にをしへ給ふ。故に仁を主とし給ふ。仁は徳の本なればなり。大學は聖人すでに去給ひ後聖世に出給ふことありがたかるべき前知あるによりて知を主とし給へり。智は徳の神明にして性の先見するものなり。天下の惑をわきまへて人倫を明かにする書なれば、知を主宰として、自反愼獨の實体とす。聖人いまさゞる時、問學する人は大學を入徳の門とし、論語を入徳の室とす

と述べてゐられる

論語小解　八冊

論語小解は蕃山先生眞著として疑ひ無きものゝ一種であつて、北小路俊光日記寳永元年十二月十四日の條に

牧宗太夫より使、息游軒作の四書解借用申度由申來に付論語解五冊全其使に借遣了

とある。はつきり息游軒作と書いてある。尤小解とは書いて無いが、解とも小解とも勝手に書いてゐるので此小解の事には相違ない

論語小解は全部版行に成つてゐる。然し今日では稀覯本となつてゐる。殊に十一巻の註以下は極めて稀なりとせられ

てゐる

先づ元祿書籍目錄を撿するに

七　論語小解　　能澤了海

と出てゐる。七は七冊と云ふ事である。今全集に編入するので用ゐた本は一二・三四・五六・七八・九十・十一十二・十三十四十五・十六十七十八十九二十の八冊に製本せられてゐる。七冊と云つてゐるのと合はない。又俊光日記の五冊と云へるのとはます〱合はない。卷四と卷六とは本の柱は卷三と卷五とになつて四・六は脫落の形になつてゐるが、之れは柱の文字の誤であつて本文は脫落はないのである

典籍秦鏡に論語小解を出して闕卷とし、本文先進第十一ヨリ堯曰第二十迄欠二卷とし、無年号、撰名、和漢序跋奧書（但十ノ卷二十七丁終也）と云つてゐる。されば十一卷からの分は天保の頃には既に中々稀覯本であつたので、さすがの田口明良も見なかつた本と思はれる。私も此小解は十卷の註までのものかとも思つた事がある。其で元祿書目の七冊と云ふのは、或は製本上、柱の三・四が凡て三となつてゐ、五・六が凡て五となつてゐるから、一・二・三四・五六・七・八・九・十となるが、其内どれかゞ今一冊合冊せられて七冊に製本して有つたのかとも考へて見た。然し、俊光日記によれば完備してゐる筈であるから、注意してゐた。と云ふのは、日記に論語下卷解の出版の事が出てゐるからである。云ふ迄もないが天文版の論語、慶長版の論語、寛永版の四書集註本の論語等、論語は二冊に製本せられてゐるのが多いから、十卷までが上、以下が下と呼ばれたのである。處が先年大阪の鹿田書店の盡力で二十卷迄の解の完備せる八冊本が手に入

つて驚喜したのである。多年蒼山先生を研究せる人の中にも實物を見る迄は信ぜられぬと云つて笑ひつゝ、喜んでくれた人もあつた

北小路俊光日記貞享三年九月十日の條に「夜生島元庵被參、論語解挍合」と云ふ事が見えてゐる。是れが蒼山先生の小解の事で有らうとは推察せられる、多分小解を略して云はれた事と思はれるが、其ともたゞ解とのみ云はれたか、又名が定まつてゐなかつたか、知る由はない。然し、是迄に十巻迄の註が版に成つてゐる筈であるから略稱で有らう。中庸小解を中庸解とも云つてゐる。とにかく俊光日記に論語の解の出て來た始めである。次に同じ月廿七日の條に

坂根正齋より參候銀子封之儘 廿日有之由 眞靜へ渡。大學論語下小解書寫入用代也

とある。こゝははつきり小解と書いてある。貞享四年二月十六日の條に

昨日坂根正齋より三以、某へ連書幷小解入銀貳百拾匁來候ニ付今日菅眞靜丈へ持せ遣了。眞野加右衛門、西村又左衛門、坂根正齋三人より參候入銀取次眞靜へ相渡候也

とあつて、井上先生の勘に

小解入銀貳百拾匁トアルハ前年十二月四日ノ條ニ板行代の銀七拾目トアルト同ジク小解版行ノ豫約金ナルベク小解トイヘルハ論語及大學ノ小解ナリ。眞靜ガ共版行ヲ引受ケナガラ屢期ヲ過グシシ事ハ後ニ見ユ

と云はれた。六月朔日論語大學小解書寫手間代の事が出てゐる。是れは本集前册大學小解の解題(七頁)に云つた

九月六日の條に

菅眞靜へ內義見舞に狀幷蔓茶一袋送之且亦板行之事三月中と方々へ申參候所延引に成候。何とぞ急度埒明候樣に御了簡可被成候。か樣に遲々に成候ては御ためにもいかゞと被存候。十一日には三以も矢田へ被參由に候。其前三以共うちわりて御相談被成候へかしと被存事に御座候。此有增に今日先日兩度申遣候へ共しかと心得候との返事は無候也

申すまでもないが、蕃山先生は此時には矢田に居られた。先生に三以が御目にかゝると、論語小解の板行の事を聞かれもせうし、御はなしもせねばならぬから、御互に氣をもんだので有らうが、菅眞靜の方は中々版行の見通しがつかなかつたと見える。而して此論語の板行の遲々たるを斯く氣にしたのは無理もない事で、蕃山先生は此月十六日に

　息游軒今朝藤森より江戶發足。蕃山武三郞同道也

と俊光日記にあるやうに、江戶へ下られるから、御發足前に御目に懸けたかつたのでもあらう

さていよ〳〵本が出來た事は、同じ年の十一月の二十日に

　眞靜より論語下卷解一部請取了

とあつて、下卷、論語十一卷から二十卷迄の解が出來たのと思はれる。先づ見本刷位の處であらう。取あへずやかましかつたのを眞靜がやつと仕上げてとゞけて來た。扨て是によつて考ふるに上卷にあたる一より十迄の小解はとくに出來てゐた筈で有るが、其が何年であつたかと云ふ事は、今私には考ふる材料が無い。而して俊光日記は貞享元年俊光四十三歲よりのが傳はつてゐるが、其內には所見がないから、其以前に版になつてゐたのであらうとは推測出來る。又集義和書の初版が寬文十二年であるから、多分其れよりは後であらうと思はれるから（是れはほんの推測に過ぎぬ

が）蕃山先生五十五歲延寶元年から六十六歲（貞享元）までの間であらう。猶考ふるに、贈北小路石見書（書簡集八二頁）に和書再版（私の云ふ十行本）の事見ゆ。これが延寶三年十月の書簡にて、延寶四年五月、贈國枝平介書には「和書御らんゆよし。さいぜんの板本よほどなをり申ゆ。其上に四五冊もたし出來ゆ」とあれば再版本出來が確實に報ぜられてゐる。贈北小路石見書、延寶七年六月十八日書簡（書簡集八九頁）に書籍出版の事が見える

一小次郎金子の事今は調不申ゆ。貳百部計すらせゆはんかと申ゆ間、三百部可然ゆ、貳百部にては書代高直に當り可申ゆ、今ほど諸方ひつぱくの時節にゆ。小次郎志も有之者、高直に仕ては人情あしくゆ、其上高直にては重板出來可仕ゆ、下直にて本屋の渡世にあひゆはぬ樣にゆはゞ重版仕間敷ゆ、三百部にては利分取不申ゆ樣に、と申遣ゆ。二百部は當年中にのき可申由何も申ゆ。今百部もし一兩年滯りゆはゞ其代物は明年中には拙子才覺いたし取かへ可遣ゆと存ゆて申遣ゆ。大方はそれまでもなくのき可申由何も申ゆ。三百部の後は紙の代計にて小次郎得分に成可申ゆ。木藥屋仕ゆゟはましなる事も可有ゆ。重板のなきと人情よきと皆小次郎爲にてゆ。我等は初から板行同心になく切々無用と申ゆへ共小次郎達て取付申ゆ。一兩年以前には板行手づかへゆはゞ金子二十兩計とりかへ可遣由鄉右も被申ゆ。松井善兵衞も十兩計は才覺可遣との事にゆへ共小次郎他の合力かる事にてなきと申ゆき。其節とは勢ちがひ申ゆて鄉右も今はなり申間敷かと存ゆ。善兵衞は尙以長々在江戶なんぎの由にゆ間成申間敷ゆ。拙子も當年は鄉右も被存ゆごとくことの外つまり申ゆ。江戶へ刀うりに遣ゆへども于レ今のき不申ゆ。當年中にうりこし可申由にゆ。左ゆはゞ爰元急用の借金すまし可申ゆ間、來年は一貫め計は又かりゆて可遣と存ゆ。今はかり所もふさがり申ゆ。

小次郎不成候はば板行貳百部に仕候か鄕右へ相談候か分別次第たるべく候。此由御傳へ可被下候とある。此出版は何の本とも知れないが、私は是れが論語小解の上卷（即ち論語十卷迄の註）の事では有るまいかと考へる。然らば小次郎（或は小四郎）は菅眞靜か。何分和書の第二版が出來（延寶四、先生五十七歲）共から貞享元（先生六十六歲）からは俊光の日記が存してゐて、論語上卷出版の事はなければ多分此書簡に問題になつてゐるのは論語上卷かと推測してよいかと思はれる

さて眞靜が蕃山先生の著書出版を引受けたうちの論語小解の下卷のみが前述の如く貞享四年十一月二十日であつて、元祿二年閏四月二十日の俊光日記に大學小解拾部請取と出てゐるから、論語小解と共に出版すべかりし大學小解は此年にやつと出來た。即ち貞享三年冬より論語下小解と大學小解の出版の計畫が出來て、次の年の三月出來の筈なのが元祿二年四月迄完成せなかつた。共で俊光や三以等が困つた事は、本全集第三冊の解題八頁に俊光日記を抄出して置いたから見られたい

元祿元年正月四日俊光は心靜かに「終日私宅に休息、論語下の解見了」たのである

同年の三月十四日の日記に「中庸、論語小解全六冊、代十二匁五分肝煎遣候」とある。大躰本代の見當も是れでつくかと思はれる

以上にて出版の事の知れてゐる事は書いた。其以外何も私が云ふ必要もないが、論語下卷は何分にも急いだ爲か、十一ノ八丁より九丁へ渡る處で「子夏」の二字を脫したと見えて（本集一五七頁二行「孔子終り給ひて子夏に學べる者」）

あとから押捺したやうになつてゐるし。本集一八五頁五行に、本文を十字脱落させた處などが有る。私の推測した贈北小路俊光書簡の出版が此書の事であつたとしたら、本書の出版は先生も中々苦心せられた事であらうし、俊光日記によりて考ふると菅眞靜は隨分困つてゐる樣だ。何れ困つた原因は金の問題が重な事であらう。今日の如く物の缺乏ではあるまいと考へられる。然しとにかく眞靜が版にして吳れてゐたから、我々は今日其書を見る事が出來るのである。我々は眞靜を第一として出版に協力した人々に感謝せざるを得ない。蕃山先生の如き偉大なる人はたまさかに出現するので、其人の言葉は何時どんな光を放つかも知れない。先づ此の世に留めて置く事がだいじである。其の光に驚き、其の光を仰いで奮起して世を動かすやうな人が何時何處から出て來るかも知れない。散佚させては其れまでゝある。蕃山先生は「我等は初から板行同心になく切々無用と申候」と云はるゝであらうが、私達としては一日も捨ておけない氣がするのである。而して私はおほけなくも世の爲に全集の刊行を急いでゐる。而して併せて自から一日一日と其受用につとめてゐる

因云。蕃山先生が註解を書かれる時の用意は本書五三頁にはつきり書いてゐられるから參考せられたい

易經小解解題

易と孝經は蕃山先生が最も思ひを深めて研究せられた書であつて、先生が死を豫感しつゝ病をおしてまでも易の解を著はされたのである。先生の著書にはいたる所に易が出て來るのは誰も氣のつく事であらう。集義和書卷第八に

心友問、貴老易と孝經とをならべ給へり。易は玄妙深遠廣大高明なる書なり。孝經は童子の始てならひまなぶ書の樣にいへり。さればうたがひなきことあたはず。答て云、言近くして旨遠きものは善言なりとは孝經のたぐひなり。易は天地によつて道德を發明し給ふ。故に其語勢幽遠なり。孝經は人倫にをいて道德を敎給ふ。故に其語勢親切なり。爰を以てよく易をみる者は、近く身に取て親切に受用し、幽遠の事となさず。よく孝經を學ぶものは、詞の近きによつて幽深玄遠の旨をうしなはず、中和をいたして天地位し、万物育するの極功神聖の能事とゝにある事をしれり。孝經は句どに心をとゞむべからず。尤とゞむべき所もあれども、先は大抵に見樣あり。易は勿論大意あれども、句どに窮りなき道理あり。畢竟易をば近く見、孝經をば高く見を習とす。いかんとなれば易は天道なり、近く人道に合すべし。孝經は人道なり、遠く天道に合すべし、程子ノ云ク。易ハ因二テ爻象一ニ論二ジ變化一ヲ。因二テ變化一ニ論レジ神ヲ。因レテ神ニ論レジ人ヲ因レテ人ニ論二ズ德行一ヲ。大體通二ジ論ノ易道一ヲ而ノ終三ル於默ノ而ノ成レシ之ヲ。不レ言ノ而ノ信アル存二ズト云ニ乎德行一ニ。この故に易は畢竟人の德行を成に歸するなり。人の德行は孝より大なるはなし

と說てゐられる。先生の易に對する考である

易經小解は蕃山先生眞著の確實なるものゝ一である。例によつて俊光日記抄を撿するに、元祿五年二月廿六日の條に

中院大納言殿へ易解乾一返上。又次之卷御借

と云ふ事が見え、元祿七年四月の條に

十七日晴、伽羅一切通茂卿被下。易解三冊借用

と見え、同年五月四日の條に

易の解息游作下卷今日寫終、上下出來

と見え、同じき三十日の條に

息游被作候易乾坤八卦之解三冊某自身に書寫、今日出來。日向と校合も濟。予子孫志あらば可熟見、若道德に志深仁有之ば借許可助之。某病氣にて何之勤も不成少之事にも精盡、對書も難成、起臥のみにて空く消日も畏二天命一五行十行先應氣力勤天職而已〇孝經は人道を說く高く天道に合せて可見、易は天道を說く卑く人道に合せてみること習也。此易之解純人道につまびらか也。易之解如此手入候は後來も可稀、親切に可存書也。然共此解は於古河隱者死期之病氣重き中に被書候由承りき

元祿八年七月四日の條に

易屯蒙需の解息游軒作某一筆にて寫病床無二用事一空喰も恐多、病中精力に應、半枚一枚づつ氣力に任寫之者也

と有る。今傳はつてゐて私が見る事を得たるは七卷三冊で有る。其れは

八卦圖、乾・坤・屯・蒙・需・訟・師

である。又他に易繫辭傳貳冊が傳はつてゐる。之れは今の小解よりは前に出來た著作である。別に云ふ事とする。俊光日記元祿五年四月八日の條に

隱山〔〇松平金彌〕と野邊同歩。息游被爲解候謙の解自筆にて書寫給

とある。謙の解と云ふは「艮下坤上」謙亨君子有レ終云々の解で有らうと思はれるが、其れはまだ見つける事が出來ない。師からは途中がかなり有るが、其の中間が皆出來て有つたか、謙だけ別に書いてゐられたかは不明である。普通は「需」までが二冊になつてゐて其處で終つてゐる。首卷に八卦圖があつて三冊である。卷數は五卷と八卦圖が首卷となつてゐる。訟・師のある分は八卦圖の外が七卷となつてゐて易經小解大尾と書いてゐる。されば實際何處まで著が成つてゐたか知る由もない

蕃山先生極めて晩年の著述である事は前に掲げた俊光日記に、「此解は於古河隱者〔〇蕃山先生〕死期之病氣重き中に被書候由承りき」とあるから、古河に移られたのが貞享四年（先生六十九歳）である。元祿三年五月十一日の俊光日記には、松平金彌八日に上着來訊……隱君彌堅體之由物語也とある。是れを以て其から後の著と斷ずる事も出來まいが凡そには推定出來る

さて此の易經小解は蕃山先生の著たる事は確實であるが問題が有る、と云ふのは今蕃山先生著と云はるゝ小解がはたして先生の著はされた小解で有らうかと云ふ問題で有る。私は實は其事に就てよほどなやんだのである。其はほかでは無

い、我が村の字蕃山の正樂寺に先生眞筆の易の小解の原稿が一葉ある。其れは昔齋藤一興が寺へ寄納したものゝ一つである。（本集に其の寫眞を掲げて置いたから參考せられたい）

九二見龍在田利見大人

の解である。是と今世に傳ふる小解と文が合致せないからである。少し話が餘談めき、廻りくどくもなるが私が迷つた道行を書いておく必要が有る

私が蕃山先生の著書を特に注意して熱心に蒐集しだしてまだ間もない時の事である。某書肆で蕃山著、易經小解三冊と云ふのを目錄で見付けた。やれ電報だ何だと騷いだが、其は人に先んぜられて私の手には入らなかつた。然し猶色々と交渉した結果終に私の處へ來た。さて開いて見ると安政の寫本との奧書は有るが、餘り良い寫本では無かつた。先づ正樂寺の易の解の文と合はして見ると其が一致せぬ。其で一應これは先生の著では無いと斷定し、失望もした。（其頃は内容の研究は、まだ私が蕃山先生の凡ての著書にも目を通して居らないし、學淺くして一切目くらでもあつた）其から年を經て山田孝雄先生が御來遊の時に御覽に入れて、其說明をもした。先生は兩方をよみくらべて、暫く考へてゐられたが、「さうさねい」と云はれたのみで決定は付けられなかつた。其から年を經て、北小路俊光自筆本の八卦の圖、即ち易經小解の卷首にある十四五枚ばかりのものが私の手に入つた。俊光自筆であり、藏印も有り、疑ひなき物で、從つて蕃山先生の著である事は疑ひなきものである。處が其れがかつて求めた易經小解の卷首にある十數葉と文章全く同一である。私は驚喜した。先に蕃山先生の著にあらず誰か他人の同名の著と斷じてゐた本が、先生の眞著たるに

相異ない事を斷定する事が出來たからである

さて一應先生の眞著たるに相異なしと極めたが、さて其の寫しがよくない、何でも善寫本を求め出でたいと苦心してゐた。處が富岡鐵齋舊藏本が手に入つた。此の本は北小路俊光本の影寫本と見える事は孝經外傳或問の解題（第三册四頁）に書いた通りであるが、今俊光本の八卦の圖と此本と比較すれば一目瞭然である。私は此の俊光本の八卦の圖を得て、次で其の次々のも蕃山先生の眞著なる事が推知せられ、かつ系統正しき善寫本が手に入つた事を獨で嬉しがつた

以上の如くである處から考へて正樂寺の易の小解は蕃山先生未定稿時代のものであると斷ずべきである。此の一葉は或は全部續いた本の分散したものでなくて、是れだけを書かれたものかも知れない。一葉に都合よく納まつてゐる

さて易經小解を本全集に收むるに當つては八卦の圖は北小路本を用ゐ、次に乾・坤・屯・蒙・需までは前述の北小路本の影寫と見ゆる富岡舊藏本を底本とし、巻一・二は靜嘉堂文庫本に據つて校訂したが、訟・師の二巻はやむなく他の本によつた。易經小解として俊光日記に見えたのは多分需までで、其が三册に製本せられてゐたと考へられる

靜嘉堂文庫に押小路家舊藏本の

易經乾坤和解　二册

が藏せられてゐる。是れが易經小解と同じものである。和解は或は始の名か。但し題號の示せる如く乾坤の註であつて、第二巻までである。或はこゝまでは早く出來て居て、あとから次々に書きつがれたものかと考へられる

訟・師の解の二卷の底本にした本は

旺安政第二龍集乙卯春二月晦日吉寫諸。愛日樓中。靜軒外史　橫田叡

と奧書の有る本によつた。是れは此人が寫しが惡いのみではなくて、其元の本が旣に度々の轉寫を經て良くなかつたのと考へられる。然し今類本を見かけぬから、やむなく是に據つた。誤と思はれる所や讀みかぬる所がある。後に善本を見つけて訂正すべきである。又、謙の解は隱山が祕してゐたのを自から寫して俊光に吳れた位の本で、世間への流布は極めて稀であらうから、世間に出現するまでには時を要するかも知れない。此の著が蕃山先生の最終の著述であらうと思はれる。必ず見たいものである

繫辭傳解題

易の繫辭傳も蕃山先生の眞著として確實である。例の俊光日記抄に、貞享三年七月十三日の條に

　中院公より來使。御自筆にて御狀幷易繫辭解三冊思召被付候て來

とある。是れは易經小解より餘程先に出來てゐたと見える。俊光日記では是が初見である。元祿二年十月九日の條に

　昨日より易繫辭傳見了

元祿四年十一月二十日の條に

　主馬〔○中根、三以ノ養子〕より易繫辭解借許了

と見え、同年十二月廿一日の條に

　易繫辭小解全上下今日書寫仕廻了。初は杉野文二郎〔○俊光ノ兄、俊眞ノ長男〕中は中村利兵衛筆、其餘は不殘俊光病中の筆也。此小解は息游軒作也。博學の易學者も感信不少。奇妙の發明、實德成解也。爲自他子孫寫之了。可秘藏書也

と、こゝではつきり息游軒作と云つて、秘藏すべき書だと云つてゐる。正德四年八月十三日の條に

　岡田十之丞來。夜會返辨。八卦一冊繫辭二冊借許了

とある

此の繫辭傳は押小路公起舊藏本にして、今靜嘉堂文庫に藏せられてゐる本と、正宗文庫に藏する古寫本がある。靜嘉堂

文庫本は

易經繫辭上（下）傳和解　貳冊

となつてゐて、卷頭は　繫辭上（下）傳となつてゐる。正宗文庫の方は題箋が繫辭傳上（下）であつて、卷首は繫辭上（下）傳貳冊であつて、其當時と見ゆる古寫本である。兩書をくらぶるにほとんど異同はない。俊光日記の元祿四年十二月廿一日の記事によれば「易繫辭小解」と呼ぶのが外の蕃山先生の著書の例にもかなひ、最も正しい書名かと考へられる。然し今底本とした正宗文庫本も、靜嘉堂文庫本も繫辭傳となつてゐるから一應繫辭傳として置く方が穩當かと考へて、其のまゝにして置いた。此本も稀覯本である

繫辭傳と云ふ題號の傳と云ふ事に對しては蕃山先生は

傳は先聖のいまだ言に發せざる心を傳ふるもの也

と云つてゐられる

本全集を出版するに當り、靜嘉堂文庫が易經和解及繫辞傳全部の寫眞撮影を許可せられて、本書校訂に便宜を與へ給ひし事を深謝する

因云。俊光日記抄元祿八年七月十八日の條に

夜會四冊流謙へ戻す。易傳授之書一冊此方へ返辨了

とある。此易傳授之書はどんな本か、蕃山先生の著か否か。何分にも未見の書である。こゝに名を留めて置いて後

日の發見をまつ

昭和庚辰十月一日をりしも防空演習の深夜暗い燈下にて

正宗敦夫

論語小解

論語

孔門にをいて道德義論の語也。論は明辨の意あり。惑をわきまへて明にする義なり

學而第一

こゝろなし。發端の二字を以て篇に名付たるなり

子曰。學テ而時ニ習レフ之。不ニンヤ亦說一ヒ乎

學は覺也。義理を知なり。習は共學びたる義理を心に用ひ身に行也。說は悅也。本心の悅也。君子の學は初學より心に悅あることを知べし。目は正色を悅び、耳は雅音を悅び、鼻は淸香をよろこび、口は調味を悅び、心は義理をよろこぶ、是天性也。君子の學は義理也。故に事として悅びずといふことなし。悅びざるは君子の學にあらず。或問、困知勉行いかん。云、困知勉行の中、悅あり。惟レ斅ルハ學カ半バ。念ヒ終始典ツネトス二于學一ヲ。學者はいまだ不レル聞を聞て悅び、敎る者は敎て倦ざる一躰の德を養ひて悅ぶ。故に敎學共に悅あり。互に益をとるをなかばといへり。あしく心

得れば共に悦なし、ともに益すくなし。學をつねとするにあらず。時の字ひろし、時にあらざるはなし、學にあらざるはなし。其中五倫の交り、五典十義重し。父にをいては孝を習ひ、子には慈をならひ、君におゐては忠をならひ、臣には仁をならひ、兄におゐては敬をならひ、弟には愛を習ひ、婦におゐては和義を習ひ、夫には貞順を習ひ、朋友互に信をならふ。五典十義共に一心の神通妙用にして、一德の條理也。外よりするに非ず。實を以てするときは、五倫ともに我明德を明にする者也。不仁の君、無道の父、小人の朋友も他山の石、玉をみがくべし。文王の德を高くする者は紂が無道也。大舜の德を厚くする者は父と弟との惡也。父子夫婦兄弟は家にして親みあり、故に眞實をのづからあり。君臣と朋友は國にして親み薄し、故に眞實ありがたし。故に君には忠を云、朋友には信を云。忠信は誠也。君臣朋友誠あれば、吾明德を明にし、誠なければ吾明德をくらます者也。事には大臣の忠、小臣の忠、品あれども心の一德はかはりなし。小臣の忠はかげひなたなく其職分をつとめて誠あり。大臣の忠は君の德を助て國家の長久をなす也。君の威重ければとて心に尤と思はざることを尤と云て、君の非をとぐるは不忠なり、誠にあらず。君の非心を格しいさむるは大忠也。しかればとて、小事を切々いさめて爭過れば、うとんぜられて、大事の諫爭ならざる者なれば、過るも惡し。諫ても同心あるまじき事か、又小事などは默して居たるがよき也。君の非に理をさへ付ざれば不言の諫ともなる事なり。君臣ともに同心同德なれば、諫爭則義論にて、孔門の論語のごとく也。大事小事心に殘りなし。至情をいひていまざるは堯舜の君臣なり。あしくすれば君臣は時習の悦なくして、明德をそこなふ者なれば詳に云也。藝術を稽古するも、時に習の一事なり。六藝みな道德中の一端なり

有朋自遠方來。不亦樂乎

朋は同類也といへり。同躰の道に志す人也。我道德近より遠に聞えて、道に志す者來るなり。已一人學て時に習の悅は、寒梅の雪中に開て、獨淸香をふくめるが如し。自家の春意なり。故に悅といへり。遠近の同志と共に此道を學び行ふは、二三月の時分のごとし、物と春を同じくす。一躰の志達す悅のみにあらず、人と共にすることを樂なり。たとへば音樂のごとし。獨箏をひきてなぐさみ、取由の音ふかくすまして靜淨なるは悅なり。獨春意を知たるが如し。箏琵琶和琴同絃し、笙笛篳篥打物など數人同樂したるは樂しみなり。物と春を同するが如し。況や遠近の同志は我にまさりたる秀才あり、我いまだ開かざるを興す者あり。六藝などは師とすべき者あり、益をとる事多かるべし。相助て才を達し德をなすは一躰の樂み也。然ども樂は自己の悅ふかくして得べし。悅は獨樂也。樂は人と共にするの悅也。樂まざれば君子に非ず

人不知而不慍。不亦君子乎

人不知は已に實學あり、才德あることを人の不知のみならず、忠を不忠とし、善を不善とし、或は他人の惡をとり付て罪ありとし、流罪禁獄死刑に及の類其中にあり。我善を人の不知を不慍ばかりにては、君子と云べからず。有道の代ならば賞せらるべき事の、却て罪となる時は、大方の學力にては、心に慍あるべし。こゝにをいて天をも不怨、人をも不尤は、天を樂しみ、命を知こと深き故也。朋遠方より來るは順なり、人不知は逆也。人生の順逆は天

道の陰陽也。君子とても寒氣にいたみ、暑氣にあたるごとく、逆にあふも常の理也。寒暑にあたりて慍る者はなし、順を好み逆をいとふは凡人の心なり。春秋のみありて、夏冬なからんと欲するが如し、是を私と云、惑といへり。易の困の象に云。澤無レバ水困ナリ。君子以テ致シレ命ヲ遂グレ志ヲ。水下に漏るとき澤上に涸、困乏の象なり。人に取ては貧賤の極也。君子貧賤なるも人しらずして下に窮するの一也。上六二陽の上に居は、小人時を得て君子下に居の象也。九二二陰の中に陥るは、陰柔陽剛を揜ひ、君子小人の爲に掩蔽せらるゝの時也。其道を盡して免れざるは命なり。致レ命は死生有命、我所有とせざる也。遂レ志は禍患を以て其心を不レ動、夭壽不レ貳カハ脩テレ身ヲ以テ俟レ之ヲ也。命を立る所也。逆を行の徳なければ順を樂こととも善ならず。學で徳をしり悦を得は知なり。人と共に樂は仁なり。逆にあふて心を不レ動は勇也。知仁勇ある人、是を君子といふ也。吾人同志逆にあふてたしかなる程の學力は有べし、然ども慍の意思をばはなるべからず。慍も心を動かす一事なれば、勇にあらざることをわきまふべし。却て勇也と思はあやまれり。それ人は五行の秀氣を得て万物の長也、神明の舍也、天地の德也。天地は人を以て心とす。故に人道正しければ天地の氣正し、人道不正なれば天地の氣も不正也。人爲の禍尤人心の不正より起る者也。是故に明王は人心を正しくするを以て政の急務とし給ふ。人心を正しくすることは學にしくはなし。畢竟學は人の道を知て、人の徳を成ことを學ぶ也。學で聖人に至るも人の道を盡に過ず。聖人は人の至りなり

有子ノ曰イ。其レ爲リレ人ト也孝弟ニシテ。而好ムレ犯スコトヲレ上ヲ者ハ鮮ナシ矣。不シテレ好マレ犯スコトヲレ上ヲ。而好ムレ作スコトヲレ亂ヲ者ハ未ダ之レ有ラ也

有子は孔門の賢者有若なり。爲レ人は人たる者也。よく父母に事るを孝と云、よく兄を敬を弟と云。父を愛敬する心を以て君に事るときは忠となる。兄を敬心を以て長者に交る時は順となる。長者は我より上たる人、家老組頭親かたの類なり。孝弟は順德也。子生れて神の知をひらくにしたがひて、父母を愛する心生ず。その後子の心に父母尊し。此愛敬の本心を根として、昔は小學にをいて八歳より孝弟の道を敎し也。日本のしつけがたのごとく、幼少の子のなるべき事より自然に禮法をならはす也。是皆孝弟の順德を養育し、成就せん爲なり。天下此順德を不レ失時は、家ごとに孝子國皆忠臣なり。乱を願とも乱るべからず。君親を愛敬して其死に代り、其難をすくはざる者はなし。是故に、曾子曰、戰陳にして勇なきは孝子にあらずと、如此なれば上を犯すことを好む者有べきやうなし、況や逆乱の事をなすべけんや。後世此をしへすたれてより、幼少の子も人に上たらんことを欲す。長ずるにしたがひて上を犯し乱を作の逆德を養ひなせり。疾行て長者に先だつも犯の端也。君長に事て忠順の志うすく、欲の求のみ心とすれば恨み戻るの意思生ず。必しも凌ぎ犯さゞれども利を求る心あるは犯の根なり。かならず兵乱のみ乱にあらず。五倫相爭は乱なり。後々は悖逆爭鬪の事生ずる也。王侯たる人、臣下の不忠をにくみ、乱逆を忌といへども、是を防ぐの道、孝弟の敎にあることを知給はざる也。孝弟は乱の本を斷、源をふさぐの政なり

君子ハ務レム本ヲ。本立テ而メ道生ズ。孝弟ハ也者。其レ爲レノ仁之本カ與

此君子は在位有德かねていへり。有德の人、上に立時は天下國家の政敎に本あることを知て、是を務る也。本立ときは人倫明にして人道生ず。仁は万物一躰の生理也。孝弟は親子兄弟一躰の心をあげて五倫に交るときは五倫一躰

也。天下に及して一躰ならずと云事なし。天下一躰なるときは順逆一致にして、好惡なし、始て仁を云べし。是を以て君子の政教、本立て道大なることを知べし。本立と云は、君有極を立て、明德を天下に明にする也。人極を立て天地に配することは賢良を得るを先とす。堯舜の知も物にあまねからず、先務に急なりといへる是なり。孝弟の教も賢良をしてつかさどらしめざれば、其中間人情事變に通ぜずして教廢することとあり。離ノ象傳ニ云、明兩作ハ離ナリ。大人以テ繼キ明ヲ照ス二四方ニ一といへり。六五は君の明也。六二は臣の明なり。明兩作ルとは、明のかた〴〵なるは、其明孤りにして匱し、六五その明に不レ矜して、繼に六二の明を以てす。聖主賢佐を得て明德を天下に明かにすること、日の普く万物を照すが如し。是を明を繼て四方を照すといへり。離は日なり。今日東に生じ、明日も又東に生ず。日新又日新なり。明々相繼て終始不レ忘。人主治躰の本は知なり。知の實は人を知、是なり。是君子本を務て大道生ずる處なり

子ノ曰。巧レ言ヲ令レ色ヲ鮮ナ矣仁

上を犯し、乱を作ことを好むは剛惡なり。此章言をよくして實に過てほめ、色をよくして氣に合を心とするは柔惡なり。剛柔異なりといへども、君長をそこなふことは一也。共に不仁也。巧言令色は人を愛するが如くなれば、仁に似たれども、實は己が欲の爲にへつらひて、人をもそこなひ、己をもそこなふ者也。犯乱は形をそこなひ、巧令は心をそこなふ。仁心たえてなきが如くなれども、天根絶ば一日も生べからず。聖人の人をすてたまはず、鮮しとのたまふ處なり

曾子ノ曰イ。吾レ日ニ三ッ省ニル吾ガ身ヲ。爲レニ人ノ謀テ而不レヤ忠ナラ乎。與ニ朋友ニ交テ而不レヤ信ナラ乎。傳テ不レヤ習ハ乎

曾子は孔門の中行曾參なり。日にかへりみるの三は仁に至るの工夫なり。己を盡すを忠と云、人に事をたのまれて、人の事をなすに、我事をする如く、己をつくすや否とかへりみる也。是一躰の受用也。朋友は他人なれば、五倫の中にて第一うとし。然ども眞實無妄の天地を父母として異親同氣の兄弟なれば、其交り必信あるべし。朋友によつて天性の信を立る者なり。傳は師に學び、書に得たる義理也。習は是を熟する也。傳て受用せざれば、口耳の學となりて實學にあらず

子ノ曰。道ニムル千乘ノ之國ヲ。敬レシ事ヲ而信アリ。節レシ用ヲ而愛レス人ヲ。使レフニ民ヲ以レス時ヲ

千乘は百里の國也。田地ばかりを以て百里とす。山野不毛の地は其外也。國の廣さは所によりて二百里も三百里も有べきなり。百里の田地より農兵の軍役に車千乘を出す也。一乘に甲士三人、歩卒七十二人といへり。八百家の軍役也。千乘は八十万家の出す處也。人數七万五千歟。其外に雜人雜車あり、日本にて小荷駄といへるもの也。たとひ皆うたれても、其まゝ又千乘を出す程にゆる〳〵としたる軍役なりといへり。大國は百里、中の國は七十里、小國は五十里也。小國といへども五百乘を出す、人數三万七千五百也。大をあげて小をかねたり。すべて國を治る肝要をのたまへり。治國兵を忘れず、戰陣治を本とす。國の大事は食兵信の三なれば、軍役を以て治國をのたまへり。

聖人の政は兵事あるを以て乱とせず、兵事なきを以て治とせず。食たり兵とゝのほり、上下信ありて禮儀正しければ、兵事あれども治國也。食たらず、兵とゝのほらず、上下信うすく禮儀いつはるときは、いまだ兵事なけれども乱國なり。事は政事也。敬は上天の時にのつとり、下水土により、中人情を考て、人心正しく、風俗うるはしく、變に通じて人民倦ことなく、日々に善にすゝむやうにするなり。信ありとは君の好み給ふことは道徳の善也、惡み給ふ事は邪僞の惡なり、と其誠遠近となく人民の心に徹して知、故に愛しては善にすゝみ、恐れては惡を去(サル)なり。人民の爲に事を敬み給ふこと、父母の子の爲にするがごとし。さやうにあれば士民ともに子孫に至まで、信のたがはざることをたのもしく思ひて、一命を己が有とせずして君に奉ぜんことを思ふ者也。如此ならざれば、戰國に死間などを用て大に勝利を得ことはならざるなり。戰陣の爲に信を立るにはあらず。節レ用は入ことをはかりて、出すことをす。君子は民の父母なれば、人を愛する心より、費をはぶき欲をすくなくし、有餘を存じてほどこすべきことをす。富有これを大業といへり。天子も諸侯も富有ならざれば、人民を安じ、夷狄の難を退け、水旱の變をすくふごときの大業は立られず。人を愛する心眞實なれば、必ず用を節す。故に君子を民の父母と云なり。古人の用を節するは大道あり。君の一年の藏入を四にして、一を有餘とし、三を以て一年の用を達す、是天道にのつとるなり。春生じ、夏長じ、秋収め、冬藏す。冬一時かくして不用は來歲の造化をたくはふるなり。四分一を三年積て一年の用あり。九年にして三年の用あり。三十年にして十年の貯あり。如此なればいかなる水旱饑饉の大變ありても、人民うゆることなし。夷狄の兵難ありても、內虛せず。文王周公たりし時、紂が天下なれば政あしき弊にのり、

北狄中國を犯せり。紂文王に命じてふせがしむ。數十年長陣なりしも、此たくはへありし故に士民つかれず。兵粮澤山にて、内堅固なりしかば、終に北狄を退け給へり。湯王の時、七年の旱ありしも、此用ありて民うへず、人を愛する備なり。或問、後世一國の財用を盡しても不足時あり、いかむして蓄べきや。云、一朝一夕の故にあらず。さやうにあしくなりては、善者ありてもいかむともすることなし。問、其時は君子を置たりとも爲ことなかるべきか。云、さやうにあしくして渡したらば、君子を子に持たりとも、すべきやうあるべからず。然どもいまだ三十年の運命あらば、年を經ては成ことあるべし。天下ならば大道を行て、風俗を移しかへ、上下安かるべき仁政あらん。天下は一國よりも却てなりやすかるべし。一國は天下の風俗にちがひて、大善をなしがたければ、却てその功遲し。問、さやうに奢たる風俗ならば、三十年の後にはいよ〳〵長ずべし。世の中の風俗にちがひてなすべき事いかむ。云、世の中の風俗にて、是非なくする事は我よりするにあらず、天のなせるわざはひの如くなれば、風俗にしたがひなして、家のわざはひとはならず。風俗の奢の上に、自なせる私欲の禍半(ナカバ)まじりては終に亡びにいたる者也。或は我子を愛して、先祖の子孫を不愛、先祖の功德によりて傳たる國家の衰微をなすごとき不孝をば、惡とも思はず、習となれり。自なせる禍なればのがるべからず。使二民ヲ以レス時ヲ。諸侯は王を以て天とし、王は民を以て天とし、民は食を以て天とす。田地と手足のはたらきを以て財用の本として、父母妻子を養ふ者なれば、不レル使こと第一のめぐみなり。昔は民の力をかること、一年に三日といへり。それも農のいとまを考たることなり。春秋の義民を使こと時あり、義あれば書す、是をほめてなり。時あらず、義を害すれば書す、是を罰して也。民は食を以て命とす、故

に螟あれば害す。民を使に時を以てせざるは民食に害あり。人爲の螟なり。虫苗の心を食を螟と云、葉を食を螣と云、節を食を賊と云、根を食を蟊と云、此四虫人爲に出ること多し。古は農兵也。農事終て戰陣の法をならはせり。早く仕廻たる者は、十一月に私に小牧に狩して弓馬をならはし、十二月には民こと／＼く仕廻ゆへに、大に狩して進退をならはす也。鳥獸を取に心はなけれども、冬は五日七日過ても肉損せず、わかちたまひて民間の老者を粮べし。皮毛に至るまで、冬のは用をなして、老者の寒をふせぐべし。皆民間の賑はひとなれり、時を以てする故也。後世は民間極月の晦日までいとまなし、冬狩することあたはず、故に春に至て狩す。故に肉早く損じて老者を不養。皮も用に立ざれば老者の寒をふせがず。世俗にいへる不レ食殺生也。善にあらざれば惡の類也。鳥獸をも追つめ盡し取て、弓馬のならはしにもならず。古人は獸を山林より追出してまきつめず、廣野に追すてゝ、弓馬の達者をならはせり。後世は時を以てすることあたはざるのみならず、軍法のならはしにもならず。大道の行はれざる故なり

子ノ曰。弟子入テハ則孝アリ。出テハ則弟アリ。謹テ而信アリ。汎ク愛レ衆ヲ而親レ仁ニ。行有ニ餘力一則以テ學レ文ヲ

弟子は聖學をする人の通稱也。年の若壯にかゝはらず。仏を學ぶ者、自佛弟子といへるも是によつてなり。却て聖學には此義を失て幼若の人の事とす。道德六藝ともに已を有せずして、ひろく人にとるは弟子の道なり。人の師父兄たることは易くして、弟子たる事は難し。師父兄たらんと欲する者は、日に凶に入て不德なり。弟子にて終らん

と欲する者は、日に吉におもむきて德に入なり。入といへるは家なり、鄕里なり、老者を愛敬する所なり。故に孝とのたまふ。出と云は朝なり、國中也、官位ある人を敬する處なり。故に弟子とのたまふ。家にありての孝敬、則國に出て忠順となれり。孝弟によつて我明德をみがくなり。謹は行の常あるなり。信は言の實ある也。一体の心を以て、ひろく衆人を愛して人を捨ず、其中に仁者あれば親み近付て益をとる也。此仁者は必しも盛德の仁者にあらざれども、仁愛篤實にて德に近き人をいふ也。行有二餘力一とは、隙をあけて後、文學するにはあらず、本末の道理なり。德行は本也。文學は末なり。本をすてゝ末にしたがふ時は、末共に用をなさず、却て身の害にもなるもの也。德を好て藝に游の義也。今は文學といへば、書を讀むことゝす。古の文學は六藝なり。禮と樂と弓と馬と書と數と也。禮に五禮あり。軍法其一なり。孔子の時分には詩書六藝といへり。詩は詩經なり、書は書經也、易經と三經なり。書數の書は筆法なり。今の手習也。書物の多なるにしたがひて、博學を事とし、入德の學を失へり。孔子は六藝いづれもすぐれたりしかども、其中にては弓馬一入すぐれたり。禮をしれりといひし程に、軍法尤よく知給へども、義戰なき時分なれば不知とのたまへり。聖代には八歲より三十有室まで、小學大學におゐて、ひまなく學習せしは六藝也。たとひ一日の間五時、藝文にかゝりても、德行をば專心に入ておさめ、藝には游で能するときは、本末立てよき也。六藝も孝弟忠信の道を助るものなり

子夏ノ曰。賢トシテレ賢ヲ易フレ色ヲ。事テ二父母ニ一能ク竭シ二其ノ力ヲ一。事テレ君ニ能ク致シ二其ノ身ヲ一。與ト二朋友一交テ。言テ而有ラバレ信。雖レ曰フトレ未ダレ學ビ、吾レハ必ズ謂ン二之ヲ學タリト一矣

子夏は孔門の賢者、名は商なり。賢レ賢は、賢者を尊敬する也。易レ色は、顏色を變ずる也。賢を尊の心眞實なれば、顏色にあらはるゝ也。自身德を好むの心實なればなり。力は心力なり。父母には吾心の愛敬をつくす也。致は、一命を奉じて已が有とせざるなり。有レ信は、朋友みな眞實なる人なりと信ずるなり。如此德行に實なる人あらば、たとひ學文せずと云とも、學の實を得たれば、子夏は是を學びたりといはんと也。子夏は文學を以て名を得たる人なり。しかるに如此德行に專なるは、文學は其身の器用にて得たるなるべし。藝に游の意明か也

子ノ曰。君子不ルハレ重カラ則チ不レ威アラ。學モ則不レ固カラ

此君子は、道德に志あり、凡人を安ぜざる人也。いまだ君子の德を成就せずといへども、君子の徒なり。在位志學かねてみるべし。重は、形容のおもおもしきと云にはあらず、あしく心得ればつくり者のやう也。定見ありて心まどはず、精神內に守て、外欲をしたはず。如此なれば、形容も自然に重く見えて威嚴あり。心不存して、形氣浮躁なれば、外にもつたいを付、武威をかりなどして、人を怖ヲドスといへども、見聞ともに小人なれば、人々心にはあなどる也。放心をおさむることをしらずして、たゞに問學する者は、學ぶところも堅固ならずして、終に入德の功なし。或問、しからば君子重くして威あり、學堅固なることは放心をおさむるに始れり。放心をおさむるの術いかん。云、心內外なし、故に說がたし。あしくいへば弊あり。心法行事収斂を主とすべし。發散は不レ得レ已也。精神內に凝聚する時は、外邪侵すことあたはず、重くして威あるに非ずや。陰陽の精凝て日月と成、天下恐て愛す。故に君子の學、その始は學て不敎、聞て不說、前言往行を識シルして德を蓄タクハふ。忠功ありて位祿をゆづり、恩をほどこして報をも

とめず、善を行て名に近付ず。如此の受用多し。精神を収斂するの術なり。道德積て、學堅固也。始て放心をおさむることを云べし。壯にして行ひ、老て敎べし

主トス二忠信ヲ一

誠の、心にあるを忠と云、言行に達するを信と云。誠は天の道なり。誠を思は人の道なり。心は形色なく、聲臭なく、內外なし。誠を主とするのみ。誠主となるときは重して威あり。學堅固なり。主トスル二忠信ヲ一を、あしく心得れば一物あるやう也。忠信を主とするは主意也。天道は至誠無息也。吾その至誠中より造化せらる。至誠則吾性命也。故に誠を思の主意眞愛に立ときは、誠主となりて存ぜずと云ことなし。眞實なれば無心にして存するなり。生としいける者我身を愛せざるはなし。身を大事と思ふ念を常に存ぜされ共、畏べきにはをそれ、敬むべきをばつゝしむ。無心にして生ず、主意あるがゆへなり

無レ友トスルコト二不ルレ如カ二己ニ一者ヲ一

凡情は、德知才藝の己にをとりたる者を、心やすく思ひて、友とし親むもの也。我にしたがふ故也。是は損ありて益なし。彼より求むる時は愛すべきのみ。何事も己にまさりたる人を友とする時は益おほし

過テハ則チ勿レ憚ルコトレ改ルコトヲ

學問の道は、己が不善を知て、速に改て善にうつるをよしとす。聖人以下誰か過（アヤマチ）なからん。故に愼てあやまちな

きは、善の善なる者にあらず。過て速にあらたむるは、善の善なる者也といへり。心なきの非を過と云、心あるの非を悪と云。過と知て改ざるときは悪となれり。故に自治るに勇ならざれば、悪日々に長ずといへり。或は吝り、或はかざりて、非をかくしとぐるは小人也。終に道に入べからず。子路は勇者なり。人の過を告るを喜で速に改るにいさめり。生得の勇を仁義に用たる者也。故に万世の師なり

曾子ノ曰。愼ミレ終ヲ追レフ遠ヲ。民ノ德歸スレ厚ニ矣

太古の人は、朴素篤實にして僞なく欲なし、質直にして道理のまゝなり。死生は晝夜の道なり。魂氣は游散して空にゆき、魄躰はたをれて土に合す。理の常なり。故に理のまゝに直に土中に葬て意なし、情厚して期數なし。後世の聖人䷛の象によつて棺槨を作りたまふ。大過は澤木をいるゝなり。木は澤上に生ず。然るに澤下に入は棺槨の象なり。又大過は大なる物過るなり。厚に過るの意なり。形躰は土に合すべし。理の常也。然るを、木に入て土中に入ルは、孝子の情厚に過る義なり。其外喪禮に心を盡すを愼レ終と云也。追レ遠は、春秋の祭祀に誠敬を盡すをいふ。春の花を見、鳥の轉りを聞ては、日月はるかにうつり行ことを感じ、秋風身にしみ、虫の音かはるを聞ては、感慨の情生ず。故に祭るなり。日本の神道に、一夜神事と云ことあるは上古の風なるべし。感おこり不レ得レ已コトヲして祭るならば、かねての用意あるべからず。後世物備り、用意あるゆへに神明に交ることなれば、七日いましめ、三日潔齋する事始りたるなるべし。四時に祭るも後世の事也。忌日の祭も上古はなかりし也。忌日は終身の喪とて哀情を以てしたひ祭る也。故に樂ガクせず、前一日潔齋する也。情の厚ことは尤なれども、道理には不叶歟。三年の中は凶禮な

り。喪を除ては吉禮に變ず。しかるに終身の喪と云は、厚きことは厚けれども、聖作にはあるべからざるか。朔望の拜、或は他行性來を告時、物をすゝめなどすることは、備て不祭なれば潔齋はなき也。孝子の心に親を死せりとせず、生前に親の所へ禮に行同前なり。死に事ること生に事るが如く、亡につかふること存につかふるが如くなるは、人民の情厚に歸するなり。此厚き心より君につかふれば、忠ありてうしろくらきことなし。古人妻を去り、友を絕こと、小事によりて其罪をあらはさず。己れをとなげなき者になりて云わけせざるは厚き也。又愼レ終追レ遠も跡になづみて、時所位の考なければ、厚も却て薄になることあり

子禽問二テ於子貢一ニ曰。夫子ノ至ルヤ二於是ノ邦一ニ也。必ズ聞ク二其ノ政一ヲ。求タルカレ之ヲ與。抑ミ與ヘタルカレ之ヲ與。子貢ノ曰イ。夫子溫良恭儉讓以テ得タリレ之ヲ。夫子ノ之求タルヤレ之ヲ也。其レ諸レ異ナルカ二乎人ノ之求ルニ一レ之ヲ與

子貢は聖門の賢者なり、名を賜といへり。生得に才知あり。學で後その知化して德知となる。故に賢人なり。子禽も三千の中とみえたり。溫は春風和氣の氣象なり。良はすなほにやすらかなり。盛德至善渾然たる神色なり。恭は禮容の一身にみちて、太山の安がごとく也。儉は易簡にして無事也。物不備して心足り、願なく求なく、不貪を寶とするの氣象なり。讓は心虛明にして己を有せず。故に無心にしてゆづらずと云事なし、無我の至也。故にいかなる凡人も化せられて問ことあり。然ども私欲害して用ることあたはず。子禽思へり、いつも如此なるは彼より與へて

聞しむるか、此方より求て聞給ふか、とうたがふ也。子貢その求と云言に付て不求の求をいへり

子ノ曰。父在ストキハ觀ニル其ノ志ヲ一。父沒スルトキハ觀ニル其ノ行ヲ一。三年無レキ改ニルコト於父ノ之道ヲ一。可レシ謂レツ孝ト矣

父存生なれば事事にせず、故に其志の善なるを見なり。父なき時は其行事の善を見なり。然ども三年は父の家道を改るに不忍は孝子の情なり。父子時異也、氣質異也。事の勢昔のごとく成がたき事あり。道は其身の時所位により し家法也。道德の善ならば終身改べからず。惡ならば三年を待べからず。善惡にかゝはらざる事なり

有子ノ曰。禮ノ之用ハ和ヲ爲レ貴シト。先王ノ之道モ斯ヲ爲レ美ト。小大由レル之ニ。有レリ所レ不レル行レ。知チレ和ヲ而和ス。不レハ以テ禮ヲ節セ一レ之ヲ。亦不レ可カラ行ル也

天に陰陽あり、人に禮樂あり。陰は陽の根となり、陽は陰の根となる。陰陽たがひに其根をなせり、禮樂もたがひに賓主をなせり。禮の心にあるを敬と云、樂の心にあるを和と云。禮を体とすれば和は用となる、和を主とすれば禮は賓となる。禮煩きときはやぶる、和して易簡なし。されば禮の實不立、故に禮の用は和を貴しとするなり。先王の天下を風化し給ふ、禮樂あらずと云事なし。大事小事ともに敬和の心法はかはりなし。和は易簡の善なり。天人の本也。事にほどこして和に流るゝときは又やぶる。禮ありて是を節し上下常あり、次序みだれざるときは、大同して能和す。禮事にあらはれて吉凶軍賓嘉あり。樂器にほどこして糸竹金革歌舞の曲あり。太平の備なり。人道の美也

有子曰。信近於義。言可復也。恭近於禮。遠恥辱也。因不失其親。亦可宗也

人と事を約束する時、此事義に叶たるや、不叶やと初にはかるべし。義に叶たらば、約束して必其言のごとくなすべし。復は踐行也。もし初に義をはからず輕く約して、後に其事義に叶はざることを知ときは難義也。約を違じとすれば、義を害す。義を害せじとすれば約たがふ。約は小節にて、義は大節ならば斷を云べし。初に不愼の過なり。信は約信なれば用字也。義は義理なれば躰也。又義を事の宜と解する時は用字にて輕し、約のごとくすれば不宜。約をたがへては宜と云分にて事の是非に近くは少し。不宜とも信を立べし。事の是非よりは信重ければ也。これらは初を不愼しての了簡也。恭はうや〳〵しき也。敬の形容にあらはるゝ也。俗に慇懃なる人といへる也。禮は天理の節文なり。禮に中は聖人也。近きは學者也。恭も禮なれども用也。禮は体なり。禮の過るはへつらひに近し。不足はたかぶりに近し。共に恥辱也。近禮は中庸の理を的として過不及のそしりなし。故に恥辱に遠かるなり。その中心にへつらひなく、貞心にして禮ふかきは過るにあらず。たかぶり心の者の中庸とおもへるには禮の不足多し。過ると思ふところに中庸あり。よくゆづりよく下るを恭といふなり。詩にも人として禮なくば何ぞはやく不死といへり。不仁不義不禮不知不信ほどの恥辱はなし。因不失其親。俗によりおやと云は是より出たるなるべし。覊旅の臣には因親あり。道に志ある者はよりおやをよくえらぶべしと也。宗は親方のごとく尊敬するなり

子曰。君子食無求飽。居無求安。敏於事而愼於言。就有道而正焉。可謂好學也已

食は飢を助て可也。居は風雨を防て可也。君子は日を不足とす。寸陰を愛して問學により德行にすゝむ。安飽を求るに暇なし。事は懈り易し、故に敏にす。言は過易し、故に愼む。有道の人あれば行て是非を正し、うたがひを問也。是いにしへの學好むと云者也

子貢曰。貧而無諂富而無驕何如。子曰。可也。未若貧而樂富而好禮者也

凡情は貧程くるしきはなし。剛强の質にて貧なれば、あぶれ氣に成て、富貴の人にもあらき言を發し惡口を云、或は男道勇强などにかこつけて乱行をなすことあり。柔弱の質にて貧なれば、心卑屈してせまる故に、へつらひを恥ざることあり。富る者は、欲心ほしひまゝに成て驕るもの也。然るに貧してあぶれずへつらはず、富で驕らざるは、共に凡情の難き所也。子貢初は貧にて後に富り。ともに受用し得たる所なり。孔子可也とのたまふは、よき事はよけれども、いまだ貧富の中を出ざる也。君子は貧賤をわすれて貧賤中の道を行ひ、富貴をわすれて富貴中の道を行者也。貧して樂む者は身の貧を忘る。富て禮を好む者は身の富をわする。共に貧賤富貴の外にたのしむ道あればなり

子貢曰。詩云。如切如磋如琢如磨。其斯之謂與

詩は衛風淇澳の篇なり。切磋は骨角の細工をする也。切はきるなり。瑳はみがく也。切て大かた器の形をなして、段々にみがく也。琢磨は玉石の細工なり。琢は形をなす也。磨はみがくなり。みがきもあらきより精きに至る段々あり。是をかりて日新盛徳の學のたとへとしたり。子貢此詩の文義は前にしるといへども、夫子の言によりて實に受用の意を得たり。理は無極也。今日善なるも其善を至極と思べからず

子曰。賜也。始可與言詩已矣。告諸往而知來者

彼を云て此をさとり、過し事を云て來るべき事を知は詩の徳なり。詩を學で人情事變に達し、今日の受用を得るは、よく詩を學ぶ者なり。故に孔子始て子貢と詩をのたまふことをよろこび給ふなり

子曰。不患人之不己知。患不知人也

をのれに才知藝能ありて、國家の用に立べきを、人不知して用ざれば、時に遇ざることを患るは凡情の常なり。知と不知とは人にある事なれば患は損也。己不善人を不知して損をとり、善人を不知して益をとらざるは、をのれが過なり。是は其人の程に付て本に立歸るべき事を教給ふ也。有道の代には、有徳の人は云に及ばず、才知藝能にいたるまで、國家の用を助くべき者はかくるゝ事なし。無道の代には君子才徳をかくして市井の賤にくだり、或は海邊山林にも隱居す。人の不知を患る事はいふにたらず

爲政第二

篇に名付こと前のごとし

子曰。爲レ政以レ德。譬如下北辰居二其所一。而衆星共上レ之

孔子曰、政は正也と、人心を正くするを以て本とす。法制禁令みなこれに本付もの也。德は得也、天に得たる所の性也。神の知をひらくに随て習におほはれ、欲にひかれ、或は左道にまどはされなどして是を失へり。聖學を受用して心に自得すること始のごとくなるを德と云。道は天下ともによる所也。天地の神道也。德は己一人得たる處也。天に得たる初は衆人同じといへども、失て後は己一人の志によつて得べし。父子兄弟といへどもいかむともすることなし。有德の君子といへども、位なければ來り學ぶ者の外は化を及すことあたはず、位ある時はひろく及ぶもの也。故に政をするに德を以てすれば無爲にして治り、篤恭にして天下平也。其象北辰のごとし。天の形狀鳥卵に似たり。地其中に居り、天地の外を包ぬ。卵の裏の黄のごとしといへり。半は地上をおほひ、半は地下をめぐる。動てやまず。左旋して一晝夜に周天し、少しめぐり過る也。十二時に九十餘万里を行也。人の呼吸の息、一晝夜に万三千六百餘息あり。呼吸を一息と云、一息の間に天行八十餘里のつもり也。北辰は天の樞紐にして帝座也。その傍に一小星あり。是を極星と名付なり。極星は微く動て、辰は不動、斗は元氣を斟酌して、四時を運すといへり。南

極は地に入事三十六度なる故に、常にかくれて不見。北極は地を出ること三十六度なれば、つねにあらはれてかくれず。日月星辰皆動てしばらくも止らず。たゞ北辰のみ其處に居て不動、譬の心のごとし。北辰は天帝の座也。衆星日月その職を終始して北辰に歸す。北辰の不動、德によりて衆動たかはず。これ聖人の天下に王として、德を以て治るの象なり。德の流行して化の及ことは、傳馬を以てふれをくるよりも速也。天下皆聖人と同心同德なり、自新にするの人なり。是を鼓し、是を舞するがごとし。聖學を得て後、此理を知べし

子曰。詩三百。一言以蔽之。曰。思無邪

詩は三百十一篇也。三百とのたまふは大數也。詩は志のゆく所なり。心にあるを志とし、言に發するを詩とす。思は心の官なり。正しきときは其天職を得たり。思無邪は自然也。此一言詩の大意を盡すにたれり。眞實より發して善なる者は、人の善心を感動すべし。古人の詩は作意なし、情内にうごきて言にあらはる、皆誠なり。故に詩は人情を知べし。作意は虛なり。虛は僞に近し。思に僞あるは邪也

子曰。道之以政。齊之以刑。民免而無恥。道之以德。齊之以禮。有恥且格

政は法制禁令なり。是を以てみちびきて、不從者をば刑罰を以て一にするを齊といへり。たとひ惡をせずといへども、惡をするの心は不亡、たゞ刑を恐てのがれんとする斗也。羞愧の心はなし。刑罰にあはざるやうにと用心する

ばかり也。或は惡をなしながら、よく忍びかくして免むと思ゆへに罪人不絕。德は仁義禮知信の性を天に得たるなり。上に在す人、自明德を明にして立給へば、天下の人感化して興起す。是を過化存神の妙と云也。然ども知ところに淺深あり、質に厚薄過不及あり。禮樂の敎ありて人民不善を恥て善に至る也。故に天下善に一なり。聖人の政は禮樂をはなれず。禮とあれば樂は其中にありと知べし。又政刑もかつてなきには非ず。上に德あり、禮樂の敎あれば、刑はかろくて、重きよりも能きく者也。上古には衣にゑがきて刑にかへたり。人に存ずる者は恥の心よりよきはなし。恥心をみちびきて善に進なり

子ノ曰。吾レ十有五ニメ而志ニス于學ニ

學は人の道を學ぶ也。聖人は人の至也。天地の間有形の物、人より尊きはなし。天地といへども人あるを以て德とす、仁義禮知の性全く備て、明德明かなれば也。志は心のゆく所を云、思ひ終始學を常とするなり。人八歲より十五までは知覺全くひらけず、故に小學に入て、形にならはす事を敎る也。十五より知覺大かたひらくる故に、大學に入て知行ともに敎る也。人により遲き早きあり。故に二十にても大學に入なり。世間には文學に志を志學と思ふ者あり。文學は一藝也。藝に器用にて德行に不器用なる者多し、故に文學ひろき者に不好人あり。夫學は善の淵源なり。故に實學に志すは善に志す也。一度學に志てはあしきことなし、これは通例を以て云也。聖人のところざしはいひがたし

三十ニメ而立ッ

十五より三十まで、十五年の功を積では、道學六藝大かた成就する也。故にむかしは三十にして室あり。夫婦室に居るは人の大倫也。家を齊て學ぶ所を行也。古昔は六藝を教るに秘密なし、皆道筋ありて教たる故に、ことの外早く達せし也。師にまさる者の出來るを師の手がらとし、上よりも賞ありし故也。立は心志堅固に成て、富貴も淫することあたはず、貧賤もうつすことあたはず、威武も屈する事あたはざる也。聖人の立は是を越て天地人と三極の道立なるべし

四十ニシテ而不レ惑ドハ

四十を强と云。氣血とゝのほりて盛壯也。三十より十年の功を積てひろく交り、學處をこゝろみて心を不動、故に仕官すべし。死生有命、富貴天にあり。天をもうらみず、人をもとがめず。幽明人鬼すべて何事も心もとなからざることと其中にあり。聖人の不惑は、富貴貧賤夷狄患難死生順逆、一貫にして、入として自得せずと云事なきなるべし

五十ニシテ而知ニル天命ヲ

天道に順從し、運命に出入し、四時に應じて小袖帷子を用る如く、順を不好、逆を不惡、義と共にしたがひて造化を助る大賢の心地なるべし。聖人の知ニル天命ヲは、所を知行する、知の意にて、陰陽五行も吾領なり。運氣も吾より進退すべし。末世の衰運と云とも、聖人位を得給へば、ひきかへして上古の盛運となる理也。位を不得して、其事不行といへども、梅の雪中に淸香をふくめるごとく、天地と德を合し、日月と明を合し、鬼神と吉凶を合する、實

はかはりなし

六十ニシテ而耳順フ

耳を以て口鼻眼四体をかねたり。一身の中にて能神明に通ずる者は耳也。五聲十二律の精微を盡も耳也。耳順は、形色は天性也。形をふむの位なるべし。賢者などは大にして化する也。聖人に至たる也。是よりは生知の聖にかはりなし。五十ニシテ知ル天命ヲまでは、廣大に至て精微を盡すの事なれば、言語文書を以て少は解すべし。六十耳順よりは言語文筆の及處にあらず

七十ニシテ而從ヘドモ心ノ所ニ欲スル。不踰ヘ矩ヲ

道器一貫、義欲一致、從容として道に中る。天道無心、至誠の動にひとしきなるべし。口をひらけば則となり、足をあぐれば法となること其中にあり

孟懿子問フ孝ヲ。子ノ曰。無違コト

孟懿子は魯國の大夫仲孫氏也。魯の三家禮を僭して犯違こと多し。其家にも凶に、其國にも害あり。不孝不忠なり。故に當然の非を格し給へり

樊遲御タリ。子告テ之ニ曰。孟孫問フ孝ヲ於我ニ。我對テ曰。無違コト

樊遲、師の爲に御者となれり。仲孫氏より歸路の事なるべし。故に前の問答を語給へり

樊遲曰。何謂也。子曰。生事之以禮。死葬之以禮。祭之以禮

孟孫は違ことなかれとのたまひしを、親の命にたがはざれと心得たるにや、又問も心に不入故にや、重て尋ざりしなり。樊遲は父命に違ことなかれと計の言にはあらじと思へる故に問也。生を養ひ、死を送り、鬼を祭る。皆禮を盡すときは孝の始終備れり。孝子の心親に奉ずる事窮なしといへども、其身の分限にしたがふを以て禮の本とす。大夫にして諸侯の禮を用るときは非禮の禮なり、禮を以てするにあらず、理に違へるなり。後世厚に過るをあしく心得て、家の有無に過て、喪禮をなすは違る也。非禮の禮、大人のせざる理を不知なり

孟武伯問孝。子曰。父母唯其疾之憂

是は爲にしてのたまふなるべし。武伯作法あらきか、勇たてなどするか、いかさまに父母に氣づかひせさする行跡ありたるべし。疾は了簡なき事なる程に、疾の氣づかひの外は父母に憂をかくべからずと也

子游問孝。子曰。今之孝者。是謂能養。至於犬馬。皆能有養。不敬何以別乎

此の敬は父母を君子とし敬する也。性命の父母を敬する也。今世俗の孝と云はよく養をいへり。子弟奴僕も父母の心に叶たるをばとり分て愛し、犬馬に至まで父母の氣に入たるをば能畜養とも、敬禮明ならずば、人の孝にあらず。子弟奴僕も敬なくして養は犬馬を養に近し。又父母を敬するとて、君を敬するやうに、敬に過たるは和なくして惡

し。始と終に禮ありて、中間は和してきつとすべからず。禮とのたまはずして、敬とのたまふにて、心に敬ありて形容に過ざる處を知べし。君臣といへども近習と外ざまは禮をのづから厚薄あり。大身と小身と又厚薄あり。父子も大身小身にて厚薄あり。町人百姓などは、言葉ばかりのちがひにて、形に禮はさのみなし。自然の勢なり。心に父母を君子として、性命につかふる至敬あるは敬禮の至也。外形は時所位にしたがふべし。君親ともに外さま禮あまりありとも、凡夫としつかふるは心にあなどるなり。敬するにあらず

子夏問レフ孝ヲ。子ノ曰。色難シ。有レバ事弟子服ニキ其ノ勞一ニ。有ニレバ酒食一先生ニ饌ス。曾テ是ヲ以テ爲ンカレ孝ト乎

此章集註備れり

子ノ曰。吾ト與レ回言テ終レフ日ヲ。不レ違ハ。如レシ愚ナルガ。退テ而省ルニ其ノ私一ヲ。亦足ニレリ以テ發一スルニ。回ハ也不レ愚ナラ

此章集註にて大かた聞えたり。別に講義なし

子ノ曰。視ニ其ノ所一レ以スル。觀ニ其ノ所一レ由ル。察ニル其ノ所一レ安ズル。人焉ゾ廋サンヤ哉。人焉ゾ廋ヤ哉

人を見には、先何事をするぞと心を付るなり。道學六藝等の善事をすれば事はよき也。されども其心のよる所、名の爲か、利の爲かと見るに、六藝を學で文武の業をたしなみ、道學を受用して心をみがゝんと欲す。如此なれば、

先以て善也。しかれども徳に入ことあたはざる者あり。それは安所無事の地にをいて、心の樂む所君子ならざる故也。こゝにをいて君子の心地をしらざる者は、氣質を變化し、徳に入ことあたはざる故に、聖人雅樂を作して琴瑟にほどこし、正き事に游ばしめて安ずる所をたすけ、不知不識道徳に入しめんとす。君子故なければ琴瑟身をはなたざる者是なり。故に古は徳をなすこと早く、今は徳をなすこと晩し。視觀察は人をみることのくはしき次第也。師とすべき人あり、友とすべき人あり。心根のよからぬ人と親むときは、己が徳をそこなふ者也。如此みるときは人の善惡かくれなき也

子ノ曰。溫テ故キヲ而知ル新キヲ。可シ以テ爲ル師矣

いにしへの事を尋て其跡になづます。古人の時所位の至善を行じ、心を得て今に行べき至善を得るを知新ヲと云也。しかる時は道我より生じて窮りなし。初て師道立べし。其道を用て國家を治るときは君道也。故に聖賢を君師と云也。同じ中國にてさへ天地の風氣、五十年には小變し、五百年には大變する故に、昔の禮法は全く行はれず。其變に通ぜざる時は、却て眞を害して道くらくなる者也。西戎の佛法を持來て日本にうつし、中國の儒法を我朝に行はむとす、是皆新を不知ゆへなり。故に日本に害ありて益すくなし。今聖人の道を學ぶ者日本の天地の神道に通ぜば新を知と云べし

子ノ曰。君子ハ不器ナラ

君子は徳を以ての名也。才藝は器のごとし、其一品に止て變通なきが故なり。徳は泰然として時所位にしたがひて

神通變化する也。或は本才ありて國天下を治るによき人も、軍の大將として十分ならざるあり。或は大將として天下をなびかす程の名將にても、治世になりて民其澤をかうぶらざるあり。是らは才器の大なる者なれども、變通せざれば器なり。有德の君子は治乱ともに通ずる故に、文武二道ともいふ也

子貢問フ二君子ヲ一。子ノ曰。先ツ行テ二其ノ言ヲ一。而後從フレ之ニ

君子は實學者也。人の知不知に心なし。ほめそしりにかゝはらず、唯己が德をなすのみ、故に獨行者也。言は不得已して發す。先行て言したがふなり

子ノ曰。君子ハ周ノ而不レ比セ。小人ハ比ノ而不レ周セ

君子はひろく衆を愛して私なし。是周して比せざる也。小人は人を惡み人をあなどりて、我に叶たる者をば甚だ親むもの也。是比して周せざるなり。君子は和して同ぜず、小人は同じて不和。君子は泰にして驕らず、小人は驕て不泰。君子小人常に相反する者也

子ノ曰。學テ而不ルレ思ハ則罔シ。思テ而不ルレ學ビ則殆シ

學で不思は聖賢の跡になづみ、法を道とする格法の學、又は博識を事とする俗儒などの類なるべし。心法を不知ゆへに眞理にくらくして定見なき者也。思て不學は心法のかたはしを悅び、工夫受用を事とすれども、聖經賢傳にふかゝらざる類也。己が愚を知て一人の益とせば可也。是を以て善として事をとらば、人情事變にうとく、古今の考

うすく、己をあやまり人を損ずること多からん。共に齊家治國の用をなすべからず。思學相かねて可なり

子ノ曰。攻ムルハ二乎異端ヲ一。斯レ害也已ノミ

孔子の時、いまだ老佛楊墨等の學なし。後世異端と云源流なし。此異端はあしきにはあらず。小德の川流にて端を異にする者なれば、六藝皆道の一端也。六藝本大德の敦化中より出たり。故に至極を云ときは皆大道の理あり。弓馬書數の學も上手と成たる者は道を云者也。專治て心とする者は、大道を聞て其理我藝にたがはずとおもひてたづねず、不求。大道を小藝の格にとりなして、終身德に入ことを得ず。道德の害也。その身の不幸也。六藝は道德の助なるに、却て害とするは本末を不知也。この故に聖人は藝に游とのたまへり。道德を專治て、藝に游ときは本末たがはずして德に入こと速か也。後世の異端の學は專治に及ばず。少し學でも人道に害あり

子ノ曰。由誨ヘンニ二女ヂニ知ルコトヲ一レ之ヲ乎。知ルヲバレ之ヲ爲シレ知ルト之ヲ。不ルヲバレ知ラ爲レ不トレ知ラ。是レ知ナリ也

由は子路、聖門の賢者也。初學の時、勇者なる故に、進で物を知たく思はれし也。博識を以て知とする過ある故に、德性の知を敎給ふ也。五の知字は用也。是知の知ノ字は体也。德性の知は空々明々たり。不レ知と云事なし。又一事のたくはへなし。知と不知とは識にかゝれり。習てしり學でしりたる也。本知は其知と不知とをはなれてしりたる事をば知たるとしり、不知ことを不知としる所本知也。是を本とするときは識も助となれり、しからざれば識知却て害になる也。いかんとなれば目虚にして天下の色をうけ、耳虚にして天下の聲を受、心虚にして天下の善を受といへり。もし目中に青黃を存ぜば明眩して、色をわきまふることあたはじ。耳中に淸濁を存ぜば聰聵て聲をわかつ

ことあたはじ。心中に善惡を存ぜば知窒て變に通ずることあたはじ。君子山澤氣を通ずるの象を見て、其中を虚にして人に受といへり。虚は道の源なり

子張學干祿。子曰。多聞闕疑。愼言其餘。則寡尤。多見闕殆。愼行其餘。則寡悔。言寡尤。行寡悔。祿在其中矣

此章語意やはらかにして平人を教給ふがごとし。子張の初學なるべし。農はたがへし、工は職あり、商は金銀を持して有無を通ず。田宅なく、工職なく、金銀なき者は貧が爲の仕をすること士農工商の常也。教給ふ所は、君につかへ官職に居る者の愼也。如此は能奉公人なり、祿を失ふべからず。古しへの學ぶ者は六藝なり。六藝は文武の事にして國家の用也。心法は六藝中より實學に志て學問する者也。聖人初より是を强給はず。彼自志て後みちびきたまふなり

哀公問曰。何爲則民服。孔子對曰。擧直錯諸枉。則民服。擧枉錯諸直。則民不服

此章集註備れり

季康子問。使民敬忠以勸如之何。子曰。臨之以莊則敬。孝慈

則チ忠アリ。擧テ善ヲ而教ルニ不ルハ能則勸

此章集註備れり

或人謂テ孔子ニ曰ク。子奚ゾ不ル爲セ政ヲ。子ノ曰ク。書ニ云フヤ孝ヲ乎。惟レ孝ハ友アリ于兄弟ニ。施スニ於有政ニ。是レ亦タ爲ルナリ政ヲ。奚ゾ其レ爲ン爲ルト政ヲ

此章集註にて大かた聞えたり。明王は孝を以て天下を治むといへり。能孝なる者は兄弟中よく、夫婦和す、是家の齊たるなり。是を國にあぐれば國治り、天下にあぐれば天下平也。孔子平生の事、人道の正にあらずと云事なし。是を國に用れば國政となる。人倫を明にするの外別に作て政とすべき事なし。政をするに徳を以てすれば何のむつかしき事もなく、無事にして治る意也。禮式は人道の本だに立ば、相談にて天下に施してつかへざるやうにする事易し。本不立して出たる法令は却て害出來る事多し

子ノ曰。人トシテ而無ンバ信。不知ニ其ノ可ナルコトヲ也。大車無ク輗。小車無ンバ軏。其何ヲ以カ行ンヤ之ヲ哉

此章集註にて聞えたり。人の才知藝能あるは、大車小車の用をなすべきがごとし。然れども心に信なきは天下の棄才也。車の輗軏なきが如し。所をふさぎて用に不立のみならず、かへりて才知は人道の害になるなり

子張問フ。十世ヲモ可レシヤ知ル也。子ノ曰。殷ハ因ニル於夏ノ禮一ニ。所ニ損益一スル可レシ知也。周ハ因ニル於殷ノ禮一ニ。所ニ損益一スル可レ知也。其レ或ハ繼レク周ニ者ノ。雖ニモ百世一ト可レシ知也

此章集註備れり。これの世は年數の多少によらず、天道命を革め給ふを云べし。日本にていはゞ天神七代を一世とし、地神五代を一世とし、人皇は神武より後白川までを一世とし、武家は淸盛　を一世とし、賴朝天下をとりし三代を一世とし、北條天下の權を執し九代を一世とし、足利十四代を一世とすべし。王道衰へ、禮式みだれてより武家の天下となれり。武家と成て後は眞の禮式はなし。しかれども三綱五常の道は天を根としたる大經なれば、大かたはあり。此綱大にみだるゝときは、乱世となるなり。明君出給はゞ三綱五常の道を明し、禮樂を興起し、式備りて初て人道の美を見るべし。禮式は人情を考へ、天地の事變にしたがひて損益あり。法制禁令は、多ければ民人苦しみ、禮式はこまやかなる程無事に成て民人安き者也。式あしければ年々に世中事おほく成て、風俗賤し。是より三綱五常の道も乱て時變はやし。禮式よければ世中事少く、人心正しく、僞すくなし。故に時變も又遲ければ天下長久也。天下の氣は人道による也。三綱五常の道の常にしてかはらざると、禮式の人情事變にしたがひて損益あるとは百世の遠といへども同前なり

子ノ曰。非ニノ其ノ鬼一ニ而祭ルハレ之ヲ諂ナリ也。見テレ義ヲ不ルハレ爲セ無キナリレ勇也

或は異國の神を祭り、或は上の權勢にへつらひて祭り、或は福を求てまつるなど、大かた其鬼にあらざること多し。

生る人にへつらふも、神に今生の福をいのるも、仏に後生の福をねがふも皆利心の惑よりおこれり。義をみてせざる者は又すまじき事をする者なり。共に勇なき也。是如此の人あり。爲にしてのたまふなるべし

八佾第三

孔子謂季氏。八佾舞於庭。是可忍也。孰不可忍也

三家者以雍徹。子曰。相維辟公。天子穆穆。奚取於三家之堂

子曰。人而不仁。如禮何。人而不仁。如樂何

右三章集註備れり

林放問禮之本。子曰。大哉問。禮與其奢也寧儉。喪與其易也寧戚

此章集註につまびらか也。後世奢る者は、儉をしはきといひてそしり、しはき者は、儉の名をかりて禮を廢す。君子の儉は無欲より出て、仁を行はんとする者也。故に易簡にして禮の本存ず

子曰。夷狄之有君。不如諸夏之亡也

夷狄は禮不備、故に君臣の間といへども大簡也。しかれども律儀にて、君を君とするの實あり。中國は禮文備れる故に、見る所は君臣の禮ありてよきやうなれども、道なき時は、實は君をなみする者多し。故に實を以てみれば、夷狄にもをとりたるなり

季氏旅於泰山。子謂冉有曰。女弗能救與。對曰。不能。子曰。嗚呼。曾謂泰山不如林放乎

此章集註にてきこえたり。愚人は神を祭て、却て神爵有べきことを不知、己が欲心のごとくに神をも思者也。世話に、亭主のすきたる物を、客にもてなすといへるがごとし。泰山の神の靈なるを聞て、福をいのるに心ありて、其非禮には神爵有べき道理をわきまへず。如此たぐひ世間に多し。今時仏氏の言に、善人も仏緣をむすばざれば成仏することなし、惡人にても佛緣をむすべば成佛すといへり。又欲惡ながら佛をさへ願へば成仏うたがひなしと云。たとひ地獄極樂ありとも、仏は聖人也といへば、善人にても、我をたのまぬ者をば地獄におとし、惡人にても、我をたのむ者をば極樂へやるやうなる凡心あるべきや。佛者の言のごとくならば、佛は惡人の方人也。紂と行を同じくする者なるべし。是程の道理をさへわきまへざるは、欲心無道の佛者等、佛をも我心のごとく思へるか。扨は地獄極樂のなきことを知故に、渡世の爲に人を欺くかなるべし。昔名僧あり、今時の坊主衆の申さるゝ佛法が眞の佛法な

らば、仏法ほど悪しき者は侍らじといへり

子ノ曰。君子ハ無レシ所レ爭フ。必スヤ也射カ乎。揖讓シテ而升リ。下テ而飮ス。其爭ヤ也君子ナリ

是非を爭ひ、力をたくらぶるは小人の事也。君子小人道各別なれば爭べきやうなし。小人時を得るときは、君子退きかくれ、君子時を得れば、小人其澤をかうぶる。故に爭ところなし。君子と君子なれば相助て禮讓あり、又爭なし。唯射のみ勝負の事也、爭の所也。しかるに始終禮讓を以てす。爭を見て君子を知なり。事は集註につまびらかなり

子夏問テ曰。巧笑倩タリ兮。美目盼タリ兮。素以テ爲レス絢ヲ兮。何ノ謂ゾ也

巧笑はわらひがほよき也。倩は顏よき也。美目盼は目の黑白あざやかにてよきなり。素は下地なり。如此よき生付の氣質ありて、文のかざりをほどこすべしと也。絢は彩色也。此詩女子の容色をほめたるばかりにて別にとるべき益なきことをうたがへり

子ノ曰。繪ノ事ハ後ニスレ素ヨリ

繪をかくには先下地の紙ごしらへよくして後、采色をほどこすべし。人美質ありて後、文飾を加べきが如し。何事も本をつとめて後に、末をも捨べからざるたとへなり

曰。禮ハ後カ乎。子ノ曰。起スレ予カ者ハ商ナリ也。始テ可キ二與ニ言フ一レ詩ヲ已ノミ矣

誠立て後禮文行はるべし。誠なきの禮文は僞の端、乱の始ともいへり。先王の時に中して禮樂善政行はれしはみなしかるゆへんあり。故に禮は後かといへり。堯舜の天下を子に傳へずして、賢にゆづり給ひしは、しかるゆへむの至德あり。燕王其本を不知して末を學で燕國乱たり。西施といふ美人、心痛を疾て顏をしかめたり。其しかみしほど成ていよ〳〵美也。惡女これを似せて顏をしかめたればいよ〳〵みにくかりしといへり。西施は顏をしかめても美なるゆへんあり。巧笑倩たり、美目盼たる美質あらば、かざりなくともよかるべし。かざりあり共よかるべし。惡質の人は一向木地にてあらば可也。不實の人文を學びは文いよ〳〵不實をますべし。眞實の人は文なくともよかるべし。文あらば猶以よかるべし

子ノ曰。夏ノ禮吾レ能ク言ンモレ之ヲ。杞不レ足レ徵トスルニ也。殷ノ禮吾能ク言レモ之。宋不レ足レ徵トスルニ也。文獻不ルカレ足ノ故ナリ也。足ナバ則チ吾レ能ク徵トセンレ之ヲ矣

此章集註にて見るべし

子ノ曰。禘自リ二既ニ灌一ノ而往者。吾レ不レ欲セレ觀マクレ之ヲ矣

此章集註備れり

或問フ二禘ノ之說一ヲ。子ノ曰。不レ知也。知ル二其ノ說一ヲ者ノ。之於ル二天下一ニ也。其レ如キカト云テレ示スガ二諸斯一ヲ乎。指ス二其ノ掌一ヲ

此章同前なり

祭ルヿ如レシ在スガ。祭ルヿ神ヲ如ニシ神ノ在一スガ。子ノ曰。吾レ不レバ與カラレ祭ニ如レシ不ルガレ祭ラ

祭は人道の重事にして、定禮也。故に主人、或は公用、或は病疾などにて、自身祭ることあたはざれば、妻子一門など助け祭ることとなり。自身まつらざれば、如在の誠を盡すことあたはず。故に其心に不足ことと如不祭と也。孔子自祭給ふをみれば、其前に神の在がごとくみゆるなり。誠敬の至也。神は形なし、形ある人の在がごとしと也

王孫賈問テ曰。與リハ其ノ媚ニンヨリ於奥一ニ。寧ロ媚ニシト於竈一ニ。何ノ謂ゾ也

事は集註、幷に大全東陽許氏の說に見えたり

子ノ曰。不レ然。獲ニレバ罪ヲ於天一ニ無レシ所レ禱ル也

集註備れり

子ノ曰。周ハ監ニミル於二代一ヲ。郁郁乎トノ文ナルカナ哉。吾レハ從レフ周ニ

周は夏商の代の禮樂をみて、周の時には、或は過、或は不及事あるを考て、是を損益して用られたれば、文理明にして、其跡見よき也。周の盛世の時より孔子の時までは、數百歲へだゝりて世變はるかなり。孔子時を得給はゞ、また夏商周三代の禮樂法度を損益し給ふべけれども、其位なき故に、周に順從し給ふ也。周を今によしとして從ひ給ふにはあらず、顏子治國の道を問れしにこたへ給ふを以てみるべし。專周をよしと思召にはあらず、三代ともに

其時にはよし。其心を取て跡によらざるのみ

子入二テ大廟一ニ每レ事ニ問フ。或ノ曰、孰カ謂二フ鄹人ノ之子ヲ知一レリト禮ヲ乎。入二テ大廟一ニ每レ事ニ問フ。子聞テレ之ヲ曰。是レ禮ナリ也

孔子魯の周公の廟に入て祭を助給ふ時、廟の役者幷に祭になれたる者に、一々事をたづね問給ふ也。孔子は四五歳の時よりわらはべ遊にも禮容をまうけ給へり。知さとければ、二十歳より內に大方三代の禮樂に通じ給へり。其上に天下古今の禮しれる老子に學びたまへば、天下孔子の上に立者なし。故に世人の思へるは、初て廟中に入たまふとも、くらきことなく、万事取行ひたまはんと思ひたれば、何もしらぬ者のやうに事々問給へば、是をそしりたり。孔子の父は鄹邑の大夫たりし故に、鄹人の子といへり。此そしりを孔子に告たれば、是禮なり、とのたまひて、仰わけられなし。夫禮は敬のみといへり。人の敬は祭に過たるはなし。孔子誠敬に專なる故に、禮文を先したまはず。三百三千の禮も敬を以て本とす、敬なき時は虛文なり。禮は學で行べし、一敬は存じがたし。其上人情事變により て古禮も少づゝの違ひ出來る事あり。又有司の傳あやまりもあり。禮しり顏にて、人とたがひ行はよからず、禮を行ひて却て禮にあらず。明王出給ひて損益あらんまでは、たがひながら衆俗にしたがひてよき事あり。是又問給ふ所なり

子ノ曰。射ルコト不レ主トセ皮ヲ。爲ニナリ力ノ不ルガレ同セ科ヲ。古ヘノ之道ナリ也

此章集註備れり。德は學で至ルべし。才は學でよくすべからず。しかれども天質の才あり、學びざる故に、我も不知して一生發せざる者あり。又德に付て生ずる才あり、入德の後是を知べし。弓もはなれよければ近き物はぬけよき者也。あたりてもぬけあしければ用をなさず。つよ弓にてもあたらざればやくにたゝず。よくあたりてよくぬくるは弓の精義入神也。あたる中にぬけは備れり。しかれども遠飛とぬけとは先は力也。力は生付に强弱あり、學で至るべからず。あたりは學で至べし。强弱ともに同じき道なり

子貢欲レ去二告朔ノ之餼羊一ヲ。子曰、賜ヤ也。爾ハ愛二其ノ羊一ヲ。我ハ愛二其ノ禮一ヲ

事は集註につまびらか也。後世も費をいとひ、儉約に心ありて、禮をも廢するあやまりあり。無用の費は少にてものぞきたきものなり

子ノ曰。事レテ君ニ盡セバレ禮ヲ。人以テ爲スレ諂ヘリト也

孔子の時、權柄臣にありて君威かろし。故に君を敬ふの禮じねんに略せり。孔子は威なきを以て君をあなどりたまはず、君臣の禮を正しくしたまひしかば、見なれぬ事なる故、へつらひ給ふと思へり。程子の說面白し。聖人是非を明し給ふばかりにて、人をとがめたまふ意なし、故に語意おだやかなり

定公問。君使レ臣ヲ臣事ルレ君ニ如レ之何ン。孔子對テ曰。君使フニレ臣ヲ以スレバレ禮ヲ臣事ルニレ君ニ以スレ忠ヲ

禮は理也。君臣を使に、理の當然を以する時は、臣其職をつとめて忠あり。凡人のならひ、親と成ては子の孝を欲

し、人の君と成ては臣の忠を欲す。臣子の道を以て己を利せんとするは欲なり。故に子たる者も親の慈を願ひ、臣たる者も君の惠を求む。共に利欲の心よりおこれり。人に道を行はしめて、己を利せんと欲する也。君子はしからず。我身に道德を修て、其餘を以て人を利すべし。道德の慶福其位にしたがひて、家に及び、國に及び、天下に及べり。家とゝのほり、國治り、天下平也。是不求の利は求るに百倍せり。利を以て利とせずして、義を以て利とするなり

子ノ曰。關雎ハ樂デ而不レ淫セ。哀デ而不レ傷ラ

關關タル雎鳩ハ在リ二河ノ之洲ニ一。窈窕タル淑女ハ君子ノ好キ逑ヒナリ。參差タル荇菜ハ左右ニ流ナガレトルレ之ヲ。窈窕タル淑女ハ寤寐ニ求レムレ之ヲ。求テレ之ヲ不レバレ得寤寐ニ思ヒ服フ。悠ナル哉悠ナル哉。輾轉反側ス　此詩は文王の臣の作也。文王は聖人也。又聖女姒氏を得て后とす。故に內外の臣妾親く化を被カウブリて、善心の感發やむ事あたはずして、言にあらはるゝ者也。こゝに先其始の事をいへり。窈窕は幽深閑靜の意なり。幽深とは、けだかく物ふかき容躰也。うちむかひたる人にもさだかにみえぬやう也。貞正にして、犯しがたく、たしかなる心其中にあり。閑靜とは、しづかに女しき躰なり。男はおゝしく、女は女しきを本とす。孔子を溫にしてはげしといへり。仁愛溫和なれども、勇强にして犯すべからず、是男しきなり。窈窕は女しき德をいへり。淑女は善女也。女德女容ともに備りたるを云也。實は聖女なれども、聖の字をいひがたきは、常の女よりも女しく、道らしき語などは一言も出したまはず。其德化の跡を見たる時は、文王の小躰の天に配する小躰の地なり。故に好逑といへり。天地陰陽、是たぐひ也。天地の造化も陰陽かけてはならず。故に人道の天地の

造化を助くるもよき逑を求て天道につかふる者也。孤陽ならず、獨陰生ぜずなれば、好逑にあらずとも求て教化し、祭祀の助とすべし。矧やよきたぐひをや。朝臣この意をのべむとするにことばなし、雎鳩によりてことばをおこせり。興の詩也。興とはことばの類を本とす。言葉のもやうを以て下文に我いはんと思ことをひきおこす也。關々は雌雄、かれ應ずれば、これこたへ、これ應ずれば、彼こたふるの和聲なり。雎鳩は水鳥の名也。生れながら定たる雌雄ありてみだれず、雌雄常にならび遊とも相狎ことなし。陰陽和合の密に合者也。別道を知て如此なるにはあらざれ共、水氣を多うけて生ずる鳥なれば、水氣の神は知なり、夫婦の別は知なれば、暗に叶者也。陽は陰をもとめ、陰は陽を求る理なれば、聖人といへども男女の情なきにあらず。しかれども本心の明くもりなければ、情性にかへるゆへに、水の潤下、火の炎上のごとく、艮背敵應不相與者也

荇菜は根水底に生じて、葉水上にうかべり。清白の物なれば鬼神に進むべし。參差は長短ひとしからず、水深ければ莖長く、淺ければ短し。左右流之は水上にあればながれをよぎて左右に是をとるなり。取がたき躰也。この窈窕の淑女は文王に配してよろし。故に其はじめ朝臣たる人々時となく是を求てやまず。さめてもいねてもわするゝ事なし。此淑女大姒は有莘國の女なり。女とはいまだ嫁せざる時の稱なり。其時紂王の代なれば、父母も彼是遠慮あるべし。事とゝのほりがたきやうに有しかば、もしいかなるさはり出來て、首尾せずばと夜もいねられず、常にかはらぬ昼夜も長きやうに覺て、待遠なる躰也。悠哉悠哉はのび／＼に成て氣づかひなる意也。輾轉反側の字義は詩經の註に見えたり。眞實忠厚の思ひ深くして身もあつくなり、ねぐるしく、目もあはぬ躰なり

參差タル荇菜ハ左右ニ采ルレ之ヲ。窈窕タル淑女ハ琴瑟友トスレ之ヲ。
參差タル荇菜ハ左右ニ芼ハクスレ之ヲ。窈窕タル淑女ハ鐘鼓樂ムレ之ヲ。

采はとりがたき荇菜をとり得たるなり。得がたき淑女を求得て、婚禮とゝのほりたるに比す。されば三章ともに興にして、比の意をかねたり。琴は舜これを作り給ふ。五絃なり。後に文武の二絃を加へて七絃となれり。瑟は二十五絃也。琴は堂上にてひき、瑟は堂下にてひくといへり。二器所をへだつといへども、其音聲和して一なり。文王と大姒の夫婦たる、天地陰陽の和合にひとしといへども、禮儀正しく別道常ありて賓主のごとくなること、琴瑟の友たるがごとし

芼は熟して神にすゝむるなり。鐘鼓は樂の盛なるなり。今日本にても太鼓鉦鈷の入は樂器の備たる時也。笙三管笛三管篳篥二管箏三絃琵琶二面和琴一絃太鼓鉦鈷大方これ程にて切々習禮し、よく調たるは盛に面白もの也。常は箏と和琴とか、箏と琵琶とばかりにてしづかに樂したるよし。琴瑟の遊は文王后妃の夫婦たるが如し。鐘鼓入て樂器の多く盛なる遊は、文王の聖男大姒の聖女を得て、その德天地にひとしくして、神靈の統を奉じ、万物の宜を治に足て、その化育いたらずといふことなし。故に人々用て和睦し、上下無怨。其人を親み、其位を樂むこと樂器品々なれども、其聲音はとゝのひ和してそむかざるが如し。寤寐反側は哀の至也。琴瑟鐘鼓は和平の極也。哀樂の情きはまりて不レ傷不レ淫、これを情性にかへるといふ。發して節に中るの和なり、天下の達道也。是其未發の中、天下の大本純も不レ已の至なり

哀公問社於宰我。宰我對曰。夏后氏以松。殷人以柏。周人以栗。曰使民戰栗

解集註にみえたり

子聞之曰。成事不說。遂事不諫。既往不咎

解集註に見えたり

子曰。管仲之器小哉

管仲は大器量の者也。しかれども天下の大難に當て、これを治め功を立る才はあれども、治世におゐて、王道を行ひ、禮樂を興起することあたはず。武道には得たれども文道拙し。大なれども一色のみを得て不通は器也。武器の如し。大道を不知ば也。大器といへども、道德より見たる時は變通せずして小き也。管仲はこれ器なり。小きなる哉の意なり

或曰。管仲儉乎。曰。管氏有三歸。官事不攝。焉得儉

或人心得ちがへて、管仲が諸道具のすくなきかと思ひて、儉約なるかといへり。三歸の事、說苑の說幷官不攝の解、集註大全に見えたり

然則管仲知禮乎。曰。邦君樹塞門。管氏亦樹塞門。邦君爲兩君之好

有反坫。管氏而知禮。孰不知禮

此章の解集註備れり

子語魯大師樂曰。樂其可知也。始作翕如也。從之純如也。皦如也。繹如也。以成

大師は樂官の長なり。今公家の樂所奉行の如し。始作翕如也は、今三絃三管打物合奏するに、たがひに聞合てわれ〳〵になきやうにする也。從之純如也は、絃管共に心一致になり、拍子もそろひたる時は、もはや聞合はいらずしてよく和する也。皦如也は、和して後人々手前の精微をあらはす也。繹如也は、清濁高下相連て貫珠の如し。翕合の餘り純和あり、純和の中明白あり、明白の中間斷なきといへる者也。合て和し、和して明に、明にして續は樂の始終一成也。樂の始にわきにて拍子をうてば、樂の和をさまたげて位を失ふものなり。樂の始には拍子は大躰ばかりにて、少ののびちゞみにかまはず、聞合せ持合て、ゆる〳〵と春の日の遲々たるがごとくなればよく和する者也。下手などまじり、無功の人ありて聞合なく、樂はやだつ時は、功者の人ありて扇子にて時々拍子とり笙哥してしづむることあり。其拍子はうちつめざる拍子也。絃管の心よく合たる時はよく和す。其時はもはやさのみ聞合もいらず、拍子は定る者也。故に放といへり。其時絃管打物の人々の所作の美あらはれて明かなり。さて次第に拍子つまりて、ざく〳〵としてめい〳〵なれどもはなれず、貫珠のごとくにて樂終る也。是一成なり。樂人は所作ばかり上

手にて、位を不知者多し。位なければ雅樂の無上の意味はしられず。正樂のたのしみをしらざれば、水のごとく淡きものなれば、平人は好むべきやうなし。雅樂するゝ時は必ず淫樂おこりて、風俗みだるゝ者なり。魯の大師も樂は上手なれども、此意を不知ゆへに敎給ふなるべし

儀封人請見。曰。君子之至於斯也。吾未嘗不得見也。從者見之。出曰。二三子何患於喪乎。天下之無道也久矣。天將以夫子爲木鐸

解集註に見えたり

子謂韶盡美矣。又盡善也。謂武盡美矣。未盡善也

韶は舜の樂なり。禮讓を以て天下を有給ふ。武は武王の樂なり。征伐を以て天下を有給へり。舜は文の美を極て武其中にあり。武王は武の美を極て文其中にあり。皆美盡せり。武王の征伐は不得已、その欲する所に非ずといへども、德に慙ることあり。大舜と文王を此地に置たる時は征伐には及まじき也。是武王の德の舜文に不及して、うたずして不叶やうになりたるは德にはづる所なり。是善のいまだ不盡なり。天に順ひ人に應ずといへども、聖人の不幸也。いにしへの人は善惡をかざる事なし、たとひかざりても聲音はおほふことあたはず

子曰。居上不寛。爲禮不敬。臨喪不哀。吾何以觀之哉

解集註にみえたり

里仁第四

子ノ曰。里ハ仁ヲ爲レス美ト。擇テ不ンバレ處ラレ仁ニ。焉ゾ得ンレ知ヲ

集註にて大方きこえたり。是ためにしてのたまふなるべし。風俗あしき所も本よりの在所か、又はさりがたき勢にて居も有べし。風俗よき所も筋目なくてはゆきて居られざる勢あり。去住心のまゝならん者の風俗よからぬ所に住居するは知のくらき也。其身のためはいふに不及、子孫のためにもあしければ親先祖にも不孝なり。なるべくはえらびたきものなり

子ノ曰。不仁者ハ不レ可ラ二以テ久ク處ルレ約ニ一。不レ可ニ以テ長ク處ルレ樂ニ一。仁者ハ安レシ仁ヲ。知者ハ利スレ仁ヲ

仁者は人我のへだてなきのみならず、天地陰陽風雨寒暑己にあらずと云ことなし。富貴貧賤通達窮困幽明死生己にあらずといふことなし。故に貧賤に居ては貧賤の道を行ひ、富貴に居ては富貴の道を行ふ。夏はかたびらを着し、冬は小袖を着するがごとし。死生は昼夜のごとし、入として自得せずと云事なし。是を一貫の心法と云。不仁者はこれに反せり。故に窮困に居ては、約窮を外の物としていとひにくめり、久しく居がたき所也。又仁者にあらざれども堪忍の力つよくてよく處もあり。富貴を得ては己一人の榮華とし、淫樂を以て事とし、驕奢をきはむ。終には

身を亡し、國家を失へり。是又久く居がたき所也。知者の仁を求る事商人の利を求るがごとし、心明かなるが故なり。世に知者といふ者あれども、仁を求ることを急にせざるは眞知にあらず。安仁は知の至也。利仁は格物に配し、安仁は致知に配す

子ノ曰。惟ヒトリ仁者能ク好レシ人ヲ。能ク惡レス人ヲ

此章集註備れり

子ノ曰。苟モ志ス二ハ於仁一ニ矣。無レシ惡也

解集註にみえたり

子ノ曰。富ト與ハレ貴。是レ人ノ之所レナリ欲スル也。不下レバ以テ二其ノ道一ヲ得上レ之ヲ不レ處ラ也。貧ト與ハレ賤。是レ人ノ之所レナリ惡ム也。不下レバ以テ二其ノ道一ヲ得上レ之不レ去也

富貴はたとへば夏涼しき所に居、冬あたゝかなる所に居がごとし。貧賤はたとへば夏あつき所に居、冬さむき所に居がごとし。すゞしくあたゝかなるも禮義に害あれば是を去、あつくさむけれども禮義のためにはこれに居れり。好惡カウヲは人の情也。禮義は人の性也。性にしたがふを君子とし、情にまかするを凡人とするなり。君子も好惡の情は人と同じけれども、禮義にしたがふの心凡人と異なり

君子ハ去レテ仁ヲ惡ゾ乎成レン名ヲ

仁をいふ時は義禮知信其中にあり。仁義禮知の德あるときは仁義禮知の名あり。孝子忠臣義士等の名は仁を不去の名なり。君子は名を好む者にあらざれども、自然の理也

君子ハ無シ終ルノ食ヲ之間モ違フコト仁。造次ニモ必ズ於シ是ニ。顚沛ニモ必ズ於ス是ニ

仁は本心の名なり。君子は放心することなし。食も放心して食すれば身の養とならず。いそがはしく急なる事には猶以放心すれば過多し。不仁不義無禮無知は放心の大なる者也

子ノ曰。我レ未ダ見ズ好ム仁ヲ者。惡ム不仁ヲ者ヲ。好ム仁ヲ者ハ。無シ以テ尚フルコト之ニ。惡ム不仁ヲ者モ。其レ爲ナリ仁ヲ矣。不レ使メ不仁者ヲシテ加ヘ乎其ノ身ニ

好仁は石針の南北を指がごとし、わすれても性をはなるゝことなし。心天理に專なればなり。不仁をにくむは水中に油を入がごとし、まじはるといへども化せられず。つよくにくみて絕去にはあらず。䷥(睽)の象のごとし、同居すといへども心のおもむき常に別なり。不仁の事其身に染べきやうなし。仁を好み、不仁を惡むは人心の靈也。あらずといふことなし。仁を好て仁にいたらず、不仁を惡で不仁の習にそまるは好惡の眞にあらず。故に見がたし

有ンヤ能ク一日モ用フル其ノ力ヲ於仁ニ矣乎。我レ未ダ見ズ力ノ不ル足ラ者ヲ。蓋シ有ンヤ之矣。我レ未ダ之ヲ見也

德に入べき力は生付てあり、たゞ志のなき也。少志あれども、はかのゆかざるは道を見の明不足なる故也。生付たる明の不足にあらず、問學の功たらざるなり。玉みがゝざれば器とならず、人學びざれば道を不知といへるものなり

子曰。人之過也。各於其黨。觀過斯知仁矣

君子には殺べき者を助たるといふ過はあれども、生すべき者を殺したる失はなき也。小人はこれに反す

子曰。朝聞道。夕死可矣

天地人物、日月星辰、山川河海も道中の一物也。四時の運行、陰陽五行、歳月日時も道の流行にあらずと云ことなし。風雷水火、雨露霜雪も道の用にあらずと云ことなし。象形の中、日月より明なるはなく、人より靈なるはなし。人の人たる人は聖人なり。聖人の敎は人倫を明にするを初とす。人倫明にして、天地の化育を助くべし。道則我也、我則道也、則堯舜其人なり。此道をきくときは、いまだ至所にいたらずといへども、人鬼幽明二あらず、晝夜に通じて死生を知、うたがひなく迷ひなし。故に夕に死すとも可也。しかれども一日も生あらんには是にてたれりと思ふも道体にあらず。又長生を願ひ此分にては殘おほきとおもふも道理にあらず。死生は天地の理也、造物者のなさんまゝなり。生あらばやむべからず、死せば遺恨なかるべし。ゆく者とともにゆくべきのみ

子曰。士志於道。而恥惡衣惡食者。未足與議也

解集註にみえたり。今はこれよりくだれる者あり。惡衣惡食を以ておもてをかざり、すりきりたると云を以てみめ

とし、欲心便利たくましく、內外を僞る者あり。是にくらぶれば惡衣惡食を恥るはいにしへの愚にて、今はかへりて殊勝也。五伯は三王の罪人なれども、今の諸侯は五伯の罪人なるがごとし

子ノ曰。君子ノ之於ルニ天下ニ也。無ク適モ也。無シ莫モ也。義ト之與ニ比フ

義は天理の流行、天下の公道なり。適莫は是非好惡にをいて必とする所あり。善也といへども空々如の本体にあらず。本心ふさがる時は、義と共に流行しがたし。義外にありて吾これにしたがふにあらず。義は本心の德なり。存ずる時は聲もなく、臭もなし、發しては天下の公道也。內外を合するの道也。故に時に中してよろし。富貴貧賤夷狄患難死生順逆すべて天下の事皆義中の一物にして、吾あづからず。異學に住する所なくして其心を生じ、能應變すといふは近し。しかれども義の則なき者は猖狂妄行となれり。天下國家を治へからず

子ノ曰。君子ハ懷ヒ德ヲ。小人ハ懷フ土ヲ。君子ハ懷ヒ刑ヲ。小人ハ懷フ惠ヲ

君子は心の安からんことを思ふ。有德の人は心ひろく躰ゆるやか也。小人は居所の安からんことを思ふ。心外物に役せられて安き事なし。君子國の境に入ときは大禁を問、道なき世に居の愼也。小人は恩惠にあづからんことをのぞみて愼をわする、幸にしてまぬかるゝ者あり

子ノ曰。放テ於利ニ而行フハ多シ怨ミ

一分己を利すれば一分人を損ず。甚しければ人の禍を以て己が利とする者あり。故に人の恨多し。人の恨をつむ者

は、身を亡す者也。畢竟小人のかしこきは、身を失ひ家を亡すにいたるなり

子ノ曰。能ク以テ禮讓ヲ爲ンカ國ヲ乎。何カ有ン。不ンバ能ク以テ禮讓ヲ爲メ國ヲ。如イ禮ヲ何ン

禮は禮文也。讓は禮の本實なり。君子はゆづらずと云事なし。人を先にし、己を後にし、多をあたへ、少をとり、人を知にし、己を愚にし、下問を不恥、問ことを好むの類也。心虚明にして無欲なるが故也。虚なるが故に己を有せず、明なるが故に人の善をとる。無欲なるが故に爭ことなし。是を禮の本實と云。本實の形氣にあらはるゝを讓と云なり。讓實ありといへども、禮文なければ廣くほどこすことあたはず。禮文あれども讓實なきは僞の端なり。故に君子は本實立て後禮文行はるべし。君下問を不恥、問ことを好み、よく諫をいれ、善をとり、能を好し、不能をめぐみ、天下の米穀財用を天下と共にし、公道を以て出入するは天下にゆづれるなり。たとひ上無欲にしてほどこしあれども、仁義をかねざる無欲は、上下費て用をなす事すくなし。下々の者も程につけて同じ事なり。人をめぐむの仁ありて、財を惜まず、事のよろしきを得るを仁義をかぬると云也。夫禮讓は上に居て奢らず、下としてみだれず。大夫は士にゆづり、士は庶人にゆづり、同輩互に相讓り、くろをゆづり、男女道路を異にし、おちたるをひろはず。如此の風俗をなすを禮讓を以て國を治ると云也。これ法令を以て戒てなすにあらず、上の德に感化して人々本心の禮讓を興起せられての事也。時雨の化するが如し、生すべき生意をふくめる物の、時雨に逢て發するがごとし。德の流行は傳馬早使などの命を傳るよりもすみやか也。何カ有ンとは禮讓を以て國を治るは甚おさめやすきなり。國よりも天下は猶以治やすき勢也。如禮何とは禮文ありといへども、讓實なければ行はれざる也。位祿を爭ひ、才知を

爭ひ、上は下をしのぎ、下は上をひき、直臣となりては無禮をみめとす。如此にして不レ亂レは幸也。久しかるべきやうなし

子ノ曰。不レ患レ無キコトヲ位。患ヘヨ所二以ンヲ立一ン。不レ患レ莫キコトヲ二己ヲ知一ルコト。求テ爲レ可レキコトヲ知ラル也

解集註にみえたり。是又爲にしてのたまふなるべし

子ノ曰。參ガ乎。吾ガ道ハ一以テ貫レセリ之ヲ。曾子ノ曰。唯イ。子出ヌ。門人問テ曰。何ノ謂ゾ也。曾子ノ曰。夫子ノ之道ハ。忠恕而已ミ矣

一貫は仁也。曾子學問力行の功つもり、仁を求て仁を得たり。故に夫子仁者たることをゆるし給へり。他の門人は此功いまだ成就せず、俄に仁の一貫を告がたし。故に仁を求るの道をいへり。仁を求るは忠恕にしくはなし。或問、一貫を仁とするは何ぞや。云、天地の陰陽、人生の順逆、道にあらずといふ事なく、己にあらずといふ事なし。溫暑涼寒、昼夜死生、富貴貧賤患難夷狄、己にあらずといふ事なく、道にあらずといふことなし。入として自得せずと云事なきは仁者なり。好惡する處あるは不仁也。一貫ならず。醫書に手足しびれて氣血貫通せざる處あるを不仁といへり。天地人の中にをいて、好惡する處あるは己にあらずとする所あり。是一貫ならず、不仁也。曾子一貫の唯簀(ユカ)をかふる所にみえたりといへり。正にのみ心ありて死生に心なし。是死生一貫也。門人に命じて手足をひらかしむるも、無事にして命を終り、孝道にかくる所なきを悦で、今死するに心なし。昼夜に通じて一貫なり。生死に

をいて少も好惡なきは仁なり。或問、孔門に聰明の人おほしといへども、曾子篤實の質を以て道統をつげり。聖人の學は德行にあるか。云、曾子の篤實は氣質也。篤實とみゆる間は、いまだ變化せざるなり。變化して後、行明察に知眞實也。是知行一貫也。曾子いまだ一貫に至ざる前は狷者に近し。孔門に學びずば狷者に終べき人なり。孔門にも狷者にて終たる人あるは、曾子のごとく、百倍の功をつまずして美質にとゞまりし故也。打みるより賢人君子としられて平人も信ずるは狷者なり。行篤實にして知不足なるがゆへなり。聖人中行は時に中する故に、篤實の跡もみえざる也。狂者は道を見て高明廣大なることは聖人にひとしといへども、德行の受用をせざる者也。故に其行跡あらくして凡人に似たる事あり。しかれども心に名利の欲はたえてなき也。狂者狷者ともにゆたかに凡心をはなれたる者なれば、賢人也。知行一貫ならざれば中行には不及。問、忠恕の一貫に至べき受用はいかむ。云、中心を忠とす。天理の自然なり。誠は天の道也、天下の大本也。如心を恕とす。誠を思は人の道なり。大學に絜矩の道といへる是なり、天下の達道也。天下の大本を立て、天下の達道を行ふ一貫に至べき功夫なり。或問、集註大全の說いかむ。云、道理におゐてちがひはなけれども、一貫のうはさのごとし、內に不向故に、人々の心に徹ぜず。問、勿齋の說いかむ。云、言約にして理備れり。此解に近しといへども、是も內に不向がごとし。予此解を書終て後に、集註大全を見て求仁得仁の語の同じきことをしれり。惣じて予が自得の所は古人の註解を見ず、心にまかせ書終て後にはみることもあり。氣力ともしき時は不見こともあり。古人の註解をみて書ときは、それに心うつり、文句の解となりて、內に不向が如し。此章の解も初に勿齋の說をみたらんには、心裏よりくだる筆のさはりとなるべし。

自得なく、理を以てをして解せん所は集註大全などをみるなり。自得なき解は予が解よりは古人の註まされり、故にゆづり置なり。たとひ予が自得古人に不及とも、見る人の心内に向ふときは、それより上の理は其人の見に及ぶべし。理の高明深遠はいひ易し、内にむかふことかたし。内にむかはざる者は紙上の學となれり

子ノ曰。君子ハ喩リ二於義一。小人ハ喩ル二於利一

程子のいへるごとく、ふかくさとれば篤く好むもの也。吾人志のあつからぬといふは、道におゐてふかくさとらざる故也。商人は勇なきを恥とせざる風俗なれども、利を見ては唐土天竺までもゆき、風波の難をしのぐ事武士にまされり。是利におゐてふかくさとる故に、其求る志あつし。吾人も商人の利にさときほど義理にふかくば、凡をはなれ賢となることやすかるべし。故に志は明かなるより生じ、明かなることは問學の切磋の功より生ずるなり。問學も内にむかはざれば文學ずき理學ずきなどになりて益すくなし

子ノ曰。見テハレ賢ヲ思ヒレ齊アランコトヲ焉。見テハ二不賢ヲ一而内ニ自ラ省ル也

賢者を見て好する心は則己賢となるべき師也。不賢をみて悪む心は則己過を改むべき師也。是内に向の學也。凡人は賢をみてほむれども、己賢とならんの志なし。不賢を見てにくみ笑へども、己が不賢を恥るこゝろなし

子ノ曰。事テハ二父母ニ一幾諫ス。見テハ二志ノ不ルヲ一レ從ハ。又敬シテ不レ違ハ。勞スモ而不レ怨ミ

解集註にみえたり。爭子爭臣爭友爭兄弟皆大切の事也。其本心の性命をみちびきて後來の習俗情欲の迷ひにしたがはざるは諫爭の本也

子ノ曰。父母在スハ不ニ遠ク遊一バ。遊ブコト必ズ有レリ方

解集註に見えたり。方は義方か、もし遠遊ことあるは必義ありて也。近所の遊にも必方角をいひ出る事其中にあり

子ノ曰。三年無レ改ルコト於父ノ之道一ヲ可レシ謂ツ孝ト矣

解胡氏の説にみえたり

子ノ曰。父母ノ之年ハ不レ可ラ不ンバアル知ラ也。一ビハ則以テ喜ビ。一ビハ則以テ懼ル

解集註にみえたり

子ノ曰。古ヘノ者言ノ之不ルハ出サ。恥ニテナリ躬ノ之不ルコトヲ逮バ也

いふ事の不行は誠をけがすに似たり、故に古人はいまだ行ひ得ざる事は知たりといはず。言は過やすく、行はつねに不ル足ことを思ひて、言は行をかへりみ、行は言をかへりみる、いにしへの厚き風俗也。しることのふかく實なるは、いまだ行をみざれども賢者としり、行ふ事の明かによろしきは、いまだ言をきかざれども知者としるなり

子ノ曰。以テスレバ約ヲ失フ之ヲ者ノ鮮シ矣

万事とりひろげて事多ければ過失あり。分をはからざれば鼎足を折ことあり。事つゞまやかにして無事なるは知者の行也。民を勞せず、農の力をうばはず、人の精神も身中に約して外物にひかれざるときはあやまちすくなし

子曰。君子欲訥於言。而敏於行

誠を立るの功夫己がためにするの實學なり

子曰。德不孤。必有鄰

德は有德の人なり。有德は其類ともしからず。其時代にしられざれども、後世必其德をしたひて興起する者あり。善を好むは人性の常也。故に孤立してむなしからず。たとひ時の權勢の人、有德をきらひて退け絕んとすれども、後世の人をたつことあたはず、天をたゝむとするがごとし。孝子ともしからずといへり

子游曰。事君數。斯辱矣。朋友數。斯疏矣

解集註にみえたり

公冶長第五

子謂公冶長。可妻也。雖在縲絏之中。非其罪也。以其子妻之

解集註にみえたり。又大全につまびらか也。或說に、公冶長、鳥聲に通ず、鳥の鳴を聞て死人　在所をしれり。公

冶長これを殺せるかとうたがひて獄中に入られたり。又雀の聲を聞て、車のくつがへり、粟のこぼれたる所をしれり。是によりて疑とけて獄を出たりといへり。其身罪なしといへども、無道の代に言を不ㇾ愼は過なり。次の章に南容の無道の時にも、刑にまぬかれぬべき人がらをのたまへり。南容はよく言をつゝしめり。公冶長は鳥聲のことなくとも、いかさまに言を不愼の過より禍をまねきたるか、道なき世に才ある人の第一に愼べきこと也

子謂フ二南容ヲ一。邦有ラバレ道不レ廢ラレ。邦無クバレ道免レン二於刑戮ニ一。以テ二其ノ兄ノ之子ヲ一妻スレ之ニ

解集註にみえたり。程子の説尤よし。三復白圭の事は先進の篇に見えたり。夫婦の道は風儀の合と不合とあり。又生付の同じやうにてよきあり、あしきあり、かはりてよきあり、あしきあり。貧賤の家に生れても富貴の人に叶べき者あり。富貴の家に生れても上らふしき心なくて賤しき者あり。故にいにしへは家の貧富にかゝはらず、夫婦となしてよき所を考たり。南容と公冶長と孔子の見合給ふ所あるべし。夫婦は人倫の始、家道の本なるに、家の貧富外見のみをいひて、人がらの實をはからず、甚しきはかざり僞りをいひて、災を嫁して人の家業をさまたげ、貞女を婬夫に合て、人情をやぶるたぐひ多し。道の行はれざるゆへなり

子謂フ二子賤ヲ一。君子ナルカナ哉若ノ如キ人ト。魯ニ無クバ二君子一者。斯レ焉ゾ取ランレ斯ヲ

大全に說苑の說を記せり。子賤父としつかふる人二人、兄としつかふる人五人、友とし交る者十一人ありといへり。年老て見識あり、功德ある人をば尊敬する事父のごとし。年長じて一能一藝にても己にまさる人をば先ずること兄のごとし。志道藝にありて日をむなしくせず。必直諫すべき人をば親く交りてたがひの勢を忘るゝを友とし交ると

云也。子賤單父の奉行職となりて、其所の賢才にたかぶらず、能くだりて愛敬す。これ子賤の君子たる所也。故に人民其誠に感じて欺くに不忍といへり。ことに魯國は孔子の生國なる故に、賢者おほし。子賤其一人也。今も志あつき同志の五七人どもありて、切々交りぬれば、互のたすけにて、いづれも上達の功あるが如し

子貢問テ曰。賜ヤ也何如ン。子ノ曰。女ハ器ナリ也。曰イ。何ノ器ゾ也。曰ノ瑚璉ナリ也

解集註にみえたり。才能藝術は器也。美質本才の人といへども徳を知て後不器の君子なり。有徳の人上に立ときは才能藝術の人みな道徳の助となれり。此問は子貢の初學なるべし。しかれども有道の代には用らるべき才器あり。子賤は孔子よりわかきこと四十九歳也。此時二十歳餘といへるは文字のあやまりか。子貢の後年は子賤の下に立べき人にあらず。此時はいまだ徳に入ざる故に、器たることをまぬかれざるなり

或ノ曰イ。雍ヤ也仁ニシテ而不ズレ佞ナラ

仲弓の人がら、重厚にして、言葉すくなく、行無事也。徳行の科にして、仁者の名あり。しかれども其時にあはざる人なれば、或人おしみて不佞といへり。佞は今時いへる佞人とは心かはれり。左傳にも我身を卑下して、寡人不佞といひたれば、佞を以て才としたるなり。當時ものいひ、らちあけなどいへるたぐひなり

子ノ曰。焉ンゾ用レン佞ヲ。禦ルニレ人ニ以ニ口給ヲ一。屢々憎ルニ於人ニ一。不レ知ニ其仁ヲ一。焉ゾ用レン佞ヲ

佞人は世俗のためにほめらるゝといへども、口才にて實義すくなければ、正人にはにくまるゝ也。故に仲弓仁者た

ることをば不知とも、名利を求て時の人にほめらるゝ事は有べからず、とのたまへり。仁は万善備れる名なれば、耳目口鼻手足全く、喜怒哀懼愛惡欲の七情、時にあたり、仁義禮知信の性理明かなるを人と云なり。故に仁は人也、といへり。万善の淵源は天理流行しばらくもやまざるなり。五常の性則天理也。七情性に化して形をふむ者を仁者といふなり

子使ノ漆雕開ヲ仕ヘ。對テ曰。吾斯ヲ之未ダ能ハ信ズルコト。子說ブ

孔子のつかへしめんとのたまふは必人を治べき德あらん。しかるにみづからたれりとせざるは進修かぎりなし。孔子の悦び給ふ處なり。開すでに大意を見る見識高大也、といへり。狂者は國天下をだに事とせず、況や一鄕一郡をや。しかれども氣質篤實の人、仁愛ある人の狂見なるは、狂者の躰みえざる者あり。開は其類ならむか。仁愛の心より民をあはれむ情あれば强られては仕ることも有べきか、曾點などはしゐても仕ふべからず。天資高く見所大にして受用を事とせず、故に名利の凡情なしといへども、過て狂妄の行跡あり。開は大意を見る事點に同じといへども、氣質篤實なる故に、狂妄の行はみえざるなるべし

子ノ曰。道不行ハレ。乘テ桴ニ浮バン于海ニ。從ハン我ニ者ハ其由カ與。子路聞テ之ヲ喜ブ。子ノ曰。由ヤ也好ムコト勇ヲ過タリ我ニ。無シ所取ル材ヲ

中國にをいて道不行、聖人の出世用なきがごとし。いかだに乘て大海に浮み、いかだとけて入水するか、夷狄に吹

をくらるゝかなるべしと也。夷狄は禮儀を不知といへども律儀なる所あり。もし聖人住給はゞ、尊信して德に化し、禮儀も時ありておこるべし。此語夫子の假說といへども又此理あり。子路流離困苦の患難をかへりみず、夫子の己をゆるし給ふことを悦べり。勇に過たりといへども、信あつし。しかれども何故と問ずして、すみやかにしたがはんことをよろこべるは、思ひはかりなくて受用あらきことを戒めたまへり

孟武伯問フ。子路仁ナリヤ乎。子ノ曰。不レ知也

子路は親につかへて孝也。過を聞ことを悦び、改るにやぶさかならず、皆仁を求るの重き事也。故に仁なりやととへるなるべし。夫子、仁ならずとのたまふべからず、いまだ仁の全躰に至らざれば、かりそめの問に答へがたし。故に不知とのたまへり

又問フ。子ノ曰。由ヤ也千乘ノ之國。可レシ使レム治ニメ其ノ賦一ヲ也。不レ知ニ其ノ仁一ヲ也

千乘の人數凡七万五千餘也。雜車共には十万餘也。其兵を治る才あれば十万の大將の器量也。なを集註にみえたり

求ヤ也何如ン。子ノ曰。求ヤ也千室ノ之邑。百乘ノ之家。可レ使レム爲ニラ之カ宰一也。不レ知ニ其ノ仁一ヲ也

解集註にみえたり。子路に比すれば十分一の才力也。しかれども子路には大將の量ありて、冉求には治世の才有

赤ヤ也何如ン。子ノ曰。赤ヤ也束帶ノ立ニテ於朝一ニ。可レシ使下與ニ賓客一言上也。不レ知ニ其仁一ヲ也

是も治世の才也。三人ともに文武の道を知といへども、文武の徳にいたらざれば、ふたつながら全きことあたはず、いまだ器たることをまぬかれず

子謂テ二子貢ニ一曰ノ。女チト與レ回也孰カ愈ル。對テ曰。賜ャ也何ゾ敢テ望マンレ回ヲ。回ャ也聞テレ一ヲ以知ルレ十ヲ。賜ャ也聞テレ一ヲ以テ知ルレ二ヲ

子貢の學いまだ年久しからざる時の事なるべし。顔子を知こと徳にあらずして、才にあり。彼を聞て此を知は子貢の才質也。始によりて終に達するは顔子の聰明也。高下淺深各別なりといへども、顔子の心とする處にあらず。顔子の大賢たる所もこゝにあらず

子ノ曰。弗レ如也。吾レ與ス二女弗ルヿヲ一レ如カ也

聖學は徳を尊で才を不尊、氣質によらずして學による者也。子貢のみる所未なりといへども、しばらく自己を知ことをゆるし給へり。人の憂は己が短きを不知して、人の長をそねむにあり。人々己が愚を知て人にくだらば、善人の徒也。子貢の後年、才知を事とせずといへども、明悟も又聞テレ一知ルレ十ヲに及べし

宰予晝寢タリ。子ノ曰。朽ダル木ヲバ不レ可レ雕ル也。糞土ノ之牆ヲバ不レ可レ杇ニス也。於レ予與何ゾ誅メン

晝はつとめ夜は休す、陰陽晝夜の常度也。志惰り氣隨て昏き時は、晝といへども寢る者あり。宰予、孔子の見給はん所にて晝いねせられたるは此過なるべし。これを以て人は一向晝いねすべからずといへるはかたむき也。動靜數

あり、用事にて夜の休息たらざる時は昼いねすることも有べし。昼夜のつとめしげき者は、昼夜となく事のひまにいねて休息せずしてもかなはず。又氣躰つかれたる者は、いねざれども、おり／＼まろびても、つかれを養ふべし。志だに懈らずば、其程は我心にてはかるべし。荷をになひて遠く行者の云、大くたびれせざるさきにやすみたるよし、休み過れば却て草臥生ず、といへり。此心持常にあり。やむことを不得して昼休すれども、やすみ過れば怠惰の氣生ずるものなり

子ノ曰。始メ吾レ於レル人ニ也。聽テ二其ノ言ヲ一。而信ス二其ノ行ヲ一。今吾レ於レル人ニ也。聽テ二其ノ言ヲ一。而觀ル二其ノ行ヲ一。於テレ予ニ與レ改ムレ之ヲ

解集註にみえたり

子ノ曰。吾レ未ダレ見二剛者ヲ一。或人對テ曰。申棖アリ。子ノ曰。棖ヤ也慾アリ。焉ゾ得ンレ剛ヲ

よく物に勝を剛といへり。物に勝と云は血氣の勝にあらず、心ゆたかにして常に万物の上に伸て物のためにおほはれざる也。是孔子のたまふ剛者也。或人これを不知、幸に門人に申棖ありといへり。血氣つよくして剛なる者なるべし。世俗のいへる剛也。孔子の慾ありとのたまふは多欲の人にはあらじ、いまだ凡情の欲をまぬかれざる人なるべし。むかしは龍師あり。龍をひきよせて使たり。これ龍の欲を知てみちびきたる者也。神龍あり、無欲ならば使べきたよりなからん。眞の剛は知仁勇の德ありて、無欲なる人也。知十分明かならざればまどふ事あり。まどへ

ば恐る、所あり。仁盡さざれば好惡する所あり。好で得ざれば屈す、惡で去ざれば恐る、共に欲也。故に知者はまどはず、仁者はうれへず、勇者はをそれず。知仁勇は明徳中の條理也。明徳を明かにするときは、知仁勇共にあり。申棖の剛は氣質に得たり。明にして得たる者にあらず。故にかぬる事あたはずして慾あり。慾は万物の下に屈す。世俗武を好む者の剛にして君子の剛にあらず。孔子の不見とのたまふは君子の剛なり

子貢曰。我不欲人之加諸我也。吾亦欲無加諸人。子曰。賜也非爾所及也

解集註にみえたり

子貢曰。夫子之文章可得而聞也。夫子之言性與天道。不可得而聞也

文章は詩書六藝威儀文辭の類也。夫子の威儀文辭は性の發見也。性與天道にも又文章あり。いにしへの學は詩書六藝にすぎず。學所は同して得る所異なり。のたまふことは同じけれども、聞得る人に淺深高下あり。多は文章のみ聞て、性命に及はずとなり

子路有聞。未之能行。唯恐有聞

後世は心に用ひ身に行の學すくなし。耳に聞て口に說のみなるを、口耳の學と云也。是を人の爲にするの學ともいへり。しかれども先聞置たき意あり。子路のごときは己が爲にするの實學也。しかれどもこれを以て聖學の至

極とはいひがたし。高明をきはめ廣大に至ることは問學によるべし。德性を尊ぶを以て實學とするなり

子貢問テ曰。孔文子何ヲ以カ謂フ二之ヲ文一ト也。子ノ曰。敏ニシテ而好ミレ學ヲ。不レ恥二下問一ヲ。是ヲ以テ謂フ二之ヲ文一ト也

凡人の少し才ありて威勢を得る者は私なる事をするもの也。孔文子が太叔疾を進退せしことは平人にもをとれり。しかるに文子とをくりなせしことを子貢のうたがへる也。孔子も太叔疾がことを文子がいひしには返答もなくて去給へり。しかれども其身の生付に、きとくなること二あり、少し才ある者は文學を不好、位ある者は下問を恥るものなるに、文子は學を好み、下問を不恥。此二善を以て文と謚せし也。太叔疾が事などは問學の益はなし。二善を亡す私あれば、學校の政ある世ならば、文とはいふべからず。孔子の時代には上に善教なき故に、少天資のよき者も、私欲におほはれてかくのごとし。有道の代ならば、文子も其質のよき所のみあらはれて、私欲のふるまひは有べからず。孔子の寛仁、しばらく其善のみのたまひて、惡をばあげ給はず。事は集註大全にみえたり

子謂フ二子產一ヲ。有リ二君子ノ之道四一焉。其ノ行フレ己ヲ也恭シ。其ノ事ルレ上ニ也敬アリ。其ノ養コトレ民ヲ也惠アリ。其ノ使フレ民ヲ也義アリ

子產は善人也。凡を出て常人にあらず。君子共有德ともいふべし。文武共に兼たる人也。しかれども聖人の心法、中庸精微の學は受用せざる人也。迹をふまず、室に不入の善人也。此四は君子の道の大なる者なり。小善は限りあ

るべからず。聖學の心法を受用する盛徳の君子にも不恥ほどの大行四あり、とのたまへる意也。行コトレ己ヲ恭は子産は善人なれば慾なし。慾なき者は其心万物の上にのびてゆたか也。又勝心慢心なし。この故にゆたかなれども不驕、其心高く其心躰ゆるやかにして虚中に天下の益を來し、人を先にし己を後にし、多をあたへ少をとり、よく謙(ヘリクダ)り遜りて、己をすてゝ人にしたがふ、故に禮容うや〳〵しき也。事ルレ上ニ敬は、凡人は威勢ある君をば恐れ、威勢なき君をばかろしむ、共に敬なし。其心に君なきがごとし。子産は、威あるにも威なきにも、臣たるの敬を失はざる也。其養コトレ民ヲ惠アルは民の父母たる仁心ある也。一家の長は必子孫を惠養す、天下の君は必兆民を惠養すといへり。子産一國を治て國民を惠養せし也。凡人は養ふといへども、或は名により、利によりてのめぐみ也、心に民を養ふの惠はなし。如此すれば我身のためによきと思ふばかり也。使コトレ民ヲ義アリは勞すべき事をえらんで勞す、私欲のためにつかはざるなり

子ノ曰。晏平仲善ク與レ人交ル。久メ而敬ス之

人は禮を以て天地とならび立者也、しばらくもはなるべからず。朋友禮を以て交るときは其親み久し。夫婦は人倫の至和也、いたりて心安きものなれども賓主のごとくなるをよしとす。夫婦の和をとぐるも禮なり、故に君子は淡以て成、小人は甘以てやぶるといへり。晏平仲此一端を得たり。世間の人を見るに他の事は凡人と同じけれども、一事は君子に似たる者あり

子ノ曰。臧文仲居レ蔡ヲ。山レ節ニ藻レ梲ニ。何如ゾ其レ知アラン也

世俗は事の邪正をわきまえず、人の不レ知ことをしり、人のせざる事をする者あれば、物しりとし、知とするあやまりあり。〇〇〇などは理にくらき不知なる人なれども、世にめづらしく、人のくはしく不知事を大にとりあつかはれし故に、聖人のやうにいひたり。臧文仲も其類にて、世俗知者といひたる人とみえたり。民をまどはす者なれば、知にはあらで愚なることをあかし給へり。解集註にみえたり

子張問テ曰。令尹子文三ビ仕テ爲ニ令尹一無ニ喜ベル色一。三ビ已レ之無ニ慍ル色一。舊キ令尹ノ之政ハ。必ズ以テ告グニ新キ令尹ニ一。何如。子ノ曰。忠アリ矣。曰。仁アリヤ矣乎。曰。未ダ知ラ焉ゾ得ン仁ヲ

此章集註備れり

崔子弑ス齊ノ君ヲ一。陳文子有リ馬十乘一。棄テヽ而違ル之ヲ。至テ於他邦ニ一。則チ曰ク。猶ヲ吾ガ大夫崔子ガ也。違ル之。之テ一邦ニ一。則チ又曰。猶ヲ吾ガ大夫崔子ガ也。違ル之。何如ン。子ノ曰。淸シ矣。曰。仁アリヤ矣乎。曰。未ダ知ラ焉ゾ得ン仁ヲ

解集註にみえたり

季文子三ビ思テ而後チ行フ。子聞テ之ヲ曰。再ビ斯レ可ナリ矣

何事も三度づゝ思案してなすは、今時念の入たるといふがごとし。一向分別なくて行ふ者にはまされり。しかれど

六六

も三度とかぎるはよからず。孔子の二度とのたまふも三度するを必よしとし給ふにはあらず、念の入過てあしきことをのたまへる也。今時も念入過てあしき事あり。又孔子の再とのたまふは、道理に考ても叶へり。事ある時、一度は事の是非義不義を思慮すべし。道理のきはまるまでは幾度と云かぎりは有べからず、十思なりとも是を一度といふべし。道理すでに定りて是を行ふべき様子を考べし。是又一度なり。如此なれば再ともいふべし。季子が文人らは平人とみえたり。たゞ三思の事ばかりのたまふなり

子ノ曰。甯武子。邦有ルトキハレ道則知ナリ。邦無キトキハレ道則愚ナリ。其ノ知ニハ可シレ及ブ也。其ノ愚ニハ不レ可レ及ブ也

國道ある時は、徳なくとも才能あらば、政にしたがふべし、國道なき時は、才能却て身の害となる者あり。愚になりて災害をまぬがるゝ事は徳に近し。故に國道ある時の知に及者は多けれども、國道なき時の愚には及者すくなし。これ武子の事のみならず、惣じて古今の考也。及べし、及べからざるは、世間の人也。事は集註大全にみえたり

子在シテレ陳ニ曰。歸ランヤ與歸ランヤ與。吾ガ黨ノ之小子狂簡ナリ。斐然トシテ成スレ章ヲ。不レ知レ所三以ヲ裁スル一レ之ヲ也

孔子の時、天運否塞して明君おこらず、禮樂すたれて道の行はれざることはすでに知給へり。しかれども聖人の至仁、人民を見給ふこと慈父の子にをけるが如し。子の病死病とみれども、藥をやめて守り居ことあたはざるがごと

し。故に四方を周流し給へども、終にかなはざるが故に此歎あり。四方の英才も又生國の賢士にしかず。狂簡は志高大にして細行をかへりみず、事に略して無事に過たる者也。しかれども凡心なければ功利の心なきのみならず、便利の欲もなき故に、農業等の家職をばよくつとむる者也。後世の狂といふ者は、凡情ある故に、便利の欲より事をいとひて、遊民となる者おほし。異學の狂は、心にひとつの迷ひあり。儒學して狂を悦ぶ者は、放埓(ハウラツ)の習より狂をかりて我まゝ也。共にいにしへの狂にあらず。こゝに狂のみのたまふ者は、狷者は狂者の次なれば其中にあり。平人よりみては、狷者は狂者にはるかにまされり、聖賢にもまさりてよくみゆるもの也。聖人中行はよく人と友たり、知明かにて時に中する故に、其跡渾して夏山のごとし、常盤(トキハ)木夏木共に青葉とみゆるばかり也。狷者は篤く行て時に中するの知少し不足也、故に平人友としがたし、かくれなく賢人とみゆるなり。諸侯卿大夫士庶人いづれになしても好人也。天下の主宰相職には十分ならず、知不足なれば也。狂者は受用をせざるゆへに、行跡はあらき事あれども、知に不足なし。大君としてはよく人をしり、時處位にくらからず。大君の第一のたからは知也。知におほふ所ありては天下に及て可にあたらざる事あれば、人民信じ難し。故に聖人は知十分明かなれ共いまだ不足とし給ひて、天子といへども上に師を置、左右に諫臣を置て、其明を繼明かにし給へるは☲(離)卦の象なり。帝堯は謗木を立て政をそしる言を聞給へり。末々のそしりには無理成事もあり、病人に禁物をいみとゞむるを立服するやうなる心得ちがへあり。しかれ共良藥しるしなき病人禁物を食して快氣したる者あり。道理の常にはあらざれども時の變通也。そのごとく無理の謗(ソシリ)もきこしめばせ益あり。其上聖言の明を繼て治る人にあやまりも有べし、故に聖人の天下に君

たる師保諫儀の官あり。天下の善言を取用ひたまふのみならず、謗をもいみ給はず。是皆明をかさねて照さずといふことなきの政也。孔子時を得給はで、道を後世に傳へ給ふにも、明をつがずしては万歳に及がたし。これ狂を思ひ給ふ所なり。其上道學に固滯の大病あり。欣眞落法と云。狂簡は教學の禁物のごとし。しかれども此固滯をやぶることは禮法の良藥にて及がたし。そのかみに琴張曾晳牧皮の諸狂なかりせば、誰か此固滯を解散して、禮樂の良藥を受しむべきや。孔子のこれを裁し給ふこと中正に歸せしめんとにはあらず。中行となるべからざることは知給へり。其高明廣大の大意をゆるして、大道の地に落べき所を助けしめ給はんと也。點にゆるすの言なかりせば、狂妄の人と成て知人なかるべし

子ノ曰ノ。伯夷叔齊ハ不ㇾ念ニ舊惡ヲ。怨ミ是ヲ用テ希ナリ

人の惡あるは、身のあかづきけがれたるがごとし、本人性のなき所也。故に聖賢は其人を愛して其惡をにくめり。或は敎へ、或は戒めて惡を去しめんとす。其人悔さとりて、惡を改め善にうつるときは、本の愛すべき人なり。故に舊惡のとがめなし。もし舊惡を思はゞ、淸者の量にあらず。又怨はくゆる心もあり。其時はみづからの舊惡を思はざる也。已前に過あり、すでにあしきと知て悔さとれり。是にてすみたるに、くりかへし悔歎は却て病あり。其過のあしき事はしれども、其時の心の位同前也。又も其境あらばふと出べき根あり。故に忘るゝことあたはずして苦身になる也。重てさやうの境界に出合ても、すきときざしなき程いさぎよくかはりたる心地なれば、悔る意思はなきもの也。悔るは淸者の心にあらず。故に伯夷はなき也

子ノ曰。孰カ謂フ微生高ヲ直ナリト。或人乞フ醯ヲ焉。乞フ二諸其ノ鄰ニ一而與レフ之

此章の義、集註大全の旨得がたし。人の醯をもらひにをこせたるは、親き中か、急用なるべし。無といひてかへし、又他にゆかしめんことは、僕勞し時うつりて事の用にあひがたかるべし。其情を察して鄰家に求て用に立事、懇志の情なるべし。世間に微生高を直といひしはいにしへの愚ヤ也直ナリの名ならんか。直に過て愛敬の情うすき者と聞給ひしが、さはなきとほめ給ひたる語なるべし。今も世間に直といはるゝ者は、多は生付のまゝにて學なく、もぎだうに愛敬すくなき者なり

子ノ曰。巧ニシレ言ヲ令レシ色ヲ足レスハ恭シキヲ。左丘明恥レヅ之ヲ。丘モ亦恥レヅ之ヲ。匿レシテ怨ヲ而友トスルハ二其ノ人ヲ一。左丘明恥レヂ之ヲ。丘モ亦恥レヅ之

富貴の人の心に叶はんとて、我心にも思はぬ事をたくみにいひ、其氣にいらんとて、おかしからぬ事をもわらひ、甚くだり過てうやまふは、俗にいへる輕薄者也。利を求る心よりおこりて實なし、さやうの者大かたは凡人の氣に入もの也。商人の利のために虛をいふだに、合點のよき者は虛なくて利は有もの也、といへり。況や士たる者の如此風俗は牆をうがつ盜よりもをとりたる事と古人もいへり。其心には貴人をものせておごらすると思ひ、かへりてもてあそぶことをしらず。しかれば貴人をもそこなひ、みづからの性をも亡すもの也。如此事を左丘明をひきて、孔子も恥とのたまふは、くだりて敎給ふ也。匿レ怨は心にはきこえぬ者と思ひながら、うはべは何氣なく友とし交

るは、朋友の信に非ず。しかれ共度々覿面に人のあしき事を云もよからず、却て人情にあらず。いはずして心に怨をたくはへざる道なり。過をみて仁不仁を知ことなれば、其人の心の位ほどの、とがあやまちは有もの也。世に道の行はれず、教のなき中なれば、よぎなきことはりを知べし。其上物を以て物をみる時は、此人は如此人とみてにくみはなき也。己を以て人をみる故に、とがむまじき事をもとがめ、にくむまじき人をもにくむ者也。是は己が過也。又人を愛する實だにあれば、いひやうと時節とにて、人も得心することあり。これを忠告て善みちびくと云也。かやうの事にも禮樂はなれず。詩はうらみつべしといへり。哥も又同じ。いにしへはうらむる事あれば詩につくり、うたひて人を感じ、又書てもをくりたり。詩哥によりてうらみをいへばかへりて和となりしたしむ者也。是詩哥の徳也。末の世の風俗はいやしくなりて、かやうの實たえ、詩哥も虚文となれり。故に君子は言にいひても、いはでも心にふづくみたくはへて、うはべを結構にし交る事はなきなり

顔淵季路侍ル。子ノ曰。盍ゾ各々言ハ二爾ガ志一ヲ

六藝の稽古もなき日也。各とふべき事もなく、のたまふべき事もなければ、各常に受用して自得し度思ふ事有べし、いひてきかせよとのたまふ意なるべし

子路ノ曰。願クバ車馬衣輕裘。與ト二朋友一共ニシ敝ルモ之ヲ而無ラン レ憾ムルコト

朋友に我かけかへもなき物をかして、そこなひやぶられたる時、言にはくるしからずといへども、我が着し我のりてそこなひたるやうには思はれず、恨る意思也。みづからやぶりたるやうに思ひ度と也。仁の受用也

顔淵ノ曰。願クバ無ク㆑伐ルヿ㆑善ニ。無ラン㆑施ヿ㆑勞ヲ

善にほこるは善を有する也。子路のいへるごとき朋友と共にして物をへだてなき事は、顔子はとくよりの事なり。しかれども人のそこなひたるも、我そこなひたるごとく何とも思はぬとおもふ意思少殘るは、善に伐る氣味也。三月の字ある所也。此氣味もなきやうにとの願ひなり。凡人の善をなして自滿しいふがごとき類にはあらず。凡人はあたら善をなして自滿し驕れば、人ににくゝ思はれて其善なきがごとし。是を其善を有すれば其善を失ふと云也。勞は君のためにも、人のためにも事に苦勞して功あるなり。施は君には忠をいひ、人には恩にきする類也。是もほこり有する氣味也。功勞を心に有せず、口にいはざれば則己が心の德と成て、善人となるのみならず、君も人も感心して令名あらはれ、報禮重きもの也。たとひ君臣ともに不知して令名報禮なきとても、己が明德をみがく受用となるは大なる自得也。則顔子の願へる心法也

子路ノ曰。願クバ聞ンヿ子之ノ志ヲ。子ノ曰。老者ヲバ安ジ㆑之ヲ。朋友ニハ信アリ㆑之ニ。少者ヲバ懷ケン㆑之ヲ

世間に子路のごときいさぎよき人あらば、令名高かるべし。顔子の位は又はるかにこえて富士山をみるが如し。他のたぐふべきにあらず。孔子に至てはとかくいはれず、あまり大なる故にかへりて卑近なるが如し、太山高けれども平地には不及といへる者也。下學して上達す、吾を知ものは天なりの所也。道の高大はいまだ高大をきはめざる也。善をなして有せず、功ありて德とせず、大方道躰なれどもいまだ美なる所のみゆるは天の造化して跡なきには少及ばざるが如し。夫子に至て天と同躰、言語を絶する處なり。言外の意味かぎりなし

子ノ曰。已ヌルカナ矣乎。吾レ未レダ見下能ク見二テ其ノ過一ヲ而内ニ自ラ訟ル者上ヲ也

言行にあらはるゝ過は其心に出る所の根ざしあり。或は邪、或は暗、或は習の性となりたるたぐひ也。たとに言行の非を悔て本にかへりみたらざれば二度せざることかたし

子ノ曰。十室ノ之邑。必ズ有二ン忠信如レキ丘ガ者一ノ焉。不レ如二丘ガ之好一レ學也

聖人の聖人たる所は才にあらず、生徳の忠信にあり。故に生質の美なる人、忠信の德あること聖人に同じ。しかれども學を好ざる故に、みづからその天を不知して、鄉人に異ならず。質よからぬ人といへども、學をこのむときは性明かにして忠信得べし、つとめてやまざるときは聖賢の地位にもいたるべし。美質の人終に及べからず。况や忠信の人、學をこのまんをや

雍也第六

子ノ曰。雍也可レ使二ム南面一。仲弓問二フ子桑伯子一ヲ。子ノ曰。可ナリ也簡ナリ。仲弓ノ曰。居レテ敬ニ而行ヒレ簡ヲ以テ臨二ハ其ノ民一ニ不二ヤ亦タ可一ナラ乎。居レテ簡ニ而行ハレ簡ヲ。無二ンカ乃ス大簡一ナルコ乎。子ノ曰。雍ガ之言ト

然リ

集註に、仲弓の人がら寛洪簡重、人君の度ありといへり。寛なるときは衆を容ル、直をあげてまがれるをすてをき、よくまがれる者直からしむ、洪大の氣象なり。簡なる者は知明かにて要をしる、無欲にして事すくなし。政令可に當て民いとはず、無事をたのしめり。故に君位重厚なり。明王上に出たまひ、仲弓ごときの賢者をあげて百里の國を封じ給はゞ、如此の德治あるべし。子桑伯子は狂者也。孟子反琴張と友たり。其衣冠せずして處ときは人道を牛馬に同じくすることを戒め給へども、其人を論ずるときは美をあげてのたまへり。簡は易簡也。易簡の本は無欲にして物をそなへず、事すくなし。且見所明かにして心定る故に風俗の繁多にひかれず、無事を行て無爲也。しかれども廣大に居て、高明をもてあそび、精微中庸の心法を受用せざる者なれば、猖狂疎略の弊あり。故に孔子其美所のみあげて可なりとのたまへり。弊ありといへども凡人にはあらず。後世の狂といふものは氣隨我まゝにて、遊民となる者多し。凡情をまぬがれざれば饕狂也。まことの狂は農業家職をよくつとめたり。孟子反軍役をつとめて其功にほこらざりしにて知べし。仲弓の寛洪簡重なるは質の美也。よく思はざるときは狂にゆきやすき生付也。故にみづからこの弊あらんことをしれり。居敬は心法なり。是狂もよく思へば聖となるの受用也。見ざるところに戒愼し、聞ざる所に恐懼するを居敬と云也。敬は思念して一物存ずるにあらず、敬は天地人自然の理也。天地の生々してやまざるは敬也。此敬を性命として生ずる万民なれば、生としいけるもの身をつゝしまざるはなし。朝がほ夕がほなどの手を求て卷付も此理也。故に敬は聖凡ともにあらずといふことなけれども、凡人は外に向てつゝしむゆへ

に人の見聞所にのみ敬あり、君子は內に向てつゝしむもの也。內にむかふの主意立ときは、天然無心の敬存じてしばらくもやまず。是を天理流行と云。天理流行する時は人欲きよく盡、人欲なきときは物を不求、求ざれば不備して用たれり。知あきらかにて要をしれば事すくなくしてしまりあり。是易簡の善也、至德に配すべし。これを行レ簡臨ニ其ノ民ニと云なり。居レ簡ニ行レフ簡ヲは狂者精微中庸の受用なきもの也。故に大簡の弊あり

哀公問フ。弟子孰カ爲レ好レト學。孔子對テ曰ノ。有ニ顏回ト云者ノ好レム學ヲ。不レ遷レラ怒ニ。不レ貳ビセレ過ヲ。不幸短命ニノ死ス矣。今ヤ也則亡シ、未ダレ聞カニ好レム學者ヲ一也

好學は學で聖人となるの志なり。聖人の聖人たる所いかむと知て、才識分量をみるべからず。世間の人の聖人を見る所は分量の廣大にあり。是聖人の餘事なり。聖人の聖人たるところは、人欲きよくつきて、天理流行しばらくもやまざる所也。いまだ至所に至らずといへども、自己の人欲つきんと志したるは好學也。しからざれば文學藝術の事にして、聖人の好學にはあらず。不レ遷ラレ怒ニ不レ貳セレ過ヲは克己復禮の受用也。未ダレ怒ラの初、鑑空衡平の躰也、すでに怒の後、氷消霧釋のごとし。遷レ怒は私意の執滯也、貳レ過は私意の隱伏也、といへり。顏子は私意の滯なし、故に物の怒るべきに當ていかるといへどもうつらず。又私意の伏なし、故に過ては不知といふことなし。是をしればとゞめず。外過を改るに吝ならず、內不遠して復す、是を不レ留と云也。七十二賢いづれも學を不好にはあらず、たゞ顏子はその精微を得たり。其外三千の中にも成德達才の人あるべし。凡を越て善信美大の德にいたれる人多し。顏子は大人の位なり。今少存生ならば不日に化して聖人たるべし。短命の不幸なる所なり。集註程子の說大かた備れり

子華使於齊。冉子爲其母請粟。子曰。與之釜。請益。曰。與之庾。冉子與之粟五秉。子曰。赤之適齊也。乘肥馬。衣輕裘。吾聞之也。君子周急不繼富。原思爲之宰。與之粟九百。辭。子曰。毋。以與爾鄰里鄕黨乎

集註備れり

子謂仲弓曰。犂牛之子。騂且角。雖欲勿用。山川其舍諸

解 集註にみえたり。人あり其心賢ならば俗姓を問べからず。心賢ならずして才能有、其心利にさとき者は、俗姓によりて一人國家の害になる者あり。吾朝俗姓の吟味すたれてより、士の風俗いやしくなれり。仲弓のごとき賢ならば日本といふとも格によるべからず。中國にも俗姓をいひし事あれども、後世の事なり。根本には貴賤なし、皆天地を父母として氣化によりて生じたる人の後也。日本も同じといへども、地の生と神明の後との別あり。故に英才多くは神明の後に生ず。姓氏なき人に好人あるも、神明の後の姓氏を失ひたる者ありとみえたり

子曰。回也其心三月不違仁。其餘則日月至焉而已矣

心は性情をすべて靈照明覺の躰也。仁は性の元なり。天道自然の性上より靈覺して私意の間雜なきは不違仁也。

無レ意無レ必無レ固無レ我無レ適モ無レ莫モ義之與ニ比フこれ也。三月は五行の一成也。四時皆三月にしてかはれり。故に三月とのたまへるは一年中の事也。顏子は一年中仁にたがはずと也。聖人に至りては不違の二字なし、たゞ此二字ある所いまだ聖人に不レ至ところ也。こゝに至て神化の妙不日に聖人に至べきは顏子も不知ところ也。顏子の位に至ては、これより外に何事も聖人にたがふことはなき也。其餘の諸賢みな尊德性道問學の功夫淺深厚薄あり。仁の躰をもしれり。不違の受用もしれり。しかれども全くその地位に至ことは自然也。或は一月に一度、或は一日に一度其位に至ることあり、其外はつとめて行也。藝術といへども稽古の功によりて至極の位に常にいたれるは上手也。それより以下は大かた心得ながらさやうには成がたし。時々不思不知此位とおもふことあり。功をつむこと久して精義入レ神ニときは常となるが如し。箏のすがゞき、琵琶のげ〔○ばカ〕ちあたりも此位あり、學で知べし

季康子問フ。仲由ハ可ヤレ使ムレ從カレ政ニ也與。子ノ曰。由ヤ也果ナリ。於テレ從ニレ政ニ乎何カ有ン。曰ク。賜ヤ也可レ使ムレ從ハレ政ニ也與。曰ノ。賜ヤ也達ナリ。於テレ從ニレ政ニ乎何カ有ン。曰ク。求ヤ也可レ使ムレ從レ政ニ也與。曰ノ。求ヤ也藝ナリ。於テレ從レ政ニ乎何カ有ン

解集註にみえたり

季氏使ム三閔子騫ヲメ爲ラ二費ノ宰一ト。閔子騫ノ曰。善ク爲メレ我ガ辭セヨ焉。如シ有ラバ二復スルレ我ヲ者一ノ。則吾レハ

必ズ在ニン汝ノ上一リニ矣

天下道なき時は農工商の業をつとめ、貧賤を安じ、道を樂で、父母妻子を養て可也。しかれども士の田地なく、職なく、金なき者は仕て祿をうけ、一家を養ふべきよりのことなし。人は人と交るべし、禽獸木石と居べからず。無道の時とても仕へざることあたはず。故に子路冉求などの仕へられしを孔子もとゞめ給はず。閔子曾子などのつかへられざりしは、その身の道德より時處位も相應して自然と如此、吾心の誠より世界を造化し出す也。孔子の小官を不辭して仕へ給ひしは、大德の敦化、人倫の常を行ひ給へり。子路冉求などゝ似て各別なり。孟子は道尊く威高し、人も小官をあたふることあたはず、其身も居がたし、富士山をみるが如し。しかれども孔子の德の廣大に及がたし。富士高しといへども平地には及ぶべからず

伯牛有レリ疾ヒ。子問レフ之ヲ。自レ牖執ニテ其ノ手一ヲ。曰ク。亡レラン之。命ナルカナ矣夫。斯ノ人ャ也而有ニリ斯ノ疾一。斯ノ人ャ也而有ニリ斯ノ疾一也

解集註にみえたり。此章の義分明ならず、しゐて解べからず。理におゐて益なし

子ノ曰ク。賢ナルカナ哉回ャ也。一簞ノ食。一瓢ノ飲。在ニリ陋巷一ニ。人ハ不レ堪ニヘ其ノ憂一ニ。回ャ也不レ改ニメ其ノ樂一ヲ。賢ナルカナ哉回ャ也

一簞食は今貧賤の者、柳こりに食を入て、塩さいにて食するたぐひなるべし。畢竟汁なく、菜なく、一器の飯ばかりの躰也。一瓢飲は、ひさごを二つにわりて飲器としたる也。極て貧なる躰也。陋巷は、はにふの小屋、しづがふせやなどいへるたぐひの貧なる者の家の躰也。かやうの境界にては、強者はあふれ、柔者はへつらひ、たとひあふれず、へつらはずとても、貧苦に心をうつさるゝもの也。四百四病よりも貧をつらしといへるは凡情の常也。顏子はもとより道德の樂あり、貧窮の爲に其樂をうつされず。文王は羑里にとらはれ給ひてだに易傳を作り給へり。獄中國家の用なきいとまを、平人の文學所に入たるやうにおぼえ給へば也。獄に入て獄を忘るゝは、其樂を不改なり。剱や簞瓢陋巷をや。道家に道德のたのしみをいはんとて、蓬萊方丈瀛州の仙宮をまうけたり。人のうらやみしたふべき美をつくせり。佛家も又是にならひて、極樂九品の淨土をいへり。二家共に凡人のねがひしたふべきたのしみをいへば、道德の樂におゐて却にあらし。孔顏は凡人の至極にくめる貧賤困窮の所にて、道德の樂を語り給へり。二氏の樂の及ぶべからざること言外にあり。道德の樂はいひがたし、いへばかへりて弊あり。分明に淸香梅花の上にあれども、たづねて梅花にいたれば香のみるべきなし。聖賢の樂は泰然として太山のごとくなれども、耳目口說の及ところにあらず

冉求曰。非レ不レ說二子之道一。力不レ足也。子曰。力不レ足者。中道而廢。今女畫。

解集註にみえたり。道にすゝむ力は心の明より生ず。心の明は學によりて明か也。しかれども心外に向ときは、學

術一藝となりて、才能のたよりにはなれども、心の用にはならざるものおほし

子謂二子夏一曰。女爲二君子儒一。無レ爲二小人儒一

儒はむかしの官の名なり。鄕里にして人に六藝を敎る者を儒といふといへり。戰國より學校の敎すたれ、士たる者みな弓馬軍術をのみ事として、道學を不知。わづかに鄕里の儒官の風のこりて、聖人の道をいふものは儒者のみ也。これより儒を學ぶ者の稱とす。聖人の道は人道也。學は人道を學ぶなり。儒者といひて別に道者あるべきやうなし。あやまりなれども世こぞりていふことなれば、其名によりてのたまふなるべし。君子の學をせよ、小人の學をすることなかれといへる意也。君子は大躰にしたがひて心內に向の人也。小人は小躰にしたがひて心外に向者也。大躰は道德なり、小躰は形氣也。此時は子夏の初學なるべし。孔子終給ひて後、孔子とても子夏にまさる事あらじとて人尊信せしといへり。詩の大序小序は子夏の作也。後世の人の及べきにあらず

子游爲二武城宰一。子曰。女得レ人焉爾乎。曰。有二澹臺滅明者一。行不レ由レ徑。非二公事一未三嘗至二於偃之室一也

此章集註備れり。徑は小路を以てたとへとす。名利の才覺、ちかみちにこがしこき事など、すべて凡人の小知のふるまひ也。六藝の外無用の小術等も小徑の數也。滅明の常の行跡にさやうの事なしと也。公事は公用なり。公用の外に私のみまひとて奉行の家にゆかざる事は古代の式也。滅明は古禮を用て、當風にうつらざる人なり。かくのご

とくなれば、事すくなくして世間ゆるやかなり。古昔の民は日出て作き、日入て息(イコフ)といへり。禮式の外私のうごきなければ多事の勞なし、篤恭にして天下平なるの風也。子游の武城の奉行たるにてもみるべし

子ノ曰。孟之反不レ伐ラ。奔ルニ而殿タリ。將レニ入ント門ニ。策テ二其ノ馬一ヲ曰ク。非二ス敢テ後レタルニ一也。馬ノ不レ進マ也

奔は敗軍也。殿は俗にいへる軍のしんがり也。先陣一番鎗(ヤリ)は、身方我一とあらそひすゝむ時なれば、少し勇氣のある者は進み易し。殿は身方くづれて、我も／＼と退きにぐる時なれば、跡にふみとまりて、身方をたすけ、ゆる／＼と引ことはかたし。孟之反身方敗軍してにげかへりたるに、しんがりして一人跡より來りたり。諸人目をおどろかす處に、少も其功にほこらず、其善を有せず。しかのみならず、我一人高名して身方の敗走したるが咲止さに、しんがりいたしたるには非ず、馬草臥てすゝまずといへり。馬の上間(カン)にてなく、すゝまざるは實にてもあるべけれども、他人はむちうちて急べし。孟之反は狂者にて死生にとゝろなし。馬にまかせてむちうたず、門に入ときに少しうちたるなり。狂者の凡をはなれて心地の高き事、見解のみにあらざることを知べし。人皆人に上たらんと欲するの心あり。凡心の根なり。利心などはきたなき欲なれば、克は易し。勝心は樣子よきやうなる欲なれば、克さりがたし。我國の異教なれども、釋迦は人間第一の賤しき乞食と成て、人に上たらんと欲するの凡心を去しむ、まことに奇特也。今に天竺にては出家は乞食あいしらひ也といへり。之反は釋氏の旨にも叶へるか

子曰。不有祝鮀之佞。而有宋朝之美。難乎免於今之世矣

末の世の風俗祝鮀が口才ありて、よくものいひ、宋朝が美色ありて、人に愛せらるゝが如く、時の人にほめられたくおもふ也。才口は少は習べし、美色は生付也。しかれども顏色やはらかに人次第にして人の氣に合なるべし。世俗かくのごとくならざれば、今の世に立身し、災難まぬがれがたしとおもふ也。いにしへの人を用ひしは小官小役より次第に試て功を以てあげし也。後世の人を用るはほめそしりを聞て進退する故に、如此の弊ありし也。孔子かくのたまふは、今の世とても我心の誠より行ひて、必しも佞と美とをたのむべからずと也。死生命あり、富貴天にあり、才覺ばかりにても得られぬもの也。しからば誠を以てまぬかるべし

子曰。誰能出不由戸。何莫由斯道也

解集註大全にみえたり

子曰。質勝文則野。文勝質則史。文質彬彬然後君子

解集註にみえたり。史官は博識を以てその職に叶へり。忠信の德すくなくとも、文學ひろくば祿を受べし。士は文武を兼たる者也。文武に本末あり。仁義は本也、禮樂弓馬書數の藝は末也。仁義の德ありて、六藝に達せるを成人とす、則士君子なり。玉みがゝざれば器とならず、人學びざれば道をしらずといへり。質は石中の玉のごとし。文は是をみがき出す道也。しかるに玉をみがゝざる文多し。是を虛文と云、文の質に勝也。玉あれども石中にあれば

石に異ならず。是を質の文に勝といふなり。文質彬々の學を聖學と云也。聖人はみがゝざれども光明溫潤の玉あるがごとし。聖人已下は學びざれば明德明かならず、此石は玉なりといふしるしのみゆるばかりなるが如し。忠信の質ありといへども、道をしらざれば生付よき平人也。博學の人道を知たるやうにいへども、虛文にて忠信の質を亡すものは學とするにたらず

子ノ曰。人ノ之生ャ也直ナリ。罔ノ之生ャ也幸ニシテ而免レタリ

生理本直なり。直心の二字を合て德とよめり。德本明か也。くらければ直といへども天理の直にあらず。不明不直にて無事に一生を終るは、盲者の淵川にもおぼれず通りたるが如し、幸也。罔ミシ之ヲとよみても聞ゆれども、罔ノ之生と音コヱによみてよし。こゝろくらき人といふ意也。直は明直といへるこゝろもよく聞ゆるなり。直なれども不明なるをば、いにしへの民の病とし愚とす、況や後世僞て不明なるはすべきやうなし。しかれどもこれも道なく教なきゆへの習なれば、彼が罪にあらず。世間不直不明の者多ければ、天も罰すべきやうなく、人も罪すべきやうなし。故に幸にしてまぬかるゝもの多し

子ノ曰。知ルレ之ヲ者ハ。不レ如ニ好ムレ之ヲ者ニ一。好ムレ之ヲ者ハ。不レ如ニ樂ムレ之ヲ者ニ一

道德の學は初學より樂あり。知之は樂の初也、好之は樂の中比也、樂之は樂の至れる也。志道德にありて人欲にひかれざる者は君子の徒也。君子は必道德の樂あり。樂ざるは君子とするにたらず。樂はやむことなし。手の舞足の踏ことを不知、從容として道に中るは聖人なり

子ノ曰。中人以上ハ。可ニシ以テ語ルレ上ヲ也。中人以下ハ。不レ可ニ以テ語ルレ上ヲ也

語レ上の上は道德也。中人以上の人は、詩書六藝を學ぶ、中より道德を知て上天道に通ずる也。是を下學上達と云也。中人以下は善をなさしむべし、惡をなさしむべし。堯舜を君とすれば、皆善人となり、桀紂を君とすれば、多は惡人となる者也。堯舜の民とても、德化によりて不知不識善人とはなれども、一々道をしらすることはならざるもの也。此方より秘して中人以下に告ざるにはあらず、告ても道に志すことはならざる者多し。しゐてしらしめんとすれば却て害あり。敎る人の知の不足、德の至らざる故也。聖人の代に生れず、化を被らざれども、道に志し、德に入人あり、中人以上の生付也。中人以上にも品々あり。見分はよからざれども、內明かなる所ありて、道を學び、德に入べき人あり、是狂者の類也。知は少不足なれども、篤實にて、道を學び德に進む人あり、これ狷者の類也。世間にあしくならひたれば、はじめは中人以上とも見がたき人あり、しかれども堯舜をまたずして大道を知は中人以上也。上知と下愚は却てまれ也。上知は聖人也、下愚は自暴自棄也。自暴は聖人の道をそしる者也。强惡なり。自棄は聖人の道はよけれども行ことあたはずと云者也。柔惡也。其外の人は大かた中人以下の平人也。人事をつとめ、六藝を學び、五常にそむかず、多欲にひかれず、左道にまどはざるは、中人以下の善也。これ堯舜の民なり

樊遲問レフ知ヲ。子ノ曰。務ニメ民ヒトノ之義一ヲ。敬ニシテ鬼神一ヲ而遠カルレ之。可レシ謂レフ知ト矣。問レフ仁ヲ。曰。仁者ハ先ニシ難キヲ而後ニス獲ルコトヲ。可レシ謂レフ仁ト矣

天に陰陽五行ありて、天地位し、四時序をあやまらず、万物造化せらる。民は人也、古字通用す。人に夫婦あり。禮義立て和睦すれば、五倫道ありて造化を助く、是人の義をつとむる也。三極の道也。鬼神の德をしるものは敬せざることあたはず。敬すればなれちかづくべきやうなくして遠ざかる也。世俗鬼神の德を不知ゆへに、或はまどひ或は不信。まどふ者はなれ近付、不信者は敬せず、共に不知也。先レ難は私己に克て人欲を去ことを先にする也。獲ることを後にするは、天理を得て君子となるは後の事也。多は凡心有ながら君子に成たくおもへり、悟道の學のあやまり是也。天理人欲ならび不立、天理は本より人の性也。固有の本然なりといへども人欲主と成て後是を失へり。故に天理の本眞に歸らんとおもふ者は是其人欲を去也。人欲きよく盡て天理存ずるものは仁者なり

子ノ曰　知者ノ樂ハ水ナリ。仁者ノ樂ハ山ナリ。知者ハ動キ。仁者ハ靜ナリ。知者ハ樂ミ。仁者ハ壽シ

樂ムレ水ヲとよみて聞ゆれども、樂は水なりとよみたるは意味深し。知の樂は水のごとく、仁の樂は山のごとしと也。知はうごき、仁はしづか也、是も知仁の象也。知者は動て不滯、流水のごとし。樂其中にあり。仁者は無欲にして死生順逆一貫也。故に靜にして山のごとし。故にいのちながし。畢竟知者仁者二人にあらず、知仁は本心の一德なり。又生付に知者仁者あるは氣質也。日本は仁國なり。故に日本にはいのちながき人多し。仁は生理なればなり。中國は知國也。故に万事万物の始をなせり。氣質の知者仁者にも此模樣はあり。水と云、山と云、畢竟樂と云は知仁の心の象なり

子ノ曰。齊一變セバ至ニ於魯ニ。魯一變セバ至ニ於道ニ

解集註にみえたり

子ノ曰。觚不レ觚ナラ。觚ナラン哉ヤ觚ナラン哉ヤ

此章集註備れり

宰我問テ曰ク。仁者ハ雖三モ告レテ之ニ曰二フト井ニ有一レリト仁ヒト焉。其レ從レンヤ之ニ也。子ノ曰。何ンレゾ爲二其レ然一ラン也。君子ハ可レシ逝シム也。不レ可レラ陷イル也。可レシ欺ク也。不レ可レラ罔フ也

解集註にみえたり

子ノ曰。君子ハ博ク學二テ於文一ヲ。約スルニレ之ヲ以レス禮ヲ。亦可二シ以テ弗一ルレ畔カ矣夫

いにしへの文學は、詩書六藝也。今の万巻の書はなし、詩作文章の術もなし。博は是にてよしときはめず、人の師とならずして、いつまでも人にしたがひて益をとるをいふ也。同じ六藝詩書にても、自慢しとゞまらざれば、かぎりなき意味あり。しかれども藝術かぎりなき道理を専にする時は、大道に害あり。これを要するに禮を以す。禮は理也、理は万事萬物に散在す。禮と云時は人倫に重し。君子の博學は人倫を明かにせんと也、もてあそびの事にはあらず。博學却て大本にそむかざるやうにすべしと也。禮理の本に約するも、博學の文によらざれば人道美ならず。

文と禮と表裏を相成なり

子見二ル南子一ヲ。子路不レ說ビ。夫子矢テ之ヲ曰ク。予ガ所レハ否ジキ者。天厭レン之天厭レン之

解集註にみえたり

子ノ曰。中庸ノ之爲レル德也。其レ至レルカナ矣乎。民鮮レ久シ矣

解集註程子の說にみえたり

子貢ノ曰。如シ有下ラバ博ク施テ於民ニ一。而能ク濟上フレ衆ヲ何如ン。可ヤレ謂フレ仁ト乎。子ノ曰。何ゾ事トセン二於仁ヲ一。必ヤ也聖カ乎。堯舜モ其レ猶ヲ病メリレ諸

ひろく民にほどこし、衆をすくふことは、才德兼備たる聖賢の君天下を平治し、造化を助て天地と三なる人の大業也。天地の大なるも人なをうらむる所あり。形あるものはかくる所あれば、堯舜の聖德といへども此事におゐては御心に滿足し給はず、一人にても憂苦する者あらんかと思召也。これを以て仁を求るは、事業につきて求る也。吾人聖學をする人の今日の受用にあらず。仁は人欲を去、天理を存じ、順逆一致、死生不二、入として自得せずと云ことなきの道也。貴賤上下通用して及ぶべし。事業に心なし、才不才を論せず。子貢のいへるところは聖賢の大業にて德に本才を兼たる人の事也。古今得がたき人なり。孔子も才難しとのたまへる人也

夫レ仁者ハ己レ欲レメ立ント而立レツ人ヲ。己レ欲レメ達セント而達レス人ヲ

立達せんと欲すること、名利の立身にあらず、道器合一の己なり。己を成は仁也。物を成は知也。性の德也、外內を合するの道なり

能ク近ク取レル譬ヲ。可レキ謂フ二仁ノ之方一ト也ノ已ミ

近く身を修れば遠く人に及び物に及べり。其上德ある人のいふことは人よく聞もの也。一躰の天眞有先是を得て實あれば也。猶集註程子の說にみえたり

述而第七

子ノ曰。述テ而不レ作セ。信ノ而好レム古ヲ。竊ニ比ス二於我ガ老彭一ニ

古昔いまだなき事を始るは聖人神明の德也。故に作者を聖といへり。作の時に當ては天聖人を生ず。いにしへの道を傳て今に明かにし、後世に敎るを明と云。故に述者を賢といへり。跡なき事を始るは賢明の不及處あり。この故に其時には聖人出世し給ふ。心あるにあらず、自然の理也。孔子みづから述者とのたまふ事は、古を述るに似たれども、孔子の事業のごとくなるは先聖なき事也。此時に孔子出世し給はでは、古昔の聖神の道德をあらはし、心法を後世に傳ること成がたし。此後は賢者の力にも誠意正心脩身の心法を傳へ、齊家治國平天下の事業を立ることはなること也。功用におゐては大賢も聖人にかはることとなし。孔子の後聖人出世し給べきこと遠かるべき運氣ゆへ、

万歳のために天より孔子を生ず、實は作者也。或問、格物致知を不言は何ぞや。云、格致は誠意の心法也。其中にあり。老彭の事並に述作の義、集註大全にみえたり

子ノ曰。默ノ而識レリ之ヲ。學テ而不レ厭ハ。誨レテ人ニ不レ倦マ。何ッ有ルヤ於我ニ哉

默識するは知ことの深くして神に入也。神に入ときは不勉して行にあらはる、知行合一の至也。四躰不言してさとる是なり。知ことと淺ければ默識することあたはずして、言に發し易し。道に聞て途に說は德をすつるの費あり。故に君子の學は默識せんことを欲する也。學で不厭は理の不窮に至て知明かなれば也。人に敎て不倦は一躰の仁也。此二のものは默識の學より生ずる也。如此己がためにする實學、吾人の上にあるやと深く示し給ふ也。我は我等也。孔子一人の我にあらず。今俗にも人を云て我といへり。我等也、吾人と云に同じ

子ノ曰。德ノ之不ルレ脩メ。學ノ之不ルレ講ゼ。聞テレ義ヲ不レ能ハレ徙ルヿ。不善不レ能レ改ルヿ。是レ吾ガ憂ヒナリ也

德を修るは玉をみがき、刀をとぐがごとし。氣質を變化するは疵を去が如し。舊習を除くはさびをおとすが如し。溫潤の德。光をみがき出し、精神をとぎ出す事は、人欲を去て天理を存するがごとし。如此して本然の善全し。是を脩德と云也。學を講ずるは、當時講釋などするごとき事にはあらず。今の講釋も講の一端也。博學審問愼思明辨は講學の要也。義を聞てよくうつり、過を知て速に改るは修身の急務也。此四のもの聖門におゐて大躰行はれずと云ことなし、全からざるは聖學の憂也。大かた人情のかたき事なればかくのたまふなり

子ノ之燕居。申申如タリ也。夭夭如タリ也

燕居は人と對座なく、禮樂の事なく、書をも見給はず、たゞに獨座し給時也。無心自然の靜座也。後世の靜は靜に心あり、作てなす者也。しかれども心を不用にはまされり。申々は其容貌ゆるやか也。夭々は其顏色よろこべり。聖人中和の氣象也。道心の眞樂容色にあらはれたり。書しがたくいひがたし。默識心通すべし。吾人自然の靜を學びば、動靜ともに精神收斂して放心することなかれ。よく收斂して收斂を忘れたるとき舒愉の氣象あるべし

子ノ曰、甚シイカナ矣吾ガ衰タルコト也。久イカナ矣吾レ不三復タ夢ニモ見二周公ヲ一

孔子の時に道行はるゝとも、孔子を天にすゝめて天子となすべき人はなし。孔子を用て王道を行人はもし有べきか。周公は成王を助て王業を行ひ給ひし人なれば、千一用られ給はゞ、周公に近かるべし。もし我を用る者あらば東周をせんか。周道二度興るべきの志也。故にさめて周公の道を思ひ、いねて夢見給ふべし。身老衰し給ひて、道の行はれざる事、世と共に必せり。故にさめて不思、いねて不夢なり給へり。聖人には正夢ありて妄夢なし。故に聖人は寤て憂なく、寐て夢なしといへり。晝の思ひのごとく正しき夢ばかりなれば、夢なしといへり。聖人には意必固我なし。故に閒思雜慮なし。成がたき事、用にたゝぬ事は思はず。故に夢にもみざる也。凡人は意必固我あるゆへに、閒思雜慮多し。成まじき事をも思ひ、用に不立事をも思ふ。故に正躰なき事多し。凡人といへどもよく義理の通したる事は、晝も思はず夜も夢みず。士たる者盜をせざる義理は、幼少より聞習て精義入神する故に盜の思ひはなし、夢にもみず。是一つは寤て憂なく寐て夢なきの聖心に叶へり。學を好み義理を明にして、人皆聖人となるべ

き處みえたり。吾衰は身の衰のみならず、吾道の衰也。孔子の盛なりし時は、齊の景公も用ひんと欲し、魯にても一度は用ひたり。いにしへの名殘にてたのみもあり、五十年の間には世中も變ずる者なれば、老衰の時分は絕てきざしもなきやうに成たり。吾道の衰至極せり。故に後世のためにするの志のみ也。聖賢身の衰はあれども、心思の衰はなき也

子曰。志於道。據於德。依於仁。游於藝

道學に志し、天命の性を明かにし、人の人たる人たらんと欲する也。據於德は有德の人に近付を云也。師とし學ぶべき人あり、友とし交るべき人あり。道學に得たる德あり、氣質の性に得たる德あり。共に近付て益多し。依於仁は、仁は善の長にして全德の名也。人の人たる所の本然の理也。依は心の仁を本として、問學を好み、日用常行放心せざる也。游於藝は禮樂弓馬書數の文武の用を備て、德を助け道を大にする也。六藝皆天理の寓する處なれば、學で至處にいたる時は道の面影あり。故に專治て心術に交ゅる時は大道を小藝に同じくするの害あり。あそぶ心を以てこれを學び、これをなす時は大道を本として、藝によつて助くる者なり。游の字意味あり。しかればとて、心を專にして精神を不用にはあらず、游主意を立てよくするなり

子曰。自行束脩以上。吾未嘗無誨焉

解集註にみえたり

子曰。不憤不啓。不悱不發。擧一隅不以三隅反則不復也

集註備れり

子食於有喪者之側。未嘗飽也

人と一体の心自然にしてしかり、つとめてかくのごとくなるにはあらず

子於是日哭則不歌

集註備れり。いにしへの人は喪をとぶらひ、祝を賀すること、日を同じくせず、心の誠を立るもの也

子謂顏淵曰。用之則行。舍之則藏。惟我與爾有是夫

集註並に大全に見えたり。程子の說備れり。欲あれば不用にも行を求め舍れどもかくれず。遯を好む人は用れども不行。進で賢をかくさゞる人は舍れどもかくれざるあり。たゞ時と共に進退して跡なきは孔顏の行藏あり

子路曰。子行三軍則誰與

是は子路の初學の時なるべし。平日こそ用なからめ、大難に臨み給はゞ必ず我を用ひ給はんと也。勇力人に越たる人なればなり

子曰。暴虎馮河死而無悔者吾不與也。必也臨事而懼。好謀而成者也

暴虎は、兵具の用意もなく、勇力をたのみて、虎を手うちにする事也。なし得るといへども、匹夫の勇也。衆に對すべからず。其上危し。馮河は大河を渡るに舟筏うき橋などの用意なく、淺瀨を知て必ず渡しぬべき思慮もなく、無方にかちわたりする躰の事也。わたりすましても匹夫の川達なり。衆にほどこすべからず。匹夫の勇は暴虎馮河に似たる血氣の振舞をなして死すといへども不悔也。これを以て大軍の衆を下知すべからず。君子は名のなき軍はせず。名は義兵也。衆をそこなはずして、大敵をとりひしがるべし。故に事に臨て懼れ謀を好む也。先勝て後に戰者也。顏子のごとき知勇をかねたる人いよ〳〵よき也。子路のごときは其旗下に置、一手の大將にし、强敵をやぶる時の先陣に用てはよかるべし、大軍を動す謀主にはなるべからず。小事だに不謀ば成ことなし。不懼ば敗るといへり。况や大軍をや

子曰。富而可求也。雖執鞭之士吾亦爲之。如不可求從吾所好

解集註にみえたり

子之所愼齊戰疾

解集註に見えたり

子在齊聞韶三月。不知肉味。曰。不圖爲樂之至於斯也

韶は舜の樂也。舜の後を陳に封ぜられたり。故に先代の樂を傳へたり。陳の敬仲齊にゆきしより韶樂齊にのこれり。

故に齊におゐて初てこれを聞て、學び給ふ事三月にして熟せり。其間は時分に食をすゝむれば食し給ふばかりなり。肉は厚味の物なれば、是をあげて、まして其外の物は食の味の調不調精粗をも知給はざるが如し。韶音食となるの理あり、すゝめずば欲し給ふことなかるべし。韶樂の來ること遠し、如此全く傳りて聞んとは思召よらざりしと也。吾人だに樂音に深き者は、絃の聲を聞て其人がらをしり、みづからの爪音撥あたりにて心の正邪を知ことあり。況や孔聖大舜の樂音を聞給はゞ、親く虞舜の聖神に交接し給ふ心地有べし。たゞに耳これを聞給のみならじ。夫韶樂は神聖の盛德大業善盡し美盡し加る事なき者也。他の事には顏子曾子子貢の諸賢聖人に近き事おほし、樂音におゐては聖人神明の德ならでは及がたき事あり

冉有ノ曰。夫子ハ爲ケンカ二衛君ヲ一乎。子貢ノ曰イ。諾。吾將タ問ンレ之ヲ

解集註にみえたり

入テ曰イ、伯夷叔齊ハ何人ゾヤ也。曰。古ノ之賢人ナリ也。曰。怨タリ乎ヤ。曰。求テレ仁ヲ而得タリレ仁ヲ。又何ゾ怨ン。出テ曰イ。夫子ハ不ジレ爲ケ也

解集註並に大全にみえたり。伯夷は父命を重じ、叔齊は天倫を尊ぶ。二子去て國人中子を立たり。夷齊の淸紂を君とする事を安ぜず。しかれども義なくては去べからず、此義によりて君の惡をいはずして去ル。周公昌は同列の諸侯也といへども、德をしたひて歸す。西伯昌も客の禮を以て老を養ひ給へり。淸にして又勝心我心なき事みえたり。

九四

天地の性、人より尊はなし。仁は人の人たる所の全德也。五倫常あるは天下の達道也。伯夷叔齊は五倫の常を立て、死を以て其心を不變、たゞ正に心ありて死生に心なし。生死をみること晝夜のごとし、國の富貴をみる事やぶれたるわらぐつのごとし。志行はれずして餓て死す。天をもうらみず、人をもとがめず。死生貧富窮達一貫なり。其心正に安ずるのみ。故に孔子仁者を以てゆるしたまへり

子ノ曰。飯ニ疏食一飲レ水ヲ。曲レ肱ヲ而枕レ之ヲ。樂ミ亦在ニ其中一矣。不義ニシテ而富ミ且ツ貴キハ。於テレ我ニ如ニ浮メル雲一ノ

富貴も義を以て得る時は、天位天祿也。仁政を行ひ、人民を安ずるの大寶なり。不義にして得る時は、己が情欲の俗樂とするばかり也。如此者は今日ありて明日なきことをしらず。孔子より見給へば、浮雲の大空にかゝれるが如し。たゞに浮雲のみならず、災害を來す者あり。たとへ得る所不義なくても、富貴を己一人の榮華とする者は浮雲のごとくなり。いかむとなれば、富貴の天職を不修ば天命にそむく道理なれば、終に亡をいたせり。疏食飲水はきはめて貧者也。肱を枕とするは人の躰を備たるをたれりとして、外に求なき氣象なり。樂は天理の眞樂也。富貴もます事なく、貧賤も損することあたはず。富貴なれば、富貴の道を行て、樂其中にあり。貧賤なれば、貧賤の道を行て、樂其中にあり。此樂は先賢みないひがたしとす。默識自得すべし

子ノ曰。加ニ我ニ數年一ヲ。五十以テ學ビバレ易ヲ。可三以テ無ニ大ナル過一チ矣

解集註にみえたり。此章の義しばらく疑を闕て可也。或云、易書をはやく學ぶときは、見のみだるゝ事あり。先四書を能學び、五十の陰に入か、定見有て後、易を學ぶべし。たゞ大かたに道理をみるばかりは若年といふとも害あらじ。專用て心法の鑑とするには、わかき間は用捨ある事也。故に學士の大法をのたまふなるべし、といへり。天下通用してよきは、いにしへは詩書、今は四書なり

子ノ所ニハ雅ニ言フ一詩書執禮皆ナ雅ニ言フ也

解集註にみえたり

葉公問ニ孔子ヲ於子路ニ一。子路不レ對ヘ

解集註に見えたり

子ノ曰。女チ奚ゾ不レル曰ハ。其ノ爲レリ人ト也。發レシテ憤リヲ忘レ食ヲ。樂ミ以テ忘レル憂ヲ。不レ知ラ二老ノ之將ニ一レスルヲ至ラント云爾

食は人の第一に欲するもの也。これを忘るゝ時は諸欲を忘るゝことといはずして知べし。陳蔡の間にて、七日食を絶給へども、絃歌の聲やまず、弟子は病で起ことあたはず。これ食を忘れ、憂を忘るゝ證據なり。憤樂相生じて老期の來るをおもひ給はず、心氣天と流行して小躰の數盡るに心なし。維レ天ノ之命於穆トシテ不レ已マ。純モ亦不レル已マものなり。葉公に子路の答べきことをのたまふのみならず、諸子後生の學で聖人と成べき學術これに過たることなし。孔

子は好學の事をのたまへども、聖人の天と同躰なる處言外にあり

子ノ曰。我レ非ズ二生ニメ而知ルレ之ヲ者ニ一。好デレ古ヘヲ敏ニメ以テ求タルレ之ヲ者ナリ也

聖人を生知と云ものは、氣淸明に、質正直にして氣質の偏なし。習俗そむる事あたはず。天理流行して一毛の人欲なし。故に義とゝもにしたがひて、意必固我なし。其靜なるや專也、其動や直也。生ながら如此なれば自知たまはず、遠く先聖を師とし學を好で求たりと思ひ給へり。いまだなき事を始て作すべきときにあたれば、其知生ず。しからざれば其心生ぜず。いにしへにしたがひて用達する時なれば、始むべきの心生ぜず。前聖には不及とのみ思ひ給へり。謙の辭にはあらず

子ノ不ルハレ語ラ怪力亂神

凡人は怪異のあやしき事を神也と思へり、多は心眼病也。正人の前にはなき事なり、もしありとても變なれば正直の神道にはあらず。力は爭の端也、多は身を亡す不祥となれり。德行はるゝ時は、力ある者は平生常行の事に用て人を助る重寶となる也。乱は戰國兵乱の事也、五倫の乱より事おこれり。是又人倫の變也。三の者は人倫に害ありて益なし。不得已しては、書にも記し、言にも出すといへども、常の語にはあらず。凡人は常をいふ事を不欲して、怪力乱等の變をいふ事を悦ぶ者也。老者をば安じ、幼者をばなづくるの聖心の常を知者少し。神は幽深の理也、人は明白の理也。幽には鬼神あり、明には人あり。本二にあらず。故に人道をいふ時は正神の理、其中にあり。書に筆し、理をいふ時は鬼神の事をのたまへども、平生禮樂の敎の中には用なし。平生も好で神をいふは利心なり。妙奇

特をなして愚民をまどはす者は野狐性ともいへり

子ノ曰。三人行フ寸ハ必ズ有リ二我ガ師一焉。擇デ二其ノ善ナル者ヲ一而從フレ之ニ。其ノ不善ナル者ハ而改ムレ之ヲ

天下に人三人あり。善者數千人といへども、我に對する時は一人也。惡者數万人といへども、我に對して一人也。其一人は我也。善なる者をえらび、己をすてゝ人にしたがひ、不善なる者は凡情の通病、人にあれば己にもあり。故に人の不善をにくむ心を反して、己が不善を改むべし。夫善人をみて善と知心、則我身に善を行ふべき師也。惡人を見て惡と知心、則我身の惡をあらため去べき師なり。師外にあらず、我心にあり。人に有だに如此、況や我に有の善惡は、念慮の微といへども、一念のきざしにをいて是を知の神明あり。不遠して復する時は、身の罪過とならず。是心法の始也

子ノ曰。天生ゼリ二德ヲ於予ニ一。桓魋其レ如レ予ヲ何ン

孔子宋の國にゆきて、大樹の下にて門人と禮を習禮したまふ時、宋の司馬向魋其木をきり、孔子を害せんとす。微服して去たまふ。弟子速に行給ふべしといひける時、如此のたまふ也。桓魋などに害せらるゝ我なれば、天より此德をば生ぜざる也。この德を生ずるは天下後世のためなれば、其功不終して死すべきにあらず、と理を以てのたまふ也。ゆる〱と去給は、天をたのしみ命を知處也。微服して過給ふは、難をさくるの道也。其時桓司馬が威勢にて、孔子を害せんことは甚易し。しかれども無事に去給ふは命也。志確く、見定り、斷然として理を以て自信ず、絕て疑忌顧慮の意なしといへり

子ノ曰。二三子以テ我ヲ爲ルカ隱スト乎。吾レ無シ隱スコト乎爾ニ。吾レ無キ行トメ而不ル與ニセ二三子ニ者ハ是レ丘ナリ也

解集註大全にみえたり。戰國の時分なれば、大道すたれて藝術の敎など秘密の事ありたるとみえたり。それに習て孔子の道にも奥端あるかと疑ふ者ありたる躰也。大道に何の秘密あるべきや、たゞ學力に淺深あるのみなり。いにしへの藝術は皆道あり、故にいたることはやし。秘密と云事はじまりて、其道を失ひ、古人の苦心を亡し、世の藝能つたなく成たり。惜むべし

子以テ四ヲ敎ユ。文行忠信

いにしへの文と云は、詩書六藝講學窮理也。行は五典十義也。忠信は心法也。誠は天の道也。誠を思ふは人の道なり。吾人至誠無息の中より生ず、故ニ誠は本心也。しかれども聖人以下の者は氣質の偏におほはれ、習俗にそめられ、人欲にへだてられて、有がごとく無がごとし。眞實に誠を思て本然に合同せんと欲する者は、言必忠あり。行必信あり。文學を以て知識を高明にし、五典十義を以て德行を實にす。みな忠信を主とするの學なり

子ノ曰。聖人ハ吾レ不得テ而見ルヿヲ之ヲ矣。得バ見ルヿヲ君子者ヲ斯レ可ナリ矣

集註に聖人は神明不測の号也、君子は才德衆に出るの名也といへるはきこえたり。細註に德あれども才なきは君子とするにたらず、といへるは心得がたし。君子の君子たる所は德にありて、才にはなきなり。已に才なければ人の

才を用て用をなす者也。その心天理に住して、人欲のためにわづらはされざるを君子と云也。君と大臣とは、たとひ才ありてもかくして不用をよしとす。故に大學にも斷々として他技なしといへり。大君は知を紀綱の根本とすれども、くらまして先達し給はざるは、天下の知能を盡さしめ、天下の賢才を用ひんがためなり。故に君子の君子たる所は尊德にあり。德あれば德に付たる才あり。よく人を用ることれなり

子ノ曰。善人ハ吾レ不ニ得テ而見一レ之ヲ矣。得レバ見ニヿヲ有レル恒者一ヲ斯レ可ナリ矣

子曰の二字衍文とみえたり。善人は心にあしき思ひなく、身にあしき行なく、すべて心身ともに惡にはゆかざる人也。問學有て、道德仁義もしれり、しかれども聖學の心法は不知者也。氣質衆にすぐれてよき故に、氣質よからぬ人の聖學を受用するよりは、受用せざる善人ははるかにまされり。故にいよ〳〵心法にはおもむかず、精微中庸の室には不入して終る人也。子產淵明など善人とみえたり。有恒者は堅く正道を守りて不變人なり。心の快活は善人に及ばざれども、平人よりみては、善人よりも正くみゆるものなり

亡レモ而爲レ有リト。虛シケレモ而爲レ盈リト。約シケレモ而爲レ泰カナリト。難カナ乎有ルレヿ恒矣

亡は絕てなき也。虛はいまだ不滿也。約は貧窮なり。泰は富有也。此解集註大全にみえたり。しかれども、とくと落着せず。才知の事にしてもきこえ、身上の事にても聞ゆるなり。ケ樣の事百年の內にも人情風俗かはる者也。五六十年以前までも家內貧しけれども不自由なりと云なげきごとをいはず、借金してもかりたるといはず、內所の貧困をかくして、めいらぬ顏にて有しなり。近年は內所富でも貧といひ、借金なくてもありといふ、わざとも見苦しき

躰をするやうなり。各別ちがひたれども、內外あることは一也。つくろひたる者なれば恒なきなり。同じつくろひにては昔の方まされり。昔のは武士氣に近し、今のは俗にこすきと云者也。邪知なり。又才知として見れば、昔の者は有躰にしらぬ事は不知といひ、あたはぬ事はあたはずといへり。是亡をばなきとし、虚は虚とする也。後世は不知ことをも知たる顔をし、少し知たる事は自慢し、知あり才ある躰をする也。今の貧富の仕形とはうらおもて也。

孔子の時分の人情風俗知べからず

子釣スレドモ而不レ綱セ。弋スレドモ不レ射レ宿ヲ

觧集註大全にみえたり

子ノ曰。蓋シ有ニ不レ知ラ而作レスレ之ヲ者一。我レハ無レ是也。多ク聞テ擇デ其ノ善ナル者ヲ而從レフ之ニ。多ク見テ而識レル之ヲ。知ノ之次ナリ也

聖人の作はみなしかるゆへんの理あり。世間利發にして、文學ある者、已が小知に自滿して、妄に作する者あり。天下の益にはならずして費となる者多し。孔子みづからのたまふ、我作者の聖神にあらずといへども、不知して作することはせざる也。たゞ多く古今の事を聞て、其善をえらんで是にしたがひ、多く古今の書を見、人の上をもみて多識有、生知の次也、とのたまふなり。夫神聖の作は昔なき事なれども、當時不ニ出來一して不叶物をはじめ給へり。或は天象によりて天を師とし、或は卦爻の象を見て先聖を師とし給へば、皆しかるゆへんの實理あり。先みづから

の心實理に至て凡をはなれざれば、眞の實理は不知者也

互郷難與言。童子見。門人惑。子曰。與其進也。不與其退也。唯何甚。人潔己以進。與其潔也。不保其往也

解集註にみえたり。人の善惡をえらび、惡を以てけがれとするは小德の事也。孔子は天地の量にひとしきゆへ、えらびすつる物なし

子曰。仁遠乎哉。我欲仁斯仁至矣

仁は人の人たる理也。人々の本心をしらで不仁なるは、狂人の身を忘たるがごとし、惑へること甚し。狂さめて我身を求れば、我身こゝにあるが如し。故に學問の道は放心を求るにありといへり

陳司敗問。昭公知禮乎。孔子曰。知禮。孔子退。揖巫馬期而進之曰。吾聞君子不黨。君子亦黨乎。君取於吳爲同姓。謂之吳孟子。君而知禮孰不知禮。巫馬期以告。子曰。丘也幸。苟有過人必知之

解集註大全にみえたり

子與人歌而善。必使反之而後和之

解集註大全にみえたり

子ノ曰。文ハ莫ニシヤ吾レ猶一レ人ノ也。躬ニ行フヿ君子ヲ一則チ吾レ未ニ之ヲ有一レ得ルヿ

解集註にみえたり

子ノ曰。若ニキハ聖ト與一レ仁ノ。則吾レ豈ニ敢ンヤ。抑々爲レ之ヲ不レ厭ハ。誨レテ人ニ不レ倦マ。則可レキ謂フ一レ云ト
レ爾シカノミ已矣。公西華ノ曰。正ニ唯タヾ弟子不レ能ハ學フヿ也

聖は德才兼備の名也。仁は本心の全德なり。聖人の聖人たる處なり。才も不才も學で至べき地位なり。人欲きよく盡て、天理流行する所則仁也。陽明子万兩金、五千兩金、一兩金のたとへのごとし。万兩金のまじはりなき精金は聖人のごとし。聖知の量のひろきは万兩金の用の多がごとし。知の神明にして、量のひろき所を聖人の才と云也。量ひろきが故に平人の不及事あり。平人の才のごとき才にはあらず。又天下國家を平治する本才也。しかれども量の廣きを聖人の至極とはせず、唯天理に專にして雜なき所を至極とする也。金の多は金の金たる處にあらず、精金にして雜なきを、金の金たる所とするがごとし。故に五千兩金も雜色ある時は、金にあらず。多才なりとも人欲あらば凡夫也。一兩金も雜なき時は金也。才なけれども人欲なき者は聖人の徒なり、賢人君子といふべし。故ニ仁は學の本也。孔子は心を以ていへば、仁者也。才德を以ていへば、聖人也。しかれどもみづから居給はざるものは、天と同躰、理の無窮なるが故也。我仁聖にいたれりと思ひ給はざる處則仁聖也。不厭は知也。不倦は仁也。不厭不倦

の强力は勇也。知仁勇は性也。天下の達德なり。其性を盡したる者は聖人なり

子ノ疾病ナリ。子路請レフ禱ヿヲ。子ノ曰。有リヤ諸。子路對テ曰。有レリ之。誄ニ曰イ。禱二爾ス于上下ノ神祇一ニ。子ノ曰。丘ガ之禱ルヿ久シ矣

病は疾の重を云といへり。孔子時に病て臥給へり。醫藥の功みえざる故に、子路の情やむことを不得して、天地鬼神に告て快氣をいのらんと也。しかれども病人に在てはいのりの意有べからず。子路是をしれらば、孔子の知給はざるやうにいのらるべし。知給ふやうにありしは思慮なき也。故に孔子其いのりの意を難ナンじ給へり。子路も行ありて、古書をひきていへり。昔のいのりと云は、平日の過を悔て、是を改め、善にうつらむことを欲す。此心を以て天地鬼神に告て、其とがめをいのる者也。鬼神は少々の過をとがむるには非ず。人の過惡は鬼神の造化をさまたぐる者也。故に自然と其報あり。打身ある者は土用八專に痛めるが如し。孔子の我いのること久し、とのたまふは平日過ては必ずあらため、善を知ては必ずうつる、是我素行なり、今更後悔なきと也。聖人は全躰善也。しかれども空々として善を有せず。人の善をみては是を好し、是にくみす。是聖人の善にうつる也。聖人本より過なければ、改むべき事なし。しかれどもみづからは過なしと思ひ給はず。凡人は過のみなれどもなしとおもへり。是聖凡のわかるゝ所なり

子ノ曰。奢ルナルトキハ則チ不孫ナリ。儉ナルトキハ則チ固シ。與リハ二其ノ不孫ナラン一也寧ロ固シカレ

奢るものは、上を犯し、下をしのぎ、人を害すること甚し。儉に過る者は、あたふべくしてあたへず、施べくしてほどこさず。天物を私して己一身の利とするの罪あれども、奢の罪に比すれば少き也。俗にしはき者をかたき者といへるは、此固の字の意也。しはき者は窮屈にかたきもの也。大かたしはくかたきは、不仁にしていやしき者也。仁心ありてはさやうに堪忍はならざる者也。君子にも儉の事はあれども、儉に心なし。無欲なるが故に、物を不備、足タルことを知てやむ故に、外より見ては儉也。又尺蠖の屈は伸ノビンことを欲す。民の父母たる慈心より、施さんが爲に貯る事あり。故に君子の儉は仁心無欲より生ずる也。又奢者は君子のゆたかにしていさぎよき所をかりて、奢のかざりとすることとあり。君子は其心ゆたかに、其躰ゆるやかなれども、不孫無禮にはなし。其心淸けれども分過の器用だてはなし。奢儉ともに世知かしこきは似て非なる處あり

子ノ曰。君子ハ坦蕩蕩タリ。小人ハ長戚戚

解集註にみえたり。君子小人の別は常に心の苦樂にあり。小人は富貴なれども心苦み、君子は貧賤なれども心樂む

子溫ニシテ而厲シ。威アリテ而不レ猛カラ。恭ノ而安シ

聖人溫なること春風和氣のごとし。しかれども嚴然として、なれあなどるべからず。和して不流の氣象也。天道春を以て溫風和氣をしくといへども、又さえかへりて二月の雪衣に落ることあり、和氣に流れざるが如し。終に三月に至て和氣極て、物の生長とぐる也。聖人の溫和は嚴然として姑息の弊なし。人望で恐るべしといへども、實は民の父母たる慈心厚きゆへに恐て愛する者也。威ありて不猛は、神武にして不殺の德也。平人はうや〳〵しければ勞

す、君子はうや〳〵しけれども却て安し。君子の心は天理に專也。天理流行して身躰にほどこす者は禮なり。人のために不レ恭シカラ、ひとり天理を得て心身安し

泰伯第八

子ノ曰。泰伯ハ其レ可レ謂ニ至德ト一也已ノミ矣。三ビ以テ天下ヲ一讓ル。民無ニ得テ而稱スルコト一焉

周國の君古公亶父に三子あり。長は泰伯、次は仲雍、少は季歷也。季歷の子を昌と云、聖德あり。文王是なり。古公の心に思へり、泰伯は長子也。聖人なり。國を傳て尤よし。しかれども季歷も賢人也。季歷に傳て孫昌に及ばんことを欲す。其時分より商の天命漸衰たり。代をかさねて、天下を持ことは天の廢する勢しかり。周侯には代々仁賢の君生ず、取分古公より賢聖打つゞきて生れ給へば、天命の周に歸する所明か也。泰伯風(フウ)を望み指(ムネ)を知て仲雍に告。仲雍も賢人也、古公の病重きに臨で、二人藥を衡山に採と云て、のがれて荊蠻に行。後に吳國といへり。終に國俗によりて髮(タチ)を斷、身を文(アヤ)にし夷狄の服をなせり。二度中國に不歸ことを示すと也。夫泰伯の德を以て商周の間にあたらば、諸侯を朝せしめ、天命を有べし。しかるを機微の中に讓りて不取、且父の志を不言にとぐ。人これを知ことなし。古人の禮節、三たびを以て極とす、一たびを禮辭と云、二たびを固辭と云、三たびを終辭と云。故に万

事三たびに及ぶ時は、是をしゐず。泰伯に天命の歸して天下を有べき任ある處を三譲して去る。名殘なく終辭する也。徳厚く、事徴にして、跡のみるべきなければ千歳知人なし、孔子を俟て始て至德あらはれたり

子曰。恭而無禮則勞。愼而無禮則葸。勇而無禮則亂。直而無禮則絞

恭愼勇直は善德也。しかれども是を氣質に得て、禮樂の則なく、學なき時は四の弊あり。恭愼は柔德也、故に其弊己をやましむるに止る。勇直は剛德也、故に其弊人をやましむるに至る者也。又國家式なきときは君子といへども無是非禮に勞する事あり。禮煩くなりて却て不行ことは當然の式なき故也。世中次第に事多く成て人力をつからしめ、財用を費す事も式よからざる故也。天下無事に成て貴賤ゆるやかに長久なることは、禮式のよきによれり。此禮式は道學ありて、古今の人情事變に通じ、本才ある人よくすべし

君子篤於親則民興於仁。故舊不遺則民不偸

解集註大全にみえたり。新安陳氏の説尤近し

曾子有疾。召門弟子曰。啓予足。啓予手。詩云。戰戰兢兢。如臨深淵。如履薄氷。而今而後。吾知免夫。小子

解集註大全にみえたり。身体是を父母に受たり。故に我身則父母の身なり、不愼して毀傷するは不孝也。況や道德

仁義は父母先祖天地太虚より傳たる大躰也。仁義身体二ながら持べからざる時は、小躰をすてゝ大躰を全する也。故に戰陳にして勇なきは孝子にあらずといへり

曾子有疾。孟敬子問之。曾子言曰。鳥之將死其鳴也哀。人之將死其言也善

解集註并慶源輔氏の説にみえたり

君子所貴乎道者三。動容貌斯遠暴慢矣。正顔色斯近信矣。出辭氣斯遠鄙倍矣。籩豆之事則有司存

君子道徳の學にをいて日用常行尊び重ずる所のもの三あり。脩身の要氣質變化の本也。動容貌は一身の起居動靜万の事行也。氣質剛なる者は暴なり易し、暴は粗厲とてあらき行跡なり。氣質柔なる者は慢にゆき易し、慢は放肆とてしまりなくをこたりがち也。二ながら溫恭和平の氣象なし、嚴肅収斂の容躰なし。故に暴慢を遠ざけて身躰にまうけざる也。君子故なければ琴瑟身をはなたざるも、粗厲放肆の氣を生ぜじと也。正顔色は作て正するにあらず、其心を正くすれば顔色にあらはる。あやまりては色厲して内荏(ヤハラカ)なる色仁を取て行違ひ色莊者のたぐひにゆかんか、信なる人は顔色おのづから正し。實躰の人あれども顔色正しからず。恐るべからざるは君子の信にあらず。實躰なれども不明なるは正しと云べからず。人と對する、對せざる、へだてなく顔色を正しゝすれば、精神を収斂し、放心

をおさむる受用となる者也。ひとり正しくするは信に近き也。出辭氣斯遠鄙倍矣、言語聲氣は心より發す。鄙は凡俗の習淺陋也。かた言をいひ、氣聲いやしき躰のたぐひ、凡習の鄙陋なり。或は驕、或は吝、鄙陋の甚しき也。君子の辭氣ならず。それをいやしとする者、義論高上にて心いたらず。實は理にそむくを倍と云、高下過不及各別なれども、道德に遠き事は一也。籩豆之事は禮法の事也。今のしつけがたの事のごとし。有司の役人あれば、尋てしり習て行べし。君子事を不知はくるしからずとな〔〇な衍カ〕也。況や後世文學博識の事は君子の必とする所にあらず。博學の人に尋て可なり

曾子曰。以能問於不能。以多問於寡。有若無。實若虛。犯而不校。昔者吾友嘗從事於斯矣

賢人の心中一物なし。天下に功あるだに心に有せず、況や多能文才は忘れて居故に、不能の者も一事の得たるあれば是を尋、不才もなれて知たる事あれば是を問也。人と對する時、己道理あれどもなきがごとく、人に非あれども不知がごとし。已に善行積りみつれども不足がごとく虛きが如し。故に日に新に又日々に新也。人己を犯ししのげども不怨不尤、暴逆無道の事をしかけられても相手になる心なし。其量天地のごとく大海のごとし。三四歲の童子の腹立たゝきかゝるにたゝかふ者はなし。君子の凡夫にをけるも又如此。此友は顏子といへり。孔門顏子にかぎるべからず

曾子ノ曰。可㆔以テ託㆓六尺ノ之孤㆒ヲ。可㆔以テ寄㆓百里之命㆒ヲ。臨㆓デ大節㆒ニ而不㆑可㆑奪フ也。君子人カ與。君子人ナリ也

幼にして父なきを孤と云。六尺は今のかね尺には非ず、律呂より出たる眞尺なり。黄鍾の管長サ九寸にして、黍を入ること千二百粒也。是を一龠と云。十龠を合と云、十合を升と云、十升を斗と云、十斗を斛と云、黍一粒の高サを一分と云。十分を寸と云、十寸を尺と云。十尺を丈と云、十丈を引と云。黄鍾の管を宮とす。宮管の長さも此法を以ての九寸也。是則天地自然の眞尺なり。今のかね尺は昔の造營尺と云者也。此六尺はかね尺にては四尺に不足か。しかれば十三四ばかりの幼君なり。父君遺言して此幼子を預けもりたてしめ、國中の事を任じてまかせ置なり。百里は大國也。田地ばかり百里なれば、山野川澤不毛の地かけては山野のありやうにて二三百里、もしは四五百里四方にも當る國也といへり。大節は死生存亡のかゝる處也。戰國にて敵國餘多あり、大難來ても其心を動し奪ふことあたはざる也。孤君を助しめ、國政をつかさどらしむべきは才也。大難にあふてうごかざるは勇也。勇ありても才なければ、たゞに死するのみにて益なし。才ありても勇なければ敵國にせまられては才の用とげず。知勇かねざればならざる事也。知勇ある人は君子なり。又氣質に知勇ありて學なき者あり。それは凡心をまぬがれざる故に欲あり。欲ありて知勇あれば不仁なる者なり。知勇ばかりをみて君子かとおもひ、かやうの大事をあづくれば奪るゝことあり、終に國を亡す者なり

曾子ノ曰。士ハ不㆑可㆔ラ以テ不㆓ンバアラ弘毅㆒ナラ。任重シテ而道遠シ

弘は寛廣也、許容せずといふことなし。毅は强忍なり、力行うむことなし。大車大船にあらざれば重きをのすることあたはず、健馬にあらざれば遠きを行ことあたはざるが如し。弘なるが故に小善を以て足りとせず、毅なるが故に半途にして廢することとなし

仁以テ爲ニ己ガ任一ト。不ニヤ亦タ重カラ一乎。死シテ而後ニ已ム。不ニヤ亦遠カラ一乎

仁は本心の全德万物一躰の生理也。時を得てほどこし行ふときは天地四方にあまり、時を不得して巻ておさむるときは密にかくる。藏るといへども廣大の德損ずることとなし。伊尹其人なり。聖人の任といへる是なり。重は重職の重の義也。天より万歲民の父母たる德を命ず、重職是より大なるはなし。一息存ずる間は、倦ことなく、懈る事なし。曾子の簀を易て終られしを、正を知て死を不知、天と共に流行す。死して不亡ともいふべし

子ノ曰。興ニリ於詩一ニ

古者の學は、詩を初とす、今の幼少の子共の謠を習がごとし。同じまひ平家のさうしにても、たゞよみたると、ふしにてきゝたるとは感發各別なり。まして周召の風、其外の雅詩は、其事實にして天性の德に本付、かねて人情に達し事變に通ず。近くは修身の本となり、遠くは家國天下の風化を知なり。情をのぶるなぐさみながら、善心を興起し、人倫を親む者也

立ニチ於禮一ニ

君上を安じ、人民を定るは禮の德也。禮ある時は、富貴なれども則ありて奢を極ることあたはず。貧賤なれども分の產業ありて、其利を利とし、其樂を樂む。故に下として上をひかず、上として下をしのがず。强力の者柔弱をくるしめず、壯者は幼少を助け、若きは老たるを敬ひ、男女別ありてみだれず。事は式ありて多事ならず。厚き者も過ることあたはず、うすきも不孫なることあたはず。無事にして上下安し。進退上下左右起居動靜節ありて、人の肌膚の會筋骨の束を固し、恭敬辭讓の容儀を敎て、驕慢の凶惡を消す。是孝悌忠信の德を立る所以なり。故に禮を立といへり

成ル二於樂ニ一

樂に五聲十二律あり、五行十二月の音なり。絃管共に十二音、たがひに宮をなして各五聲備れり。天地神明と交るの道なり。樂は樂也。有生のたぐひ遊び樂むことあらずと云事なし。正きことに樂み遊ぶときは、不知不識德をなす者也。故に君子故なければ、琴瑟身をはなたずといへり。たとひ音聲を不知といへども、道德を樂むことを知ときは、心ひろく體胖也。是樂の本也。樂む時は君子なり。不樂時は君子とするにたらずといへり

子ノ曰。民ハ可レ使レム由ラ之ニ。不レ可レ使レム知ラ之ヲ

民は庶人也。上古は神聖は天子となり、美大は三公九卿諸侯となり、善信は大夫士となれり。善信善大の四品は賢人也。いまだ賢に不及といへども聖學を知て受用する者は平人にあらず、中士下士となれり。其外心法は不知とも六藝に達し、道理の大躰を知者は其器にしたがつて諸役を命ぜらる。それより下つかたは平凡の庶人也。人々道を

しらしむることあたはず、たゞ君上の徳化によりて、しらず／＼此道によりて常人となれり。上古の常人は不知の善人也。説法のごとくして衆庶のこらず道をしらしめんとする時は却て弊あり。徳知の風化にあらず。及ことと少して淺し。隱しひかへてしらしめざるにはあらず、なるべくは天下皆知たるは心安き事なれども、しらしむることあたはず。天命の五福に攸好徳あるを以て其意を知べし

子曰。好勇疾貧亂也。人而不仁。疾之已甚亂也

集註備れり。不正人の乱をなす處、正人の乱をまねく處なり

子曰。如有周公之才之美。使驕且吝。其餘不足觀也已

驕は人を非とし、人をかろしめあなどる者也。吝は己を是とし、己が意をさしはさみていれず、過をかざり非をとげて不改者也。故に云、吝は驕の根本也、驕は吝の枝葉也。驕吝常に相よる者也。又驕は陽の欲、吝は陰の欲なり。家屋財用衣服飲食万事過美なるは驕欲の極也。己に奉ずる事のみ知て、人をめぐまず、後には人の物までもとりて己が用とす。故に大身なれば家中貧乏し百姓困窮す。吝なる者は己ある事のみ知て、人ある事を不知がごとし。皆私につみたくはへて、施す事あたはず、甚しきは己も又つかふことあたはず。驕吝ともに天功を私するの罪は一也。周公は多才多能の聖人なり。周公の徳程なくても、少し徳ある者は驕吝の凶徳はなきものなり。たとへていへり。もし周公の多才多能ありとも、驕吝の凶徳ある者ならば、其多才多能は却て凶徳のかざりと成て、不才の者の驕吝よりも害をなすこと多きものなれば、才能は何の用にもたゝず。驕吝の己をそこなひ人をそこなふ事の大なることを

のたまふなり

子曰。三年學不至於穀不易得也

此章集註の旨も得がたし、重て考ふべし

子曰。篤信好學。守死善道

解集註にみえたり

危邦不入。亂邦不居。天下有道則見。無道則隱

集註備れり

邦有道貧且賤焉恥也。邦無道富且貴焉恥也

解集註大全にみえたり。是平人をいふにあらず。有道の代用らるべき備りの者の、不學不徳にてすてられ、無道の時かくるべき者の富貴にめでゝ仕る者なり

子曰。不在其位不謀其政

解集註にみえたり

子曰。師摯之始。關雎之亂。洋洋乎盈耳哉

師は樂官のつかさ也。摯は其名也。樂官の賢なる者なり。孔子魯に歸て樂を正し給ふ時、摯賢にして雅音に通じ、たま〳〵樂官のつかさを得たり。後には雅聲時に不遇してひきこみたり。故に其始をのたまふ也。亂は樂の終なり。關雎の詩をうたひて管絃を合する時、五反も七反も反を重て樂すれば、後はよく和して閙合にも不及、そろひて面白もの也。今の聲ありて言葉なく不備樂だに如此、況やいにしへの樂おもひやるべし。半過終にいたる比一入よく合すれば、美盛の音耳にみちて神氣化し血脉通ず。後世といへども、此時ばかりは聖代にあふがごとし

子ノ曰。狂ニテ而不レ直ナラ。侗ニシテ而不レ愿ナラ。悾悾トシテ而不ンバレ信ナラ。吾不レ知レ之ヲ矣

解集註にみえたり。狂は狂者にあらず、唯狂妄我まゝなる風情の者也。さやうの生付の者は、質直にして僞なきものなり。しかるに狂妄にて直ならずば取べき事なし。侗然として無知なる者は謹厚なる者也。しかるに無知にてつゝしみなくば禽獸に近きこと有べし。悾々として無能なる者は約束などをたがへず律儀なる者也。しかるに無能にて信なき者ならば、用べき所なからん、狂侗悾の質は惡人にあらず、氣の偏也。氣質に此病あれば眞謹信の德あるもの也。堯舜の民もしかり。後世は此病ありて此德なき者あり、世のならひあしければ也。かくあしく成ては、孔子もいかんともすべき樣を知給はざると也。もし孔子時を得て政敎をなし給はゞ、人民天質の德を失ふべからず

子ノ曰。學ハ如レクレ不ルカレ及ハ。猶ヲ恐ルレ失ハンコトヲレ之ヲ

孝子は日を愛す。鷄鳴て起て孳々として日々に善をする者は舜の徒なり。寸陰をおしめる是也

子ノ曰。巍巍乎タリ。舜禹ノ之有ニテルレ天下ヲ也而不レ與カラ焉

舜禹の天下に君たること首トイ出ニデ庶物ニ。萬國咸ク寧シといへり。天下の富を以て其心の樂とせず、崇高を以て人に驕る意なし。是其あづからざる也。德の高大を見る處なり

子ノ曰。大ナル哉カナ堯ノ之爲ルレ君也。巍巍乎タリ。唯タダ天ヲ爲レ大ナリト。唯リ堯則レルレ之ニ。蕩蕩乎トシ。民無ニシ能名ニルコト焉

天は形躰の天にあらず、天道也。形を以ていへば堯も常の人の身なり。天の大にはくらぶべからず。天道の高大にして無レ窮、堯の德も高大にして無レ窮。故に蕩々と廣遠にして名付べきやうなき也。人生るより死するまで飮食衣服家屋器物よりはじめ、日月の晝夜雨露風光すべて何事も天恩にあらずといふ事なし。あまりもることなき厚恩なる故に、人に不知がごとし。堯の治世の恩澤廣大にして民それと知ことなし。堯も又德とし功とし給はざること天のごとし

巍巍乎タリ。其レ有ニリ成功ニ也。煥乎タリ。其レ有ニリ文章ニ

天道のはかるべからざる、見るべき所は四時生物の功、日月星辰の文のみ。聖人の德の名付べからざる、知べき所は巍々たる成功事業也、煥然たる文章禮樂法度なり。天道無爲にして成ル、聖人無爲にして治む。其德ひとしき處なり

舜有ニリ臣五人一。而天下治ル

帝舜の臣五人は禹と稷と契と臯陶と伯益と也。禹は百官をすべて天下を治む。舜老て後攝政を命じ、終に天下を讓り給へり。洪水を治て天下第一の功德なり。堯舜以前、天運にて天下水難あり。中國は平地廣して海遠し。天子諸侯といへども海の生魚を食し給ことあたはず、海魚は干魚ばかり也。大國の地形おもひやるべし。故に堯舜以前天下九年の洪水あり。万國廣平の地上田畠人民の安宅多は水底となれり。人民山によりて住たり。其時天下に王たる人は是を治ることかたきことを憂ふ。堯は唐侯たりしを、天下より推て天子となせり。禹の父九年治て功なし。其後禹に命じて治しむ。外に八年、三度其門を過て不入、終に水を平て中國平土を得たり。九河とて大河九筋ほりて中國を九州とす。一州の中に國多し。日本にて南海道山陰道といへるがごとし。天下後世にいたるまで禹の功を樂まずといふことなし。九鼎を作て人夫の食をとゝのへしめ、且外には九州の圖をあらはせり。山澤深して魑魅魍魎の氣人夫を害せり。故に其かりにあらはるゝ象を示してしりぞけしむ。後世の鬼の繪は此魍魎の氣象を本としていろどりそへたり、本形はなき者也。剛强にして惡をする者あれば、深山のふもとに置て魍魎をふせがしむ。久して人氣に勝ことあたはず、終に人居をなせり。後世九鼎を以て帝王代を持の寳器とす。中國の路次の廣きも、此鼎を通すべき道路すくなしといへり。後世の天子帝德を失て、此鼎海に入ぬ。

大禹の大國を定給ひし功德のあつき事、此鼎にみえたり。聖の神德にあらざれば及ととなし。后稷は水四海に落、民平地を得て後、土地をわかちて田とし、畠とし、地福に相應の所を考て、五穀をうふることを敎

究原本宄ニ作ル傍訓ト文意ヲ按ジテ究ニ改ム

て、大に民食をゆたかにす。後世此后稷を以て五穀の神とす。周の國に封ぜられ、數代をへて大王にいたり、王季文王武王に及で天下を持てり。契は司徒なり。司徒は教化をつかさどる。五典十義を教て人民親睦す、禮樂をほどこすの質也。皐陶は士師たり。蠻夷猾(ミダル)ㇾ夏ヲの文を以てみれば、日本　の征夷將軍のごとし、寇賊姦究(キ)を以て見れば、今の所司代の官なり。教にしたがはずして惡をなし。天人の化をさまたぐる者をば罰す。罪の輕重によりて刑の品段々かろし。少しこらして大に戒むるは小人の幸なり。刑は刑なきにあてゝすといへり。善にみちびかんがため也。刑をつよくすれば却て罪人多くなるもの也。刑を大事にし罪かろき者を殺さんよりは、殺すべき者を不殺の過あるやうに愼めば、罪人次第にすくなく成者なり。好生の德人民の心に通ずる故に、天下生を大事におもひて奉行を不ㇾル犯サ者也。上人を殺すことを輕くし給へば、殺伐の風行はれて、人民うは氣になり、死をかろんずる故に、奉行を犯し罪に陷(オチイル)者也。年をへては乱世の端となれり。故に賢君は刑に不近やうに禮式を以て大がきをして、淫惡のきざしを生ぜしめず。皐陶の治よき故に、後は罪人なかりし也。伯益は虞官となり、天下の山澤をつかさどれり。天下に材木薪多く、池川に魚多、山林の鳥獸不絕といへども、惡物民の害をなさず。田漁(カリスナドリ)以て武をならはし、田畠をあらさしめず。よく雲雨をおこし流川を出すの靈山澤をうすくせず。川に土砂をながさゞる政あれば、川常に深して田畠民屋をそこなはず。是虞官の知ところなり。故に万國諸侯に封ずといへども、名山川澤は封ぜず、別に太守を置て、虞官これをつかさどれり。山澤は天下の本なる故に、我まゝにしあらさしめじと也。一度山澤あれて川淺くなる時は、賢君良臣出るといへども、五十年六十年の制法にては本にかへりがたし。故に天下を治る五大事の

一にして、帝舜の五人の賢臣の一人これにをれり。五人の外に賢臣おほし。垂殳斨伯與の四人は百工の事に達し、朱虎熊羆の四人は地理を得たり。伯夷夔龍の三人は禮に通ぜり。たゞに禮の法を知のみにあらず、筋骨の束を堅し、血脉を通じ、神氣を順にし、天地の化育に應ずる處の理を知て、是を化し是を敎也。夔は禮にも達し、別して樂に通ず。神人の和は樂に過たることなし、故に樂をつかさどれり。龍は納言たり。日本の大納言中納言也。天子の命を傳へてあやまらず。天子の詔は天下の命のかゝる所也。賢にあらざればよく出し納ることあたはず。かねて天下の言語說話の邪正を格して、人民をまどはしめず。よく人民の善言をとり、諫言をいるゝ官也。如此大切なる賢德多に、五人とのみのたまふは、五人は本才と云もの也。本才は人情事變に達し、治道の中を知者也。外に十一人の賢臣も政道のかゝる所、風化のよる所重しといへ共、天性の得たる所ある人は、聖代の盛なる時は多し、八元八愷とて十六人の賢臣もあり。たゞ本才のみまれなる者也。故に五人をあげて本才のかたきことをのたまふ也

武王ノ曰。予ニ有ニ亂臣十人一

解集註にみえたり。乱臣は乱を治る臣なり。兵乱は治易し、人心淫し風俗乱れたるは治めがたし。商の末になりて、淫乱邪僞の習深し。これを治て正直に歸することは、才德兼備たる人ならではなりがたし

孔子ノ曰。才難シト不ニヤ其レ然一ラ乎。唐虞ノ之際ダ。於レテ斯ニ爲レス盛ナリト。有ニ婦人一焉。九人而已ノミ

才は天下國家を平治するの才也。本才といふ者也。本才は必道德學術兼たる者也。一能一藝一事の才は多者也。天下を平治して、造化の功用に應ずる才は古今稀也。故に古語にかくいへり。孔子是をひきてしかりとのたまふ。た

ゞ本才の人の多かりしは唐虞の際と、文武の時也。聖賢の君相繼て起りたまひし故に、賢才も又多出たり。堯の始は唐侯とて諸侯也。九年洪水以後、天下海のごとし。人民居を失へり。天下に王たる人は却て難義也。故に唐侯を天下よりをして天子となしたり。故に代の名とす。虞は地の名也。河東太行山の西にあり。舜是に居給へり。故に堯これを虞に封じて諸侯とし給ひし故に、氏とし代の號とす。實は堯舜共に黃帝の後也。周の聖賢九人の名は集註にあり。一人は邑姜なり、武王后太公の女也、賢德あり。文王の妃大姒は聖德あり。共に內を治て風化大に行はれたり。しかれども、後世二聖女の玉言とて稱する者なし。是女德の賢聖たる所也。心明かにして正しといへども、よく女らしく樣躰ゆたか也。其風化の跡をみて聖德と知なり

三分天下有其二。以服事殷。周之德其可謂至德也已矣

解集註大全にみえたり。中國に九州あり。荊州梁州雍州豫州徐州楊州、此六州は西伯昌に服歸す。文王は後世よりのをくり號也。靑州兗州冀州の三州は西伯の國に遠く、紂王の都に近きゆへに不得已して屬す、心服するにはあらず。一州の內に國數餘多あり。日本にて東海道北陸道といへるがごとし。天下三分が二は、紂をそむきて西伯に歸す、殘る一分とても西伯をおもはずといふことなし。是天あたへ人歸す。しかるを不取のみならず、大半の畔ける諸侯をひきゐて、紂につかへ給へり。紂王が左右の臣は天下の惡人の與力したる也。西伯をうたがはずと云事なし。身の危きこと薄氷をふむがごとし。難をかへりみずして殷の都にいたり、終に羑里のとらはれと成給へどもうらみの心なし。其身罪なくして罪ありとのたまへり。文王操云、臣罪當誅兮。天王聖明也。西伯の心をしれりとい

へり。西伯とらはれ給へば、諸侯の來朝する人なく、したがふ國少し。北狄中國を犯して、天下危し。初て西伯の誠を感じて、周に歸ることを得たり。至徳とのたまふ所也。大を以て小に事るは天を樂といへる是也

子ノ曰。禹ハ吾レ無二間然スル一ヿ矣。菲二ノ飲食一ヲ而致二ス孝一ヲ乎鬼神ニ。惡二ノ衣服一ヲ而致二ス美一ヲ乎黻冕ニ。卑二ノ宮室一ヲ而盡二ス力一ヲ乎溝洫ニ。禹ハ吾レ無二間然スル一ヿ矣

間然はすきまをかぞへてそしることと也。たとへてのたまふ。禹の天下を治め給ふ處にすき間あらば、見出してそしらんと欲するとも、そしることあたはじと也。いかんとなれば、常にすゝむる飲食かろくして費なし。しかれども祭には儉することなく、禮を備て情を盡し給へり。常に用ひ給衣服あらくして、文の美を用ひ給ふ所は祭服祭器にあり。天子の尊び給ふ處先王にしくはなし。祭服は天子の朝服なり。亡に事ること存に事るがごとし、誠の至り也。況や天地三光、天下の名山大川、國に功徳ある聖賢の神を祭給ふ事、儉する事なし。常に住給ところの宮殿は、用に叶ふ斗にてたれり。後世程物ごとに結構にそなはるものなるに、古へを少も變じ給はず。堯の遺風舜禹にいたりてたがはざる也。禁中のかまへには、堀の一重をもほり給はで、民力を用ひ給ふ事は田間の井川溝洫のみぞなどなり。材木を用ひ給ふ處は舟橋池の樋など也。民の爲に天物を用ひ、民の事に民力を用ひて、私用少もなし。此如なれば、ひまをかぞふべき事なき也。天子の富貴を以てみづからの樂とし給はず、天下を有てあづからざるところたり

一二一

子罕第九

子ノ罕ニ言ハ利ト與レ命ト與ナリレ仁

利は物を利するの利なり。義を害するの利は、人欲より出れば、まれにものたまふべからず。易に聖人の利を多くのたまふは皆物を利する也。利アリレ渉ルニ二大川ヲ一。利アリレ用ルニレ行ルニレ師ヲ。是已によつて物を利するの大業を立る也。孔夫子時にあひ給はで天下を利し、万民を利するの事なし。故に罕にのたまふなり。凡人は思ひ其位を出、其位にあらずして其政をはかる故に、國天下の利用の事をいへり。孔子の罕にのたまふは、窮理に付てのたまふ也。命は天理自然の勢也、壽夭窮通のごとき是なり。いのち長かるべき者の不養生にてはやく死し、通ずべき物の理にたがひて窮するは、人事の禍にて命にはあらず。養生よくても夭死し、道を行ても窮するは命也。君子は道を行て壽夭窮達に心なし。故にまれにのたまふなり。人のうたがひまよふ處におゐて命也とのたまふ事有のみ。仁は天地人を合たる全德の名なり。諸子の仁を問にこたへ給ふは、多は仁を求るの一端なり。仁の全德をのたまふは曾子に告給ふ一貫是也。曾子知行ならび進で、仁の全躰に及たる時、其至ることをゆるして、吾道一以貫之とのたまへり。子貢は德いまだ仁の全躰にいたらざれども、知見すでに及べり。故に其知をゆるしたまへり。さては顏子の仁にたがはざると、伯夷叔齊仁を求て仁を得たりとゆるし給へり。是其罕にのたまふ處なり

達巷黨ノ人ノ曰ク。大ナル哉カナ孔子。博ク學デ而無レシ所ロレ成スレ名ヲ。子聞テレ之ヲ謂テ二門弟子ニ一曰ノ。吾レ何ヲカ

執ン。執ンカレ御ヲ乎。執ンカレ射ヲ乎。吾レハ執レン御ヲ矣

博く學で一藝一能の名をなさゞる處、則聖人の大也。孔子の一藝を常人にあたへば、必世に名をなす人ならん。孔子は六藝文學みなすぐれ給へども、藝に游で心とし給はず、用達してやみ給へば人知ことなし。古人の文學と云は、易書詩のみ也。今の万巻の書はなし。六藝は文武相交れり。禮は吉凶軍賓嘉也。吉は祭禮也。凶は喪禮なり。軍は軍法也。賓は主客往來交接の禮なり。嘉は元服婚姻の禮なり。樂は糸竹金石匏土革木也。中に糸は樂器の君位也。心を洗ひ、徳を養ふの益あり。故に君子故なければ、琴瑟身をはなたず。聖人の神徳ならでは全く通ずることあたはざる所あり。孔子の樂にをいては天下不及ことあれども、名をなし給はざるにて大徳を知べし。射御は弓馬なり。御法は中國にも絶たるにや、万乘の君といへどもむちを執て馬に乘といへり。書は昔は字畫とみえたり、今の手習也。今を以ていへばよみかき也。數はすべて數學也。是皆天下國家の用をなして、天地の造化を助る備也。古の博學是なり。孔子もし一藝を取て名をあらはし給ふべくば、弓馬なりとのたまふにて、後世孔子を學ぶ者は文學のみと思へるあやまりを知べし。天地に陰陽あり、人道に文武あり。文のみを學とするは陽のみにて、陰なきがごとし。三才の道にあらず

子ノ曰。麻冕ハ禮也。今ハ也純ハ儉セリ。吾レハ從フレ衆ニ

解集註にみえたり

拜スルハ下ニ禮也。今拜スルハ乎上ニ泰レリ也。雖モ違フト衆ニ。吾ハ從ン下ニ

解集註にみえたり

子絶ツ四ヲ。毋ク意、毋ク必、毋ク固、毋シ我

意は好惡の念の胸中に不常往來する者也。必は好では必ず遂ことを欲し、惡では必ず去ことを欲するなり。固は好惡の欲一物と成て留滯する也。我は己あることを知て、人あることを不知がごとし。或は我まゝ或は私欲なり。此四のもの人によりて好惡の淺深あり。かはり有といへども凡心の常態なり。孔夫子は此四の物はおもかげも絶てなきと也。四の物の煩なきときは、本心空々如として天のごとし。是をうらやみて急に斷なくせんとするは異學の弊なり。却て病を生ず。眼中にごみ塵の入たるも、金玉の屑の入たるも、明の煩たる事は一也。故に大學に誠意の心法あり。誠にするときは意なきに至る也。意なきときは必固我なし

子畏ス於匡ニ。曰。文王既ニ沒シタレドモ。文不ヤ在ラ茲ニ乎。天之將ニ喪サントスルヤ斯文ヲ也。後死ノ者不得與ルコトヲ於斯ノ文ニ也。天ノ之未ダ喪サ斯ノ文ヲ也。匡人其如予ヲ何ン

解集註大全にみえたり

大宰問テ於子貢ニ曰ク。夫子ハ聖者カ與。何ゾ其多能ナル也。子貢曰。固ニ天縱シテ之將ニ聖ナリ。又

一二五

多能ナリ也。子聞レテ之ヲ曰ク。大宰知レカ我ヲ乎。吾カ少キヤ也賤シ。故ニ多ニ能ナリ鄙事ニ。君子多ナランヤ乎哉。不レ多ナラ也。牢曰イ。子ノ云ク。吾レ不レ試ラレ故ニ藝ナリ

多能は君子の心とする處にあらず。孔子用られ給はで微官に居給ふ、故に藝能に達し給へり。もし用られ給ひて國天下を平治し、風化をつかさどり、天地の化育を助給はゞ、藝能は天下の人になさしめたまふべし、自なし給ふにいとまあらじ。解集註にみえたり

子ノ曰ク。吾レ有レシヤ知ルコト乎哉。無レシ知ルコト也。有テ鄙夫ニ問フ於我ニ。空空如タリ也。我レ叩テ其ノ兩端ヲ而竭ス焉

世間の人、孔子を物しりと思へり。尤古今の事をも知給へば、物知にてもあれども、それは孔子の餘事也。聖賢にをいて尊ぶ處にあらず。有知乎哉、無知とは知識の學にあらずと也。空々たる神鏡あり、人問ときは發動す。事の始終、物の本末、道器の上下、事理の精粗、世間の是非善惡兩端あらずと云ことなし。鄙夫といへども殘し給はず、天の空中風雷雲雨、時に感じて發するがごとし。天の至誠、無用ノ小虫野草といへども、其文念比にしてたがひなきがごとし。聖人の人に敎る、俯して就ことかくのごとし

子ノ曰。鳳鳥不レ至。河不レ出サ圖ヲ。吾レ已ンヌルカナ矣夫

解集註にみえたり。當世に不可行ことしられたり。しかれども天の此文を孔子にあたへたる實理亡べからざる時は、後世の師道たるべき天意明かなり

集註備れり

子見齊衰者冕衣裳者與瞽者。見之雖少必作。過之必趨

顏淵喟然歎曰。仰之彌高。鑽之彌堅。瞻之在前。忽焉在後

仰之彌高とは、見識を以て至るべからざる也。學見すでに及で德彌高ことを覺べし。鑽之彌堅とは、力量を以て入べからざる也。壯年の時、力量を以て聖賢の跡を行といへども、氣力つかるゝ時は退屈する者也。瞻之在前……とは、氣象に求べからざる也。神は無方にして易は無体也。問學德行相進で後、高に至り堅に入左右其源に逢べし

夫子循循然善誘人。博我以文。約我以禮

孔夫子の教、循々と次序あり。人によりてよくみちびき給へり。博るの文は易詩書六藝也。古今を知り事變に達する事共中にあり。侯氏の說に格物致知といへるもよし。約我の禮は禮樂の禮にあらず。禮樂の禮は文のうちにあり。此禮は理なり、非禮動ことなかれの禮也。克己復禮といへるもよし。天理人欲ならび不立。人欲きよく盡て天理流行するは克己復禮なり

欲罷不能。既竭吾才。如有所立卓爾。雖欲從之末由也已

見る所明かに行處樂む時は、こゝろみにやめんとすれどもやむること不能者也。才は天質也。人々の天質皆なすべし、たゞ自不用不盡のみ。孔夫子の心法氣象力量の立にはあらずして卓尓と立て堅固の地位あり。たちは立て何によることをいひがたし、故に如有所立といへり。富貴も淫すること不能、貧賤もうつす事不能、威武も屈すること不能、惡鬼もまどはす事あたはず。此地位にいたらば吾人の卓尓なるべし。聖人の卓尓はいひがたし。故に顏子したがはまく欲すれども由なしといへり。大にして化するのさかひなるべし。力行の積にして、力行の不及所也

子疾病。子路使門人爲臣。病間曰。久矣哉由之行詐也。無臣而爲有臣。吾誰欺。欺天乎。且予與其死於臣之手也。無寧死於二三子之手乎。且予縱不得大葬。予死於道路乎

解集註にみえたり

子貢曰。有美玉於斯。韞匵而藏諸。求善賈而沽諸。子曰。沽之哉。沽之哉。我待賈者也

解集註に見えたり

子欲居九夷。或曰。陋。如之何。子曰。君子居之何陋之有

解集註大全にみえたり。乗桴浮海の意とは少し異なり。浮海の歎は、夷齊わらびをおりて餓たる意に近し。九夷は禮樂略也といへども、質素にして實なる所は、中國の道なき代にはまされる所あり。孔子是に居給はゞ、三皇の民に近かるべし。是いやしかるまじき處なり。禮樂は時を以ておこるべし

子ノ曰。吾自レ衛反レテ魯ニ。然ノ後樂正シ。雅頌各ヽ得タリ其ノ所一ヲ

解集註にみえたり

子ノ曰。出テハ則事ヘ公卿一ニ。入テハ則事フ父兄一ニ。喪ノ事ハ不二敢テ不一レンバアラ勉メ。不レ為二酒ノ困一ヲ。何ゾ有ルヤ二於我一ニ哉

我は吾人なり。其時の一座の人々をさしてのたまふなり。六藝の文のみ事として、受用すくなき人のためなるべし。

我等の說は述而の篇にみえたり

子在ニ川ノ上ニ曰。逝ク者ハ如レキ斯ノ夫。不レ舍カ晝夜一ヲ

逝者は道体也。水を指にあらず。斯字水を指てのたまふ也。維レ天ノ之命。於穆トシテ不レ已マ。上天ノ載ハ無ク聲モ無シ臭モ。是道躰なり。天理流行しばらくも間斷なし。其人心にかくるゝ者は見がたし。指て見易き者は川流にしくはなし。故に孔夫子水によつて嘆じ給へり。流て本の水にあらず、道体中に流行す。我心氣も道体中に流行す。少も人欲ある時は流行をとゞむ、水ふさがりて不流がごとし。故に易ノ乾ノ卦ノ象傳ニ云、天行健ナリ。君子以テ自強テ不レ息マといへ

り。孔夫子の此傳なかりせば、乾の六畫誰か心法たることをしらんや。天地の造化と共に、道体に及ばむことを欲す。日往ときは月來る、寒往ときは暑來る。万物生々してやまず、吾心の知覺運動日として生ぜずと云ことなし。皆道体中に流行すること泉流のごとし。孟子浩然の氣を養ふの受用こゝに本付ものか。吾人の氣、耳目呼吸に通じて、天地の氣と同躰也。造化と共に流行する事、川流のごとし。私欲のふさがりなき時は、至大至剛にして、天地の間にふさがるもの也。直を以て養ふは敬以直内愼獨の義也。不愼獨ときは隱微の地にをいて間斷あり。間斷ある時は、川流にあらず、洪然にあらず。問、何をか人心にかくると云や。云、人心則天德の寓する處なり

子曰。吾未見好德如好色者也

解集註謝氏の說にみえたり。史記の說疑はし

子曰。譬如爲山。未成一簣止吾止也。譬如平地雖覆一簣進吾往也

解集註に見えたり

子曰。語之而不惰者。其回也與

解集註にみえたり

子謂顏淵曰。惜乎。吾見其進也。未見其止也

大全勉齋黄氏の說易簡にして備れり

子曰。苗而不秀者有矣夫。秀而不實者有矣夫

美質あれども、學びざれば凡人と異なることなし。苗にして不秀がごとし。玉みがゝざれば石と異なるなきがごとし。すでに學で大本大用わきまへたれども、德を不成は秀て不實がごとし

子曰。後生可畏。焉知來者之不如今也。四十五十而無聞焉。斯亦不足畏也已

解集註にみえたり

子曰。法語之言。能無從乎。改之爲貴。巽與之言。能無說乎。繹之爲貴。說而不繹。從而不改。吾末如之何也已矣

解集註にみえたり

子曰。主忠信。毋友不如己者。過則勿憚改

重て出たり

子曰。三軍可奪帥也。匹夫不可奪志也

集註備れり

子ノ曰。衣ニ敝タル縕袍一ヲ。與下衣タル狐貉一ヲ者上立テ。而不レ恥ル者ハ其レ由カ也與

解集註に見えたり。惡衣を着て、美服を着たる者と立て、恥たるは古への愚なり。今は宿にては美服を着し、公界へは惡衣を着ル風俗なる者多し。是今の知也。古への愚は、宿にて惡衣を着し、公界へ一衣をもはれわざに用たく思へり。故に已人より見苦しき時は恥たり。古人の愚は私欲を輕して、公義を重ぜり。今の知は公義を輕じて、私欲を重ず。今の知の古の愚に不及ところ也。古人の惡衣を不恥者は是に異也。貧は士の常なり。仁は人の安宅也。義は人の正路也。禮は人の盛服なり。衣の美惡に心なし

不レ忮不レ求。何ヲ用テカ不ラン臧カラ

集註大全備れり

子路終ルマデ身ヲ誦レ之ヲ。子ノ曰。是レ道ナリ也。何ゾ足ニ以テ臧トスルニ

解集註にみえたり。此道の字輕し、一の道といはんがごとし。道の一端なり。平人にて如此ならば善人也。是道也。聖學にをいては事とすべからず

子ノ曰。歳シ寒フシテ然シテ後チ知ル松柏ノ之後ルヽコトヲ彫ムニ也

聖賢といへども、人の形あれば人の心あり。人情かはりなきがごとし。夏山は松柏も、同じ青葉なるがごとし。君子の人に異にして、衆人の不可及處は、人の不見所にあり。故に人知ことなし。小人といへども、公界へ出て禮義を

行ことは同じ。戰陣に勇あることも同じ。たゞ利害にのぞみ事變にあひて、小人は心たがひ、行亂る。君子は平日にたがふことなし。霜雪にあひて後、夏木は落葉し、松柏のみ堅固にして青葉のみさほかはらざるが如し。奴僕と成て家內につかふる者は、君子と小人とちがひ有べけれども、それも平人に人づかひよき者あれば、衆人の目にはかはりなくみるべし。常人は仕合よければ大に悅び、不仕合なれば大に悲む。悅びては奢り、悲しみてはめいり、年來の勇氣も失てあさましく成者也。世に仁義の勇、血氣の勇をいへるも是に似たり。血氣の勇者は戰陣に臨て、いさみ進み、强をやぶり堅きをくだくといへども、身方勢を失ふ日は、年來の血氣失てあさましき心行あり。仁義の勇者は、大節に臨で志をうばはれず。身方勢を失へば一命を輕じ、死に至までよはげなし。平生美質の人は問學せざれども行跡よし。志あり、問學すれども、氣質いまだ變ぜざれば、無學の美質には劣りてみゆる者也。しかれども大變に逢て、志なき美質の人はとりみだし、志ある人は變ぜずしてたしかなる者なり。初て道學の益を知ことあり

子ノ曰。知者ハ不ㇾ惑ハ。仁者ハ不ㇾ憂ヒ。勇者ハ不ㇾ懼ㇾ

知は心の神明也。不見所をもしり、不聞ことにも通ず。物の有無、事の善惡、理明かにしてまどはず。しかれども生知の聖人以下は、問學なくては此神知ひらけず。つぼめる梅の淸香を不發がごとく、石中の玉の光明あらはれざるがごとし。仁は心の德なり。天地人の三才を兼て、万事万物不體と云ことなし。順逆ともに吾心中の一事なれば、好むこともなく、にくむこともなし。入として自得せずと云ことなし。故に不憂。勇は心の剛なり。無欲にして萬

物の上にのびやか也。富貴も淫することあたはず、貧賤もうつす事あたはず、威武も屈することあたはず、惡鬼もまどはすこと不能、患難も變ずること不能。知仁勇は心の一德也。有ときは共にあり、三人となしてみるべからず。しばらくつかさどる所ありて、賓主を相なす事あり。其時は三人となしても害あらず。知ありて仁なければ佞姦になりやすく、勇なければ文武を兼ることあたはず。仁なれども知なければ政教可にあたらず、勇なければ四海不畏。勇あれども仁なければ暴逆をなし易し。知なければ理にくらき所より畏あり。血氣の勇にておもては强なれども、心には不惧といひがたし。故に知勇仁ともにありて全き君子なり

子ノ曰。可シ與ニ共ニス學ヲ。未ダ可ラ與ニ適ク道ニ。可シ與ニ適ク道ニ。未ダ可ラ與ニ立ツ。可シ與ニ立ツ。未ダ可ラ與ニ權ル

解集註にみえたり。此道に志ある者とは共に此學を學ぶべし。道を行に至ては氣質の異あり、心の向ところあり、一やうなるべからず。其中共に道を行人ありて、相助くべし。心の獨立は己にあり、人をかぬること不能。其中ともに志堅固にして不變人有べし。權にいたりては人々の時處位あり。或問、大賢聖人の地位ならでは權道は不行と云人ありいかん。云、天下の大權はさも有べし、少づゝの權道は平人初學にもなくて不叶。身の德の不及に付ても、身の位に叶たる權道あり。中ると不中とは學の淺深、德の厚薄によるべし

唐棣ノ之華偏トシテ其レ反而タリ。豈ニ不ンヤ爾ヲ思ハ。室是レ遠而タリ

解集註にみえたり。詩の意分明也

子ノ曰。未ダ二之ヲ思一ハ也。夫レ何ノ遠キカレ之レ有ン

解集註にみえたり

鄕黨第十

孔子於テ二鄕黨一ニ恂恂如タリ也。似タリ二不レル能ハレ言フコト一者ニ

鄕黨は家庭にあらず、今の故鄕と云がごとし。一門の在所也。恂々は溫恭信實の貌なり。似不能言者、則恂々の氣象也。似の字いひ盡しがたきの意思あり。至敬文なく、至愛言なし。鄕黨は孔子こゝに生じ、こゝに長じ給ひ、父兄家族こゝに聚るの地也。大人は赤子の心を不失、純一無雜の德容こゝにあらはる。草木の生意春に萠芽するが如し。孝敬に專なる故に、賢知を忘れて謙卑遜順也。溥博淵泉の盛德至善深然たり。事には大小精粗遠近高卑ありて、道に大小精粗遠近高卑なし。事の大なる者は、齊家治國平天下禮樂を制作し、天下の大經を經綸し、天下の大本を立、天地の化育を助る是なり。小にしては身の動靜飮食衣服容貌辭色是也。日用常行の內をはなれず、直に先

天未畫の前に造る。下學して上達す。極高明道中庸の聖學是なり。孔子の郷黨堯舜の事業道にをいて大小なし。堯舜の心空々として明知を以て先達たまはず、諸臣の善言をいれ、天下の言路をひらき給ふと、孔子の郷黨にして恂々として似不能言者と地をかへば同じからん。極高明道中庸の聖心無方無躰無聲無臭也、是をいひがたく是を書記しがたし。しばらく影迹をとゞめて、聖心を其中に寓す。宛然として其時に逢がごとしといへり

其ノ在テ二宗廟朝廷一ニ。便便トシテ言フ。唯タヾ謹メル爾ノミ

便々は辯也といへり、謹と兩事にあらず。便々の中に謹あり。宗廟は禮法の有ところ也。朝廷は政事の出る所なれば、言語明かに辯ぜざることあたはず。しかれども言達してやみ、言すくなくして理明かなること、謹の字を以て知べし。恂々如として似不能言者の至德こゝにをいて暢達す。春に萠芽するの生意、夏に暢茂するが如し。是溥博淵泉にして、時にこれを出すの中庸也。凡人我在所にては多言也。俗にかまど將軍といへり。公界へ出しては用ひがたし、たとひ口才にてものいへども、用ればたがひ、行へば事の害になる事あり。是を以て治世の才古今稀也。聖學の傳たえて、或は文にながれ、或は法になづみ、中庸による者すくなき事久しければなり

朝ニノ與ト二下大夫一言フ。侃侃如タリ也。與ト二上大夫一言フ。誾誾如タリ也

侃々は剛直也。まげ屈する處なく、禮義の有べきやうにのたまふは剛の皃なり。しかれども物の理のまゝにて、我是を立、人を非とする心なく、人情事變に應じて必としたまはざれば、人したがひやすきは直の皃なり。俗に直といへるは有躰にてはあれども、人情事變に不叶、いにしへの愚や直なり。民の病に近し。孔子の直はしからず。無

事にしてすなほなり。此時孔子魯の下大夫たり。同位の人とのたまふなり。誾々は和悦而諍也といへり。上大夫は孔子より尊し、故に長に事るの禮容和悦してうけしたがふ氣象あり。しかれども事の理に當ては、まげて從ひ給はず。和悦の中に直言ありて爭がごとし。侃々は剛外にして和内なり。陰は陽の根となり。陽は陰の根となる。聖人の神德天地の造化に同じ

君在スナハ踧踖如タリ也。與與如タリ也

君在は君出て朝をみる時也。踧踖は恭敬不寧の貌也。與々は威儀中適の貌也。又一說に安舒の貌也といへり。踧踖の後、與々たるに非ず、踧踖の中に與々あり。外よりみれば君前の威儀則に中りて中適也、內よりみれば君を敬ふ禮を盡して本心悅べり。故に心廣く体ゆるやかにして安舒也。恭にして安の一端也。此時魯國三家權を執て君をかろむじ、備物の樣にて實は君の威なし。故に人々心に不畏して敬すくなし、たゞ孔子のみ嚴威ある君前のごとし。心の恭敬面にあらはれ背にあふれ四体に施して不寧なるがごとし。是則威儀の中適なれども、不敬に習たる者の目よりは過たるが如し。是又松柏のしぼめるにをくるゝ所なり

君召メ使スナハレ擯セ色勃如タリ也。足躩如タリ也。揖スルナハレ所ニ與ニ立ニ左ニ右ニスヲ手ヲ。衣ノ前後襜如タリ也。趨リ進ムナハ翼如タリ也。賓退ケバ必復命ノ曰。賓不レ顧セ矣

賓禮は五禮の一にて、禮の大なる者也。中江氏云、一度君命をうけて禮未行時、君に事るの至敬容色動靜にあらは

れて夭々如を變じて勃如躩如たり。下文の襜如翼如節々皆此至敬中より造化し出來といへり。文義集註大全にみえたり

入公門鞠躬如也。如不容。立不中門。行不履閾。

文義集註大全にみえたり。中江氏云、公門高大人身卑少なりといへども、至敬身躰に施して如不容。立とき門に中せざる者は、尊に當て朝廷の體統をけがさんことを恐るゝ也。行とき閾を履ざる者は不恪して朝廷の矩度を踰ことを恐て也。君を去こと遠といへども、なを君をみるごとし

過位色勃如也。足躩如也。其言似不足者。

解集註大全にみえたり。中江氏云、君不在といへども、君の座のほとりを過給ふ時は在がごとし。其敬の面にあらはるゝ者勃如として其の常を變ず。歩趨に見るゝ者躩如として不敢寧議政の際にをいては、敬有餘言如不足。しかれども言を殘し給ふにはあらず、言達して少きのみ

攝齊升堂鞠躬如也。屏氣似不息者。

解集註にみえたり。敬至り氣靜也。故に息微細にして、出入を不覺がごとし

出降一等。逞顏色怡怡如也。沒階趨翼如也。復其位踧踖如也

諸侯の堂七尺七級也といへり。君所を去て階のきざはし一級を下り給へば、氣を舒べ顏を解て和悦の色あり。階の

あがりおりは靜也。おり盡しては君邊にて遊山らしくありくは無禮也。足ばやに本所に行也。しかれども兩手翼如として敬存す。其座に歸着て、猶恭敬不寧の躰あり。君を敬する心間斷なし

執テレ圭ヲ鞠躬如タリ也。如シレ不ルガレ勝ヘ。上ルコト如クレ揖スルガ。下スコト如シレ授クルガ。勃如トシテ戰色アリ。足蹜蹜トシテ如シレ有ルガレ循フコト

觧集註にみえたり。孔子君命を受て隣國に使し給ふ。君に代て和を脩む。禮の大なる者也。中江氏云、孔子一度君命を以て命圭を捧着し給へば、頂より踵に至まですべて君用也。其至敬躬にあらはるゝ時は、鞠躬如たり。圭かろけれども重きがごとし。圭を執の手容にあらはるゝ時は上る事揖するがごとく、下ること授るがごとし。顏色にあらはるゝ時は勃如として戰色あり、壯にして懼るゝ皃なり。足容にあらはるゝ時は蹜々として循ことと有がごとし。手中に圭ありてもすそをかきおさむること不能、故に前をあげ踵をひいて地をはなれず、つまづきて圭をおとさんことを恐ればなり。夫和を脩るは、敬の溢る所也。和敬に出ざるときは眞實の和にあらず。故に始ありて終なし。諸侯の聘禮互に夫子の如くならば、そむき乱るゝ事有べからず

享禮ニハ有リ二容色一

命圭を執て信を通ずるは、君に代て事を行ひ給へば、敬餘ありて和其中に存ず。此禮終て後、音信物の品々庭に陳て使者の禮あり。此時は和專にして、敬其中に存ず。故に容色あり

私ニ覿ナハ愉愉如タリ也

使者の禮終て後、孔子自分の土産を以て他國の君に見ゆる禮あり。今日本にても家老を隣國へ使者としてつかはすときは如此。古禮の名殘とみえたり。此時は使者の禮よりはいよ〳〵ゆるやか也。故に愉々如たり。中江氏云、圖解云、敬以盡禮、和以通情、享禮は君の情を通ず、故に至敬溢て氣を發し容を盈るの和と成て容色あり。私覿には使者の情を通ず、故に容色の和あまり有て愉々如たり。我君の情使者の敬にもあらはるゝ所なり

君子ハ不下以テ二紺緅一ヲ飾上セ。紅紫ハ不三以テ爲ラ二褻ノ服一ニ

解集註大全にみえたり

當テレ暑ニ袗ナル絺綌必ズ表ニノ而出レス之。緇衣ニハ羔ノ裘。素衣ニハ麑ノ裘。黄衣ニハ狐ノ裘。褻ノ裘ハ長シ。短ス二右ノ袂一ヲ。必ズ有リ二寢衣一。長キコト一身有半。狐貉ノ之厚キ以テ居リ。去テレ喪ヲ無レ所ロレ不ルレ佩ヒ。非レバ二帷裳一ニ必ズ殺グレ之ヲ

解集註にみえたり。衣服は人道の禮儀、身の文章也。又時處位あり

羔裘玄冠不ニ以テ弔一セ

解集註にみえたり。吉凶禮ことなれば服も又異なり。むかしは日本にても此禮ありしとみえたり。昔は衣服の數す

くなくて禮儀みだれず、後世は衣服數多くして禮わかたず、式不行故也。今は君子といふとも此禮わかちがたし。又時也、處なり。戰國以來禮式すたれたること久しければ也。式をおこすことは大事也。古今人情事變に通じ、學力本才かねたる人ならではなしがたし。この故におこりがたきとみえたり

吉月ニハ必ズ朝服シテ而朝ス

集註に吉月は月朔也。孔子魯に在て致仕の時如此といへり

齊ニハ必ズ有二リ明衣一。布ナリ。齊ニハ必ズ變レズ食ヲ。居必ズ遷レス坐ヲ

潔齋に入の日、沐浴して明衣を下に着也。今さらし布を用とみえたり。精明の德を致さんと欲して、身躰までを明潔にする者也。變食は酒を不飲は心をくらまさんことを恐れて也。五辛を不食は神をけがさんことを恐れてなり。壯なる者は相火を助け、精をまし、情欲を動すべきたぐひの食は忌也。寒氣の節、寒にたへざる者は心のみだれざる程あたたまるばかりに酒を飲ことはくるしからず。此時は寒の相手ある故に、其補ばかりにてやむなり。さもなきに酒を用れば心をふすぶるのみならず、情欲をうごかさんことを恐るゝ也。遷坐は外居に出てねおきする也。万事改るによりて、心氣も改る故なり。夫祭は神明にまじはらんとす、故に齋す、齋は精明の德をいたす者也

食ハ不レ厭ハ精ヲ。膾ハ不レ厭ハ細ヲ

解集註にみえたり。不厭の二字必とせざる意みゆ。食は体の養なれば、同じくは食はよくしらげ、膾はよくほそき

がよきと也。中江氏云、夫形は生の舍也、氣は生の充也、神は生の主本也。三の者皆養所あり。形を養には飲食を以てし、氣を養には直を以てし、神を養には貞を以てす。貞直は本にして飲食は末なり、本末養備て其生を全すべし。たとへば草木の如し、其本を培養して其末を灌漑する時は、根固して枝葉暢達すといへり。聖人は德厚く道高し、故に飲食の養を云て、道德の養ひ其中にあり。賢人は道德聖人に不及、故に德性の養を云て、飲食の節其中にあり

食ノ饐ノ而餲セル。魚ノ餒テ而肉ノ敗タルハ不レ食セ。色ノ惡キ不レ食セ。臭ノ惡キ不レ食セ。失ヘルレ飪ヲ不レ食セ。不ハレ時ナラ不レ食セ

解集註大全に見えたり。飲食は人を養ふ物なるに、却て人を傷るに至る者あり。饐より臭惡までは其甚しき者也。失飪は烹とゝのふる所、或は過、或は不及、其中を失也。不時は天の生ずる造化の常に非ず、人作を以て珍敷を賞翫するは、造化の工をうばふ也。又は人道政教をあやまりて、天地の節時ならざれば不時に生ずる物もあり。皆食すべからざる物也。又造化の常といへども其物々の生をとぐる節あり。瓜のをのれと落たるは風味よきがごとし、魚尺にみたざれば市にひさがざるも此たぐひ也。聖人は造化の工用を助て、万物其生をとげしめ給故に、いまだ生をとげざる物は食するに不忍意有べし

割メ不バレ正カラ不レ食セ。不バレ得ニ其ノ醬ヲ不レ食セ

物によりて切やうあり。切やうあしければ風味も又よからず。其物のきりめにたがひたるを不正といへるか、方正の義取あやまる者ありとみえたり。醬よろしき所有と同意なり。天の物を生ずる、草木の枝葉魚鳥の形に至まで方正と云ことなし。其形を備たるを方正とすべし。なますさしみなどはほそくかろく作りたるよし。是方正の形にあらざれども、其料理の仕形養に叶へば、是をきりめ正と云べし

肉ハ雖ヘドモレ多シト不レ使メレ勝ニ食ノ氣ニ。惟酒ハ無シレ量リ不レ及バレ亂ニ

朝夕の食汁さいも藥の君臣佐使の如し。食は君藥也。故に食を本とし食して、汁さいは食物の助とする也。しかるに今時食は湯取食などゝて正味を責ぬきかろくやはらかにして、魚鳥を多く食するは誤り也。客の馳走に汁さい數をすることは、すききらひいづれとしらざれば、うかゞひてすること也。數々皆食すべきにあらず。故に食の氣に不勝やうに食し給ふ也。養生の本を不忘して、口の味にまかせざる也。酒は上戸中戸下戸、各別なる生付也。故に分量は定がたけれども、人々自身の分量あり。乱に不及を分量とすべし。乱の字酒狂ごときの心の乱にあらず。心乱るゝ時は、言も不常。是は一向凡人の事也。醉狂は乱の後也。此乱は氣血の乱なり。よき程にのめば、氣血を潤して良藥なり。過れば却て氣血をやぶりて病を生じ、毒藥となれり。人々自考知べし

沽酒市ノ脯ハ不レ食セ

解集註にみえたり。うたがはしき物は食したまはざるなり

不ㇾ撤ㇾテ薑ヲ食ス。不ニ多ク食一セ

解集註にみえたり

祭ニ於テ公一ニ不ㇾ宿ㇾセ肉ヲ。祭ノ肉ハ不ㇾ出ニサ三日一ヲ。出ニセバ三日一ヲ不ㇾ食ㇾセ之ヲ矣

解集註にみえたり

食ニ不ㇾ語セ寢テ不ㇾ言ハ

食する時物がたりし、いねてものいふは小人のありさま也。士君子の樣躰にあらず。いかんとなれば、食しながら物語するはみぐるし。いねてものいふは其時に非ず。陽動の時には起て言行し、陰靜の時にはいねて休息す。天地陰陽と共に動靜す。しかるにいねていふは、靜時の事にあらず、用あらば起ていふべし。凡人は好惡の凝滯胸中に有ゆへに、食に當ても默すること不能、いねてもね物語する也、無欲にして靜に樂める君子の氣象にあらず。中江氏云、飲食は口より入、言語は口より出、出入時を同せず。故に不ㇾ語。言は心の聲也。夜寐に方ては衛氣陰經を行神明水臟に入、ものいふときは氣升神發して、其常を失す、故に不言

雖ニモ疏食菜羹瓜一ト祭ル。必ズ齊如タリ也

解集註にみえたり。本に報るの義、兼ては稼穡の艱難を思ふの意あり。日本にても五六十年以前まで祭たる人ありといひき、今も古風の所にはあらんか

席不レバ正カラ不レ坐

解集註大全にみえたり

鄕人ノ飮酒ニ杖者出レバ斯ニ出ヅ矣

解集註にみえたり。孔夫子老者を尊び給ふ意を知べし

鄕人ノ儺ニハ朝服ノ而立ニツ於阼階一ニ

集註備れり。或說一入面白し。聖人の至孝死生幽明へだてなきの至誠を知べし

問ニヘバ人ヲ於他邦一ニ。再拜ノ而送レル之ヲ

集註大全備れり

康子饋レリ藥ヲ。拜ノ而受レク之。曰ノ。丘未レダ達セ。不ニ敢テ嘗一メ

解集註にみえたり

廐焚タリ。子退レテ朝ヨリ曰。傷レヤ人ヲ乎不レ問ハ馬

馬屋の失火には、馬の安否を問こと常人の心也。夫子は馬をすくふによりて、人のあやまちせんことを恐て、先人を問給へり。しからばたふる者、人はけがもなし、馬もつゝがなしといふべければ、重て問給ふに不及勢也。又

一四四

傷ルレ人ヲ乎不ト云テ問フレ馬ヲと云説あり。かつて馬に不及と云は過たり。人を先にし、馬を後にし給ふことは言外にみえたり

君賜ヘバレ食ヲ必ズ正シレ席ヲ先ヅ嘗ムレ之ヲ。君賜ヘバレ腥ヲ必ズ熟シ而薦ムレ之ヲ。君賜ヘバレ生ヲ必ズ畜フレ之ヲ。侍ス二食ニ於君一ニ。君祭レバ先飯

解集註大全にみえたり

疾ノ君視ルナハレ之ヲ。東首ノ。加テ二朝服一ヲ拖クレ紳ヲ

解集註大全に見えたり。疾を問、喪を問にあらずして、君臣の家にいたるは、君臣たはふれをなすといへり。後世の御成御申などは非禮の禮とみえたり。ことの外の費にてもあり。大禮なれば費も尤なれども、非禮の費をやめて窮民をすくひたき者也

君命ノ召スハ。不ノレ俟タレ駕ヲ行ク矣

解集註にみえたり

入テ二大廟一ニ毎レ事問フ

重出といへども、此篇なれば重出にもあらざる歟

朋友死ノ無レバレ所レ帰スル。曰ノ。於テレ我ニ殯セヨ

解集註大全にみえたり。我夫子朋友の信にをいて、情の厚き事、世の不及處をみるべし

朋友ノ之饋。雖モ二車馬ト一非レバ二祭肉ニ一不レ拜セ

解集註大全にみえたり

寢テ不レ尸セ。居テ不レ容セ

解集註大全にみえたり

見テハ二齊衰ノ者ヲ一。雖モレ狎タリト必變ズ。見三冕者ト與ヲ二瞽者一。雖モレ褻タリト必ズ以スレ貌

解集註にみえたり

凶服ノ者ニ式ス之。式ス二負版ノ者ニ一

解集註大全に見えたり

有レバ二盛饌一。必ズ變ジテレ色ヲ而作ツ

解集註大全にみえたり

迅キ雷チ風烈ケレバ。必ズ變ズ

とき雷はげしき風は通例に過たる也。通例の風雷は天地造化の功用也。過るは天の怒あり。父母怒る時は、子たる

一四六

者其身の事にあらざれども顔色容躰常を變じ、愼でかたはらに侍るべし。天地は大躰の父母也。ことに聖人は天地を師とし給へば、天の怒は孔夫子の身にあづかり給はざれども、敬して容貌を變じ給ふ。意あるに非ず、自然の感通なり

升車必正立執綏。車中不內顧。不疾言。不親指

解集註大全にみえたり

色斯擧矣。翔而後集

解集註にみえたり。末に夫子の語を記すべきための序語なるべし

曰。山梁雌雉。時哉時哉。子路共之。三嗅而作

雉子は羽毛に文章あり、故に十二章に入たる鳥なり。雌は伏なり、文章ありて伏し隱るゝ者也。草木のかくるべき便なき平地に伏ても、塊の樣にて羽毛の文もみえざる者也。孔子の時分、天下道なければ、君子は才德をかくして居べき時也。潛龍勿用といへり。山梁は山路にかけたる橋也。谷川などにわたせるなるべし。こゝに雉子の出たるが、人の來る氣色をみて、たちあがりかけめぐりて後、くだり止たるが伏たるなるべし。夫子是を見たまひて、君子の機を見て作し、日を終ることを不俟、龍德にしてかくれたるに相叶たることを思召あはせられて、時哉〳〵と嘆じ給へり。今の時、才德ある人は如此なるべしと也。子路其意をさとらずして、時の物とのたまふと思ひて、伏

雉をとらへんとす。雉三度鳴て飛去たるなり。嗅は憂なり、雉の鳴也といへり。或説に仁者の楽は山也。無欲にして心を不動象にとれり。梁はよく人をわたす。物を成は知也。仁知ある君子といへども、時にあはざればかくれて用をなさゞる象なりといへり。孔夫子此心ありてのたまふにはあらず、今みれば此象あり。論語上篇、時習を以てはじめ、時哉を以て終る、其奥義默識すべし

論語小解

先進第十一

子ノ曰。先進ノ於ニル禮樂ニ野人ナリ也。後進ノ於ニル禮樂ニ君子ナリ也。如シ用ヒバレ之ヲ則吾レハ從ハンニ先進ニ

先進後進は、先人後人先覺後學といへる同じかるべし。進ノ字を用る者は、夫レ孝ハ天ノ之經ナリ。地ノ之義ナリ。民之行ナリの行の字の意也。天行健ナリ。君子以テ自ラ彊メテ不レ息マ。人は皆自新の性あり、日新にしてやむべからず。ゆく者は川流のごとし、晝夜をとゞめず。是人の性也。造化と同躰也。故に民の行なりとのたまへり。聖學の淵源也。先覺の禮樂にをけるは實餘りありて、文備はらず。後覺の禮樂にをけるは、文備はりて、實見たず。後世文備の時より見れば、先覺は野人に近し、後覺は風流に近し。時の人是を君子といへり。野人は德に近く、君子は才に近し。篤恭にして天下平なるは禮樂易簡也。後世文備の君子にくらぶれば、質素にして野人のごとし。今書を講ずるも、道理明白なれば、文字訓詁故事等をいふにいとまなし。這理明白ならざる者は、訓詁にくはしく、故事をひくこと多きがごとし

天氣清明なれば、日月星辰かゝりて寒暑晝夜あり。物に生活枯瘁あり。人に富貴貧賤あり。地に水火土石ありて風雷雨露の化あり。幽に鬼神あり。明に禮樂あり。燦然たる文理明かにしてまどひなし。文武禮樂の本也。伏羲氏の時、いまだ屋宅なく、衣冠なく、禮度期數なし。字書なしといへども、天高く地卑して上下の敎明か也。初て⚍の畫を作て四象を生じ、四象八卦をなし、八卦六十四と成て天地人三極の道あらはれ、万物の情を盡し、物を開き、務を成。⚍は兩儀也。兩儀は太極より生ず。初めて五十絃の瑟を作て天地神明の徳に通ず。雍容平淡の雅音を樂て、四時五行の化育を助く。伏羲氏既に天下に君たる時は、諸侯あり、士庶あり。文いまだあらはれずといへども、時に宜き禮樂あり。夫禮は義によりて制す。義は宜也。故に政は禮を以て成といへり。後世の禮は多くは法に近し。文過て時に宜しからざれば禮實衰へぬ。實衰たるを以て、却て禮樂備りて君子なりといへり。なを集註程子の說に見えたり○如用レ之……、時に孔子を用ひて政をなさしめ給はゞ、先進の質素にしたがひ給はんと也。周の代の始は、天地開てよりこのかた物おほく出來て澤山なる時也。それを其まゝにて平生に用れば、人民皆樂に流し、務にをこたり、善をせず、禽獸に近し。故に時の聖賢禮樂盛に用ひて喪祭の爲に此多物を損じ、孝を鬼神に用ひて善をなし、務にをこたらず。物盛衰あり。周の末五百歲の後に及ては、聖賢の君も出給はず、人道造化を助けざれば物すくなく用不レ足。此時に物澤山なりし時の禮を用ゆべからず。又太古質素の風によるべし。是先進の野人を思ひ給ふ時也。問、しからば周にしたがふとのたまふは何ぞや。云、孔子位を得給はず。禮樂を損益し給ふべからず。時いまだ周の末也。故にしたがひ給ふ也。しかれども純は儉せり、衆にしたがふの言を以て其奥意を知べし。たとひ孔子

時を得給ふとも、俄に儉約をなし給はじ。多年の驕奢によりて產業とする者おほし、急に是をやめ古風にかへさんとすれば、困窮の者多し。左樣の者迷惑せざる樣に、下地をよくして後、風をうつすべし。是又時に損益すべくして、しばらく周にしたがふの義也

子ノ曰。從ニシ我ニ於陳蔡一ニ者ノ。皆不レ及レ門ニ也

解集註に見えたり

德行ニハ顏淵閔子騫冉伯牛仲弓。言語ニハ宰我子貢。政事ニハ冉有季路。文學ニハ子游子夏

是孔子の言にあらず。陳蔡に從ひし人の中にて長じたるを十人あげていへり。十哲は俗說なり、程子の說に見えたり

子ノ曰。回ハ也非ニ助クル我ヲ者一ニ也。於テ吾ガ言一ニ無シ所ロ不ル說

解集註大全に見えたり

子ノ曰。孝ナル哉閔子騫。人不レ間セ於其ノ父母昆弟ノ之言一ヲ

解集註に見えたり

南容三ビ復ス白圭ヲ。孔子以テ其ノ兄ノ之子ヲ妻ス之ニ

解集註にみえたり。生付て言すくなき者を俗に無口者といへり、愼レ言にはあらず。左様の人内に思慮多き者あり、よきにはあらず。生付無口にはあらで、言を愼は精神を収斂するの第一なり

季康子問。弟子孰爲レ好レ學。孔子對曰。有二顏回者一好レ學。不幸短命死矣。今也則亡

解集註に見えたり

顏淵死。顏路請二子之車以爲一レ之椁。子曰。才不才亦各言二其子一也。鯉也死有レ棺而無レ椁。吾不三徒行以爲二之椁一。以三吾從二大夫之後一不レ可二徒行一也

解集註に見えたり。孔夫子の意は末の章、回也視レ予の語意にあらはれたり

顏淵死。子曰。噫。天喪レ予天喪レ予

解集註に見えたり

顏淵死。子哭レ之慟。從者曰。子慟矣。曰。有レ慟乎。非二夫人之爲一レ慟而誰爲

顏淵死。門人欲厚葬之。子曰。不可。門人厚葬之。子曰。回也視予猶父也。予不得視猶子也。非我也。夫二三子也

解集註に見えたり。此語を講じながら、後世の學者、家に過、國所に過、時に叶はずあつき葬をなせり。終に大道を亡して、異學をみちびくことをしらず

季路問事鬼神。子曰。未能事人。焉能事鬼。敢問死。曰。未知生。焉知死

此人は賢人君子也。君子につかへて悦びらるゝ道ある人ならば、祭祀に事へて鬼神の感格あるべし。たとひ君父凡人なりとも、性命の君父につかふる時は人につかふるの道を盡す也。人鬼ともに誠の道を盡す時は二あらず。生は人の人たる處の理也。理に明かなる時は、幽明死生一貫の義、晝夜に通じて知べし。生の理明かならずして、死をしらんとせば、くらきよりくらきに入の迷あるべし。太虛天地の理、生々不息なるは我本躰也。我本不來。歸るべき所なし。此身心中に生死すること、太空に雲の聚散するがごとし。雲の聚散のみを見て、太空を忘れたる者、聚を生とし、散を死として、死後をうたがふ者也。太空我常躰なることを知たる者は聚散に心なし、形に生死ありて、心に生死なし。何の不審もなき事也。雲に聚散ありて、太空に聚散なきがごとし

閔子侍側。誾誾如也。子路行行如也。冉有子貢侃侃如也。子樂。若由也不

レ得二其ノ死ヲ一然リ

誾々は和悦にして剛直也。德氣深厚文武を兼たる氣象也。行々は進でたゆまざる氣象なり。過を聞て悅べる所也。侃々は剛正の氣象也。みな聖人の一德あり。故に孔夫子英才を得て敎育することを樂み給へり。子路戰國につかへて勇に過たれば、其死を得ざるの憂あり○或人問、子路氣質に凶死の命を受たりや。云、此理あり、其上に勇を好に過て變化することあたはず。氣質を變化する時は凶死の命、共に變ずる理あり。然の字此意味あり。性也命あり。君子は命をいはず。命は己によりて立理あれば也。世間に命なりといふ者は、おほくは巖墻の下に立者也。問、しからば孔子何ぞ凶死の命を可レ變ことをかねて敎へ給はざるや。云、由ガ瑟奚シゾ爲二於丘ガ之門ニ一。暴虎馮河ノ死スレ而無レ悔者ノ吾レハ不レ與也。等の語みな其敎也。問、子路過を聞ことを悅べり。何ぞ其敎にしたがはざるや。云、勇は君子三達德の其一也。子路の勇は人の及がたき事おほし。善なるが故に、過を改ることを急にせず、凡情躰に近き過は速に克去べし。問、無道の君につかへて一命をいたせるは何ぞや。云、其時分天下有道の君なし。士は仕ふべき者也。孔子の仕へ給ひしも有道の君ならず。人は五倫をはなれず。天下無道なればえらびがたし。魯人獵狢すれば、孔子も獵狢す。獵狢の非は少き也、朋友は天倫なれば絕べからず

魯人爲二長府ヲ一。閔子騫ノ曰。仍ラバ二舊貫ニ一如之何ン。何ゾ必シモ改メ作ラン。子ノ曰。夫ノ人不レ言ハ。言ヘバ必ズ有レ中ルコト

藏に儲蓄の藏あり、聚歛の藏あり。たくはへと云は、水旱饑饉の爲、又は戎狄兵難の爲、すべて國民のためにたくはへて、上の私の蓄にはあらず。聚歛と云は、上に財用を好むため奢の用、すべて欲ありて下を損じ、上に益の謀なり。人民の爲の藏なれば、破損して五穀に害ある時は不レ得レ已して修理すべし。今貨財の藏を改め作る事は、聚歛を事とし、利を崇の意也。故に閔子民を勞し財をやぶることをいためり。後世は民の饑饉をすくはん爲のたくはへなければ、饑饉して餓死多しといへども施すことあたはず。藏々に五穀ありといへどもあてゝする意異なればなり〇子曰、夫ノ人云々天地ノ万物收歛を主とす、發散は不レ得レ已といへり。言語は發散の第一也。不言はよく精神を收歛する也。言必ず理に中るは無心の發散也、放心せずして應ずる也。春二月、雷始て發するがごとし。雷天大壯造化自然の理也。万物時に發す、聖賢の言同じ

子ノ曰。由ガ之瑟奚ンゾ爲ニ於丘ガ之門一。門人不レ敬セ子路ヲ。子ノ曰。由ャ也升レリ堂ニ矣。未ダレ入ラニ於室一也

集註大全に、家語說苑等を引といへども、附會の說と見えたり。惣じて宋朝より以來、程子朱子を始として古樂は絕たりと思へるにや、學びられざりしと見えて、音律にはくはしからざること多し。理を以ていへるばかり也。其中にも周子は樂にも通ぜられたる所見えたり。樂は學びずして、道理ばかりにてをしてはしられぬ者也。子路の瑟孔門に皷すべからず、とのたまへるには、舜の南風紂が北鄙のごとく、樂たがひたるにはあらず、樂は同じく孔門の樂なり。たゞ其爪音に心の隱微發する者也。子路勇强に過たる所より、北風殺伐の音に近き聲出たる也。螳螂の

蟬をうかゞふを見てだに、爪音に殺聲出たるといへるにて知べし。樂は神明の德に通ずる故也。我心の正邪毫厘の微といへども、其爪音にあらはれ、其身の人がらまでもしらるゝ事なれば、常に明師に親炙するがごとし。故に君子故なければ琴瑟身をはなたず○門人不レ敬云々升レ堂ニは道躰の正大高明に及べり。未レ入ニ於室ニは精微中庸の奥に入て氣質變化の受用不レ至ラ也。正大高明は見所多し、故に麁率の氣いまだ不レ除といへども、凡人にはあらず。是を五穀にたとふるに、外皮ぬげて糠のとれるがごとし。精微中庸は入德の功也。故に氣質の偏凡習共に變化し盡る也。是を米にたとふるに、糠みなぬけて生意の精味に至るがごとし。問、いにしへの瑟と今の箏といかん。云、伏犧氏初めて瑟を作給ふ。瑟は潔也。其心を清潔にし、其内を淳一にす。又瑟は閉也。忿を懲し、慾を窒ぎ、人の德を正すといへり。大なるは長さ七八尺、或は五十絃、或は四十五絃、後世の瑟は二十五絃、或は十九絃といへり。堯舜より孔子の時までの瑟は、多くは二十五絃也。秦人是を二にして十三絃とす。故に今の瑟を秦箏といへり。五十絃二十五絃十三絃、音律におゐてかはりなき道理なり。初學か六藝にのみ達せる人ならば、如此はのたまふべからず。爪音にあらはるゝ處の瑟聲におゐて、其心の化せざることを格し給ふは、子路なればこそのたまへり。他人の及ぶべき處にあらず

子貢問フ。師ト與レ商也孰レカ賢レル。子ノ曰。師ヤ也過タリ。商ヤ也不レ及。曰。然ラバ則師愈レルカ與。子ノ曰。過タルハ猶レ不ルガレ及バ

才知衆に越て、高明を好む者は常に過る事おほし。忠信にして知不レ足者は不レ及、しかれども篤實の行あり。高明

を好む者は中に過、篤實なる者は時に中することあたはず。高明の生れ付にて忠信を主とし、篤實にして時中を知ル者は中行の君子也。孔子終り給ひて子夏に學べる者、孔子といふとも是に過べからずといへり。詩の大序小序を見るに、後世の人及ぶべきにあらず。孔門の不及といへる人を知べし

季氏富メリ於周公ヨリ。而求也爲之ガ聚斂メ而附益ス之ヲ。子ノ曰。非ズ吾ガ徒ニ也。小子鳴鼓ヲ而攻テ之ヲ可ナリ也

周公は周公旦にあらず。孔子の時は周の末なり、周朝の三公をさしての給へり。三公は百里の國をうく、兵車千乘也。季氏百乘の家にして、千乘の富に越たるは、君の地をうばひ、民をむさぼりての事也。しかるを冉求これを助けていよ〳〵富しむるは桀を富しむる也。しかれども後世の聚斂の臣の樣に、賦税を急にし、民を刻剝して益にはあらず。凡人は才知かしこき樣なれども、財を生ずる道をしらざる故に、生ずべき物生ぜず、或は中にてすたるもの多し。冉求は財を生ずる道を得たれば、民も前よりは富足て賦税多し。冉求去ば賦税のましたる事ばかり殘りて、財を生ずる道はなくなるべし。しからば民間困窮すべし。是惡を後に遺す也。其上季氏仁政を行はず、驕奢の小人を富し、ます〳〵其欲を長ずることとなればかくのたまへり

柴ヤ也愚ナリ

愚は知不足にて行篤きを云也。狷者の類也。家語に子羔の故事あり、見て知べし。世間の愚痴不肖にはあらず。世

間の愚痴不肖はくらくまどひて行跡もよからず。善人のえらびに入て愚と云にもたらず。爰に五六人あげ給ふは善人の中にて氣質の品々をのたまへり。次の章に善人の道あるにても知べし。平人より賢人君子と思ひて感ずるは狷者也。時に中する知不足なる故に、篤く道を信じて、行正しければ也。狷者にも高下淺深あり。溫公などは狷者の高き者也。今も人のほむる者にはまれに狷者下地なるあり。狂者は、知聖人に及べども受用を事とせず、行跡あらければ平人より見ては凡人同前に思ふ者也。中行の賢人は時に中する故に、平人よりは何ともみえぬ者也

參也魯ナリ

魯は遲也。不明にあらず、一を聞て十を知ごときの敏なる生付にてはなき也。文字よみを習て受取のをそき様なるを云也。過ちて瓜の根を切たる時、父の大杖をあげたるを見て不レ退躰の事也。聖學を受用して氣質變化したる時は、愚も必ず明かに、柔も必ず强也。況や魯は愚にあらず、終に大賢の地位に至れる人也

師也辟ナリ

辟は偏辟也。高きに過たるは地の偏辟、山の嶮岨なるがごとし。畿内中國の山はなだらか也。田舍の山は嶮岨也。無欲偏僻の者、凡人の目よりは賢者とも道者とも見ゆるがごとし。しかれども聖人中行を師とし學ぶ時は、其偏僻も道に入の力量となる者也

由也喭ナリ

一五八

喭は野人風也。勇氣過たる者おほくはしかり。上らふ風にてけだかく、知仁勇兼たる人は中行の君子也。子路も君子なれども、いまだ中行にいたらざる故なり

子曰。回ハ也其レ庶ラン乎。屢空ナリ

此子曰の二字、柴ハ也愚の上に在て、賜不レ受レ命ヲ而云々まで通じて一章たるべし。庶乎は一時化して聖となるに近き也。是顔子の終に近き年なるべし。孔子の心地は空々如たり。思ふべくして思ひ、爲べくしてなす、春秋の氣の空中に生ずるがごとし。神明不測天と同躰也。顔子不レ遠して復す、不時の思ひありといへども、一念の微を照して空々の常体に復す。問、顔子不時の思ひ如何。云、吾人にありて善念也。善なれども、時ならざるは心の本躰にあらず。問、如此は異學の流に似たり。云、異學といへども聖學の眞をかれり。今盲者の平家に琵琶をかり、つくしに箏をかるがごとし。異端にかりたるとて、聖作の箏琵琶をすつべからず。聖學の眞をば異端にかしあたへて、吾聖學は糟粕を取て卑近のみを儒學とするはひがめり

賜不レ受レ命ヲ而貨殖ス焉。億ルスハ則屢々中ル

士農工商は天命の自然也、逢に順てなすべし。子貢時に其心に仕ふべきと思ふ君なし、農工は其下地なし。しかれば商の業をなせることそしるべからず。才知多き人なる故に、天命の自然をまたず、思慮を以て行ふべき事あり。しかれども知あるゆへに、いへること行へる事によく中ることおほし。左傳、定公十五年に、邾子と魯公との禮容を見て、死亡をいへる類なり。不知不才なる者はつとめてなすべき事をも懈りて、天命次第といひて、時を失ふこと

おほし。才知ある者は不レ得レ已して才知のはたらきを以て、作爲する事多し。氣質にひかるゝ處也

子張問二フ善人ノ之道一ヲ。子ノ曰。不レ踐レマ迹ヲ。亦不レ入二ラ於室一ニシモ

心に思ふ事、身に行ふ事、皆善にして、惡の方へは假初にもゆかざる人を善人と云、凡人を出るの初也。學力にてそれ程に至りたる者ば各別によし。善人はさのみ學力にもよらず、氣質仁善也。子產など善人也。尤學力もあれども、仁善にして知もあれば、さのみ聖賢の跡にもよらず。行事大方時處位にかなふといへども、聖學の心法を受用せざれば精微中庸の奥には不入者也

子ノ曰。論篤是レ與ミセバ。君子者ヒトカ乎。色莊者カ乎

人心の靈にて、凡夫なれども、いふ所理に中ることあり。文才あり、問學したる者は行跡あしけれども、いふことは親切也。故に言のよきを以て、其人を取べからず。又行跡あしければとて言のよきをば捨べからず

子路問フ。聞クマヽニ斯レ行ハンカ諸。子ノ曰。有二リ父兄在一スコト。如之何ンゾ其レ聞マヽニ斯レ行ハンレ之。冉有問フ。聞クマヽニ斯レ行ハンカ諸。子ノ曰。聞クマヽニ斯レ行ヘレ之ヲ。公西華ガ曰。由ヤ也問ハク。聞クマヽニ斯レ行ハンカト諸。子ノ曰。有二リ父兄在一スコト。求ヤ也問ハク。聞クマヽニ斯レ行ンカ諸。子ノ曰。聞クマヽニ斯レ行ヘトレ之ヲ。赤ヤ也惑ヒヌ。敢テ問フ。子ノ曰。求ハ也退ク。故ニ進レムレ之ヲ。由ハ也兼レヌレ人ヲ。故ニ退レクレ之ヲ

解集註に見えたり

子畏ニス於匡一ニ。顏淵後レタリ。子ノ曰。吾以レテ女ヲ爲レキ死セリト矣。曰。子在ス。回何ゾ敢テ死ナン

解集註に見えたり。陽虎匡人にあたをなせり。孔子の貌陽虎に似たる所あり。其時陽虎と同道せし者、孔子に從へり。故に匡人あやまりて陽虎とし、衆を發して圍たり。時に大風おこりて取卷たる者を吹倒せり。おどろきて見れば陽虎にあらず。匡人辭して退きたりといへり。或問、如此天の助あらば陳蔡の難に七日食を絶給ひし時、何ぞ穀のふらざるや。云、是神明不測也。必ず又穀をふらするごとき事は左道の邪術也

季子然問フ 仲由冉求ヲ可シレ謂フ二大臣一ト與ヤ。子ノ曰。吾以レテ子ヲ爲シキ二異ナルノ之問一ト。曾テ由與カレ求之問ヒカ。所謂ル大臣ハ者以レテ道ヲ事ヘレ君ニ。不可ナルトキハ則止ム。今由ト與ハレ求也。可レ謂二具臣一ト矣。曰ク然バ則從ハンレ之ニ者與カ。子ノ曰。弑スルニハ二父ト與ヲ一レ君亦不レ從ハ也

解集註大全にみえたり

子路使下ムニ子羔ヲ爲ラ中費ノ宰上。子ノ曰。賊フ二夫ノ人ノ之子一ヲ。子路曰。有二民人一焉。有二社稷一焉。何ゾ必シモ讀テレ書ヲ然ノ後爲ンレ學ト。子ノ曰。是ノ故ニ惡ムニ夫ノ佞者一ヲ

諸說に、子羔を質美にして未ダレ學ビといへるはいかゞ、學は孔門にて同じく學びたる人也。常人の變は知ことのかた

きにあらず、行ふことかたし。子羔は行ふことかたからず。孔門にてきける所の、心に入たる事は皆能行へり。却て篤きに過たる行おほし、狷者の質也。成と云所に、兄死して喪をつとめざる者あり。子羔成の宰となれると聞て、喪をつとめたり。其外明言も多し、學にもくはしき人也。費と云所は風俗あしく治めがたき所也。故に子路有德の人なれば、子羔を遣して化せんと思へり。しかるに孔子許し給はざるは、子羔をもそこなひ、費人をもそこなはんと思ひ給ひて也。子羔のごとき厚重篤實の人は事をとらせず、諸士の上に置、其下に才藝ある者をそれぞれに付て治めしむれば國ゆたか也。費は惡人多し。惡人には才知かしこき者多し。其惡人の才にまさりて知あり、事可にあたらざれば侮りて不用。後世は人の能いふ者か、人がらよき者なれば、あげて役儀を命ず。故に其才器其役儀に叶はざる者あり。この故にあたら人ずたれ、其事不成。是孔子のゆるし給はざる處也。或問、民人社稷あり、何ぞ必ず書をよみて學とせん、といへる時は、子羔未學といへる註尤ならずや。云、子路の心に學未熟と思召てのたまふと思へる故にかくいへり。諸書におゐて、子羔の言行を見るに未學といふべからず。子羔の才費の宰にあたらざる故はのたまはで、子路の心の非を敎給へり。佞は今の理屈也、道理に似て道理にあらず、利口にまかせて人をいひつむる樣にする也。道理は八々の數也。理屈は九々の數也。八々は一を太極に歸して無盡藏也。ゆるやかにしてせまらず。九々はひしとせまりたる數也。貴賤ともに道なき世に尊ぶは理屈也。故に長久ならず。乘除の算也

子路曾晳冉有公西華侍坐。子曰。以吾一日長乎爾。毋吾以也。居則曰。不吾知也。如或知爾。則何以哉。子路率爾而對曰。千乘

之國。攝乎大國之間。加之以師旅。因之以饑饉。由也爲之比及三年。可使有勇且知方也。夫子哂之。求爾何如。對曰。方六七十如五六十。求也爲之比及三年。可使足民。如其禮樂以俟君子。赤爾何如。對曰。非曰能之。願學焉。宗廟之事如會同端章甫。願爲小相焉

解集註に見えたり

點爾何如。鼓瑟希。鏗爾舍瑟而作。對曰。異乎三子者之撰。子曰。何傷乎。亦各言其志也。曰。莫（○暮カ）春者春服既成。冠者五六人。童子六七人。浴乎沂。風乎舞雩。詠而歸。夫子喟然歎曰。吾與點也

解集註大全蒙引等に見えたり。曾點は道躰の大意を見て、知聖人に及べり。孔子の思ひ給ふ狂者也。天理流行人欲きよく盡たる心地あり、故に世間の願なし。三人各願ひをいへども、ねがふべき事なし。故に三子の旨に異なりといへり。孔子なを各其志をいへとのたまへば、何もいふべき事なきを、思ひめぐらせば時暮春にてあたゝか也。冠者童子うちつれて、沂水のいさぎよきほとりに温泉あるに浴し、舞雩の林には靈木多し、其光風に乗じて、詠歌して

歸るべし。是より外に願ふべき事なしと也。是もかねて思ひまうけたることにはあらず。何ぞ願ひをいへとの給へば、思ひ出たる也。大舜の歷山に耕し給ひし時は、生付たるよき田夫にて、こゝにて身を終んとし給ふがごとし。曾點是に叶へり。故に歎美して與し給へり。問、大舜もし孔子の時に、歷山の田夫に生れたりとも、そこにて身を終んとし給ふべきか。云、大舜孔子地をかへば同じからん。大舜は堯の御代に生れ給へば、民間にありて何の心もなきなり。顏子も孔子の在によりて、ひとり其身をよくして、貧賤の中に樂めり。大舜を孔子の地に置たらば、天吏たるの天命ありて、天下の道學を任じて周流し給ふべし。孔子大舜の地に生れ給はゞ、大舜のごとくなるべし。顏子孟子も地をかへば同じかるべし。狂者は堯舜の代に生れては、堯舜をして天下を治めしめ、己ゆたかなる代の民間に住ことを樂めり。堯舜を勞せしむるは、己が代官のごとく思へる也。道なき代に生れては、天下の無道を憂とせず、庶人の業にかくれて、ひとり道を樂めり。是聖も不レ思ハば狂となり、是狂も思へば聖となる處也。大賢狂者道躰の廣大高明を見たることは一也。狂者は簸弄して狂に入、大賢は退て密にかくる。密にかくるゝ時は、よく思て精微中庸の受用あり。孔門の交はり。從容として六藝に游ぶ。學を言論にのみ求めず、師の前にても瑟をとりて皷す。聞者皷する者ともに樂めり。雅樂は淫聲のごとく面白きといふことはなし。樂の中は堯舜の御代にすゝめるが如し。心ひろく体ゆるやかにしてゆたか也。德を養ふこと是に過たる物なし。故に君子故なければ琴瑟身をはなたずといへり。議論は行て不レ得事、思て不レ通ゼの理、疑て不レ解体の實問なり

三子ノ者ノ出ヅ。曾皙後レタリ。曾皙曰。夫ノ三子ノ者ノ之言何如ン。子ノ曰。亦タ各々言フ其ノ志ヲ也

已矣。曰。夫子何哂由也。曰。爲國以禮。其言不讓。是故哂之。唯求則非邦也與。安見方六七十。如五六十而非邦也者。唯赤則非邦也與。宗廟會同非諸侯而何。赤也爲之小。孰能爲之大。

解集註に見えたり。三子の言は皆人倫の重事也。いふ處其才に叶て實也。故に孔子是をゆるし給へり。曾點は三子を見くだせり。孔子已に與し給へば、他は取給ふべからずと思へり。大を取て小を遺し、精をえらんで粗を捨るは天道にあらず。孔子は大小精粗其分に隨て遺し給はず、包荒の仁、天地の量也。其上天下國家を治る才能の實事を卑近なりとしおとしむるは人道にあらず。三子の願ひは凡俗の利を求るたぐひにあらず。堯舜の道は人倫を明らかにするにあり。禮樂を以て國家を治るは人倫を明らかにするなり

顔淵第十二

顔淵問仁。子曰。克己復禮爲仁。一日克己復禮。天下歸仁焉。爲仁

由リレ己レニ。而モ由ランレ人ニ乎ヤ哉

仁は全德の名也。仁を問は德に入ことを問也。禮は天理也。しかれども天理といへば、空にして手をくだし難し。天理の人倫にあらはれ万事に散在して、見るべき者は禮也。ことに人道は禮によつて立者也。禮なき時は禽獸に近し。故に詩にも人として禮なくば、死せずして何をかせんといへり。人貴賤となく、其身を有せず、祿を有せず、國を有せず、義理にしたがひて動くは、己に勝也。人の本心は禮也、私欲ありて失へり。天理人欲ならび立ず、人欲盡る時は天理全し。是禮に復りたる也。天下仁に歸する者は堯舜にしくはなし。天下を有てあづからず、天理のまゝに進退し給へり。故に天下万世四海の遠き國までも、堯舜の事をいへば感心せずと云ことなし。天下仁に歸するの至也。此仁に至る心法は、一念入微の地にをいて、基本を立べし、人によりて進退すべからず。顏子も又、天下仁に歸する位に至れる證據あり。桀紂は尊き事天子たり。富四海の內を有てり。しかるに後世桀紂に似たるといへば、匹夫も立腹す。顏子に似たりといへば、王侯といへども恐るゝ心あり。顏子は其世にありては貧賤の匹夫也。しかるに是に似たりといへば、貴賤ともに悅べる者は天下仁に歸する所なり

顏淵ノ曰。請フ問フ其ノ目ヲ。子ノ曰。非禮勿レ視ルコト。非禮勿レ聽コト。非禮勿レ言フコト。非禮勿レ動クコト。

顏淵ノ曰。回雖モ不敏ナリト。請フ事トセン斯ノ語ヲ矣

是大學格物致知の心法の淵源也。視聽言動思を五事と云。思を不レ言は仁義禮知と云て、信を不レ言がごとし。四の

中にありて主本たれば也。天下の事、五事より要なるはなし。五事從容として道に中るは聖人也。孟子ノ云、學問の道他なし、其放心を求るのみと。仁義禮知信は本心也。不仁不義無禮無智不信は、其本心を失へり、これを放心と云也。仁義禮知の本然に復るを、放心をおさむるといふ。復禮の中に、仁義知信の四はかねてあり。故に此禮は散在の禮にあらず、本心の德也。故に禮は理也、理は性也。性には仁義禮知信の條理あり。ある時はともにあり。大學には此心法を用ひ、言をかへて格物致知といへり。後世或入やすきが爲也。物は事也。事は物の用にて、物は事の体也。体用はなれず。五倫も物也。五典十義は五倫の事にして則なり。五倫の物について、五典十義の道を行ふは五事にあり。故に五事の非禮を正すを格物といふ。天命の性、其條理の先ッ感ずるものは知也、心の神明にして、天理の照す處なり。善を知、惡を知ルの主也。故に一念獨知の神明を主人公として、善をなし惡を去ルを格物致知と云。格物は克己也。致知は復禮也。是顏子此語を事として、終身の心法とする處なり

仲弓問レフ仁ヲ。子ノ曰。出ルニハ門ヲ如レク見ニ大賓ヲ一。使フニレ民ヲ如レク承ルガ大祭ヲ一。己レガ所ハレ不ルレ欲セ勿レ施スコト於人ニ一。在テモレ邦ニ無ク怨ミ。在テモレ家ニ無シ怨ミ。仲弓曰。雍雖モ不敏ナリト請フ事トセン斯語ヲ矣

集註、敬以テ持シレ己ヲ。恕以テ及スハレ物ニ。則私意無シ所レ容ルヽ。而心ノ德全シ矣の解、易簡にして得たり。陳氏ガ云、敬ハ者吾ガ心ノ之所ニシテ主トスル。而仁ノ之存ナリ也。恕ハ者吾心ノ之所ニシテ以ニ達スル一。而仁ノ之施ナリ也。主トシテレ敬ヲ持シレ己ヲ。行テレ恕ヲ及スハレ物ニ。則内外無ク私意一而仁在リ是ニ矣。兩説相叶へり。内外ともに公理に隨て、私なき時は、國家ともに怨みなかるべし。門を出て大賓を見がごとくの敬あらば、儼然としておかすべからず。民を使ふ事、大祭の役を命ぜられて齋

し、大廟に入て毎事に問ごときの愼みあらば、私用不時の使なく、勞するに道理を以てすべし。よく問ことを好で下の情に通ずべし。內私欲のけがれなく、外私意の雜りなきは愼獨の功敬の至也。仰で天に不愧、俯して人に不恥時は、心廣体胖也。浩然の氣天地の間に塞り、至大至剛の氣象也。是此語を事とする所也

司馬牛問仁。子曰。仁者其言也訒。曰。其言也訒。斯謂之仁矣乎。子曰。爲之難。言之得無訒乎

仁は人の人たる德也。故にさし當りて其人がらに害ある病を治せしめ給は、全人となるべき良藥也。ことに多言は存養することあたはず、省察することあたはず、精神發散して放心がち也。心こゝにあらざれば見れども見えず聞とも不聞、學問の益すくなし。戎をおこし好をなす、人道の大事かゝれり。仁に志て多言なる者、先愼むべき急務なり

司馬牛問君子。子曰。君子不憂不懼。曰。不憂不懼。斯謂之君子矣乎。子曰。內省不疚。夫何憂何懼

解集註に見えたり

司馬牛憂曰。人皆有兄弟。我獨亡。子夏曰。商聞之矣。死生有命。富貴在天。

君子敬而無失。與人恭而有禮。四海之內。皆兄弟也。君子何患乎無兄弟也

解集註に見えたり。しかれども本文にてよく聞えたり、集註却ていかゞ

子張問明。子曰。浸潤之譖。膚受之愬。不行焉可謂明也已矣。浸潤之譖。膚受之愬。不行焉可謂遠也已矣

解集註に見えたり。古今姦人、此邪知あり。人君などはされて罪なき者を害なふことあり。奉行人猶以ておとし入らるゝ者おほし

子貢問政。子曰。足食。足兵。民信之矣。子貢曰。必不得已而去於斯三者何先。曰。去兵。子貢曰。必不得已而去於斯二者何先。曰。去食。自古皆有死。民無信不立

人生の重事、政の備、此三より大なるはなし。食の中に衣服屋居器物等こもれり。他は食ありて後の物なればなり。兵は諸の兵具弓馬の術をかねたり。信は吾人の本心也。民信之とは、万人固有の天眞を不失也。士大夫以上はいふに及ばず。是上の德を本として教化の道あり、信於我不離叛ことは其中にあり。先ずる處にあらず。

曰去レ兵とは三の者、一もかくべからずといへども、不レ得レ已して去べきは兵也。食足て信かたくば、杖を制て秦楚の堅甲利兵をうたしむべき道あり。水は至柔の物なれども、和して一なる故に、堤を破り、大石をうごかす。仁者には敵なし。王者の兵は必ずしも堅甲利兵を不レ賴。曰去食とは、人生れて食によりて長ず、教ありて固有の信を存ず、萬物の靈たる所也。人老衰して兵去食つきて死す、たゞ信のみ亡びず。信なくて生たるは鳥獸なり、生なきにはしかず。形ある者一度は死す。たとひ天下を盡して死せしむとも、信はかくべからず、是伯夷の心なり。仁を求て仁を得たる處也。問、國を治るには禮樂を以す。兵のみの給ふは何ぞや。云、知を上にし、力を下にせざれば治らず。兵其備也。其上兵にあらざれば、人と禽獸とをわかつことあたはず。禽獸には人よりも力つよく猛き者あり。兵を以てしたがへて人倫尊し。初て禮樂起るべし。戎狄も種類異にして禽獸に近し。中國文武にすさむ時は來り乱る。故に兵をつよくし、稽古して、知を上にし愚を下にして、よく治る時は、來りしたがひて乱ることあたはず。禽獸を驅、人倫を遠ざけ、田畠を害するを除きながら、武事をならはし、戎狄を威す者なり。中國道を失ふ時は、戎狄の難あり。道を失ふとは、愚を上にし、知を下にす。一人を以て一國を治めしめずして、一國を以て一人に與へて、士民を困窮せしむ。主奢り、民困窮する時は、武事に懈るもの也

棘子成ガ曰。君子ハ質而已矣。何ゾ以レテ文ヲ爲ル。子貢ノ曰。惜カナ乎。夫子ノ之說クニ君子ヲ一也。駟モ不レ及レ舌ニ。文ハ猶レ質ノ也。質猶レ文ノ也。虎豹ノ之鞟ハ猶ニ犬羊ノ之鞟一

解集註に見えたり。子貢の初學の時なるべし

哀公問ニテ於有若一ニ。曰。年饑ノ用不レ足ラ如レ之ヲ何ンセン。有若對テ曰。盍レ徹セ乎。曰。二ナルモ吾猶ヲ不レ足。如之何ンゾ其レ徹セン也。對テ曰。百姓足ンナバ。君孰レト與ニカ不レ足ラン。百姓不レ足ンバ。君孰レト與ニカ足ラン

此章二にして不足を一とれといへるは、迂なる様に聞ゆれども、徹法を行へば万事下地からの組立あり。哀公の時分は農兵也。農兵にて十が二は多し。今日本にて四分六分といふは甚過たり。農と兵とわかれたる故也。今も農兵にて二にせば、四分六分よりは多き積り也。農兵にて十一にすれば、民の力つよし。其上政にて豐熟大にかはりあれば、十一にしても今を以て積りたる十二よりはおほかるべし。加樣の事は民間に居てくはしくしらざれば會得しがたき者也。田畠より五穀の出來ること、年により大に多寡あり。寡きは十年に七八年は政のあしき故也。哀公などの時分、切々饑饉せしは皆政あしき故なれば、二といへるも有道の代の一よりは少かるべし。此一二は日本の毛見して升を入、四分六分にするがごとし。徹法を用ひ政をよくせば、一にして二よりは多き道理あり。其上民間足時は飢寒すること稀也。民足兵強ければ、四方恐る。此方より手出しせねば方々へ出る軍用の費もなし。彼是大に違ふことなれば君臣士民ともに富足て不足あるべからず。天地の造化を助る事は聖人大賢の事とのみ思ひて、有徳ならでも、才知を以て助くる道あることを不レ知ラ故に、士民困窮し、饑饉も度々にて、一入用たらず。哀公實にたづねられば、くはしき條目の敎もあるべけれども、其志器量ともに不足なれば略せるなるべし

子張問崇德辨惑。子曰。主忠信徙義。崇德也

集註易簡にして備れり

愛之欲其生。惡之欲其死。既欲其生。又欲其死。是惑也

是惣じて世間の惑をのたまふ也。死生有命。富貴在天ことを不知して、無用の事に勞し、なすべき善をせざるは惑の第一也

誠不以富。亦祇以異

解集註に見えたり。楊氏の說用ゆべからず

齊景公問政於孔子。孔子對曰。君君。臣臣。父父。子子。公曰。善哉。信如君不君。臣不臣。父不父。子不子。雖有粟。吾得而食諸

解集註大全に見えたり

子曰。片言可以折獄者。其由也與。子路無宿諾

集註大全備れり

子曰。聽訟吾猶人也。必也使無訟乎

孔子を小奉行にして、訟爭をきかしめば、是非分明に分つべきのみ。氣質其事に得たる者、其一事をばよくす、人に異なる事なき也。結句子路程にはなきといふこと有べし。子路は其忠信明決し易し。故に人はやく信服す。孔子は徳高き故に、人不知ことおほし。國政の本を預たる時は、其徳に化して、爭訟の心消すべし。爭訟なき時は子路の明決用る處なし

子張問政。子曰。居之無倦。行之以忠

名利の欲ある者は、それを力にしてつとむることあり。欲なけれども民の父母たる仁愛あれば、誠を盡してやむべからず

子曰博學於文約之以禮亦可以弗畔矣夫

重出

子曰。君子成人之美。不成人之惡。小人反是

人善心あれば、是を助けみちびきて、徳をなさんことを欲し、人惡のきざしあれば、是を教戒しめて、消せむことを欲す。君子人を愛するの實也。小人は人の善をそねみて、そだてぬやうにし、人の惡をば長ずることをする者也。君少し利心あれば、是を助けて聚斂し、君少し美を好めば、是を助けて奢らしむるたぐひなり

季康子問二フ政ヲ於孔子一ニ。孔子對テ曰ノ。政ハ者正ナリ也。子帥ルニ以セバレ正ヲ。孰レカ敢テ不ランレ正カラ

三家の者五倫の道不レ正シカラ。しかれば當然の政を告給ふべき質なし。故に先其本を改めんことを欲し給ふ也

季康子患テレ盜ヲ問二フ於孔子一ニ。孔子對テ曰ノ。苟モ子ガ之不ンバレ欲セ。雖レ賞ストレ之ヲ不レ竊マ

解集註大全に見えたり。季康子は莊周がいへる大盜なり。小盜は金銀器物をぬすむ。大盜は國郡をぬすみ、國柄を盜む。三家すでは大盜にして、小盜を戒めんとす。故にかくのたまへり

季康子問二テ政ヲ於孔子一ニ曰イ。如シ殺ノ二無道一ヲ以テ就カバ二有道一ニ何如ン。孔子對テ曰ノ。子爲ルニレ政ヲ。焉ンゾ用ヒンレ殺ヲ。子欲セバレ善ヲ而モ民善ナラン矣。君子ノ之徳ハ風ナリ。小人ノ之徳ハ草ナリ。草上フレバ二之ニ風一ヲ必ズ偃ス

季康子賞罰を用むとす。康子のみならず後世の政をする人皆賞罰に心あり。賞罰正しくは治世ならんと思へり。上治は不レ賞セ不レ罰セ、善政善教ありといへども、實は徳治にして不知不識善にうつる者也。其次は賞して不ル罰セ時あり、罰して不ル賞セ時あり。賞罰ならび行はるゝは徳の衰たる也。たとひ賞罰よくあたるといへども、善政にあらず。況や賞罰の十にして二三もあたらざる者あるは、惡政に近し。問、罰して不ル賞セはならび行はるゝよりもあしからずや。云、しからず。是時也。堯舜の御代のごとく、天下皆善人なりし。其次に治る者は不レ賞セ、あしく賞すれば人の利心を生ずる事あり。まれにあしき事をする者あれば、其者ばかり罰す。是を罰して不ル賞セ時といふなり。先

代桀紂がごとき悪主なりし、其跡が弱君にして、大臣權をほしいまゝにし、悪人もよくへつらへば時を得、善人も諂らはざれば立がたき樣なる時には、天下悪人おほし。其跡に治る者はよき者ばかり賞して、あしき者をばすて置てよし。天下多くは悪人なれば、悉く罰すべからず。其上下地よりの悪人はすくなし。多分は習なれば、徳をおさめて善心を感發すべし。善教ありて、諸人善をすることを樂む樣にすれば、數年ならずして風俗化する者也。後世の躰を聞に、士民ともに、善をなすことを不レ教、善を授ず、徒に賞罰をつよくすれば、諸人手足を措べき所なく、世の乱れんことを願ふ者也。善も役目の樣にしては却て困窮す。人々是を學で我身の徳となると思ひて進む樣にすべき者也。問、大悪人あらば如何。云、人の害になる悪人あり、敎てもきかざるをば罰す。それも不レ得レ已しての事也。さがし求てはせず。賢君の代には悪人を不レ求、すてをけばひとりよくなる者也。故に賞罰ならび行ふ時はなし。不徳にして、政をする道を不レ知ゆへに、賞罰を專一にする者也。必しも聖賢の徳なくても、人民の父母たる仁心あり。仁政を行ふ時は、草の風になびくがごとく善にしたがふ者也。先ずる所は賢才の人を得るにあり。人の子病る時は、父母良醫を求てやまず。人民の心病を治め、困窮を救ふには賢才にしくはなし。故に民の父母たる仁君は賢才を求てやます

子張問レ士。何如斯可レ謂ニ之達一矣。子曰。何哉爾所謂達者。子張對曰。在レ邦必聞。在レ家必聞。子曰。是聞也。非レ達也。夫達也者質直而

好義。察言而觀色。慮以下人。在邦必達。在家必達。夫聞也者。色取仁而行違。居之不疑。在邦必聞。在家必聞

解集註に見えたり。尹氏の說不可用。子張は世間の人の品を問也。夫子も世間の上にてのたまへり、とれば則受用ともなる也。曾子堂々たるかな、張といへる一語にて處々にて此事を引出しおとしむるは無用の事也。子張の世間の習より出て、初めて孔門に入し時に、其病ありしを、曾子の格されしなるべし。後には彼躰の病は有べからず。或問、察言觀色と色取仁と似たる樣也。云、色溫に体ゆるやかに、仁者のやうに作り、仁者の施しをもすれば、其聞えあり。しかれども名利より出たる仁愛なれば實なし。察言觀色は愛敬の心實なる故に、よく人と精神交り、心に不叶事ありても思慮ふかく、己が盡すべき禮儀を盡すを、慮て人にくだると云也。質直にて、義を好む者には此處すくなし。しかるに質直好義にて、察言觀色の仁愛ある人は達人なり

樊遲從遊於舞雩之下曰。敢問崇德脩慝辨惑。子曰。善哉問。先事後得。非崇德與。攻其惡。無攻人之惡。非脩慝與。一朝之忿忘其身以及其親。非惑與

解集註に見えたり。其中、麁鄙近利の說不可用。餘りに夫子の敎の、門人の病に的當せんことをいはむ爲に如此の說おほし。賢者を甚おとしめて、後學の便ならざる事を察せず。或問、忿によりて禍親に及ぶの惑たることは

卑近ならずや。云、此親は親類也。今を以て見るに、口論などして、うたれたる者あれば、其子弟たる者、父兄の仇とて、身代引切妻子を捨て、ねらひありく、討すましても、其子弟又己を仇とす。討うたれて一門の禍となれり。親先祖への不孝、子孫への不慈、無道至極の身となれり。かほどの事を前に辨へず、一人身の様に思ひて、不慎は惑の甚しき也。如此のまどひ世におほし、一をあげて戒め給へり。惣じて世間の事なり、樊遲の身の上のみにあらず

樊遲問仁。子曰。愛人。問知。子曰。知人。樊遲未達。子曰。擧直錯諸枉。能使枉者直。樊遲退見子夏曰。鄕也吾見於夫子而問知。子曰。擧直錯諸枉。能使枉者直。何謂也。子夏曰。富哉言乎。舜有天下。選於衆擧皐陶。不仁者遠矣。湯有天下。選於衆擧伊尹。不仁者遠矣

人を愛するは仁の用也。といへども、人我一躰の眞にして、五典十義の本實也。人を知るは知の實也。知は人の人たる處を知より大なるはなし。よく人を知ればよく己を知る。堯舜の知も物にあまねからず、よく人を知り給ふによりて、其知天下にあまねし。擧直は知也。錯諸枉は仁也、是賞して不罰也。枉れる者の直くなるは、直をあげたる故也。己を成し、物を成す知仁の徳也。不仁者遠ざかる者は、他邦に行にあらず、不仁の心化して仁者の徒となれば、遠ざかりたるがごとし

子貢問レフ友ヲ。子ノ曰。忠告テ而善道レク之ヲ。不可ナルトキハ則止ム。無シ二自辱メラルヽコト一焉

解集註大全に見えたり

曾子ノ曰。君子ハ以レテ文ヲ會レシ友ヲ。以レテ友ヲ輔レク仁ヲ

文は易詩書六藝也。今の文をいふ者は講學の一事として、六藝を廢す。群居終日にして、言義に不レル及バ者に比すれば、まされりといへども、紙上の學と成て、國家の用をなさず。孔門にて文を以て友を會せし其跡を見るべし。講學の一事に不レ止。今の文は四書禮樂弓馬なり。以レテ友ヲ輔クルレ仁ヲは、忠告ゲ善道キ相助ケ相進ム者ノナリ也

子路第十三

子路問レフ政ヲ。子ノ曰。先ンジレ之ニ勞スレ之ヲ。請レフ益ヲ。曰。無レシ倦ムコト

孝弟忠信の道を行ひ、文武の業を修め、身を以て先ず。農桑の事も、時に先達て用意し、井川池堤を堅固にし、道路舟橋を通し、常に民事に勞す。無レキ倦ムコト者は、士民を子のごとくにする仁愛あればなり

仲弓爲季氏宰。問政。子曰。先有司。赦小過。擧賢才。曰。焉知賢才而擧之。曰。擧爾所知。爾所不知。人其舍諸

宰は惣づかさ也、今の老中のごとし。有司はそれ〴〵の役人也。其役々の器にあたりたる者をえらび置こと政の第一也。後世はほめそしりを以て、人を進退する故に、役人其器にあたらざる者おほし。人のほむる者にても、其器なければ、其役は調はざる者也。少し人がらよからずとも、其器あらば、役人とすべし。少づゝの過失ありとも、見ゆるして人才を大切にすべし。賢は心の清なる者を云、必しも賢人君子を云にあらず。才は一能一藝、何にても得たる事ありて國家の用に立つ者也。一二人にても知たる賢才をあぐれば、其者又知たる者をあぐべし。其上賢才を好むと云實を人しれば、いかほどもしらする者也。其中にてえらび、功を以て次第に擧用れば、まことの賢才の人も出來る者也

子路曰。衛君待子而爲政。子將奚先。子曰。必也正名乎。子路曰。有是哉子之迂也。奚其正。子曰。野哉由也。君子於其所不知。蓋闕如也。名不正則言不順。言不順則事不成。事不成則禮樂不興。禮樂不興則刑罰不中。刑罰不中則民無所措手足。故君子名之必可言也。

言之レ必可レ行フ也。君子ハ於テ二其ノ言一ニ無キレ所レ苟モスル而已矣

解集註大全に見えたり。君不レ君タラ。父不レ父タラ。子不レ子タラ。臣不レ臣タラ。五倫如此者は名不ルレ正カラ也。君君たらざれば、君前にて治道のよからざる事、刑罰のあたらざることをいふことあたはず。是名正しからずして、言不ルレ順ガハ也。君前に至情をいふ事あたはず、非をのこし、言をかざり、甚しきは惡きをもよきといひて諛ふ時は、政道あしゝ。政道不ルレ調ハ時は、禮式施すべからず、樂たのしむべからず。君樂しまざる時は、刑罰しげし。しげき時は刑罰不レ中ラ。尤無キレ罪者は不レ刑セといへども、政事時に叶はざれば罪人おほし。罪人おほき様にして刑するは不ルレ中ラ也。法度おほく、刑しげゝれば、人民手足を措ところなき様に思ひて恨みかなしむ者なり。如此して不ルレ亡者はあらじ。故に君子は、君君たり臣臣たり父父たり子子たるの後、君臣父子の道をいふべし。至情をいふことを不レ忌して後、言正しく行明らかなるべし。こゝに初て禮式を制して、上下無事をたのしみ、雅樂を調べて、人倫和睦すべし

樊遲請フレ學ンコトヲレ稼ヲ。子ノ曰。吾レ不レ如カ二老農一ニ。請フレ學ンコトヲレ爲ルコトヲレ圃。曰。吾レ不レ如カ二老圃一ニ。樊遲出ヌ。子ノ曰。小人ナルカナ哉樊須也。上好ムトキハレ禮ヲ則民莫シ二敢テ不一トイフコトレ敬セ。上好ムトキハレ義ヲ則民莫シ二敢テ不一トイフコトレ服セ。上好ムトキハレ信ヲ則民莫シ二敢テ不一トイフコトレ用レ情ヲ。夫レ如クナルトキハレ是ノ則四方ノ之民襁二負ノ其ノ子ヲ一而至ル矣。焉ンゾ用ンレ稼ヲ

解集註大全に見えたり。楊氏の說尤よし。或問、朱子細註に、役スレバ二知力ヲ於農圃一ニ。內ニ不レ足ニ以テ成スニ一レ己ヲ といへる

は如何。云、少し通ぜざるがごとし。畎畝の中に生れて、堯舜の道を樂む者は、農圃の事をいとなみながら成レ己ヲ成レス物ヲの道あり

子ノ曰。誦二シ詩三百一ヲ。授レルニ之ニ以レノ政ヲ不レ達セ。使二ノ於四方一ニ。不レバ能ハ二專對一フル。雖レモ多ナリト亦奚ゾ以テ爲

解集註大全に見えたり。今日本にて詩をよみたるばかりにては、書のごとくなる益はすくなし。中國にてはふしを付てうたふ。日本にて平家を一部通し、舞を一部とをしたるがごとく諳に覺ゆる事也。舞平家も草紙にて讀でも、文義は聞ゆれども、上手のふしにていひたるは感慨各別なり。殊に中國にて、音律に叶て誦せば、人情に通じ物理に達すること書のごとくなるべし。風俗の盛衰、政の得失、千歳を經ても近く目に見るがごとし。政は人情に本付キ事變に通じ、時處位に叶て行はる。今日本にて、書の上にてよみたるばかりさへ、ふかく通ぜば取用ひらるべし、況や中國におゐてをや。四方に使する者、禮儀の使ばかりはさのみむつかしき事なし。事ありて使する者、至情を述てありのまゝにいへば、人の耳にさかひて、却てやぶれとなれり。いはざれば事の是非しれず。詩に通じたる者の言は、いふ者罪なく、聞者戒むるにたれる益あり。是獨對ふるの道なり

子ノ曰。其ノ身正ケレバ。不レモ令セ而行ハル。其ノ身不レバ正カラ。雖レモ令スト不レ從ハ

德の敎には心服し、言の敎には退て後亡あり。言服して心不レル服セ故也

子ノ曰。曾衛ノ之政ハ兄弟ナリ也

解集註に見えたり

子謂ニ衛ノ公子荊ヲ。善居レリ室ニ。始有ルトキニ曰。苟モ合ヘリ矣。少キ有テ曰。苟モ完シ矣。富有ナルトキ曰。苟モ美シ矣

解集註に見えたり

子適ク衛ニ。冉有僕タリ。子ノ曰。庶々矣哉。冉有ノ曰。既ニ庶々矣。又何ヲカ加ヘン焉。曰。富サン之ヲ。曰。既ニ富メリ矣。又何ヲカ加ヘン焉。曰。敎ヘン之ヲ

諸侯のたから三ッ、土地人民政事也。政事の中に敎あり。土地廣く士民多くても、政事あしければ貧乏困窮す。其生を不ル樂マ者は用ゆべからず。もし孔子政をし給はゞ、士民富足て生を樂むべし。其上に學校を作り、禮儀明らかにし、寄に三事を以てすべし。三事は父生し、師敎へ、君養ふ也。これに事る道一のごとし。問、先王の制は十一にして、上下ともに富足ぬ。戰國の時分は十が二を取ても公用不ル足ラ、士民は猶以て貧乏す。二にしても公用不ル足ラ時に制シ田里ヲ薄ニ賦歛ヲといふとも、十一にしては國立べからず。迂なるにあらずや。云、孔子政をし給はゞ、左樣に時勢に戻り、人情にさかひて、成がたき事を急にはし給ふべからず。其時分一を二にしても不ル足ラ者は、出

陣會盟しげくて公用多く費ひ、士民は農の時を奪はれて車役しげきに困窮す。戰陣會盟はたがひの費士民の困窮なれば、仁人は不好事也、と四方にさとしてやめ、其費のやみたるを以て、粟をたくはへ、士民をゆたかにし、兵を強くし、禮儀を修め、禮讓を以て四隣を和睦せば、四方恐れて愛すべし。急に十二を十一にかへさずとも、出陣會盟やみ、つかはれざるばかりにて國用を調へ、一をば國民の爲に籾にて積置、軍用饑饉の用意とし、備固して後、一を士民にかへすべし。たゞにかへさば、彼が奢をなさん。六藝を學び禮儀を調へ、うきたる士を農兵にかへすごときの道のためにかへす時は政教いよ〳〵明か也。其後に田里を制し、農桑をつとめば、天理人情時の中を得て、天長地久なるべし

子曰。苟有用我者。朞月而已可也。三年有成

此一年三年、其時の勢あるべし。いにしへを手本とせず、後世期すべからず、有德本才の人、時處位によりて行ふべし。年數の多少は才德の厚薄によるといへども、又時によりて德厚く才大なれども、年數かゝることあり。道に志たるまでにて、さのみ德高にもあらずといへども、本才ある者年數かゝらで功成ことあり。皆時也。財散じ民聚りゆたかなる時に、軍用饑饉のためにたくはへをすれば、三十年をへざれば全からず。孔子の時には君の財乏しく、民も散じたれども、三年にはよき代の十年の蓄出來て、其後財散じ、民聚るべき勢見えたり。孟子の時は孔子の時よりはいよ〳〵あしくなりたれば、猶以て功成やすき事あり。この故に事はいにしへの人に半して、功は必ず是に倍せんといへり。一年にては、大方人道の紀綱立チ、治世の大躰定り、三年にては、上下共に富足リ、功成て禮

樂おこるべし。或問、貴老を用る人あらば儒道起るべきか。云、儒道は起るべからず。天地の神道おこるべきか。憂る處は後世儒道のおこる事あるべきか。儒學する者、志を得ば喪祭の禮を起し、異端を退けんと思へり。是大方の道也。いづれの時に儒道起り、乱世と成たるといひ、懲て二度聖人の道おこりがたからん。聖人の道は法によらず、迹に不泥、時處位に叶て行はる天地の神道也。問、其神道いかん。云、君仁人にして仁政を行ひ給ふべし。貴賤男女儒者佛者ともに皆仁政の中に養はれて、善をすることを樂しむべし。日本を中興し、五百歳千歳の治世の基を立べき人は、君は賢君、臣は良相たるべきのみ、何の流といふことは有べからず。流あらば小道也。公道にはあらず

子曰。善人爲邦百年。亦可以勝殘去殺矣。誠哉是言也

解集註に見えたり

子曰。如有王者。必世而後仁

解集註に見えたり

子曰。苟正其身矣。於從政乎何有。不能正其身。如正人何

第六章に同じ

冉子退朝。子曰。何晏也。對曰。有政。子曰。其事也。如有政。雖不吾以。吾其與聞之。

解集註に見えたり

定公問。一言而可以興邦有諸。孔子對曰。言不可以若是其幾也。人之言曰。爲君難。〔○爲臣不易。如知爲君之難ノ十字脱ス〕也。不幾乎一言而興邦乎。曰。一言而喪邦有諸。孔子對曰。言不可以若是其幾也。人之言曰。予無樂乎爲君。唯其言而莫予違也。如其善而莫之違也。不亦善乎。如不善而莫之違也。不幾乎一言而喪邦乎

解集註に見えたり。たゞに戰々兢々として愼みたるばかりにては興るべからず。五倫ともに天職あり。君たる天職は、民の父母として仁に止るにあり。仁政の本は人を得るにあり。むかしは一人をして一國を治めしむ。是君たることの難き也。後世は一國を以て一人にあたへてたのしましむ。故に君たることのかたき事をしらず、たゞ我にしたがふを以て樂とす。故に長久ならず

葉公問政。子曰。近者說。遠者來。

政は人心を得ると、得ざるとにあり。徳を修め、仁政を行ふ時は、中心悦でまことに服す。近き者は悦び、遠き者は其風をしたひて來る。力を以て人を服する者は言服して心不レ服セ

子夏爲ニ莒父ノ宰一ト問レフ政ヲ。子ノ曰。無レ欲スルヿレ速ナランヿヲ。無レ見ルヿ小利一ヲ。欲スルサハレ速ナランヿヲ則不レ達セ。見ルサハ小利一ヲ則大事不レ成ラ

解集註大全に見えたり。道理は本文の通りにてよく聞えたり

葉公語テ孔子ニ曰。吾ガ黨有ニ直スルレ躬ヲ者一。其ノ父攘レム羊ヲ。而ルヲ子證スレ之ヲ。孔子ノ曰。吾ガ黨ノ之直キ者ノハ異ナリ於是ニ。父ハ爲メニレ子ノ隱シ。子ハ爲メニレ父ノ隱ス。直キヿ在リ其中ニ矣

集註備れり

樊遲問レフ仁ヲ。子ノ曰。居處恭シク。執ルレ事ヲ敬アリ。與ミスルレ人ニ忠アラバ。雖レモ之クトニ夷狄ニ不レ可ラレ棄ツ也

居處恭くしの意ふくむ處ひろし、樂タノシめる君子の氣象也。君子の樂みは戒愼中より生ず。相ミルニレ在ルヲ爾ガ室ニ。尙コヒネガハクハ不レ愧ニ于屋漏ニといへり。故に不レル樂シマは君子をいふにたらずといへり。つとめて恭き者は不レ樂マ、よく久しき事あたはず。惰慢ダマンの氣身体にまうけず。淫樂インガク非禮心術にまじへず。人をにくまず。人をあなどらず。其色溫に、其氣靜シヅカニに、心

廣く、體胖にして後、居處恭しといふべし。此人上に在時は、篤恭にして天下平かなるべし。其心術事を取ては敬となり、人の爲にしては忠となる。夷狄の義理を不レ知、禮儀なき國にゆくといふとも、心の戒愼は棄べからず。如レ此ノ德全き人は仁者也。或問、日本も夷狄にあらずや。云、南西北の國は中國と種類異なり。故に文字にも、南蠻は虫にしたがひ、西戎は犬にしたがひ、北狄は毛物にしたがふ。唯東夷のみ人にしたがふ。夷の字を分ちて見れば一弓人也。日本其本にあたりて武國也。其上禮樂文章の通ずる國には袖あり。故に日本朝鮮琉球にのみ衣服に袖あり。南西北の人には袖なし。繪に書たるを見ても知べし。是自然の天應也。取分日本は天照皇聖神にておはしませば、其御子孫永久也。士は皆皇孫なり。民は士民也。故に日本の聲にのみ、商角の間に二律を隔たり。日の本にして土地靈なれば、人心の德全し。此國に生れて聖人の學を傳へ、德を知ことと人生の大幸なり

子貢問テ曰。何如ナル斯レ可レキ謂二フ之ヲ士一ト矣。子ノ曰。行レテ己ヲ有レリ恥ヅ。使二メ於四方一ニ。不レル辱二メ君命一ヲ。可レ謂レフ士ト矣。曰。敢テ問二フ其ノ次一ヲ。曰。宗族稱レシ孝ヲ焉。鄕黨稱レス弟ヲ焉。曰。敢テ問二フ其ノ次一ヲ。曰。言必ズ信ニ。行必ズ果ス。硜硜然トメ小人ナル哉。抑々亦タ可二シ以テ爲一レ次ト矣。曰。今ノ之從レフ政ニ者ノハ何如ン。子ノ曰。噫。斗筲ノ之人何ツ足レン算フルニ也

集註大全備れり。今時分の使と、其時の使は異也。戰國なれば好みをなし戎を興すこと、使にかゝれり。今事なき使さへ全くよきは稀也。戰國の使はやぶらず屈せず、禮讓を以て兩國の和を結ぶを君命を不レ辱と云べし。屈

せざる者は事のやぶれをなし、やぶらざる者は届す。凡人の過不及也

問レ次ラ　解集註に見えたり

問レ次ラ　堅く律儀なる者といへる類ひ也。よきにてはあれども、器量せばく、小石の堅固なる様なれば、士君子の事業に及ばず。此小人は小器量の人也。淺狹なれども守る處あれば士の品也

今ノ之從レフ政ニ者、其時分の諸侯、仁政を行ふ人なし。其政に從ふ者は大夫士ともに、利を事とす。名は士大夫なれども、實は市井のいやしき者の心也。いにしへの士の中に數へらるゝ者にてはなしと也。一說、斗筲はます也。世俗に澤山なる物をば桝にてはかる程有といへり。木の實にても、よきは一つ二つとかぞへ、多き物は桝にてはかるごとく、一人づゝかぞへらるゝはむかしの士の事なり。今の士は利欲の小人なれば、升にてはかる程の者也。數へていふべき才器量はなしと也

子ノ曰。不レ得ニ中行ニ而與レミセバ之ニ。必ズ也狂狷カ乎。狂者ハ進デ取リ。狷者ハ有レリ所レ不レル爲也

狂者は知に過、狷者は行に過たる者也。狂者も行なきにはあらざれども、知高く明かにして照さゞる處なく、ゆたかに凡心をはなれ、世俗を出たれば、廣大にして細行をかへりみず。他の聖人を學ぶ者の迹をとめて、心を不レル得をおかしく思へば受用を事とせず。廣大に至りて精微をつくさず、高明をきはめて中庸によらざる者也。知聖人に及たれども、不レル思ハ故に、簸弄して狂に入たり。中行は知聖人に及びたれども、退て密にかくるゝ故に、廣大に至て精微を盡し、高明をきはめて中庸により、受用を事とすれば、言は行をかへりみ、行は言をかへりみて時に中す。

行事聖人に近して其跡見がたし。故に衆人これをしらず。進取は志高して卑近を事とせず、小成を安ぜず。有レ所レ不レ爲は、死を守て道をよくす。一人の罪かろき者を失て國天下を得ることもせざる者也。狷者も生付に知不足にはあらず。行の過るは仁の力つよければ也。仁は生理也。發生の力強して、行餘りあり。故に知いまだ行に及ばず、時に中せず、愼み守り、篤く行て、衆人の目にも賢人君子と見ゆるは狷者也。人の不レ及善行おほき故也。曾子の初學、是に近し。聖門に不レ入ば狷者に終べきか

子曰。南人有レ言曰。人而無レ恒。不レ可三以作二巫醫一。善夫

恒は義理正直のたしなみ也。禰宜神主は神を主人として、心安き故に、たしなみに懈り易し。しかれ共不義不正にては終には神明の罰にあたる者也。醫は醫術だによくすれば、人其上手を賞して、少々人がらのあしきも無禮なるをも堪忍して馳走する者なれば、主君なき者は猶以て氣隨に成やすし。しかれども不義不正にては、終に其業を廢する者也。況や常人をや

不レ恒二其德一。或承二之羞一。子曰。不レ占而已矣

義理をしらぬ者といはれ、不正直者と聞ゆるは人ならざる恥也。常に德を不レ尊無レ嗜故なり。譽れを悦び、そしりをにくむは人心の常なるに、行儀あしくて惡名を取ことを不レ知は、占を不レ知故也。道理の占は卜筮をからず。故に道理の明かなる所には卜筮を不レ用。道理のしれざる事に卜筮を用て天にうかゞふ者也

子ノ曰。君子ハ和シテ而不レ同ゼ。小人ハ同シテ而不レ和セ

君子は天地万物一躰の仁存す。故に天下にくむべき者なく、侮るべき者なし。五倫和せずと云ことなし。しかれども氣合の者とかたよるごとき私の同はなし。小人は相口の者とより合て晝夜となく親しむ。故に私の同類あり。しかれども勝心慢心利心あれば、甚狎て侮る、故に實は不レ和セ、或はやぶるゝことあり。君子淡以テ成ル。小人甘以テ壞といへり

子貢問テ曰。郷人皆好ミセバレ之ヲ何如ン。子ノ曰。未レダ可ナラ也。郷人皆惡マバレ之ヲ何如ン。子ノ曰。未レダ可ナラ也。不レ如郷人ノ之善キ者ノハ好ンジレ之ヲ。其ノ不ル善ラ者ノハ惡ムニハレ之

よき人とは、共によき事をいひ、あしき者にもさかはず、善柔の生付の者をばなべて譽る者也。世俗に骨のなきと云者なれば、人のよくいふにまかせて用れば器量なき者あり。大なる用は達せず。よき人には勝心慢心ありて不レ親、あしき者をばにくみとがめて和せざれば、なべて人よからずと云者あり。よきにはあらざれども、あしくいふとて捨べからず。却て一器量あり、用て一役達する者あり。義を尙ぶ者は衆と同じからずといへり。一器量ありて、一筋に義理を立る者あり。よき人は知て是をほめ、あしき者はそしる者なり。是を眞のよき人と云也

子ノ曰。君子ハ易シテレ事ヘ而難シレ說バシメ也。說バシムルニレ之ヲ不レバレ以セ道ヲ不レ說コビ也。及ニデ其ノ使フニレ人ヲ也器ノマヽニスレ之ヲ。小人ハ難シテレ事ヘ而易シレ說バシメ也。說バシムルニレ之ヲ雖モレ不ズトレ以セ道ヲ說ブ也。及ニデ其使フニレ人ヲ也

求レ備ランコトヲ焉

集註大全備れり

子ノ曰。君子ハ泰ニシテ而不レ驕ラ。小人ハ驕テ而不レ泰ナラ

君子は道理のまゝにして無心也。故に心ひろく体ゆるやかなれば泰也。無欲にして禮を好めり。故に不レ驕。小人は勝心慢心欲心あり。故に驕る。道理にしたがひて樂むことを不レ知ラ。故に泰かならず。又凡人にして不レ驕ラ者あるは、金銀米穀をたくはへて守ることを悦び、或は器量狹き者也

子ノ曰。剛毅木訥ハ近レ仁ニ

剛は物に屈せず、不レ恐レ也。人は萬物の靈なれば、万物の上にのびやか也。しかるに屈し恐るゝは欲ある故に、物の下に屈する者也。たとひ血氣の勇ありて剛なりと見ゆる人も、欲ある者は其欲心より撓し易し。故に孔子の棖也慾アリ。焉ゾ得レ剛ヲとのたまへり。毅は奮發の氣象あり、善に興り義に感じやすし。木は生れながらの体にて、文りなく、習うすく、間に合する様なる才覺なき者也。世間に木地なる人といへり。訥は無調法にて、當世にうつらず、古人かたぎといへる者也。何れも赤子の心を不レ失ハに近し。實体の人也。仁は生理也。天地の理生々してやまず。生理より實なるはなし。故に實躰の人仁に近し

子路問テ曰。何如ナル斯レ可レ謂フ之ヲ士ト矣。子ノ曰。切切偲偲怡怡如タリ也。可レ謂フ士ト矣。朋

友ニハ切切偲偲。兄弟ニハ怡怡

爵に五ッあり、民に四ッあり。士つかへざる時は、四民の先なり。是を處士と云。出て仕ふる時は五等の爵に列す。才あれば卿大夫となり、德あれば國を受て公。侯。伯。子。男に列す。天子の上士は子男に同じ、五十里の地を受、學德あれば天子諸侯の師保となれり。上下に通じて道德學術の任重き者は士也。不德不才なれば處士ともいはず、くだりて民に同じ。孔門の諸子は皆士也。故に子路其行を問也。士の貴キ處は博學多藝によらず、德行を以て也。故に夫子德行を告給へり。切々は、朋友の交り、懇情に教告て其過をあげず。偲々は、善をすゝめ、人事をつとむる事詳にして、其したがふ事を不レ强、みな忠愛の誠なりといへり。しかれども平生は怡々と和悅にして六藝に游ぶを、文を以て友を會すと云也。此溫良和厚の氣象を得こと、禮樂詩書の學によるといへり。後世は四書を以て心術躬行の鑑とする也。今の學は書を取て、紙上にていふ所はくはしけれども、書をはなれ平生に成ては其用なし。孔門の學心術躬行の教のみにして、文辭にあらざる事をしるべし。こゝに朋友兄弟をわけてのたまへども、兄弟には朋友の道をかねたり。朋友に兄弟の義もあり。たゞ朋友には切々偲々主と成て和悅し、兄弟は怡々主と成て切偲をかねたり

子曰。善人教レ民七年。亦可三以即二戎一矣。子曰。以二不レ教民一戰。是謂レ棄レ之

此章下の章に通じて一章となして見るべし。善人は道學善行相兼て、民を子とする仁愛深き人也。故に民も又見ること父のごとく師のごとし。是故に隨て功ある處也。即ㇾ兵は、しるしを以てのたまふ。君を尊び、長を親しみ、其難に死するの義を知こと、學校の教、孝悌忠信の行によれり。今の民の事にはあらず。農兵の事也。農兵なれば、武士民間にありて年貢は十一也。今の馬廻など云者は皆民間にあり。故に今の牢人と云者も、むかしはなし。郷里にて民に六藝を敎る役者を儒といへり。六藝は禮樂弓馬書數なり。禮の中に軍法あり、干戈劍術も其中にあり。六藝の中、半は武藝也。今の民いかで吉凶軍賓嘉の禮を習ひ、弓馬書數を學び、琴瑟を調むや。いにしへの農兵ゆたかなりしことおもひやるべし。其間には山野川澤に狩漁して筋骨を健にし、冬にいたり農事終て、衆をあつめ大に狩して軍法をならはす。食足り、兵足り、文武の藝に達し、上下相親で和睦し、軍法よく調て、用る時は敵に勝ずと云ことなし。身方をそこなふことすくなくして、賊を亡す。是を即ㇾ戎ニと云也。敎あしければ、上下不ニ相親一。武事のたしなみをろそかに、身不達者に、軍法不ㇾ調ノハして、用る時は敗軍せずと云ことなし。人をそこなふ事おほければ、軍士を棄る也。是を民に殃すといへり

憲問第十四

憲問恥。子曰。邦有道穀。邦無道穀恥也

夫人幼にして學び、壯にして行ひ、老て敎ゆるは常也。幼にして學びず、壯にして行はず、老て敎へざる者を國賊とも穀賊ともいへり。士にしては大なる恥也。學は必しも道德の學ならでも、六藝の中文武の所作一ッ二ッにても學びとり、治國には政の一役をつとめ、軍國には武夫の用に立べし。老て仕をやめ、鄕里に歸て其子甥などにをしへ、或は鄕の子弟に子をかへてをしへ、空しく天物を不レ費を不穀と云なり。國有レ道時に爲ことあり。無レ道時にひとり其身をよくすると云は上人の事なり

克伐怨欲不行焉。可以爲仁矣。子曰。可以爲難矣。仁則吾不知也

克は勝心也。伐は慢心也。怨は君父を恨み、朋友を忿恨し、臣妾をいかりなどする也。欲は財欲のみにあらず、好惡の凝滯也。此四の者は凡心の常也。四つの者不レ行時は、凡人にあらず、仁者たるべきかと也。孔子の難とのたまふは不レ行は四の者有て不レ行、是制しがたきを制す、難とする處也。其心上にて仁をゆるさむことは我不レ知と也。仁者は四の者の累なし。凡心をはなれたる心の德なれば不レ行ことは云にたらず

子曰。士而懷居。不足以爲士矣

解集註大全に見えたり

子曰。邦有道。危言危行。邦無道。危行言孫

集註備れり。或人問、高峻の行いかむ。云、無欲にして義理を專にする也。有道無道ともにふせぐ者なし。さりながら無欲だて義理だてをするはあしゝ。密にかくれて己がためにする時は、人しらず、高峻の至り也。問、卑順の言いかむ。國無道。其默足以容といへり。問、高峻の言いかむ。云、國有道。其言足以興といへり。進で賢をかくさず、故に禹拜昌言

子曰。有德者必有言。有言者不必有德。仁者必有勇。勇者不必有仁

言は口上よき物いひなどの事にはあらず、道理に叶ひたる明言也。有德の人に無口上なる人あるべし。まれにいふ言も、無口上ながら道理明かなるべし。言は心の聲也。有德の人は、眞實中に積で理明らか也。故に嘉言あり。世間の口上よきは、生付てよくものいへば、其身の心の位よりは言はよき者也。其言のよきを以て有德とはゆるすべからず。仁者は生死順逆一貫にして恐るゝ處なし、故に勇あり。しかれども常は愛敬ふかく、勇强の躰は見えず沈勇に似たり。勇者には仁あり、不仁あり。氣質に得たる故也。聖賢の勇は神武にして不殺といひて、見ては懼るべく、おかすべからず、といへども、人をにくまず、あなどらず。惧れて愛すべきは德に得たる勇なればなり

南宮适問於孔子曰。羿善射。奡盪舟。俱不得其死然。禹稷躬稼。而有天下。夫子不答。南宮适出。子曰。君子哉若人。尙德哉若人

集註大全備れり

子曰。君子而不仁者有矣夫。未有小人而仁者也

心術によりて名利色等の凡情をはなれ、高明の地位に至りたる人は君子也。見ては及がたき人なれども、仁愛の心うすく、人のためにならざる者あり。國家天下のためにならず。徒善は政をするにたらざる類也。曾晳などのごとし、君子なれども仁者とはいふべからず。是は君子十人の中に一人也。小人は己を利することのみ知て、人を損ずることをいとはず。故に十人が十人ながら仁あらず。世俗にもしはき者は必ず忍きといへり

子曰。愛之能勿勞乎。忠焉能勿誨乎

解集註に見えたり

子曰。爲命。裨諶草創之。世叔討論之。行人子羽脩飾之。東里子產潤色之

解集註大全に見えたり

或人問二子產一ヲ。子ノ曰。惠人ナリ也

子產はいにしへの善人也。內仁にして、外猛なり。心寛にして、政嚴也。驕奢を退けて、恭儉を尊ぶ。畢竟民を愛するに歸着す。故に惠人とのたまへり。子產死せりと聞て、孔子涕を出してのたまはく、いにしへの遺愛なり、と事は左傳に見えたり。孟子の惠あれども、政をすることをしらずといへるは、其乘輿を以て人を濟せる一事に付ていへり。聖人の迹をふまず、室に不レル入ラの善なれば、少づゝの不足あり。小を以て大を害すべからず。孔子は其重き處をあげてのたまへり

問二子西一ヲ。曰ノ。彼レヲサヘニヤ哉彼哉

彼哉とは、子產と同じ樣に善人の數にはいはれぬ者と也。或人問、子西楚國を讓りて、昭王を立たるは義あり、無欲也。其時分は戰國にて、父子兄弟も相ヒ爭ヒ相ヒ殺す時節なるに、與ふるを取ず。賢大夫とする處也。又吳より楚の軍をやぶりたる時、楚國恐れたるに、子西は幸なりと云て、國を定めたるは知ありとする處也。賢にして知あらば何ぞ子產におとるべきや。云、誠に此二行は、其時に稀なる善行なれば、賢知あるがごとし。夫レ令尹子常が子西を立むと欲して云、子西は平王の庶子なれども、長男也。壬は太子なれども、幼弱也。子西長子にして善を好めり。長を立るは順也。善を建るは治るといへるは可にあたれり。子西壬を保養して、其人ならば可レキ讓ルのみ。しかれども子西がいへるも時の勢に叶へり。秦の國太子壬に親してひかへたり、子西を立て置べからず。しかる時は、あたをまねくなり。其ノ上太子を措て立ツは義にあたらずといへるは尤也。しからば其旨をいひて不レル立にてよきを、

子常をいかりて殺さんとせしは何事ぞや。我無欲にして知ありと思ふに矜りたるか。國に患難あり、貴賤恐れたる時に改め治めたるは尤也。無事の時は、人善言を聞入ぬ者なれば、少し懲たる時に教定るは小人の幸也。少し才あり勢ある者はなすべき事也。子西無欲なれども、賢ならず、才あれども、知なき事は、昭王の孔子を用ひむといはれしを拒みとゞめたるは聖賢の心をしらず。是己れ不賢なる故也。白公を呼、禍乱をいたしたるは、姦人をしらざるなり。楚は諸侯なるに、王號を僭したるを改めざるは道をしらず。一二の善行ありといへども、大本かけたり。

子産には劣りたる者なり

問二管仲一。曰。人也奪二伯氏駢邑三百一。飯二疏食一沒レ齒無二怨言一

解集註大全にみえたり。管仲本才あり、又文學あり。故に夷狄を退け、乱を治め、天下を一統して王を尊ぶ。貴賤其恩澤を被れり。其功に及ぶ者なし。惜べきは聖學なくして德をしらざる故に、其事業いやし

子曰。貧而無レ怨難。富而無レ驕易

解集註大全に見えたり

子曰。孟公綽爲二趙魏老一則優。不レ可三以爲二滕薛大夫一

公綽仁愛ありておとなしき人也。小知の小才なし。故に大國の元老とし、諸臣の上に置たる時は、恭しくゆたか也。大臣の器量也。大國の家老の時よかりしとて、小國の大夫とし事しげく用多からしめば、あたらよき人すたる

べしと也。又小國の大夫とし事とらせてよかりし者を、大國の家老とせば無用の用おほくなり、下いそがはしく、人民つかはれて長久なるべからず。人を用るは、德に付て用ることあり、才を用ることあり。たがふ時は共にすたる也。たゞ聖人大賢のみ、小國に用ひても事とゝのほり、大國に用ひてはゆたか也。才德兼備りたる人なり

子路問成人。子曰。若臧武仲之知。公綽之不欲。卞莊子之勇。冉求之藝。文之以禮樂。亦可以爲成人矣

集註備れり

曰。今之成人者。何必然。見利思義。見危授命。久要不忘平生之言。亦可以爲成人矣

解集註に見えたり。いにしへの成人には及ばざれども、利害の間におゐて義を失はず。死生の間に仁あり、勇あり。平生信ある人ならば、才知藝能禮樂不備と云とも、人の人たる實あれば、先以て人也。今の成人なるべし

子問公叔文子於公明賈。曰。信乎。夫子不言不笑不取乎。公明賈對曰。以告者過也。夫子時然後〔〇言。人不厭其言。樂然後ノ九字脫カ〕笑。人不厭其笑。義然後取。人不厭其取。子曰。其然。豈其然乎

解集註に見えたり。是譽過たり。此道理あれども、文子はそれほどの人にはあらざるなり

子曰。臧武仲以防求爲後於魯。雖曰不要君。吾不信也

解集註に見えたり

子曰。晉文公譎而不正。齊桓公正而不譎

解集註大全に見えたり。二公ともに諸侯の盟主たり。戎狄を退けて中國を定め、周室を尊べる功は同じ。日本の將軍家のごとし。二公の中、桓公は師を出すといへども、道理を正しく云きかせて、戰を不用して服す。敵をいつはらざる也。文公は詭を以て動き、戰て勝ことをなせり。桓公には親で服し、文公にはおそれて服す。二公の中にては正詭ありといへども、同じく伯者にて大正にはあらず。後世は桓公程の人もなし。日本にて頼朝家北條家足利家みな伯者也。其中泰時時頼すぐれたり。此二人の氣質心ゆきは桓文にもまされり。今の代に生れて大道をきかば、二人共に日本中興の主たるべし。伯者には終るまじき人也。可惜

子路曰。桓公殺公子糾。召忽死之。管仲不死。曰未仁乎。子曰。桓公九合諸侯。不以兵車。管仲之力也。如其仁。如其仁

解集註に見えたり。子路は仁の德を以ていへる故に、管仲仁者にあらずとす。孔子は仁の功を以てのたまふ。功におゐては天下ならぶ者なし。子路は德のかけたるを以て、其功を廢す。孔子は其功の大なるをあげて、德の累を

のたまはず。惡を隱して善を揚るは大知也

子貢ノ曰。管仲ハ非ニ仁者一與。桓公殺ニス公子糾ヲ一。不レ能ハ死スルヿ。又相タリレ之ニ。子ノ曰。管仲相ケテニ桓公ヲ一覇タラシムニ諸侯ヲ一。一タビ匡ニノ天下ヲ一。民到テニ于今ニ一受クニ其ノ賜ヲ一。微セバニ管仲一。吾其レ被リレ髪ヲ左レ衽セン矣。豈若ナランヤ下匹夫匹婦ノ之爲レガ諒ヲ也。自經レテニ於溝瀆ニ一。而莫キガ中之知ルヿ上也

解集註大全にみえたり。子貢も亦管仲が德に疵ある所に付て、仁者ならずといへり。孔子は其大器量あり、本才あり。今の世に當て管仲ならでは戎狄を退け、周王を尊び、天下を正すべき者なきことをみづから知て、とらはれと成て、功を立たる事を稱美し給へり

公叔文子ガ之臣大夫僎。與ニ文子一同ク升ルニ諸公ニ一。子聞レテ之ヲ。曰ノ。可ニ以テ爲一レ文ト矣

解集註に見えたり

子言フニ衛ノ靈公ノ之無道ナルヿヲ一也。康子ガ曰。夫レ如ンバレ是ノ。奚ンゾ而不ルレ喪。孔子ノ曰。仲叔圉ハ治ニ賓客ヲ一。祝鮀ハ治メニ宗廟ヲ一。王孫賈ハ治ムニ軍旅ヲ一。夫レ如シレ是ノ。奚ンゾ其レ喪ン

解集註に見えたり。靈公其身無道也といへども、人才を知て其役に叶へり。是人君第一の所也。故に不レ亡。たとひ其身作法よく善人の名ありといへども、人を不レ得ときは國治まらず

子ノ曰。其ノ言ノ之不ㇾ怍ヂルハ。則爲ルコトㇾ之難シ

解集註にみえたり

陳成子弑ス二簡公ヲ一。孔子沐浴シテ而朝ス。告テ二於哀公ニ一。曰。陳恆弑ス二其ノ君ヲ一。請フ討センㇾ之ヲ。公ノ曰。告ゲヨ二夫ノ三子ニ一。孔子ノ曰。以テ三吾從フヲ二大夫ノ之後ヘニ一。不二敢テ不一ンバアラㇾ告サ也。君ノ曰。告ゲヨト二夫ノ三子ノ者ニ一。之テ二三子ニ一告グ。不ㇾ可カ。孔子ノ曰。以テ三吾從フヲ二大夫ノ之後ヘニ一。不二敢テ不一ンバアラㇾ告也

解集註にみえたり

子路問フㇾ事ヘンコトヲ二君ニ一。子ノ曰。勿ㇾ欺クコト也。而犯セㇾ之ヲ

大軆（タイテイ）君臣の交り（マジハ）をのたまふ。かならずしも子路の氣質に拘（カヽ）はらず。君にはかくすことなくして爭（アラソフ）ことあり。父には隱（カク）す事ありて、爭ことなきの意なり

子ノ曰。君子ハ上達シ。小人ハ下達ス

解集註に見えたり。學ぶといへども、小人の儒は常に下達す

子ノ曰。古ノ之學者ハ爲ニシㇾ己ガ。今ノ之學者ハ爲ニスㇾ人ノ

集註備れり

蘧伯玉使ニ人ヲ於孔子ニ。孔子與レ之坐ノ而問テ焉。曰ノ。夫子何ヲカ爲ル。對テ曰イ。夫子欲スレ寡カランコトヲ其ノ過ヲ而未ダレ能ハ也。使者出ヅ。子ノ曰。使ナルカナ乎使ナルカナ乎

集註備れり

子ノ曰。不レバレ在ラ其ノ位ニ不レ謀ラ其ノ政ヲ

重出

曾子ノ曰。君子ハ思ヒ不レ出ニ其ノ位ヲ

解集註にみえたり

子ノ曰。君子ハ恥テ其ノ言ヲ而過ス其ノ行ヲ

過行は篤行也。其言のむなしからんことを恥ればなり

子ノ曰。君子ノ道ナル者ノ三ツ。我レ無シレ能スルコト焉。仁者ハ不レ憂ヘ。知者ハ不レ惑ハ。勇者ハ不レ懼

此ノ我ワレは孔子一人の我にあらず、何れも門人をさしてのたまふ我レ等ラ也。俗にも人をさして我等と云がごとし。吾人といはむがごとし。能することなきは大方は及べども、全からざるなり。仁者は天地万物を以て一躰とす。故に富

貴の道を行て、禮を好み惠を事とす。貧賤なれば貧賤の道を行て、よくつとめて樂しむ。患難なれば患難の道を行て屈せず。夷狄にゆくといへども、夷狄に居の道を行て獨立す、終には夷狄を化する事あり。己にあらずと云ことなければ、順逆一貫にして不レ憂へ。知者は幽明死生てらさずと云事なし。理にくらからざる故にまどはず。好學より至るべし。不ル懼に、君子の懼れざると、凡人の不ル懼レと分別あり。戰陣兵刄を不ル懼レは武士の勇也。山林に入て虎狼を不ル懼レは獵者の勇なり。海に入て龍蛇を不ル懼レは海士の勇也。是皆所ロ習の血氣の勇也。君子は自反して縮ければ、千萬人といへども不レ懼レ。知明かなれば、鬼を不レ懼レ、死を懼れず。命をしれば飢寒を懼れず。欲なければ富貴を懼れず。万物の靈たる德あれば猛獸龍虵を懼れず。君子は浩然の氣至大至剛にして、天地の間に塞る。是を大勇と云、其上知明らかにして理にくらからざれば懼るゝ處なし。知仁勇を君子と云。三の者は性の德なり、在ときは共にあり

子貢ノ曰。夫子ノ之自道ナリ也

三の者は孔夫子の道となり

子貢方レブ人ヲ。子ノ曰。賜ハ也賢ナル乎哉。夫我レハ則不レ暇アラ

自修るに專なれば、人の長短をはかるべきいとまなし。自己を賢なりとし滿足する故に、人の批判をするやとの戒敎なり

子曰。不患人之不己知。患其不能也

解集註に見えたり

子曰。不逆詐。不億不信。抑亦先覺者是賢乎

むかへおもんばかる者は思索也。賢者は思索の勞なし。覺昭して知空々如たり。誠に專にして自明なり

微生畝謂孔子曰。丘何爲是栖栖者與。無乃爲佞乎。孔子曰。非敢爲佞也。疾固也

解集註に見えたり

子曰。驥不稱其力。稱其德也

驥は良馬の名也。力あまり有て、千里を一日にゆくといへども、無爲にして幼童にもあつかはる。故に良馬の名あり。もし驥の力ありて、人をも馬をも齧蹄などせば、天下の棄才也、うち殺さんより外はあらじ。人才知あり、勇力ありて不仁ならば、愚不肖には劣るべし

或曰。以德報怨何如。子曰。何以報德。以直報怨。以德報德

集註備れり。怨に報るに恩を以てするは、忍辱慈悲の意に似たり。南方の强の風也。老子西域に入て浮屠となる。

釋迦仙人につかへたると云は、老子を師とせし也、といへり。心法相通ずる處あり。或人問、老子西域に入て、釋迦の師となるの說如何。云、釋迦は周の穆王の時に當るといひ、老子は敬王の時なれば、前後相違の樣なれども、中國天竺正朔不レ通ぜ。穆王の時と云も、しかと證據にはならざる事也。是ノ故に中國の書にも、此說あり。天竺にて釋迦の師となるべき者不レ聞。折節老子西域に入たればさも有べき歟。或人問、君子も時ありて、恩を以て怨に報ることありや。云、小人は君子を仇とす。小人時を得れば、君子を困窮せしむ。小人の時は久しからず。君子又時を得れば、小人に仇を報ひず、汎く衆を惠む中にありて共にめぐまる。是君子の公心也。君子初より小人を不レ怨といへども、平人より見て怨べき事なれば、怨に報るに惠を以てすとも云べし

子ノ曰。莫ニ我レヲ知ルコト一也夫。子貢ノ曰。何爲レゾ其レ莫ランレ知ルコト子ヲ也。子ノ曰。不レ怨ミレ天ヲモ。不レ尤ガメレ人ヲモ。下學メ而上達ス。知ルレ我ヲ者ノハ其レ天カ乎

先覺いへり。見べく聞べく云べきは皆下學也。見べからず、聞べからず、云べからざるは上達なり。共に學べくして、いまだ共に達すべからざる處なり。子貢の知こゝに及べり。故に默識して又いふことなし。孔子も其開發の機を見て告給ふ處也。問、何をか不レ怨レ天ヲモと云や。不レ尤レ人ヲモと云や。云、孔子の行ひ給ふは天道也。しかるに、いたす事なくしていたる、患難あるは命也。父母の家事をつとめ、よく父母に事ふれども、父母の怒あるが如し。しかれども孝子は不レ怨。貧賤患難も爾を玉にするの慈命なれば、下學上達すべき處也。何のうらむる事かあらん。孔子の爲給ふ所は皆天下衆生のため也。しかるに孔子を仇とし、殺さんとする者あり。しかれどもとがめ給はざるは、彼

くらくしてしらず。其上君子の徳をみがく者は小人の横逆なり

公伯寮愬子路於季孫。子服景伯以告曰。夫子固有惑志於公伯寮。吾力猶能肆諸市朝

市朝の間に殺して、讒者のかばねをさらさんと也

子曰。道之將行也與命也。道之將廢也與命也。公伯寮其如命何

道の行はれんとする時は、君子をすゝめ用る者あり。道の廢れんとする時は、賢者を讒し退る者あり。讒者の言きかるゝは、道のすたるべき命也。實は讒者の力にあらず。道の興起せんとする時は、讒者ありとはいへども、いかむともすることなし。前章の次に此章を記して、不怨不尤の意をしらしめんとす。記者の苦心なり

子曰。賢者辟世。其次辟地。其次辟色。其次辟言

道なき時は、世をのがれてしられず。山林川澤海邊などに賤者のわざをして居、或は市朝にありといへども、才徳をかくし愚人とひとしく見えて居也。淵明が酒に隱れたる類也。辟地は危邦に不入、乱邦に不居類也。辟色は或は默し、或は去、言には出ざれども、色貌の間に實不實を見る也。辟言はいふべからずしていはず、己言を去也。言は心の聲也。共に爲ことあるべからざる言を聞ては去る。此四の者は淺深にあらず、機を見てなり

子曰。作ル者七人矣

解集註に見えたり

子路宿ス二於石門一ニ。晨門ノ曰。奚クヨリ自リゾ。子路ノ曰。自リス二孔氏一。曰。是レ知テ二其ノ不ルヿヲ一レ可ナ而爲ル之ヲ者ノカ與

晨門は門の開闔をする者也、今の門番也。天下道の行はれざることを知て、賤役にかくれたる賢者なり。故に孔子をそしれり。道の行はれざる時に、周流するは隱るべき時にかくれず。是不可を知て爲ものなりと也

子擊ツ二磬ヲ於衛一ニ。有テ下荷レテ二蕢ヲ而過ル二孔氏ノ之門一ヲ者上ノ。曰。有ル心哉擊ツヿレ磬ヲ乎

磬は樂器也。今太鼓羯鼓鐃鼓など打て唱歌するがごとし。蕢は草器也。今藁にて作りたるふごと云者なるべし。是を荷ひたるは、是も賢にして庶人に隱れたる者なり。塩野菜をあきなふ者なるべし。孔子の磬の聲は無心にして樂める音にあらず、心あるひゞきとなり

既ニシテ而曰。鄙ナカナ哉硜硜乎タリ。莫シ二己ヲ知ルヿ一也。斯レ已マン而已ノミ矣。深ケレバ則厲シ。淺ケレバ則揭ス

硜々は磬の聲也。其音無心自然ならで、世に心あるひびきはいやしと也。己が才を人不レ知ば、世と我と相忘れてやみたるがよきに、强てしられんことを求めありくはいやし。世の無道前かたならば、微官につかへて、其事さへと

ゝのはゞ可なり。世の無道きはまらば。衣をかへし、庶人となり、才知を隱して深くかくるべし。水をわたるに淺ければ、衣をかゝげてわたり、深ければ、衣をぬぎ手に持て濟るがごとし。我蕢を荷を學びずやの心あり

子曰。果哉。末之難矣

天下道ある時はあらはれ、道なき時は隱るゝの常法は誰も知たる事也。其ごとくせんは易き事也。性命を乱世に全ふして、聞達を諸侯に求めざること孔明にありては可なり。孔子にありては不可也。孔明だに漢の先主の強て起すには不得已義ありて出たり、況や孔子は天命あり。天下こぞりてそしるとも辭せざる道あり

子張曰。書云。高宗諒陰三年不言。何謂也。子曰。何必高宗。古之人皆然。君薨。百官總己以聽於冢宰三年

解集註に見えたり

子曰。上好禮。則民易使也

禮式定る時は物易簡にして、事少し、民の力を用ることも稀なり。民無事を樂で、上の命にしたがはんことを欲す。日あらずしてなす故に使やすし

子路問君子。子曰。脩己以敬。曰。如斯而已乎。曰。脩己以安百姓。

〔○百姓ノ二字ハ人ノ誤〕曰。如レキ斯ノ而已ノミ乎カ。曰。脩レテ己レヲ以テ安ニンズ百姓一ヲ。脩レテ己レヲ以テ安ニンズルコトハ百姓一ヲ。堯舜モ其レ猶ヲ病メリ諸

解集註にみえたり

原壤夷ニメ俟ツ。子ノ曰ノ。幼ニメ而不ニ孫弟一ナラ。長メ而無レク述ルコト焉。老テ而不レル死ナ。是レヲ爲レト云テ賊ト。以レテ杖ヲ叩ニク其ノ脛一ヲ

解集註に見えたり

闕黨ノ童子將レナフ命ヲ。或人問レテ之ヲ曰。益者カ與。子ノ曰ノ。吾レ見三ル其ノ居ニルヲ於位一ニ也。見ニル其ノ與レ先一生並ビ行一クヲ也。非ニス求レル益ヲ者一ノニ也。欲ニル速ニ成一ンコト者ノナリ也

解集註に見えたり。長じて人を用るには、其得たる事に用ひざれば人をあやまる。幼童を敎るには、其不レル得ことに習はす。或は衆を愛し、或は一人を愛す、古人の苦心なり

衞靈公第十五

衞靈公問ニ陳ヲ於孔子ニ。孔子對テ。曰。俎豆ノ之事ハ。則嘗テ聞ケリレ之ヲ矣。軍旅ノ之事ハ未ダニ之ヲ學ビ一也ト云テ。明日遂ニ行ル

陳は軍陣の法なり。時に諸國戰伐を事とす。故に敵に勝の軍法を問也。俎豆は禮の器なり。禮を學びたりとの給はで、器を以てこたへ給は、禮には吉凶軍賓嘉の五備はりて、軍法もある故に、禮中平常の事ばかり聞たると也。軍旅の事いまだ不レ學とのたまふは、靈公本をすてゝ末を取を、抑へてのたまふなり。天道に陰陽あり、人道に文武あり。一もかけては天地人の道不レ立。孔子文のみにて武なきにあらず。靈公無道にして、戰伐に志あり。故に其本に反て國を治めんことを欲し給へば也。國を治るには仁政を以てす。仁政は君の仁心より生ず。人の君としては仁に止る。君は民の父母なれば也。其子弟を率ひて、其父兄を責る者なければ、仁者には敵なし。天下に敵なき時は、軍法用る所なし。孔子は知仁勇の德あり。たとひ百戰百勝の功ありとも、凡俗の卑才也。陋し。孫呉に似たり。訟を聞て理非明白なりとも、人に異なることなし、訟なきに至て聖德を知と同じ事なり。問、天下に敵なきには武は何の用ぞ。云、戎狄は禽獸に近し。禽獸は食に付て出て田畠を害す。戎狄も中國の衣食を欲して害をなす者也。戎狄禽獸を威し。非常の暴人をふせぎ、民を警固して無來ならんが爲の武備也。明日行給ふは、言を辟色を辟の義なり

在陳絶糧。從者病莫能興

孔子衞を去て、陳にゆかむとし給ふ時、陳の國は楚國に服し、蔡の國は吳國に服す。吳楚の合戰やむ年なし。楚の昭王、孔子をまねかんと欲す。孔子陳に行て楚に至りなば、楚の兵つよくならんことを憂て、蔡より兵を出して孔子をかこめり。故に糧を兵間に絶こと七日なり。門人の供せし者、つかれ病で起居にたへざる者おほし。孔子のみ絃の聲を絕給はず。子貢謀を以て圍を出、米食を入て助たり。陳の國も是を聞て兵を出し孔子をむかへたり

子路慍見曰。君子亦有窮乎。子曰。君子固窮。小人窮斯濫矣

道の行はれざることをいかれり。慍の字いきどをる意也。君子も如此困窮することありや、とは道の行はれざる時は君子も如此事あるかと也。又君子は知仁あり、仁者には敵なし。しかるに孔子を仇とし、ふせぎなどするはいかむ。其上君子は知あれば、如此難あるべき事は、かねてはかり知て、趣くまじき事也。此窮は知仁に瑕ありと難じたる意もあり。君子固窮とは素患難行患難の意也。富貴貧賤平常患難、何事も人生逢ところの一事也。辭すべからず。寒者〔○暑カ〕風雨居てふせぐべき時あり、出てしのぐべき時あり。ふせぎて寒暑の煩をのがるべき時あり、出て病を稟るもさけざる時あり。起居動靜過不及なく、昼夜の道に應じて養生を專にする時あり、過不及ありて、病を生ずれども、禮義に當ては辭せざる時あり。危邦に不入、乱邦に不居、機を見て作するは、義に害なき時の事也。危きを見て命を授るは義也。孔子此時衞を去べくして去給ふ。兵間の難を顧はかり給はざるは義の勇也。困に處して亨る、怨悔なきは義の安也といへり。固窮するは、困亨貞なりの意也。困不失其所

レ享ル。身雖ドモレ困ストレ道ハ自テ通ズといへり。小人は患難に逢て寒暑のごとく思はず、有まじき事に逢たる樣に思へば、天を怨み人をとがめてあふるゝことあり。濫は溢也。水の川中より外にあふるゝごとく、禮儀の外に出るなり。強なる者は僻事をなし、弱なる者は憂苦して常を失ふ。共にあふるゝ心なり

子ノ曰。賜也。女以レ予ヲ爲ニ多ク學デ而識ルレ之ヲ者ト與。對テ曰。然リ非ズヤ與。曰。非ナリ也。予一以テ貫クレ之ヲ

曾子の一貫は、知行合一、廣大に至て精微を盡し、高明をきはめて中庸による入德の功也。子貢の一貫は、見くはしく心高く、既に凡をはなれんとす。故に其見所によつて告給ふ。後世死生人鬼富貴貧賤一貫の理を知者は、多くは子貢の傳なり。曾子の傳すくなし。子貢の傳なれども、子貢に不ルレ及バところあり。子貢は見所高明にして、凡を出たり、吾人は理を知といへども、いまだ凡をはなるゝことあたはず

子ノ曰。由知ルレ德ヲ者ノ鮮ナシ矣

饒氏云、知在ルニ行ノ先ニ曰フレ知ルトレ道ヲ。知在ルニ行ノ後ニ則曰フレ知ルトレ德ヲ。孟子ノ云、飽クニ乎仁義ニ所下以ナリ不上ルレ願ハ人ノ之膏粱ノ之味ヲ也。令聞廣譽施スニ於身ニ所下以ナリ不上ルレ願ハ人ノ之文繡ヲ也。德を知者孔顏の樂みを知べし。不ルレ樂マ者ノハ德をいふに不レ足。樂者は順逆ともに入として自得せずと云ことなし、慍る事あるべからず。子路道を知て德を知にいたらす。故に道不レ行ハレ。患難に逢て慍は、天を怨み人をとがむる意思あり。瑟聲不レ和も、道德の樂なければ也

在レテ陳ニ絶レツ糧ヲ。從者病デ莫ニシ能ク興ルコト一

孔子衛を去て、陳にゆかむとし給ふ時、陳の國は楚國に服し、蔡の國は呉國に服す。呉楚の合戰やむ年なし。楚の昭王、孔子をまねかんと欲す。孔子陳に行て楚に至りなば、楚の兵つよくならんことを憂て、蔡より兵を出して孔子をかこめり。故に糧を兵間に絶こと七日なり。門人の供せし者、つかれ病で起居にたへざる者おほし。孔子のみ絃の聲を絶給はず。子貢謀を以て圍を出、米食を入て助たり。陳の國も是を聞て兵を出し孔子をむかへたり

子路慍テ見テ曰。君子モ亦タ有レリ窮スルコト乎。子ノ曰。君子ハ固ニ窮ス。小人窮スレバ斯ニ濫ス矣

道の行はれざることをいかれり。慍の字いきどをる意也。君子も如此困窮することありや、とは道の行はれざる時は君子も如此事あるかと也。又君子は知仁あり、仁者には敵なし。しかるに孔子を仇とし、ふせぎなどするはいかむ。其上君子は知あれば、如此難あるべき事は、かねてはかり知て、趣くまじき事也。此窮は知仁に瑕ありと難じたる意もあり。君子ハ固窮とは素ニ患難ニ行フ患難ニの意也。富貴貧賤平常患難、何事も人生逢ところの一事也。辞すべからず。寒者〔〇暑カ〕風雨居てふせぐべき時あり、出てしのぐべき時あり。ふせぎて寒暑の煩をのがるべき時あり、出て病を稟るもさけざる時あり。起居動靜過不及なく、昼夜の道に應じて養生を專にする時あり、過不及ありて、病を生ずれども、禮義に當ては辞せざる時あり。危邦に不レ入、乱邦に不レ居、機を見て作するは、義に害なき時の事也。危きを見て命を授るは義也。孔子此時衛を去べくして去給ふ。兵間の難を顧はかり給はざるは義の勇也。困に處して亨る、怨悔なきは義の安也といへり。固窮するは、困亨貞なりの意也。困テ不レ失ハ其ノ所ヲ

レ享ル。身雖ドモレ困スト道ハ自通ズといへり。小人は患難に逢て寒暑のごとく思はず、有まじき事に逢たる様に思へば、天を怨み人をとがめてあふるゝことあり。濫は溢也。水の川中より外にあふるゝごとく、禮儀の外に出るなり。強なる者は僻事をなし、弱なる者は憂苦して常を失ふ。共にあふるゝ心なり

子ノ曰。賜也。女チ以レテ予ヲ爲ニル多ク學デ而識レル之ッ者ト與カ。對テ曰イ。然リ非ズヤ與。曰ノ。非ナリ也。予一以テ貫レク之ヲ

曾子の一貫は、知行合一、廣大に至て精微を盡し、高明をきはめて中庸による入德の功也。子貢の一貫は、見くはしく心高く、既に凡をはなれんとす。故に其見所によつて告給ふ。後世死生人鬼富貴貧賤一貫の理を知者は、多くは子貢の傳なり。曾子の傳すくなし。子貢の傳なれども、子貢に不レル及バところあり。子貢は見所高明にして、凡を出たり、吾人は理を知といへども、いまだ凡をはなるゝことあたはず

子ノ曰ノ。由知レル德ヲ者ノ鮮ナシ矣

饒氏云、知在ニルヲ行ノ先ニ曰レ知ルト道ヲ。知在ニルヲ行ノ後ニ則曰レ知ルト德ヲ。孟子ノ云、飽ニク乎仁義ニ所下以ナリ不上レル願ハ人ノ之膏粱ノ之味ヲ也。令聞廣譽施ニス於身ニ所下以ナリ不上レル願ハ人ノ之文繡ヲ也。德を知者孔顏の樂みを知べし。不レル樂マ者ノハ德をいふに不レ足。樂者は順逆ともに入として自得せずと云ことなし、慍る事あるべからず。子路道を知て德を知にいたらす。故に道不レ行ハレ。患難に逢て慍は、天を怨み人をとがむる意思あり。瑟聲不レ和も、道德の樂なければ也

子曰。無爲而治者。其舜也與。夫何爲哉。恭己正南面而已矣

無爲にして治者は舜の大知也。自然に順て、無事なる所を行ふは知の至なり。知者の前には大事化して小事となり、小事は化して無事となるといへり。惠のあまねきこと天地の造化のごとし、人其恩澤を不レ知。其本は大知にして、問ことを好み下問を不レ恥、賢をあげ能を使ひ、其人を得て衆職に任す。百官みな舜の徳に化して善人也。諸侯皆舜の徳を以て心とす。善教衆の心を化して、非をすることなし。衆日日に善にうつりて、自しらず。篤恭にして天下平也。人の見ル所、南面の外他事なし

子張問行。子曰。言忠信。行篤敬。雖蠻貊之邦行矣。言不忠信。行不篤敬。雖州里行乎哉

信の心にあるを忠と云、忠の事に達するを信と云、すべて誠也。敬は篤に至て常と成、化する時は無心なり。君子の言は忠信の聲なり、行は篤敬の發也。蠻狄のいやしき國といふとも人心の靈あり、恐れて愛すべきの徳也。貊は北狄也、四方のえびすの中、南北取分あしき故にのたまふ也。もし言實なく、行愼みなくば、生れそだちたる里にもいれられざるべし。他國へ行て人にきらはるゝ者も、古郷はなじみなればゆるすことおほし。しかれども實なく愼みなきは禽獸に近し

立則見其參於前也。在輿則見其倚於衡也。夫然後行。子張書

諸紳一ニ
必事とすることあり、受用不レ忘のたとへなり。昔我故人あり。格物致知の心法を聞て受用す。數日して思へるは我等ごとき凡人の成べき事にあらず、すてゝ本の平人に成べしとて廢しぬ。前の氣隨放蕩の身と成て見れども、むかしは良知の主人公たる事を不レ知ば故に不作法も成たり、今は不作法をしても主人公はなれざれば快からず。凡心を樂むことも今はあたはず。此上は一向君子を學びんといへり。立ても居ても馬車に乘ても忘るゝことあたはず、はなれざる主人公ありて、忠信篤敬ならば行はれざる所なかるべし

子曰。直哉。史魚。邦有レ道如レ矢。邦無レ道如レ矢

家語の說大全に見えたり

君子哉蘧伯玉。邦有レ道則仕。邦無レ道則可二卷而懷一レ之

解集註大全に見えたり。楊氏の說いかゞ。史魚伯玉の異を論すべからず。史魚は史魚、伯玉は伯玉なり。有道無道ともに矢のごとくにして通りたる者は其心の至誠也。忠義の心死して不レ亡者も至誠のいたす處なり。他人の不レ及ところなり。伯玉の有道にはつかへ、無道には卷て懷すは君子の常道なり。賢者の位のゆたかなる所は伯玉なり。故に君子哉との給へり

子曰。可二與言一。而不二與レ之言一。失レ人。不レ可二與言一。而與レ之言。失レ言。

知者ハ不レ失ハレ人ヲモ。亦不レ失ハレ言ヲモ

本文の通りにてよく聞えたり

子ノ曰ク。志士仁人ハ。無ニ求レテ生ヲ以テ害ナフコトレ仁ヲ。有ニ殺レメ身ヲ以テ成スコトレ仁ヲ

志士は義にいさむ。義に當ては生を輕(カロン)ず。身を殺しても人の義を全くする者なり。仁人は死生一貫なれば、義とともにしたがひて好惡(コウヲ)なし。義死すべくは死し、義生(イク)べくは生(イキ)、義に心ありて死生に心なし。況や富貴貧賤をや

子貢問レフ爲ンコトヲレ仁ヲ。子ノ曰ク。工ハ欲メハレ善クセント其ノ事ヲ一。必ズ先ヅ利クス其ノ器ヲ一。居テハニ是ノ邦ニ一也。事ヘニ其ノ大夫ノ之賢者ニ一。友トスニ其ノ士ノ之仁者ヲ一

仁は人也、人がらのよくならんことを問(トフ)也。人は善惡の友によるといへり。善人と居ルは、芝蘭(シラン)の室に入がごとし、久して其香(カウバシキ)をきかざるは、是と化すれば也。不善人と居ルは、鮑魚(ハウギョ)の肆(イチグラ)に入がごとし、久して其臭(クサキ)をきかざるは、是と化すればなり。丹を藏(オサム)る所の者は赤く、漆(ウルシ)を藏(オサム)る所の者は黑(クロ)し。故に君子は與(トモ)に處ヲるところを愼(ツヽシ)むといへり

顏淵問レフ爲メンコトヲレ邦ヲ。子ノ曰ク。行ニ夏ノ之時ヲ一。乘リニ殷ノ之輅ニ一。服シニ周ノ之冕ヲ一。樂ハ則韶舞ヲシ。放チニ鄭聲ヲ一。遠ケニ佞人ヲ一。鄭聲ハ淫ナリ。佞人ハ殆フシ

解集註大全に見えたり

子曰。人無遠慮。必有近憂

忿ては難を思ひ、得ることを見ては義を思ふも遠き慮也。忿て立腹のまゝに人を惡口すれば、人も又惡口す。甚しければ兵に及び、身を果し、憂子孫に及ことあり。家人妻子とても、怒氣にまかせて言行すれば後悔おほし。得ことに義を思はず、欲するにまかせて、求れば、人の恨み他のそしりあり。甚しければ身代を破ることあり。其外万事遠慮するは當然の分別なり、遠きことにあらず。故に遠慮なき者は近き憂あり

子曰。已矣乎。吾未見好德如好色者也

子罕の篇にみえたり

子曰。臧文仲其竊位者與。知柳下惠之賢。而不與立也

解集註に見えたり

子曰。躬自厚而薄責於人。則遠怨矣

集註備はれり

子曰。不曰如之何如之何者。吾未如之何也已矣

解集註に見えたり

子曰。羣居終日言不及義。好行小慧。難矣哉

解集註にみえたり

子曰。君子義以爲質。禮以行之。孫以出之。信以成之。君子哉

集註備れり。德の條理たがひに賓主をなす。敬以直内。義以方外の時は敬主と成て、義賓と成る。義以爲質の時は義主と成て禮信賓となる

子曰。君子病無能焉。不病人之不己知也

德は己に求て人に不求、事は人に隨ひ、問て己を有せざる時は日々に進む

子曰。君子疾沒世而名不稱焉

人の善不善、棺を蓋て後、公論定る。生前ほめられて、死後稱すべき事なき者あり。生前そしられて、死後に惜むべき者あり。善の實ある者、名後世にあり

子曰。君子求諸己。小人求諸人

集註備れり。當世に譽ありて、後世稱すべきことなき者は、道にたがひて譽を求ればなり。當世に毀ありて、後世譽ある者は道を求て人に不叶者也

子ノ曰。君子ハ矜ニシテ而不レ爭ハ。羣シテ而不レ黨セ

解集註に見えたり

子ノ曰。君子ハ不ニ以レテ言ヲ擧ゲ一レ人ヲ。不ニ以レテ人ヲ廢テ一レ言ヲ

人心の靈にて、小人といへども言理に中アタる者あり

子貢問テ曰。有リ下一言ニシテ而可ニキ以テ終ルマデレ身ヲ行フ一レ之ヲ者上乎。子ノ曰。其レ恕カ乎。己レガ所ヲバレ不ルレ欲セ。勿レ施スコト二於人ニ一

大學に所謂絜矩ルケツクの道也。五倫一躰ならんことを欲す、仁の道なり

子ノ曰。吾ガ之於ルレ人ニ也。誰レヲカ毀シリ誰ヲカ譽メン。如シ有ラバニ所ノレ譽ル者一。其レ有ンレ所ロレ試ル矣。斯ノ民ヤ也三代ノ之所ニ以ナリ直ノレ道ヲ而行フ一也

日月星辰、春夏秋冬、皆いにしへにかはらず。山川草木同じ。何ぞ人心ひとりむかしならざらんや。堯舜の民は比ヒ屋オク善人也。此民ハ則堯舜三代の民なり。不善人ある者は教なくして習性となれり。彼カレが罪にあらず、そしるべからず。風俗あしき中に、善人あるは自得るところあるべし。是孔子のこゝろみ給ふ人也

子ノ曰。吾レ猶ヲ及ベリニ史ノ之闕文ニ一也。有ルレ馬者ノハ借メレ人ニ乘ラシムレ之ヲ。今ハ亡ナヒカナ已夫

道理の書は少闕ても、前後の文を以てあらまし通ずることあり。史は今の日記なれば、皆事也。事は闕失ては、前後を以て考がたし。道路を行者不達者なれば、馬にのせてゆかしむ。馬なければ借べき様なし。皆せんかたなきたとへ也。人に人の道をしらしむべきも、敎なければ、すべき様なし。馬を乘さへ馬術の習なくては乘がたし。人道の敎なくては人道不行

子曰。巧言亂德。小不忍則亂大謀

解集註大全に見えたり

子曰。衆惡之必察焉。衆好之必察焉

衆の爲によき事なれども、にくむことあり。衆の害になる事をすれ共、よみすることあり。衆愚にして來者を不知ばなり。仁知ある人是を察すべし

子曰。人能弘道。非道弘人

道は天地の神道なり、あたらずといふことなし、其人を待て行はる。天生じ、地育し、人成す。人道明らかならざれば生育の功もむなし。況や天地の理は人によつて明か也。しかれども、衆心は蒙にしていまだひらけず。聖賢の君出世し給ひ、善敎善政ありて初めて道弘大なり

子曰。過而不改。是謂過矣

聖人大賢以下過なきことあたはず。過て改る時は、凡夫にして、初より過なきにはまされり。若君子過あれば日月の食のごとしといへり。過てよく改むは則教也。人其善をあふがずといふことなし。凡人は過と知ても不ㇾ改者あり。是を過を二たびすと云。二たびする時は惡に近し。改て善となることをしらず

子曰。吾嘗終日不ㇾ食。終夜不ㇾ寢。以思無ㇾ益。不ㇾ如ㇾ學也

學ぶときは日々に益ありて進む、思ひ其中にあり。不ㇾ學して思ふ者は、心の量狹き故に、思の通ずる所も高大ならず。むかしは紙墨筆なし。書は易經書經詩經等の書のみ也。竹を刪り文字を雕付、革にて編て書とす。故に今も書を作をあむといひ、何篇といへり。孔子の易を見給ひし、編たる革三度きれたりといへり。今は書多し。一二反見て文理あらまし通ずれば、他の書にうつり、博くわたるを學とす。思ひ少し。益なき事同じ

子曰。君子謀ㇾ道。不ㇾ謀ㇾ食。耕也。餒在二其中一矣。學也祿在二其中一矣。君子憂ㇾ道。不ㇾ憂ㇾ貧

田をかへして勞する牛は、宿食あらければ腹にみたず、米藏の鼠は、穀食あまりあり。命分定れり。道をはかり、道を憂る者は、日々に益あり。食を求め、貧を憂る者は日々に損あり

子曰。知及ㇾ之。仁不ㇾ能ㇾ守ㇾ之。雖ㇾ得ㇾ之必失ㇾ之。知及ㇾ之。仁能守ㇾ之。

不莊以涖之。則民不敬。知及之。仁能守之。莊以涖之。動之不以禮。未善也

此章は國郡の主以上の道を述給ふ。知ありて政可にあたる者ありといへども、民の父母たる仁愛の誠うすければ倦懈る者なり。故に其善一旦の事にて成就せず。知ありて、時處位に中り、仁ありて怠らざれども、勇義なければ下恐れず。畏れざる時は非をなし、刑をおかす者あり。知仁勇の德備りて、善政に服し、仁愛になづき、勇義に恐るといへども、禮樂を以て鼓舞せざれば、風を移し、俗をかへ、自新の民をおこして明德を天下に明かにすることあたはず。禮樂を起すことは、學校の政によれり。學校の政も時處位にかなはざれば益少し

子曰。君子不可小知。而可大受也。小人不可大受。而可小知也

君子の君子たる所は、德にありて、才にあらず。故に一役一事には不得手なる事あり。位高く祿重く、人の上に置たる時は、乱を治め危を持、天下國家を平治して、民其澤をかうぶるべし。是大受すべきなり。小人は一役一事には得たることあり。大なる任をあづくる時は、鼎足を折のみならず、邦家を覆す憂あり

子曰。民之於仁也。甚於水火。水火吾見蹈而死者矣。未見蹈仁而死者也

人水火にあらざれば、一日も不レ立。しかれども過る時は却て人を害す。仁を用て過る時は聖賢となり、及ばざれども善名を失はず。死地に入ても不レ死ナことあり。仁は生理也。生理あれば生氣盛なり。故に仁者は壽し。鳥をうちて見るに、生氣の盛なる鳥ははづるゝ者なり。戰陣にても、仁者には矢鐵炮もあたらざる理あり。仁者をば人不レ愛セと云ことなし。吉神のよる處也。幸よき者なり。仁者にして仕合あしく、或は身を殺して仁を成者あるは變なり。命也。しかれども患難は其徳を厚くし、死しては名を後世にあぐる者なり。不仁者をば人にくまずと云ことなし、邪神のよる所なり。故に仕合もあしく、生べき所にて死することあり。戰陣にて士は先を蒐、兵をまじへ、死地に入、下々は跡に退き生地を求れども、雜人はおほく死し、士はすくなく死す。是仁と不仁と、生氣の厚薄によれり。閒に不仁にて仕合よく、長命なる者あるは否塞の運、無道の世の者也、運命の勢也。しかれども天定る時は、終に不仁者は、其心困苦に陷、或は凶死す。無事にのがれたる者は惡名をのこす者也。是天理の自然なり

子ノ曰。當テハレ仁ニ不レ讓ラ於師ニ

解集註に見えたり

子ノ曰。君子ハ貞ニシテ而不レ諒ナラ

解集註に見えたり

子ノ曰。事ルニハレ君ニ。敬ニシテ其ノ事ヲ。而後ニス其ノ食ヲ

解集註にみえたり

子曰。有教無類

集註備はれり

子曰。道不同。不相爲謀

解集註に見えたり

子曰。辭達而已矣

吉人の言はすくなく、凶人の言は多しといへり。文も言も道理聞えて短きをよしとす

師冕見。及階。子曰。階也。及席。子曰。席也皆坐。子告之曰。某在斯。某在斯。師冕出。子張問曰。與師言之道與。子曰。然。固相師之道也

聖人愛敬の眞いたらずと云ことなし。天道の至誠、小虫野草といへども化工のこさゞるがごとし

季氏第十六

季氏將伐顓臾。冉有季路見於孔子曰。季氏將有事於顓臾。孔子曰。求。無乃爾是過與。夫顓臾昔者先王以爲東蒙主。且在邦域之中矣。是社稷之臣也。何以伐爲。冉有曰。夫子欲之。吾二臣者皆不欲也。孔子曰。求。周任有言曰。陳力就列。不能者止。危而不持顚而不扶。則將焉用彼相矣。且爾言過矣。虎兕出於柙。龜玉毀於櫝中。是誰之過與。冉有曰。今夫顓臾。固而近於費。今不取。後世必爲子孫憂。孔子曰。求。君子疾夫舍曰欲之。而必爲之辭。丘也聞。有國有家者。不患寡而患不均。不患貧而患不安。蓋均無貧。和無寡。安無傾。夫如是。故遠人不服。則脩文德以來之。既來之則安之。今由與求也相夫子。遠人不服。而不能來也。邦分崩離折。而不能守也。而謀動干戈於邦內。吾恐季孫之憂。不在顓臾。而在

蕭牆ノ之内一ニ也

解集註大全に見えたり

孔子ノ曰。天下有ルトキハレ道。則禮樂征伐自リ二天子一出ヅ。天下無トキハレ道。則禮樂征伐自リ二諸侯一出ヅ。自リ二諸侯一出ルトキハ。蓋シ十世ニシテ希レナリレ不ルハレ失ハ矣。自リ二大夫一出ルトキハ。五世ニシテ希ナリレ不ルハレ失ハ矣。陪臣執ルトキハ二國命ヲ一。三世ニシテ希ナリレ不ルハレ失ハ矣。天下有トキハレ道。則政不レ在ラ二大夫ニ一。天下有ルトキハレ道。則庶人不レ議セ

解集註大全に見えたり

孔子ノ曰。祿ノ之去ルコト二公室ヲ一五世矣。政逮ブコト二於大夫ニ一四世矣。故ニ夫ノ三桓ノ之子孫微ナリ矣

解集註大全に見えたり。魯の三家盛なるに當て、微なりとのたまふは理にたがふを以て也。凡人は盛なる勢を得ては、いつまでもかくのごとくならん、と思へり。其有にあらずして有者は、必ず失ふ。大なるべからずして大なる者は、必ず微なるの天理を不レ知ラ者也。今佛者大に盛なり。其ノ祖釋氏の心を失ひ、行に背き、功なくして勢あり、無道にして富り。故に必ず衰へんことをしれり

孔子ノ曰。益者三友。損者三友。友トシレ直ヲ。友トシレ諒ヲ。友トスルハ二多聞ヲ一。益ナリ矣。友トシ二便辟ヲ一。

二二六

友二善柔一。友二便佞一損矣

直なる者は人のいひがたき至情を告ることあれば、身の非を知益あり。實躰なる者を友とすれば、自己の實德を興起する益あり。博學を友とすれば、不レ知ことを聴て多識の益あり。賢人君子ならぬ平人の中にも、此益友はある者なれば、たづね易し。便辟は恭を過し、禮を過す。よきに似たれども禮實なし。非禮の禮、非義の義、其中にあり。奢りも諛ひも禮の過る所より出來ことあり。へつらふ者禮に事をよする者あり。それより世間多事に成て貴賤ともに用たらざれば、民困窮す、世の乱を根ざし、惡を初る處なり。善柔は世間に結構者人よきといふ類也。友にして心易き故に、益なくして損あり。便佞は辨舌よく、人聞て尤と思ふ様にいひなして實すくなき者也。三人共にそひよりありて交りよき者なれば、世俗是を好めり

孔子曰。益者三樂。損者三樂。樂レ節二禮樂一。樂レ道二人之善一。樂レ多二賢友一。益矣。樂二驕樂一。樂二佚遊一。樂二宴樂一。損矣

禮は多文多事にながれず、易簡の善に叶はんことを欲す。禮煩き時はやぶるといへり。林放禮の本を問るも、禮を節するの要也。禮は敬のみといへり。樂は淡正にして中和の德を養はんことを欲す。淫聲は宮不レ立、又宮有ても音和せざるは、力を以て强て立たる者なり。道德より立たる宮は和して立者なり。畢竟性情の正を養ふに歸するを、樂を節すると云べし。樂レ道二人之善一は惡を隱して善をあぐ忠恕の道也。共に忠恕の道に進む益あり。樂

レ多二賢友一輔仁の益少からず。驕を以て樂とする者、其分を忘れ、自産をやぶり、人の産をやぶるに至る者也。類多なる時は國の衰微、民の困窮これよりはじまれり。佚遊は驕はこのまざれども、其家の業をつとめず、便利にながるゝ類也。俗にのふらく者と云も佚遊の一科也。宴樂は世にあそびずきと云類也。佚遊も遊ずきなれども科かはれり。損友三人ともに似たる事にて趣かはれり、兼たる者もあり。普請ずき、道具ずき、振舞ずき、料理ずき、茶湯ずき、飲食衣服の美麗、鷹ずき、能はやしずき、男色女色ずき、ケ様の類は分に過て費おほし。欲の分に過たるは皆驕也。用たらざれば借て返さず、買て代をやらず、百姓を虐、家中をせばめ、諸人困窮の本は驕也。心を害なふ事は云に及ばず。故に損友の第一也。佚遊は是に似たる者あり。花鳥風月を好み風流なる者もあり。碁象戯等の戯に日を暮し夜を明し、酒を好む者もあり。詩哥管絃にかたより、文學を好み、山水を好み、天下道なしといひて世を遁れたるに似たれども、實は人事を厭ひ、士農工商の業をつとめず、六藝をなさず、遊民たることは一なり。宴樂は酒盛を好み、謡より小哥に移り、三味線尺八などの淫樂をこのみ、其かたに得たる者なれば下賤をも不レ擇、うかれたるあしき者を近付て、昼夜の限りをもしらざるは宴樂の至也。左様の者は善を聞ことをいとひ、常人を侮り、善人を嘲り非り、風俗を乱る者なり。己に同じき小人とより居て、あだ口をきゝ、うたひ叫て氣を伸ると云。それをやめて少も實めなる所は氣づまりと云て頭を痛む者は、靜なる遊びを不レ好。如レ此遊びずきは至極ながれたる者なり。善人の遊びは、佚遊に似て、はるかに替れり。善人の遊びは家業をつとめ、六藝を學び、人事をいとはず。其間の養生には琴瑟を執て中和の德を養ひ、月を見て心をすまし、花を見て和をたのしみ、ひとり田間山野を歩行

し、青山我目をいさぎよくし、流水我耳を靜にす。人皆生樂あり、正しき事にあそぶ者は淫樂をしらず、是なり。損者の三樂は、正しき遊を不レ知してながれたる者也。むかし曾點は狂者なり。國郡を治めんことを欲せず、人を教化せず、禮をおさめず、心法を受用せず、便利の佚遊に流るべきかと思へば、よく家業をつとめて懈らず。世間にねがひなき者は、凡情をはなれて欲なければ也。是非何事ぞ願へとのたまへば、思ひめぐらして時の佳興をいへり。是善人の遊びなり

孔子曰。侍二於君子一有二三愆一。言未レ及レ之而言。謂二之躁一。言及レ之而不レ言。謂二之隱一。未レ見二顏色一而言。謂二之瞽一

解集註大全に見えたり

孔子曰。君子有二三戒一。少之時血氣未レ定。戒レ之在レ色。及二其壯一也。血氣方剛。戒レ之在レ鬬。及二其老一也。血氣既衰。戒レ之在レ得

色は男女情欲の色のみにあらず、境界の遇所、物の觸る所、形ありて見べき者は皆色なりといへり。少年は血氣不レ定故に、物にふれて移り易し。移る時は流れ易し。故に十歳前後より三十までは、志を道藝に專にして其氣を修てみだれざらしむ。古人の小學大學の教是なり。鬬は勇力爭逆の事のみならず、人に上たらんと欲し、才知藝能文學、すべて何事も人にくだり、問て益をとらざるは鬬也。我より位高きをあなどり、卑きを凌ぎ、老者を敬は

ず、賢者を非り、同輩讓らず、言行無禮なるも皆鬪心也。得は俗に年よれば吝なるといへり。財用のみならず、其身の便によきことを好で、志氣義心共に衰るを云なり。君子は血氣衰ふといへども、志氣は不レ衰へ。時に隨て變ずる者は血氣也、不ル變ぜ者は志氣也。是を浩然の氣と云。戒を知ルときは常なる者主と成て、變ずる者隨順す。魂は氣の靈也。魄は血の靈也。心は魂魄の合也。氣は天に屬し、血は地に屬し、心は人に屬す。故に人は天地の心也といへり。心は血氣の主也、よく志を持する時は、血氣命を心にきく。志を不レ持セ時は、心反て命を血氣に聽といへり。心法のおこるところ也

孔子ノ曰。君子ニ有リ三ノ畏レ。畏ニ天命ヲ。畏ニ大人ヲ。畏ニ聖人ノ之言ヲ

天命は天理也。天理を知ルときは畏れざることあたはず。人子ある時は、父たるの慈を命ず、臣民ある時は、君たるの仁を命ず。慈仁は君父の天職也。天職をつとめざる時は天罰あり。是天理の自然也。五倫みなしかり。士農工商の業も又しかり。天命にあらずと云ことなし。大人は位ある人也。天より命じて位あり。故に大人を畏るゝは天命を畏るゝ也。聖人の言は万世の師也。是天より天下貴賤どもの師とす。聖言たがふことなし、畏れざることあたはず。堯ノ曰、四海困窮セバ天祿永ク絶ンと、是天子諸侯の畏給ふべき聖言なり、天理の必然なり。大夫士庶人以下、聖言を聽て只今我に教給ふ道理をしるべし

小人ハ不レ知ニ天命ヲ而不レ畏レ也。狎ニ大人ニ。侮ニ聖人ノ之言ヲ

小人は知くらき故に、天理をしらずして、天命を不レ畏レ。貴人の氣に入て近付らるれば、狎て後は、在位の人のし

らぬ下賤凡習の卑事を語りきかせて悅ばしむ。小人はじめは畏れ愼でよき者ぶりすれども、貴人の心あさはかにて、畏にたらずと見ては、或は利欲より導き、或は宴樂より取入などして不善至らざる所なし。己侮るのみならず、人に用ひざらしむ。此二品は天命を不知畏の重き者なり。或問、天命を不知は第一問學なき故ならんか。云、博學にして天命を不知者あり、無學なれども天道を畏るゝ者あり

子曰。生而知之者上也。學而知之者次也。困而學之。又其次也。困而不學。民斯爲下矣

生知學知困知は多き所に付てのたまへり。生知といへ共、學知困知をかねざることあたはず。禮を學び樂を習は學知也。堯舜も病る仁政の至は困知也。困知といへども、不學して知の良知あり、不習して能する良能あり。况や學知をや。三品ともに皆樂みあり。聖賢の樂みはいふべからず。困知の樂みは、學で時に習の悅なり。たとへば詩哥のごとし。句の不出は困知に似たり。句を得て悅は樂に似たり。樂を知て後よく學で至るべし。下民のごときは不知不通惑へる事おほしといへども、學問して解むことを不欲。夢のごとくにして有生し、夢のごとくにして死亡す。恥を恥と思はざれば恥なきがごとし

孔子曰。君子有九思。視思明。聽思聰。色思溫。貌思恭。言思忠。事思敬。疑思問。忿思難。見得思義

是レ心の官の思ひ也。解集註大全に見えたり

孔子曰。見善如不及。見不善如探湯。吾見其人矣。吾聞其語矣

善を見て如レ不レ及者は必ず爲ことを欲する也。不善を見て湯を探がごとくする者は必ず去ことを欲すれば也。皆我身によつて也、人を進退するにあらず

隱居以求其志。行義以達其道。吾聞其語矣。未見其人也

伊尹有辛の野に耕せしは隱居也。志天下に道を行て有生をすくふにあり。しかれども禮儀なければ出つかへず。田舍の中にして堯舜の道を樂めり。湯の禮にこたへて、出て義を行て其道を天下に達す。是孔子其語を聞給へる處也。其時いまだ如レ此人あらざれば見給はず。後世の諸葛孔明是に近し。此時顏子いまだ道を不レ得歟。顏子の學所を學び、伊尹の志す所に志すといへり。顏子に伊尹の志なきにあらず。邦を治ことを問これ也。伊尹に顏子の學なきにあらず。有辛に耕せし時は、泰然として不レ動がごとし。顏子伊尹地をかへばしからん

齊景公有馬千駟。死之日。民無德而稱焉。伯夷叔齊餓于首陽之下。民到于今稱之。其斯之謂與

解集註に見えたり

陳亢問於伯魚曰。子亦有異聞乎。對曰。未也。嘗獨立。鯉趨而過庭。曰。

學詩乎。對曰。未也。不學詩無以言。鯉退而學詩。他日又獨立。鯉趨而過庭。曰。學禮乎。對曰。未也。不學禮無以立。鯉退而學禮。聞斯二者。陳亢退而喜曰。問一得三。聞詩聞禮。又聞君子之遠其子也

志善に感發して後、禮を學ぶべし。後世善に興るの敎なくして、禮をなさしめんとす。故に扞挌してたへざる者おほし。勝ざる時は僞生ず。僞生ずる時は乱の端となる。故に後世の禮は法に近し。後世の法は德性に本づくことなし。故に立ことあたはず。詩は性情の正に本づきて善心興る。詠歌舞踏する時は、不知不識道德の樂生ず。心善に明らかに氣和平也。故にものいふことよし、ものいはんが爲に學ぶにはあらず。人の天地の間に尊き者は禮を知を以て也。他の生類は禮をしらず。人ありて後、天地人の三才と云。禮は天理也。天理に達する者は天地とならび立て三なり○陳亢退而喜曰……　解集註大全に見えたり

邦君之妻君稱之曰夫人。夫人自稱曰小童。邦人稱之曰君夫人。稱諸異邦曰寡小君。異邦人稱之。亦曰君夫人。

解集註に見えたり

陽貨第十七

陽貨欲見孔子。孔子不見。歸孔子豚。孔子時其亡也。而往拜之。遇諸塗。謂孔子曰。來。予與爾言。曰。懷其寶而迷其邦。可謂仁乎。曰。不可。好從事而亟失時。可謂知乎。曰。不可。日月逝矣。歲不我與。孔子曰。諾。吾將仕矣

集註備れり。式の一事を見るべし

子曰。性相近也。習相遠也

氣質の性、清濁動靜の異ありといへども、赤子より三才に至るまで、惡と云べき者なし。清善にして濁惡ならず、靜是にして動非ならず。清なる者、藝術などに器用にて、道に本づかざる時は却て惡に近き者あり。濁なる者、左道などに迷て愚痴になる時は、惡に近き者あり。動なる者浮躁になり、靜なる者思慮多して病を生ずることあり。共に非に近し。是習のいたす處也

子曰。唯上知與下愚不移

上知は聖人大賢の知也。惡人の中に生れそだちても、惡にうつらず性善の理明かなる人也。下愚は世間の愚夫愚婦にあらず。愚夫愚婦は聖人の道學を不レ知といへども、賢君上に立時は不レ知不レ識其化を被りて、日々に善にうつりて常人也。たゞ自暴自棄の者、聖人と居といへども、善にうつらず。自暴は强にして善をふせぎ、自棄は柔にして善を拒者也。二人ともに知なきにあらず、みづからそこなひ、みづから絶者也。才弁人に過る故に、諫をふせぎ、過をかざる者也。商紂是なり

子之二武城一。聞二弦歌之聲一。夫子莞爾而笑曰。割レ雞焉用二牛刀一。子游對曰。昔者偃也聞二諸夫子一。曰。君子學レ道則愛レ人。小人學レ道則易レ使也。子曰。二三子。偃之言是也。前言戲レ之耳

解集註大全にみえたり。國郡大小となく、治をなすに禮樂を用る事をしらざる時は、刑罰を用ゆ。刑罰を專にする時は、民手足を措に所なし。今の俗禮樂を不レ知、罕に正樂を用ゆる者ありといへども、三微線も琵琶箏も同じ様に覺えて、正樂をする者をさまたぐるは甚文盲也。又箏を假りて、三微線の淫聲をなす者あり。筑紫箏もくみは少風流に靜なる所あれば、今の俗人しゐて好まず。世間のはやり小哥にあはせてひけば、筑紫箏にもあらず。正樂行はれずして風俗のみだりゆくことを知べし。君子禮を言時は、樂其中にあり。樂を言ときは、禮其中にあり。禮樂はなるべからず。いにしへの學は詩書禮樂也といへり。禮樂をいふ時は、詩書はいふに及ばず

公山弗擾以費畔。召子。欲往。子路不說曰。末之也已。何必公山氏之之也。子曰。夫召我者。而豈徒哉。如有用我者。吾其爲東周乎

解集註にみえたり。孔子陽貨には往ことを欲し給はず、弗擾にはゆかむとし給ふは、陽虎と惡を共にすといへども、其人がら過を改むべき所あるならん。しかれども終に往給はざるは、改めざるなるべし。子路の此言を見れば、衛につかへたるは故あるべし

子張問仁於孔子。孔子曰。能行五者於天下爲仁矣。請問之。曰。恭寬信敏惠。恭則不侮。寬則得衆。信則人任焉。敏則有功。惠則足以使人

天下に行ふは、何れの國所にも行はれずと云ことなき也。恭なる時は、心收斂して精神存ず。其上己人を侮らざれば、人も又己をあなどらず。己人を敬すれば、人も又己を敬す。寬なる時は、惡を隱し善をあぐ。人の非をとがめず、上にある時は、罰に心なし。直を擧て枉れるをすてをき、枉れる者自然に直くなるは寬の至也。故に衆心歸服す。臣信なる者は上信任す、君信なれば下信任す。下の信任は子孫の代までたのもしく思ひて、子孫を信任して奉公の忠あり。敵國といへども信任せずと云ことなし。敏なる者は、善を見ては行ひ、善を聞ては用ひ、滯りな

き故に功あり。惠ある人には、下なづきて爲につかはれんことを欲す、子產の類也。此五の者は仁の用也

佛肸召。子欲往。子路曰。昔者由也聞諸夫子。曰。親於其身爲不善者。君子不入也。佛肸以中牟畔。子之往也如之何。子曰然。有是言也。不曰堅乎。磨而不磷。不曰白乎。涅而不緇。吾豈匏瓜也哉。焉能繫而不食。

解集註に見えたり

子曰。由也女聞六言六蔽矣乎。對曰。未也。居吾語女。好仁不好學。其蔽也愚。好知不好學。其蔽也蕩。好信不好學。其蔽也賊。好直不好學。其蔽也絞。好勇不好學。其蔽也亂。好剛不好學。其蔽也狂。

佛氏の衆生濟渡の慈悲、其心は可也、其行は愚也。學といへども聖學を不知故に、慈悲と云者仁に似て、天理の仁にあらず。故に其蔽愚に至れり。知を好て學くはしといへども、是も聖學にあらざれば、高きを極め遠きを極めて、高明深遠廣大玄妙をいへども、蕩々として至り止る所をしらず。信を好で理明らかならざれば、其身を害し

物を賊にいたることあり。世間の僞曲をにくみて直を好むはよけれども、學いたらざれば、見卑く心せばきが故に、かたくなしく窮屈にきびしくなる者也。學は義理を知にあり。義理をしらで勇を好む者は乱を起すにいたる事あり。剛强はよけれども、學を不好、禮を不知ば、其質にひかれて輕擧妄動す。禮儀を不知者は不敬也。樂の心を不知者は不和也。不敬不和にして、剛を好む者は剛惡にいたる者也。貴人は國家を亡し、匹夫は身を失ふ者なり

子曰。小子。何莫學夫詩。詩可以興。可以觀。可以羣。可以怨。邇之事父。遠之事君。多識於鳥獸草木之名。

詩を學で六の益あり。善心を感發し、志道德に興起する者あり。二南幷に大小雅の中にをいて是を得ること多し。古今人情時變の得失を知て、身の進退出處を考へ、政を爲に觀るべき者あり。變風をかねて是を得べし。物は羣を以てわかる、人は人と居べし。大學親民の意也。可怨は孝子の怨、忠臣の怨あり。夫婦兄弟朋友皆怨でます／＼親し。怨で親しむは詩哥の德也。父子親み、君臣和すること詩の敎に得ることおほし。後世は君臣の威敬甚過たり、却て威を失て敬おこたることをしらず。世俗に位倒れと云は、威の過ておとろへたること也。鹿鳴等の樂章を見て、上古君臣の間近くして親しかりしことを知べし。萬物の名を識ことは、知に心なくして自然にしることあり

子謂伯魚曰。女爲周南召南矣乎。人而不爲周南召南。其猶正牆面而

立一テルガ也與カ

二南の風（フウ）は、人情の正を得て盛徳至善なる者也。故に二南の心をしらざる者は理明かならず、道行はれず、墻（カキ）に向て立るがごとし。志高き者は、道の大意を見といへども、人情にうときことあり。見識卑（ヒキ）き者は、人情に近しといへども、道を不レ知ラば正を不レ得。或は人情に疎（ウト）く、或は人情の正を不レ得ル者は、共に人道を盡すべからず、齊家治國平天下の道にあらず、正心修身の實學にあらず。故に二南を學フ者は正心修身より齊家治國平天下に至まで通ぜずと云ことなし。況や音（イン）に叶（カナヘ）て誦歌（セウカ）し、是を琴瑟に施（ホドコ）し直（タヾチ）に文王の化をかうぶり、其時にあへるがごとくなる者をや

集註大全備れり

子ノ曰ノ。禮ト云ヒ。禮ト云フ。玉帛ヲシモ云シヤ乎哉。樂ト云ヒ。樂ト云フ。鐘鼓ヲシモ云シヤ乎哉

子ノ曰ノ。色厲ノ而内荏ナル。譬ヘバ二諸小人一ニ其レ猶ヲ二穿窬ノ之盜一ノ也與カ

其ノ有（ウ）にあらずして取者を盜と云、時は名をぬすみ勇をぬすむも盜のごとし。心は勇ならずして、外に勇だてをし、いかつなる者を、俗にも藕木刀（ハスボクタウ）といへり。たとひ心勇なりとも、仁義禮楽なき者は虎狼の勇也、人にあらず

子ノ曰ノ。郷原ハ德ノ之賊也ナリ

末世の鄙（ヒ）俗に叶て、なべて人の褒（ホム）る者の中に此郷原あり。中庸に似て、中庸にあらず、小人の中庸也。狂狷（ケウケン）は中庸

に遠けれども、其心聖賢にも不ㇾ恥ところあり。郷原は中庸に近けれども、大に聖賢の旨にたがひて德の賊也。似て非なるが故なり

子ノ曰。道ニ聽テ而塗ニ說クハ。德ノ之棄ルヽ也

實學の者は、學で不ㇾ敎へ、聞て不ㇾ說、內に畜へて德とす。德の敎は言の敎よりも大也。如ㇾ此して後不ㇾ得ㇾ已して敎說べし。耳に入、口に出るを口耳の學といふ。己が有とせず、是を塗說と云也

子ノ曰。鄙夫可ニ與ニ事ㇾ君也與哉。其未ㇾ得ㇾ之也。患ㇾ得ㇾ之。既ニ得ㇾ之。患ㇾ失ㇾ之。苟モ患ㇾ失ㇾ之。無ㇾ所ㇾ不ㇾ至矣

解集註に見えたり。胡氏の說備はれり

子ノ曰。古者ハ民ニ有ニ三ノ疾一。今ヤ也或ハ是ㇾ之亡也。古ノ之狂ハ也肆ナリ。今之狂ハ也蕩ナリ。古ノ之矜ハ也廉ナリ。今ノ之矜ハ也忿戾ナリ。古ノ之愚ハ也直ナリ。今ノ之愚ハ也詐ル而已矣

解集註に見えたり

子ノ曰。巧ㇾ言令ㇾ色。鮮ヒカナ矣仁

重出

二四〇

子曰。惡二紫之奪一レ朱也。惡三鄭聲之亂二雅樂一也。惡下利口之覆二邦家一者上。

解集註にみえたり

子曰。予欲レ無レ言。子貢曰。子如不レ言。則小子何述焉。子曰。天何言哉。四時行焉百物生焉。天何言哉。

天道無言にして、行と事とを以て示す。聖人天にかはりて言あり、天道を敎さとす。しかれ共、其至れるに及ては、言の盡すべからざる者あり。故に天に讓りて言なからんと欲し給へり

孺悲欲レ見二孔子一。孔子辭スルニ以レ疾。將レ命者出レ戶。取レ瑟而歌。使二之聞一レ之。

解集註に見えたり

宰我問。三年之喪。期已久矣。君子三年不レ爲レ禮。禮必壞。三年不レ爲レ樂。樂必崩。舊穀既沒。新穀既升。鑽レ燧改レ火。期可已矣。子曰。食二夫稻一。衣二夫錦一。於レ女安乎。曰。安。女安則爲レ之。夫君子之居レ喪。食レ旨不レ甘。聞レ樂不レ樂。居處不レ安。故不レ爲也。今女安則爲レ之。宰我出。子曰。予之不仁也。子生三年。然後免二於父母之懷一。夫三年之喪。天下之通喪也。予

也有三年之愛於其父母乎

經文の通りにてよくきこえたり。孔子の時、いまだ人の氣躰つよく、情實厚し。期をよくする者は、三年に及ぶこと易し。宰予仁厚ならず、かろく理屈を以ていへり。初學の時なるべし

子曰。飽食終日。無所用心難矣哉。不有博奕者乎。爲之猶賢乎已。

博奕は今のばくちにはあらず。今の碁象戯の類也。善をせざる者は惡をなす。たとひ善をせずとも、碁象戯になりともかゝり、昼夜を送る者は、惡を思ふいとまなし。故にやむにまされり

子路曰。君子尚勇乎。子曰。君子義以爲上。君子有勇。而無義爲亂。小人有勇。而無義爲盜。

經文の通りにてよく聞えたり。君子小人は位を以てのたまへり

子貢曰。君子亦有惡乎。子曰。有惡。惡稱人之惡者。惡居下流而訕上者。惡勇而無禮者。惡果敢而窒者。

解集註大全にみえたり

曰。賜也亦有ㇾ惡乎。惡ニ徼テ以爲ㇾ知ト者ヲ。惡ニ不孫ニシテ以爲ㇾ勇ト者ヲ。惡ニ訐テ以爲ㇾ直ト者ヲ

知勇直は善なれ共、惡心を以て此名を得むとする者也。君子の知は詐をむかへず、不信を不ㇾ億、自然に照しさとる事あり。しかれども人のためあしかるべき事、人の迷惑ならんことは不ㇾ知躰にて大やう也。しかるに此惡心の知者は、推察を用てむかへおもんぱかるなり。無禮にて人を見くだし、何とも思はぬ躰にて勇ありと思はれたがる者あり。人の隱すことをも、さがし出し、いひありき、有躰者といはるゝ様にする者あり。三品ともに人の害になる者なり。堯舜の代にいれられざる者也。子貢のにくむのみならず、衆のにくむ者也。仁者は愛せずと云ことゝなければ、如此者もにくむまじきか。にくまでは不ㇾ叶者とうたがはるゝ故に、君子もにくむことありやととはれし也

子曰。唯女子與ニ小人一爲ㇾ難ㇾ養也。近クレバㇾ之則不孫ナリ。遠クレバㇾ之則怨ム

解集註に見えたり

子曰。年四十ニシテ而見ㇾ惡焉。其終也已

孔子子貢の言のごとき惡心ありて人ににくまるゝ者也。四十までに改むることなくば、惡にて終べき者なり。此聖言におどろき改めば、五六十といふとも、善にうつるべし。是又慈教の一端也

微子第十八

微子ハ去リ之。箕子ハ為リ之ガ奴ト。比干ハ諫テ而死ス。孔子ノ曰。殷ニ有リ三仁一〔○焉ノ字脫〕

三人の行同じからずといへども、同じく至誠惻怛の意に出て、各々止ル於至善ニ故に仁とす。至誠は仁の存にして、惻怛は仁の發也といへり。止ル於至善ニは仁の明也。事は史記并に大全の說に見えたり。三人の次第は論語を以て正とすべし。微子しばしば諫むといへどもきかず。終に諫むべからざることを知、且殷の亡びんことをしれり。代々帝王の重器を失はむことを恐れ、殷の宗祀を絕むことを憂て、去て是を存ず。○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○○。千載かぎりなき人心をいたましむ。微子の意稱するにあまりあり。次に箕子强諫す。紂怒りて冠をうち落す。猶も君の惡を掩はんために、佯狂じて奴となる。比干終に諫死す。微子は紂が兄也。事勢二人よりはゆるやかなること又一の義なり

柳下惠為テ士師ト。三タビ黜ラル。人ノ曰。子未ダ可ラ以テ去ル乎カ。曰。直クシテ道ヲ而事ヘバ人ニ。焉クニ往トシテカ而不ン三タビ黜ラレ。枉テ道ヲ而事ヘバ人ニ。何ゾ必シモ去ラン父母ノ之邦ヲ

集註備はれり

齊ノ景公待ツ孔子ヲ。曰。若キハ季氏ガ則吾不レ能ハ。以テ季孟ノ之間ヲ待セン之ヲ。曰。吾老タリ矣。

不レ能ハ用ルコト也。孔子行ル

孔子は威勢なき人なれども、威勢ある季孟の間を以てまたれしは、賢を尊ぶの意より禮盛也。はじめは用ひんと思はれしかども、晏嬰が言によりて其心かはり、不レ能ハ用ルコトといはれし故に、禮は其時分の諸侯の禮よりは盛なれども去給ひぬ。晏嬰がいひし儒者の弊は、孔子の時分其前よりもありしことなれども、名高き故に、其罪を孔子被り給へり。是非を弁じて同異を乱り、葬を厚し産を破り、游説し渡世し、國を治むべからざる等の、儒者の弊おほし。孔子は此非を改め度、常々のたまへども、時を得給はざれば、改むることあたはず。却て其罪を負給へり。初政は財を節するにあり、とのたまひし中に含てありしかども、悦びながら景公其意をたづねず、晏子が誹りにうつれり。或問、政は財を節するにありとは何ぞや。云、其時分も無用の費多して、諸侯の用たらず。故に民に取こと多して、下困窮せり。是天物を節用して、造化を助る政なければ也。五穀財物を節用して、富有大業をなすを仁政と云也。如此して後、禮樂を興起し、文武の藝備べし。晨食を食せざれば、万の人事行こと不レ能が如し。問、造化を助くることとは聖人大賢の事ならずや。後世の及がたき事也。云、徳を以て造化を助くることは、聖人大賢の事也。才を以て助くることは、仁君良相もなすべし。問、孔子仁をゆるし給ふ人まれなり。仁君は聖徳ならずや。云、徳を以ていふ時は、仁は全徳の名也。業を以て云ときは、たとひ貨を好み、色を好むの凡情ありても、民の父母たる仁心ありて、仁政を行ふ時は仁君とす。良相も必しも、賢人君子の徳なくても、利を事とする小人ならず。本才ありて道學に志ある人、仁君を助て政をする時は、才を以て造化を助くる者也。問、富有大業をなすべきこと

いかむ。云、本才ある人、其時によつてなすべし。かねていひがたし。問、孔子の時分、用不足して民にとること多しといへるも、十にして二なり。今は十にして六とれり。取こと極て民至極困窮せり。むかしの富有はなし易かるべし。今の富有いづくより生ずべきや。云、むかしは世中困窮といひても、今に合せてはゆたか也。故に富有の業成がたし。今は至極つまりたる故に、成やすし。誰が有にもならずしてすたる五穀おびたゞし。今はすたりていまだよし。是を捨ざれば世中いよ〳〵困窮す。捨ずして世中貴賤ともによき政をなして後、是を捨ざる時は、置所なき程の富有いたすべし。孔子の時は、世中ゆるやかなる故に、孔子の徳才ならでは成がたき勢也。今事は古人の十が一にして、功は成やすき勢あり

齊人歸ニル女樂ヲ一。季桓子受テレ之ヲ。三日不レ朝セ。孔子行ル

史記にみえたり

楚ノ狂接輿。歌テ而過ニテ孔子ヲ一。曰。鳳ナレヤ兮鳳ナレヤ兮。何ゾ徳ノ之衰タル。往ク者ノハ不レ可ラレ諫ム。來者ハ猶ヲ可シレ追フ。已ナン而已ナン而。今ノ之從フレ政ニ者ノハ殆シ而。孔子下テ。欲ニバ與レ之言一ント。趨テ而辟クレ之ヲ。不レ得ニ與レ之言一フコヲ

解集註大全に見えたり

長沮桀溺耦ノ而耕ス。孔子過グレ之ヲ。使下ノ子路ヲ問上ハ津ヲ焉。長沮ガ曰。夫レ執レル輿ヲ者ノ爲ル誰トカ。

子路ノ曰。爲ニ孔丘一ト。曰。是レ魯ノ孔丘カ與。曰。是ナリ也。曰。是レ知レン津ヲ矣。問ニフ於桀溺一ニ。桀溺ガ曰。子ハ爲ルレ誰トカ。曰。爲ニ仲由一ト。曰。是レ魯ノ孔丘ガ之徒カ與。對テ曰。然リ。曰。滔滔タル者ノ。天下皆是ナリ也。而誰レカ以テ易ヘンレ之ヲ。且ツ而ンヂ與リハ其ノ從ハンニ辟ルレノ人ヲ之士ニ一也。豈ニ若カンレ從フニ二辟ルレノ世ヲ之士ニ一哉トテ。耰テ而不レ輟マ。子路行テ以テ告ス。夫子憮然トノ曰。鳥獸ニハ不レ可ラニ與ニ同フスレ羣ヲ。吾非ニノ斯ノ人ノ之徒ト與一ニスルニ。而誰ト與ニカセン。天下有ラバレ道。丘不ジニ與ニ易ヘ一也

天聖賢を生ず。君とし、師とす。孔子時を不レ得して、下に居給ふといへども、千歳の後孔子を師とす。貴人は治道をとれり。是万世の君也、師也。天下道なきゆへに、天孔子を生ず。是天下を周流し給ふ處なり。天下道あらば、其所に居て共に行ひ給ふべし、周流に及ぶべからず。是いひがたくして、しばらく憮然として思ひある躰也。接輿長沮桀溺丈人等の賢者有道にあらはれ、無道にかくるゝの常を守るのみ

子路從テ而後レタリ。遇ヘリニ丈人ノ以テレ杖ヲ荷フニ一レ蓧ヲ。子路問テ曰。子見ルニ夫子一ヲ乎ヤ。丈人曰。四體不レ勤メ。五穀不レ分タ。孰カレヲ爲ニ云テ夫子一ト。植テニ其ノ杖一ヲ而芸キル。子路拱ノ而立テリ。止メテニ子路一ヲ宿セシメ。殺シレ雞ヲ爲レテ黍之而食シメレ之。見シムニ其ノ二子一ヲ焉。明日子路行テ以テ告ス。子ノ曰。隱者ナリ也。使ニ子路一ヲ反テ見セレ之。至レバ則行ヌ矣。子路曰。不レバレ仕ヘ無レ義。長幼之ノ節ハ。不レ可ラレ廢ス

也。君臣之義。如之何其廢之。欲潔其身而亂大倫。君子之仕也。行其義也。道之不行。已知之矣

丈人夫子をそしるといへども、齒德ありて隱者なりと見る故に、子路是を敬せり。孔門の諸生三達尊におゐて禮を失はざることを知べし。不仕無義より以下は、孔子の言也。子路をして丈人に告しめ給へり。昨夜の禮謝ながら、子路の反にことづて給ふなるべし。此語を以て、子路冉求などの仕へられし意を知べし。孔子も止給はざる所也。猶集註に見えたり

逸民。伯夷叔齊虞仲夷逸朱張柳下惠少連

習俗に染ず、衆にぬけ出て常格の中にあらざる者なり

子曰。不降其志。不辱其身。伯夷叔齊與

孟子にみえたり

謂柳下惠少連。降志辱身矣。言中倫。行中慮。其斯而已矣

孟子に見えたり。少連の事は記の雜記にみえたり。倫慮の解集註にみえたり

謂虞仲夷逸。隱居放言。身中清。廢中權

解集註大全にみえたり

我ハ則異ナリ二於是一ニ。無レ可モ無シ二不可一モ

孔子はあとの見るべきなし。集註備はれり

大師摯ハ適キレ齊ニ。亞飯干ハ適キレ楚ニ。三飯繚ハ適キレ蔡ニ。四飯缺ハ適クレ秦ニ。鼓方叔ハ入リ二於河一ニ。播鼗武ハ入ル二於漢一ニ。少師陽擊磬襄ハ入ル二於海一ニ

解集註にみえたり

周公謂テ二魯公ニ一曰ク。君子ハ不レ施ニ其ノ親ヲ一。不レ使下ニ大臣ヲシテ一怨ミ中乎不ルニ上レ以モチヒ。故舊無キハ二大故一。則不レ棄也。無シレ求ルコトレ備ハランコトヲ二於一人ニ一

解集註大全にみえたり

周ニ有リ二八士一。伯達伯适仲突仲忽叔夜叔夏季隨季騧

集註備はれり

子張第十九

子張曰。士見危致命。見得思義。祭思敬。喪思哀。其可已矣

死生得失の間、義を忘れず。祭喪實あらば、才徳不足といふとも、一人の士たるべし。故に可已矣といへり

子張曰。執徳不弘。信道不篤。焉能爲有。焉能爲亡

善を好し、能に與し、己をすてゝ人にしたがふ時は、虚中に天下の益を來す。道を信ずること篤き時は、人に取ところ皆己れが徳となる者也。もし己れを立て人にとらず、道を信ずること篤からずば、たとひ才ありといふとも國家の用に立ず。才ありて有にあらず、有無の言にかゝはらざる者なり

子夏之門人。問交於子張。子張曰。子夏云何。對曰。子夏曰。可者與之。其不可者拒之。子張曰。異乎吾所聞。君子尊賢而容衆。嘉善而矜不能。我之大賢與。於人何所不容。我之不賢與。人將拒我。如之何其拒人也

大全尹氏の説よし

子夏ノ曰。雖ニ小道ト一。必ズ有ニ可キレ觀ツ者ノ一焉。致サバレ遠キニ恐クハ泥マン。是ヲ以テ君子ハ不レ爲也

解集註大全にみえたり

子夏ノ曰。日々ニ知リニ其ノ所ヲ一レ亡(ナキ)。月々ニ無シバレ忘ルヽコト二其ノ所ヲ一レ能クスル。可キレ謂フレ好ムトレ學也已(ノミ)矣

いまだ學びざる事を學び、すでに學びたる事を熟(ジユク)す、六藝の上に就(ツイ)ていへり。寸陰(スンイン)を惜(ヲシ)み、文武にいとまなき時は惡念妄慮(モウリヨ)きざすことなし

子夏ノ曰。博ク學デ而篤ク志シ。切ニ問テ而近ク思フ。仁在リニ其ノ中ニ一矣

聖人には常の師なしといへり。問ことを好み、ひろく益をとるを博學と云也。今の博學と云者、いにしへはなし。詩書易等の外の書はなかりし也。六藝を文といへり。解集註にみえたり

子夏ノ曰。百工ハ居テレ肆ニ以テ成スニ其ノ事ヲ一。君子ハ學デ以テ致スニ其ノ道ヲ一

解集註にみえたり

子夏ノ曰。小人ノ之過チハ也必ズ文ル

解集註にみえたり

子夏ノ曰。君子ニ有リニ三ノ變一。望メバレ之ヲ儼然タリ。即ケバレ之ニ也溫ナリ。聽ケバニ其ノ言ヲ一也厲シ

集註備れり。其言理明かにして欺べからず、おかすべからず。故に厲し

子夏曰。君子信而後勞民。未信則以爲厲己也。信而後諫。未信則以爲謗己矣

解　集註に見えたり

子夏曰。大德不踰閑。小德出入可也

解　集註にみえたり

子游曰。子夏之門人小子。當酒掃應對進退則可矣。抑末也。本之則無如之何。子夏聞之曰。噫言游過矣。君子之道孰先傳焉。孰後倦焉。譬諸草木區以別矣。君子之道焉可誣也。有始有卒者。其惟聖人乎

解　集註にみえたり

子夏曰。仕而優則學。學而優則仕

集註備はれり

子游ノ曰。喪ハ致メ二乎哀一而止ム

楊氏の説是シに近し

子游ノ曰。吾カ友張也。爲レ難キ能シ也。然レ圧而未ダレ仁ナラ

解集註にみえたり

曾子ノ曰。堂堂タル乎張也。難シ二與ニ並デ爲一レ仁ヲ矣

解集註にみえたり

曾子ノ曰。吾レ聞ケリ二諸夫子一ニ。人未ダレ有二自致ス者一ノ也。必ズ也親ノ喪カ乎

解集註にみえたり

曾子ノ曰。吾レ聞ケリ二諸夫子一ニ。孟莊子ガ之孝也。其ノ他ハ可シレ能クス也。其ノ不ルハレ改三父ノ之臣ト與ニ父ノ之政一。是レ難シレ能シ也

子不徳なれば、父の徳政につきがたし、不明なれば父の用ひたる好人才徳を用ひがたし。しかるに其政を用ひ、其臣を使ふことよのつねの慈孝のみならず。莊子賢にして人を知シルの智チあり。是人の及びがたき處なり。其他の孝行は、生付慈愛篤實なる者は及べき者也

孟氏使ム陽膚ヲ爲ラ士師。問フ於曾子ニ。曾子ノ曰。上失テ其ノ道ヲ民散ズルヿ久シ矣。如シ得ハ其ノ情ヲ。則哀矜ノ而勿レ喜ブヿ

士師は今の所司代町奉行のごとし。訟をする者、非を理にいひ掠めんとす。其情實を察し得るとも、我知の明を悦ぶべからず。世の教なきがいたす處を知べし。又國法を侵し罪に陥る者ありともにくむべからず。世に道なくして不知のいたす處をあはれむべし。彼が罪にあらず、上よりなさしむる處をしればなり

子貢ノ曰。紂ガ之不善。不ル如ク是ノ之甚シキニハ也。是ヲ以テ君子ハ惡ム居ルヿヲ下流ニ。天下ノ之惡皆歸ス焉ニ

紂王名は辛、字に受、諡号を紂と云。諡の法、義を殘ひ善を損ずるを紂と云といへり。紂惡人の下流に居れり。故に紂がせざる惡名も、紂に歸す。川澤に居て衆水これに歸するがごとし。善類も又しかり。多賀豊後ノ守、板倉伊賀ノ守、よく訟をことはりしかば、古書にあることをも兩人に歸していへり。むかし空海もろこしより仙術の奇特を傳受してなしゝかば、空海が不ル知奇特をも皆空海といへるがごとし。いまだ此たぐひ多し。是人は其身を不善の地に置べからざることを戒む。子貢の格言也

子貢ノ曰。君子ノ之過テルヤ也。如シ日月ノ之食ノ焉。過ツナハ也人皆見ル之ヲ。更ムルナハ也人皆仰グ之ヲ

大全備はれり

衛公孫朝問於子貢曰。仲尼焉學。子貢曰。文武之道未墜於地。在人。賢者識其大者。不賢者識其小者。莫不有文武之道焉。夫子焉不學。而亦何常師之有

天地は陰陽也、人道は文武也。其大なる者は文武の徳なり、其小なる者は文武の藝也。或は徳あり、或は藝あり。天下の人あらずと云ことなし。故に聖人は大知にして、問ことを好めり。已れをすてゝ人にしたがふは學びずといふことなき也。賢者は有徳の人を指、不賢者は常人をさす。不好底の人にあらずといへり

叔孫武叔語大夫於朝。曰。子貢賢於仲尼。子服景伯以告子貢。子貢曰。譬之宮牆。賜之牆也及肩。窺見室家之好。夫子之牆數仭。不得其門而入。不見宗廟之美百官之富。得其門者。或寡矣。夫子之云。不亦宜乎

本文にてよく聞えたり

叔孫武叔毀仲尼。子貢曰。無以爲也。仲尼不可毀也。他人之賢者丘陵也。猶可踰也。仲尼日月也。無得而踰焉。人雖欲自絶。其何傷於日

月ヲ一乎。多見ルニ二其ノ不ルコトヲ一レ知ラレ量ヲ也

解集註大全に見えたり

陳子禽謂テ二子貢ニ一曰。子爲レ恭モ也。仲尼豈ニ賢ランニ二於子ニ一乎ヤ。子貢ノ曰。君子ハ一言以テ爲レ知ト。一言以テ爲ニ不知ト一。不レ可レ不ンバアルレ愼シマ也。夫子ノ之不ルコトレ可ラレ及ブ也。猶シ下天ノ之不ルガ上レ可ラ二階テ、而升ル一也

解集註大全にみえたり

夫子ノ之得ルニ二邦家ヲ一者ノハ。所謂ル立ツレバレ之ヲ斯ニ立チ。道ケバレ之フ斯ニ行キ。綏ズレバレ之ヲ斯ニ來リ。動セバレ之ヲ斯ニ和ス。其ノ生ケルすハ也榮トシ。其ノ死スルすハ也哀ム。如之何ゾ其レ可ケンレ及ブ也

集註備はれり

堯曰第二十

堯ノ曰ノ。咨ア、爾ヂ舜。天ノ之曆數在リ二爾ノ躬ニ一。允ニ執レ二其ノ中ヲ一。四海困窮セバ。天ノ祿永ク絕ン

帝王天下を相繼の次第、四時の先後のごとし。堯の次には、舜天下を有の天命あり。堯の私愛を以て與給ふにあらず、舜私心を以て受給ふにあらず、辞せざる處なり。帝王の心法、其ノ要執中にあり。中庸に未發の中、天下の大本といへるは道躰をさしていへり。上天の載は無聲無臭不レ可レ執。故に執中の中は時中也。未發の中立天下の大本存ずることは其前にあり。聖賢の上にはいふに及ばず。こゝには人事天地の造化を助くるの大要をのたまへり。其時になさずして叶はざる事をなすは、天理の當然にして時中也。時中にも大小あり。一人の身の進退にも時中あり、國郡の政にも時中あり。天下の政道は時中の大なる者なれども、其中にも又大小あり。大小ともに日々に中を執てたがはざる時は、月々年々に治至りて世間無事也。無事なる時は、五穀ます〳〵豐熟し、衣食足て禮樂おこる。いよ〳〵有餘なる時は人おこたり奢る。故に鬼神に事ふる禮備はれり。是を孝を鬼神に致すといへり。上古物不レ備ハル時は、二器以テ祭ルといへり。皆時中也。人道あやまらずといへども、年の豐凶水旱運氣のいたすことあり。故に豐熟の物をのべて凶年に足ことあり。天生じ地育す、人是を裁制するの道也。延るにも延やうあり。本才の者是を知べし。如レ此なれば四海困窮せず。君の安富尊榮なるは、人民を以て也。民の字を御たからとよませたり。故に天の視聴すること、我民によりて視聴すといへり。四海困窮する時は、天祿永ク絶るゆへん也。天祿は天の人君に予る富貴也

舜亦以テ命レズ禹ニ

舜の執中の心法を廣め用ひ給處の要は、問ことを好むの大知也。堯の執中のしるしは、諫鼓謗木に見えたり。天祿

の永く絶る處は言路を絶にあり。禹の禹たる所は、二帝に繼で無事を行ひ給ふなり。或人問、十六字の心法はいかゞ。云、人心は形氣ありてよりこのかたの心也。氣散じ形死する時は此心なし。危とのたまふ者は形氣の心には欲あり。欲ありて主なき時は流れ易し。形氣の主は道心也。道心は神靈微妙にして存じがたく、失ひ易し。存じがたき者を存じ、失ひやすき者を失はず。是を心法と云。惟レ精惟レ一其ノ心法也。形氣に七情あり。喜怒哀懼愛惡欲。七情ともに欲を根とす。飲食衣服も欲也。男女の情も欲也。欲は形に付て實也。故に存じ易く發しやすし。道心をそこなひ易し。禮儀に隨て欲を遂るを生樂と云、人情の常也。道心の眞樂にはあらざれども、道心を害せず。若禮儀に不レ隨して欲をとぐる時は、甚だ道心を害し、人情の正を失て惡となる者也。生樂も又隨て亡ぶ。情欲禮儀の本末得失苦樂をよく辨へて、思慮始學を常とするを惟レ精と云也。惟レ一は純一無雜、天理に專也。德性を尊ぶの工夫也。惟レ精は問學に道也。問、如レ此高大精微の心法なるに執中は時中也とはいかゞ。云、如此ならざれば、全く時に中することあたはず。故に未發の中を存ずるは、時中の前にありといひし也

曰。予小子履。敢テ用二テ玄牡一ヲ。敢テ昭ニ告二ス于皇皇后帝一ニ。有レバ罪不二敢テ赦一サ。帝ノ臣ヲバ不レ蔽。

解集中大全に見えたり

簡ブコト在二リ帝ノ心一ニ。朕ガ躬有ラバレ罪。無レン以テスルコト二萬方一ヲ。萬方有ラバレ罪。罪在ラン二朕ガ躬一ニ

周ニ有二リ大ナル賚一モノ。善人是レ富メリ

二五八

紂が天下の財を私して、積置たる金銀布帛五穀の類を、不レ殘散じて、天下の人にあたへ給ふとき、善人をえらびて富しめ給へり。善人は仁人なり。善名ありといへども、仁愛厚からざるは眞の善人にあらず。仁者は財を得て己れが有とせず、人に施すことを樂めり。上より財を散じて、あまねく救ふことはあたはざる勢あり。分の立たる者は各別なり。貧乏をすくふばかりにては、それに類せる者あり。我にも給はるべき事といへば、習あしくなる者なり。其上さやうには上の財ゆきわたらず。無告の民をすくひて、餘財をば仁善の人に多くあたへ置てよし。是に二の善あり。仁者を賞して、人を仁にすゝむる益一つ。仁者の私にすくひ施すことは我にも給はるべきことゝいふ者なし、よき程にあまねく行わたる益二つなり。善人の富るは上のすくひの及びがたき者をすくはしむる道也。無道の時は、仁者は貧乏にて、すくふことあたはず。小人は何程富ても、私欲の用にのみ用ひて、貧乏の者の用には不レ立者也。小人は心くらき故に、佛事といへば大分金銀を出して、いとゞ不作法の仏者をたすけますやうなる事也。靑砥の左衞門がいへるごとし

雖レ有二周親一。不レ如二仁人一。百姓有レ過在二予一人一

解集註大全にみえたり。商の代六百年なれば、天下過半は親族外戚の諸侯也。他姓といへども代々の普代の臣也。武王は周一國の諸侯也。何を以てか商に勝ことを得むや。たゞ商紂不仁にして天命はなれ、周室は仁にして天命を受たり。是天命の歸する所は天下あまねき親といへども仁人に勝ことあたはず。誠ナル哉仁者に敵なき事。百姓の過罪は上の敎たらざる故也。己れを責て下をとがむる事なし。是仁人の心也

謹ミ二權量ヲ一。審ニシ二法度ヲ一。修メテ二廢タル官ヲ一。四方ノ之政行ハル焉

權は稱錘也。物を稱りて平く施し、輕重を知もの也。今是を稱といへり。輕重は銖兩斤鈞石を始とす。本黃鍾の重さに起れり。黃鍾は十二律の長也。十一月一陽來復に起れり。是を黃鍾の宮と云。宮の竹に黍千二百を容、重さ十二銖。二十四銖を兩とす。十六兩を斤とす。三十斤を鈞とす。四鈞を石とす。量は龠合升斗斛也。多少を知者也、本ト黃鍾の龠に起れり。黍の中なる者、千有二百を實ニ二其ノ龠ニ一。十龠ヲ爲レ合ト、十合ヲ爲レ升ト、十升ヲ爲レ斗ト、十斗ヲ爲レ斛。度は分寸尺丈引也。長短を知ル者也、本ト黃鍾の長に起れり。黍ノ中ナル者ノ一黍ノ之廣サヲ爲ニ一分ト一。十分ヲ爲レ寸ト。十寸爲レ尺ト。十尺ヲ爲レ丈。十丈ヲ爲レ引ト。此ニ不ル言ハ度ヲ者ハ。從テ可レ知ヌ矣。法度は禮樂式法也。古人の法度は禮に近し。後世の禮式は法度に近し。法度には刑罰從へり。故に法度多ければ、下くるしめり。禮式には刑罰したがはず、禮をしらず式にたがへば、恥とするのみ。故に恥ることありて格れり。法度は數すくなく易簡なるを善法とす。式はくはしければ無事にして、下安し。是を審にするといへり。いにしへの官すたれて、風俗うすく、善政不ル行ハレことあり。國師の官すたれて、人君の万吉亡び、終に佛者にあづけて人君則をとる所なくして治道明らかならず。學校の官すたれて、人君人情事變を不レ知ラ。上下の間遠く成て久しからざる類也。もし上古の國師の官起り、學校の政明らかならば、人君則をとる所あり。人情事變に通じて、四方の政行はるべし

興シ二滅タル國ヲ一。繼ギ二絕タル世ヲ一。擧レバ二逸民ヲ一。天下ノ之民歸スレ心ヲ焉

民の功德ある人の子孫おとろへて、國を失ひたるを封じて祭をおこさしめ、子孫なきは、其同姓をたづねて祭を奉

ぜしむ。德ありてかくれたる者を擧用る時は國ゆたか也。是皆天下の人心の歸する所也

所レ重ンズル民ニ食喪祭

食喪祭を三事と云。五敎三事は人倫において重き所也。食足て後敎ふべし、政行はるべし。晨炊食せざれば人事つとめられず、夕炊食せざれば、燈を取て晷につぐことあたはざるが如し。食ゆたかにして後、禮樂起るべし。士民ともに食ゆたかなること政の本也。食をいふ時は、衣も其中にあり。衣食の政は孟子に詳也。猶又後世は其時によりて變あるべし

寛ナルトキハ則得レ衆ヲ。信ナルトキハ則民任ジ焉。敏ナルトキハ則有レ功リ。公ナルトキハ則說ブ

寛信は心の体也。敏公は心の用也。此四德をかねたる者は心也。有ときは共にあり。欠る處あるは本心のふさがりたる者なり

子張問ニ於孔子ニ一曰。何如ナルカ斯レ可ニ以テ從フ一レ政ニ矣。子ノ曰。尊ビ二五美ヲ一。屏ク二四惡ヲ一。斯レ可シ〔〇以脱〕從レ政ニ矣。子張曰。何ヲカ謂フ二五美ト一。子ノ曰。君子ハ惠メドモ而不レ費ヘ。勞スレドモ而不レ怨ミ。欲スレドモ而不レ貪ラ。泰ナレドモ而不レ驕ラ。威アレドモ而不レ猛カラ。子張ノ曰。何ヲカ謂フ二惠メドモ而不一レ費ト。子ノ曰。因テ二民ノ之所一レ利スル而利スレ之ヲ。斯レ不ニ亦タ惠メドモ而不一ルニアラ費ヘ乎ヤ。擇デレ可キヲ勞ス而勞スレ之ヲ。

又誰怨。欲仁而得仁。又焉貪。君子無衆寡無小大無敢慢。斯不亦泰而不驕乎。君子正其衣冠尊其瞻視。儼然。人望而畏之。斯不亦威而不猛乎

本經にてよく聞えたり

子張曰。何謂四惡。子曰。不教而殺。謂之虐。不戒視成。謂之暴。慢令致期。謂之賊。猶之與人也。出納之吝。謂之有司

解集註にみえたり

子曰。不知命無以爲君子也。不知禮無以立也。不知言無以知人也

命を知、禮に立、知人の三は君子の重き所也。命を知ときは心まどはず。禮を知ときは人倫明か也。人を知ときは國天下治り易し。心明らかに、人倫正しく、國天下治平せば、君子にあらずして何ぞや

八卦之圖

太昊伏羲卦を畫し給は何の心ぞや。人は万物の靈也。誠は天の道也。これを誠にするは人の道也。故に身に誠あらざれば靈たるにあらず。身に誠ある事は善に明らかならざれば身に誠あらず。善に明かなるとは敎ざれば明ならず。故に大學の道は明德を明にするにありといへるも、是伏羲氏の卦を畫し給よりより來れり。夫大荒の世は天地を父母とせしこと近して、人に惑なければ惡なし。この故に不慈の父なく、不孝の子なし。不仁の君なく、不忠の臣なし。故に伏羲以前の聖人は敎と思ふ心なし。賢愚わかたざれば聖人の名も傳はらず。伏羲時分には人の賢愚漸あらはれて惑のきざしあり。惑ある時は不忠不孝の惡も出來べき勢なれば敎ざる事あたはず。老子の大道すたれて仁義の名ありといへるは言過高なりといへどもより所あり。敎は聖人の好てなし給にあらず、不得已ば也。其上天地開闢より數万歳をへて漸々人多生ずれば、物を開キ務をなさざる事あたはず。故に伏羲氏自然の理によりて、天地万物の象を見給へば、大極兩儀を生じ、兩儀四象を生じ、四象八卦を生ずる象明察也。こゝにをいて⚊⚋を作て陰陽の象として卦を畫し給へり


乾
兌
離
震
八卦
巽
坎
艮
坤
大陽
小陰
四象
小陽
大陰
陽
兩儀
陰
大極

大極は理の原也。天の天たる所也。理は寂然不動也。物の不動のごとくにはあらず。無欲なるが故に靜也。理また至動也。物の動のごとくにはあらず。神なるが故に感じて通ず。動中に靜あり、靜中に動あり。至誠にして息ことなし。造化の大本也。故に大極兩儀を生ずといへり。兩儀は陰陽也。大極動て陽を生じ、靜にして陰を生ずといへる是也。兩儀四象を生じ、四象八卦を生ず。作意あるにあらず、皆自然の理也。たとへば草木の美種の土中に有は大極の象也。二葉に生ずるは兩儀の象也。二葉の本幹となりて、枝葉を生ずるは四象の象也。其枝又枝葉を成は八卦の象也。是も聖人の物に取給ふ一事なるべし。原象ニ云ク。太一肇判(ハジメテワカレテ)陰降リ陽升ル。陽一(ハカタキナクシテ)以テ施シ。陰兩而承(ハカタキアリテウク)。これ畫前の易也。太一は大極也。其未分を以て太一といひ、其極至を以て大極と云。陽實なるときは能施し、陰虛なるときは能承。故に乾には雲行キ雨施德施普といひ、坤には順て天に承て時に行といへり

或問、何を以てか陽を⚊(キ)とし陰を⚋(グウ)とするや

云、天地は形の陰陽也。天は一にして、わかれはなれたる所なし。地は日本朝鮮などゝ海をへだてゝはなれたり。日本の中にても、四國九州ははなれたり。天の形は圓也。圓なる物はわたり一にしてかこみ三也。故に陽の生數を一三とす。地の形は方也。方なる物はわたり一にしてかこみ四也。二二相待す。故に陰の生數を二四とする也。⚊は實也。故によく充(ミツ)、地中に至るまで天氣のみたざる處なし。⚋は虛也。故によく天氣をうけて物を生ず

伏羲八卦方位先天之圖



天地位を定め、山澤氣を通じ、雷風相薄り、水火不相射、是天地自然の位也。先天の學也。南は天の陽にして高し、北は天の陰にして卑し。陽上りて、陰下るは、尊卑の位也。乾坤上下の位を定る也。山澤氣を通ずるものは、西北は地の陽にして高し。東南は地の陰にして卑し。山澤氣を通じ、神化を以て、川流出水は、高に生じて卑に付て流る。故に東南に行を順流とす。雷風相薄る者は、震は一陽北東に生じ、巽は一陰南西に生ず。長男長女にて、陽木陰木なれば、同氣相求て、造化を成也。水火不相射者ハ、道ならび行はれて不相害、日は東に生ず。離は中虚にて明の象也。故に離東に在。月は西に生ず。坎は中實にて水の象也。故に坎西に在。日は火氣の精神也。月は水氣の精神也。月は光なし、日の光を得て光とす。神靈に至ては尅せずして生ず。是又不相射の義也。日月は精也、水火は糟粕也。人日月を上にいたゞき、水火を下に用ゆ。日月水火にあらざれば一日も生ず、万物一物も生せず。坎離は造化の大用也。故に東西に位す。太昊伏羲の八卦は乾坤のみ成所の位にして、六子は生ずる所にあり。故に先天の學と云也。乾坤のみ成所の位なる事は、大君と后とは德ありて後、即給位なればなり

或問、後天に在て、乾を陽の金といへるは何ぞや。云、乾の至剛至健なるは剛金の性也。金に從革をいへり。剛にしてよく改る。先天の時南に位すといへども、將に變ぜんとして定位なし。天時の無窮也。故に天に應ずといへり

䷀ 乾

䷪ 夬

䷍ 大有

䷡ 大壯

䷈ 小畜

䷄ 需

䷙ 大畜

䷊ 泰

☰ 三畫ノ上大陽ヲ生ス

⚌ 二畫ノ上一陽ヲ生ス

☱ 三畫ノ上小陰ヲ生ス

⚊ 乾

☲ 三畫ノ上小陽ヲ生ス

⚍ 二畫ノ上一陰ヲ生ス

☳ 三畫ノ上大陰ヲ生ス

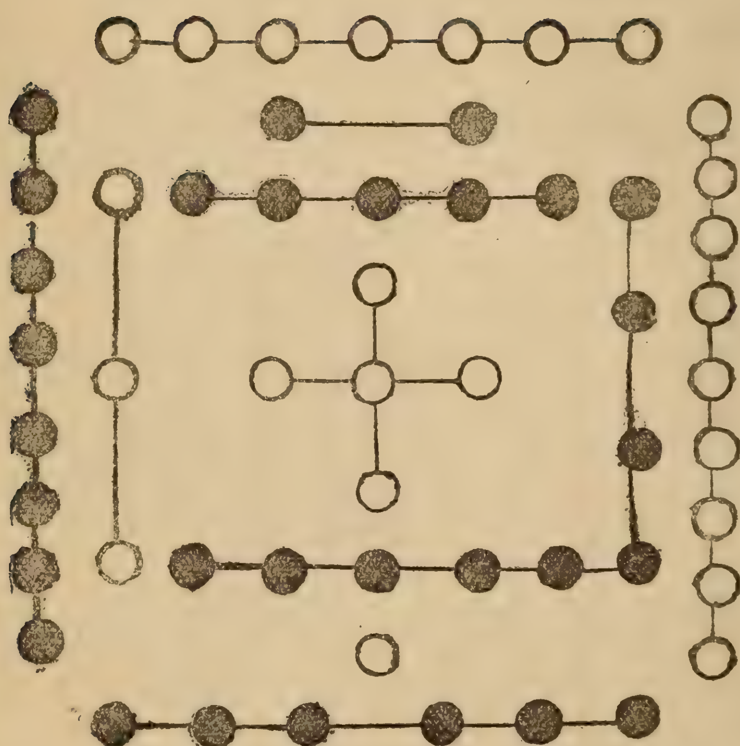
是乾の一卦八卦と成たる也。一卦に各八卦をかさぬる事皆同じ。太皞伏羲氏、先天の八卦を成給ひて、天地人三才の道備れりといへども、いまだ物を開キ、務をなすの象あらはれず。故に八卦の上に八卦を重ね、六十四卦と成て、天地万物の理、神明不測の變盡さずと云事なし

或問、六十四卦の上にまた一奇一偶を重て卦を成理あらん歟。云、理にあらず、乾六畫、坤六畫にして、四時十二月に配す。冬春は陽也。乾より生ず。夏秋は陰也。坤より生ず。仲冬十一月より初夏四月までは乾の六畫也。仲夏五月より初冬十月までは坤の六畫也。此外に年の陰陽十二月あるべからず。古今の時處位、万事万物の變、爲窮なりといへども、六十四卦、三百八十四爻、神明不測なれば、其變に應じて又無窮也。もるゝ事なく、備はらずと云事なし。何をか外にもとめんや

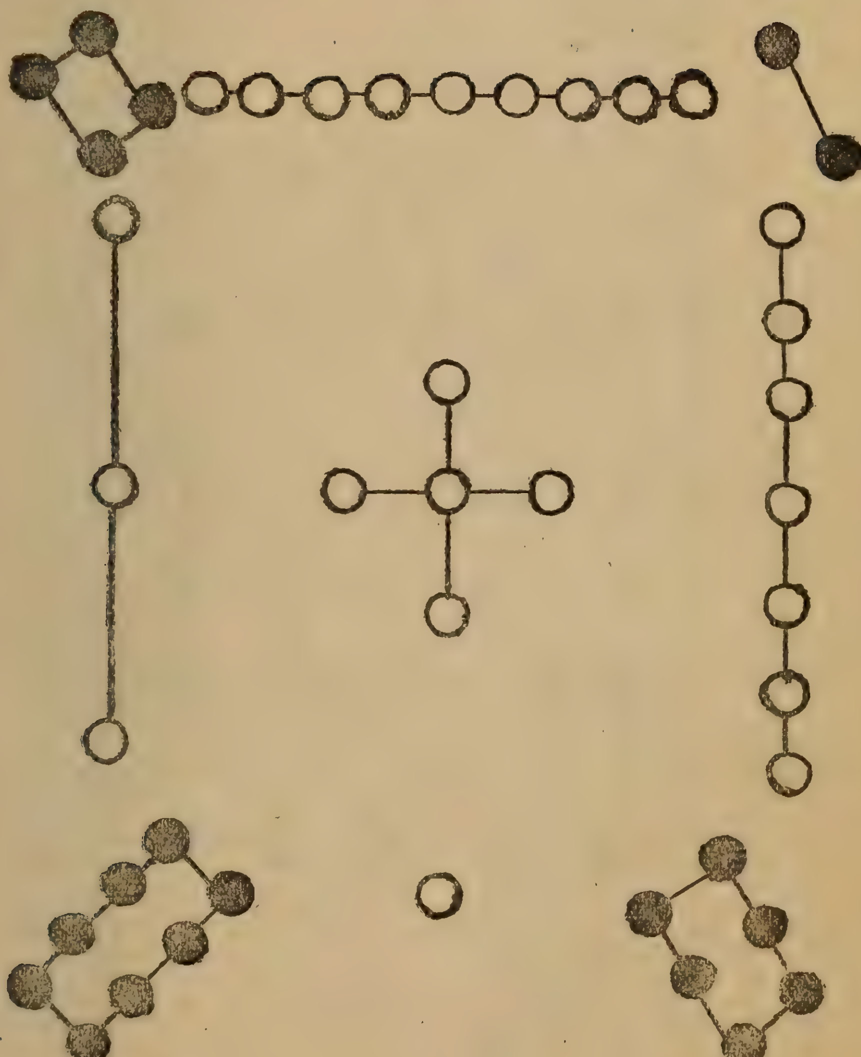
或問、年の十二月を乾坤の十二爻也といへるは何ぞや。云、十一月冬至に一陽下に生ず。乾の初九來て、坤の初六を變じて復と成、天地の長男也。十一月の卦也。十二月に二陽生ず、乾の二爻、坤の二爻を變じて臨となる。十二月の卦也。正月に三陽生ず。乾の三爻を變じて泰となる。天氣くだり、地氣のぼり、交泰して春をなす。正月の卦也。二月に四陽生ず。乾の四爻、坤の四爻を變じて大壯と成、二月の卦也。三月に五陽生ず。乾の五爻、坤の五爻を變じて夬となる、三月の卦也。四月は純陽也。乾の卦也。復より乾に至までの三十二卦、初爻皆陽也。乾道は男を成といへる者也。五月夏至に一陰下に生ず。坤の初六、乾の初九に交て姤と成。天地の長女也。五月の卦也。六月に二陰生ず。坤の二爻、乾の二爻を消して遯となる。六月の卦也。七月に三陰生ず、坤の三爻、乾の三爻を消して否と成、七月の

卦也。八月に四陰生ず。坤の四爻、乾の四爻を消して觀となる。八月の卦也。九月に五陰生ず、坤の五爻、乾の五爻を消して剝と成、九月の卦也。十月は純陰也。坤の卦也。姤より坤に至までの三十二卦、初爻皆陰也。坤道は女を成といへる者也。十一月にまた一陽生じて復となる。天運循環ゆきてかへらずと云事なし。しかれ共、去年の春の來りかへるにあらず。今年の春はまた新に生ずる春也。十二律の八にして、子を生ずるも同じ理也。黃鐘林鐘を生じ、林鐘太簇を生じ、太簇南呂を生じ、南呂姑洗を生じ、姑洗應鐘を生じ、應鐘蕤賓を生じ、蕤賓大呂を生じ、大呂夷則を生じ、夷則夾鐘を生じ、夾鐘無射を生じ、無射仲呂を生じ、仲呂より黃鐘に歸て、音すこし合せず。律竹を調る者、作意を加へて合するは、理を不知あやまり也。天地の理同じ。物のめぐりてかへると云事はなし。故に樂音も黃鐘の宮に發りたる音の、又黃鐘にかへる理はなき也

河圖



洛書



或問、伏羲氏河圖によりて卦を畫し給といへり。龍馬〔頭書。馬八尺以上ヲ龍ト云〕圖を負て河に出たるは、天の伏羲氏を教導き給へるか。云、しからず。伏羲の八卦は天地自然の位也。河圖の數は造化の工用也。天と聖人とたがひにして同じからざる所妙也。河圖により給にあらず。所謂天に先だちて、天たがはざる者也。伏羲氏天文地理万物の象をみて、先天の卦をなさんと思給ところ、天意にかなへり。故に河圖を出せり。祥瑞のみ也。堯舜の代に鳳凰の出たるとおなじ。河圖を待給にあらず。万歳後の天瑞なれども、洛書の文は、先天の卦に合たる所あり。文王後天の八卦は河圖に合たる所あり。聖人あはするに意はなけれども、自然の理により給へばをのづから合者也。先天にあらざれば、後天の用みるべからず。泰の卦をみて知べし。

或問、河出圖、洛出書、聖人則之と、繫辭にもみえたり。河圖により給にあらずや。云、此則の字興の詩の折節の物に興じて、我おもふ事をいへるがごとし。河圖に興ありて、八卦を畫し給のみ。逐一に合せ給にあらず。河圖も八卦も理の自然に出たれば、後世の人取合すれば合せずと云事なし。河圖八卦のみならず、聖人は常に天を師とし給へり。河圖の數は用也。先天の八卦は体也。未畫の前にあり。天道聖人の手をかりて易理を卦爻の象にあらはせり

或問、鴻荒の世、天地の間、陰陽の氣各象ありといへども、いまだ初より數あらず。河圖の出るに至て、五十有五の數、奇偶生成、粲然として見べし。此其深く聖人の獨知を發する處也、といかん。云、此義まことにしかり。聖人の易を作給こと、初より一端にあらざる義を云のみ。仰て觀、俯て察し、近く取、遠く取といへ共、河圖は天のなせる靈瑞なれば、取給ふ中のみ重キ物なるべし。近く身に取をいはゞ、人の精神のしまりは百會と臍と也。上下に在は乾坤

の象也。兩眼の左右に明なるは、離坎の象也。口鼻の通は山澤の象、兩耳の用は雷風の象也。人の一身にも八卦備れり。すでに其理ひらけ、其文明なれば、後世の人取合てあはずと云事なし。まづ聖人の心に易理ひらけて後、物に取て決し給べし。物によりて易を作し給にあらず。河圖も其中の一事也。天地の間大極陰陽の妙にあらずと云事なし。聖人默して契（カナフ）こと有べし。根原は何にもより給はず、天理の自然より畫し出し給事、横圖をみて知べし。仰て天文を觀、俯て地理を察し、近くは身に取、遠くは物に求る事は、左右天理の源にあへる也。唯圖書は數の祖たり。數は一より十に極といへ共、十は用をなさず。故に一を天に歸して、九々を以て用をなせり。事物の數は九々にあらざれば達せず。心法政道は九々なれば不治。故に聖人九の一を大極に歸して、八々を以て心法を立、政道を成給。其知神明にして、其旨深し

問、何をか九々を用て、心法政道不治と云や。云、九々は事物の算數に用てしまりとす。心法政道に用る時は、理づめに成て、寛仁ならず。賞はすくなく、罰多し。世にこれを理屈といへり。上より理づめにせられては、無理と云べきやうはなけれ共、心には情なしと思ふ者也。俗語に石にて手をつめたると云ごとく、後には民手足を置に所なく思ふ者也。天地の理は乘除也。如此にてははらひ除く變出來る者也。故に理屈は長久の道にあらざれば、聖人一を太極に歸して、八々を用て、天地万物の理を盡し、心法政道を成給、寛仁にして悠久也。天の道にかなへり

或問、河圖の數は偶也。偶なる者は靜也。靜は動を以て用をなす、洛書の數は奇也。奇なる者は動く。動は靜を以て用を爲といへるは何ぞや。云、天道人道皆しかり。秋冬は陰也。偶也、故に収斂して靜也。春夏は陽也。奇也。故に

發散して動く。河圖は陰靜を体とし、陽動を用とす。洛書は陽動を体とし、陰靜を用とす。動者は必功成て後靜也。大皡の時は世中無事にして靜也。事あらば其事を務め給べけれども、無事なるゆへに、卦を畫し給へり。卦中の象は、多は動物のつとめなすべき用なり。大禹の時は世中大難あり。動てやまざるの至極也。禹の聖徳によりて大難治り、功成て天下靜なり。洛書は禹の治水の功、天意に叶へるその瑞也。九數なるものは、九河をさぐり、堤つきて、中夏を九州となし給へる事、地理によく叶へる其應也。天下數千歳、禹のたま物を受く。これより後万々歳の人、禹の恩惠にあづからずと云事なし

問、大禹洛書によりて、洪範九疇を作といへり。しかるに吾子大禹の九河をさぐりて、中夏を九州とし、洪水を治給ひし功大にして、万々歳其たまものを受る所、天意に叶て、洛書の瑞ありといへるは何ぞや。云、中夏の事を以て見るに、洛書に九州の象あり。大禹九州を別ツ、北は冀州、南は楊州、東は青州、西は梁州、東北は兗州、西北は雍州、東南は徐州、西南は荊州、中は豫州也といへり。大禹神龜の文を負て、背に列する象數を見て、九河をさぐりて九州をなすのあらまし、いよ〳〵洪し給へるなるべし。九疇の數も是にかたどり給べし。井地の法もまた此に放(ナラ)へるか。井は九百畝、其中を公田とし、八家各百畝を私にして、おなじく公田を養といへり

文王八卦方位後天之圖



或問、後天の學は先天泰の卦をみて知べしといへるは何ぞや。云、天氣降り地氣升り、交泰して春をなす。乾西北に行たるは、天氣のくだりたる也。坤南西に來たるは地氣の升りたる也。天地の氣相交る時は、水火の氣も東西より相交る。乾西北に行ときは離かはりて正南に位す。坤南西に來ときは、坎かはりて正北に住す。水火は造化の大用なればなり。震は天地の長男なれば、正東に出て天下の春を知。巽は風木也。故に東南に來て春を成。兌は陰金也。故に西に住す。艮は小男也。長男の舊宅に往て春を助る也

問、後天の河圖に合といへるは何ぞや。云、後天は坎離震兌の交を主とす。其交り變ぜずして定位あり。方にして常あり。故に地に應ずといへり。河圖の數は偶也。偶なる者は靜也。靜を以体とするは、是又地に應ず。玉齊胡氏云、後天坎離を以南北の正子午の中に當るときは、各水火の一象にあたる。離地二天七の火に當て、南に居坎天一地六の水に當て、北に居震は木の生也。天三の木に東に當る。巽は木の成也、地八の木に東南に當る。兌は金の生也。地四の金に西に當る。乾は金の成也。天九の金に西北に當る。艮は土の生也。天五の土に東北に當る。坤は土の成也。地十の土に西南に當る。坤艮獨り中宮の五十に配して、四季に寄旺すといへり。北方一六の水、東方三八の木を生じ、東方三八の木、南方二七の火を生じ、南方二七の火、中央五十の土を生じ、中央五十の土、西方四九の金を生じ、西方四九の金、北方一六の水を生ず。是北方の坎水、東方の震木を生じて春を成、東方の震木、南方の離火を生じて夏を成、南方の離火、南西の坤土を生じて土用を成、南西の坤土、西方の兌金を生じて秋を成、西方の兌金、北方の坎水を生じて冬を成。先天地自然の位ありて、後相交りて用を成ところ也。故に五行の運行相生じて順也。五行は質地に

具(ソナハリ)て氣天に行(ユク)。質を以いへば、水火木金土也。天地生成の序也。氣を以いへば、木火土金水也。春夏秋冬運行の象に取といへり

或問、河圖に土は中央にあり、後天の八卦に坤土南西に在は何ぞや。云、河圖の五十は乾坤の舍也。天地の氣升降して中央に交る故に、天一水を生じ、地二火を生じ、天三木を生じ、地四金を生じ、天五土を生ず。內に在は生數也。一中宮の五を得て六と成、二五を得て七と成、三五を得て八と成、四五を得て九と成、中宮の五五を得て十と成、外に在は成數也。是を天一水を生じ、地六これを成、地二火を生じ、天七これを成、天三木を生じ、地八これを成、地四金を生じ、天九是を成、天五土を生じ、地十これを成といへり。造化の工用にあたりては乾五西北に行、坤十南西に來て、中を虛にす。虛は大極也。先天後天共に中を虛にしたるは大極の象也。艮は陽土也。故に冬春の間にありて春夏の交りをかぬ。坤は陰土也。故に夏秋の間に在て、秋冬の交りをかねたり。土用は四季に寄旺すといへども夏の土用は火生土にて、時を得たれば盛也。問、洛書四九の金南にあり、二七の火西に在は、河圖五行の順行にあらず。先天の方位にもあらず。しかるに先天の卦に合とは何ぞや。云、乾南兌東南なるは老陽四九の位也。離東震東北なるは少陽三八の位也。巽西南坎西なるは、少陰二七の位也。艮西北坤北なるは、老陰一六の位也といへり。又人事をかねたり。物を開き、務をなす者は、先器をなせり。器は克せざれば生ぜず。南方の火、西方の金火に入と喜は、金火氣に乘じて南に出、火克金にて鐵器を作れり。金器出來て、金克木にて農具を作り、日用の器を作り、屋を作れり。鍬をきたひ、弓矢を作り、猛獸毒蛇をしたがへて、人倫を尊くす。金木の器出來ときは、木克土にて、土を發し草きり、

土克水にて、堤つき水をみちびき、田かへし植る事をなせり。水克火の間に、土と金とをへだてゝ物を和して人を養へり。洛書は水克火、火克金、金克木、木克土、土克水と右轉して、克すといへ共、對待の位は相生也。人事は克して用をなすといへども、つねに相生を以て本とす。用をなす事も、倹してほしいまゝにせず。一草一木も其時にあらざればきらず。斧斤時を以て山林に入政あり。造化の運行は相生なれども、對待の位は相克也。水火南北に相對し、木金東西に相對す。夏の土用に東風吹も、夏の土用は時を得て甚盛なれば、木克土の風にて、過るを制する理なり

問、洛書は人事なるが故に、仁義禮知の次第も、洛書の方位に合たるか。云、自然に合たれども、洛書の序によりて、仁義禮知をいひたるにはあらず。仁義禮知は待對を以ていへる也。故に河圖にも合たり。運行を以ていへば、木火土金水也。生の序をいへば、水火木金土也。生の序は待對也。又春は陽のはじめ、秋は陰の始なれば、其始を取て、春秋といへるごとく、陰陽に配して仁義といへり。五行に配する時は禮知信を加て云也。仁は木氣の神理也。義は金氣の神理なれば、其始を取て仁義といひて、禮知信其中に在り。或問、冬春を陽とし、夏秋を陰とすといへ共、みえたる所も人身に覺ゆる事も、東南春夏は陽、西北秋冬は陰也。如何。云、生ずる所を以ていへば冬春は陽にして、夏秋は陰也。旺する所にてみれば、春夏陽にして、秋冬陰也。冬十一月子の半に、一陽來復す。震北東に生じ、大明東に生ず。故に離正東に當る。夏五月午の半に一陰下に生じて巽南西にあり。月に西に生ず、故に坎正西に當る。離を日とし坎を月とす。右は先天生ずる所の方位也。後天に在ては旺する所に位することはりは、日は午に至て照こと盛也。故に離南に位す。月は子に至て照こと明也。故に坎北にあり。震は陽木也。故に正東に位して、春をつかさどれり。

巽は陰木也。故に東南に來て、春を成、兌は陰金也。故に西に住して秋を成。土は中央に旺すといへども、坤金火の間に住する事は、其生ずる所に歸る也。乾の性は陽金也。故に西北に至る。是又生ずる所に歸る也。坤は陰土なるが故に生ずる所の陰地にあり。艮は陽土也。故に先天旺せし所にのこりて、北東の陽地にあり。木金土は形を以て旺す、故に各二也。水火は氣を以て旺す、故に各一也といへり。先後天の義は生ずる所と旺する所のかはり也

或問、方圓の圖の意は何ぞや。云、圓圖は乾坤成所に位す。方圓は乾坤生ずる所にかへる。圓圖は乾坤のみ成所に位して、六子は生ずる所にあり。是先天の學也。方圓は乾坤のみ生ずる所に歸て、六子は成所に位す。是後天の學也。故に圓圖は乾南に位して、東を統、坤北に位して西を包。方圖は乾西北を統、坤東南を包。圓圖は動を以て体とす。故に變ず。變ずるは天道の無窮也。方圖は靜を以て体とす。故に不變。變ぜざるは地道の常道也。後天は乾坤無用の地に退といへども、西北は地の陽にして高く、東南は地の陰にして卑し。是乾坤上下の位を正くし、六子の賢才を用て、無爲にして成る。衣裳をたれて天下治る。乾坤にとれるといへる者也

〔イ本乾を下とし乾を上とすニ作ル〕

☰☰ 乾下乾上 六爻皆奇也(ナリ)。陽(ノ)之數也(ナリ)。純陽(ナルガ)故(ニ)乾(ナリ)也

下を乾とし、上を乾とす。〔イ本とはアリ〕八卦の乾の字は、三畫卦の名也。六十四卦の乾の字は、六畫卦の名なれば也。下を内卦どし、上を外卦とす。伏義氏始て八卦を畫し給ひて、天地人三才の道備るといへども、又一卦に各八卦を重て、六十四卦となして、天下の變を盡し給へり。物をひらき、務を成の本也

乾(ハ)元(ハジメ)亨(トホル)利(リ)貞(ス)(ナリ)

卦の下に、文王の繫給彖の辭是也。六十四卦みな同じ。文王以前は、卦畫のみにて辭なし。彖は斷也。一卦の義理をことはり給なり。乾は至誠無息の天德也。上天の載は、無聲無臭といへり。元亨利貞は乾の德理也。其躰は理也。其用は氣也。理氣を性情と云。故に元は木神也。木氣流行して春を成。亨は火神也。火氣流行して夏を成。利は金神也。金氣流行して秋をなす。貞は水神也。水氣流行して冬をなす。天は理氣合同してはなれず。故に日月の運行、四時の氣節たがはず。是天理至實にして無妄なれば也。乾は天の性情、天は乾の形躰也。文字に一大を天とす。有形の物天より大なるはなし。日月星辰かゝり、大地大海なりといへども天の中にあり。天半

は地上をめぐり、半は地下をめぐる。万國山川河海地上にあり（居(イ)）て、造化を助く。故は易の六畫上の二爻を天道とし、下の二爻を地道とし、中の二爻を人道とす。三才の象備れり。天は地をかね、人をかねたり。故にすべて乾の卦とす。天の元亨利貞、人に有ては仁義禮智也。天命これを性と云、是也。仁は元也。天の生々の理也。人の慈愛の理其心おなじ。天地の大德を生と云。仁は金德の名也。禮は亨也。亨は天地の盛德にして、通達の理也。人に在ては順德也。恭敬の理也。人倫の善美也。上を安じ下を治るは禮よりよきはなし。義は利也。利濟の德にして斷制の理也。秋は五穀實のりから枯(カレ)、草木實をむすび葉落、みな宜きを得也。天道聖人物を利するがゆへに德也。凡人は已を利するがゆへに欲也。故に國は利を以て利とせずして、義を以て利とすといへり。智は貞也。正固の德にして、分別是非の理也。冬は精氣収斂して不用、収斂して不用は大用の本也。故に聖主問ことを好て、知を以て先だち給はず。天下の知を盡さしめて其中をとり、人に取て善をなさむがため也。善を人にとるは、人と共に善をする也。人とゝもに善を爲を大知と云。されば大知は愚なるがごとし。天の貞德にかなへり。知の本躰は虛靈神明也。一物なき故に照さずと云事なし

或問、愚なるがごとくなる大知、天の貞德にかなふ事は何ぞや。云、世人春生じ、夏長じ、秋實のる事の、造化の功用たる事を知て、冬の一時生物の事なしとおもへり。冬の霜雪嚴寒によりて、万物屈伏し、精氣をたくはへて、來歲生長、實の根本となることをしらす。帝舜大知にして自知を用ひ給はず。言路を開きて諫言をいれ、昌言を拜し、問ことを好て、虛中に天下の才知を用て、天下を天下の天下とし、禮樂を以て平治し給へば、

天地位し万事育す。無爲にして無事なるは知の至也。是天の貞德に配する大知也。神明不測の德知、言語文字を以て形容しがたし

初九。潛龍。勿レ用　周公旦の繫給六爻の爻の辭也。六十四卦皆同じ。孔子伏義の卦、及び文王の彖の辭に通じて彖傳を作給、又大象傳及び周公旦の三百八十四爻に、繫給爻の辭に、小象傳を作給。文言繫辭、說卦、序卦、雜卦等を作給て、易學大に明にして、伏義氏の奧義あらはれたり

下爻を初とす。陰陽下より生ず、卦爻も下より生ず。乾の初爻は大極の生ずる、兩儀の⚊也。坤の初爻は兩儀の⚋也、兩儀の上、四象を生じ、又八卦を生じ、八卦各八卦を生じて、六十四卦となれり。大極は理也。陰陽は氣也。理氣は形色なし。故に聖人卦爻を作て、其象によりてしらしめ給。九は陽數の盛也。故に陽爻に九を用たり。潛は藏也。龍は陽物也。或は大、或は小、靈變不測也。故に陽氣の消息、乾道の變化、聖人の進退に象れり。理は形なきによりて故に〔〇イニ字ナシ〕象を假て義を顯す。故に龍を以て乾の象とす。初九は陽、初下にあり。このゆへに用ることを恐る。仲冬冬至一陽下に來復す。養べくして不可用。初學の士學で不致、聞て不說。內に積て德とす。養て發散せず。大舜歷山に耕し給時は、野人に異成事なし。聖人といへども下に在がゆへに、德を養て施し用ひず。伊尹有辛の野に耕して、堯舜の道を樂しめり。諸葛孔明性命を乱世に全して聞達を諸侯に不求、皆龍德にして潛伏し、みづから用る事なき者也

九二。見龍在レ田。利レ見二大人一　六畫卦を以ていへば、初二は地道也。二は地の上也。田は地上に在

て衆を養ふの至也。地性は衆を養を以て道とす。田の苗の生長は、五六月也。五月末よりは氣化の雨漸々まれにて、白雨を以て五穀草木を養へり。龍雨の時分也。見龍在レ田は、龍雨田を養ふの象也。三畫卦を以ていへば二と五と人位也。九を以て二五に居は大人の象也。大人は有德の人也。九二潜を出、隱をはなれて、德すでに世にきこゆといへ共、いまだ位なくして處士の象也。利レ見二大人一とは、上九五の賢君と相遇て、共に天位を共にし、天祿をともにして、道德政敎を以て天下を利濟する也。舜歴山に耕し、帝堯にあげられ、伊尹有辛の野に耕し、湯の聖主に相遇たる是也。內卦外卦を以て云ときは、二五共に中正也。五は上の中なれば君位也。二は下の中なれば、執政の職也

或問、下を內卦とし、上を外卦とす。內卦には貞多く、外卦には悔多し。上卦には君位大臣あり、治道の本也。貞にして內たるべからずや。云、上卦は客位也。故に外卦とす。下卦は主意也。故に內卦とす。初は民也。民は國の本にて万古不易の者也。二は士也。士は民間より出て卿大夫ともなり、宰相の職とも成者也。是又古今の常也。三は下の上なれば、諸侯の位也。諸侯は世々共國を守て、天下をとる人に順從する者なれば、定りたる位也。故に內卦とし、主位とする也。五は大君の位なれ共、民の父母たる德ある時は、天命を得て君たり。不德なる時は、天命を失て匹夫たり。四の大臣も、君とゝもに存亡する者なれば常ならず。上は師保の位也。大君賢なる時はあり、不賢成時はなし。古より四五上は天命の常なきに順て定まらず。故に外卦とし客位とする也

問、天命は正して常ならずや。云、造化よりいへば四時たがはず常也。富貴を以ていへば、善なる時は得、不善なる時は失ふ。これを天命常にせずといへり

九三ハ。君子終日乾々ス。夕ニモ惕若タリ。厲（アヤウケレドモ／ハゲシクノ）無シレ咎（トガ）　九三は剛にして、陽位に居ときは剛に過たり。下卦の終なれば變改せんとす。又下の上也。彼是以て危地也。しかれども君子終日つとめてやまず、夕夜に及ても戒愼恐懼して、つとめはげますときは、危地に居といへども過（アヤマチ）なし。下の上は諸侯の象也。諸侯は天下道あるにも道なきにも危地也

或問、諸侯の位の有道無道ともに危地なる事は何ぞや。云、有道の代には、一國の父母たる德なからん事を恐る。無道の代には、賢なればうたがはれてあやうし。不德なれば廢せらる。大君の近臣、同姓外戚など國郡の闕所あらんことを欲して、善惡に付て諸侯の身のうへを流言し讒する者也。この故に國郡の主の身代果るものおほく、流浪人出來て困窮の者ます〳〵多し。故に仁君は善惡ともに諸侯の家のほろびざるやうにし給へり。其國主國を治べき器なければ、國中に養ひおき、其同姓の中より、其器にあたる人をゑらびて立、家老諸士ともに不動故に、流浪人出來ず。今の馬廻などやうの役のなき士は古はなし。農兵にて、軍役民間より出れば也。國郡（都イ）の諸役人も、民間の處士の中より、其器ある者をゑらび、其役に付たる領をあたへ、在所の田宅には留守居を置、職を辭する時は本田宅に歸る也。後世民間を出て、渡り奉公人と云者出來、子孫は在所を失て、主人なければ牢人となれり

或問、文王は大聖なれば、乾々惕厲の愼におこたりはあるまじきに、何として危地の難をまぬかれ給はざりしや。云、爻の經文は常をのたまへり。文王といへども諸侯の危地をのがれ給はざるは、時の不祥にて變也。しかれども文王は罪なくして、自罪を負て、紂をとがめ給はず。前日大半そむける諸侯も、文王によりて朝せしかば、文王と

らはれ給ひては朝せず。彼是以て紂といへども文王の誠忠を知たるきざしを見て、周國の諸臣さゝげ物などして贖たればゆるせり。まことに臣子たる人〳〵は、夜もいねられぬ大難也。天下貴賤ともにいたみなけれども、今よりみれば後世の幸也。此難なくば易の象辭も出來まじ、至德をも又知べからず。程子も敬の受用間斷なかりしかども、一度は流罪にあへり。其外聖賢の災難は後世の幸也。爻の辭も、周公の流言の難によりて、退居二年の閑靜の時作り給へり

九四。或躍。在淵無咎　九は陽剛、四は陰位、人位の上、上の下也。三公九卿の象也。陽剛の才ありて、君に近けれども、上にひとしからん事を欲せず、臣たる心を不失。故に淵に在と云。四は上の下にて、陰位なれば淵の象也。龍の安ずる所也。躍は進ては忠を盡さむ事を思ふ也。或とは進ことを必とせず。國道ある時は知也。國道なき時は愚也。又己が身の分を知て、賢をあげ能をすゝめて、國政を助しめ、己後見するは、淵にある義也。大臣の世々國政を取て、權威君にうたがひあるは、其國に害あり、其家に凶也。これ咎あるなり。私の權威をなさず、臣の陰位を安する時は咎なき也

九五。飛龍在天。利見大人　九は大君の德、五は大君の位也。德は天爵、位は人爵也。天爵人爵相應するは有道の世也。天子公卿諸侯大夫士は人爵也。善信美大聖神は天爵也。五は上卦の中にして、天位の初也。聖人にして此位に在すは、飛龍在レ天の象也。聖人の大寶を位と云、位にあらざれば天下を利濟することあたはず。飛龍天に在ときは、雲行雨施して万物を養ふ。聖人位に在す時は、天下其澤をかうぶり、万物その生をとぐ。故に

象をとれり。堯舜の聖主といへども、九二の賢臣をみざれば、あまねく仁政を行ことあたはず。故に有徳の君位を得れば、有徳の臣を得て天下を利濟す。先務に急なる是也

上九。亢龍有レ悔　上は君位の上に在といへども陰位也。臣にして君の上に居は師保の象也。箏の糸も二を宮とし、一を上とす。箏の糸の二は卦の五也。卦の五箏の二、共に宮也。君位也。一は是も師保の象也。一六二七三八四九五十、皆すがゝきの一聲也。河圖の數也。六糸一度に鳴は、六爻一卦のごとし。大君師保のしたがふべきなく、位を極て上たる時は、過て凶いたる、故に悔あり。龍のゝぼり過て、雲氣をはなるゝ時は落て身を傷るの悔あるがごとし。古より位を極め、威を極めて不失と云ことなし。故にことわざにも位だをれといへり。〇〇〇〇〇〇〇〇、足利家の末の亡たるこれ也。しかれ共是は柔にて失ひたれば、根を絶には及ばず。天下を取人の剛にて位威を失ふ者は、其亡るに及びては、庶人たらんと欲すれども得べからずといへり。九五は位の極、中正成者也。中を過る時は亢す。陽氣長進すれば、必消退の漸あり。草木の情なきも盛衰あり、理の自然也。況や有心吉凶を帯する人、極盛の時にあたりて、其亢を思慮せざらんや。匹夫といへども分々の盛極あり。九五の大君、九二の大人を見て利ある事は、唐堯虞舜にしくはなし。身の爲に利あるにあらず、天下の爲に利あり。堯舜天下を有て不レ與と云ものは、天下の富貴を以て身の樂とし給はず、衆民の父母たる、任重きことを憂給のみ。故に天下を擧て舜に傳る事重き負を釋がごとし。舜も又大君の富貴を得て悦とせず、天命の己に歸する勢、やむ事を得ざれば也。終に天下を以て官にして、子に不傳して賢に傳といへり

用九ハ。見ルニ群龍一。無シレ首タル（カウベ）吉ナリ　六爻皆陽剛に純なる者也。群龍の象也。龍の勇猛首にあり。無首とは勇猛を不用也。龍は羽翼なくして天にのぼるほどの陽の至極を得たる者也。しかるに常には至陰の淵中に潜伏す。故に災害なくして吉也。智仁勇は君子の三德也。大勇あれども威猛を事とせず。平生はその勇を禮儀に用て、溫和慈愛也。是を沈勇共いへり。子路貧賤にして勇力あり。其時分は戰國なれば、貧乏にて勇力ある者は多は無道をなせり。しかるに子路は其力を孝に用て、米を負て父母を養へり。今伏見大津より京へ米をはこぶがごとし。牛馬もなき貧者は、になひて賃をとる也。子路田宅なし、資なければ商もかなはず、仕ざれば祿なし。故に日傭をとりて父母を養へり。後に仕て富貴也。今親のために米を負まく欲すれども、父母なき事をいためり。又剛にして事の先たるは凶をまねく道也。故に其占首たる事なくして吉也。虎は勇猛を用て人にふれ、牛馬を取故に、虎がりにあひて多く殺さる。深山にこもりゐて龍のごとく害をなさずば、其生安樂なるべし。世間に兵法だて勇だてする者の犬死する類也

彖曰。大ナル哉乾元。万物資トリテ始ム。乃チ統レ天ヲ　是より孔子の辭也。彖は文王卦の下に繫給ふ經文也。こゝに彖曰と書すは、文王の彖辭を孔子の釋し給ふ傳也。彖傳云の義也。大哉は歎する辭也。資スルレ易ヲする也。彖傳は文王の卦下の辭の意を述給といへども、實は文王は卦の義を述給へば、孔子も又卦中にふくめる所の理を述給也。故に其辭文王周公に專ならざるがごとし。伏羲の意は、卦の象にあり。文王周公孔子の三聖人卦の象によりて、卦中にふくめる所の理を發明し給也。傳は先聖のいまだ言に發せざる心を傳る者也。故に文王一卦の象辭、周公の爻

の辭孔子の傳言同じからざれども、伏羲の心にかなふ事は一也

乾元は天德の大始也。故に万物始をこれにとる。世人万物の地に生ずることを知て、天の乾元の氣を以て、始を爲こと不知。人母に生ずる事を知て、始を父の元氣にとることを不知。是を未生の前に始め、是を有始の後に生ずといへり。天陽一元の氣、天を貫き地を貫き、山川河海を貫く。元氣一にして實なれば至らざる所なく、かねずと云事なし。故に天を統といへり。人の元氣身躰貫ずと云所なきがごとし。山下の出泉、神氣厚して流深遠也。晝夜をとゞめざるは川の元氣也。草木の靑葉みどりふかく、人の目を淸くするは草木の元氣也。山澤の神氣うすくなる時は流やむ。木も元氣不貫枝はかるゝ也。人病ありて、半身かなはず、さすりつみても不覺は元氣不貫也。これを不仁の症と云。仁は元氣の德也。仁は理也。理を以て天地万物を貫くもの也。故に仁は無レ所レ不レ至、無レ所レ不レ兼、富貴貧賤、夷狄患難、悅樂禍福、死生に至るまで皆吾仁中の一事也。時所位に隨て其道を行て好惡なし。若生を好み死を惡み、富貴を好み貧賤を惡む者は不仁也。已にあらずとする所あり、中風半身の症のごとし

雲行キ雨施シテ。品物流シクレ形ヲ。大ニ明ニシ終始ヲ。六位時ニ成ル。乘ジ六龍ニ以御レ天

雲行キ雨施は、乾道亨て生物長ず。盛夏造化の功用の中比也。品物流レ形は元亨遂て五穀實り、草木實結び造物功成就す、秋利の德也。大ニ明ニ終始ニは、始終を明にすと云ときは、中比の事は其中にあり、始中終を明にする也。始終といへば、終てやむがごとし。窮り有に似たり。終始と云ときは、終て始る、無窮の義也。貞德に終て又一元に始る。元は元に生ぜず、貞に生ず。天地の化、翕聚せざれば發散することあたはず。故に貞は乾德の根本也。根本厚して元始大也。

貞は知也。聖人大君の位を得て天に繼て極を立、造化を助て天下を平治し給。治躬知也。故に聖主の知は乾の貞德に配して、無爲にして無事也。大知の大本ありて、大に仁政行る。故に仁政は仁政に不生、知に生ず。故に中庸に知仁勇を天下の達德也といへり。冬よく寒して、春夏の生物盛に、秋實多がごとし。是大に終始を明にする也。卦の六位時に成は、人道行れて人倫明に、天地位し万物育する處也。六龍は乾卦の六爻也。皆陽爻なるが故に、六龍の象也。六爻の動は三極の道也。天始地生ずといへども、人行はざれば造化の功用全からず。天地の道を行者は人也。乾道の敎を受て天道を行ふ故に、乘ニ六龍一御レ天といへり

乾道變化ノ。各々正ニ性命一ヲ。保ニ合ノ大和一ヲ。乃利貞ナリ。首トノ出ニ庶物一ニ。萬國咸ク寧シ　天命

流行して、日月星辰代明、四時の氣節たがはず。夏の炎熱漸々變じ、秋の清涼いたり、暑なごりなきは化也。一草一木までも各其理を得て、百穀堅實するは正ニ性命一也。秋の清涼の氣漸々變じ、霜雪いたり寒氣閉て水こほるは化也。仲冬十一月に一陽下に來復し、十二月に二陽生じ、正月に三陽生ず。天氣下り地氣上り、交泰して春を成。東風氷をとき、霞たなびき、鶯鳴梅花さく。寒中に咲梅は、冬至一陽の氣を先受て雪中よりほころび出。二月は時正櫻桃花など咲出、三月は花盛也。余寒名殘なく化す。皆乾道の變化にあらずと云事なし。跡のみやすき物を云のみ。桃花の時分より種をつけ、・四月の末より五月の上旬に植、炎暑の氣に長し、雨露の恩に養れて初て穗に出。いまだ粟皮のみにて、內に甘露を含めり。是大和を保合する象也。漸々堅實するは、利貞の象也。始終元亨利貞の命を受て如此。故に大和は元亨利貞〔〇二字無〕に配す、天地の仁德也。天地の大德を生と云、日として生ぜずと云事なし。

四月ノ上ニ（イ）四月にまきアリ

是天地の心也。人は天地の心を以て心とす、是を本心と云。本心は仁也。仁は生理也。生理を心に存養するを、大和を保合すと云。孜々として善を行てやまざる時は、大和德をなして盛德至善に至り、利貞に配す。大和は道躰也。聖人大和を保合して、天の元亨と德を合す。九五の位を得て首として庶物に出れば、万國咸寧。元首は大君の象也。位を以ていへり。庶物に出るは類を出、萃(スイ)を抜(ヌク)、德を以ていへり。聖人其類を出る時は、天下に臨にたれり。天地の造化を助て天下を利濟し、天下の知を用て無事なる處を行は知の至也。故に無爲にして成。是天の利貞と德を合する也

或問、貞を本といひ、又元亨〔○亨ナシ〕を本と云は何ぞや。云、仁は德を成の本也。知は大業を行の本也。たがひに其根をなす也

或問、人は有心にて仁愛あり、天地は無心也。何ぞ仁を云や。云、天は其心万物にあまねきが故に無心也。聖人は其情万事に順なるが故に無情也。聖人情なきにあらず、天地何ぞ心なからんや。主宰する者なくば、何を以てか如此造化の功用あらんや。天地の仁恩は廣大なる故に人しらず。堯舜の君政を以て天下の衆を養ひ給ふ。仁政廣大なれば民しらざるがごとし。天道美種を下す、聖人天意をうけて是を取て農業を敎へ百穀種を傳てのち、天の美種やむ也。初は人氣化に生ず、形化ありて後、氣化やむがごとし。五月の初に早苗をとりて、はやきは七八月、おそきは九月十月にかりおさむ。麥は九十月にまきて來歲四月の末、五月の初にかりとり、漸秋冬よりのたくはへ少き時分に麥實り、八九月に至て麥漸すくなくなる時分に米實れり。此二種は百穀の内にて一二の美種也。其外夏毛といひ

て、夏秋中に生長し、實物多し。野菜は夏より秋までは茄子さゝげ瓜などあり。菜大根は秋冬用て春までたくはへをなし、苣などは冬より植て、春中生菜のなき間の用をなせり。如此時分〳〵の物たゆる事なし。雨露霜雪風雷、是を潤し、日月これを覆育し、水火これが用をなし、其外山野に生じて人を養ふ草木かぎりなし。穀氣をめぐらさむために種々の木の實生ず。桃栗柿蜜柑などは秋冬の用をなし、栢椎榛松子のたぐひはたくはへて、來春木のみの絕間に用。茶は上頭目をすゝ敷し、下食を消す。一々に記さば數紙をかさぬ共つくすべからず。半は人作のやうなれども、天のほどこし地のめぐみを以て出來る物也。又衣服家屋家財文武禮樂の器あり。材木薪山林に生じ、牛馬生じて人を助く。河海の魚、山野の鳥獸。乳養の理にて、人の脾胃を養ひ、元氣を助く。又人參甘草等の百藥を生ず。聖人生れて天工にかはり、是を取て制して病を治す。是皆天の人の爲に生ずる恩澤也。父母先祖より、我に至り、子孫に傳て無始無終の天恩、何を以てかこれを報ぜんや。富貴の人は猶以て天恩をかうぶる事多し。天恩を報ずる道をしらざれば、世を繼て久しき事あたはず。今よの中、貴賤ともに困窮す。大君天恩を報じ給はんならば、今の時にしくはなし。政を以すくひ給はゞ、さかしまにかゝれる者をとくがごとくならむ。此時を過てはたとひ賢君良臣ありとも、代をかさね、年をへずしては貴賤ともに安樂を得事かたかるべし。富有大業を行給はゞ、今此時にしくはなし。くはしき事は大學平天下の或問に見えたり

象ニ曰。天行健也。君子以自彊不ㇾ息

孔聖一卦の象を釋給、是を大象と云、諸卦皆同じ。六畫を以てみ給へば、內卦も乾外卦も乾也。天に天を重ねたる

は、今日晝夜周天して明日又周天す、不息象也。故に君子天を師として善を爲て不息象(○象イナシ)也。十二時に天の行こと九十余万里也。これを人の呼吸に積りてみれば、人の呼吸十二時に一万三千六百余息也。一息に天行八十余里也。人の息いねてもさめても息事なし。天行一息もやまず、一息やみても四時たがひ、造化行はれず。天地開てより四時たがはず。日月の蝕に至まで、そのしるしあきらかなり。天の性至てすぐやか也。聖人の心も至てすぐやか也。共に至誠にして不息也。詩ニ云、惟天之命。於穆トシテ不レ已。於不レ顯。文王之德之純ナル。純モ亦不レ息といへり。自ラ强ル者ハ體スルノ下乾ニ之象ヲ不レ息者躰スルノ重乾ニ之象ヲ未レ能レ無レ息而不レ息者君子之自强也若顏子三月不レ違レ仁ニ是也といへり。孔子一等くだりて大賢と成て、天に則る受用をのたまへり。人欲これを害する時はやむ、人欲を以て天德の剛を害せざる時は、自强て不息。孔聖の此言なくば、吾人いかでか天を師とする受用を知べきや

潜龍勿レトハレ用ルコト。陽在レバ也レ下ニ也　周公旦の爻の辭を孔子の釋し給へり。是を小象と云。諸卦皆同じ。陽在レ下とは冬の陽のごとし。十一月に一陽生じ、十二月に二陽生ずれども地下に在が故に、いまだ春をなさず。人もいまだ陽事を不用。天は陽氣を地下に伏養し、人は冬ごもりて休す。陽下に生ずるが故に、陰氣を推出して寒風甚し。東に大陽出れば、陰氣おはれ來て暁寒きがごとし。故に冬あたゝか成は不順也。しかる時は王者政に非ある事を知て、愼て改給へり。冬は陽を用むことを恐る。是天道を以てのたまふ也。人事もまた通ず。故に君子微に處テル、いまだ不可用といへり。小人時を得て事をとる時は、君子微に處して愼て自もちゐず

見龍在リトハレ田ニ。德ノ施シ普ネキ也也　田に植るは種の美なる物也。人を養の至味也。夏の暘にあらざれば長

ぜず、雨にあらざれば生をとげず。盛夏の炎暑にあたりて、龍田上を行は、雨澤膏潤の象也。龍は夏の盛陽を得て潜をはなれ、隱を出て雨を下すは民の望に叶へり。野にある賢人の時を得て、德澤普く天下に及ぶの象也。九二は下躰の中正なれば宰相の爻也。帝堯にありては、舜百官を統給時也。禹の帝舜にをける、益の禹にをける、伊尹の湯王にをける、皆同じ。舜禹は天の歷數ありて、終に帝位にのぼり給へば君德あらはれたり。益と周公と伊尹は臣に終るは、九二の位にて德の施し普き也。後世の宰相職は衰世の時處位によくかなひたり。人主賢君にあらざれ共、或は三百年、或は四百年子孫に及たるは、此宰相職の置やうよき所也

終日乾々ストハ。反復ノ道也　反復は自反愼獨也。天は万古不レ已、乾々と天に天を重たるは、生々不息の象也。君子終日乾々とつとめてやまず。天に及ばむ事を欲す。日々に新に、又日々に新也。丁寧反復誠の道也。內にかへりみてやましからず、過あれば必知。これを知は又不行、不遠して復す。反復の道也

或ハ躍ル。在リトハレ淵進ミチ無レ咎也　四は人爻の上なれ共、陰位也。其身陽剛なる故に、或は躍り、或は進といへども、其位をわすれず、可を量り時に適が故に無咎。人生身に分ありて欲にかぎりなし。分をわすれて限りなき欲に隨ときは咎あり。古より万乘の君をなみするは千乘の家也。千乘の君を犯すものは百乘の家なりといへり。是によりて、後世大臣の祿をすくなくすれども、威勢をたのみて乱をなす者あり。石田三成が類也。下匹夫にいたるまで、かぎりある生命を以て、かぎりなき欲にしたがふ時は危し。九四は九五の君位に近く、九三の上にあれば、三公の象也。三公は公侯の諸侯になずらへて、百里の國を受、祿ゆたかに位尊しといへ共、人臣なれば諸侯の卿大夫

になずらへて家といへり。九四進ては忠を盡さむことを思ひて君にせまる心なし。在レ淵は臣の分を不忘也
或問、諸侯も臣ならずや。云、天の覆所、地の載所、王臣にあらずと云ことなし。しかれども諸侯は一國に君として役義なし、其國に君たる是天職也。三公よりは位ひきく祿同じけれども人君也。文字にも、もろ〳〵のきみとかけり。このゆへに天子も賓とし、兄弟とし給へり。堯舜にありては四門に賓すといへり。周朝には我に嘉賓あり、兄弟ありともいへり。諸侯朝すれば、天子賓としもてなし給ひ樂あり。射禮の後酒宴あり。日を定めて文武ともにこゝろみ給ひ、したしみて其人品を見、善を好し不能を敎給へり。親愛兄弟のごとし

飛龍在リトハレ天ニ。大人造ナスナリ也　天は陽也、龍は陽物なり。飛龍在レ天は、君子陽剛の德ありて、陽位に居る象也。九は陽爻也。五は陽位也。陽を以て陽位に居は過たるがごとくなれども、剛明は大君の德也。五は天位の中正にて大君の位也。大君の德ありて、大君の位に居は理の至極也。大人造ナス也は、聖人繼テレ天ニ立ルレ極ヲ也。造は無より有に至る、空々たる聖心万善を造化し出す。德剛明にて其用は仁政也。威愛に勝ときはまことに成、神武にして不殺者也

亢龍有レ悔。盈テハ不レ可レ久カル也　貴を極れば貴を失ひ、富を極れば富を失ひ、位を極れば位を失ひ、威を極れば威を失ひ、欲を極れば身を失ふ。古より皆しかり。亢はたかぶる心也。或は富貴にたかぶり、或は才智にたかぶり、或は威勢にたかぶり、いつまでも如此ならんと思ひて、盈て天命の消する事を不知。物皆盛衰あり、みつればかけ、のぼればくだる、勢の自然也。俗にも奢者は不久といへり。奢は心のたかぶるより大なるはなし。龍身

にたかぶりのぼり過て、雲氣をはなるゝ時は、落て身をやぶる悔あり。上九までゆかず、則九五の位に居て、亢龍の悔あるべし。樂を極め欲をほしいまゝにして命を損ずるも亢龍の悔也。故に禮に樂みをば極べからず。欲はほしいまゝにすべからずといへり

用九ハ。天德不レ可レ爲レ首也　　天德首たるべからず。乾首たらずと云にはあらず。乾首たらずしては誰か首たらん。乾は天下の首たれ共、万物に首たるに心あらざる也。君子是を躰する時は、謙恭卑順にして、天下の先たらざる也。善ク用ル九ヲ者は、剛にして能柔也。物の先たらずといへり。經文には無首とあり。傳に不レ可レ爲レ首とのたまふ者は、人の九を用る者の爲也。帝舜は天下を有ども不レ與といへり。天子の富貴を樂みとし給はず、民の父母たる心のみにて、天子の位に心なし。問ことを好て、聖知を先し給はず。これ首たる事なきの至也

文言ニ曰。元ハ者善ノ之長也。亨ハ者嘉ノ之會也。利ハ者義ノ之和也。貞ハ者事ノ之幹也　　文言は孔子十〔イ七〕翼の一なり。彖象繫辭を上下に分て、十翼といへり。文は文明、文理の義也。他の卦は彖象のみ也。獨乾坤文言を設て其義を發明し給ことは、乾坤は易の門戸のごとし。其餘の諸卦及び諸爻皆乾坤より出て義理深奥なるがゆへに、特に兩卦に文明の言を作て開示し給といへり。　元は善の長也とは、春夏秋冬造化の道、善にあらずと云事なし。元は善の始にして衆善をつかさどる故に善の長也。　亨者嘉之會也とは、嘉は美也。善の盛なる也。善盛にして嘉美をなせり。會は美の衆會也。積善の意也。　利ハ者義之和也とは、利は天理の宜き也。人物の生を遂る處也。義は宜也。物時所位の宜きを得時は、各利あり。故に義和す。　貞者事之幹也トは、貞は知也。

心の神明也。是非美惡をてらして、國家の財用をつかさどる德也。世間の万事は木の枝葉のごとく、知は木の身(シン)のごとし。故に貞は事の幹也

君子ハ體ニスレ仁ヲ。足レリ二以テ長カミタル一レ人ニ　君子は仁を躰にす。人に長たるに足れりとは、家の長は親也。國の長をも親方與親といへり。皆親愛にあらざれば、人に長たるに不レ足。況や國君は民の父母也。大君は天下の父母也。皆仁を躰にして上に在す天理の當然也

嘉會ハ足レリ二以テ合一レ禮ニ　禮は人道の盛なる也。樂其中にあり。禮樂は人道の善盡し、美盡す所也。故に嘉會は禮に叶に足れり。衆美の會、郁々乎として文也

利スレ物ヲ足レリ二以和一レ義ニ　世俗義は無欲にして、利に便せざれば行がたしとす。この故に好所の欲に隨て義にたがへり。欲に隨ときは、時所位の宜を失て事をあやまり、身に害あり。欲に隨て行へば、人の怨多し。和を失て凶をまねくの本也。義に順て行ときは、人の怨なし。人倫和して我心和す。物に利して義を和する處也。故に人道は義を以て利とす、無窮の利也

貞固ハ足レリ二以テ幹タル一レ事ニ　貞は正也。正しく堅きは知ことの深き也。幹は木の身也。枝葉の依て達する本也。天下の万事は枝葉のごとく。知は幹のごとし。幽明邪正、是非善惡、人情時變、明に照して不惑、變に通じ、時に中して政令可にあたる故に、衆人いとふ事なし。治躰正しく紀綱堅し、小事大事天下の本幹也

或問、仁禮義を、元亨利に合てのたまひ、知をのたまはざるは何ぞや。云、知は貞固の中にふくめり。大知はあらはれずして、天下の紀綱たり。天の貞德も冬の一時閉藏して、造化の根たるがごとし。知をのたまはざる義深奥也。師と君と知を用る事異也。師は知を明にして先達て弟子をみちびく道也。君は知をくらまし問ことを好み、天下の才知を盡さしめて、其中をとる。中をとるは天下の才知の幹也

君子ハ行二フ此四德ヲ一者。故ニ曰ク。乾ハ元亨利貞ナリ

乾は元亨利貞也とは、性は仁義禮智也といはむがごとし。君子の行ふ四德は仁義禮智也。上の文に天の四德、人性の四德を合てのたまへり。こゝに天の四德を君子の行ところとのたまふは、天德人性不二の理を示し給也

初九曰ク。潛龍勿レ用。何謂ゾ也。子曰。龍德アリテ而隱者也。不レ易二乎世一ニ。不レ成二乎名一ヲ。遯レテレ世無レ悶コト。不レメ見ラレレ是トセ。而無レ悶シ。樂トキハ則行レフ之。憂則違レ之。確乎トシテ其レ不レルハ可レ拔ク。潛龍也

龍は靈變の物にて、或は大或は小行藏をよくす、君子の象あり。故に君子を稱するに龍德を以す。隱は必しも山谷海邊にあらざれども、才德をかくして庶人となり、或は小官に仕て其事をつとむるのみなれば、人不知と云也。不レ易二乎世一は、汚俗にそまざる事、白芙蓉の泥土に生じて、淸きがごとし。衆に變ぜられざる也。不レ成二乎名一ヲは、當世の名を不好也。孔孟の時分は、世こぞりて伯道を好み、伯術にあらざれば名をなさず。しかれども孔門の諸士

はこれをいやしとす。遯レ世ニ無レ悶ヿ。不レ見レ是ヲ而無レ悶は、遯世には品々あり。伯夷太公紂をさけて海濱につりをたれ、道を樂て悶ることとなし。泰伯の夷中に居給は、世をのがるゝの至也。人其實を知者なし。二千歳の後、孔子の言を待て、はじめて至德世にあらはれたり。又時にあはざれば是とせられず。そしりを得といへども、人をとがめ悶ることとなし。樂則行レ之は、人と共に善を爲也。君子の樂は、人と善を爲より大なるはなし。憂則違レ之は、人と善を爲事あたはざるは君子の憂也。違は或は形さり、或は心さり、愚を守て獨立するは心去也。確乎其不レ可レ拔は、其志をうばふ事あたはざる也。富貴も淫する事あたはず、貧賤もうつす事あたはず。威武も屈する事あたはざる也。或問、古の人形去者は誰ぞや。云、伊尹桀が世にて人と善をする事あたはず。故に有莘の野に耕して不出。諸葛孔明乱世に生れて、人と善をする事あたはず。是もしばらく南陽を不出して耕せり。伊尹は大賢也。孔明は伊尹に及ばずといへども善人也。英雄也。本才あり。有道の代にありては王佐の才也。其外形去たる人多し。心去たる人は、陶淵明、甯武子など也。孔聖もその愚には及べからずとのたまへり。其外書傳に見えたり。淵明は形をも去たれども、心去たる方に重し。其時分に淵明ほど成人なかりしかば、人のゑらびによび出されん事をにくみて、酒をのみもてあそびて、用に不立者といはるゝやうにみえて居たり。實は酒にはおぼれずして、酒にかくれたるもの也

或問、道なき世に生れたる賢者は、皆潜龍の時位也。しかるに其法禁を不守して、患難にあへるは何ぞや。云、聖人の經に述給へるは道の常也。變と權とは、其人に存ぜり。かねてのたまふべきにあらず。孔子も後世に及てこそ其名高明にしてくもりなけれ。當世には是とせられずして、そしりにくむ者多かりし也。すでに殺さむとせし事度

度々也（イ）數度ありニ作ル

度也。詩云、憂心悄々、慍二于群小一。孔子也といへり。其外後世の賢人君子流罪にあへる人多し。潜龍の時位を守なば、其難にあふべからず。孔子を初て、その世には衆そしり、時の賢者もよからずいへり。常を守て身安き事は知給へども、不得已義あれば也。患難は人のいとふ處なれども、のがれざるは確乎として抜べからざるの志あり。潜龍の及ばざる處也

九二曰。見龍在レ田。利レ見二大人一。何謂也。子曰。龍德而正中者也。庸言之信。庸行之謹。閑レ邪存二其誠一。善レ世不レ伐。德博而化。易曰。見龍在レ田。利レ見二大人一。君德也

龍德にして正中也とは、二は下卦の中也。九陽剛の才ありて、陰位に居。中道を得、よく剛によく柔也。故に正中也。正は常也。道は常より正しきはなし。龍は神通を得てよく靈變す。聖人神明の德ありて、古今時處位の變に通じ、人民うむ事なき政教を成給にかたどれり。神德の至は、人倫を明にし常を行にあり。故に龍德にして、正中成者也とのたまへり。庸言之信、庸行之謹は、言の則は信也。行の則は謹也。言常に信あり、行常に謹あり。これ閑レ邪存二其誠一の道也。信謹間斷なくば、邪いづくより來らんや。言行正して常あるは、其誠を存ずる也。誠は天の道也。誠を思は人の道也。善レ世不レ伐は、其善を有せず。其功にほこらず、是則天の道也。これを誠にするの人道也。德博而化は存ずる處、神なれば過る處化する也。日月神なれば其照を受る物皆生長するがごとし。易曰、見龍在レ田。

利レ見ニ大人一。君徳也とは、九二は臣の位にして執政の職にあたれり。民の父母たる、仁心厚して德の施し博し。如此賢者を用て政道を任し給ふは、則大君の徳也。年大に旱せば汝を以て霖雨とせんといへり。文王召公をして政をなさしむ。人民悦て歌て云、蔽芾タル甘棠勿レ翦勿レ敗召伯所レ憩、文王民の父母たる仁徳厚きによりて、賢者を用て政をなさしめ給へり。畢竟文王の君徳也

或問、傳義其外の注解、皆九二をさして君徳ありと云り。然るに吾子九五大君の德と云るは何ぞや。云、聖人陽を尊て陰を賤し、君位を扶て臣を抑るは毎度の事也。されば臣の位をさして君の德とはのたまふべからず。帝堯の舜に天下をゆづらむとのたまふ時、舜その功を他にゆづり給へども、諸賢に君徳ありとはのたまはず。唯堯のみ天下を有べき天命の舜にある事をの給へり。是は大君にして其天下をゆづりたまはむとする故也。天子の外には此言有べからず。後に舜また禹に天下をゆづり給はむとのたまふ時も、禹他の功臣にゆづりて、賢臣に君徳ある事はのたまはざる也

九三ニ曰。君子終日乾々ス。夕ベニモ惕若タリレ厲ハゲシウメ。無レ咎シトハ。何ノ謂ゾヤ也。子曰。君子ハ進レ徳ニ脩レ業ヲ。忠信ハ所ニ以進一レ德ヲ也。脩レ辭ヲ立ルハ其誠一。所ニ以居一レ業ニ也。知テ至ルコトヲ至レル之可シ與トモニス幾ヲ也。知テ終ルコトヲ終フレ之。可シニ與ニ存一レ義也。是ノ故ニ居テニ上位一而不レ驕ラ。在テニ下位一而不レ憂ヘ。故ニ乾々ス。因テニ其時一而惕ル、ナハ。雖ヘモレ危シト無レ咎矣　如此愼み恐るゝは何事ぞやと云意也。

子曰、君子進徳脩業、進徳は日新成徳の學也。脩レ業は徳業也。有徳の人は必徳に配する事業あり。當世に用られざれば、後世を救者也。忠信は心の主也。誠は天の道也。誠を思は人の道也。心に誠を思て忘るゝ間なきは、徳に進の第一也。脩レ辭は、言は過やすく行は不足者也。身の行よりも言の過るは虚也。誠にあらず。故に誠を立むと欲する者は、言は行をかへりみ、行は言をかへりみて、言行一致に成やうに受用するを脩辭と云也。しかれば行ところの事業、徳行と成て、徳に進の受用となる也。故に居業とのたまへり。知至至之は、致知の學也。幾は誠神幾を聖人と云の幾也。寂然不動なる者は誠也。感じて通ずる者は神也。動ていまだあらはれず、有無の間成者は幾也。幾は動の微、吉の先顯なる者也。知すでに聖學を得たり。故に幾を與にすべし。君子の進退行藏、幾をみて作す、龍の潜見のごとし。夫善の始は進て爲(ナス)者あれども、終をとぐる者すくなし。終を成は義の力也。これを終るは業を終る也。事の爲べき事をなしてとぐるも業の一事也。居ニ上位一不レ驕。在ニ下位一不レ憂は、上なるべく下なるべき也。驕者は上たるべからず。憂る者は下たるべからず。上に居て驕者は、必下となりて憂る者也。人の下たる事を憂る者は、必上となりて驕る者也。凡心はともに一也。故に上に居ても下に在ても咎あり。不驕不憂は凡心なき君子也。故に咎なし。君子は禮を尊て上下に心なし。道を樂て驕憂なし。唯乾々として時處位に順て、愼て徳のいたらざらん事を惕るゝのみ

九四ニ曰。或ハ躍ル在リレ淵ニ無シトハレ咎。何ノ謂ゾヤ也。子曰。上下無レ常。非ズレ爲スルニレ邪ニ也。進退無シレ恒。非レ離ルヽレ群ヲ也。君子ハ進ミレ徳ニ脩ムレ業ヲ。欲スレ及ンコトヲレ時ニ也。故ニ無レ咎　外卦を以て云時は上

の下也。六畫を以て云時は人位の上也。上下常なきの象也。君子德に進み業を脩めて、天の時に及ばむことを欲する事、農夫の耕芸収藏、時におくれざらんとするがごとし。上下常なく進退恒なき者は、時とともに行也。故に咎なし。凡人の上下常なき者は、邪を爲にいたり、進退心のまゝなる者は、群をはなるゝにいたりて皆咎ある者也

問、凡人の上下常なく、進退恒なき者は何ぞや。云、君をなみする物は、下に向て威を持ことは君よりも盛也。されどもいまだ君にかはる事あたはざれば、朝に出ては又臣の禮に付、是上下常なき也。中夏にては魯國の三家・などの類也。是上下常なくして邪を爲也。其身をいさぎよくせむと欲して、世ののがれ大倫をみだる者あり。世俗その富貴をすつるをみて、賢なりといへり。義なくして群をはなるゝは、眞の賢にあらず。又名を求て世をのがれ、便利によりて隱者と成し者もあり

（イ）三家ノ下日本にては平の淸盛アリ

九五ニ曰。飛龍在リレ天。利アリトレ見ニ大人一ヲ。何ノ謂ゾヤ也。子曰。同聲相應シ。同氣相求ム。水ハ流ニレ濕ウルホヘルニ。火ハ就ツクレ燥カハケルニ。雲ハ從ヒレ龍ニ。風ハ從フレ虎ニ。聖人作タツテ而萬物覩ミル。本ヅクニ乎天一者親レ上。本ヅクニ乎地一者親ムレ下ヲ。則各從フニ其類一ニ也

聖人上に作て大君の位を得給時は、必下に賢者出て、相應じ相助て、ともに天位を共にし、共に天祿を共にして、天下を利濟する者也。故に譬諭してのたまへり。地下濕なれば水流、乾ける物には火の就安きがごとし。龍は陰物也。出る時は濕氣蒸然として、雲をのづから出る也。虎嘯ときは風生ず、同氣相求る也。鶴鳴て子和す、雄鳴て雌應

ず。一鷄鳴て衆鷄皆鳴、同聲相應ずる也。日は火の精也。故に火を日に取。月は水の精也。故に水を月にとる。磁石は鐵の母なれば、鍼(ハリ)を引。同氣相もとむる也。皆同類相感ずる也。聖人は人と同類也。故に上に作るときは万物咸覩也。物の字人に重して庶物をかぬ。覩は人の万物に靈たる所あらはれて、人道みるべき也。下は上聖主をみて人の人たる人をしる。上は下をみて野に遺賢なく、衆庶といへども禮樂政敎の風化をかうむりて、不知不識善人となれり。故に鳳凰麒麟神龍神龜の四靈いたり、靈草名木生じて諸物其所を得、其代の人は、をとにのみきゝたる靈物をみる也。本ニ乎天ニ者親レ上は、頭上にむかふ者は上を親む、人倫是也。人は五行の秀氣を受て、氣すめるが故に、天に本づくと云、上を親む也。本ニ乎地ニ者親レ下ヲ。植物は本下に向ひ、下を親む。草木是也。其外飛走の物は、頭横に生ず。故に無知也。麒麟の走獸における、鳳凰の飛鳥における、泰山の丘垤における、河海の行潦における類也。各其類に從也。聖人の人におけるも類也。其類を出て其粹を拔たり。九五の位を得て首として庶物に出る時は、人類是に從て明德天下に明か也。是を聖人作て万物覩と云也。故に古今臣なき事を憂ずして、君なき事を憂る也

上九ニ曰。亢龍有リトハレ悔。何ノ謂ゾヤ也。子曰。貴ノ而無レ位。高ノ而無レ民。賢人在リテ下位ニ而無レ輔(タスケ)。是ヲ以動テ而有レ悔

位過れば位を失ふ。威過れば威を失ふ。九三の賢人自反愼獨、よく身を脩といへども、過高志滿の人をば助る事あたはず。故に行事中を失て悔あり

或問、何を以か過て位威を失ふと云や。云、位を持過れば、上下の間遠し。威を持過れば人心はなる。上下の間遠

して人情時變にうとき時は、大君の知べき處を不知、後には床道具のごとく、かしづきすへられて、下に知る者出來る故に、位は虛にして實位にあらず、貴して位なき也。威を持過て下の心服せざる時は、高して民なき也。人君のへりくだり、士庶までを愛するを、俗に下すぢかきとてほむる也。威を持過て下すとをく成は、愛うすきゆへ也。愛を失ふは父母の道にあらず、天職にかなはず。故に人心はなれ、下に遠く成て、諫言の路閉る時は、なす事人情時變にもとれども不知、悔さきだゝずして後悔益なし、故に凶也。唯君位のみならず。志高滿にて、人の助なきものは、匹夫といへども行事可にあたらずして悔あり

問、上九は人君の上に居て、人君にあらず。故に貴して位なく、高して民なし。太上天皇の象にあらずや。又位なく民なくして大君の上に居者は師保にもあらずや。云、太上皇は隱居の位にて、天下の行事なし。師保は大君の備たる位也。されば動て悔あるべき位にあらず、動て悔ある者は大君の過高志滿にて、亢龍の悔ある事を戒たり

潛龍勿レトハ用ルコト。下シモナレバナリ也　其德ありといへども、その位なければ、禮樂を不作、かねて天下をよくすることあたはず。獨其身をよくするのみ

見龍在リトハ田ニ。時ニ舍トマルナリ也　潛をはなれ、隱を出といへども、九五の大人を見ず、孔子を始め、子思孟子程子などの諸賢のごとし。時に行べき所に止る也。時を得ざれば大に行事あたはず

終日乾々ストハ。行フレ事ヲ也　行べき事を勤てやまざる也。必事とする事あり、わするゝ事なきは心法也。心

法間斷なければ、當然の事を行ておこたらざる事其中にあり

或躍ルレ在リトハ淵ニ。自試ミコヽロムル也也　或は進み或は退き、その身を正敷し、其家を齊て自こゝろむる也。己が才德及まじければ、賢者をすゝめあげて政をとらしむ。たとひ己が才德及べくとも、賢を用て已後見するは大臣の大忠也。業を始め統をたるゝ大道也。賢をすゝめ、能を達するを卿大夫と云といへり

飛龍在リトハレ天ニ。上治ナリ也　德あり位あり、至治の時の象也

亢龍有リトハレ悔。窮マルノ之災也　天地の道は乘除也。乘するは窮る也。必のそく時あり。前に知て變通せざれば、災いたりて悔あり

乾元用九ハ。天下治ル也也　天の元德と大君の用九と相應じて天下治る。乾元は生物の本、天の仁德也。造化の根基也。大君天に繼て天下を利濟するの道、人才を用るを第一とす。九は陽明の才也。九を用るは賢者をあげ用る也。堯舜の知も物にあまねからず、先務に急也。先務の急は、賢才をあげて事を任する也。是知仁あまねく天下に及の道也。賢才も一人して万事を兼べからず。九又數多の義也。野に遺賢なきやうに、あげ用る也。造化を助しめむために、天より賢才を生ず。天の生ずる賢才をのこさず用るは用九の義也。道なき世には賢才すくなきがごとし。明君上におこる時は、世に賢才おほし。堯舜文武の時、名をのこせる賢人はすぐれたる也。其下に付て事を任ずる賢才多し。諸國にも又多し。是九を用て天下治る也

潛龍勿レ用ルコトハ。陽氣潛藏（ヒソマリカクル）也　仲冬十一月、陽下に生ずといへども、陰寒上に甚し。故に陽氣ひそまりかくるゝ也。道なき世には小人位祿を得て上にありて賢者をいみにくめり。賢者下に居て才徳を不用、ひそまりかくるゝ也。陰長ずれば陽消し、小人の道長ずる時は、君子の道消す。氣と人と共に否塞の運也

見龍在レ田ニトハ。天下文明也　上に明王なく不被用といへども、君子の徳世にあらはれて、人の惑を解事多し。是下に居る君子の徳の及處也。故に天下文明也。否塞の時、邪正不分明して異學發る。否塞漸々消して有道ならんとす。故に夜のあけて黑白みゆるごとく、邪正爭をへて分ツ也。中夏は周の末より凡二千余年否塞の運也。其中宋の代の比より文明の運開けて、周元公、程子兄弟出生ありて、聖學初て明か也。それより打つゞきて諸賢出生あり。日本は百年此かた文明の風氣すこしひらけたり

終日乾々ストハ。與レ時偕（トモニ）行フ也　九三は下の上にて諸侯の位なれば、天下道あるにも道なきにも、國をすて去べき義なし。故に時と共に行て、內自反愼獨の受用はやまず。天下道なき時は、大によき事はならざる者也。人民の父母たる愛敬を不失して、事は目に不立やうに進退損益すべし。道ある時は大君を助て、ともに仁政を行ひ、大君の干城と成べし。伯夷叔齊無道の紂に仕べき人にあらず。しかれども諸侯也。父母在す時は去ことあたはず、兄弟國をゆづるに事よせて、中子を立て去たり。父も紂に仕べき者にあらざる事を知て、事を左右によせて去しめむために、叔齊に國を傳へんといへる事も有べし

或躍ル在トレハ淵ニ。乾道乃ス革アラタマル　内卦のはじめと、外卦の四と處同して位異也。時同して行別也。內卦終て外卦始る。運氣あらたまらむとす。故に躍て進まむとす、時いまだ至らず。故に安所をはなれず。或問、何をか初と四と所同して位異なりと云や。云、初は陽位なれども、下卦の下に居て微也。四は陰位なれども、上卦の下に居て尊し。內(外(イ))卦下なる事は一也。乾元用九の時同じけれども、位によりて行別也。或問、何をか運氣あらたまらむとして、時いまだ至ずと云や。云、運氣あらたまらむとして、賢者生れて世中文明也。しかれども九五の位に在す人、賢君ならざれば大に行事あたはず。時未至也

飛龍在トレハ天ニ。乃ス位スルナリニ乎天德ニ　乾の六爻皆天德也。九五は天位也。天德ありて天位に上るは、飛龍の象也。君子皆天德あれども、天位を不得して下に在ときは、寒氣の時の龍のごとし。水中に潜伏するのみ。時を得て天位に上るは、盛夏の龍のごとし。雲をしたがへて飛升し、炎旱に雨をくだして田畠草木を養ふは、君子の九五に位して、恩澤天下に及ぶがごとし

亢龍有リトレハ悔。與レ時偕ニ極マルナリ　小人の道に乘じていつまでも如此さかへんと思ひ、天命つきて除く時いたれる事を不知。これ亢龍の象也。極て後悔すれども、かへらず。大君なれば德を行て變運を改め、命を新にする道あり。匹夫といへども隱德ある者は陽報あり。命を變ずる道あり。變を不知して死亡を天に歸するはあやまりな

乾元用九ハ。乃見ニル天ノ則一ヲ　天則は天道也。用九は乾の六爻也。六爻皆實也。乾元の德不至處なきの象也。天理至實にして無妄也。故に至誠にしてやむ事なし。誠は天の道也。是天則也。誠を思は人の道也。是天則を見也

乾元ハ者。始マリテ而亨ル者也。利貞ハ者。性情ナリ也

元亨は誠の道也。利貞は誠の復也。元は春時發生の德也。亨は夏時長茂條達の德也。利は秋時收斂して實を結德也。しかれども氣を受る事いまだ不足、種不生、冬に至て堅實す、種子また生ずべし。貞の德也。明道云、不レ有ニ其功一。常久而不レ已者ハ貞也。その功を有せざるは化育の跡なき也。故に云、日月は貞明なるもの也。乾は一元の氣を以て六虚の間に運轉す。始りて終り、終りて始る。其生出する者は元也。歸宿する者は貞也。亨利は其間の功用也。折ワカチて四にして四時となり、合して兩にして陰陽となり、貫して一にする時は、渾然たる一元の氣也といへり。造化の理、秋冬の利貞に至て各性命を正しくする處みゆ。故に利貞は性情也とのたまへり。人性に在ても仁禮は發散して施し用ることをつかさどれり。義知は復して實を積、德を成處也。然ども人生にありては、仁義禮智の四德を性と云、喜怒哀懼愛惡欲を情と云也。天は理氣合一なるがゆへに、四德皆性情なれども、成就して物理のみるべき所を性情とのたまへり。元亨は氣のみにて質をなさず、利貞は氣凝てすでに質をなす所あり。故に性情みるべき故也

乾始ハ能ク以ニテ美利一ヲ利ニス天下一ヲ。不レ言ハ所レ利スル。大ナル矣哉カナ

美は人物の用て生を養ふ處也。飲食衣服を始め、口躰に便りする物也。乾始生成して天下を利濟する物は皆美利也。天下貴賤ともに、天恩の利をかうぶる事あげてかぞへがたし。しかれども天神は其能にほこらず、其功を有せず、功成て不居、其仁の廣大也。聖人又如此

大ナル哉カナ乾乎。剛健中正。純粹精ナリ也　剛健中正純粹精の七字を以て、乾の德を形容し給、乾道の大たる所也。剛は其躰强堅也。健は其行すくやかにして、一息の間斷なし。中は無欲にしてよる所なし。其跡過不及の偏なし。正は至公にして私親なく、至明にして私照なし。邪惡なき事は云に及ばず。純は至實にして無妄也。天理に純也。天道の誠也。粹はまじはりなき也。精は淸淨也。此七字をすべて云時は至善也。或問、乾德如此いさぎよき事を極といへども、天地の中陰柔あり、重濁あり、塵埃あるは何ぞや。云、陰柔は陽剛の對也。重濁塵埃万物を許容してゑらばず。是乾道の廣大也。けがれをいとふはせばきなり、仁の不足也。生氣盛なればけがれなし。・米麥野菜にもろ〳〵の不淨をあつめてやしなひとすれども、生氣長出すれば、〔○(イ)けがれアリ〕その不淨にそまらず。水鳥の水に入てぬれず、海魚に塩のしまざるは皆生氣のしからしむる也。乾道は生々の本也。故に淸淨也

米麥ノ上ニ(イ)白芙蓉の高原淸流に不生して泥土の中より出ていさぎよきがごとしアリ

六爻發揮ス。旁ネク通ズレ情ニ也。時ニ乘ジ二六龍ニ一。以御スレ天ニ也。雲行キ雨施ス。天下平カ也也　六爻の動は三極の道也。發は發越也。揮は揮散也。六爻發越揮散して、あまねく方物の情に通じ、人情事變に達する也。乘二六龍一は、六爻の時を用る也。御レ天は天運に當て、天道を行ふ也。雲行雨施は、聖主の德澤下に及て天下平也。神氣龍に乘て天を行き、雷雨のみちみてる象を取て、聖王の天に繼て極を立、造化を助て敎化のあまねき事

をのたまふなり

君子ハ以テ成スヲレ德ヲ爲レ行フ一。日ニ可シレ見ル二之ヲ行一ニ也。潜ノ之爲タルレ言コト也。隱レテ而未ダレ見ス。行テ而未ズレ成ナラ。是ヲ以テ君子ハ弗ズレ用ヒ也

君子の日用常行徳を成を主意とする也。故に日々にみづからかへりみて、我行をみる也。行は善行也。君子は日々に善を行て徳をなせり。心内に向て善を積て徳をなし、人にしられん事を不求、獨善を行事を樂めり。人も又その善行をみて學ぶ者あり、不知して化する者あり。善行は五倫の交りに、五典十義を第一として、吉凶賓嘉軍の五禮、及び日用常行起居動靜、禮あらずと云事なし。禮を行ふは善を行ことの多也。内に向て禮善を行ことを樂時は、皆成德の行となる也、潜之爲言、初九の潜龍たる事は、庶人の中に隱れて、士君子の事業を不見、日用常行、德を行といへども、君子の德業未アラハレズレ著、大舜といへ共耕稼陶漁の時は、深山の野人に異なる事なし。伊尹有莘の野に耕せる時は、農夫のことをつとむるのみ。故に盛德の人といへども、位潜隱微賤なる時は自不用、かくれて獨道を樂のみ。又一の義あり、長沮桀溺、荷フレ蓧ヲ杖〔〇丈カ〕人など、凡人にはあらずといへども、潜を不出、隱をはなれず、[illegible]て人道をなさず。故に君子は不用

君子ハ學以テ聚メレ之ヲ。問以テ辨ヘレ之ヲ。寛以テ居リレ之ヲ。仁以テ行フレ之ヲ。易ニ曰。見龍在レ田。利レ見ニ二大人一ヲ。君ノ德也

學で善をあつめ、義をあつめ、衆理をあつめて、日々に德を養也。理義の心を悅ばしむる事、調味の口を悅ばしむるがごとし。日々に口躰を養て形の生長するごとく、日々に心を養て德を成者也。初學は學で不敎、聞て不說、發散して德を損ぜむことを恐て、精神を収斂する也。君子は學は己が爲にし、利は物を利して人の爲にす。小人は利は己を利し、學は人の爲にす。君子は物を利するの余り、自然に己を利す。己が爲に學ぶの余り、自然に人を敎育する者也。幼にして學び、壯にして行ひ、老て學行の實を積て敎るは人道の常也。問以辨之は、先學に問學するのみならず、同學後學にも問ことを好也。無學の凡人といへども、人情時變の才は學者にまさる者あり。いはむや己より前に學びたる者は、數年數人の發明美言を段々に聞傳て至理寓す。このゆへに書をみたる事は己よりすくなくても、學には廣處あり。不問して獨學する者は、書を廣く見ても、學にせばき所あり。故に君子はひろく學て、數千年數百人の敎を受る也。德を不知者も、人心の靈にて、ひとつ〳〵も至理をいひ傳る者也。故に人を以て言をすてずといへり

問、しからば博識の者、德にたよりせむか。云、しからず、おぼえのよきも可也。わするゝも可也。たゞ善言を聞て德を養ふ也。人飮食するがごとし。飮食して元氣を養ひ、食消して脾胃を養へり。食せざれば躰氣やしなはれずといへども、其食消せざれば病を生ず。日々に食し、日々に消して、躰氣を養べし。問學も又如ㇾ此。日々に學び問て惑をわきまへ、德を養べし。おぼへよきは事の助となり、おぼへざるも惑を辨へて後は、覺と不覺とには心なかるべし。識は學を助くれども、自滿する者は食滯の病のごとし。日々に問學し、日々に明なれば、其學問去て理己

より生ず。寛以テ居レ之ニ。仁以テ行レ之ヲ。張子曰、心大なる時は、百物皆通ず。心小なる時は百物皆病り。寛以居之ときは、吾學聚問辨する所、常にその心と一つ也。仁は心の全德也。生々して不窮、德仁に至て天と運を同して、一息の間斷なし。學問の極功にして、君子の盛德也といへり

易曰、見龍在レ田。利レ見ニ大人ニ。君德也。右のごとき賢者あれども、九五の大人の代にあはざる時は、天下を利濟する事あたはず。しかれば九二の賢者の世をすくふ事は、九五の大君の德也

九三ハ重剛ニシテ而不レ中ナラ。上ミ不レ在レ天ニ。下モ不レ在レ田ニ。故ニ乾々ス。因ニテ其ノ時ニ而惕スハ。雖レ危シト無シレ咎矣

九を以て三に居ば陽を以て陽位に居、剛に過たり。故に重剛也。上九五も重剛なれども、上卦の中を得て、德と位と相叶へり。九三は下卦の上にて中にあらず。故に上九五の理にもあらず。九二は陽を以陰位に居、又下卦の中を得たり。下九二の理にもあらざる也。危地なるが故に、乾々と愼み强て惕る。天は德に不レ勝カタ、危は愼みに不レ勝。愼みは事の前にあり、未病を治し未乱を治る義也。自危地を知て、其位職を愼み、其時によりて恐惕する者は、又危地の中也

九四ハ重剛而不レ中。上不レ在レ天ニ。下モ不レ在レ田ニ。中ナカ不レ在レ人ニ。故或之。或之ハ者。疑レ之也。故無レ咎

九四は重剛にあらず、重の字衍文也。九四は剛を以陰位に居、剛柔相兼たれども中を得ず。上卦の下なれば、天にあらず。人位の陰爻なれば、地に遠して田にあらず。地に遠きは人の居べき所にあらず。故

に中人にあらず。或は進み或は退きて定位なし。故に或之す。或之は、あやぶみて決せざる也。疑て中に不及ことを憂る也。憂るべき事を憂る者は、憂なきに卒る。疑べき事を疑者は疑なきに卒るといへり。故に無咎。君子は一朝の疑ありて終身の疑なし。我身の終身を憂疑にあらず。義の爲べき事にをゐて其可否を疑ことあり。是卜筮を用る所也。九四の或之疑之は、卜筮を用る義にもあらず、時に隨の中をはかる也。其憂は忠孝の憂也

夫レ大人ハ者。與(ト)二天地一合二セ其ノ德一ヲ。與二日月一合二セ其ノ明一ヲ。與二四時一合二其ノ序(ツイテ)一ヲ。與二鬼神一合二其吉凶一ヲ。先(サキダチテ)レ天ニ而天弗レ違ハ。後(ヲクレテ)レ天而奉(ウク)二天時一ニ。天且ツ弗レ違。而ヲ況ヤ於テヲヤ人ニ乎。況ヤ於二鬼神一ニ乎

大人は九五九二の見に利ある大人也。天は理の原也。大人又一團の理也。形をふむ者也。天地は大躰の聖人也。聖人は小躰の天也。天と德を合する也。日月は明の至也。大人は知の至れる也。日月と明を合する也。四時は五行相生じて、氣節の序万古たがはず、聖人五倫の五典を序て、其道其禮万古の法則也。是天に繼て極を立、四時の造化を助る所也。四時と序を合する也。鬼神は福善禍淫也。吉凶未前にきざす、聖人至誠にして先知す。善大なれば鬼神もたがふ事あたはず。吉を以てしたがへり。鬼神凶を告るといへども、義あればさけず。鬼神も義にたがふ事あたはず。凶を轉じて吉となす事あり。又鬼神にうかゞひて吉凶にしたがふ事あり。卜筮是也。或は鬼神に先だち、或は鬼神に後れて吉凶を合する也。先レ天ニ而天不レ違。時いまだ至らざれ共、聖人理ありて爲ことあるときは天違

はず。後レ天ニ而奉ニ天時一。時すでに至りて、聖人天の時にうけしたがふ也。天だにも聖人にたがはず。況や人として聖人にたがふべきや。鬼神も聖人の道に違ことなし。鬼神は造化を以て云、故に造物者ともいへり

亢ノ之爲レ言〔○也疑カ〕知レ進ヲ而不レ知レ退ヲ。知レ存スルコトヲ而不レ知レ亡スルコトヲ。知レ得而不レ知レ喪コトヲ

進退する者は身也。存亡する者は位也。得失は物にあり。貴賤ともにその程〳〵の盛衰あり。凡人は欲に限なくして、其身の盛を不知、いよ〳〵よくならんと思ひて進む心ばかり也。身退き分に止る事を不知。いつまでも位祿を存ぜんと思ひて、亡ぶべき天命の至る事を不知。財寶は天下の通用にて、一人有つものにあらず。富有の命衰ては必喪べき事を不知、其命分を不知して、富貴をまさむ事を欲する者は、皆亢する者也。しかのみならず、天理にたがひて冥加の盡る事を不知。貴賤ともに凡心は冥加の滅する事をなして、身の用心と思ふ者多し、愚の至也。天質は其程の愚に至べき者ならねども、大道を不聞故也。道を不知者は種々の心得そこなひあり。不思不知惡事をもする者也

其レ唯聖人カ乎。知ニ進退存亡ヲ一。而不レ失ニ其正ヲ一者ハ。其レ唯聖人カ乎

聖人は時に中し、義共にしたがひ、正に心ありて進退存亡に心なし。況や得失をや。孔子魯國におゐて相の事を行ひ給は進也、存也。魯國の君臣女樂におこたるをみて、去給ふは退也。亡也。進事を必とせず、退事を必とせず。存亡ともに必とせず。義のまゝにして正を不失者は聖人也。正は貞の躰也。進退存亡を知は、貞の明にして用也。貞は人性にありて知也。知神明なるを聖人と云。文言元に始りて貞に終る。元は乾の四德の始也。貞は本也

易經小解　卷第二

坤下坤上　六爻皆偶ナリ也。陰ノ之數也。純陰ガ故ニ坤也

坤ハ元ム亨ル。利ス牝ニ馬トス之ヲ貞ナリ　坤は四德乾に同して貞德すこし及ばず。貞は乾坤の知也。乾は陽剛にして知神明也。坤は陰柔にして知正固也。乾元は氣の始也。坤元は生の始也。乾の亨は氣の亨也。坤の亨は生の亨也。乾の利は氣の利也。坤の利は生の利也。乾の貞は氣の貞也。坤の貞は生の貞也。合ていへば乾坤一德にして生氣一致也。分ていへば施と承と也。牝馬を以て坤の象とす。造化のやまざることは乾坤同じけれども、乾は剛强にして健行し、坤は柔順にして健行す。地を行ことの達者は、牡馬にをとらざれども、牝馬は柔順無爲也。故に象をとれり。坤は大躰の聖女也。故は婦人是を師とし則とる也。女子は柔順なれどもあざむくべからず、犯べからざる心みゆるを貞とす。貞は正固也。正して守り固きは知明かなれば也

或問、何をか貞すこし乾に及ばざると云や。云、陽と陰との別也。日は陽神、月は陰神也。月の光は日の光に及ばず。日出るを晝とし、日入を夜とす。月は夜をてらす、月明かなりといへども、晝物をみる如くには見えず、くま

〱はかくれもあり。其上三十日の夜、半は照して半は闇也。月は其躰光なしといへども、純粋清浄なるが故に、日光を受て光とす。是を以て貞德の九分六分を知べし。乾道は男を生じ、坤は女を生ず。女の知は男にしかず。しかれども収斂は陰にある故に、女もしまりたる者は知浅からざる者あり。幼少の子どもをみるに、量は男子にあり、發才は女にあり。さる程に、女に一向の勢虚(ウツケ)はまれ也。男には一向の不才あり、勢虚あり。陽はみちたればかくれば大にかくるとみゆ。陰は躰にかけあれば、かけすくなきなるべし。男も男により、女も女による事なれども、大凡如レ此女の知におとりたる男もあり。女は內に居て男の行跡をわきよりみるゆへに、男の是非善惡をよくみるもの也。外目八目といへるがごとし。故に婦の夫をたすくる道有。陰內に在ルハ陽之守也といへり。發散収斂ともに大なるところにいたりては男におよばず

問、しからば元亨利の三德も、坤は乾にしかざらんか。云、しからず。日光存神遇化の妙にあらざれば、物生長せずといへども、夜氣にあらざれば養育の功なし。天始といへども、物の生成収藏は地の功也。君命ずといへども、事に勞するは臣也。造化の四德、天地德を合す、其中貞すこし陰陽の分ありといふのみ。士庶人は財穀は男生ずといへども、是を納て出入したすくるは婦人也。故に妻の所帯のしまりあしく、女事につたなきは、夫の家立がたき者也

君子在リレ攸レ往。先(サキダツ)トキハ迷(マドヒ)後(ヲクルヽ)トキハ得(ウ)レ主(トス)レ利(ヲ) 陽唱(イザナヒ)陰和す、陽は陰に先だつ者也。陰のさきだつを迷とす。神代に陽神(ヲカミノカミ)陰神(メカミ)めぐりあひ給ひ、陰神(メカミ)先言(モノイヒタマヒ)たれば不祥也、めぐりなをさむとて、かさねてめぐりあひ給たると

き、陽神先言たまひ、陰神答給と記せり。後ときは得理也。雲は陰類也。東南にゆくときは密雲なれ共雨ふらず、陰より陽に進めば也。西北に入ときは雨ふれり、陽より陰をいざなへば也。陰は陽にしたがひ、女は男にしたがふ理の常也。故に婚禮に男親迎するは、女に先だつ也。地は天の施をうけて生成す。万物氣を天にうけて質を地に生ず。養育収藏を以て五穀草木堅實して、衆を養ふは地の利也。故に利を主とす、とのたまへり。君子在リ攸レ往。先タツすハ迷ヒ後ルヽすハ得の二句に一の義あり。行となくして往とのたまふ。下の句に連て、喩の辭也。君子は在位有德かねたり。在位の君子道路遠くゆくときは、段々に先達者多し、先ほど賤者也。本道徑路田舍の道路のわかれ、賤者程切々往來して知ものなれば、第一に先達てゆく者也。貴者程往來まれなれば不知。まして在位の君子は無案內也。故に君子先だゝば路次にまどふべし。段々に知たる者を先に立て、後往ときは道路を得也。是は喩也。上に在て理を以てをして令することは、下にいたり違事多し。古今時異也。遠近人情事變同じからず。又水土のかはりあれば、理屈にて令しては事の實に不叶、可にあたらず。しゐて守らしむる時は、人民困窮して立がたし。是君子衆に先達て我知ありとする時は、政に迷也。故に有德大知の君子は、問ことを好て、遠近諸人の人情時變を知て令する故に可にあたり、事の實に叶て政令守りやすくしたがひやすし。變に通じて人民うむ事なきといへるこれ也。天下の知を用ひをくれて、其中をとり、政事の善をえて天下を利濟す。坤道の利を主とするに合す

西南ニハ得レ朋。東北ニハ喪ナフレ朋ヲ。安貞ニノ吉ナリ　西南は陰の方にて、朋類を得といへども、いまだ造化の功用をなさず。東北は陽の方にて、朋類をうしなふといへども、陰は陽に從者なれば、化育の功を成也。人倫に

ていへば、西南に朋を得ば、女子父母の家にやしなはれ、母姉妹などゝ居也。東北に朋を喪ふは、父母の家を出、姉妹などゝはなれて夫家に歸する也。是朋をはなるゝといへども、女子の終の住家也。夫をたすけ、一家を和睦し、子孫富有なる事は、女子安貞の德によりて、吉善をいたす也。善と吉とは躰用也。善は躰にして吉は用也。人善なれば必吉あり。吉は善の應也。安貞は則善也。我も安く人も安は、柔順の德よりなす處也。女子柔和遜順にして、よく夫の父母に孝あり。夫の兄弟相よめなどゝ和睦し、夫を大切にし、家人の惡をかくし、善をあげ、一家の貴賤の愛敬を得ときは其身安し。如此柔順なれども、其本心は物にたはまざる處あり。淫夫などのいひより近付ことあたはざる、正固の德ありて、夫の留主に置ても心安きは、婦人第一の德也。安貞の善ありて吉なる所也。これ迄は文王の坤卦に繫給ふ辭也

彖曰。至レル哉坤元。萬物資生。乃順テ承レク天ニ

乾には大哉とのたまふ。大はかねずと云所なし。坤には至哉とのたまふ。至はつくさずと云事なき義也。万物乾に資て始り、坤に資て生ず。万物形は地に生じ氣は天に始る。坤の生ずる物は則乾の始る所の物也。氣至て生ず、則坤元也。始と生と其間寸分を云事あたはずといへり。乾坤の元亨ならび行はる、利貞は乾、これを始て坤順てこれを承る也。春の始生、夏の亨通、乾坤の行わかちがたし。秋天西風を起せば、地順承て五穀草木實をむすび、冬天北風を發すれば、地應じて堅實す。是利貞は乾始め坤承る所みやすし。問、夏の氣より早田稻など實を結ぶ物あり、いかむ。云、五月夏至に一陰下に生ず、はやく陰氣に感ずる者しかり。冬の中より寒梅の咲出るが如し。冬至一陽

の氣にはやく感じてしかり

坤ハ厚ノ載レ物。徳合ニ無疆ニ　坤の徳廣厚也。河海をおさめてもらさず、大山をのせて重しとせず。万物を持載て、乾の覆育不息の徳に合して、ともに疆なし

含弘光大ニシ品物咸ク亨ル　宇宙弘しといへども、坤厚の中にふくまずと云物なし。大にしては河海川澤山林土石、小にしては禽獸魚虫五穀草木、其種を地中にふくみて、時を以て生ず。時は乾元の始、氣の至る所也。天氣至て地氣生ず。是含事の弘き也。故に含弘は地の事也といへり。坤は其靜なる也。翕故に含弘を云、含は容ずと云所なし。弘はあらずと云所なし。其動や闢。故に光大を云。光は著ハレずと云所なし。大は被ハずと云所なし。是徳の無疆也といへり。品物は万物也。乾坤徳を合して咸く亨る。亨は通達して生をとぐる也。獨陽不生、獨陰不成。坤なくては乾元施すべき所なし。乾なくては坤元生ずべき道なし。故に乾坤合て其功あり。男女合て家齊り、君臣合て國治る、自然の理也。光大は乾の事といへども、坤よく承て行。故に則坤の光大也。君命ずといへども、臣よく事を行て、國安きは臣の功也。君問ことを好み、天下の善を取て用る時は天下長久也。長久は君の徳也。戰陣には多[illegible]て敵に勝、死生存亡のかゝる所なれば、勇力の將といへども衆に先達て一人敵にあたる事はせず。何ぞ平生其のあたふる衆の善言を不用。言路を閉て一人知ありとするや。昔夏桀勇力衆にすぐれて鉄を索にす、其力をたのみ特て徳をつとめず。終に成湯の爲に滅されたり。桀人に謂て云、我湯を夏臺に殺さずして、此にいたる事を悔と。其行を非とする事を不知して、湯を不殺事を悔。紂は人にすぐれて聰明也。八人して云ことを一度に聞、

その是非をわかてり。自才知を有して、諫をこばみ、善言を不レ容。武王に宣室に拘れて、自其惡をさとらずして、文王を羑里に誅せざる事を悔たり。自天罰をまねく者は、一人を殺せば必これに繼者ありといへり。天地生成の道、教にあらずと云事なし。天地にそむく者は自亡る事を云也

牝馬ハ地ノ類也。行コト地ヲ无レ彊也。柔順ニノ利貞ナルハ。君子ノ攸ナリレ行コト

牝馬は陰物也。故に坤の象とす。其性柔順なれども地を行こと健强也。昨日も行キ今日も行て疆なし。乾行て坤止る事なし。柔順利貞は君子の行所とは、坤道を師とし則とる也。柔順は愛敬の良也。仁禮の事也。愛の色にあらはるゝ柔和也。敬の父兄長者に事る順從也。柔順にして其本心欲にひかれず、物に屈せず、勇義にして正問なるは利貞也。故に柔順以て五倫に交り、利貞を以て德を立るは君子の行ところ也。利は文にとれば物を利して仁の道となり、武にとれば其躰剛强にして其用堅利也。堅甲利兵、其器也。堅甲は眞よき鎧也。利兵は金のきたひよく、物のきるゝ劔刀也。是非死生の間にをいて、よく截斷して義と共にしたがふ事、利劔の物を斷がごとし

先スレバ迷トハ失ヘバ也レ道ヲ。後ニスルハ順ニノ得ナリレ常ヲ。西南ニ得トハレ朋ヲ。乃與トレ類行ナリ。東北ニ喪トハレ朋。乃終ニ有レ慶ビ

陰は陽に從者也。しかるに陰先するは道を失ふ。故に迷と云。陽唱ひ陰和するは常也。故に陽より後にするは順にして常を得る也。西南は陰の方也。陰の始て生ずる處也。故に坤西南に居は、陰類と陰事を行也。しかれども大に

造化の功を成事あたはず。東北に朋を喪ふは、陽にしたがふ也。乾は南に極て徳盛なり。坤北にいたりて乾に配す。陰類をはなれて、天地位し万物育す、其功用大也。故に終に慶あり。北は陽の生ずる處也。人倫を以ていへば、西南に朋を得は、處女の父母にやしなはれ、其姉妹と女事をつとめ行也。嫁すべき年になりて父母の命、媒介の言に順て、一人夫家に行ば東北に朋を喪ふ也。夫家は陽の方也。類をはなるゝといへども、女子は父母の家に終るべからず。夫の家を我家として子績相續は終慶(ツイニヨロコビ)ある也。臣も又君に對すれば陰也。家に居て父兄に事へ、弟妹を愛するは西南に朋を得て、類親と孝弟を行なり。國に出て君につかへ長者にしたがふは、東北に朋を喪也。才ありて國をおさめ、民を安ずる時は、天祿を得て父母の養をゆたかにし、一類をめぐむはつゐに慶びある也。天地人の道おなじ

安貞ノ之吉ハ。應ズ二地ノ无疆ニ一

地の无疆に應ずる安貞は、大人の徳也。天地と其徳を合する也。地は生を以て万物を育す。大人は政を以て衆民を養ふ。仁政は仁心に生ず、仁は元也。善の長也。元長の徳は、大君の象也。樂める君子は民の父母也。安は道德の樂也。天下の安を以て安きは知の至也。仁にして知あり。其中間禮義にあらずと云事なし。仁義禮知は至善也。至善は善の淵泉也。日々に生じて窮りなし。故に其吉地の無疆に應ず

象曰。地勢ハ坤。君子以(モチヒテ)厚德ニノ載スレ物ヲ

天は氣を以て云、故に天行健との給ふ。地は形を以て云、故に地勢との給ふ也。地の勢廣厚にして、四海をのせて重しとせず。君子是に則とりて、厚德にして衆を載。載(ノス)るは勝る也。此君子は九五九二の大人也。地の勢厚からざ

る時は、山海をのせて其重きに勝る事あたはず。君子の德厚からざるときは、衆民を載てその多に勝る事あたはず。君子の衆を容載て、たゆる厚德は寛仁也。寛仁にして衆を見る事子のごとし。人子ある時は是を養育し、是を教ゆ。父母仁厚の心也。天下の衆を教養は人才を得るにあり。政を以て衆を富足しめ、教を以て善に導くは、人才の賢を用るにしくはなし。賢をあぐる事、類（タグヒ）をならす（み（イ））といひて、仁君は賢者をあぐる事格にかゝはらず。倍臣庶人罪人の子、惡人の子にても、賢なれば速にあげ用る也。格にかゝはり類をさぐるはせばき也。坤道の厚德にあらず、父母の道にあらず、諸侯は一國の父母也。大君は天下の父母也。天命じて衆民の父母たらしむ。坤の厚德を受（ジュ）用して、其天職にかなふ人を、民の父母といへり。仁心厚してよく天職の任にたゆる君は、心廣躰ゆるやかにして道德の樂みあり。万民君子の樂める事を悦て、樂める君子は民の父母也といへり。たとひ心苦み身勞すとも、天職ならば務べし。況や心樂み身福あり、子孫長久にして名を後世にあぐべきをや。しかるに學びず行はざる者は、あたはざるにはあらず、せざる也。坤の德廣厚にしてきはまりなく、山海をのせておもしとせず、泰然として靜なるは坤の樂也。仁者の樂は山也といへり。少も重とし苦勞する處ありては、如此悠久なる事あたはず。地は簡を以て能也とは、そのやすらか成を云也。皆君子の則とる所也

初六ハ。履ム霜ヲ堅キ氷ヒ至ル

六は陰爻の名也。陰は退くが故に、其數八は少にして六は老也。この故に陰爻を六といへり。霜は陰氣の結ぶ處也。漸々盛にして水氷て堅冰に至る也。陰陽を云に二義あり。動靜剛柔を以て云者あり、善惡生殺を以て云者あり。乾元資て始、坤元資て生ずるは獨陽不生、獨陰不成、造化周流並び行はるゝ也。

男女文武も陰陽也。此爻の辭は、善惡を以てのたまへり。善惡を以云時は、陽は君子たり、陰は小人たり。故に霜を履て堅冰至ルの戒あり。初六は陰始て結て霜となるの象あり。漸々嚴寒に至り、水冰り氷厚ク雪積るべき事を知也。是を以て喩とし給。小人其始は微なれ共、勢を得て盛なれば、君子を流言し、終には退ケてをのれのみ時にあひて威をふるふ者也。下に居る賢者はいよ／＼ひそまりかくる。是を君子野にあり、小人位にありといへり。國の亡びざるは幸也。終には滅亡にいたる者也。妻も嫁の初は物はづかしく、うゐ／＼しければ驕ことなけれ共、夫不足して其始に敎制せざれば、後にはほしいまゝに一家の威をとりて、夫をもないがしろにし驕る者あり。夫婦不和の本を微成時に知べし。子も幼少より敎導き制すべき時に制せざれば、氣隨になりて、父母にもしたがはざる者也。驕れる子の用べからざるがごとしといへり。家老の君威をうばふも同じ。時節よければ、主君をたをし國をうばへる者あり。平ノ淸盛も其始五位にて昇殿もだにゆるされざりし時は、奢はなかりしか共、小人なれば才覺を以て、近臣に取入、功臣に越て位祿共に進みしかば、後には權威をとり、　。過分の望をすれば、

、日本國半に過て、己が一門の領とし、　諸國をも心のまゝに進退し、武人大君の勢になりたり。保元に霜ヲ履の凶あらはれしかども、

。古今小人の勢如此なれば、聖人坤の初六にをいて象をとりて、戒を後世に敎給へり。或問、陽は生育長養を以て功をなす。其類は剛たり、明たり、公たり、義たり、凡君子の道也。陰は夷傷慘殺を以て事とす。其類は柔たり、暗たり、私たり、利たり、凡小人の道也といへり。又云、陽は生とし、淑とし、君子とす。陰

は殺とし、悪とし、小人とす。如此なる時は、阳は善にして阴は悪に近し。天地の間に盈て造化をなす者は、阴阳二氣の終始盛衰のみと聞時は、阳善にして阴悪なるべからず、いかむ。云、阳の性は健也。仁禮とす、阴の性は順也。義知とす。對待にして相無ことあたはず。子の半に一阳生じて、午に極るまでの三十二卦、一阳かけても造化をなさず。午の半に一阴生じて、子に極るまでの三十二卦、一阴かけても化育をなさず、阴阳共に自然の理に出て皆善也。悪と云事なし。たゞ阴阳に象を取て人倫の吉凶善悪を教給へる也。天下道ある時は、君子の道長し。小人の道消す。君子は心を勞して小人を安からしめ、小人は力を勞して君子を養ふ者也。如此なる時は、小人ともに善人と成て悪なし。世中道なき時は、小人の道長し、君子の道消す。小人時を得て公卿大夫士となり、君子下賤に居て、小人に役せられ、知は愚につかはれ、徳は力に制せられて、衆人困窮す。小人その始は、微なりしかども、道なき世の習にて如此し。是を履レテ霜ヲ堅キ冰至の象にとりてのたまへる也

問、天地にも蚊蠅の類、人をなやます悪虫生ずるは、悪氣なきにもあらざるか。云、人も無病なる者ほど頭にふけ（くイ）生じ、身に垢生ず。氣血流行し、むして生ずる者也。沐浴してこれを去事也。天地造化の氣むしたてたる勢にて、蚊蠅の類生ずるは、人身の垢のごとし。秋冬の殺伐、嚴寒の風氣にて悪虫死す、人身の垢を去がごとし。故に殺傷の氣といへども、天地の氣は生育の氣也。秋冬の殺伐、嚴寒の風氣なければ、春夏の生育長養の功不成。故に秋冬の氣に収斂して、春夏生長の物も實を結て、衆を養ひ種となる也。冬の寒氣嚴强ならざれば、蚊虫の類、五穀をからす悪虫など不死して種をのこし、冬を過し、六七月炎蒸（エンゼウ）の氣に生ずべき毒虫も、春の中より出るものあり。其上

秋冬冷寒の氣厚からざれば、草木金石糸類姓よはく、人の筋骨身躰かたからず病氣多し。天地の氣收斂かたからざれば、來歳の五穀草木取實すくなし。天地陰陽の氣はたがひに其根をなして、車の兩輪のごとし。相生じて相害する事なし。人は天地の德、陰陽の交、鬼神の會、五行の秀氣なれば、善惡共に人氣の天地に感ずる事大也。君子を陽とし小人を陰とす。本君子小人は善惡に非ず、位を以ていへり。氣清ク質正しき者は君子也。王公侯卿大夫士の位に居べき者也。氣濁質偏なるものは小人也。農工商の庶人と成て力を勞し、君子に從て財用を生ずべき者也。君子はすくなく小人は多し。君子は消しやすく、小人は長じやすし。君子は陽靈にて知あり、小人は陰濁にて愚也。君子は義理にさとく、小人は利害にさとし。小人君子に從フ時は、その樂みを樂み、其利を利として害なし。小人勢を得ときは、其利欲長じて惡と成也。故に聖人常に君子を助て、小人を抑ヘ給。陽は尊く陰は卑し。君子は貴く小人は賤し。尊卑貴賤の位正しきは有道の世也

象曰。履霜堅冰。陰始凝也。馴致其道。至堅冰也

霜は陰氣始て凝結ス也。小人の勢を得むとするきざしみゆるにたとへ給へり。小人の道をなれいたさしむる時は、終に國を乱るに至る也。初霜より漸々陰氣盛に成て、堅き冰に至るがごとし。昔夏の帝太康無道也。遠くかりに出て數日をへて歸らず。民のうとめるにたよりて、有窮の君羿太康をふせぎ、伐て帝となる。羿本より小人なるゆへに、其良臣を不用して、寒浞を信用す。浞小人なれば勢を得て其君羿を殺して帝となる。羿浞二代四十年也。有夏の忠臣、靡と云者義兵を發し、寒浞を滅して夏の孫小康を立、其より數代つゞきたり。國家に長として財用に心ある者

は、多は小人を用る。故に終には國を乱るに及者也。君子は夏五月一陰下に生じ、井水ひやゝか成時にをいて陰の盛になるべき事をしれり。小人は霜を履ても堅氷をさとらず。小人を用て家を失ふ事を戒給へる也

六二ハ。直方大。不レ習ハ无レシ不トレ云コ利セ　坤は純陰の卦なれば、六二阴爻にして阴位に居。内卦の中を得たり。中正にして下に在は地の道也。故に坤の主とす。直方大を以て其徳を形容す。不レ習とはなす事なくして功あり、無事成所を行へば也。天は日月星辰昼夜運行し、動てやまず、爲事あるがごとし。万物を利するの功見易し。地は寂然不動にして無爲也。天に習ことなきがごとくなれども、天に順て万物を利する事は、直方大の徳有によりて也。妻の道也。臣の道也。妻の道臣の道にとりて受用生る事は、直は不レ曲、かくす事なし。俗に律義と云、理直也。方は禮ありて婦人の則あり。臣下の則ある也。地平にして高下則有がごとし。地平なるが故に山川河海を載ス。臣下方義ありて其職事宜し。方は一定不變の意也。婦人は我夫の外に天下に夫なく、臣下は我君の外に天下に君なし。二心なくしてよく貞をつくし、忠を盡す。是を一定不變と云也。大は大海の清濁をえらばず。大地の万物をのするがごとく、寛仁にして人を許容する也。皆地道に學處也。妻の道臣の道ともに專にせずして終あり、妻は家内を利し、臣は士民を利す。これ又不習无不利の義也。ともに直方大の徳に叶へば也。或問、地は不動也。しかるに乾行て坤不止といへるは何ぞや。云、其形躰は不動なれども、其精氣はやむことなし。風雷雨露は地の水火土石の化する處也。五行ともに質は地にありて、氣は天に行。氣あれば質あり、質あれば氣あり。氣質相はなれず

象ニ云。六二ノ之動ハ。直以テ方也。不レ習ハ无レ不レ利セ。地ノ道光テレリ也

動は行也。直以方とは、內直にして外方也。坤道直方の德あるによりて、物を利する事を學習せざれ共利せずと云處なし。是地道の光大也。光は德光也。君子用て敬以て內を直くし、義以て外を方にす。內の直は敬の至也。敬は自反愼獨也。外の方は義則のいたす處也。周道砥のごとし、其直きこと矢のごとし。君子の履ところ小人のよるところといへり。方は平の意也。砥石平にして用をなす。地平にして井地をなせり。君子用て至公にして禮なし。君朝を公といひ、公義と云は、平直にして私なきを云也

六三ハ。含メリレ章ヲ可シレ貞タヽシカル。或ハ從フ二王事ニ一。无シトレ成スヿ有リレ終フルヿ

六三は陰爻にして陽位に居。含レ章は德才ありて、其才德を有せず。己をすてゝ人の善にしたがひ、外愚にして內明也。錦をきて絅を尙たるがごとし。貞は世人の貞心なる者といふがごとし。眞實に正固なる人をいへり。如此人あらば誠に好人也。有道にも無道にも衆の愛敬あり。へつらはずして俗にもかなふ者也。或從王事は、政にあづかる事あり、无成有終は、何事にも予才知ありとして專にせず、人に取て善をなす。故に國の治る事、此人の功とはみえざれども、畢竟諸人の才知をすべて善言をあつめ、時所位にかなふを用て事の成就するは、此人に歸する也。是を有終といへり。大學の平天下に斷々休々をいへるは、如此德有大臣也。又六三は、下の上にて諸侯の位也。古は諸侯を入て、天子の三公とせし時あり。如此德有人なるべし、よき大臣の度量也。國君にしても、大君にしても、いづれにしてもよろしかるべし

象ニ曰。含ムレ章ヲ可トハレ貞カル。以レテ時ヲ發スルナリ也　　含章は道德身にあり、可貞は學て己がためにす。しかれ

ども人と共に善をするは君子の本意也。言べくして不言は人を失ふ也。故に時を以て開發する也。含藏に終るべからず、時なければ獨其身をよくす。云べからずして云は、言を失ふ也

或ハ從フハ二王事ニ一。知光大ナレバナリ也　國を治め天下を利濟するは、天地人一德の理也。しかれども時いまだいたらざれば發せず。或とはいまだ發せず、章を含て貞なる時也。知光大なる故によく含晦して獨り樂む者也。淺知の人は、善あれば人の不知ことをいきどをりて、章を含ことあたはず。伊尹有辛の野に耕して堯舜の道を樂めるは、含レ章て貞なる時也。湯諸侯の富貴を有せず、三たび往て禮を盡してまねき給へば、共に善を爲ナスべき君也。此君を堯舜の君とし、此民を堯舜の民とせんと云て出られしは、從王事時也。共知の光大を知べし

六四ハ。括囊ス。无レシ咎无レシ譽レ　六四は陰爻にして、陰位に居て、中を得ざる者也。四君に近けれ共志不相叶。括囊は袋の口をくゝりたる也。默して專の是非人の善惡をいはざる象とす。善を爲とも目に立やうにはせず、言モノイヘども人の耳にさはるやうにはいはず。故に咎もなく譽もなし。人ほまれあれば必咎あり。故に譽は咎のまねき也と云り。ほまれなくして咎あるは愚不肖也。ほまれありて咎あるは藝能才知ある者也。或は藝能に自慢して、他をそしり、或は才知にほこる者は必過失あり。皆災害をまねきて咎ある也

象ニ曰。括囊スレバ。无シトハレ咎。愼ミテ不ル也レ害アラ也　言を愼は害をさくる道也。言を愼にも品々あり。德ありて愼は上品也。愼に似て非なる者あり。主君の恥に成事を知ながら、身がまへをして不言者あり。不愼にも品々あ

り、道理ながら益なき事をいひて、身の害になる者あり。多言にて人にくまるゝ者あり。才ある者はいきどをりて、愼ことあたはざる者あり。人此德あれば此病あり。才ある者は大方疵あり、あやまちも多者也。國家の用に立べき才あれども、疵をにくみてとりあげざるは、君と大臣と、量せばき也。疵を敎てよき所を用なば、國家の用達すべし。疵すくなく人にほめらるゝ者は、多は不才也。さては實すくなく、間に合する者也。人あいよく、にくまれざる者は、多は愚痴律儀なる者也。事とあれば用に立がたし

六五ハ。黄裳（キナルモセリ）元吉（ヲホイニヨシ）也　六五は君位なれども、坤卦の君位なれば后（キサキ）の位也。后は天下の婦人の君也。故に后の字をきみとよめり。黄は中色也。裳は下の服也。中道を得て下に居る象也。乾坤は氣の男女也。男女は形の陰陽也。坤の乾に配するは、夫婦の理也。后の天子に配するは陰陽の義也。陽は尊く陰は卑し。天に二の日なく國に二人の尊なし。后は形の陰陽にして、天子に配すといへども、下臣の義也。下たる心を不失して中道にかなへり。故に大吉也。大吉は大善の義也。よく坤の六五の大善にかなひ給へるは文王の后妃也。くはしき事は女子訓、詩の周南の解にみえたり

象ニ曰。黄裳元吉。文在ルレ也中ニ〔○也ノ字アルベキカ〕　此時の中は、內の字の意也。文は文明也。心明にして惑なき也。文明の知も內心に含てあらはさず、闇然として日々に顯（アキラカ）也。衣錦尙絅たる象也。其明知言に發せずといへども、行と事とを以て敎となれり。これ則婦德の中道也。且裳は下の飾也。黄中文明の德ありて、下に居は下の飾也。婦道也。臣道也

或問。吾子が說のごときは傳本義並に諸註の旨に異也。云、傳本義各理あり、象あり。予が說もまた理あり、象あり。易の理一定ならず、一定にして變通せざるは易理にあらず

上六。龍戰于野。其血玄黄　上六は龍の雌雄野に戰象あり。神龍は天質勇猛にして、其勇猛を不用、よく物を利して其身全し。戰は神龍にあらず。其勇猛を用て物を損じ、其身を傷る。坤の初と上とにをいて象を取て小人の情狀をのべ給へり。陰は陽に從ひ、婦は夫に從ひ、臣は君に從ふ者也。陰極る時は陽よりも盛也。婦驕る時は夫をあなどり、臣驕る時は君をなみす。陰は內に居者也。野に戰は陽に敵して、陽事をうばふ也。婦も其初は夫をしのぐ心なし、たへざる時は其身を退ばかり也。霜を履堅氷いたるごとく漸々ほしいまゝになりては、夫婦いさかひもする者あり。婦は內に居て、物恥かしく靜なるべき者の、夫といかりあらそひ、外人の聞知は其身外へ出ざれ共、野に戰類也。臣も驕長じ、欲にあくことなければ、君と戰て國をうばふ者有。后羿王莽が類也。夫婦君臣共に傷る、龍野に戰て其血玄黄の象也。天の色は玄也。地の色は黄也。ともに傷るゝは義也

象曰。龍戰于野。其道窮也　小人の道極る時は、亡びざればやまず。小人の不善を爲にも淺深あり。故に亡國にも遲速あり。惡に剛惡あり、柔惡あり。善に似て惡なる者あり。小人は其亡る處の事を樂てする者なり。天下の亡る時は多は戰國となれり。諸侯勇猛を事として相戰者也。是小人の道窮極して、戰國となるなり。清盛太政大臣を極といへども其心小人也。小人の道極り、廿四年にして源平の乱起り、一門皆亡たり。龍野に戰は小人

の道窮の占也。北條九代の末に、高時小人の道を極て、戰國と成、足利家も數代の後又戰國となれり。是は甚しき惡はなかりしかども、小人の道にて驕極りしかば、公方に向て敵する者はなしといへども、戰國と成て令を不用。和漢共に天下を有つ人の、小人の道を極る時は、多は戰國となる事也。龍野に戰の占たがはず。近年諸侯の家の亡たるも、家中の口說より事起れり。兵刄に及ばざれども、言葉戰にて果たる者數家あり。是も戰の類也

用六。利ニ永貞一ニ　坤の六爻皆六也。故に用六也。陰を用る道也。二四は生數也。六八を成數とす。陰は退く故に八を不用して六を用ゆ。八は少く、六は老。故に八は不變して六は變ず。變數を用るは氣質變化の理也。月も一晝夜に、十三度づゝ退て、天と日とにをくる。廿九日半に退き極る故に、三十日を一月とす。半に大小を立る也。是陰數の退く證據也。陰道は柔弱にして常なりがたし。常なければ物を利する事あたはず。故に其德永久正固にして能ク物を利する也

象ニ曰。用六ノ。永貞ハ。以レテ大ヲ終フルナリ也　柔弱の質變化し、正固常ありて永久也。小人の凡心去て、大人の域に入、故に大を以て終也。又終は衆を利濟する道成就する也。小人にして位祿日々に進ときは、其道小きにして事物大也。變化して大人となるときは、其道大にして事物儉す。后夫人大道を知ときは、其化宮中に及び、國中に及ぶ。臣大道を知ときは、君を助く、國治り、天下平也。皆大を以て終る也

文言ニ曰。坤ハ至柔ニシテ而動クコト也剛也。至靜ニシテ而德方也

坤は純陰也。純陰の性は至柔也。動は發用也。發生也。發用して發生する時は剛也。水土は地の体にして至柔也。火石は地の用にして至剛也 風雷は地の動にし剛也。坤体至靜にして大地平々たるは方也。方に義あり。土地各宜き處あり。名物は地氣しからしむといへり。其宜に生ずる物あり。又宜に順て種を施せば百穀美也。皆地の義の世を利する德也。婦人も女しきと云は、至柔の德也。しかれども貞にして不義にさそはれず、死をいたして不變は剛也女子平生は物恐して柔弱なれども、のがれざる所を知ては、死をよくする事、男よりは心定りて剛なる者あり。淵に身をなげて死するも多は女也。柔中自然に剛を有する故也

後ニスルハ得テレ主ヲ而有リレ常　乾坤は氣を以ていへば女婦也。位を以ていへば君臣也。婦は夫を先にして己を後にす。臣は君を先にし己を後にす。共に主ある事を得て常の道也

含ミテ二万物ヲ一而化光チリ　乾造坤化す。地は万物の種を含て、風雷雨露を以て生育の功を成者也。万物の終も又地に歸して化す。地の化にもるゝ物なし。和光廣大也

坤道ハ其レ順ナル乎。承ケテレ天ニ而時ニ行フ　坤道至柔にして乾道の至剛に配す。乾元春をなせば坤共に春を行て物生じ花咲。乾亨夏をなせば坤共に夏を行て木草森然たり。乾利秋をなせば坤共に秋を行て百穀實る。乾貞冬をなせば坤共に冬を行て霜雪堅氷して万物収斂す。是坤道順にして天に承て時に行處也。臣は君の命を受て、其職をつとめ、婦は夫に從て内を齊る皆順道也

積善ノ之家ニハ。必有ニ餘ノ慶一。積不善ノ之家ニハ。必有ニ餘ノ殃一。臣弑ニ其君一。子殺スルハ二其父一ヲ。非ニ一朝一夕ノ之故一ニ。其所ニ由來一ルル者漸矣。由ルレ辯ルコトノ之ヲ不ニ早辯一セ也。易曰。履レテ霜ヲ堅氷至ルト云リ。蓋言ナリレ順ヲ也

善の大成者は、仁君、忠臣、慈父、孝子、義和の夫、貞順の婦、友愛の兄弟、信の朋友也。是五典十義の德行也。德行は善の淵源也。貴賤上下にわたりて廣く善を爲者は禮也。義也。慈惠也。已を成物を成の道也。天地の大德は生也。生は生理生氣を合て云也。人道の天地の大德を助る者は仁也。大君に在ては仁政也。匹夫といへども一日もはなるべからざる者はこの道也。禮義知信其中にあり。故に仁行を積の家には、餘の福慶至る。不仁の事を積家には、餘の災害來る也。善も人の耳目にふれて、名を成ほどの大善はすくなし。日々に爲べき善多し。此小善を積時は、善人の德を成、名をあらはして大に至る者也。惡も大惡は身を亡し、家をやぶる者なれば恐れてせず。刑罰に及ほどにはなき小惡多し。此小惡を積ときは、惡人の凶德を成、惡人の名を取て大惡に至る者也。臣として君を弑し、子として父を弑するごときの大逆無道は一旦の禍にあらず。人の爲べき事にはあらざれ共、其身素より積たる惡の致す所、或は親先祖よりなしたる積惡の致す所也。漸は久敷もよほしたるを云也。其身も初心より如此惡をせんとは思はざれ共、其きざしの時にわきまへずして、勢にのりかゝりて、心よからずながら爲者也。易に履霜堅氷至るとのたまふは、如此きざしを戒給へる也。君父を弑する大惡をあげて、其外の凶逆をふくみ給へり。順は世間

にいへる次第の意也。善悪共に初は少しきなれども、次第につもりては大に成者也。初霜の時分は、いまだうす氷もなけれども、順漸を以て堅氷に至る也

直ハ其ノ正也。方ハ其ノ義也。君子敬以テ直シレ内ヲ。義以テ方ニスレ外ヲ。敬義立而徳不レ孤ナラ。直方大。不レ習ハ无レ不レ利。則不レ疑ハ其ノ所ヲレ行フ也

人の生は直也。坤道の正也。天理自然の本躰也。日本の神道にも、神は正直を以て体とし、慈仁を以て心とし、無事を以て奇特とすといへり。方は坤道の義也。君子敬を用て内を直くす。内は心也。心の正直は天理の自然也。是をなみして生るは幸にして免たり。君子義を用て外を方にす。適もなく莫もなし。義と共に従これ也。敬義は心の徳也。心に敬義立時は徳大也。又必隣ありて英才を教育す。人極を立て天地の化育を助くる道也。故に直方大の徳あれば、世を利済する事を講習せざれ共利をさる所なし。或は其時に行はれ、或は後世に及て其徳孤ならず。唯坤道を師とし順て其行所をうたがはざる也

或問、敬義は心の徳といへるは何ぞや。云、目を閉れば敬、目を開けば義といはんがごとし。心の虚霊知覚は一也。自反慎獨の心法に付ては、敬と云ふ。応事接物の法則に付ては義と云也。獨知を慎ときは、心常に正直也。義に順ときは人事常に方正也。思無レ邪。事無ニ不善ニは敬義立也。是を天下に及す時は大道也。時雨の化するがごとく、雷雨のみちみてるがごとし。君子の徳は風也。小人の徳は草也。草に風をくはふればのへふす。其行所をうたがはず。故に不習とも、利せずと云処なし

陰雖有美含之。以從王事。弗敢成也。地道也。妻道也。臣道也。地道无成而代有終也

地妻臣をかねて陰とのたまふ也。美は善也。道徳才能人道の天地の造化を助べき者也。見て稱美すべき才徳也。故に美と云。此善美の才徳ありといへども、含てあらはさず。從王事は、君の事をつとめ行也。此才徳ある故に、君命を受て、其職を任じ其事を成就すといへども、其徳を君にゆづりて、其功に不居、自なせりとせざる也。是則地の道にして臣道也。妻道也。地に則とりて行者也。地道は先だちて成ことなし。天に代りて終あり。終あるは造化の功用成就する也。天地の間万物粲然として陳者は、皆陰阳に麗て其美外に見るといへり。臣の君に代て國政を取行ひ、妻の夫に代て內を治る皆同じ。昔堯舜臣の功によりて、世の治ることをのたまへば、臣は帝德の化人心にあまねく及て、有司ををかさずといひて、其功に不居是也

天地變化。草木蕃。天地閉。賢人隱。易曰。括囊。无咎无譽。蓋言謹也

天運の泰否、人道の盛衰、時を同じくす。泰運の通達する事、天地交感して万物を變化し、草木蕃く盛なるがごとし。君臣同心同德にして、三極の道行れ、衆みな春風和氣の中に樂めり。民間の婦女も天遊する時也。否運の閉塞する事、天地の氣交感せずして、万物遂ざるがごとし。君臣道絕、賢者隱遯す。小人時を得て造化を害し、風雨時ならず。或は過不及ありて五穀草木蕃盛せず。或は惡虫生じて五穀をからし、惡疾發して衆民なやめり。君子の道

消し、小人の道長してしからしむる者也。括嚢は、言路の閉たる象也。有道無道は言路の開ると閉るとにあり。六四は大臣の位也。大臣だに諫言昌言を述る事あたはず。況其外をや。これを君臣の道絶、賢者隱遯すと云。必しも山林水邊にのがれざれ共、括嚢するはのがれたるに同じ。才徳をかくして愚に同じきは、市隱朝隱也。天道才徳を生じて、造化を助しめむとす。しかるを不用のみならず、却て咎あるべき時代なれば、言を愼み行をかくして、譽をさくる者也

君子黄中通レ理ニ。正位居レ體ニ。美在二其ノ中一ニ。而暢二於四支一ニ。發二於事業一ニ。美ノ之至リ也

黄中は文明內にありて、天下の理通せずと云事なき也。正位は六五后位を正して、坤体陰位に居、陽にうたがひなし。美は善也。善美中に積て身体動靜に暢通し、事業にあらはる。身体不害してさとるは善美の徳の至也。黄中よりの二十五字、詩の周南にかよひて、一人の后妃聖女を畫き出せるがごとし。男女ともに父母に似者也。乾坤は大父母なれば、男女ともに乾にも似、坤にも似也。勇健に雄々しきは乾に似、黄中通理は坤に似たる人を君子と云也。專ら坤に似て、內文明にして惑なく、外柔順にして女しく、貞節に至て其志を奪べからざるは、乾にも似て正しく、勇健なるを賢女と云也。賢男には嘉言善行共にあり。賢女には善行多して嘉言まれ也。不知にはあらず。知所の善を行に發して、言に發せざるを女道の常とする也

或問、賢女の善行は何ぞや。云、家に居ときは父母に孝ありて女事をよくす。夫家に行ては夫の父母に孝あり、時に先だちて女工のつとめおこたらず。夫は夫たらずとも、婦は婦たるべし。在原業平、夫夫たらざれ共、有常が女

は婦たり。夫の一門和睦し、家內の男女其家に居ことをいとはざるは婦人の德也。善行は心の慈愛を本とす。事にふれて善行かぎり有べからず、いとまあらば琴書を學ぶべし。婦人善行の至極は、文王の后妃大姒の行也

陰疑二於陽一必戰。爲三其嫌二於无一レ陽也。故稱レ龍焉。猶未レ離二其類一也。故稱レ血焉。夫玄黃者。天地之雜也。天玄而地黃也

陽は大、陰は小也。阴は阳に從者なれ共、阴盛に極るときは、阳とひとし。是阳に疑ある也。其陽を先するかと嫌也。君は大、臣は小也。臣は君に從者也。臣驕て權威をとる時は君とひとし。其君を先する事を嫌也。初に制せずして、盛に成て制せんとする時は、臣したがはず。終には戰に及也。君も不德、臣は不義なれば、共にやぶるゝ者也。阴阳戰て其血玄黃の象也。天の色は玄也。地の色は黃也。阴阳共にやぶるゝがごとし。乾には龍をのたまひ、坤には牝馬をのたまふ。其始は剛柔各別なれ共、阴盛になりて、阳と爭ときは共に龍のごとし。故に龍野に戰とのたまふ。阴は內、阳は外也。阳は阴をかね、天は地をかぬるの理也。君臣をも誰の內誰と云は此義也。野に戰は內の者をはなれて外に至る、君臣の禮義なき象也。平の清盛初は五位にて、昇殿をだにゆるされず、甚微なりしかども、漸々進て太政大臣にのぼり、一門は云に及ばず、公家の官祿をも心のまゝに取行ひ、　しかれども清盛小人にて、惡逆甚しかりしかば、わづかに二十余年さかへて、源の賴朝に平氏こと〴〵く亡されたり。それより　。これ龍野に戰て、其血玄黃の象にて、　共にやぶれたり。其外和漢共に臣盛に成て世をとり、　ともに亡びしためし書傳にみえたり

或問、易は卜筮の書也といへり。文王周公の辭も皆占の言ならずや。吾子が解のごときは、人事のうへの道理、受用のみ也。朱子本義の旨にたがへり。云、易は變易交易にして定躰なく定用なし。もし定躰定用ありとして理變通せずは、六十四卦は六十四卦に止り、三百八十四爻は三百八十四爻に止りて、理の無窮なることあたはじ。占に用る時は占の言となり、受用にとれば心法となり、家國天下に用れば治道となれり。占は易の一端也。予が解も占にして無筮の筮也。この故に孔聖も德を恒にせざれば恥あり、不占のみとのたまへり。魯國の三家臣の道を失て君たらんことを欲す。龍の淵を忘れて飛がごとし。龍といへ共居を失ふ時は害をかうむれり。むかし羽柴家の臣、石田三成淵を忘れて飛龍を欲す。終に其君亡び其身殺され、子孫絶滅す。此吉凶前に明なれども、不占して乱を起せり。故に乾の九四大臣の位にて、陰[陽(イ)]剛の才あり。富貴を極といへども、臣たる心を不失故に咎なし。四は上の下にて陰位也。淵の象也。陽剛の才は龍の象也。躍て天に飛する勢ありといへども不飛、其止べき所に止る。いにしへの害[ありといへるは(イ)]をかうむる者皆此占を用ざれば也。王世貞云、昔伏羲氏八卦を畫す、卜筮のためにあらず、後聖理と數と合せ見て、卜筮を借て理を明す、理を卜筮に歸するにあらずといへり

或問、元亨利貞は、天にある仁義禮知にて、理の四德也といへども、天道は唯一元の氣、春始て生じ、夏長ずるを亨とし、秋實結を利とし、冬収斂するを貞とするのみ。陽に生長し、陰に堅實す。四時は二五の氣の流行と見えて、四德も理とはみえず。云、しかり。所下以有二此物一便チ有中此氣上。所下以有二此氣一便チ有中此理上といへり。元亨利貞は性也。生長収藏は情也。仁義禮知は性也。側隱羞惡辭讓是非は情也。天道は氣理に化し、理氣に合して理氣の分み

がたし。唯至誠無息の本然、無聲無臭至實にして無妄なる所を天理と知のみ。聖人の心もまた至實にして無妄也。不勉して中り、不思して得。從容として道に中るは形をふむ者也。情性に化す。故に天と聖人と理氣不分、賢人は少し分る。凡人は理氣性情大に分れたり。惡人は氣に隨ひ、情に隨て性理なきがごとし。聖賢の情は四端也。凡人の情は喜怒哀懼愛惡欲の七情のみ多し。四端は發すれども微也。惡人は七情主となりて、四端はまれ也。藹然たる四端、感にしたがひて著はるゝ事多き者は善人也

問、四端は仁義禮知の端なれば、情のまゝに行べきか。云、聖賢は情のまゝにて則にあたるべし。いまだ氣質を變化せず、凡心のまじはりあり、知全く明かならざれば、情のまゝにては弊あり。仁を好て學をこのまざれば、其弊愚也、と孔子ものたまへり。羞惡の心は義の端なれ共、凡習のまじはりあれば、其恥にあらざる事を恥て、恥べき義を恥ざる者あり。不義をにくむはよけれども、知の照し全からざれば、にくみ過てあしく成事あり。辭讓の心は禮のはしなれども、勝心のまじはりあれば、發のまゝに行ことあたはず。又禮に過てあしき事もあり。是非の心は知の端なれ共、俗習のまじはりあれば、眞是非をあやまる者あり。小是非を立て大倫を亂るの類也。德性を尊て問學によるの聖學にあらざれば、道むなしく行はれず

或問。河圖洛書は數の祖也。易は心法治道也といへるは何ぞや。云、河圖洛書は、九を用て十に極る故に數學也。易は八を体として、九六を用とす。數學は一より九に至り、十に極て又一に初る。治道心法は、八八を以て重て九十を用ひず。寛仁にして乘ずる事なし。後世の治道賞罸を正しくするを要とするは、九々の數にてつまりたり、君

子の大道にあらず。賞して罰せず。直をあげてまがれるをすて置は易學也。八々の理也

問、卦は掛也。物象を懸掛て人に示す、是卜筮の爲也。孔夫子初て理を說給は孔子の易也、八卦六十四卦、文王周公の經文も、卜筮のためならずや。云、孔子も伏羲の卦中にふくみ給へる理をのべ給ふ也。八卦六十四卦皆心法理學の原也。大極兩儀を生ず、大極は理也。理は本心也。大極は至誠にして無息。故に誠は天の道也。誠を思は人の道也。兩儀は⚊實⚋虛也。⚊は純一の誠也。⚋は敬也。兩相守るは敬の象也。陽は實なるが故によく施し、陰は虛なるが故に順て承。施は仁也。順てうくるは敬也。義也。誠敬仁義は、心法治道の要也。これ兩義の心畫に始れり。

問、理學心法の別は何ぞや。云、理學則心法也。心法則理學也。心外に理なく理外に心なし。心外に向ときは心法を云て心學にあらず。心內に向時は、日用常行みな心法也

問、八卦六十四卦の中に含める理學心法ならば、何ぞ文王周公是を述給はで、孔子をまち給へるや。云、文王周公は國天下を治平し給へば、理學心法を述給べき時代にあらず。民はよらしむべし、知しむべからず。民德治によりて不知不識心法を受用し、理にまどはず。孔子も時を得給はゞ、理も心法も說給べからず。時を得ず、天下道なき事久しければ、不得已して心理を說給へり。古は孝弟も禮樂の中にこもれり。其禮樂を學ときは、自然に孝弟の心存じ、孝弟の道行はれたり。口に孝弟を敎る事はすくなし。孔子の孝弟を說給は、時を得給はで禮樂行はれざる故に不得已也

易經小解　卷第三

䷂ 震下坎上　屯は盈也　天地有て後万物生ず。天地の間に盈塞するは万物也。故に屯乾坤に繼り

屯。元ニ亨ル利レ貞ニ。勿レ用ルレ有ルレ攸レ往。利レ建ニ侯ヲ

屯四德を具る者は、人道の始なれば也。天地の間に盈者は万物也。万物は人を以て首とす。故に四德を備へ、乾坤に繼で三才とす。六十四卦の六爻、皆天人地ある處なり。乾坤の四德は躰より用を兼、屯の四德は用より躰を備へたり。故に屯は大に亨る、貞に利ありとよむ也。唯貞のみ乾坤にひとしく躰をいへり。貞は天下の事の本幹なれば也。人性衆理を具へて万事に應る者は知也。屯は難也。物の始は難多して、いまだ不レ泰、貞固にして不レ止時は、終に大に亨る道あり。利は天下の屯難を濟也。いまだ往て濟べからず。よく侯を建立し、助を多して功を立べし。天下の難は獨力にして濟事あたはず、よく人才を用るに有。往て濟らんとするは、獨力を用る也。終に功をなすべからず。故に勿レ用レ有レ攸レ往とは、獨力を用ひざる也

或問、元を太と訓ずるは何ぞや。云、天地万物元氣の貫かざる物なく、不至ところなし。其大外なく其小內なきは

元徳なり

或問、屯を難といへるは何ぞや。云、二躰の象を以いへば、險中に動く、行て難ある象也。國家の興る始は、十死一生の難、數度有て後に定る也。中夏にては、漢家の興り、日本にては、源頼朝尊氏などの始興る皆しかり。又人の生るゝも母子生死の難をしのぎて後出生し、又人となるまでの間、疱瘡等の種々の病難ありて後長となれり。稻も五月にうへ付てのち、つよき日に逢て葉よれしぼむ事度々あり。雷雨のめぐみを待て漸く秋實を得る也。則チ屯は雲雷也。難あるも屯也。難を濟も屯也。患難に素しては患難を行ふ者也。陰陽始て交りて雲雷相應ずる也。麥も九十月にまきて、霜月極月の雪霜をしのぎ、正二月の餘寒をへて、漸三月の霖雨に長じ、四月の暖氣に逢て實のれり。物の生ずる事みな如此の難有。瓜も三葉四葉に生じて、微弱なる時は蝿付て喰からさむとし、其程を漸しのぎ、瓜のなる時は、烏雉子などくひ、熟すれば又狐犬など喰て、瓜のよく成たるをばきり蟲根よりくひきりからすもあり。さま〳〵の難多し。人生の難も又かくのごとし。五倫の間にも、順不順あり。庶人は産業に難有、士は位職に難あり、貧乏の難、病苦の難、災害の難、境界の順逆品〳〵多し。させる災難なく、やすらかに生をとぐるを康寧と云て、五福の一ツといへり。君子の道長ぜんとしていまだ微なる時に、小人の消せんとする事、瓜の蝿のごとし。君子貞固にして小人の犯をば、他山の石の玉を琢が如くにして、道後世に延る者也

或問、和漢侯を立て利有しは誰ぞや。云、秦の始皇天下を一統し、守令を置て侯を不レ立。獨力にして天下を治む。故に十六年にして亡びたり。漢の高祖、秦を亡し、天下を一統して諸國に侯を立て四百年を有てり。日本にては秀

吉凶夫より起り、兵を用る事すくなくして、天下はやく定りし事は、東西南北其國に付てよく侯を立し故也。此一ツよき故に、一旦は天下をとれり。然れども凡人にて道を不知。何のゆへなき高麗を責て、人多殺し、身の欲を極て、一代に福分を盡せし故に、二代までもつゞかずして、大悪人の石田三成を用て、徳川家の爲に諸侯をからしめられたり。其身大凡心なる故、用らるゝ者も又大凡人なり

彖曰ニ。屯ハ。剛柔始テ交而難生。動ニ乎險中一ニ。大ニ亨貞也

乾坤の徳、☷乾に交りて☳を得たり。再び交りて☵を生ず。坎は險也。震上り進まむと欲して前に險あるは難也。されば俄に上る事を得ず。故に險中に動く。いまだ通暢する事あたはずして艱屯す。進事を得ざるは難なれ共、これにより伏して陽氣を養ひ、時を得て却て大に亨る處也。貧賤憂戚は汝を成に玉にするは君子の幸也。天道君子貞固にしてみづから養は、大に亨の本也。故に云、大ニ亨ル貞なればなり

雷雨ノ之動滿盈チ。天造草昧也。宜レ建レ侯ヲ而レ不レ寧

陰陽交りて物生ず、雷雨動て潤澤を以生物も助くる時、兩間に滿盈て、日月星辰見えずして昧し。天の造物其始くらき象也。天造は造化也。造は始〆化は終ッ也。生物の時故其始を取て天造といへり。草は始也。天造はじめくらきなり。雷雨動キ滿チてくらきがごとし。無より有に來るを造と云、其始〆闇然として見るべからず、渾然として分つべからず。よろしく主を立て分ち治むべし。其はじめの人なき時は、天地を父母とし氣化によりて生ず、男女ありて後、形化にゆづりて氣化やむ。いまだ家屋などといへども、こゝかしこに群をなせり。これ村里の始也。一村の中

才智ある者をのづから惣じての事を下知して事よろし。是士の始也。數村の中の士にすぐれて才德ある者を、數村の士是を敬して令を受たり。是郡長の始也。又數郡の中に勝れて德ある人を尊てつかさとす。是侯の始也。數國の侯又一人を立て君とす。是天子の始也。如此にして後、くらき物明かに、渾せる物分てり。然れ共物の始は久しからざれば不定、寧居せしめて勉てやまざるは黃帝の行是也

象ニ曰ク。雲雷屯ナリ。君子以ヒテ經綸ス

震坎合せて屯となる。坎に雨水もいはずして雲を云は、いまだ雨とならず、通暢せざる時なればなり。屯難の世は、君子爲スルことある時也。故に云、君子以經綸すと。經綸は糸を治るの事也。經是を引て綸、是を理む。是を以君子屯難の世を治る象とす。屯難の時、吉凶是非をわかたず、昧して無レ文。君子是を治る事、乱糸を解がごとし。よく乱糸をとく者は、心ながく氣靜に、とくる所をとく、君子の無事なる所を行が如し。雲雷和洽して通暢する時は、雷水解と成て天地の間に滿盈す。君子の道終に屯難を濟る如此し。いまだ君子の心位に及ばざれ共、剛明にして本才有者は、大難にあひて世間共にすべきやうなく、貴賤ともになり難き事をも、たやすく其爲べき事心にうかぶ故に、任ずれば大功を立る也

初九。盤桓。利アレ居ルニ貞。利アレ建ツルニ侯ヲ

初九屯難の世に當りて、天下の屯難を濟べき才ありといへども、下に居、前に險ありて俄に進むべからず。盤桓は進まんと欲して、不レ進の皃也。撫ニ孤松ヲ而般桓すといへり。盤桓はめぐる共、又たちもとをるとも讀り。勢ひいま

だ進べからざる時は、貞正に居て自養にしかず。利ありとは、徳は身を潤すの意也。利は我にあり、剛明の才ある人を立て、諸侯とし國を治しむる時は利民にあり。かくのごとくにして助多ときは、險難ひらけて天下を濟べし。これ不行して至る也。又不レ往と云所なし

象ニ曰ク。雖ニ盤桓一スト。志行レ正ヲ也。以レ貴下レ賤ニ。大ニ得レ民ヲ也

勢ひしばらく正道を行事あたはずして、盤桓すといへども、居て貞なるは其志にあらず。終に正道を行の志あり。屯難の時に當て、震の一陽屯の主たり。患難の時、陰柔の小人自存ずる事あたはず。いはんや世を濟べけんや。幸に一人の陽剛の才あるは、衆のたのみて歸從する所也。陽は本貴く陰は賤し。しかるに一陽二陰の下に居は、貴を以賤にくだるの象也。是謙也。謙は人道の好處、天道の福する所なれば、民いよ〳〵其徳に心服せり。君子世を濟ふ志ありといへども、其陽剛の才にたかぶらず。時と共に退き、時と共に進む。其志を得ては大に民心を得て、屯難を濟べきなり

六二ハ。屯如タリ。邅如タリ。乘レテモ馬ニ班如タリ。匪レ寇ニ婚媾。女子貞ニシテ不レ字。十年ニシテ乃字

六二中正なれども陰柔を以て屯難にあへり。往て九五の正應に隨はんとすれども、行事あたはず。故に屯如となやみ邅如とめぐりて險中にあり。初は馬にのりたれどもゆかれざる故に、馬よりおりて班如たり。馬と所を異にす。寇難あらずば行て正應に從べし。婚媾は正應をさすなり。初九は寇にあらず、陽剛にして隣りたり。六子の女子をもとむれども、女子貞正なるが故に、正應をすてゝゆかん事を欲せず。不レ字は、初九のために卒尓に養はれざる

也。十年は數窮り理極る也。年數にかゝはるべからず。女子始終志を不レ變。故に初剛も不レ求、終に正應に從を十年にして乃字といへり。數盡時至りて屯難解たる也。是を得る者は正固の德あれば也。又字ナフは禮に女子嫁を許して笄して字つくといへり。不レ字は嫁を不許也。十年にして字つくは、正應の求に許して字付也。何れにても道理は通ずる也

象ニ曰ク。六二ノ難乘レ剛ニ也。十年ニシテ乃字。反レ常ニ也

柔の剛に乘は變也。剛に應ずるは常也。屯の時剛に乘は、六二の患難也。志固して正を守る時は、數窮りて常に反る也。屯は陰陽初て交る故に、婚媾を以てたとへとせり。或は强大の敵に逼るも剛に乘也。勢をはからずして動く者は必亡ぶ。梁の惠王の秦の强にのれるがごとし。正固をまもらずして始はあなどり、後は恐れて、終に秦の爲に亡されたり。秦の孝公、衞鞅を將とし、兵を遣して魏を伐しむ。魏侯公子卬を將として是を禦がしむ。公子衞鞅が計に軍をやぶられて虜にせらる。惠王恐れて河西の地を割ち秦に與へて和す。安邑に居事あたはずして梁にうつれり。地を秦に失ふ事七百里と云はこれなり。秦なをあきたらず、其後度々魏の地を犯しとれり。惠王死して襄王の時、ほどなく地を盡く秦にとられて亡たり。初秦より衞鞅を來せし時、魏に衞鞅に敵すべき將なきなれば、堅く守りて戰まじき事也。尙も惠王に知惠あらば、秦の魏に逼るべき勢は見えたり。魏の民を內にして、秦の國界に要害をかまへ、敵犯ば守りて不レ戰、敵を射て身方を射られざる用心をせば、地を失事なかるべし。秦にはしかざれ共魏も强大の國なれば、敵を外にして內士を惠み、民を愛し隣國を親むやうならば、後には秦よりも强大成べし。然る

を親むべき趙を伐て、趙齊を敵となし、しかのみならず、太子申死し、不器量なる弟〳〵を立て、いよ〳〵早く亡びたり。惠王易を不學故に患難の世に居て、强に乘ずる占を不知故也

六三ハ即テレ鹿ニ无レ虞。惟入ニ于林中ニ。君子ハ幾不レ如レ舍。往スハ吝アシ、

鹿を逐て山林に入者は、虞人を案內者として入事也。虞人は今の獵人也。導なくして深林に入ときは、林莽の中に陷て歸路にまよへり。故に鹿深く去ときは、逐すてゝ歸るべし。是幾を見て舍也。獵者の導なき事を忘れ、自己の無案內をもわきまへずして、深く往は、吝也。鹿ををしみて凶をいたす也。是を以てたとへてのたまへり。六三は陰柔にして、位陽剛也。屯難の世、柔弱暗昧の諸侯は國を有がたし。治世の虞人は賢者なり。君柔暗なりとも、賢者を得て國政を任ずる時は、終に屯難を出て吉なるべし。漢の高祖、氣質は陽剛なれども、學びされば道を不知。然れ共張良と虞人を得て、謀主とし給ふ故に、度々の大難をしのぎて、終に吉を得られたり。梁の惠王は孟子ほどなる虞人を得ながら不用して、林莽の中に落入、終に國を失れたり。孟子は襄王の人君の器なく、志なくして亡びん事を知、幾を見て去給へり

象ニ曰ク。即テレ鹿ニ无レ虞。以從テレ禽ヲ也。君子ハ舍ツレ之ヲ。往ケバ吝シ。窮マレバナリ也

從レ禽ヲは、鹿を貪る故に、虞なしといへども、逐て深林に入也。欲に從ふ者は、其事の不可をわきまへずして、妄に動ク者也。祿を貪りて危邦に入、又は乱邦に居者の類ひ、皆如此。君子は吉凶の機を見て去ツ、小人は祿を吝て終に危乱に逢て、窮困せり。越王勾踐は范蠡と云虞人有ながら、其言を不用して欲する所を求め、深く敵地に入てと

りことなれり。戰國屯難の世には、剛明の諸侯だに、よき廣人なくては其患難をすくふ事あたはず。況や柔暗の君をや

六四ハ。乘テ馬ニ班ハン如タリ。求メテ婚媾ヲ往テ吉也。无シ不トイフコト利アラ

六四は大臣の位に居て、屯難を濟はむと欲すれ共、氣質陰柔にして、陽剛の才なければ、すくふ事あたはず。馬に乘てゆかむとして、又馬より下オリたる象也。幸に下に陽剛の賢才有、初九是也。婚媾の字文字にかゝはるべからず。屯は陰陽初て交る卦なる故に、しばらく象をとりていへり。下の賢者を進めて政を助しめ、大臣うしろみして共にすゝむ時は、屯難を濟べし。萬民利せずと云事なし。國家天下の吉是より大なるはなし

象ニ曰ク。求メテ而往クハ明カナリ也

君を助けてともに進むは大臣の職に叶へり。大臣才なしといへども、心明にしてみづから不足事をしり、下に賢ある事を知る。人を知は知也。みづからを知は明也。六四の大臣は、明知共にかねたり。自ミ才ありて獨進むにまされり。是大臣の德にして、大學にいへる斷々休々の厚德也

九五ハ。屯タル其ノ膏アリ。小貞ニハ吉ナリ。大貞ナルハ凶ナリ

九五陽剛中正の才德ありて、尊位に居といへども、君位威權を去たる世に生れて、險中に陷る。故に世の屯難を救ふ事あたはず。是人君の屯也。故に其膏カウを屯アツめりとす。膏は膏澤カウタク恩澤をいへり。國天下仁恩をほどこすべき德有

といへども、威權去たれば、仁政を行ことあたはず。小貞は其身一人正しき也。大貞は人と共に正しき也。君威權ある時は、國天下と共に正しかるべし。是大貞也。今威權を去て、國天下と共に正しくせんと欲するは凶をまねく媒也。故に小貞にして吉なり。今の王者を以ていはゞ、古の禮樂を治給て、文道を明にし、代々の武家來りて法をとらんは、小貞の吉也。王者の長かるべき所也。文字禮樂をも不治、俗に落て風流を失給ひて、とるべき法なくなりなば、武家の尊信もなくて、屯難の世に及ぶべきなり。上六の泣血漣如に至らんことを恐るゝなり

象ニ曰。屯其膏。施未ㇾ光也

未の字を以て理の窮りなき事をのたまへり。人多時は天に勝の勢にて、人君膏に屯ありといへども、人君の誠厚して天に通ぜば、又天定る時は、よく人に勝の勢にかへるべし。人君屯難の時、財用の取舍與奪ともに權臣の手にあれば、光大の施をなす事あたはず。漸近臣などに仁恩の及ばかり也。故に施未ㇾ光也

上六ハ。乘ㇾ馬ニ班如タリ。泣血漣如タリ

上六は、陰柔にして屯難の終に居なり。すゝんで變ずる事あたはず、居るべき所を不知、なげきかなしむのみ。泣血漣如の象なり。泣血は泣ことの深き也。漣如は袖をうるほす也。涙ぞ袖をふちとなしけるといへるが如く、柔弱不明の質にて、患難の極にあるときは、不ㇾ亡といふ事なし。日本にては平の宗盛などの類也

象ニ曰。泣血漣如タリ。何ゾ可ㇾ長カル也

陽剛の才あらば、屯難極りて變ずべし。陰柔なる故に變ずる事あたはず、宗盛一の谷、矢嶋にても、いまだ多勢を持ながら、變ずる道をしらずして、ほどなく亡びて長き事あたはざるがごとし

卦中三の班如あり。六二の班如は、九五の正應に從はむと欲すれども、時いまだ至らずして班如たり。六四の班如は、進て屯難を救はむと欲すれども、才不レ足事を知て、下初九陽剛の賢を求て、共に患難を救はんがために、しばらく班如たり。上六の班如はわきまへなく待所なし。故に凶也

或問。六四には、初九の賢才をすゝめて、ともに君を助て、屯難を救ふべしといへり。然るに九五には陽明中正の君なれども、威權を去たれば、屯難を救ふ事あたはずと云。君威權を去たる時は、奪者あり。奪者は六四の大臣か、六三の諸侯なるべし。君威を奪ふ者は多は大臣也。大臣忠ありて賢をすゝめ、君を助けば威權君にあるべし。本より陽明中正の君ならば、屯難を救ふ事を憂とすべからず。卦中の兩儀相違に似たり。云、易の象をとる事如此ならず。屯難を云時は、上下君子小人共にみな患難有。故に爻ごとに屯難の象有ことをいへり。屯難の世、六四の大臣、陰柔の質なる故に、君を助て屯難を救ふ事あたはず。しかれども内明にして己が不足を知、下に賢才有を知て、是をあげ、共にすゝみて君を助けば、屯難をすくふべし、とまうけていへる也。又君の屯難をいふときは、陽明中正の君、威權を不去は、屯難を救ふべし。何のなやめる事かあらん。君の屯難は威權を去てすくふ事あたはざる也。其威權を奪たる者は大臣也。其時は陰の四爻を陰柔にとらずして小人にとる也。小人は仁義の勇はなけれども、欲惡に剛なる者也。大臣小人なれば、或は幼君、或は暗君の時より權威を取初めて君位は床道具にして、六三の諸侯

も、六四の大臣の權威に付、六二の政に預る者も權威にへつらひ、たま〳〵初九の賢者あれ共、下位にあれば、君是をしらず、知ても是を用る事あたはず。これ人君屯難の極なり

易經小解　卷第四

䷃坎下艮上　蒙は物の穉小也。物の穉き時は蒙昧にして未發。屯は物の始て生ずる也。物始て生ずる時は、穉小蒙昧也。蒙の屯に次所なり

蒙ハ亨。匪ズ三我レ求ルニ二童蒙一。童蒙求レム我ニ。初筮ノ告。再三瀆。瀆ル、トキハ則チ不レ告。利アリレ貞ニ

蒙は内に明ありて未レダ發セ。師道是を開く時は終ニ亨る道あり。玉みがゝざれば器とならず。人不レ學ば道を不知。故に壯者といへども不レ學者は蒙也。屯難の世、諸侯を立て自守らしめ、助を多くして天下を平にし、世治り貴賤富足る時は敎べし。是治世には師を云るを主として、學校の政行はるゝ所也。其本は大君先志を可レ立。故に蒙の主は六五也。蒙を開發する者は九二也。六五の大君は、和順の德ありて、陽位に居。九二の師は剛明の才ありて、陰位に居。上下の志相應ず。故に云、我童蒙に求るに非ず、我は九二みづから我也。童蒙我に求は、六五の君、九二の賢にくだりて、大道を聞事を求る也。將ニ大有レ爲之君ハ。必ズ有ニ所ロ不レ召之臣一といへる是也。初メ筮ノ告スとは疑ある時は筮して神に問、そのごとく誠の志ありて、來り問時は、實を以告る也。若師の言を疑て、再三する者

は慢也。實を瀆なり。誠をうたがふは誠を瀆也。故に不レ告。唯みづから貞正の道を不レ失して、蒙をしゐず。蒙みづから非を知て、心服する時は貞に利ある也

〔○彖曰ク〕(脫カ)蒙ハ山下有レ險。險ニメ而止ハ蒙(ム)也

艮(ゴン)は山也。止(トヾマル)也。坎は水也。險なり。山は險岨の物也。麓に水ありて、渡るべからざるは險也。兩險相さゝへて行事あたはずして止るは蒙の象也。蒙昧にして是非善惡をわかたざる時は、行事あたはず

蒙ハ亨。以テ亨ルヿハ行ヘバナリ二時中ヲ一也。匪ズ三我レ求ルニ二童蒙一ニ。童蒙求ルハレ我ニ。志シ應ズレバ也(ナリ)

險にあふて止り、みだりに不動は蒙の時中也。蒙の亨る事は、明師に順て能時の中を行へばなり。能師を得る者は王たり。己にしく事なしと云者は必亡といへり。亨る事不能所也。九二の臣、六五の君に求ざれども、六五の君、九二の臣に下り求るは、志の應じて道行はるゝ所也

初筮ノ告ルハ以テ二剛中ヲ一也。再三スルトキハ瀆ル。瀆ルトキハ則チ不レ告ゲ。瀆セバレ蒙ヲ也

九二剛明の才ありて、中正の道を得たり。天下の蒙を發て天職あり。故に大君始て問といへども、辭せずして告る也。再三するは蒙の疑にあらず。うたがひあらば、幾度も問べし。能受用する者は、能うたがひ問也。用て行はれざる事有を、能問て行べき道を知也。梁ノ惠王、齊ノ宣王の如き、悅てたづねず、隨て不改。故に孟子しゐて不告。しゐて再三する時は、言を失て自けがさるゝが如し。自けがされて人を正す者はなし。故に自瀆(ケガル)るといはずして、

蒙を瀆といへり。蒙を愛していとはず、人に教て不レ倦の意也

蒙ハ以テ養フレ正ヲ。聖功ナリ也

未發の蒙の時より純一に其正順の德を養ふ時は、長ずるに隨て善人となり賢人となり、過る時は聖となる。故に聖の功也と云り。しかるに童蒙より逆德を養ふ時は、惡人と成、凶人となり、幸にして凡愚となれり。故に大人は赤子の心を不レ失といへども、其純一の時を云也。すでに凶德を養ひなして、發して後に禁ずれば、扞格して不レ勝。故に正を蒙に養ふは、學の至善也といへり

象ニ曰ク。山ノ下ニ出シテレ泉ヲ蒙也。君子以レ果ヲ行ヒ育フレ德ヲ

山の下に出たる泉、險に遇ていまだゆく所あらず。人の穉小なる時、いまだ心の向所なきが如し。故に蒙の象とす。君子山下の出泉の象を見て、德必本あり、事業必行べき事を知。故に果レ行ヲ育レ德ヲといへり。泉の始て出る、涓々として微なれば、沙石にふせがれて俄に達する事あたはずといへども、其險を避ずして晝夜不レ止ば、終に流れて大川をなせり。人の事業もつとめてやまざる時は必果ス事あり。川のながるゝ事その源深からざる時は竭るあり。艮は山也。其德は止る也。山靜止にして神化厚き時は泉源窮りなし。終に大川を成て四海に達す。君子德を養て其事業天下に達する事如此。人の道を學べる德をなして、令名世にあらはるゝ也。然るに始ありて終なき者多し。是行を不果の第一也。禮樂弓馬書數の藝といへども、始ありて終ある者は少し。六藝も用を成ほどに學びされば、

學といへども益なし。孔子は禮樂は云におよばず、弓馬の藝にも達し給ひたり。是皆人間の事業にして、行を果すの一事にして、徳を養ふの用也。徳たゞに養べからず、善を爲事を積で養ふ者也。六藝皆善をなすの事也。童蒙の時、養事正しといへるも、藝に遊ばしむるを大用とす。六藝の文を以友を會し、友を以て仁を助くる時は、日々に見る事聞事有て、不レ知不レ識正を養ふべし。又君子山の象をみて徳を養ふ。山は泰然として靜止也。仁者の樂みは山也。仁者は無欲なるが故に靜也。其心を動ス所なし。君子は水の象を見て、その行を果す。知者の樂は水也。水必行が如し。流水の物たる昼夜を不レ止、時所位に隨て無事成所を行ふ。故に其心を累す者なし

初六ハ。發レ蒙ヲ。利レ用ルニ刑ヲ人用ヒテ說ニ桎梏一セラレテ。以テ往ク吝

初六陰暗を以て下に居るは、下民の象也。下民の不學して愚蒙なるには、善をなす事を敎へ、惡をする事を戒しむ。惡を爲者には、此刑ある事を示す也。桎梏は今の手錠ほだし也。刑の品々をいひ聞せ、其器を作りてみせ、愚民を感す也。其刑にあたりたる者をも、先手がし足がしをかけて懲し、悔る者をばこれをゆるすなり。刑は刑なきにあてゝする是也。少し懲して大に戒しむるは小人の幸也。專刑を用るに心有は凶し。故に以テ往吝といへり。嚴に一なるを以テ往と云り。吝はなづみとゞこほる也。何にても惜ム心を云。刑をすてかぬるも、吝の類也。專刑を用て、治を爲時は、愚蒙畏るといへども、其心を發く事あたはず。免れんとして恥なき時は、治化成就すべからず。只刑はしばらくの助也。敎るに善道を以、其非心を革て風を移し、俗を易べし。導に徳を以し、齊るに禮を以する時は、恥る事ありて至る。是聖人の至道なり

象ニ曰ク。利アリトハレ用ユルニレ刑ヲ人以テ正スルレ法ヲ也

人を殺者をばこれを殺す。盜賊は其輕重によりて、或死罪或墨刑す。如此其防限を立て、罪爵の法を正する也

九二。包レ蒙ヲ吉ナリ。納ルニモレ婦ヲ吉也。子ハ克シレ家ニ

九二剛明の才ありて、六五の君と志相應也。君臣共に中德同じ。故に大君時の蒙を開發する道を任ず。天命あれば辞せざる所也。包は含み容る也。敬て五教を布事寛にをゐてする意也。故に吉也。時に被用て獨り明なりといへども、其明を恃で、予知ありとせず。善なれば婦人の言といへども是を納用ひ、下民に至るまで廣く益を取こと其中にあり。殊に婦人は柔闇也、神佛奇妙を云て、人を惑すを以て渡世とする者も、先婦人に取入、扨は至愚の下民を惑せり。狐の人をまどはすも、多は婦人賤夫也。是を以其柔闇を知べし。しかれども小知小才の男子にまされる婦人有、士にまされる下民あり。故に君子廣く問ことを好所なり。如此なる時は、その善限りなく、天下太平子孫長久の吉に遇なり。子克レ家は、家に在ては、父は君のごとく、子は臣のごとく、小家なれば父にかはるほどの良臣はなければ、幸子善にして才あれば家事をまかするなり。是父の子の我にまされるを知て信任する也。たとひ父は子にまさりても、子善にだにあれば、子にまかせたるが、父の自身治たるよりはよきもの也。いかんとなれば父は一家の主人にて、威あればをのづから家人に遠し。子は主人の子といひながらいまだ主とならず。其上幼少より一家の臣妾にもなれて、遠慮すくなし。此故に家人の情に近し。相談して事可にあたれり。蒙の世に六五の大君、九二の賢才に信任する事如此。故に子克レ家といへり。九二の臣、六五の君に才德まされば尤よし。たとひまさらず

しても、志賢にだにあれば、君みづから治たるよりはよきもの也。君一人にて臣ともなり、君ともなりて、上下する事は成難し。其上威權盛なれば、人情事變に遠し。臣は下に近き故に、人情にも通じて、事可にあたれり。故に治國平天下は賢才を用るを先とす。尤古今何れの代にも、よき人を求めざるはなし。或は人のよきと云のみにて、あげて官にすれども、求る心眞ならず。もとむるに道なければ、却て賢をふさぐ者なり。えらぶに格あり、あぐるに類あり。えらぶ人、えらばるゝ人、共に數定りてひろく求る事なし。其上君と執權と、予のみ知ありとして、人の善をとり才を用る事を恥とす。是賢をふさぎて通ぜざらしむる所也。堯舜天下古今の至聖なれ共、問ことを好み、才知をあげて己をすてゝ人に隨ひ給へり。舜は惡人の子なれども、堯これをあげ、禹は罪人の子にして、舜これをあげ給へり。これ賢をあぐる事類なしといへり。至公無義の謂也。桀は其身の勇力を恃み、紂は我聰明にほこれり。是二人共に予知有として人にとらざる者也。然ルに古今共に桀紂に似たりといへば、人々立腹す。堯舜に似たりといへば、中心悦といへども、恥恐れて謙退す。しかるに堯舜を學ぶ者はすくなく、桀紂に習者はおほし。思はざるの甚しき也

象ニ曰ク。子克キハレ家ニ。剛柔接也

蒙なる者と、義を發く者との情相接して一ならざれば、善ク教る者有といへども、其教入事なし。父子君臣の情相接すべき事しかり。位を以いへば、君父は剛也。臣子は柔也。才を以ていへば六五の君は質柔也。九二の臣は剛也。九二剛中の徳ありといへども、君信任せざる時は、時の蒙を開發する事あたはず。今君賢にして臣に信任する事、

父子のごとく成は、剛柔相接るの至也。其功を遂る所也

六三ハ。勿レ用ルニ取ルレ女ヲ。見テ二金夫ヲ一不レ有レ躬ヲ。无キ也レ攸レ利スル

六三は陰柔にして陽位に居。不中不正、女の蒙暗、妄りに動の象也。見ニ金夫一は、富貴にめでゝ夫の人がらを見ず。女にして如此は、其身を有たず。男も女家の富貴に目を付て、女子人品父母の家風の善悪を問ざる者は、共に利する所なき者也。利は家の有無に随て家を齊へ身を有をいふなり

象ニ曰ク。勿レ用ルニ取ルレ女ヲ。行不ハ也レ順ナラ也

順は愼也。古は順愼通用すといへり。女子貞正ならず、行を不レ愼。妄行する者は、妻とすべからず。故に用る事なかれと也。本義に魯秋胡が事を引たれども、それは夫の秋胡があしき也。女は身を不レ有といへ共、女の罪にあらず。もし女の父母、秋胡が人がらを不見屆を非といはむか。列女傳云、秋胡子妻をむかへて五日めに陳に官仕す。後に歸る時に、路のかたはらに美女の桑を採を見て、車より下て云、つとめて田がへせ共豐年に逢にはしかず、つとめて桑を採も、士夫を見るにはしかず。今吾に金有、願は婦人にあたへんと云。女不レ受。秋胡家に歸れば、母其婦を呼出せり。みれば桑採し美女也。幼年にして來り、間もなく遠方に行、年たけてかへりたれば、見忘れたる也。女夫を恨みてみづから河に身をなげて死せりと也

六四ハ。困レ蒙ニ吝シ

四陰を以て陰に居、蒙闇の極也。上下も又陰柔の蒙也。正應も蒙也。剛明の師なく友なし、隣家の無レ助。故に蒙に困て心うへ乏し。吝は不足の意也。俗に物たらはずといへるがごとし。斗方なき也

象ニ曰。困ムコトノ蒙ニ之吝キハ。獨リ遠ケレハナリレ實ニ也

實は陽剛也。⚊は實⚋は虚也。故に遠きをいへり。陽に遠して教を受、明をとる所なし。故に困て吝也。然れども志眞ならば遠き事有べからず。詩にもいまだ思はざる也。何の遠き事かあらんといへり。困蒙の質と云とも、師を尊び友を親み、學に間斷なくば、其知に及では生知學知一なるべし。何の困事かあらん。困と云も志不立故也。六四の蒙によりて、天下教べからざるの人なき事を戒たまへり

六五ハ。童蒙ナルハ吉ナリ

六五巽順中正の徳ありて、尊位に居。貴を挾まず、長を不レ挾、賢を不レ挾。君の君たる大本を知て、自童蒙に居。九二剛明の才に任ず、天下を治るに足れり。故に吉也。苟に至誠にして賢に任じ、其功を成ときは己に出るに何ぞ異ならん。湯の伊尹における、高宗の傅説における、學て後臣とす。みな此道によるといへり。湯王聖徳にてだに、大君たる時、自童蒙に居給へり。况や其他をや。堯舜は大聖なりといへども又しかり。自知を先だてず、天下の知を用ひ給ふは、自童蒙に居て、天下の教を入給ふ也。諫鼓謗木是也。皆大吉を得るの本也

象ニ曰。童蒙ノ之吉ハ。順ニシテ以巽ナリ也

順は己を舍て人に從を云。巽は降レ志ヲ、下に求るを云也。是在位の君子、童蒙に居の吉也。能如レ此なる時は、天下に優かなり。孟子に云、好レ善ヲ優ニ於天下ー。註に曰、優ハ有ニ餘裕ー也。言ハ雖レ治ニ天下ーヲ尚有ニ餘力ーと也

上九ハ。擊レ蒙ヲ不レ利レ爲レ寇ヲ。利レ禦レ寇ヲ

上九象の極に居て剛に過たり。愚蒙甚しければ化不レ行。教へ不レ入。上九過剛なれば、人の蒙を忿て是を擊て其惡を懲すなり。物により時によりて不レ得レ已ならば可ならんか。然れども彼來りて寇せばこれをふせぐべし。民の害をなさば擊て滅すべし。たゞに其頑愚を惡みてこなたより往て擊ば寇を爲也。彼が國民は我を以寇とし、我國民は彼を寇とし、互に相寇して國家の弊と成事有。戰國相擊者は、四十歳五十歳の人といへども皆蒙闇也。仁義の知の不レ開事は、幼年の童蒙に同じ。況や西戎北狄は仁義を不知、禮樂不通、中國の童蒙にもをとれり。彼を以彼を見る時は惡むべからず。來朝せば是を惠み、寇せば是をふせぐべきのみ。又山水の險難によりて寇をふせぐ象あり。又艮は止也。不レ往して止りて寇を擊の義有。敵險に籠る時は、十倍の勢を以てせむる者なれば、險岨は十倍の身方也。險をすてゝ行て擊時は、身方を殺し、財を弊して利あらず。寇を險難に來してふせぐ時は、身方死せずして賊を伐こと多し。故に禦に利あり。敵國によせて伐に利ありや、まちて戰に利ありやと占に、此卦を得る時はふせぐに利あるべし。越王勾踐蒙昧なる故、范蠡が言を不レ用。吳に寇をなしてとりこにせられたり。吳の勢二十万なりとも來りて寇せば、越の利を得べき謀有べし。越十万にて吳に行て寇せば、何を以か勝事をえんや。不レ利レ爲レ寇の占明か也。わきまへざるは蒙闇也

利アリトハ用ルニ禦グニ冦ヲ。上下順ナレハ也

他國より敵來りて冦する時は、國人皆己が冦とす。我冦とする者をひきいて、これもふせぎ撃ときは、上下の人情相應ずべし。其上ふせぐに剛を以して、其道を得たり。必利あることは、上下の心一にして順なればなり

易經小解　卷第五

䷄ 乾下坎上　需は飲食の道也。物幼穉なる時は、養を待て長成す。物を養ふの需所は飲食也。需の蒙に次所也。雲天に上る、雨と成て潤澤の下るを待。五穀是を植て實るを待。米をうすづき食をかしぐ、皆熟するを待て養と成也。故に需は須待也

需有孚光亨。貞吉也。利渉大川

孚は信の中に有、⚋は虛、⚊は實也。一陽二陰の中に實す。孚の象也。眞實の德光內に充て其道亨り、其化四方に及也。貞正にして吉也とは、心誠實にても事の正しからざる者あり。不正にても孚ある者の事の正しからざるは邪には非ず。十分天則にあたらざる也。忠信丘が如き者あり。丘が學好むにはしかずとの給ふごとく、忠信の質ありても、聖學なければ爲事則にあたらざる者也。貞吉に二ツあり、本より正して吉成者あり。正を得時は吉なる者あり。需の孚の光ありて亨るものは、正して吉なる者也。吉は善也。誠實ありて正しきは善の至り也。如此なる時は天道多福を命じて、君子の仁を助くる也。吉善にして福多きの辭也。凡大川と云は、人生險難の象也。君子大難に

臨といへども、誠ありて徳光亨通し、事正しくして待ときは、すくはずと云事なし。是を大川を渉に利有と云也

彖ニ曰。需ハ須也。險在レ前ニ也。剛健ニシテ而不レ陷ラ。其ノ義不ニ困窮一セ矣

險在レ前、前は進み行方也。進て行ンと欲する所に險難あり。大河ならば、舟か川越の案内を待て可行。山路の切所ならば、狩人か杣人の案内者を先に立、路次を作りて可レ行。大敵强敵の國に入は、可レ勝謀有て後行也。九五の主、剛健なれども待事ありて動時は、險難に不レ陷、困窮する事なき也。凡人にして剛健なる者は、其動ク事躁しく、其進所によりて本心を失ひ、險難に陷て困窮する事あり。平生の動作にも如此類あり

需ハ有ニ孚光リ亨ル。貞吉トハ。位ニ乎天位一ニ。以テ正レ中也

天位は九五、大君の位也。天地人の三極并立て天子たる故に天位と云也。其徳なき時は虚位也。需の時、九五の大君陽剛正中にして天位に位し、人民の父母たる天職を任ず。雲天上に升れば必雨と成てくだり、万物を潤養するの象也。今陽明正中の君、上に位す。必仁政を行て天下を潤養すべし。これ孚の光有て、亨り充る也。貞正は民の父母たる天職にかなひ、民と共に樂む也。大君の正中是より正しきはなし。政あしければたとひ民に作り取にさせても、凶年には饑饉し、餓死する者あり。工商はなをしかり。政善なれば、凶年にも餓死する者なし。是を政を以衆を養ふと云也。天地生々の理に應じて、長久の政なれば也。吉善これより大成はなし。時に中せざれば正しといへども如此の功なし。時中を得る事は賢才にあり。故に賢才をあぐる事は、天位に位し、天職を行の第一義也。則中孚の裏にこもれり

利レ涉二大川一。往有レ功也

涉二大川一はしのぎがたき大難をしのぎ、勝がたき大敵强敵に勝の象也。内の調をる敵の虚を待て不意をせめ不備をうつ也。皆時のいたるを待て進行時は功あり。文王一たび忿て天下の民を安ずる是也。北狄は國大にして强敵也。周の國北狄に近き故に、大王以來これをふせぐに難義也。文王土産などをつかはして和をなし、民を害せざるやうになだめ給へども、欲にあく事なくして、中國を犯す事止ざれば、大に忿り一たび伐て退け懲し給へり。强大の敵といへども、聖人の神武に敵する事あたはず。故に君子は不レ戰、戰ば必勝もの也。是利レ涉二大川一。往有レ功也。皆待て利あり、功あるの義也

或問、經文に戰陣の事は見えざるに、引用る事は何ぞや。云、聖人の大道は足レ食足レ兵信レ之の三を大綱とす。需は飲食の道也。食足時は、兵を備べし。食兵足て後民に信を可レ教也。鳥獸の田畠を害するも、食に付て出、盜賊の人を害するも、食を求て來り、戎狄の中國を犯すは、禽獸盜賊の食に付がごとし。食あれば食に付て害あり。大川は患難の事を象をとるたとへ也。患難には必兵を備ふれば也

象曰。雲上二於天一需也。君子以飲食宴樂

需の卦、下乾上坎也。水は卑に付てくだる。たゞに天に上るべからず。雲氣蒸て天に上り、必陰陽の和洽を待て雨となりて下り、万物を潤養せんとす。今仁德厚き君、天位に上りて、衆民其恩澤にうるほふべき象也。此時にあたりては、上下なすべき事なくして、家にしては父子夫婦兄弟、國に出ては君臣朋友、飲食宴樂して、五倫ます〲

和治するのみ也。宴樂には必禮樂を以す。詩の周南の樂章、鄉樂、宴樂、射樂に用といへり。或は祭祀終りて酒宴あり、諸侯の朝覲の禮樂には、定日ありて射禮を行ひ、射終りて酒宴あり。君臣の情を和する處也。是皆飲食宴樂の事也。終日酒を飲ども醉にいたらざるは、禮あるが故也。賓主百拜すといへるも、親ミを厚する所也。〇是によりて民ますく樂利を得、樂める君子は民の父母なりといへるもこれ也

初九ハ。需ニ于郊一ニ。利レ用ルニ恒ニ。无レ咎。

初は險難に遠し。郊に待の象也。郊は曠遠の他也。遠く待者は遠き慮あり。險難の世に居、早く事をなし、先進む者は、多は凶也。平常の道を用て、險難を心とせざる時は无レ咎也

象ニ曰。需ニ于郊一ニ不ル也レ犯シテ難ヲ行一也。利レ用ルニ恒ニ无シトハレ咎。未レ失ナハ常ヲ也

不レ失レ常とは、性命を乱世に全くして、聞達を諸侯に不レ求者也。諸葛孔明、庶人たりし時のごとし。初爻は庶人也。九は陽實也。陽剛なれ共難を犯して進み、不レ可レ行。庶人は世間の禍福ともにあづかるべからず。世界は我心の誠より成て、乱世に生れても治世のごとく、當世に仕ても古人のごとし。いつも恒を用ひて世間の是非善惡にかゝはらず、みづから其利を利とする時は无レ咎、无レ凶、唯常を未レ失也

九二ハ。需ニ于沙一ニ。小シキ有レ言。終レ吉ニ。

九は陽剛の性なれば、其心進み往べし。しかれども中正柔順の道を得て不レ輕動、勇知を養ひて時を待者也。沙は水に近して、險を去事遠からざれども、いまだ患害には及ばず。小言ありとは、言路の傷にして大なる害なし。需レ沙は事に臨て恐れ、謀を好てなす也。九二陽剛の才を以、柔順に居。柔能剛を制し、剛よく柔を制する象也。初は處女の如く、後には脫兎のごとしといへり。剛を以て中を得るは終に吉なる道也

象ニ曰。需ツトハ于沙ニ。衍在レバ也レ中ニ也。雖ドモ小シキ有リトレ言。以テレ吉ヲ終フル也

衍在レ中は、言の傷を不レ念、心にかけず。寛裕にして急に不進、先勝て後戰が如し。故に吉を以終る也

九三ハ需ニ于泥ニ。致ノ寇ヲ至ル

泥はすでに坎險に陥る象也。水は淺ければ渡り、深ければをよぐ。泥は入こと深ければ、足のふみ所なくして渡るべからず、をよぐべからず、人馬ともに不レ叶地なり。陥る時は死をいたすべし。寇難のふかきたとへ也。九三、其性剛健にして不中也。健体の上に居、進み動の象也。慮りなく進て險に逼るは喪敗の漸也

象ニ曰。需トハ于泥ニ。災在ル也レ外ニ也。自リレ我致スレ寇ヲ。敬愼スルハ不レ敗レ也

坎險は外卦也。災外にあるの象也。九三、剛に過、已に進て迫る。これによりて寇をいたせば自レ我致レ寇也。人にして不仁なるを惡む事甚しきは乱なりといへるも、小人の惡をにくみて、寇害をまねく者多きを云。

敬愼する時は、不敗の戒を知べし。推極むれば寇は我よりまねかざる者は少し。故に仁者に敵なし

六四ハ。需二于血一出レ自レ穴

血は殺傷の物、穴は險難の所也。甚危地なれば、血に待の象也。然れども六四柔にして陰に居、能待事ある者也。身に有ては血也。外に有ては水也。血は体に充、水は穴に滿て後行也。山下に出る水、其初はさかづきを浮ぶべし。こゝかしこ險に遇て急に進まずといへども、其源やまざる時は、險をさけず、穴に滿て後進み行、終に大川をなせり。出レ自レ穴は終に險難を出るなり

象ニ曰ク。需ツトハ二于血一。順以テ聽也

六四、險難の中にありといへども、順以聽。故に凶に不レ至して終に險難を出る也。三よく敬する時は、坎險に迫といへども不レ敗。四よく順なる時は。坎險に陷るといへども出すべし、敬と順とは險に處するの道也といへり。世の患難の中に居て、のがるべきものは敬順の道也。戰國の時、小を以て大に事るも、順以聽也。故に險難の世といへども、其國を有つ者也。大なれども弱なれば、强に順て其國を有つべし。强をたのみて大に敵する者の、終に亡るは、不レ順聽の天理に背けば也。故に天を恐るゝ者は其國を有つといへり。佐々木定貞近江に住し、大國をたのみて信長に敵して、一戰に國を失へり。大國を有ても武道に拙く、信長に敵すべからざる我身のほどをわきまへ

ず、不順不聽にして天を不恐故也。武田勝頼は信玄以來、將士ともに武勇のほまれあり。然れ共其身の强剛なるに自滿して、大(ダイ)に敵して終に亡びたり。此外和漢共に其例かぞふるにいとまあらず

九五ハ。需ツニ于酒食ニ。貞クノ吉也

雲天に升る時は、万物雨澤を待て養ひを得也。需ニ于酒食ニは、人民飲食を侍て養を得る義也。飲食の道は一日もかくべからずして、衆を養ふの善道なれども、人の大欲存すれば、禮ありて正しき時は、至善にして吉也。需の時、九五衆を養の主たり。陽陰中正にして尊位に位し、下同德の三陽を待。三陽上り進て陰は引て退く。此時坎可レ平、險可レ夷、君子の道長じ小人の道消す。各其所を得る也。陰坎は本より下に在もの也。陽乾は本より上に在者也。君子朝に在て小人を治め、小人下に在て君子に從ふ。是を太平の世と云。貞吉の至也。此時に至て別(ベチ)に作爲なし。酒食宴樂するのみ也。初九は庶人の秀才也。九二は政を執(トル)賢臣也。九三は諸侯也。諸侯天子に朝す、天子是を賓とす、我に嘉賓ありといへる是也。君臣の情和して、其人品を知。善を好して不能を惠み、其國に歸ては民に父母たる仁政益厚し。故に天下の衆民上の宴樂を以て樂みとする者也

象ニ曰。需ツニ酒食ニ。貞クノ吉也トハ。以スレバ也中正ヲ也

酒食は宴樂の具也。酒ははかりなし、乱るゝに不レ及。是酒の中也。氣血を乱に不及也。飲酒中を得る時は、氣血を養ひ、過る時は氣血をみだして病を生ずる也。酒狂の乱は心を乱るの大過也。食は人身を養ふといへども、過る時は又食傷或は食滞の病を生ず、朝夕の食は藥方のごとし。君臣佐使あり、食は君藥也。汁は臣也、菜魚肉は佐使

也。皆食の氣を助て勝しめず。又酒食ともに養生にのみ專なる者は、却て正を失ふ事有。正に偏なる者は養生を不得事有。唯中は養生をかねて過不及なき者也。故に曰、酒食貞吉、以二中正一也

上六ハ。入二ル于穴一ニ。有二不レ速カナラ之客三人一。來リテ敬レス之。終吉也

上六は坎体の上爻也。水本上に在べき物にあらず、しばらく雲氣に乘じ來れ共、勢つき時至て下降するは本所に歸る也。穴は險難卑下の所、本に歸るの象也。不速の客三人は、乾の三陽也。本上に在べき者也。時を待て本所に來る也。上六の爲には客の象也。客は敬禮すべし、宅を讓りてのがれかくる。禮讓を以て進退す。身安く心樂しめり。故に終に吉也。上六のよく理に順て吉を得るは、日本神代の昔、大貴尊、天照皇の御孫瓊々杵尊に、此國を讓りて隱遯し給へるがごとし。是三輪明神也。山を社として鳥井のみあり。巢穴に隱給へる象也。巢穴は上古の居所也。隱るゝ象によりて後世隱遯の所にもいへり

象ニ曰ク。不レ速之客來。敬シテレ之ヲ終吉也トハ。雖レ不レ當レ位ニ。未タ二大ニ失一ナハ也

陰柔の質にて、坎險の終りに居、よく險難に勝べき者にあらず。是位に不レ當也。然れども身の不才を知て、賢を待て讓る。故に大失なし。人を知は知也。自知は明也。需の上六は自己を知に明かにして又賢をも知て敬す。故に患難の極に居といへども、吉を以て終る者なり

易經小解　巻第六

☰☵ 坎下乾上　訟は下より上に訟、故に訟の字言に從ひ公に從ふ。言公儀に出るを訟とす。今の訴訟事是也。公事の字心は訟の字におなじ。下爭公事にまかする義也。需は飲食の道也。飲食には必爭訟起る。田畑の多少、山野の領分、迹式の分布、私に分ち難く爭やまざる時は、上に訟ふ。是訟の需につく處也。卦の象天は左旋し。水は本逝す。行こと相違す。志通せず、心和せざる時は訟を爲の義也

訟有ㇾ孚窒。惕中吉。終凶

下坎の中實は孚象也。上下二陰の中に陷て出ることあたはざるは窒る象也。ふさがらざれば訟なし。孚有て不達、理ありて通ぜず。勝負吉凶未可必。故に惕る中は必とせず、時中に順ふ也。不實不理の方よりあつかひをなさば、心にみたずとも人にまかせて堪忍する時は吉也。必所存を遂終らんとする時は凶あり。諺にも理のとらするは非の一倍といへり。たとひ訟に勝ても冠をまうくるは凶也

利ㇾ見二大人一。不ㇾ利ㇾ渉二大川一

大人は剛明中正にして訟る處を決す。實不實、理非明白也。故に實あり、理あり、物は大人を見るに利有也。訟は平和の事にあらず。危險を履て陷るべからず。大川は危險の象也。故に渡るに利あらず、訟は安處を求むるが爲也。然るに危地に入は凶をまねくもの也

彖曰。訟上剛下險。險而健訟

內卦の坎は險岨の象也。外卦の乾は剛强の象也。心はげしく氣勇强也。此なる者は心に合ざる事を堪忍せずしてうつとふるもの也。故に險にして健なるは訟也。是を內險にして外健也と云り

訟有孚窒。惕中吉。剛來而得㆑中也

天山遯の卦の九三來て九二となり、六二往て六十と變じて、天水訟となれり。九二は本艮なる故剛來と云り。九二は內卦の中にして訟の主也。故に中を得ると云り

終凶。訟不㆑可㆑成也

訟は凶事也。不得已也。双方得心して無事にならんは訟の上の吉事也。故によき奉行は對決の場に出ても扱ひありといへば、不聞してゆるせる也。双方の是非明かに決斷する共、訟のなきに隨ひ、故に訟不可成といへり

利㆑見㆓大人㆒。尙㆓中正㆒也

大人は有德の君子、則九五也。訟のふさがるもの也。大人に見て明決を求る也。正しけれども中ならざれば、理非

はたがはざれども、賞罰嚴になる事あり。中は罰に過る事なく、溫和慈愛を以て双方心得し事おだやか也。故に大人に見ことを願ふは中正を尊く也。虞芮の民は文王に見事欲して周の國に入、爭田を不訟して理決す。鼠牙雀角の詩は女子に訟て召公に達して志を遂し也。是召公中正の君なれば一詩を以訟も又止たり。古人善美の風俗を知べし

不レ利レ渉ニ大川一。入ニ于淵一也

本義に卦變卦体卦象を云り。剛來て中を得るは卦變也。尙中正は卦体也。入于淵は卦象也。不利渉大川とは危險の事也。大人あらばみて決を求むべし。然らずば止むべし。淵に入の凶を思ふべし

象曰。天與レ水違行。訟。君子以作レ事謀レ始

天は上、水は下、相違て行く。二体違戾るは訟の義也。若上下相順はゞ訟何によりてか興らん。君子天水の象を見て人情爭訟有ことを知るといへり。天水の始乾陽は坎水に生じ、水は天に生ず。乾坎本同氣にして生ずる物也。一動の後相悖て行、遂に天淵の濟あり。是によりて天下の事細微に謹むべき事を知といへり。禍難の端、其始は大ならず。故に君子作事謀始也。爭端を事の始に絕時は訟不生。謀始の義廣し。書契の政の類也。禮は飲食男女に始ともいへり。是禮は謀始の大なるもの也。或問。天は三才の始、水は五行の始也。何ぞ相違といへるや。云、しばらくかりて象をとれる也。然共象の本は天象也。自然と理に出て示す處の天敎也。六十四卦の象、則聖人の則とする處の天敎也。天水もと同氣に生ずと雖相違てゆかざる時は、造化の功用をなさず。天に在ては相違にあらざれども、人情事變の世に象をとる時は相違とす。易の用也

初六不レ永レ所レ事。小有レ言。終吉

初〔〇六〕は柔弱を以て下にいる庶人の爻也。實ありてふさがり理ありて不達時は訟ざることあたはず。然と雖下賤微弱の身なれば訟難し。されば訟てもはやく事の是非明べきか。永かるべき理か。或は相手の方によき助ありて、事の是非違ふべきかの品々あり。公儀の事知たらん者に相談して、永かるべき勢ならばやむべし。又直訟ても下にては實不實理非分明なることに月日をたてゝ、決斷なくゆへありと知て永訟べからず。庶人の微賤なるもの、永ロ事に勞すれば、家職にすさみ、家財を費し、家の衰微に及ぶもの也。たとへば非道にとられたる田地を取かへさんと思ひて、訟かゝり、後には殘りの田地迄うりて、貧乏に及ぶ物あり。かしたる物をとりかへさんとて訟に出、今持たる財用迄つかひ捨て、困窮に及ぶものも有。一朝の忿りに其身を忘れ、永口事に取むすぶは、子孫迄衰る凶也。その上に思ひよらぬ患難も出來るもの也。皆事とする處を永くするの過也。小言のやぶれ有ども、幾をみて早く止時は訟の吉也。是又過を改るの一端なれば終に吉也。我身の實と思ひ、理と思ふにかたより、忿戾の心より世中の勢を不知ものは自凶に入なり

或問、人のものを借てかへさざる程の不義不道はなし。是を訟たらんには、決斷の成難き理なき事也。然るに事ながきは何ぞや。云、理屈にて云ば然り。然共世の中の勢といふものは理の外にして又理あり。家用不足にて借物し、共利を出せば後足ざる故に、三五年は利ばかりは出せども、彌勝手つまりては無是非元利ともに出し得ざるものあり。それを理屈の儘に返辨せよといひても勢成がたし。双方共に是非は付がたき故、或はあつかひ、或は時節を以

て取べし。隨分出すべしとなだらかに下知せんより外の事なし。かりて愷に返辨するものは、當分の不足にて、重て返すべき心宛ありてかりたるもの也。その心あてもなく、不足なるまゝにかるものは、十人が八九人迄も後々は不返に至るもの也。世間大方如此なれば、かす者も此勢は初に分らすべき事也。易の理も君子なれば、なすべき事なれ共、常人の交り、世間勢によりてならひ給ふこととおなじ。有道の世は少し。道なき世は多ければ、ものゝ象もまた自然と其勢あらはるゝもの也

象曰。不レ永レ所レ事。訟不レ可レ長也

長はいひつのる意もあり。我理に自慢して、云つのりて訟る也。片言獄を斷るべしとて、剛明の奉行、訟の言を皆迄不聞、半分聞ても實否理非は決斷することとなれば、日月を重ねて滯るは奉行の不明歟。贔屓の沙汰か。いかさま故有と知て止べし。いひつのりては、內の憂か、外の災か、凶事あり。非公事の者は事の長きを悅て、その中に才覺をする物也。奉行人のまいなひをとらず、心と依怙をせざれども、奉行所へ出入するものにまいなひ、世間沙汰に取成て、理非をあやまる樣に言だする事も有。訟のみならず、小人の君子を讒するも、必しも世間沙汰になして、方々よりあしくいはするもの也。世間沙汰は奉行も聞度思ひ、讒とも思はず、理を持たるものは理と思へば、何らの才覺もせず。非なる者は種々才覺をなせり。君子は何心なくゐるに、小人は晝夜精力を勞して君子を讒する才覺をすれば、古より君子の難にあへる事常に如此

雖二小有一レ言。其辨明也

有言は相爭の類也。今のかけ目安、うけ目安の如し。一方きゝたる時は、目安を出したるもの皆理のやうに聞ゆ。對決の上ならでは理非しられざるもの也。夫さへあしくすればまぎるゝ事、皆言のやぶれの類也。其辨明なれば奉行人私なく聰明にて理非の分辨明に決斷せらるゝ也。此時の奉行は九四也。大臣にして民命の安否を知者也。今の郡代のごとし。古は大臣の中より郡代職を兼たり。堯舜の代后稷は五人の賢臣の內にて民の司也。文武の時は、公は三公にて民の事を知給ひけり。民は國の本なれば、大臣にて君位に近き賢者是を司どりたるがよき也。今も十万石以下は家老同事の臣にて郡代を兼るもあり。初と四とを相應といへるも、郡代と民との象あればなり。上に立て下民の安否を心にかけてあはれむ職分なれば相應也。前にもいふごとく女子剛强の男子に求られて一詩を作て志をふくみ、召公にさゝげたり。今のうけ目安のごとし。召公あはれみ給ひて、女子の志を立しめ男子を制止したまひたり。鎌倉北條の時代にも老女の訴訟を短すによりて、評定所へ出したれば、執權あはれみて、老女の道理の通りに下知せられたりといへり

九二。不ㇾ克ㇾ訟。歸而逋。其邑人三百戶无ㇾ眚

九五九二相應なれども、五も二も剛なれば相敵して不與。九二剛を以て險に居て訟の身なれども、九五の君位に敵すべからざる事を知、故に歸て逋る也。三百家ある小邑にかくるゝ也。大邑は上に疑ひあり。みづから不足を知て小村に退くときは災眚なき也

或問。退き隱るゝものは三百家をしたがふるも過りにあらず。云、本の身代に相應福島左衞門浪人となりても領四

百石也。其外諸侯の身代果たる上万石よりすくなきはなし。三百石は甚少し、自退くによりて也。九二は本遯の九三より來る、九三は下の上にて諸侯也。天子の國に入て政道をとり行ふもの也

問、九五は大君の爻也。九二九五は訟んには大君上になし、誰にか訟べきや。云、此五二は諸侯の君臣の象にも取べし。諸侯の家臣、其君を訟たるためし有。日本にては、主人の事を大君に訟て、すでに公儀にて主人と對決せし者あり。十分本望は遂、いひ勝て主人の身代果しも、其臣の無事なるはなし。勝ても戻也。况や臣にあやまち有ば、其つみのがるゝ所なし。主人を敵になして公儀へ訴るより非義無道の大なるはなければ也

問、諸侯の身代を倒したるは多は家老也。家老の爻は四也。二とは何ぞや。云、四は國家の後見にて權を取事なし。若四にして國政をとらば、二にくだりて奉行職となりたる也。二は位は四より下なれども權威は四よりも重し。古は三公にて二の職を兼たるもあり。是上古には三公其宗を世々にせず、德業次第にて其身一代切也。周公召公大公は三公にて二の職を兼たれども、子孫は皆諸侯に下りて職を世々にせず。伊尹も然り。日本にても北條家の泰時以下位四品を越ざれども、權威は武の大君の勢也。是は下に近からでは政道明かならざる事を知て、虚位の君を立て、臣の位にくだり、直に政を取れり。實はその時の天下の主にて二の位に至る者也

象曰。不レ克レ訟。歸逋竄也。自レ下訟レ上。患至掇也

象傳を以て見れば、諸侯の君臣の象也。主人の政道正しからず、恨あるによりて訟る也。その事は臣の道理にして、義は乖きたる故、自禍患をまねく事、木の實抔を拾て掇て取がごとしと也。長田の所司が平家の時の權勢にへつら

ひ、主の義朝を弑して上京し、忠也として訟たるがごとし。主君と相訟たるの無道前に論ずるが如し

六三。食㆓舊德㆒。貞厲。終吉

三にて諸侯也。食舊德は親先祖の德功によりて諸侯の列にある也。訟の世二剛にはさまりて危地也と雖諸侯の作法を正しく守りて、惡しき事だになければ終に吉也、吉は其國を長くたもつ也。諸侯生れながら上臈にて、文武共に達せず、善なれども柔弱也。二剛に迫られて、訟べき事有といへども、柔善なる故不訟、權威に恐れて默するもの也

或㆑從㆓王事㆒无㆑成

王事は政也。世にさはらず人よき者を世こぞりてほむる者なれども、多は才知器量すくなし。ケ樣の者はあげ用ひられて、政に從へども成功なし。器量あるものは人ににくまれ、そねまるゝなれば、そしりはありて、ほまれはなしと雖、用る時は成功あり

象曰。食㆓舊德㆒從㆑上吉也

先祖の德功によりて、その身は德功なけれども國をうくる也。先祖は先王の恩德を蒙り、我は當今の仁惠を得たり。剛明の才なければ、獨立して政にあづかりがたし。上の命令に從て事を務る也。剛明の國には柔順の臣有て令命を傳へ行時は、下知する者也。幼君に弱君が事へては、柔順の臣は忠義立がたきもの也

或問。上に從は上九に從ふ也、といへり。然るに吾子君命を去るは何ぞや。云、上九は相應なれども、君にあらず。君は九五の大君也。上九は師保の位也。三の諸侯と相應は國の大君と師同じくする也。師を同じくするは道を同じくする也。諸侯は大君の德とも大君の政を以て國の政とす。如此ならざれば大君を助て四海に施すこと叶はず

問、此說有や。云、定めて古人の說も有べし。いまだしらず。たとひなくとも易の象をとり、理をとる事は無窮也。窮あるは易にあらず

九四。不ㇾ克ㇾ訟。復卽ㇾ命。渝安貞吉

九四は剛强にして不中也。訟を好者也。然共三は柔弱にしてともに訟るものにあらず。初は陰柔にして我に從ふ者也。九五は君なれば不可訟。故に訟んと欲して訟る事あたはず、敵對するものなき故に、自然と心平易に成て、本心の靈明あらはるゆへに復す。復は一陽來復の意にて善心の發也。命は天命也。天命の我に賦するは理と氣となり。氣には柔弱剛强のかはりあり。理にはそのかはりなし。理は氣の主にて氣を變化する也。故にみる〔〇二字本ノマヽトアリ〕時は柔也と雖必剛也。愚也と雖必明也。理は天下の眞也。故に卽今は正理に卽也といへども、渝は氣質を變化する也。訟を好は儉しき心也。變化する時は安易也。貞は正也。正は常也。儉は跡也。常にあらず、凶をふくめり。過を改て正常に歸る時は吉也。聖人過なきをたとび給はず、よく過を改を貴び給ひけり

或問、九四の變渝は敵するものなければ也。敵あらば必訟べし。よく改るものにあらず。云、聖人の政は常にかくの如し。惡を共にするものなければ、與に善をするより外の道なし

或問、訟の時とて貴賤共に如此訟を好めるは何ぞや。云、訟の時世とて別にあるにはあらず。後世の躰、所司代町奉行などの門には訴訟人たゆる事なきがごとし

象曰。復卽レ命渝。安レ貞。不レ失也　不失は本心を失はざるなり

九五訟元吉

大君の訟を好は德の至り善美の極也。元吉は吉の本元にしてその枝葉天下の吉となれり。九五の訟を好に異也。下の好は各其憤を訴んと欲す。大君の好は下の訟を聞ことを欲す。天下に一人も怨み憂るものなからしむるが爲也。堯舜の諫鼓謗木是訟元吉の至り也。故に聖主此訟を好は訟なからんが爲也。武を備るは兵亂なからんが爲也。故に武の字は戈を止るとかけり。訟の字は言公也。天下の言公なる時は訟なし

象曰。訟元吉。以二中正一也

九五、陽明の質にて中正の道を得て天位に位す。正なる時は曲直わかたず、中なる時は過不及なし。曲なる者をいかれば罸過るもの也。賞の疑しきは重くし、罸の疑はしきはかろくすと云り。罸輕き者を罸せんよりは、刑すべき者を刑せざるに失する時は、好生の德民心にあまねし。是を以て有司を不犯となり。不及がごとく過ち有ごとくにして、訟なく罪人なきに至る。是大君の中道也。中正を以て元吉なる所也

上九。或錫二之鞶帶一。終朝三褫レ之

九は訟の終處に其訟を極む。陽を以て上に居るは剛健の極也。故に訟を遂望まれて爵命を受たり。鞶帶命服也。先祖の功有歟、或は筋目か、先例有か、いかさまに其理有て賜はる爵命なれども、服其人に叶はず、訟て受たるものなれば同朋の貴賤ひとねたく思ふ也

象曰。以レ訟受レ服。亦不レ足レ敬也

功德によりて受たる服命をば人皆是を敬す。是は功德なく、訟によりて受たれば、人情に叶はずして敬する心なきなり。平の清盛惡逆無道にて、大政大臣の命服を受たる望を叶へ賜はざればならざる勢にして、訴訟によりて爵位を受たり。一門皆然り。故に天下是を奪ひたく思はざるものなし。僅に二十餘年にして平氏の亡びたる所也。其剛張肆にして訟を窮て禍をとり、身を喪す固に其理也と云り。五百歳後に生れて何心なきものも、清盛がかくして抔言て、清盛のかくせられてといふものなし、是爵命を盡く奪て匹夫となしたるところ也。桀紂は天子なれども、千歳の後の者迄も、天子の命位を奪ひて、匹夫のごとくいへり。是人心の靈天命の自然也。或問、初は不永事、二は不克訟、三は守舊居正非能正者、四ハ不訟復就正理、五は聞訟皆訟を止る也。唯上を極て鞶帶の陽有と雖、不終朝して奪はる辱も又甚し。然ば訟一卦の体、皆訟を成べからず、元訟は吉事にあらず、故に終る時は凶也。然るに今吾子大君の訟を聞事を好は德の至り、吉の大なるもの也、といへる何ぞや。云、訟一卦五爻訟を成べからざるは教也。九五の好聞訟は姦曲なく怨民なからんが爲也

易經小解　卷第七

䷆坎下坤上　師の興る爭あるによれり。師の卦の訟に次處也。九二の一陽下に居て衆陰を統ぶ。六五柔を以て上に居て是に化す、人君將に命し師を知すの象あり。九二は將軍の象也

師貞。丈人吉。无レ咎

師は正義を□とす、故に君子は名なきの軍をあげず、名といふは義兵也。たとひ兵を興す處は正しくとも、大將たるもの丈人にあらざる時は吉ならず。必丈人にして後貞にして吉なるべし。軍正しくして吉ならざる有。吉にして不正ものあり。君子は正と吉とを兼て動く。故に无咎。吉は戰て必勝をいふ。丈人は訟に老成人也といへり。文武の才德成就して年も又四十五十以上の、事になれて人情事變に達し、兵術も練たる人也。伊尹大公望諸葛孔明など眞の丈人也。富貴にもおごらず、貧賤にもくるしまず、患難にも不屈、威武も其心をたはます事あたはず、天魔もその心を奪事あたはず、飲食美食も淫する事あたはず。是を大丈夫といふ。如此賢者は稀なれば、主上の軍を嚮る本心だに正しくば、大將の器量有りて勝負の利にさとき人を用て軍將とせば、今の丈人なるべし。年若くても義經楠正成抔は軍將の丈人也

彖曰。師衆也。貞正也。能以ㇾ衆正。可㆓以王㆒矣

以はよく兵衆を進退左右する也。其外正道にして大軍を進退左右する事自由なるは王者の軍也

剛中而應。行ㇾ險而順

九二の將軍剛强の質にして中道を得たり。六五の大君の命應じて師を發す。兵は凶器也。戰は危險の事威和並び行れざれば大功をなし難く、順は士卒和して一致する也。水は柔順のものなれども和して一致なるが故に、大水の盛なる勢にはむかひ近付べからず。大將の威に恐れ德に和して、その軍勢よく下知に隨ふ。故に杖を作りて秦楚の堅甲利兵をうたしむべし。商湯七十里の小國を以て天下を征す。周武三千の兵を以て紂が億萬の大軍に勝、危險の至極なれども、よく戰者は至仁を以て至不仁を討、先勝て後戰ふが故也。是を順道と云也。敵の衆も身方の衆也。仁者には敵なし。主たるべき人は身方の衆の多をまたず、大命を達して軍を出す。君子は不戰、戰へば必勝といふもの也

以ㇾ此毒㆓天下㆒。而民從ㇾ之。吉又何咎矣

軍旅の興る民の財を傷り、人を害し、天下を毒害する事也。然ども人民我生死のかゝる處を知ながら、是に從ふ事は、仁義を以て動くが故也。東征すれば西夷怨む。民心の服從如此。故に吉にして咎なき也。仁義の失なし。德の化なくして軍勢を催すはしゐてかり集る者也。民の從ふにはあらず。故に咎ありて吉凶相半也。よく勝て吉なるも

のも、義にかなはざれば咎あり。故に終にはその國亡び、子孫絕るものあり。甲斐の信玄など是也

象曰。地中有ㇾ水師。君子以容ㇾ民畜ㇾ衆

水は地に外ならず、兵は民に外ならず。ものゝ聚るは地中に水有より大なるはなし。人のあつまるは軍旅より多はなし。故に地水の二卦を合て師とす。人情爭訟なきことあたはず。爭訟あれば師興る事あり、必然の理也。故に君子は治國なれども乱を不忘、君子師の象を見て容民畜衆のその民を容保し、その衆を畜聚す。故に能民を養ふ時は、衆を得べし。古傳に容民和衆は民の德也と云り。民をいるゝ時は流民なし、畜衆ときは叛衆なし。古は農兵合一、居則爲ニ比閭族黨之民一。役則爲ニ卒伍軍旅之衆一。容ニ之於無事之時一。而用ニ之於有事之日一。此衆則此民也、と云り。よく仁政を以衆を治ときは衆の心上に服す。是衆の心の上に聚る也。平生は國中に散在すといへども、用る時は速かにあつまる也。畜は敕六反、聚也。又許六反、養也。蓄は敕六切、積也。通作畜と云り。無事の時衆の心服得て軍旅の事あり。日々に用るは畜人たるものを旅するがごとく、亦五穀代用のたくはへなくては、軍に從ひ士民を養ふべからず。地中に水あるの象也

旅は族か

初六。師出以ㇾ律。否臧凶

初六は師の始也。故に軍を出し軍を行の道を云、律軍法の嚴なるを云。聖賢の法を嚴にし賞罰を正しくするは軍法也。法乱れ軍敗れては多の人命を亡す事なれば、是を始に愼む也。臧は善也。軍に勝をいふ。号令不正とも幸にして勝者あり。是は俗にいへる敵のさせる高名也。敵あしき故に不慮に勝たるものなれば、功者なる敵にあへる時は、

人制云々ノ條威光云々ノ條誤字有ルベシ

宣ハ宜カ晉ハ者カ

大に敗軍する者也。故に軍法を正し厳にするを本とす。否ときは幸にして勝たるも、後日の凶也。運は天にあり、負か勝か戦て見よといへる如くなる軍、古今多し。君子のせざる事也

象曰。師出以レ律。失レ律凶也

律法に本あり、義理に合て乱を禁じ暴を討し、仁義を以て動くを本とす。不然時は戦て勝といふとも凶道也。殃民害義の故也。或は眼前に軍を敗し、或は後日に国を亡す。その占眼前に明也。本を失ふの凶をいへり

九二。在レ師中吉。无レ咎。王三錫レ命

人制之間以下者、将軍制之、軍功爵賞、皆決於歸、而譽之と云り。下に居て常に専なる時は臣たる道を失ふ。師に有て専ならざる時は成功なし。成功なく軍敗するは不忠也。故に中道を得て吉也。軍功大にして亦臣たる道をも失はず。故に无咎也。三だひはものゝ極也。王追々に命じて軍務の事を専に倚化せらるゝ也。九二の将は則大人也。威光、厥愛允濟愛、厥威允罔功、九二剛勝之、将能用中、是以有功而宣舊寵錫晉也といへり

象曰。在レ師中吉。承ニ天寵一也。王三錫レ命。懐ニ萬邦一也

軍中の制を専にせしむるも君命を奉じて行也。私の威勢心にかけず、故に大君その忠心を好して寵あり。其寵にもほこらずして中道を不失也。又王命の主意をたがへず、諸国を懐る也。軍制にも降る敵を不誅。北るものを不逐、のがれかくるゝをもとめず。向ひ近付て敵するものをのみ制する也。戦勝ても其反逆の棟梁を誅して、従者をばゆる

す也。大國は其力に恐れ、小國は其仁に懐く、萬邦服従せずといふことなし。是を萬邦を懐るといふ也。神武威震にして殺伐せざれども、四方風を望て恐るゝは王者の師也。下として太平の後賞を求めず、功成名遂身退く事を欲す、是文武二道の丈人也。天寵を亨くる處也。爻には王命を云。象には天寵を云、王は必天に稱の意也といへり

六三。師或ㇾ輿ㇾ尸凶

六三陰柔の質にして陽位居、志强にて才弱し。下の上に居て師保を不求、良臣に不順。欲する處を求めて戰を好者也。終に敗ざる事あたはず。身方多く亡て尸をになひて歸象あり。占の眼前也。日本にては武田勝頼など是なり

象曰。師或ㇾ輿ㇾ尸。大无ㇾ功也

小功の有無の傷（場カ）にては凶也と雖大凶ならず、大に功なき時は凶も亦大也。才弱の特志高慢して、良臣の諫言を不用、助なくして獨進ときは大に功なくして敗る。越王勾踐のごとき是也。又衆主といふ時は國君愚弱にして軍を統る事あたはず。其外の諸將我意を立て一同せず。船頭の多き舟は山に登るといへり。軍必敗して凶也

六四。師左次。无ㇾ咎

可を見てすゝみ難を知て退くは軍の至善也。左次は退舎也。四柔を以て居て勝とあたはず、退舎の象也。仲達孔明の陣を望み見て、進て戰がたく、勝ことあたはざることを知て、退き舎り、要害をかまへ、陣を堅くして出ず。敵の能を知、身方の不能を知て、師を完くして、孔明病死の後は、仲達にまされる敵なければ戰て勝ことを得たり。

文才の能善を論ぜず、可不可をはかりて進退する時は咎なし

象曰。左次无レ咎。未レ失レ常也

軍は進を以て強とせず、退を以て弱とせず。勝べき道ありて後進て、勝べからざる勢を見て退くを名將とす。戰て後に勝負を見るは明君也。俗語にめくら打合といふがごとし。勝も負るも不慮也。勝べき事を知てたゝかふよりも、不可勝勢を知て退くをまされりとす。後の勝利を知て退くものは、退もまた進也。後の勝を知は來を知る□神明也。師の道の常を知て、時の宜を失はざる也。昔足利尊氏西國中國の大勢をしたがへて數万艘にて攻上る時、新田義貞兵庫に向てふせがんとす。楠正成も義貞と共に兵庫に向べき勅命有りけるに、正成云、此度兵庫に向て勝べき利なし。義貞をも召返され、山門に行幸ありて、義貞に警固させ給ひて、正成は河内に罷歸て、難波の津より淀川を上る西國中國の兵粮の運行を切ふさぐべし。然れば大勢の軍兵忽に粮につかれて皆歸る志有べし。その時は正成攝津河内大和和泉の勢をしたがへてせめ上り、義貞と謀を合せて京を攻んに、尊氏を追落さんこと、たなごゝろの中に有、と奏聞しけれ共、公家の評諚是にしたがはず、敵によせられて度々山門行幸も見苦しかるべし。毎度正成が敵に合て負たることなきをたのみて、是非罷合べき由、命ぜられたる内に、正成〇〇〇〇〇、その上義貞の行迹も心得ず、はかぐ\しき事もあらじ、と思ひける所に、勝べからざる勢を見て向なれば、討死と思ひ定めたり。いつも正成勝利を得ことは勝べき勢なり。謀有て後に軍する故也。勝べき勢なく謀なき時は退て後の勝利をはかる、是良將の常なるに、向はゞ必勝べきとの心には、無下に不案内なる事也

或問、そのとき勝べからざる勢は何ぞや。云、宮方は無勢也。尊氏は多勢也。兵庫表の平場の合戰に、無勢を以て多勢に向ひ、勝べき謀なくして軍せば、たとひ身方不屓とも、敵の新手を入替〳〵戰ひ、身方には新手なく、人馬共につかれなば、義貞正成等手勢斗は千騎が一騎に成迄ひかずとも、國々の付勢は氣つかれて引返さば、義貞もやむことを得ずして京へひかるべし。正成今迄弓矢の道に一度も越度なき名將にて、すさまじき軍して負てひかんは恥辱也。勝べき謀なく、多勢に加りて平場の軍する物は討死を極てする者也。後度の勝をふくみ敵を亡さんと思ふ者にせざること也。尤正成心よく軍し、大軍を打破りて河內へ歸ることは易かるべけれども、多の身方をうたせ、精兵餘多失ひては、後度の軍も難義也。是も大功を立んと思ふもの丶せざる事也。其上九州は人の心たしかにて末々の者も義理をおもへり。今上る勢手いたく軍して、將軍に見せ參らせんと思はぬ者はあらじ。未年をかさねて數度の合戰有べきも、小勢の精兵を失て、益なき軍せん事は正成が本意にあらず。十に一利なき處へ無理に向しめ給ふは討死せよとの仰也。正成いへるごとく、引退き敵を思ふま丶に京中へ入、九州勢も不戰して勝たる心地し、一面目ありと思ふべし。扨川尻さへふさぎ兵粮の運行をとゞめなば、大軍のりてにつかれて英氣屈し、皆本國に歸たく思ふべし。ぬけ〳〵にはにげ下るものも有べし。其時正成は和泉河內攝津大和紀伊の勢を發して淀橋本伏見の邊より責上り、義貞は大津白川邊より敵を見いだし、正成と調し合せて責られば、勝べき謀いかほどあるべし。尊氏の勢はかてにつかれて、次第に小勢になるべし。京を追落さんこと掌のうちなるべし

六五。田有レ禽。利二執言一。无咎。長子帥レ師。弟子輿レ尸。貞凶

執言は奉辭也。其罪を明かにいひて、彼を討をいふ也。禽獸出て田の稼穡を侵害する時は是を獵立べし。戎狄來て中國を犯す時は是をうつべし。戎狄夷蠻の國に入て殺伐するにはあらず。秦皇漢武のしはざは、山林を究て禽獸を索る如くする也。書の舜典に皐陶、蠻夷猾夏、寇賊姦宄、汝作士とあり。蠻夷のゑびす、中夏に入て仁義禮樂をみだり、あだをなす事姦宄にして盜賊の如し。皐陶は士師の職なれば、是を制せよとの給ひし也。後世を以て見れば士師は征夷將軍の如し。此舜典の言則執言の始成べし。よく如此なる時は旡咎也。秦皇漢武のごときは咎有也。長子帥師、此長子は長者の徳ある丈人也。故に師を帥て大將軍となれり。舜の世にありて皐陶大禹也。弟子は不丈夫にして長者の徳なき人をいふ也。建武の頃義貞鎌倉攻に惣大將の義貞は丈人なれども、尤一揆など穉柔弱力の一備志ばかりは進みはやりけれども、兵刄を受る時にあたりては快者に勝べきやうなければ、大に敗したり。敵は是に氣を得て進みければ、思ひの外義貞の勢もろき負を仕出したり。是弟子輿尸使不當の占その凶未前にみへたり。その外君子をして事をなさしむといへども、小人交り司る時は、物事正に始るといへども共終り必凶也

象曰。長子帥レ師。以レ中行也。弟子輿レ尸。使ニ不當一也

軍に勝は剛なるが故也。九二剛强なれども、陰柔に居てよくその剛勇を養て强く不過、大君專に倚任せらるゝと雖不驕、なす事可にあたり忠に歸す。其心術中行なるが故也。また設ての給ふ也。如此將軍有といへども、長者の徳なき小人をまじへて、事をつかさどらしめ使こと理にあたらざる時は輿尸ごときの凶有べしと也。治國には賢者一人政を任じ、其下に居て小事をとる助ありてよし。其軍陣には大將一人に倚任して小人に事をとらしめざるもの也

上六。大君有レ命。開レ國承レ家。小人勿レ用

上六は師の終也。故に大君軍功を賞する命有。開國は封ぜられて諸侯となる。承家は卿太夫上士中士などゝ命ぜられて領地を賜ふ也。小人は卿太夫として政をとらしむべからず。諸侯として國を治べからず。功あらば位をあげ、祿をあたへ、或は金銀を多給ひ、太刀衣服刀馬くらなど相應にあたへて賞する也。祿は今の合力米の如し。大夫上士などの領地の貢物にあたるほど賜はるもあり。皆藏米にてたまふ也。□は今の品格よきといふがごとし。金銀は在處へ引込子孫迄ゆたかに、いる程多く賜ふ也。右は小人にて軍功大なるものゝ事也。軍功大ならざるには、其相應に金銀米穀を賜へり。太刀衣服馬ならば、下地身代よき小人の功有に當座の褒美也

象曰。大君有レ命。以レ正レ功也。小人勿レ用。必亂レ邦也

傳云、大君恩賞の物を持して軍旅の功を正す、師の終也。其功を賞すといへども、小人をば功有を以て任用すべからず。必邦をみだすといへり。軍陣危險の事に用ては功をなすといへ共、平常治國に用ゆるときは大にあしき者、和漢ともに古今多し。毒藥の病を治するがごとし。君子を用る道、小人を賞する道、各分別あり。あやまりてひとしくする時は凶をまねくなり。小人も終には罪せられて亡ぶ。功有ものを死地に入てころすは不便の事也。是を其始に功を賞する道正しからざれば大君に君子の功臣封國の賞を受ず、辭して隱者となるものあり。軍功大なるによりて、大國を受れば、後には讒せられ、うたがはれて、立がたき者なる故に、功成名遂て身退くもの也。源義經聖學ありて此勢をしられたらば、平氏を退治して上京の後、幸兄三河守を以て禁中へは奏聞し、その身は諸將に先達

て、供の十二三人斗にて早速鎌倉に至り、頼朝へ申さるべきは、諸將諸士の軍功は役人ありて記し候へば、申に及ず候。自分の武士辨慶、義盛を初て頼朝卿に奉り候。此後勇士を持ても無用の事也。國郡も望なく候。少斗の小里を幾内の山中邊にて申請、心靜に琴書をもてあそび一生を樂むべきより外に願侍らはず。是にて御暇賜り、何方へも隱遯仕度候とて、諸將の鎌倉入に出加らで、上方へのぼられたらましかば梶原平藏も讒する心とけ、頼朝もうたがはるべからず。天命をたもち(マヽ)たるよりはまさるべきに、一生患難にて終り、子孫迄絶給ひたるは、聖學のなかりし故也。其時分にしては學文も有し人なれども、身を修め人情事變に達する程の學力ならず。好人多すたりたるは、世に眞の道學なかりし故也。殘多事也。和漢の軍將に義經ほどの大功あるは稀也。中夏にも二三人の外は聞えず。義經なくば平氏を亡す事かたかるべし。平能登守、平家の一度に利なき事は、ひとへに義經が謀のいみじきをいはれたり。凡よする勢はこもる勢に十倍してこそせむる物なるに、平家は一の谷のよき要害にこもりて十馬騎也。後は中國九州四國迄も平家方也。南は海北は險難也。大手一方ばかりより攻てやぶるべき勢ならず。源氏は關東より遠路を上り、漸七万騎也。一兩年もさゝへたらば、源氏は兵粮つき、氣つかれて、皆歸（かへる）志出て、ぬけ〴〵に下り、勢次第に衰微すべし。平家はいまだ大勢に成て氣盛ならば、ひとり源氏の負と成べし。然るに義經十死に入て一生も得がたき陳じて、一時に平家の大勢を追落し、其後讃岐の矢嶋へも、わづかに八十騎舟五艘にて、人の渡海すべからざる難風にわたり、數万の敵を追落されたり。檀の浦のつめ軍は平家微弱になりて、諸將の力にも亡す事なりやすし、三年もかゝらずして、如此大敵をたやすく亡されし事は、無二の功也。是にあたるべき賞を行はれば、頼

朝卿の弟にてあり、大國二三國も賜はらでは、些以宜思ふまじ。さやうにせんは氣遣也。小國をあたへては其身の恨み、世の譏りもあらんと思はれて、梶原が讒言を知ながら、實にして疑はれたる也。大功ありて賞を受ざるのみならず、一生患難に沈み、子孫共に亡びられし事はいたましき事共也。人情の憐む處なれば、判官贔屓とて五百歲の後迄も、貴賤共に義經ひいきするは人心の靈也

或問、義經一向强過たる大將なれば、良將とは言べからざる歟。云、尤勇の過たる將なれば、いふまじき事をいひ、すまじき事をせられたる事はあれども、大なる事、肝要の所々は越度なき名將也。攝州ひよどり越、てつかいが嶺よりよせて、平家を追落されし故大手よりも心易く攻入、三河守始て大將等にぐる敵をおひ、勝て甲の緒をしめ、備を堅立ていられたり。又讃岐へ渡り矢嶋へよせらるゝ時に、十五六騎づゝ間遠に備へて段々によせられたり。是は敵路次に難所をかまへたらんには、行かゝりてとされまじ。大勢の者行かゝりて止りなば、敵の的に成りていらるべし。行かゝりて、彼是と評義しては皆跡に成て敵に利を得らるべし。先達の小勢より難所ありて越されざる由告來らば、所の案內者を先に達て、路を廻りて在家をこぼち、明松にして越され、如何樣のこともなるべきとの思慮也。從行たる人かやうの事は何れの書にありて御覽ぜられたるにやと問ければ、見たる事も聞たる事もなし。時にとりての用心也とのたまへば、人皆感心せしと也。矢嶋にて勝軍し、夜に入て陳をとられしに、諸勢は晝の合戰に草臥て、前後もしらず臥たり。義經は終夜いねず、高き所にあがり居て、遠見しておはしたり。伊勢三郎斗りは卑き所に待伏して、夜討よせば、馬のふとばらいんと待いたり。能おこたりなき將士也。阿波の民部が三千餘騎に

て矢嶋へ參るを、義經一人を遣し、すかしよせて人質に取、その勢を味方に付てよせられたり。八十騎斗にては叶まじ。然共阿波が三千騎は皆勢〔○脫有カ〕也。實に手をくだ合戰して敵を追落せしは八十騎斗也。危き所の大事の軍は矢嶋の軍也。後迄もおもしろく覺られしと也。一向に强過たる斗の大將の不及事と也。欲ありて大國を望み、天下を心がくる者は、義經のやうに十死一生の危き軍はせざる也。唯弓矢の道に越度なく、名を後世にあげんと斗の主意也。

賴朝是を察し給はず

或問、義經のいふまじきごと、すまじき事は何ぞや。云、渡邊にてさかろの事は言過也。その時梶原にのたまふべきは、西國迄舟になれたるものゝ昔よりせざる事也。逆櫓にて利を得は善なれども、取廻し惡くして利を失はゞ、後世迄のそしり成べし。只船の事は海邊になれたる者に相談して然るべし、とおだやかにのたまふべき也。又檀の浦の軍に梶原先陣を望みしを許されず、義經ならばといはれしも、大將に不似合、ひよどりごえ、矢嶋兩所の諸軍の及び難き軍して、大利を得られたれば、檀の浦の軍は誰もすべき合戰なれば、おとなしく梶原に先陣をゆるされ、諸軍の下知してゐ玉ふべき事也。又在京の時、土佐坊が討手にのぼりたる時、呼よせて誓紙をさせられしも無用の事也。其方は我を討との事にて登られたる者也。梶原が大敵に思ふ者は義經也。扨其方には中不和也。勇者なればむつかしく思ひ、義經を討おふせたらば、大敵を亡す也。仕損じて土佐坊が討れたらば、むつかしき者を亡す也。二人の敵一人は兎角失べしと分別し、賴朝へ申してのぼせたる主意をば知らざるや。義經亡びば其方をも兎角讒して失ひ、子孫も安穩ならじ。熊野詣ならば夫を仕廻て鎌倉へ歸り、賴朝に我心中を申てくれよ。我は恩賞の望みもな

し、御免を蒙りて心易く片田舍の住居したく思ふ斗也。度々の軍に功勞有し物共をも賴朝へ奉り、似合ふ恩賞を遣はされ可被召仕願ひより外はなしと念頃に賴み給はゞ、土佐坊も同心し賴朝も同心し給ふ事も有べし。左なくとも重て討手を登せらるゝ程の事はなかるべし。それにても土佐坊不得心して夜討に寄たり共、土佐を不殺、ねんごろに賴みて鎌倉へかへさるべき事也。土佐を殺さるゝからは、討手の登るべき事眼前也。ケ樣の事共勇氣に過て學力少なく、人情事變を知給はざりし故なり。義經一人の罪にあらず、氣質のすぐれたる人にも、聖學なき世に生れて失有し事擧てかぞへ難し。今聖學ひらけたる時に生れてだに、易を學びざれば過多きもの也

或問、義經は好色の人也。然るに好色なき淸僧のごとくなる弁慶其外英雄の諸士、無二の忠臣と成て數多從ひし事は何ぞや

云、義經は勝れて無欲也。故に人を賞する事すみやか也。人々の感心する事のみ多し。賞を受ざる者迄も忝思ふやう也。心勇にして一度もよはみなく、大將の器量備はり、勝負の利にさとき事、皆諸士の及びがたき處なれば、勇士思ひ付たり。靜を方々供につれられたる事、後世よりは好色といへども、是は敵亡びて後の事也。好色故に軍の場をかくれし事は一度もなし。是は時の風俗故賴朝卿富士の卷狩に少の日數の間にも、諸將諸士共に皆白拍子をもて遊べり。今の如きならば、その代の好色あるまじきなり。今の諸人の好色は名は同じ事にて風俗大にくだれり

易經小解　大尾

繫辭上傳

繫辭ハ本文王周公ノ卦爻ノ下ニカケ玉ヘル辞ナリ。此篇ハ孔子ノ述玉ヘル繫辞ノ傳也。文王周公ノ意ヲ傳テ辞ヲ解セズ。故ニ經ノ附ベキナシ。簡篇大ナルガ故ニ上下ニ分ツ者也

天尊ク地卑クノ。乾坤定マル矣。卑高以テ陳テ。貴賤位ス矣。動靜有テレ常。剛柔斷マル矣。方ハ以テレ類ヲ聚リ。物ハ以テレ群ヲ分ル。吉凶生ナル矣。在テハレ天ニ成シレ象ヲ。在テハレ地ニ成スレ形ヲ。變化見ユ矣

陰陽ノ氣ノ輕ク淸ルハ天トナリ、重ク濁ルハ地トナル。天ハ日月星辰カヽリ、高明ニシテ尊ノ象ナリ。地ハ山川土石ツラナリ、廣厚ニシテ卑ノ形ナリ。乾坤ハ天地ノ性情也。天地上下ノ位定テ性情見ルベシ。卑高ハヒキヽハ先ニシテ、高キハ後也。先ツ民アリテ後ニ君アリ。先ツ地アリテ後ニ山アリ。一陰一陽皆下ヨリオコレリ。水火土石ハ卑也。日月星辰ハ高キ也。日月星辰水火土石ノ陳ナリタルハ貴賤ノ位也。天子諸侯大夫士庶人ノ品夫婦男女ノ別、卑高ノ敎ニノツトリテ、聖人禮樂ヲ制シテ天下ヲ治ム　動靜有レ常ハ、天ハ動テ不レ已、周天三百六十五度ヲ十二時ニメグリテ、少シメグリ過ルナリ。人ノ呼吸ノ息一晝夜一万三千五百息ナリ。一息ニ天行八十餘里也。如レ此至動ニシテヤマザルコト常也。地ハ天ノ半ニアリ、萬山ヲノセテ重シトセズ。河海ヲ振テ不レ洩、至靜ニシテ常アリ。天ハ

剛ナリ、地ハ柔ナリ。動ク者ハ剛也。靜ナル者ハ柔也。男女夫婦是ニノツトリテ男ハ剛也。動テ外ヲ治ム。女ハ柔也。靜ニシテ内ヲ治ム。陽中ノ陰アリ、陰中ノ陽アリ。日星ハ陽中ノ陽也。月辰ハ陽中ノ陰ナリ。地ヲイヘバ火石ハ剛ナリ。是陰中ノ陽也。土水ハ柔ナリ。陰中ノ陰ナリ。土ハ靜ヲ以テ常トス、地ノ体也。女ノ德也。水ハ常ニ流動ストイヘ𪜈、柔順ナリ。女ノツトメナリ。是動靜常アリテ剛柔斷ルナリ。　方ハ心ノ向トコロ也。以類聚ハ孔門ニ七十二賢アリ、名將ノ下ニ勇士多ガ如シ。諺ニ似タルヲ以テ友トストイヘリ。心術ノ向處善ナレバ善類來リ聚リ、心意ノ向トコロ惡ナレバ惡類來聚ル。是則吉凶ノ先アラハル、所ナリ。善人ノアツマルハ吉瑞也。惡類ノアツマルハ凶相也。善人惡人類ヲ以テアツマル、又類ヲ以分ル、万物ムレ〳〵アルガ如シ。　在天……天ハ虛也。地ハ實也。虛中ノ實象ヲナシ、實中ノ實形ヲナス。象ハ日月星辰雲氣ノ類是也。形ハ水火土石萬物是ナリ。其中水火ハ定體ナシ、物ニ付テアラハル地中ノ象也。象ハ天ニ見エ、形ハ地ニナリテ變化ノ跡アラハル。萬物ハ其始天地ヲ父母トシテ氣化ニヨリテ生ズ。其後ハ形化・卵化・變化・氣化ノ四アリ。形化ハ父母ノ形ノ如ク生ル人ト、四足ノ物是ナリ。卵化ハ玉子ニテ生ル。鳥魚ノ類是也。氣化ハ父母ナクテ生ズ。小水モ久ケレバ魚生ジ、アクタノ中ヨリ小虫ノ出ル類也。太古ノ氣化ノ名殘ナリ。變化ハ雀海水ニ入テ蛤トナリ、キリウジノ蟬ニナル類也。此變化一ッノ跡ヲ見テ造化ノ眞理ヲ不レ知、故ニ輪廻ノ說出來タリ。變化トテモ精神ノコリテ他生ヲ受ルニハ非ズ。太虛ニ何ノ沈魂滯魄アリテ天地ヲ生ゼンヤ。天地何ノ執着アリテ萬物ヲ生ゼンヤ。水何ノ精神アリテ魚ヲ生ゼンヤ。芥何ノ魂アリテ虫ヲ生ゼンヤ。萬物ハ無ヨリ生ジテ無ニ歸ス。梨ハアリノ實トイヘル諺ノ如シ。万物無中ヨリ生ズ、氣アツマリテ形ヲ

ナセリ。生ニ數アリ。數盡テ氣散ジテ死ス。薪ツキテ火滅スルガ如シ。キリウジノ生數盡テ滅ス、其カラヨリ蟬生ズ、アクタノ中ヨリ虫ノ生ズルニ同ジ。魂アリテ流轉スルニアラズ。ナタネ一粒千万ノナタネヲ生ズ、一粒メグルニアラズ、マレニ沉魂滯魄アリ、靈トナリタルアリ。輪廻ゴトキノ跡アレモ、萬億兆ノ中ニ一モ希ナル變ナリ。造化ノ常ニハ非ズ。造化ノ常ハ流水ノ如シ。水ハ山澤氣ヲ通ジ神化ヲ以テ生ズ、神氣其源也。故ニ流テ本ノ水ニアラズ、海中ニ入テ滅ス、潮汐ノサシヒキハ水ノ生滅ナリ。變化ノ神ニアラズト云コトナシ

是ノ故ニ剛柔相摩（スリ）。八卦相盪（ヲス）

天ハ動テ不已、地ハ靜ニシテ不動。相摩テ万物ヲ造化シ出スコト磨中ヨリ物ヲスリ出スガ如シ。天ノ至動ハ剛也。地ノ至靜ハ柔也。剛柔アヒスル也。地ノ剛柔ハ水土下ニ付テ風雷上ニ動キ、萬物ヲ養育スルハ相摩也。山谷不動ニシテ水流テヤマズ、田地ヲ養ヒ不通ヲ通ズルモ相摩テ用ヲナス也　八卦相盪ハ畫前天地ニアルノ易也。伏犧文王コレニノツトリテ方位ヲナシ玉ヘリ。伏犧ノ易ハ天地自然ニ生ジタル方位ナリ。文王ノ易ハ今日用ヲナスノ方位ナリ。故ニ先天後天ト云也。先天ハ乾正南ニ位ス、陽ノ至極ナレバ也。後天ハ乾西北ニ退テ離ヲ正南ニヲシ、震ヲ長男正東ニ出テ春ヲ知ナリ。艮東北ニカハリ、坤西南ニ退テ坎正北ニ居ス。兌金正西ニ行テ巽風東南ニカハル、是八卦相盪テ造化ヲナス也。卦爻ノ生ズルモ六十四卦ノ初ハ大極陰陽ノ兩儀ヲ生ジ、兩ノ剛柔相摩テ四象ヲ生ジ、四象相摩テ八卦トナリ、八卦相盪テ六十四卦トナレリ

鼓（ウゴカスニ）レ之ヲ以（シ）ニ雷霆一ヲ。潤（スニ）レ之ヲ以（ス）ニ風雨一ヲ。日月運行シ一（ビハ）寒ク。一（ビハ）暑シ

剛柔相靡八卦相盪テ造化スルノ中万物發スベキガ未レ發アリ。留滯シテ通ゼザルアリ。人物共ニ是ニヨリテ病生ズ。雷霆是ヲ動シテ發シ通ズ。强ク鼓動スレバ惡氣夭物消散スル也。鼓ノ字ノ意、元（本イ）動クベキ物ガ感發セラレテ、流通發動スル也。俗ニモ雷ノヨクナル年ハ世中ヨキトイヘリ。鳴レドヨハキハ五穀草木爲ニ十分ナラズ　潤之以風雨……万物ヲウルホスハ雨ヨリヨキハナシ。風ハ火氣ニテ物ヲ吹カハカスモノナレド、雨ノ潤ス功ヲナスモノハ風也。雨ニテ潤シタルバカリニテ風吹キ通サヾレバ濕コモリテ病生ズ。濕氣ヲ去ニハ風ヨリ能ハナシ。故ニ雨後ニハ風出テ天氣ハル、者也　日月運行……春夏秋冬溫暑涼寒ノ氣ハ日月ノ運行ニシタガヒテ生ズ。仲春日卯ニ出テ酉ニ入ヲ時正トス。俗ニ彼岸ト云、晝夜ヒトシ。故ニ溫和ノ氣生ズ。是ヨリ日ハ次第ニ北ニメグリテ近ク、月ハ次第ニ南ヲメグリテ遠シ。是故ニ煖氣生ズ。五月夏至ニ日北ニキハマリテ長キコト至レリ。月南ニ退テ夜短シ。此時炎暑ノ氣生ズ。六月ハ暑極リ七月ハ殘暑甚シ。仲秋ノ月又日卯ニ出テ酉ニ入ヲ時正トス。月モ又中行ス。晝夜ヒトシ。故ニ涼風生ズ。是ヨリ日ハ南ニ廻テ次第ニ遠ク、月ハ北ニメグリテ次第ニ近シ。是故ニ涼寒ノ氣生ズ。十一月冬至ニ月北ニ極テ夜ノ長キコト至リ、日南ニ退テ日短シ。此時嚴寒ノ氣生ズ。十二月ハ寒氣極リ、正月ハ餘寒甚シ。日大陽ノ精ナリ。故ニ日ニ近キ時ハ溫暖炎暑ノ氣至レリ。月ハ大陰ノ精也。故ニ月ニ近キ時ハ涼冷寒嚴ノ氣至レリ。日月運行ニヨリテ、四時ノ氣カハリ、一歲ノ事成就スルナリ

乾道ハ成レシ男ヲ。坤道ハ成レス女ヲ

剛柔相摩八卦相盪テ變化シテ形ヲ成者ノ中、人ハ乾坤ノ精英也。萬物ハ糟粕也。精英中精粗アリ、糟粕中又精粗ア

リ。天地ヲ父母トセシ氣化ノ時、男ハ乾ノ氣ヲ主トシテ生ジ、女ハ坤ノ氣ヲ主トシテ生ジタリ。有形以後男女精ヲ合テ生ズトイヘドモ、乾坤父母一理一氣也。乾道男ヲ成トイヘドモ、男陰ナキニアラズ、坤道女ヲ成トイヘドモ、女陽ナキニアラズ。陰ノ卦ニハ陽多ク、陽ノ卦ニハ陰多シ。少カ主トナレバ也。☳☵☶震坎艮ハ乾道成レ男ヲ也。☴☲☱巽離兌ハ坤道成レ女ヲ也。此男女ハ萬物ニ通ジテイヘリ。飛潛動植皆雌雄アリ。松竹ニモ男松女松アリ。天地ニ有ハ未畫ノ易ナリ。易ニアルハ已畫ノ天地ナリ

乾ハ知二リ大始一ヲ。坤ハ作二ス成物一ヲ

大始ハ未レ有レ形コレヲ知ノミ。成物ハ形ヲ流シクノ時也。故ニ爲スルコトアリ。陽ヒトリ立コトアタハズ。必ズ陰ヲ得テ立者也。陰ヒトリ見アラハルヽコトアタハズ。必ズ陽ヲ得テ見ル、一氣ノ動、知覺アルヨリ生意始ル。是乾ハ知二大始一ヲ也。一氣感ズル時ハ妙合シテ凝ル。其形チ著ル。是坤作二成物一也。天地ノ象形アラハレ、上下位シテ後乾坤ノ知作見ヤスシ。陽ハ先ニシテ陰ハ後也。陽ハ施シ陰ハ受ク。君臣モ陽陰也。君命ズルノ始ハ未ダ事アラハレズ、知二大始一ヲガ如シ。臣是ヲ受テ事ヲ行テ後爲スルコトアリ。作二ス成物一ヲガゴトシ

乾ハ以レテ易イヲ知ナリ。坤ハ以レテ簡ヲ能ナリ

乾ハ誠ヨリ明也。行健ニシテ無レシ已ム。天ヲ見レバ日月星辰ノ四象ノミ。日ハ大陽也。春夏ヲツカサドレリ。月ハ大陰ナリ。秋冬ヲツカサドレリ。星ハ少陽也。昼ヲツカサドレリ。辰ハ少陰ナリ。夜ヲツカサドレリ。日ハ一昼夜ニ三百六十五度ノ天ヲ周天ス。故ニ十二時ヲ以テ一日トス。月ハ十三度遅シ、二十九日半ニ周天ス。故ニ三十日ヲ

以テ一月トス。半ヲ以テ大小アリ。天ハ三百六十五度ヲ周天シテ、四分度ノ一ヲ過レバ、日ヨリモ早シ。三百六十日ニ周天ス。故ニ十二月ヲ以テ一歳トス。小ノツモリト滅沒ノツモリヲ積テ閏月アリ。五歳ニ再潤ス。万古タガフコトナシ。至誠ニシテ神明ナリ。何ノ苦勞モナクテ無レ不レ知。万物トツテ始ム。故ニ乾ハ易ヲ以テ知ナリ　坤ハ乾ニシタガツテ爲コトナシ。地ヲ見レバ土石水火ノ四化ノミ事スクナクシテ万物ヲ生育スルコトキハマリナシ。乾ノ易知ハ良知也。坤ノ簡能ハ良能也。乾坤ハ陰陽ヲ以テイヘバ夫婦也。上下ヲ以テイヘバ君臣也。夫ハ外ヲ治メ、婦ハ内ヲ治ム。天ハ地ノ外ニアリ。地ハ天ノ内ニアルニ叶ヘリ。君ハ君ノ則アリ。臣ハ臣ノ職アリ。大臣小臣ニ命ジテ、得タル事、ナレタル事ヲナサシム。君ハ大統ヲ知ノミ也。天ノ日月星辰アリ。明ニメ上ニ位シ、無爲ニシテ易ニ叶ヘリ。天下ノ万事ハ諸臣ノ心力ヲ盡サシム。地ノ万物ヲ養育スルガ如シ。天下ノ賢才ヲエランデ、ソレ〳〵ノ事ヲナサシムル事、地福ニヨリテ万ノ種ヲホドコスガ如シ。君トシテ臣ノ事ヲスレバ煩ハシクシテ易ナラズ。臣トシテ君ノ位ニセマレバ、敬ナクメ簡ナラズ。天ハ下ノ事ヲ地ニ任メ易也。地ハ上ノ事ハ天ニ任セテ簡ナリ

〔イ本「ハ」ヲ消シテ「ヲ」トス〕

易ナル寸ハ則易クレ知リ。簡ナル寸ハ則易シレ從ガヒ。易キ寸ハレ知リ則有レ親ミ。易キ寸ハレ從ヒ則有レ功リ。有ル寸ハレ親則可シレ久カル。有ハ寸レ功則可レ大ナル。可キハレ久カル則賢人ノ之德ナリ。可キハレ大ナル則賢人ノ之業ナリ

是ヨリ天地易簡ノ善ニノツトリテ、天下ヲ治メ天地ノ造化ヲ助ノ道ヲノ玉フ也。天ヲ見レバ日月星辰ノ四象ノミカヽリテ知ヤスシ。聖人ノ君トナリテ上ニ立玉フヲ見レバ、好ミ玉フハ仁義禮知信ノ德也。人民本ヨリ天ニ得タル同

德ナレバ、感發興起セラレテ日々ニ善ニウツリテ不レ知ガ如シ。惡ミ玉フハ不仁・不義・無禮・邪知・僞等ノ凶德也。其外ニハ何ノ氣遣ナルコトナシ。凡心ナケレバ好惡ノ怒ニヨツテ賞罰不レ行ハレ。故ニ知ヤスクシテ心易シ。地ヲ見レバ土石水火ノ四化ノミニテ、萬物自然ニ生長シテ苦勞ナシ。聖人ノ政道事少キ故ニ人民シタガヒヤスシ。漢ノ高祖ノ世トナリテ秦ノ代ノ數多ノ法度ヲユルシテ、法三章ニ約シ玉ヘバ、天下ノ人民、草ノ風ニナビクガ如クシタガヒシモ、易簡ニ叶ヘルユヘ也。法度ハ數多ケレバ、人民苦シミ、禮式ハクハシケレバ、イヨ〳〵無事ニナリテ、人民安キ者也。高祖モ三ノ法度ヲ立ラレシ後禮式アリテ、天下大ニ定リタリ。四百年ノ久ヲナセリ。高祖ハ聖人ノ大道心法ハ不レ知人ナレ𪜈、自然ト易簡ニ叶タル故也　易知則有親。君子ト小人ノ心各別也。君子ノ心ハカクスコトナシ。何ノヿモナク天ニ日月星辰ノカヽレルガ如シ。其德ハ天ノ窮ナキガ如ク、地ノハカリガタキガ如シ。神ノ知ベカラザルガ如ク、淵ノ深ガ如クニメ神武ノ威アリ。恐レテ愛シ、日月ヲイタヾケルガ如シ。故ニ人民ノ心上ニ服シテ親アリ。凡心ハ時雨(シグレ)ノ雲ノ出ルガ如ク、機嫌ハカリガタシ。無事ニ奉公スル者モ、里龍ノ眠ニ逢タルガ如シ。諸人氣遣ハ不レ絕。故ニ人民心服セズシテ親ナシ。然レ𪜈不德ナレバ實ハ可レ愛可レ恐トコロナキ也　易從則有功ハ、事スクナク無造作(ムザウサ)ニテ從ヒヤスキハ、其變ニ通ジテ人民倦コトナカラシムル故也。衆ノ從フヿハ不レ勞シテ功成就スル者也　有親……天下ノ人心服シテ有レ親トキハ長久ナリ　有功……風俗ウツリカハリテ、人倫明ニ天地ノ化育ヲ助テ、風雨民ノ願ニ從テ、東夷南蠻西戎北狄マデモ不レ知不レ識其德化及ビ、其功ヲ樂ムハ大ナルノ至也。天地ト永久ヲ持スルハ賢君ノ德也。三極ノ大道ヲ行フハ賢人ノ大業也

「難」ノ下「ダイ」ノ二字イニヨリテ加フ

易簡ニシテ而天下ノ之理得矣。天下ノ理得テ而成ス位ヲ乎其ノ中ニ矣

道德・學術・政事・藝能、スベテ何事モイタリ得テハ、何ノムツカシキヿモナキ也。知者ハ無事ナル處ヲ行ト云是也。天地易簡ノ善ニ配スル明德アリテ後、天下ノ理ヲ得テ不レ昧レ人也。位ハ帝王ノ位也。中ハ天地ノ中也。古ハ如レ此ノ明德明カナル人、天子ト成テ天地人三才ノ道ヲ行ヒ、三極ノ位ヲ成玉ヒシ也。堯舜ノ民ハ日出テ起キ、日入テ休フ。井ヲホリテ水ノミ、耕シテ食ス。帝德何カアルトイヘル、易簡ノ至也。人日々ニ善ニウツリテ自不レ知、風化ノ至也。是無為ニシテ治ルトイヘリ。諸侯ノ一國ヲ治ルモ、易簡ナラザレバ長久ナリガタシ。學至リ知明カニテ要ヲ知者ハ、自ラ易簡ナル者也

聖人設ケ卦ヲ觀レ象ヲ。繫ケ辭ヲ焉而明ニス吉凶ヲ

聖人ハ太虛ノ神道ニ通ジ、天地トナラビ立テ三才ノ道ヲ行フ人也。平人ハ無形ノ理ヲ見ルヿ不レ能。シカレバ可レ教所ナク、可レ學ヤウナシ。故ニ聖人六十四卦ヲ作リ設テ、天下ニ示シ玉フ。其始太極兩儀ヲ生ジ、兩儀四象ヲ生ジ、四象八卦ヲ生ジ、八卦各八卦ヲ生ジテ、六十四卦トナル。コヽニヲイテ無形ノ神道アラハレ、天地万物ノ理盡ク備レリ。心法其中ニアリ。天下國家ノ治道明カ也。卦中ニ象アリ。象ヲ見テ是ヲ知ベシ。伏犧ヨリ夏商マデノ聖賢皆シカリ。殷ノ代ノ末ニ至テハ、觀象ノ學次第ニウトクナリテ、學ビガタシ。故ニ周公昌コレニ辞ヲカケテ六十四卦ノ理ヲ明シタク思召シカド、紂王ガ不德ニテ世間事シゲク暇ナクテ過ギ玉ヒシニ、紂王讒言ヲ信ジ、周公昌ヲトラヘテ羑里ニヲシコメタリ。大國ノ主ノ身ニハ至極ノ•難ダイ窮困ナレドモ、是ヲ以テ其心ノ樂ヲウツサレ玉ハズ。文學所

ニ入テ暇アル如ク、初テ易卦ニ辞ヲ繫玉ヘバ、乾坤ノ道德アラハレ、諸卦ノ理シラレタリ。吉凶ハ心ノ得失ノ吉凶ノ象ニアラハレタル也。得ト云ハ當然ノ理ヲ得テ可ニ中ル也。失ト云ハ當然ノ理ヲ失テ可ニ不レ中也。知ノ不レ及所ハト筮ヲ以テ助ル也。ト筮ハ神明ニ通ズ。心ヲ神明ニスルノ一助也。此道理ヲ文王周公ノ卦ト爻トニ辞ヲ繫テ明シ玉ヘリ。皆心ヲミガク法也。然ルニ後世ノト筮ハ禍福ヲ求テ心ヲケガス事ニ取ナセリ。大ニアヤマレリ

剛柔相推メ而生ナス二變化ヲ一

造化卦爻人事共ニ剛柔相推ノ中變化生ズ。日星ハ陽ニシテ剛也。月辰ハ陰ニシテ柔也。代ルヾ明ニ互ニ行シテ四時ヲ行ヒ、年ヲ成ハ變化ヲ生ズル也。地ノ風雷ハ剛也。雨露ハ柔也。風雷雨露時ニ行レテ萬物ヲ生長ス。皆相推テ變化ヲ生ズル也。君臣ハ剛柔也。君命ジテ臣行ヒ、臣又善ヲ告ゲ諫ヲ奉ズ。君是ヲ受テ國天下治ルハ剛柔相推也。万人其化ニヨリテ悪ヲ改メテ善ニウツル、是變化ヲ生ズル也。君命ズルバカリニテ臣不レ諫、善不レ告バ不ニ相推一也。故ニ國天下ヲ風化スルコトナク、日々ニ風俗衰ヘテ四海困窮スルハ、變化ヲ生ゼザル故也。夫婦ハ剛柔也。夫ハ外ヲ治テ內ヲ養ヒ、婦ハ內ヲ治テ外ヲ助ク。婦ハ內ヲ治トイヘドモ、婦ノ不レ足事ハ、夫是ヲ命ズ。夫ハ外ヲ治トイヘドモ、家中ノ小事ハ不レ知不レ及事アリ。一門ノ和、不知モ夫ハ大ヤウナレバ、婦ヨク知コトアリ。是ヲ補ヒ是ヲ助ク。如レ此ナレバ、剛柔相推テ家齊ル者也。父子兄弟朋友シカラズ伝ヿナシ。此理六十四卦ノ象ニアラハレタリ。物ゴト剛ト剛ト、柔ト柔ト相推ノ功少シ。刀ヲトグモ金カタキ刀ハヤハラカナル砥ニテトグトイヘリ。柔ヨク剛ヲ制スル道理アレバ、君ハ剛ナレドモ、柔ニヨリテ天下ノ諫ヲ來シ、德ヲ以テ天下ヲ風化スル者也。剛ニシテ剛ニ居ハ過タ

置天天ノ天一字イ本ハ消セリ。有ル方ニ從フベキカ

リ。德ニ非ズ、人民上(ウヘ)ニハ從ヘドモ心服セズ、王一國ノ衆ノ爲ニ諸侯ヲ置、天天下ノ衆ノ爲ニ王ヲ置ク。故ニ天下ノ衆ノ心ハナル、時ハ天命ハナル。故ニ天下ノ衆ハ剛ナリ。大君柔ニ居テ民ノ父母タリ。德ヲ以テ推化スル者也。臣ノ柔ヲ以テ君ノ剛ヲミガキ助ルハ、君ヨリ推ス也。乾坤相推テ風雷生ズ䷩(益)是也。乾ノ一陽ヲ損ジテ坤ノ一陰ヲ益タリ。上ヲ損ジテ下ヲマシタリ。財ヲ損ジタレドモ德ハ益ナリ。天下ノ人民上ニ心服スルハ益是ヨリ大ナルコトナシ。尤財ヲ惜ミテハナラザレドモ、天下ヲ救ニハ財バカリニテハ行(ユキ)タラザル者也。政ヲ以テセザレバ澤山ニハ救ハレズ。此政ハ人情時變ニ通ジタル者知ベシ。文王、太公望ヲアゲ、湯王、伊尹ヲアゲ玉ヘル是也。コトニ法度スクナク、式クハシク、天下無事ヲ樂ムヿハ本才アリテ學力アル者ナラデハ不レ知ヿ也。聖主賢臣上下相推テ至治ノ澤生ズル理也

是ノ故ニ吉凶ハ者。失得ノ之象ナリ也。悔吝ハ者憂虞ノ之象ナリ也

五倫相推テ當然ノ理ヲ得テ事ニ中レバ、物我一体ノ利生ジテ吉也。不ニ相推一シテ當然ノ理ニ違テ事不可ナレバ、利ヲ失テ凶也。吉凶ハ推ト不レ推トノ得失ノ象ノアラハレタル也。憂虞ハ憂ハ心ニ思慮スル也。虞ハ事ヲ度ル也。慮度スルコト天理ニシタガヒテ、私意ノ交リナケレバ悔吝ナシ。私欲ヲ本トシ思度スル者ハ、失テ凶ニナレバ、悔テ吉ニカヘサントス。事ハ吉ニ趣カントスレドモ、或ハ財ヲ惜ミ或ハ私情ヲ立テ留滯スルハ吝也。終ニ凶ニ陷ル者也。過ヲ改テ吉ニ行ベキ者ノ不レ改モ吝也。故ニ悔ハ凶ヨリ吉ニ趣キ、吝ハ吉ヨリ凶ニ向トイヘリ。思度ノ善惡ノ象ノアラハレタル也

變化ハ者進退ノ之象ナリ也。剛柔ハ者晝夜ノ之象ナリ也。六爻ノ之動ハ三極ノ之道ナリ也

卦爻ノ變化スルハ陰爻陽爻ノ進退スルニヨレリ。陽爻陰爻共ニ下ヨリ進デ上ニ極ル。十一月一陽來復シテ䷗(復)トナル。十二月二陽生ジテ䷒(臨)トナル。正月三陽生ジテ䷊(泰)トナル。天氣クダリ地氣ノボリ、天地和合シテ万物ヲ化生スル也。人道ニテハ君ミ下モヲメグミ、下モ上ミヲ助テ善言諫言ヲ奉テ上下ノ情通ズル象也。天地無言ノ敎ナリ。二月四陽生ジテ䷡(大壯)トナル。三月五陽生ジテ䷪(夬)トナル。陽ス丶ムヿ極リ、陰退クヿ極レリ。四月ハ純陽䷀(乾)也。十一月ヨリ四月マデノ陰陽進退ニテ、天地萬物ノ變化ヲ見ルベシ。五月一陰下ニ生ジテ䷫(姤)トナル。六月二陰生ジテ䷠(遯)トナル。七月三陰生ジテ䷋(否)トナル。天氣ノボリ地氣クダリテ不二相通一。人道ナレバ君ハ上ニ威ヲ極テ、言路ヲ閉テイレズ。下ハ人々身ガマヘシテ諫言善言ナキガ如シ。上下ノ情通ゼザル也。八月四陰生ジテ䷓(觀)トナル。九月五陰生ジテ䷖(剝)トナル。陰進ムヿ極リ、陽退クヿ極レリ。十月ハ純陰䷁(坤)也。五月ヨリ十月マデノ陰陽ノ進退ニテ、万物ノ變化ヲ見ルベシ　剛柔……剛柔ノ爻マジハリテ四象トナリ、四象八卦トナリ、八卦六十四卦トナル。晝夜マジハリテ月ヲナシ、年ヲ成ノ象也。陰陽ノアラハレテ見ヤスキモノハ晝夜ニシクハナシ。剛柔ノミルベキ者ハ奇偶ノ爻ニシクハナシ　六爻……初二ハ地三四ハ人也。五上ハ天也。動ハ行也。極ハ善也。天地人三才各一太極也。天ノ天タリ、地ノ地タリ、人ノ人タル所以ノ道也。言行文書ニアラハル丶所ノ善ハ善ノ跡也。故ニ大學ニハ極ヲ至善トイヘリ

是ノ故ニ君子所ノ居テ而安ンズル者ハ。易ノ之序ツイデナリ也。所ノ樂テ而玩フ者ハ。爻ノ之辭ナリ也

君子居トコロトシテ安ンゼズト云コトナキ者ハ、君子ハ則一團ノ易ナレバ也。易ノ序デハ天理ノ自然也。陰極テハ陽生ジ、陽極テハ陰生ズ。人生ノ窮達ハ則陰陽也。故ニ君子窮達ニ意ナシ。入トシテ自得セズト云コトナシ。是ヲ居テ安ト云ナリ　所樂而……樂ハ君子入トシテ自得セズト云コトナキ天理ノ眞樂也。玩ハ深ク見ノ意也。爻ノ辭ハ居トコロノ位ニ從テ受用スベキノ心法也

是ノ故ニ君子。居ルトキハ則觀テ二其ノ象ヲ一。而玩フ二其ノ辭ヲ一。動クトキハ則觀テ二其ノ變ヲ一。而玩フ二其ノ占ヲ一。是ヲ以テ自リレ天祐クレ之ヲ。吉ニシテ无シレ不トイフコトレ利アラ

此居ハ靜ニシテ居也。無事ノ時也。君子無事ノ時ハ伏犧ノ卦爻ノ象ト、文王周公ノ象爻ノ辭ヲ學也。觀ト玩トハ目コレヲミルノミニアラズ、心ニ自得スル也。甚解コトヲ不レ求、思索ニワタラズシテ覺照シ、何遍モクリカヘシミルハ玩ノ意也　動則……動ハ事アル時也。觀變ハ人情時變ニ通ジ、時處位ニ叶テ行也。占ハ必シモ卜筮ニ求メザレドモ、理ノ可否ヲ考ル也。今ヨケレドモ後ニアシカルベキ事アリ。今ハツカユルヤウナレドモ、後ニヨキ事アリ。天下國家ノ事モ當分ハ人ノ悅コトニテモ、後ノ害ニナルベキ事アリ。一旦ハ人不レ喜ドモ後ニ諸人ノ爲ニナルコトアリ。食事ノ上ニモ常ニ占アリ。美味ハ口ニ甘ケレドモ、病ヲ生ズベキ事ヲ考テ、多ク不レ食ノ類也。十ガ七八ハ卜筮ニ不レ及シテ占ハシラル丶也。不レ恒二其德一ヲ。或ハ承スレ之ニ羞ヲ。子曰。不レ占而已矣トノタマヘリ。又吉ヲ求メ凶ヲサクルノミナルハ凡心也。行先ノ吉凶ニカマハズ、不レ占シテ爲コトアリ。義ノ爲ベキ事ナレバ凶モ害モカヘリミザル也。卜筮モ不レ用時アリ、サモナキニ凶ニ趣クハ學ノ不足、行ノ不愼也。行ベキ道路ヲフミチガヘ、不レ問シテワキミチヘユキ迷

惑スルガ如シ。故ニ君子無事ノ時ハ易ヲ學テ、卦爻ノ象ヲヨク見、卦爻ノ辭ヲ玩テ、天理ニ通ズ。事アル時ハ卦爻ノ理ニヨツテ人情時變ヲ察シ、人力ノ不レ及コトアレバ、卜筮ヲ用ヒテ天ニウカヾヘバ、誠心神明ニ通ジテ其應ズルコト響ノ如シ。如レ此ナレバ生付タル命ノ上ニ、天ヨリ助テ吉多シ。凶悔吝ニ陥コトナシ。其分ニ隨テ家ヲ利シ、國郡ヲ利シ、天下ヲ利シテ人民安シ、利ハ利益ノ意也。小人ハ己ヲ利スルコトヲ本トスル故ニ、私欲私利トナレリ。君子ハ物ヲ利スル故ニ天理ノ利ニ同ジ。天ト共ニ家國天下ヲ利ス。故ニ吉ニシテ利アラズト云コトナキ也

彖ハ者言フ乎象ヲ者ナリ也。爻ハ者言フ乎變ヲ者ナリ也

彖ハ文王卦ニカケ玉フ所ノ辭也。乾ハ元ハジム亨ル利ス貞ナリトイヘル是也。他皆同ジ。卦ノ象ニヨツテ卦ノ徳ヲ述玉ヘリ。設ケ卦ヲ觀ル象ヲ是也。乾ノ卦ハ天ノ天タル所ナリ。元亨利貞ハ天徳ナリ。然レモ上天ノ載コトハ無聲無臭ミルベカラズ。卦ノ象ニヨリテ其徳ヲ知也。爻ハ六爻ノ辭也。周公旦ノ作也。變ハ時所位ニヨツテ變易シテ不レ窮トイヘモ、其爻ニアタリテハ其時處位ノ中アリ。コレ無極ニシテ大極ノ理ナリ

吉凶ハ者言フ乎其ノ失得ヲ也。悔吝ハ者言フ乎其ノ小疵ヲ也。无キハレ咎者善ク補フナリレ過也

義理ヲ失フ時ハ凶トナリ、義理ヲ得トキハ吉トナル。小疵ハ小過也。悔吝ハイマダ大過ニイタラズ。能過ヲ改ル時ハ咎ナキ者也。人過ナキヲ善トセズ。能過ヲ改ルヲ善トスルナリ。改ルニ吝ル時ハ大過ニ至ル者也

是ノ故ニ列ヌルコトハ貴賤ヲ者。存ス乎位ニ。齊トヽノホルコトハ小大ヲ者。存ス乎卦ニ。辨ズルコトハ吉凶ヲ者。存ス乎辭ニ

天子三公諸侯大夫士庶人ノ五位ハ天下古今不易ノ定位也。其上ニ師保ノ位アリ。此六位ノ象易卦ノ六爻ニ備レリ。貴賤ヲ列テ不レ乱、禮樂法式行ハレテ國天下平治スル位也。此位ハヲリ機ノタテノ如シ。其位ニ居ル人ハヨコヌキ(緯)ノ如シ。位ハ定リテ、居ル人ハ不レ定。貴賤入カハリテイタルコト旅宿ノ賓客ノ如シ。明者ハカリソメニ天命ヲ以テ此位ニ居コトヲ知テ愼ヲ不レ忘。愚者ハ永代ノヤウニ覺テ愼ヲワスル。大君ハ無上ノ位ナレバ上ミヌ驚ノ如クニテ、亢龍ノ悔アリ。故ニ師保ノ位ヲ置也。師保ノ上位ハ尊シテ位ナク、高シテ民ナキ者ナレバ、實ハアナドリ易シ。床(トコ)道具ノヤウニシテ置テハ益ナシ。大君タル人實ニ師保ノ心ニタガハンコトヲ恐テ愼ミシタガヒ玉フ時ハ、亢龍ノ悔ナシ。今

九五ノ位ニ當レルハ大樹也。九四ハ三公ノ位也。世々ノ大臣也。大君ノ次ナレドモ陰ノ位ニシテ權ヲトラズ。權ヲトル時ハ天下ニモ害アリ。其家ニモ凶ナリ。ウシロミノ如クニテ位尊ク祿重クシテ備レリ。九三ハ諸侯ノ位也。外卦ハ王室也。是ヲハナレテ下ノ上ニ居ルハ諸侯也。一國ニ君トシテ其國々ノ主ナリ。故ニ小ナレドモ大臣アリ、執政アリ。人君ナレバ大君モ賓客トシ、モテナシ玉ヘリ。九二ハ内卦ノ中位ニテ九五ニ應ズ。下ヨリ出レドモ四ヨリハ勢重シ。執政ノ位也。初九ハ一卦ノ下也。民ノ位也。士其中ニアリ。兵ハ農兵ヲ本トスレバ也。士ハ下ニ居テ志上ニ通ジ、才學上下ヲカヌ。人多キ中ナレバ賢者アリ。人情時變ヲ知ベキ位也。故ニ昔ハ士ノ才徳次第ニ其人一代天下ノ執政職ヲ命ゼラレシ也。是則天理ノ自然ニシテ治平ノ本ナレバ、卦爻ノ象ニアラハル丶者也。齊小大存乎……小ハ陰ヲサシ、大ハ陽ヲ云也。夫婦君臣ノ理也。ト丶ノホリテ一家トナリ、一國トナリ、天下トナル者也。天理ノ常也。故ニ卦中ノ象ニ存スル也。脩身

齊家治國平天下ノ吉凶得失吉凶ニアラハル、コトハ、卦爻ノ辭ヲ以テ見ベシ

憂二フル悔吝一ヲ者ハ存二シ乎介一ニ。震テ无レキ咎者ハ存二ス乎悔一ニ

介ハ界限也。善惡ノ兩路スデニ別ル、所也。一念入微ノ所ニヲイテ過ト知テハ速ニ改メ、不レ遠シテ復シ、善ト知テハ敏ニ行者ハ、悔吝ヲ憂テ介所ニシテヨク受用スル者也。此心法ヲ不レ知者ハ過ヲ知コトヲソクシテ後悔多シ。又善ヲ知トモ留滯シテ敏ニセザルハ吝也。震……ハ一念ノ過ヲ不レ知シテ身ノウゴキトナレ𪜈、悔サトリテ其過ヲ改者ハ、過ヲ知トモ不レ悔不レ改、非ヲカザリテ自欺者ハ咎大也。悔吝ハ心ノ苦痛トナリテ、凶ニ至ルヿヲヨク知テ憂ル者ハ一念ノ介所ニヲイテ善ヲナシ惡ヲ去也。ソレヲ過テハ悔改テ咎ナカルベシ

是ノ故ニ卦ニ有二リ小大一。辭ニ有二リ險易一。辭ハ也者各々指二ス其ノ所一レヲ之ク

一卦中ニ陰小多有剝䷖師䷆ノ類也。陽大多アリ夬䷪大過䷛ノ類也。又陰卦アリ、陽卦アリ、卦ニ易アリ。險アリ。故ニ辭ニ險易アリ。平地アリ、山川アルガ如シ。天地人自然ノ勢也。險ニ逢テハ險ヲ行ヒ、易ニ逢テハ易ヲ行フ。道ニ意アリテ險易ニ心ナシ。故ニ卦爻ノ象變辭ノ險易各ユク所ヲサスハ、行ベキ道ヲ示スナリ

易ハ與二天地一準ナゾラフ。故ニ能ク彌二綸ス天地ノ之道一ニ

彌綸ハヲヘテヲササム也。易ノ神道則太虛ノ神道也。故ニ易書ノ中ニ天地ノ造化万物ノ理盡ク備テカクルヿナシ。易書ナケレバ天地ノ神道ヲ知コト不レ能。天地ナケレバ易ヲ見コトナシ。故ニ天地トナゾラヘテ道德學術ノ淵源タ

ル者也。彌ハ渾然トシテ備レル象也。大德ノ敦化也。綸ハ粲然トシテ條理アル象也。小德ノ川流也。天地ト易書トヲ形容シタマフナリ

仰テ以テ觀ニ於天文ヲ。俯メ以テ察ス於地理ヲ。是ノ故ニ知ニ幽明ノ之故ヲ。原テ始ヲ反ル終ニ。故ニ知ル死生ノ之說ヲ。精氣爲リ物ト。遊魂爲ス變ヲ。是ノ故ニ知ル鬼神ノ之精狀ヲ

天ハ陽明ナル故ニ觀字ヲ下シ、地ハ幽陰ナル故ニ察字ヲ下シ玉ヘリ。幽ハイマダ形象ナシ、耳目ノ不レ及トコロ也。心知ヲ以テ知ベシ。明ハ有象以後也。耳目ノ所レ及也。幽明ノ故ハ仰觀俯察スルノ中天地ノシカル所以ノ故ヲ求テ、幽明ノ理ヲ知也。幽ニハ鬼神アリ、明ニハ人アリ。天地ニヨツテ幽明ノ故ヲ立レバ、始終ニヨツテ死生ノ說ヲ知也。幽明ハ陰陽ノ升降也。死生ハ晝夜ノ道ナリトモイヘリ。物ノ始ノ理ヲヨクタヅネシレバ、終ヲ知コト其中ニアリ。有反ハ頭ヲメグラシテ見ル躰也。甚ヤスキ也。始ヲシレバ終ヲ知、生ヲシレバ死ヲ知一理也。春ノ始ヲタヅネシレバ、必ズ冬ノ終ヲ知。冬ノ終ヲシレバ、必ズ春ノ始ヲ知ト同ジ理也。又反終ハ鬼ハ往テ不反ノ義アリ。万物ノ始精氣アツマリテ物トナル、無ヨリ有ニ來ル也。其終游魂變ヲナシテ、有ヨリ無ニ反ル、是ヲ天ニ歸ストモイヘリ。歸反トモニ消散ノ意ナリ。スデニ變ズル時ハ存ズル者亡シ、堅キ物腐ヌ、更ニ物ナシト云リ。是皆鬼神ノ造化ニ非ズト云コトナシ。死生ノ說鬼神ノ情狀明ラカ也。或問ニ死生說ヲ。云、精ハ魄也。耳目ノ精ヲ魄トス。氣ハ魂也。口鼻ノ噓吸ヲ魂トス。二ノ物合シテ物トナル、精虛シ魄降ルトキハ、氣散ジ魂游シ、ユカズト云コトナシ。魄ヲ鬼トシ、魂ヲ神トスト云リ。吾人死生ヲ二ニ見ル故ニ惑ヘリ。死生ハ氣ノ聚散也。陰精陽氣聚テ物トナル。魂游シ魄降ル。散ジテ變ヲナス。一

片ノ浮雲太虛ヲ過ルガ如シ。太虛ハ吾人ノ本体也。精氣ハ無ヨリ有ナリ。顯テ物トナル、神之情狀也。游魂ハ有ヨリ無ナリ。隱レテ變ヲナス、鬼ノ情狀也。魂氣ハ天ニ升リ魄体ハ土ニ歸ス。神氣ハ上升シ鬼魂ハ下降ス。タヾ人ノミニ非ズ。物ノ敗スル其香氣ハノボリ、其物ハ下ニ腐ヌト云リ。天地ノ造化生々不窮ノ中聚アレバ必ズ散アリ。生アレバ必ズ死アリ。始ヲ尋テ聚テ生ズルヿヲ知トキハ、其終必ズ散ジテ死スルヿヲ知也。游字ハ漸々ジネンニ散ズル意也。白毛生ジハダヘ波ヨル体、游散ノ漸也。死シテ妖ヲナス者ハ多ハ其死ヲ得ザレバナリ。故ニ其氣未散欝結シテ妖孽ヲナストイヘド、久シテ散ズル也。生テ精力ウスキ者ハ死シテ未散ノ氣結コトヲ得ザル者也。

問、鬼神ハ形色ナシ、情狀トハ何ゾヤ。云、物ハ此形ヲ具スル者也。魂ハ此形ヲ使者也。魂止ル時ハ物存ス。魂游時ハ物亡ス。游ハ止ノ變也。亡ハ存ノ變也。其聚散ヲ觀トキハ、鬼神ノ情狀知ベシトイヘリ。又鬼神ハ害レ盈ルヲ福レ謙スニトイヘリ。福善禍淫トモイヘリ。鬼神ノ德ハ盛ナル哉。視ドモ不レ見、聽ドモ不レ聞。物ニ体ノ遺スベカラズ。洋々トシテ如レ在ニ其上ニ。如レ在ニ其左右ニトイヘリ。皆鬼神ノ情狀ナリ

與ニ天地一相似リ。故ニ不レ違ハ。知周ニ乎萬物ニ而道濟フ天下ヲ。故ニ不レ過ギ。旁ク行テ而不レ流セ。樂レミ天ヲ知レ命ヲ。故ニ不レ憂ヘ。安レンジ土ヲ敦ニシ乎仁ニ。故ニ能ク愛ス

元亨利貞ハ乾坤ノ德也。人是ヲ得テ仁義禮知ノ性トナル。是ヲ明德ト云。此明德明ラカナル人ハ大父母ノ天地ニヨク似タル也。シカルニ吾人ハ人欲ニクラマサレ、舊習ニオホハレテ有ガ如ク、無ガ如シ。不ニ相似一是ヲ凡夫ト云ナリ。聖人ニハ人欲ナク、氣質ノ偏ナク、舊習ノケガレナシ。仁義禮知ノ明德全ク明ニシテ元亨利貞ノ天德ニ同ジ。

是天地ト相似テ不レ違也。故ニ聖人ハ天ニ先ダツテ天不レ違。天ニヲクレテ天時ヲ奉ズ。知ノ万物ニアマネク通ズルコト、日月ノ下土ヲ照臨スルガ如シ。其道天下ヲスクフヿ四時ノ造化ノ一草一木ヲモノコサヾルガ如シ。天地ノ造化ヲ助テ造化ノ功ヲサマタグルヿナキハ不過ナリ。アマネク行ハレツブサニアタリ、功成テ德トセズ、太平ヲ樂トセザルハ不レ流也。是ヲ天地人ノ三才ト云。聖人上ニ位スル能事也。樂天ヨリハ時ヲ不レ得シテ下ニ居ノ聖賢ヲカネテノ玉フ。天ヲ樂ム者ハ理ニシタガツテ無心也。無心トハ無ニ私心一也。知命ハ此ニ居テ彼命ヲ知ニハ非ズ。素富貴行富貴、素貧賤行貧賤、素患難行患難、素夷狄行夷狄。入トシテ自得セズト云コトナキヲ知命ト云也。天下ニヲイテ好惡スルコトナシ。故ニ憂ル事ナキ也。安土ハ士農工商エラブコトナク、俗ニシタガヒテ異ヲ不レ立、居トコロトシテ安セズト云ヿナシ。地ノ厚重ニシテ靜ナルガ如シ。土ハ大母也。是又相似ル也。敦仁ハ民ノ父母タル慈心大ニシテヨク衆ヲイレ、群ヲ不レ乱。魯人獵狡スレバ孔子モ獵狡スル類也。能愛ス、能ノ字力アリ。姑息ノ愛ニ非ズ。風俗ニシタガフトイヘ𪜈、義ニ當テハセザルコトアリ。獨立シテ人ノ本心ヲ感發スルコトアリ

範二圍メ天地ノ之化ヲ一而不レ過。曲二成メ萬物ヲ一而不レ遺サ。通二メ乎晝夜ノ之道ニ一而知ル。故ニ神ハ无方ニメ而易ハ无體ナリ

天地ノ化ハ窮ナシ。自然ノ勢ニテ過アリ、不及アリ。聖王是ヲ助テ中道ニ叶ハシムルヿ、ホトリナキ物ヲカタトシカコムガ如シ。聖人ノ德行ニヨリテ天地ノ氣化ヤハラギヒトヘニ過ルコトナシ。風枝ヲナラサズ、雨塊ヲナガサズ。風雨トモニ中道ニ過ザラシムル也。天生シ地育シ、人助ク。是ヲ天地人ノ三才ト云也。曲成萬物……天道ノ至誠一

草一木小虫ニイタルマデ委シキ工(タクミ)ニシテ其文ヲタガヘズ。造化シノコスヿナシ。然𪜈是モ自然ノ勢ニテ過不及ナキコトアタハズ。造化ヨリ出ルトイヘ𪜈、却テ造化ヲサマタグルモノアリ。禽獸龍蛇ノ類ヒ、人ヨリモ大ニテカツヨキ者アリ。其マヽヲケバ人倫ニセマルヿアリ。故ニ聖人弓矢刀劔ヲ作テ彼ヲ制シ、カリ漁シテ彼ヲシタガヘ、人倫ヲ尊ビ玉ヘリ。シカレ𪜈一草一木モ其時ニアラザレバキラズ。鳥獸魚虫各其生ヲ遂シメテ盡スコトヲセズ。仁ノ及バズト云ヿナキハ不遺也。通乎晝夜……晝ハ日陽ト𪜈ニ動テ勞シ、夜ハ月辰ト𪜈ニ靜ニシテ休ス。一生一死則晝夜ノ道也。生シテ勞シ死シテ安ズ。晝夜ハ今日ノ生死ニシテ、生死ハ一身ノ晝夜也。明ニハ人アリ、幽ニハ鬼神アリ。生ヲ好ミ死ヲ惡ムハマドヘリ。耳目ノ及ブ所ノミ知故也。心神明(知イ)ナレバ耳目ヲカラズ、幽明ニ通ジテ一貫也。人晝夜ニ逢テ此心ヲ二ニスル者ナシ。生死ニハ二ニス。人鬼幽明ノ理ニクラケレバ也。君子ノ死生ハ今人ノ晝夜ニ逢ガ如シ。知ノ字重シ。死生晝夜ハ同ジ。知ト不知ト也。故神无……神明ハ不測也。物ニ体シテノコサズ。故ニ方所ナシ。易ハ變易シテ其理無窮也。造化ト𪜈ニ無盡藏也。故定体ナシ

一陰一陽之ヲ謂フレ道ト

一ハ太極也。陰陽ヨリ此カタ皆對アリ。タヾ太極ノミ對ナシ。一ハ無對ノ謂也。一陰一陽ハ、太極ノ陰、太極ノ陽也。太極動テ、陽ヲ生ジ、靜ニシテ陰ヲ生ズル是ナリ。太極ハ常ニ動靜ヲカヌ。時ニ動テ陽ヲ生ジ、時ニ靜ニシテ陰ヲ生ズ。陰陽ノ氣、常ニ太極ノ理ニ從フヲ天道ト云。性ニ率(シタガフ)ヲ道ト云、性ハ太極也。故ニ性ニ從フハ人道也。陰陽太極別体ニ非ズ。陰陽ノシカル所以ノ理ヲ太極ト云、陰陽ノ德也。太衍ノ之數五十、其ノ用四十有九、虚ニシテ其ノ天一ノ

之數ヲ而不レ用也。蓋シ一ハ者數ノ之始ナリ也。天下ノ之數无レ窮リ。而ノ一ハ无レ爲ルコ。故ニ无レ爲ルコ之以テ象ニル太極ニトイヘリ

繼ク之者ノハ善ナリ也。成ス之者ノハ性ナリ也

至誠ハ無レ息ムコ。維レ天ノ之命於穆トノ不レ已マルハ善也。萬物是ヲ得テ性トス。故ニ性善也。成ハ人ト成タル所ノ自然ノ理ヲ性ト云也

仁者ハ見テレ之ヲ謂フ二之ヲ仁ト一。知者ハ見テレ之ヲ謂フ二之ヲ知ト一。百姓ハ日ニ用テ而不レ知ラ。故ニ君子ノ之道鮮シ矣

此仁者知者ハ氣質ノ仁知也。一陰一陽ノ道体ハ粗見タレ𪜈聖學ノ心法クハシカラデ、氣質ノ明ナル所ヨリ見所ヲ立ル也。木氣ヲ多ウケテ生レタル者、木氣ノ神ハ仁ナレバ、自然ト仁心深シ。義禮知信𪜈ニナキニハアラザレ𪜈、仁道ニ過テ、仁ヲ好テ學好マザレバ愚也ノ弊アリ。釋氏ノ道是ニ近シ。水氣ヲ多受テ生レタル者、水氣ノ神ハ知ナレバ、自然ト知惠深シ。仁義禮信𪜈ニアレバ自偏ナリトハ思ハザレ𪜈、知ニ過テ知ニ溺ルヽ弊アリ。百姓ハ平人也。俗ニハ農人ヲノミ百姓トイヘリ。昔ハ百官ヲ百姓トイヘリ。姓ハ氏也。百ノ氏人ト云意也。其中ヨリ才德アル人ヲ用テ、官位職ヲ命ゼラレ、才德ナキ平人ハ農工商ノ事ヲツトメ、或ハ庶人ノ官ニアル体ノ仕ヲモナセリ。後世ハ官位職ニ居人モ心ハ平人ナレバ百姓也。道体中ニ生死シテ五倫ノ道ハ日々ニ用ユレ𪜈、人鬼幽明何ノワキマヘモナキハ、日々ニ用テ不レ知ノ百姓也。仁者知者ハ氣質高キ故ニ過テイタラズ。平人ハ不レ及シテ不知ユヘニ、君子ノ中庸ノ道ヲ

知人少キ也

諸（イナシ

顯ハレ二諸仁ニ一藏ル二諸用ニ一。鼓ノ二萬物ヲ一而不下與二聖人一同上レセ憂ヲ。盛德大業至レルカナ矣哉

宇宙アリテヨリコノカタ日トシテ生ゼズ𪜈ヿナシ。天地神明ノ心ハ生々ノ理ニアラハレタリ。仁ハ生理也。故ニ顯ニ諸仁ニト云リ。シカレ𪜈其功用ノ行ハル、所ハ、耳目ノ及ブ所ニアラズ。故ニ用ニカクルト云リ。目ヲフサゲバ見ヘ、目ヲアケバ不レ見ト云意也。必シモ目ノ開閉ニアラズ。心知ヲ以テ見ル也。仁ハ天地萬物ヲ生々スル心也。人天地ノ心ヲ得テ心トス、是ヲ仁ト云、善ノ本也トイヘリ。鼓萬物ハ鼓動造化スル也。春夏秋冬行ハレ、雨露ヲ以テ養ヒ、風雷ヲ以テ動シ通ズル所ニヲイテ、天地生物ノ神化ヲ知ベシ。天ハ爲コトアリテ無心也。聖人ハ天ニシタガツテ助成、有心ニシテ爲コトナシ。博ク施シ衆ヲ濟コトハ有欲ノ者勢ノ不レ及コトアリ。故ニ堯舜モ憂アリ。コノユヘニ天下ノ言路ヲ開テ諫鼓謗木ノ政アリ。天ハ仁ニアラハレ、用ニカクレ、万物ヲ造化スレ𪜈、天下ヲ平治スルニ至テハ聖人ト憂ヲ同ジクセズ。天運ノ末ニ成タルモ、聖人ノ憂ヲ以テ引返スベキ道理アリ。孔子ノ周流シ玉ヒシ所也。然レ𪜈不レ叶者ハ又命也。是天ト聖人ト憂ヲ同ジクセザル所也。天地ノ造化ヲ助テ裁制成就スル者ハ、聖人ノ盛德大業也

富有之レヲ謂二大業一ト。日新之レヲ謂二盛德一ト

造化ノ無盡藏是ヲ用テ盡ルコトナシ、富有コレヨリ大ナルハナシ。然レ𪜈人道コレヲ不レ助シテ、政アヤマル時ハ、天天氣ヲ不レ盡、地地力ヲ盡ス。人民用テ不レ足。タトヒ當時ニ大ナルケヂメ見エザレ𪜈、百歳千歳ノ後大ニ不足シ、

天下ノナンギニ及コトアリ。故ニ聖人天地ノ富有ヲ助テ、當時人民ユタカニ、後世ニ及ブ政アリ。易ニ此理明カ也。財ヲ生ズルニ大道アリトイヘルモ是ナリ。天地ト易ト聖人ト富有アリテ、万國ユタカナルヲ大業ト云。日新之……運行不レ息、悠久ニシテ無窮ハ天ノ日新也。聖人是ヲ用テ自ツトメテ不レ已、其德ヲ新ニスレバ其命新ニシテ、新ニスル民ヲオコス。四時ト其序ヲ合セ、鬼神ト其吉凶ヲ合セ、天地ト其德ヲ合ス、易ノ心法也。盛德是ヨリ大ナルハナシ

生々之ヲ謂レフ易ト

剝初テ盡テ復已ニ生ズ。生々不レ息、變易シテ無レ窮ハ、宇宙ノ神道也。春ノ功成テ夏ニユヅリテ不レ止、夏ノ功成テ秋ニユヅリテ不レ止、秋ノ功成テ冬ニユヅリテ不レ止。聖人是ヲ以テ善ヲ有セズ、功成テ德トセズ、空々如タリ、生々ノ心法ナリ

成レス象ヲ之ヲ謂レフ乾ト。效レフ法ニ之ヲ謂レフ坤ト

象ハ氣象也。イマダ形色ノ見ルベキナケレ圧、何トナク春夏秋冬ノ空ノケシキ見ユル也。太古曆ノナカリシ時ハ、空ノ氣象ヲ見テ、立春・立夏・立秋・立冬・土用・冬至ヲ知タリ。四時ノ氣盛ニ行ハレテ、其運行ヲ以テ元亨利貞ノ天德ヲ知ル、コレヲ乾ト云也。効ハ順ノ意アリ。地ハ天ノ四時土用ノ正シキ法ニ順テ功用ヲアラハシ、形色ニ見エテタシカニ生物ノ功ノ成就スルハ坤ノ德也。君ノ命ヲ受テ其法ヲ取行ヒ、國天下ニシメスハ臣ノ職ナルガ如シ。效ハ天ニ受テ專ニセザル意ナリ

極レメ數ヲ知レル來ヲ。之ヲ謂レ占ト。通レズル變ニ之ヲ謂レ事ト

數學ハ易ノ一事也。然ルニ易ヲ數學ト思フハアヤマレリ。卜筮モ易ノ一事也。古人易ヲ卜筮ノ書トイヘルハ繫辭ヲ不レ知也。又數ニ九々ヲ用フルハ俗數也。金銀米穀財用ノ事ニ用ル數也。世間理ヅメニシテ不レ動ハ理屈也。是九々ノ俗數ヲ知テ、易ノ數ヲ不レ知也。易ノ數ハ九々ノ一ヲ太極ニ歸シテ、八々ヲ以テ天地萬物ノ理ヲ盡シ玉ヘリ。筮占ニモ五十ノ策ヲ一ツ太極ニ歸シ、四十九ヲ以テ用ヲナセリ。無數ノ數ヲ極テ來ヲ知也。俗理ノ理屈ハヒシトツマリテ云ベキヤウハナケレ氏心服セズ、長久ニナキ者也。故ニ君子ハ包荒ノ仁アリテ理屈ヲ不レ用。タトヘバ罪人アリ、理屈ハ死刑流刑ニスベキ者ナレ氏、不レ忍心アレバ理屈ヲハナレ別義ヲ以テユルシヲクヿアリ。刑ハ刑ナキニアテヽシ、罪ハ罪ナキニアテヽスル是也。タトヘユルシソコナヒテモ過トシテ不レ辞、過ヲ觀テ仁ヲ知是也。天下心服スル所也。如レ此廣大有餘ノ心ニテツマラヌ數ヲ用テ天ニウカヾフ時ハ、吉凶ヲ告ルコトヒヾキノゴトシ。通變之……事ハ行事也。理屈ニ不レ落、格ニ不レ泥（ナヅマ）、空々トシテ明カナル心ナラデハ、變ニ通ズルコトハナラザル者也。人情事變ニ通ジテ、時處位ノ至善ニカナフヲ事ト云、跡ニヨリ格ニカヽハリテナスヿハマネ也。イキテハタラク行事ニハアラズ

陰陽不測之ヲ謂レ神ト

鬼神ハ陰陽ノ氣ノ靈也。四時ヲ行ヒ昼夜ヲナシ、死生ヲナシ、萬物ヲ生育スルコト、皆鬼神ノワザ也。如レ此ノ常行ハ氣中ニカクレテナセバタヾ氣トノミ思フ也。常行ノ外ニ不時ニ吉凶ヲ告ルヿアレバ人驚キ恐ルヽ也。或ハ告或ハ

不レ告、定リテナキハ不測也。陰陽ヲハナレテ鬼神ナケレバ陰陽不測トノ玉ヘリ。人ノ起居動靜言語飲食、皆鬼神ノ妙用ナレドモ、常ナル故ニ何ドモワキマヘズ。不時ニ靈妙アレバ神アリトシ、不時ノ靈妙ヲ不レ見者ハナシトス。凡夫ノ有ト思フモ神ニアラズ、有ドモ無ドモ不レ定、有無兩在故ニ不測也

夫レ易ハ廣カナ矣。大ナルカナ矣。以テ言フトキハ乎遠キヲ則不レ禦フセガ。以テ言フトキハ乎邇キヲ則靜カニシテ而正シ。以テ言フトキハ乎天地ノ之間ヲ則備ハレリ矣

易書ノ廣大ヲ賛シ玉ヘリ。萬歳ノ遠キニ用テモ盡ルコトナキハ、變通シテツカヘトヾコホルコトナケレバ也。今日ノ近キ當然ノ心地ヲイヘバ、寂然トシテ聲モナク臭モナシ。此身修テ正シキノミ。天地ノ間ヲイヘバ易ニモル、事ナシ

夫レ乾ハ其ノ靜カナル也專ラ也。其ノ動ク也直ナリ。是ヲ以テ大ニ生ス焉。夫レ坤ハ其ノ靜カナル也翕アフ。其ノ動ク也闢ヒラク。是ヲ以テ廣ク生ス焉

專ハ純一也。靜ハ動靜ノ靜ニアラズ、其体至動ナレドモ、其心ハ至靜也。無欲ニシテ二心ナキ者ハ純一ニシテ靜也。其動ノ動ハ感通也。本ヨリ乾ハ至動ニシテ無レ息、又動ベキコトナシ。至神ナルガ故ニ時ニ感通スレバ、直ニシテ正シカラズト云コトナシ。四時五行ノウツリカハル約束ノ如ク、正シキヲミテ知ベシ。其体專ニ其用直ガ故ニ生大也。故ニ人ノ生ハ直ナリトノ玉ヘリ。坤ノ動靜モ形体ノ動靜ニアラズ。其氣ノ収歛シ、翕聚スルヲ以テ靜トス。其

氣ノ發散スルヲ以テ動トス。翕聚セザレバ發散スルコトアタハズ、乾ハ一（奇）ナルガ故ニ實也。坤ハ‥（偶）ナルガ故ニ虛也。故ニ其氣ノトヅルヲ翕ト云、其氣ノ發スルヲ闢ト云。天氣ノボル時ハ地氣クダリ、翕聚シテ靜也。天氣クダリテ地中ニ入トキハ、地氣發動シテ闢テ升ル。天氣交泰シテ春ヲナス、是ヲ以テ生廣シ。廣大中無用ノ物マデモ生ズ。無用ノ物ヲ生ズマジキト云ヤウナルセバキ心ニテハ、カクヒロキ生育ハナラザルナリ

廣大ハ配二シ天地一ニ。變通ハ配二シ四時一ニ。陰陽ノ之義ハ配二シ日月一ニ。易簡ノ之善ハ配二ス至德一ニ

物ノ至大ハ天地ニシクハナシ。易理ノ廣大ニナラフベキモノハ天地ナリ。物ノ至變ハ四時ニシクハナシ。易理ノ變通ニナラフベキモノハ四時也。物ノ至精ハ日月ニシクハナシ。易理ノ精微ニナラフベキ者ハ日月也。易ハ陰陽也。陰陽ノ義ハ易ノ精義也。道ノ至善ハ至德ニシクハナシ。易道ノ至善ニナラフベキモノハ聖人ノ至德ナリ。易ノ書此四ノモノヲ具タリ。易簡ノ善ハ至善也。天ノ天タル所、地ノ地タル所、易簡ノ理ヲ得テ造化ノ功廣大也。聖人ノ天下ニ王タルモ易簡ノ理ヲ得テ無事也。故ニ易簡ノ善ハ至善也。天地ト易ト聖人トタガヒニノタマフ者ハ、天地ナケレバ聖人不レ生、易ヲ不レ可レ見、聖人生ゼザレバ、造化ヲ助ルヿ不レ能、聖人ノ心法傳ルヿアタハズ。器ヲ制シ天下ノ用ヲナシ、隱微ノ理ニ通ズルコト皆易ノ德ニヨレリ。故ニ天地ト聖人ト易ト一モカケテハ太虛ノ神道行ハレズ。是則繫辭ニヲイテナラベノ玉フ所也

子ノ曰。易ハ其レ至レルカナ矣乎。夫レ易ハ聖人ノ所三以ナリ崇(タカウ)シレ德ヲ而廣ムル二レ業ヲ也。知ハ崇(タト)ク禮ハ卑シ。崇ハ

效レ天ニ卑ハ法レ地ニ

乾坤ノ神明不測、幽深玄遠ノ理ノ見ガタキヲ八卦六十四卦ノ象ニヨツテ示シ玉フハ、德ヲ崇スルノ心法也。業ハ聖人ノ德業也。德業仁政ニシクハナシ。タトヒ仁政ニ志アリ、事ハヨキヤウニテモ、人情時變ニ通ゼザレバ國天下ニヲシ及シテ、廣ク民ヲスクヒ、衆ニ施スコトハナラザル者也。故ニ聖人易ヲ作テ王者ノ德ヲ崇高ニシ、業ヲ廣大ニスルヿヲ示シ玉ヘリ。易ニヨツテ人情時變ニ通ジ、仁政ノ道ヲ得ルトイヘ𪜈、猶カノ天地ヲ師トシ德知ヲ尊クスルコトハ、天ニナラヒ眞實ニフミ行フコトハ、地ニノツトリテ謙德ヲ養フ也。謙德深クシテ下ノ情ニ通ゼザレバ、上タル人ノ不知シテ上ノトガニカヽリ、諸人ノ難義ニ及コト多キ者也。其ツモリハ天下國家ノ亡ニ至ル者也。地ハヒキキノ至也。天高ケレ𪜈其氣ハクダリテ地中ニ入ゴトク、君位尊高ナレ𪜈、ゲス近ク下々ノソシリマデモ取用ヒ玉フ者也。如レ此ナレバ德彌尊クシテ天ニヒトシ。則堯舜其人也

天地設ケテレ位ヲ。而易行ハル二乎其ノ中一ニ矣。成性存々。道義ノ之門ナリ

易ハ天地ノ神道也。故ニ天地位シテ神其中ニ行ハル。日月星辰運行シテ四時ヲ行ヒ年ヲ成ス。造化ノ功用キハマリナキハ易道也。成性ハ天命ノ性也。天人ヲ生シテ人ノ性ヲ成也。存々ハ天ノ明命ヲ顧テ尊信奉持シ、形ヲフムノ心法也。存養ノ意也。誠ヲ思フノ受用也。存々シテ不レ息トキハ、道義ノ生ズルコト溥博淵泉ニシテ、時ニ是ヲ出スガ如シ。故ニ道義ノ門也。或問、萬物皆成性アリ、人ノ性ヲ成ト一偏ニイヘルハ何ゾヤ。云、萬物性アラズト云ヿナシ。然レ𪜈偏ニシテ全カラズ。タヾ人ノミ天地神明ノ全体ヲ有シテ、明德明ラカ也。故ニ天地神明ノ道義ハ人ニヨ

ツテ出ル也

聖人有三以見二天下之賾一。而擬二諸其形容一。象二其物宜一。是故謂二之象一。

賾ハ深遠也。聖人幽深玄遠ノ神理ヲ見玉ヘ𪜈、形色ナケレバ示シ難シ。言語文章ノ不ㇾ及トコロヲアラハシガタシ。故ニ卦爻ヲ設テ其象ニヨッテ默識心通セシメント也。形容ハ定体ノ形容ニアラズ。卦爻ノ象ノ形容ニナゾラヘテ見ガタキ處ヲシラシメ玉フ也。卦爻ノ形容ハ、タトヘバ太虚ニ浮雲ノ生メ物ノ象ヲ示スガ如シ。一理ヲ示シテ變化スル也。故ニ卦爻ノ形容神明不測也。物宜ニカタドルハ說卦ノ說ノ如シ。物ニカタドリテキコエヨキコトヲ云也。日本神代ノ三種ノ神器モ幽玄ノ德ノ言語ニノベガタキヲ形容ニナゾラヘテ敎玉ヘリ。是象ナリ

聖人有三以見二天下之動一。而觀二其會通一以行二其典禮一。繋ㇾ辭焉以斷二其吉凶一。是故謂二之爻一。

動ハ陰陽五行ノ運動ヨリ人ノ動テ事ヲ行ヒ、一念ノ動ニ至マデキハマリナシトイヘ𪜈、聖人天下ノ動ニヲイテ其事理ノ會合シ、通行スル所ヲ默識シ玉ヒテ、五典ヲ敎ヘ五常ノ性ヲ示シ玉ヘリ。禮ハ人ノ筋骨ノ族ヲ堅シ、氣血ヲ通ズ。天下ノ事ニヲイテ或ハ會聚シ、或ハ通行ス。禮ノ敎ニ非ズト云コトナシ。天下ノ動雜乱ストイヘ𪜈、典禮ヲ以テ紀綱シテ、ヨク會シヨク通ゼシムル也。禮ノ和スル所ヲ樂トス。禮ノ用ハ和ヲ貴シトス。和ナケレバ禮煩シテ乱ル、者也。故ニ禮ヲイヘバ樂其中ニアリ。繋ㇾ辭斷二吉凶一ハ、卦爻ノ交ヲノヅカラ人事ノ吉凶ヲ示ストイヘ𪜈、吾人是ヲ見ル

ヿ難シ。故ニ聖人卦爻ニ辭ヲカケテ、吉凶ヲ斷リ玉フナリ。爻ハ交也。陰陽ノ交也。交ハ動也。動ハ必ズ吉凶アラハル、者也。義ニ當テハ凶ヲシレ𪜈サケズ、吉ヲシレ𪜈ヲモムカズ。義ニ害ナキニ吉ヲ不レ知シテ、凶ニユクハ愚也。典禮モ又行ハレズ。聖人ノ斷タマフ處ナリ

言二テ天下ノ之至賾サクヲ一而不レ可レ惡ム也。言二テ天下ノ之至動ヲ一而不レ可レ亂ル也

至賾ハ幽深ノ至也。幽深ノ至ハ心ノ密ニシクハナシ。天下ノ人情ハ密事ヲイフコトヲニクメリ。故ニ君子ハ人ノ密事ヲ不レ言。タヾ易ノ幽玄ノミ是ヲ云テ、人ノ心知ヲ高クス。凡ヲ去テ賢ニ入ノ初也。故ニ天下ノ至賾ナリトイヘ𪜈ニクムベカラズ。至動……ハ、動コト窮レバ必乱ル、者也。然レ𪜈君子ノ動ハ不動ノ主アリテ存シ、理アリテ動ク。故ニ至動ノ行アリテモ心不レ亂シテ行正シ。動ノ至極ハ天ナレ𪜈、終ニ不レ乱。故ニ違フコトナシ。小動トイヘ𪜈主ナク理ナキノ動ハ妄動也。妄動ハ必ズ乱ル、者也

擬ヘテレ之ヲ而後ニ言イフ。議ハカリテレ之ヲ而後ニ動ク。擬議以テ成二ス其ノ變化ヲ一

言行ハ脩身ノカ、ル處重シ。家國天下ニ及テハ感應ノ樞機也。擬レテ之ヲ言イフハ言語ミダリニ不レ發、事物ニナゾラヘテ言ハ比ノ詩ノ如シ。夫カノ人ハ不レ言、言ヘバ必中ルハ、妄言セズ、ヨク心ニ調停シテ云也。初學ヨリ事ニアタラザレ𪜈、アタルノ工夫也。議之……ハ行事ミダリニ不レ動、義理ヲハカリテ行也。言行共ニヨク擬議スルハ格物ノ工夫也。其積功終ニ其身ノ氣質ヲ變化シ、其人上ニ立時ハ、家國天下ヲ變化スルナリ

鳴鶴在リレ陰ニ。其ノ子和スレ之。我ニ有二好爵一。吾ト與レ爾縻ツナガレン之

是ハ中孚九二ノ爻ノ辭也䷼（中孚）ハ九五ノ君ト九二ノ臣ト共ニ誠實アリテ感應ス。鶴ハ陽鳥也。九二ノ陽爻ニ比ス。其子ハ九五ノ君ヲ指ス。卦爻ハ下ヨリ生ズ。故ニ上程後ニ生ズレバ子ニ比ス。鶴ノ巣ハ山崗ノ深樹ニアリ。鶴幽陰ノ谷中ニ鳴テ其聲離レ澗トイヘ圧、山上ノ子ハ其聲ヲ和ス。誠ニ感應也。中孚ノ時九五ノ君民ヲ子トスルノ仁心アリテ、仁政ヲ行ハントスレバ賢者ヲ求ム。此時九二ノ賢者イマダ民間ニアリテシラレズト云ヘ圧、誠ノ感應ニテ其賢者ノ聲名ヲ聞テ擧用ヒ給ハ、山上山下鶴ノ親子其聲相應ジ、相和スルガ如シ。好爵ハ天爵ナリ。聖人賢人ハ天爵也。天子三公諸侯ノ位ハ人爵也。然レ圧有道ノ代ニハ天爵人爵相應ニテ、天子ノ位ニ在ス人ハ必ズ聖德アリ。執政ノ臣ハ必賢德アリ。此好爵ハ德位相應也。君ト臣ト圧ニ天位ヲ共ニシ、共ニ天祿ヲ共ニスルヲ吾與尓ト縻ツナガレン之ト伝リ。吾ハ九五ノ君ノ吾也。君臣圧ニ賢聖ノ道德アレバ、國天下ヲ富トスルニアラズ。王公ノ位ヲ有スルニアラズト伝ヘ圧、天下ノ人民ヲ子トスル仁愛ノ心ヨリ、不レ得レ已メ王公ノ位祿ニ付テ勞スル也。人民ヲ思フ仁ニツナガレテ、天位天祿ヲ受ル意也。故ニ九五ノ君イヘリ。吾ニ天ノ與タル好爵祿アリ、天下人民ノ爲ノ大寶ナレバ、不レ得レ已シテ是ニツナガレテ勞ス。尓モ吾ヲ助テ天祿ヲ共ニセヨ。民ノ父母タル德アレバ尓モ爲レ民ニツナガレヨト也

子ノ曰。君子居テ二其ノ室一ニ出ス二其ノ言一ヲ。善ナルヿハ則千里ノ之外應ズレ之ニ。況ヤ其ノ邇キ者ノヲヤ乎。居テ二其ノ室一ニ出ス二其ノ言一ヲ。不善ナルヿハ則千里ノ之外違フレ之ニ。況ヤ其ノ邇キ者ノヲヤ乎。言出デ二、乎其ノ身一ニ加フ二

乎民ニ。行發ノ乎邇キニ見ハル乎遠キニ。言行ハ君子ノ之樞機ナリ。樞機ノ之發ハ榮辱ノ之主ナリ也。言行ハ君子ノ之所ニ以ナリ動スレ天地ヲ也。可シヤ不ルレ愼マ乎

是ヨリハ孔子中孚ノ九二ノ爻ノ義ヲ解シ玉フ也。此書ハ孔子ノ御手(イ)自作ナレバ、自ラ子曰ノ字有ベカラズ。後人ノ付タル也。其外子曰ノ字、皆後人ノ筆也。居其室ハ在陰ノ義ナリ。出其言ハ鳴鶴ノ義也。千里ノ外應ズルハ其子和スルノ義也。天下善惡共ニ感應ノ二端ニ不レ過。感應ハ心也。言ハ心ノ聲也。行ハ心ノ跡也。故ニ言行ハ君子ノ樞機也。此君子ハ在位ノ君子也。君子九重ノウチニ在ス。天下其居ヲ見ル者少シ。然レドモ其言善ナレバ、千里ノ外ノ人是ニ應ジテ善トス。其言不善ナレバ千里ノ外ノ人コレニ違テ不善トス。違ハ心服セザル也。君子ノ一言一動六尺ノ身ニ出トイヘドモ、天下ノ遠ニアラハレテ衆民ニ及也。故ニ樞機ト云也。言行ノ發ニハ榮アリ、辱アリ。榮ハ後世ノ善名也。辱ハ後世ノ惡名也。世主ノ威トイヘドモ、天ニ違テ後世ヲフセグコトハナラズ。古シヘヨリタメシ明也。身ノ榮辱ノミナラズ、言行ハ在位ノ人ノ天地ヲ動ス所也。言行善ナレバ風雨時ニ不レ違、民人コレヲ樂メリ。不善ナレバ風雨常ニ過テ物ヲヤブリ、夭怪ノ事アリテ人民安カラズ。是在位ノ人言行ヲ以テ天地ヲ動ス證據也。誠ニ愼ムベキ道理必然也。人ハ天地ノ心也。人ノ身ノ善惡ハ心ノ善惡ニヨレリ。故ニ天地ノ氣ノ和不和ハ人道ノ得失ニヨレリ。得トキハ榮トナリ、失フトキハ辱トナル、後世ニヨクシラル、者也。

同人ハ先キニ號ヨビ咷サケビテ而ノ後ニ笑フ。子ノ曰。君子ノ之道。或ハ出テ或ハ處リ。或ハ默シ或ハ語ル。二人同ス

君子ノ下（イ）ト君子ノ三字アリ

レ心ヲ。其ノ利断タレツ金ヲ。同心ノ之言コト。其ノ臭カ如レシ蘭ノ

是ハ同人卦ノ九五ノ爻ノ辞也。九五ハ外卦乾体ノ中ヲ得タリ。六二ハ内卦離ノ主タリ、共ニ中正也。三四陽剛ニシテ、六二ノ上ニ居ル。故ニ九五ニ應ズルヿヲヘダツル者也。六二陰爻ニシテ陰位ニ居故ニ、二陽ニヘダテラレテ進コト不レ能。コヽニ於テ九五三四ノ理ニアラザルコトヲ怒テ、大ナル軍アリテ勝ヌ。邪魔去テ後六二ニ逢テ悦ビ笑也。孔子ノ繫辭ニ於テハ、是ヲ略シテ二人同心ノ義ノミヲノ玉ヘリ。君子ノ道時ニ中シテ行フ。時ニ逢テハ出テ道ヲ行ヒ、時ニアハザレバ徳ヲカクシテ、獨其身ヲ能ス。イフベカラザル者ニハ默シ、云ベキ人ニハイフ。言ヲモ不レ失、人ヲモ不レ失、國道ナキ時ハ愚也。國道アル時ハ知也。是語默出處ノ道也。先生後生君子・ナレバ出處語默ノ跡ハ異ナレ𪜈、其心ノ時處位ニ中シテ至善ニ止ルコトハ同ジ。如レ此ノ人二人君臣トナリ、同心同徳ニテ相助ル時ハ、天地否塞ノ運氣ヲモ引カヘシテ、堯舜ノ治ヲ成ベシ。乱逆ヲモ去ベシ。二人一心ナル時ハ金石モワリサクベシ、ヲリクダクベシ。金石至堅ナリトイヘ𪜈、人心ノ堅固ナルニハシカズ。故ニ其利トキコト金ヲ断也。先賢後賢世ノ相去コト千有餘歳、地ノ相ヘダヽルヿ千有餘里トイヘ𪜈、道德ノ後世ニカウバシキコト蘭ノゴトシ。イハンヤ孔顔ノ世ヲ同シテタガハズ、愚ナルガ如クノ蘭言思ヒヤルベシ。南山ノ蘭ヲ取テ、北山ノ蘭ニマジユルニワカツベカラザルガゴトシトイヘリ。今同志ノ會、古シヘニ及ブベカラズトイヘ𪜈、道德ノ義論ニヲイテハ淡シキヿ水ノゴトク、淡以テ成ルノ遺風アリ。世俗ノ交ハ甘キコト醴ノ如シ。甘以テ壞ルノ費アリ

初六藉用白茅无咎。子曰。苟錯諸地而可矣。藉之用茅。何咎之有。愼之至也。夫茅之爲物薄而用可重也。愼斯術也。以往其无所失矣

大過ノ初六ノ爻ノ辭也。孔子是ヲ釋シテ云ク、物地ニ置事安カルベシ。然ルニ茅ヲ用テシクモノハ愼ノ至也。万事過ルハアシケレ𪜈、愼ノ過ルハ咎ヲマヌガル、術也。失ナカルベシ。大過ノ初六陰柔ニシテ下ニ居レリ。少ノ失アリテモ罪ヲ得易シ。世ノ譬ニモ弱キ者歩ニトラレ、ヒクミニ水タマルトイヘルガ如シ。愼ニ過テ用心スベキ地也。茅ハ山野ニ多クテカロキ物ナレ𪜈。潔白ノ物ナレバ、祭祀ニモ用テ萬ニ重寶ノ物也。澤山ニテ世間ニヨク用ル物ハ誠ノ寶也。故ニ薄而用可レ重也トノ玉ヘリ。下位ニ居者ハ身ヲイサギヨクスルヿ愼ノ第一也。身ニクモリサヘナケレバ、ヲソロシキ事ハナキ也。白茅ノカロケレ𪜈、潔白ナルガ如クナルベシト也。如レ此ニシテ各其業ヲ愼マバ何國ニ行𪜈過失ナカルベシト也。又世間ニ念ノ入過ルハ愼ノ過ルニ似タレ𪜈、諸人ノ煩ニナル者也。一人使テヨキ事ニ十人モツカヒ、百人出シテ足ル事ニ五百人モ出シ、道路ノ馳走ナラバ、舟橋ヲヨクシ、山路川邊ノ欠崩レタル・ヨクシテコソ、後マデモ往來ノ者ノ悦タルベキニ、左樣ノ事ハ全カラデ堅固ナル路次ヲ其儘ニテハ馳走ニナラザルヤウナレバ、鍬ヲ入テ土ヲヤハラグレバ、雨ニ逢テハ以前ヨリモ路次惡ク成テ、旅人ノ煩ニナル者也。餘リニ法度强クテ有

歩　イ本「夫」カヲ傍書ス

タルの下(イ)ヲ字有リ

ナラザル(イ)ナラヌ

無ノ交易モナラズシテ、困窮ノ者マス／＼飢寒ニ及ブ類多シ。何事モ難ノナキヤウニト餘リニ念入過テ、諸人ノ難義ニ及ビ費テスタル物多シ。式ナケレバ世間如レ此ナル者也。左ヤウニツマリ／＼テハ長久ニハナキ者也。愼ノ過ルト念ノ入過ルト似テ各別ナリ。乱世ノ後ニ式ナケレバアフレ、治世ノ後ニ式ナケレバ、念入過テ悪ク成者也

勞謙ス。君子有レ終リ吉也。子ノ曰。勞〆而不レ伐ホコラ。有テレ功而不レ德トセ。厚ノ之至ナリ也。語ル下以テ二其ノ功ヲ一下ルヿヲ上レ人ニ者ノナリ也。德ニハ言ヒレ盛ヲ禮ニハ言フレ恭ヲ。謙ハ也者致〆レ恭ヲ以テ存スル二其ノ位ヲ一者ノナリ也

謙ノ九三ノ爻ノ辭也。他卦ニアリテハ九三ナレバ、陽位ニ〆陽爻ハ危地也。コトニ此卦五陰一陽也。九三ノミ陽剛ニ〆下ノ上ニ居レリ。諸侯ノ強大ナル者也。天下ノ歸スル處、上ノ疑フ者也。六五ノ大君、六四ノ大臣陰柔ニテ上ニアリ。九三強大ニテ下ノ上ニ居リ、人民其德ニ服スルコトヲ疑ヒ忌ニクムベキ勢也。凶ニ終ベキ者ノ吉ニ終ル者ハ謙ノ卦ナレバ也。古ノ人是ニアタレルアリ。文王是也。一度ハ羑里ノ難アリトイヘ𪜈、勞謙ノ德至レル故ニ、終ニハ凶ヲ變ジテ吉トナシ玉ヘリ。退之ガ拘幽操文王羑里ノ作ニ云。目掩々トノ兮其レ凝リ其レ盲タリ。耳肅々兮トノ聽ドモ不レ聞カレ聲ヲ。朝不ニ日ノ出ルアラ一兮。夜不レ見ニ月ト與一レ星ヲ。有ルカレ知無キカレ知ルヿ兮。爲ルカレ死爲ルカレ生。鳴呼臣ガ罪當レリレ誅ニ兮。天王聖明ナリ。誠ニ文王ノ心ヲシレリ。戎狄ヲ退テ中國ヲ安シ、大半ノソムケル諸侯ヲヒイテ來朝シ、天下ヲ三分ニシテ其二ヲタモチナガラ商ニ服事シ玉フ。其功ヲ不レ賞ノミナラズ、羑里ニトラヘラレテ怨ノ言ナシ。勞シテ不レ伐ラ、功アリテ不レ德ト、厚ノ至也。德盛ナレバ禮マス／＼恭シ。或問、盛德ノ人何ゾ其功ヲ以テ人ニクダルヤ。云、謙德ノ人ハ其心虛明也。虛中ニ天下ノ益ヲ來ス、已萬善ヲ備ヘタレ𪜈、有セザレバ空々如タリ。人ニ一善アレバ必ズ好ス、

心ニ一物ナクテ明カナレバ也。其跡ヲ以テ見レバ其功ヲ以テ人ニクダル也。心アルニ非ズ。易ノ六十四卦乾坤トイヘ𪜈卦中戒ノ辭アリ。唯謙ノミ皆吉也　象ニ云、天道ハ虧テレ盈ヲ而益スレ謙ニ。地道ハ變ノレ盈ヲ流クレ謙ニ。鬼神ハ害ノレ盈ヲ福スレ謙ニ。人道ハ惡テレ盈ヲ而好レ謙ヲ　謙䷎ハ地中ニ山アリ、地体ハ卑下ニシテ、山ハ高大ノ物也。シカモ地ノ下ニ居ルハ謙ノ象也。崇高ノ德ヲ以テ卑ノ下ニ居ハ謙ノ義也伝リ。德崇高ナルハ德ノ盛ナル也。卑ノ下ニ居ハ禮ノ恭シキ也。自晦クラマシテ德益光顯也。自卑シテ人益是ヲ尊ブハ致ノレ恭ヲ以テ存スル二其ノ位ヲ一也

亢龍有レ悔。子曰。貴フノ而无シレ位。高ノ而无レ民。賢人在テ二下位ニ一而无シレ輔。是ヲ以テ動テ而有リレ悔也

是乾ノ上九ノ爻ノ義ヲ釋シ玉フトイヘ𪜈、上九ハ本ヨリ師保ノ位ニ備タル者ナレバ、貴ケレ𪜈位ナク、高ケレ𪜈民ナキ者也。タヾ上九ニヲイテ亢龍有悔ノ象ヲ取テ九五ノ君ノ戒トシ玉フ者也。君タル人貴コト過テ、位ヲ持過レバ、次第ニ下ニ遠ク成テ下ノ事ヲ不レ知。故ニワキニ知モノ出來テ權威ウツル者也。神ノ如クアガメスヘラレテ虛位トナル時ハ實ノ位ハナキ也。民ノ事ヲ不レ知トキハ、知モノワキニ出來テ、實ハ民ナキガ如シ。俗ニ位タフレ伝是也。世ニ賢人アリトイヘ𪜈、用ヒザレバ助クル者也。動テナスヿ皆人情ニソムキ、時宜ニタガヘリ。後悔ノミアリテカヒナシ。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇、公方家ノ衰タル皆是也。其外末々ニ至ルマデ亢龍ノ悔アル勢多シ。其分ニ應ジテ滿タル處ヲ知テ戒ベシ

不レ出二戸庭ヲ一无シレ咎。子曰。亂ノ之所ハレ生ナル也。則言語以テ爲レ階シト。君不ルハレ密ナラ則失フレ臣ヲ。臣

不レ密ナルハ則失フレ身ヲ。幾事不レ密ナルハ則害成ル。是ヲ以テ君子ハ愼密ニシテ而不レ出サ也

節ノ初九ノ爻ノ義ヲ釋シ玉フ。戶庭ハ戶外ノ庭也。言語戶ノ外ヘ不レ出ルサ也。日用害ナキノ言語ニハアラズ。世間ノ是非、人ノ善惡ナドイヒテ、益ナク、人聞テトガムベキ事ハ不レ言也。兵ヲ興シ好ミヲナスモ言也。故ニ孔子釋シ玉ヘリ。家國天下ノ乱ノ出來モ、言語ヲ不レ愼ヨリ起ルコトアリ。君タル人愼ナク、臣ノ善惡ヲ言バ、或ハ恨ミ或ハ心ハナレナドスレバ、臣アリテナキガ如シ。臣タル者不レ愼シテ或ハ我知ニ自滿シ、或ハイキドホリナドシテ、イラザル事ヲイヘバ、暴君ハ怒リテ罰シ、朋友ハ兵ニ及ナドシテ身ヲハタス者アリ。吉凶善惡ノ機言ニアルコトヲシラデ不レ愼、故ニ害出來ルナリ。此故ニ君子ハ上ニ居テモ下ニ居テモ愼テ用ナキ言ハ不レ出ナリ。是皆道ナキ世ノ心持也。有道ノ代ニ密ト云コトハナシ。愼ハアリテ密ハナキ者也。老子ノ孔子ヘハナムケノ言モ無道ノ世ノ愼也

子曰。作ルレ易ヲ者ハ其レ知ルレ盜ヲ乎カ。易ニ曰。負オフテ且ツ乘ル。致スニ冦ノ至ルコトヲ。負フハ也者小人ノ之事ナリ也。乘ルハ也者君子ノ之器ナリ也。小人ニシテ而乘ル二君子ノ之器ニ一。盜思フレ奪ハンコトヲレ之ヲ矣。上慢アナドリ下暴シフルナハ盜思フレ伐ウタンコトヲレ之ヲ矣。慢トルハレ藏オサメヲ誨フルナリレ盜ヲ。冶ツクラフハレ容ヲ誨ルナリレ淫ヲ。易ニ曰。負テ且ツ乘ル。致スニ冦ノ至ルコトヲ。盜之招キナリ也。

解ノ六三ノ爻ノ義ヲ釋シ玉フ。六ハ陰柔ナレバ小人ニ比ス。三ハ下ノ上ナレバ公侯ニ比ス。九二ノ陽爻ニノルハ不德ニシテヨキ人ノ上ニ居ル象也。君君タラズ、臣臣タラズ。其心其德ノ位職ニ叶ハザルハ、縱ヒ父祖ノユヅリニ繼

タルモ、昔ヨリ其位ヲヌスメル者トイヘリ。天位天祿ヲ受テ、其任ナク其道ナキガ故也。ミヅカラヌスムニヨリテ、他ノ盜モ奪ハンヿヲ思ヒ伐ヿヲ思フ也。古シヘヨリ國天下ヲ失ヘルハ、負テ乘モノニアラズト云ヿナシ。背ニ物ヲ負者ハ農工商ノイヤシキ者也。車ニ乘ハ諸侯大夫ノ貴キ人也。背ニ物負タル下賤ノ者ガ貴人ノ車ニ乘タルガ如シ。農工商ノ庶人トナルベキ愚不肖ノ不德ニテ、賢人君子ノ居ベキ人君ノ位ニノボルタトヘ也。古昔ハ聖德アル人ハ大君ノ位ニノボリ、賢人君子ノ德アル人ハ、三公公侯伯子男ノ位ニ任ジ、善信ノ品ソレ〳〵ニ大夫士トナリ、德ナケレ𪜈才アリテ器ニ叶ヘル者ハ、庶人ノ官ニアル如キ事ヲ命ゼラレタリ。才モナク德モナキ愚不肖ハ庶人トナレリ。庶人ノ中ニテモ負荷ノ者ハ一入何ノワキマヘモナキ者也。後世諸侯大夫士ノ位ニ居者、道德ノ學ナク富貴ヲ榮トシタル計ニテ、何ノワキマヘモナキ者多シ。是古シヘナレバ負荷ノ小人ニシテ貴人ノ位ニアリ。物負タル者ノ車ニ乘タルガ如シ。似合シカラザルナリ。ウハベハ勢ニテカシコマレ𪜈心ニハ人皆アナドレリ。故ニ盜心ノ小人ハヲリアラバ奪ハンヿヲ思ヒウタンヿヲハカル也。無事ニ終ルハ幸ニシテマヌガレタリ。譬ハ貨財多キ者ノ無用心ナルハ盜ヲ敎テトラシムル也。女子ノ其容ヲツクラフハ淫者ヲミチビクガ如シ。不德ノ小人ニテ富貴ナル程無用心ハナケレ𪜈、ソレヲバシラデ城ヲ堅フシ、兵具ヲタクハヘナドス。小盜ハソレニ恐ルレ𪜈大盜ハ其城兵𪜈ニアハセテ取也。其位ニ叶タル賢人君子ノ德アレバ、奪ヒ伐ンノ心ハ誰モ興〔起(イ)〕ラズ。故ニ人ノ上ニ居ル者ハ道德ヲ不レ修シテ不レ叶コトヲ敎玉フ也。奪伐ノ反逆人ハニクケレ𪜈、ソレハ本ヨリ盜心ノ者也。下ノ上ヲアナドルハ上ノ下ヲシユルヨリ起レリ。畢竟自カラ招ク災也

天一・地二・天三・地四・天五・地六・天七・地八・天九・地十。天數五。地數五。五位相得而各有合。天數二十有五。地數三十。凡天地之數五十有五。此所以成變化而行鬼神也　四三一

大衍之數五十。其用四十有九。分而爲二以象兩。掛一以象三。揲之以四。以象四時。歸奇於扐以象閏。五歲再閏。故再扐而後掛。乾之策二百一十有六。坤之策百四十有四。凡三百有六十。當期之日。二篇之策萬有一千五百二十。當萬物之數也。是故四營而成易。十有八變而成卦。八卦而小成。引而伸之。觸類而長之。天下之能事畢矣

右河圖洛書本義大全啓蒙等ニ見エタリ。皆事ナレバ事ヲ學ベル人解スベシ。暫他ニユヅル者也。終篇ノ後餘命アラバ事ニ及ベシ

顯道神德行。是故可與酬酢。可與祐神矣

道ハ天ニアリテ幽也トイヘ圧、易道卦爻ノ象ヲ以テ顯シテ人ニ示スベシ。人事顯也トイヘ圧、德行ヲ神明ニスル時ハ、天地陰陽ト交接應對シテ、神化ノ功用ヲ助クベシ。天道ノ實ハ人ノ性命ニアリ。不二ナリトイヘ圧不知者ハハルカニ遠ガ如シ。遠ヲ近クシ、近キヲ遠クスルハ易道ノ教也

子曰。知ル二變化ノ之道ヲ一者ハ。其レ知ル二神ノ之所ヲ一レ爲スル乎カ

人物共ニ陰陽ノ流行ニツレテ變化ス。人生レテ日々ニ長ズ。神知ヲヒラクニ隨（順イ）テ日々ニ物シル。形ト知𪜈ニ長ジテ天下ノ用ヲツトメ、天地ノ造化ヲ助ク。是日々ニ變ズル也。生アレバ死アリ。死シテ鬼トナルハ是化スル也。晝アレバ夜アルガ如シ。晝夜ニ通ジテ死生ニマドハザルハ堯舜ノ民也。日々ニ善ニウツリテナス者ヲ不レ知ハ堯舜、神ノ爲處ヲ知テ、天下ヲ變化シ玉フ也。堯舜ヲ不レ待シテ獨變化ノ受用ヲスル者ハ孔門傳授ノ心法也。則易ノ心法堯舜孔子ヲ兼タリ。上文變化ノ數法モ人ノヨクスル所ニアラズ。神ノスル處ノ一事也

易ニ有リ二聖人ノ之道四ツ一焉。以テ言フ者ハ尙ブ二其ノ辭ヲ一。以テ動ク者ハ尙ブ二其ノ變ヲ一。以テ制スルレ器ヲ者ノハ尙ブ二其ノ象ヲ一。以テト筮スル者ノハ尙フ二其ノ占ヲ一

言ニヨツテ理ヲ求ル者ハ卦爻ノ辭ヲタトビ用テ理ニ通ズル也。卦爻變化ノ理ヲ尊テ動テ事ヲ行者ハ、至善ヲ期シテ其爲ニヨラズ。時處位ヲハカリテ變ニ通ズル也。イマダ形アラズト云ヘ𪜈、時ニ不ニ出來一シテ不レ叶器ヲ制作シタマフ、聖人ハ卦爻ノ象ヲ用ヒ玉ヘリ。未來ノ吉凶人力ノ不レ及事アレバ、卜筮ヲ用テ天ニウカヾフ。神ト交ル道ナレバ其身ヲ神明ニシ、德ヲ高クスルノ益アリ

是ヲ以テ君子將ニスレ有ントレ爲ルヿ也將ニスルトキハレ有ントレ行フヿ也。問フニレ焉ヲ而以テスレ言ヲ。其ノ受ルヿレ命ヲ也如シレ響ノ。无シレ有ルヿ二遠近幽深一。遂ニ知ル二來物ヲ一。非ンバ二天下ノ之至精ニ一其レ孰カ能ク與ランカ二於此ニ一

ステ、(イ)ウチヤフリテとし傍にステ、賍とす

爲コトアリ、行コトアル時、道理分明ニテ義アルコトナレバト筮ニ不レ及。武王ノ紂ヲウチ玉フ時ニ、ト筮𪜈ニ不吉ナリシハ官人ノアヤマリ也。順天應人事スデニ極リヌ。然ルニ吉凶ヲウカヾフハ私意也。天ノ命ゼザル處也。不吉ハ天ノ命ゼザル也。故ニ太公望ステ、不レ用。譬ハ今婦ヲメトラントスルニ、其女子來テ家道調ベキカ、調フマジキカノ吉凶シラレザル時ハ筮スル也。主人ノ心ニ縱ヒ占ハ吉也トモ此婦ヲメトルヿ不同心ナル意アルカ、凶ナリ𪜈ムカヘ度情アラバ筮スベカラズ。トモカクモ筮ノ命ニマカセントキハメ思ハヾ占ベキ也。其外事ノ是非ワカレズ、吉凶シラレザル時、其言ヲ以テ天ニ問也。受命ノ命ヲ主人ト筮ニ命ズトアレ𪜈、此命ハ天命也。其言ヲ以テト筮ニヨツテ天ニ問トキ、主人ノ心至誠ナレバ、天ヨリ吉凶ノ命ヲ受ルヿヒヾキノ如ク也。神ハ遠近幽明ノヘダテナケレバ、八荒ノ上六極ノ下トイヘ𪜈不レ知ト云ヿナシ。況ヤ今日ヨリ未來ノ事ヲ知ヿ疑ナシ。蓍龜ノ情ナキ物ヲ用テ、如レ此ノ神物ヲ設ケ玉ヒシ聖人ノ心知ハ天下ノ至精也。其法ヲ習テ今日用ル者ハ、眞實ノ心ニテ私意ノ疑ヒナケレバ成事也。君子ハ一朝ノ疑アレ𪜈終身ノ疑ヒナシ。一朝ノ疑トハ事ノ是非イマダアラハレザル所也。此疑ヒノ爲ニト筮ヲ設玉ヘリ。平人ハ終身ノ疑アリテ、一朝ノ疑ナシ。終身ノ疑ヒハ死生ノ理ニ迷ヒ、一生ノ事ニ迷フ類也。世間ニ本卦トテ古曆ヲ用テ一生ノ吉凶ヲ云ハ、終身ノ疑ニテ利心也。運氣ニアハセテ考タルモノナレバ、アフ事モアレ𪜈、ソレ𪜈ニ君子ハ心トセザル事也。性ナリ、命アリ。君子ハ命トイハザル類也

參伍ニメ以テ變ス錯ニ綜ス其ノ數ヲ。通ジ其ノ變ヲ遂ニ成ス天地ノ之文ヲ。極テ其ノ數ヲ遂ニ定ム天下ノ之象ヲ。

非ンバ天下ノ之至變ニ其レ孰カ能ク與ラン於此ニ

其德圓ニシテ吉凶ヲ告ルコ神也。來ヲ知處也。卦ハ八ヲ以テ數トス。八八六十四ニシテ陰ニ屬ス。スデニ定体アリ。故ニ其德定理アリテ、其奥義神明不測也。神ト知ト一体也。用ニ付テハ神トイヒ、体ニ付テハ知ト云也。藏スハレ往ヲ溫ヌルレ故ヲ也。知ルハレ來ヲ知ルレ新ヲ也。君子ノ心則蓍卦ノ德アリ、不レ筮セシテモ知也。然レ𪜈筮スル者ハ愼ノ至也。吉凶民ト患ヲ同スル故也。夫圓ハ動ノ象也。神ハ不測ノ理也。蓍ハ動ニヨツテ用アリ。用中吉凶ヲ告ル者ハ神也。雲氣星氣ナド天地万物ノ上ニヲイテ吉凶ヲ告ルモ神也。方ハ靜ノ象也。知ハ貞明也。寂然トシテ靈照キハマリナシ。六爻變易シテ理ヲ示シ、得失ヲ告。天理流行無息シバラクモ留滯ナキコ流川ノ如シ。聖人是ヲ以テ心ヲ洗ハ、觀象玩辞理ト與レ心會シ、天ト𪜈ニ流行ス。知者ノ樂ハ水也ノ心法也。流行不レ滯ヲノミ心トスル時ハ、發散ニスギテ収斂セズ。故ニ退テ密ニ藏ルトイヘリ。密ハ無聲・無臭・無思・無爲・寂然不動ノ本体也。此大本不レ立時ハ流行スルコアタハズ。仁者ノ樂ハ山也ノ心法也。山澤ハ氣ヲ通ジテ流泉出ス。川ノ本ハ山也。山ハ川ヲ出スヲ以テ良能トスルガゴトシ。心ノ流行中寂然山ノ如ク本体立ツ。不動ノ本体シバラクモ息コトナシ。不動ト云テ物ノ不動ノゴトクニハ非ズ。退テ密ニカクルハ事ナキノ時也。天地万物吾身ニ備テ森然タリ。其心空々如タリ。溥博淵泉ニシテ時ニ出ス者也。聖人ニハ吉凶順逆ナシ。富貴・貧賤・悅樂・患難・死生・順逆、皆天地ノ中ノ一物也。心中ノ一事也。好惡ナク適莫ナシ。入トシテ不ニ自得一ト云コナシ。此心法ヲ立テ清淨ナル時ハ俗ヲハナレテ人倫ヲ和スルコナシ。故ニ士ヲ安ジ仁ニアツキノ心ニテ、奥ヨリ端ヘ出テ吉凶民ト患ヲ同クス。和光同塵トイヘル者也。仁厚ノ至也。幼子ヲ愛シテ童子ノ遊ヲトモニスルガ如シ。聖人心中ノ神ハ、來ヲ知テ兼テ民ノ爲ノ備ヲ設ケ、心中ノ知ハ古往ノ道德ヲ

備テ、今ニ叶フノ禮樂法式ヲ制作シ、六藝詩書ヲ敎テ善心ヲミチビキ新ニスル民ヲ興シ玉ヘリ。是古シヘノ聰明睿知神武ノ德アル人此任ニ預レリ。武ハ物ヲ殺ス備ナレ𪜈、不レ殺威アリテ不レ猛ナリ。神武ハ勇也。常ニ用テハヨク事ヲ決シテ不滯者也

是ヲ以テ明ニシ於天ノ之道ヲ。而察ニス於民ノ之故ヲ。是ニ興シテ神物ヲ以テ前ニス民用ヲ。聖人以テレ此ヲ齋戒ス。以テ神ニ明ニスル其ノ德ヲ夫

明天道ハ時變ニ通ズル也。察民故ハ人情ニ達スルナリ。天地鬼神ノ理ヲ明ニシ、人事ヲツマビラカニスル事、其前ニアリ。察ノ字意味アリ。民ノ父母タル者ハ、赤子ヲ保ガゴトシ。赤子不レ言ハ。父母ノ心ノ誠ヨリ察シテ養育ス。不レ中トイヘ𪜈不レ遠。民ハ言ドモ無知也。身ノ害ニ成ベキコトモ不レ知コトアリ。聖人ノ誠是ヲ察シテ、或ハ禮式ヲ作テ遠ク堤ヲナシテ凶害罪惡ニ陷ラザラシメ、或ハ刑政ヲ以テ少クコラシテ大ニ戒シメ、漸々敎テ善ニナレシム。是察民故也。神物ハ六十四卦再ニ卜筮也。專卜筮トイヘルハ末也。卦爻ノ中ニ前知ノ理アルガ故ニ、卜筮ヲ用テ來ヲ知也。天下ノ神物卦爻ヨリ妙ナルハナシ。天下ノ理無レ窮トイヘ𪜈、先民用ヲ前ニシテ造化ノ生氣ヲ助クル也。風雷益ニヨリテ農業ヲ興シ玉フ類也。易ヲ見ル時ハ天地トナラビ神明ト交ル。齋明以テ心ヲ洗ヒ、戒愼以テ密ニカクル、其德ヲ神明ニスル也。卜筮ノ時、身ヲ潔齋スルモ、神明ト交ハル事ナレバ、其身ヲ神明ニスルノ一助也

是ノ故ニ闔ルレ戶ヲ謂フ之ヲ坤ト。闢クレ戶ヲ謂フ之ヲ乾ト。一ビハ闔リ一ビハ闢ク謂フ之ヲ變ト。往來不ルレ窮ラ謂フ

之ヲ通ト一。見ルヽオハ乃チ謂二之ヲ象ト一。形アルオハ乃チ謂二之ヲ器ト一。制メ而用レル之ヲ謂二之ヲ法ト一。利用出入民咸ミナ用レル之ヲ謂二之ヲ神ト一

天道流行、動アリ靜アリ、猶戸ノ闔闢ノ如シ。戸ノタテアケヲ以テ陰陽動靜ノ譬トシ玉ヘリ。靜ナキトキハ動ナシ、靜ハ動ノ本也。人ノ夜イヌルハ昼ツトムルノ根ナルガ如シ。故ニ闔ヲ先ニノ玉ヘリ。坤ノ闔ハ夏至ヨリ一陰生ズ、万物是ニ由テ入ヲ闔戸ト云、羣動是ニ從テ息ス。乾ノ闢ハ冬至ヨリ一陽生ズ、万物是ニ從テ出ルヲ闢戸ト云、羣蟄是ニ由テ作ル。陰陽屈伸闔闢ノ中、万物變化ス。變ズル故ニ往來不レ窮、キハマル時ハ塞ル者也。通ズルハ不レ窮ガユヘ也。造化ノ無盡藏ナル處也。聖王是ニノツトリ、變ニ通ジテ不レ窮ノ政アリ。故ニ民人善ヲスルコトヲ樂テ倦コトナシ。象ハ☲離卦ヲ以テイヘバ、兩目相ツヾキタル網ノ象アラハレタリ。是ニヨリテアミノ形出來タルハ器也。網ノ目ヲ定テ魚其魚ノ尺ニミタザレバ市ニヒサガザルハ法也。䷡大壯卦ヲ以テイヘバ內卦ノ三陽ハ柱也。外卦ノ九四ハ棟也。六五上六ハヤネヲ双ベフキヲロシタル象アラハレタリ。是ニヨツテ屋ノ形出來タルハ器也。人民風雨ヲフセギテ安居シ、禮樂行ハレテ人道ノ善盡シ美盡スベキ備也。然レ𪜈制シテ用ル法ナキ時ハ、驕奢ニ流レテ民用ヲ費シ、山澤ヲアラシ却テ造化ノサマタゲト成ベキ勢アレバ、帝堯ノ宮殿トイヘ𪜈、丸木カヤブキニテ禮用ノ達スルバカリ也。諸侯ニ國ヲ封ズトイヘ𪜈、山川ニハ別ニ奉行アリ。山川ハ天下ノ本ナレバ、山林アレズシテ川常ニ深ク、民用乏シカラザルノ政アリ。是皆制シテ用ルノ法也。如レ此仁政ノ條目多シトイヘ𪜈略ス。利用ノ利ハ利欲ノ利ニアラズ。民生日用ノ便ヲ得ル事ハ皆利也。出入𪜈ニ人民其利ヲ利トシ、其樂ヲ樂トス。出テハ人ヲ利シ、入テハ家人ヲ

利ス。物我一体也。人民日用出入利生ノ功用、易ノ神道ニアラズト云コトナシ。ソレ人ハ天地ノ徳神明ノ舍也。故ニ人ノ運動ノ務ヲナス處、則神通妙用也。凡人ハマレナルコトヲ神通妙用ト思ヘリ。其奇特多ハ妖恠邪術也。人心ヲマドハシ、政務ヲサマタゲ、民用ヲ害スルバカリ也。利用出入シテ民皆常ニ用ルヲ至極ノ神道トス。不知ハマドヘリ。神書云、神ハキトクナシ、無事ヲ以テ奇特トス。神ハ体ナシ。正直ヲ以テ体トス。神ハ心ナシ。慈仁ヲ以テ心トス伝リ

是ノ故ニ易ニ有二リ太極一。是レ生二ズ兩儀一ヲ。兩儀生二ズ四象一ヲ。四象生二ズ八卦一ヲ

周子無極ニシテ太極トイヘルヲ、聖人ニ無極ノ言ナシトイヘルハアヤマレリ。易ニ有二リ太極一。則無極ニシテ而太極ノ淵源也。易ハ變易シテキハマリナシ。無始無終者也。無極ニ非ズヤ。故ニ生々是ヲ易ト云、一氣太極ヲ根トシテ不レ息（ヤマ）、故ニ陰トワカレ陽トワカル。是太極兩儀ヲ生ズル也。⚊⚋草木ノ初テ生ズル甲ノゴトクニテ二葉トナルガ如シ。兩儀四象ヲ生ズ⚌⚍⚎⚏是也。二葉又各二葉ヲ生ズルガ如シ。四象八卦ヲ生ズ。四象ニ各奇偶ヲ加ル時ハ八卦トナル。一卦各八卦ヲ生ジテ六十四卦トナル。草木ノ枝葉ヲクバリテサカヘタルガ如シ。世間利口ノ人ハ理ヅメヲ好メリ。九々ノ數也。理屈ナレバイナトハイハレヌヤウナレドモ有餘ナシ。乘ズル數ナレバ除スル也。ヨキヤウナレドモヤブル、者也。故ニ君子ハ不レ用。九々ノ一ヲ太極ニ歸シテ、八八ヲ以テ天地萬物ノ理ヲ盡シ、心ヲ洗ヒ密ニ藏ル。天下國家ノ政教ツマリキハマル事ナシ。永久ヲ有ツ（タモ）ノ道也。音樂ニモ拍子ヲウチツメタルハ和セズ。拍子ハ大体ニテユルヤカナレバ、和シテタノシメルガ如シ

八卦定メ吉凶ヲ。吉凶生ズ大業ヲ

太極兩儀ヲ生ジテヨリ奇偶々々ト重テ、一卦各八卦ヲ生ジテ六十四卦トナル、少モ作爲ナシ。天道自然ノ神理也。卦中自然ニ吉アリ。凶アルハ陰陽五行交易ノ勢也。此勢ヲ知テ兼テ其備ヲマワクル所ニ大業アリ。天下人民ノ業ヲ定テ造化ヲ助クル道アル故ニ大業ト云也。水旱風濕有餘不足アリ。豐年アリ。凶年アリ。天ノナセル自然ノ吉凶ナリ。旱ノ備ニハ田地ニ河水ヲミチビキ、川流ナキ地ニハヨキ地形ヲ見立テ、流レヲ受テ大ナル堤ヲツキ、大池ヲナシ、水難ノ備ニハ川ヨケ堤ナドヲ堅フシテ、田地民屋ニ水ノ不レ入ナシヤウアリ。其上ニモ大ナル凶年モシクハ夷狄ノ兵難ノ備アリ。天ノ四時春生ジ。夏長ジ、秋實ノリ、冬カクシテ來歳ノ生氣ヲ貯ルニノツトリ、一年ノ藏入ノ五穀ヲ四ニシテ、一ヲ貯ヘ、三年積テ一年ノ用アリ。三十年積テ十年ノ用アリ。皆萬人ノ爲ノ貯ヘナレバ、天下ノ人上ノ用ト不レ思。如レ此タグヒ天災ヲヨクル道ナリ。富有ノ大業也。夷狄猛獸等ノ備ニハ弓馬ヲナラハシ、武ヲ備ヘ文武ヲ兼テ大業ヲ生ズルヿ皆吉凶ニヨツテ也。又人爲ノ吉凶ハ得失ヨリ生ズル也。仁義ニ順ヒ善ヲ行フハ、吉ヲ得ルノ道ナリ。是ニ違ハ失テ凶ニユクノ道也。善ヲ爲ニモ得失アリ。國君世主ノ善ヲ好テ時ニ不レ叶、人情ニタガヘバ、少々ノ惡ヲスルヨリハ害大ナル者也。天ノナセル災ハサクベシ。外ヨリ至ルハ凶ハ德ヲ修メ業ヲ愼テサクル道アリ。無事安樂ニ吉事ノミナルヨリハ、其德高ク其業大ニ成モノ也。人爲ノ禍ハミヅカラ道ヲ失テ出來タル凶ナレバサクベカラズ。卜筮ニ依テ吉凶ヲ定ルモ事ヲ愼ノ一也

是ノ故ニ法象ハ莫シ大ナルハ乎天地ヨリ。變通ハ莫シ大ナルハ乎四時ヨリ。縣象ハ著明ハ莫シ大ナルハ乎日月ヨリ。

崇高莫大乎富貴。備物致用。立成器以爲天下利。莫大乎聖人。探賾索隱。鉤深致遠。以定天下之吉凶。成天下之亹亹者。莫大乎蓍龜。

象ハイマダ形アラザル前也。冬至・夏至・春分・秋分・立夏・立冬ノ節々、日ニ先立テ天象ニアラハル。大舜以前ハ暦ナシ。暦官ノ人天氣ヲ見テ天下ニ觸ヲクリタリ。次第ニ此官ニ居人マレナリシカバ、後世ハ閏月ヲモシラデ四時ヲアヤマランヿヲ恐レ玉ヒテ、大舜初テ璿璣玉衡ヲ作テ四時ヲ定メ玉ヘリ。算ニウツシテ教玉ヘバ、後世ハ其算ダニ傳フレバ、誰モ成事也。法ハ天ノ四時ノ法ニナラヒテ、爲事ナクシテ終アル地ノ道也。臣ノ道妻ノ道是ヲ則トスル也。故ニ法象ハ天地ヨリ大ナルハナシ。春霞糸遊ナドハ象ノ盛ナル也。星晨ハ象ノ大ナルモノ也。色ハミエネドモ秋ニナレバ、何トナク秋ノ空ト見エテ、風ノ音驚ル丶モ法象ナリ。冬ノ閉タル氣通ジテ天氣降リ、地氣升リ、變ジテ春トナリ、萬物生ジ、春氣トホリテ夏ニカハレバ、春ハ去テ跡ナシ。是夏ニ變ジタリ。夏氣オサマリテ秋トナレバ、夏ハ去テ跡ナシ。諸物實ノリテ天下ノ利用限ナシ。是秋ニ變ジタリ。萬物成就シテ後氣伏藏シテ冬トナレリ。功成リ名トゲテ身退ハ天ノ道トイヘル是也。不居不留、去テ跡ナキハ能變通スル故也。故ニ變通ハ四時ヨリ大ナルハナシ。陽ノ精ハ日トナリ、陰ノ精ハ月トナル。日月代リ明カ也。天ニカヽレル象ノ著明ナルハ、日月ヨリ大ナルハナキ也。萬民恐レテ不レ愛伝ヿナシ。崇高ハタツトクタカキナリ。公侯ハ一國ノ富ヲタモチ、各一國ニ君タリ。王ハ富四海ヲタモチ尊キヿ天子タリ。天地ノ性人ヲ貴シトス。王ハ其中ニテ極上ノ尊位也。天地ハ人民ノ大父

母也。衆生皆子ナレドモ、王ハ天地ノ宗ヲ得テ獨天子トイヘリ。故ニ天ニカハリテ民ノ父母タリ。造化ヲ助クル徳ナキハ虚位也。聖人ノ大寶ヲ位ト云。其徳アリトイヘドモ其位ナケレバ衆ヲ安ズルヿ不レ能。故ニ崇高ハ濟度利生ノ大寶也

備ヘレ物ヲ致シレ用ヲ立テレ象ヲ成スレ器ヲ。經文ニ象字ナシトイヘドモ、前文ヲ考ルニ落字タルベシ。立象ハ卦爻ノ象ヲ立テ理ヲ窮メ、性ヲ盡シ、徳ニ入ノ學術ヲ敎玉ヘリ。成器モ象中ヨリ生業ヲ助クベキ器ヲ制作シ玉フ也。始物ノ解ニミエタリ。備物致用ヿ其中ニアリ。天下ノ利ハ農工商各其利ヲ利トシ、其樂ヲ樂テ私欲ノ願ナシ。如レ此ノ政敎ヲナシテ、民間ノ婦女マデモ不レ知不レ識天遊スルハ、堯舜ノ天下ニ君師タル也。故ニ云、聖人ヨリ大ナルハナシ。賾隱ハ物象ヲ以テイヒ、深遠ハ事理ヲ以テ云トイヘリ。物象ヲ探リ索ル時ハ賾隱ノ理知ベシ。鉤ハ曲ニシテ是ヲ取リ、致ハ推テ是ヲ極トイヘリ。事理ノ深モノ出、遠キ者至ル。如レ此明ナル時ハ得失吉凶定テ亹々ノツトメヲコタラズ。上古ノ人ハ欲ウスク、好惡少ナカリシ故ニ、ヨク蓍亀ヲ用テ天下ノ吉凶ヲ定メ、天下ノ務ヲナセリ。後世ノ人ハ多欲ニテ好惡固滯スル故ニ、蓍亀ニマカスルヿアタハズ。度々失テ度々凶ナレドモ、我好コトナレバコリズ。吉ヲ得ベキ事ニテモ惡ムヿハセズ。故ニ得失カハル〳〵タガヒテ、吉凶ハ仕合ノミ。天下ノ勉造化ノ理ニ不レ叶コト多シ。此故ニ凶年モ多ク政タガヒテ四海困窮スル也

是ノ故ニ天生ズ二神物ヲ一。聖人則トルレ之ニ。天地變化ス。聖人效フレ之ニ。天垂レテレ象ヲ見メス二吉凶ヲ一。聖人象ルレ之ニ。河出シレ圖ヲ洛出スレ書ヲ。聖人則トルレ之ニ

神物ハ蓍也。聖人則之ハ四十九ノ用ヲ以テ其神靈ノ應行ハル。天地至誠ニシテ無レ息。故ニヨク變化ス。聖人效之

ノの下(イ)名モあり

ハ乾坤ノ二卦ヲマウケテ六子ヲ生ジ、六十四卦ヲ生ズ。皆天地陰陽變化ノ道也。聖人ハ天ヲ師トシテ效玉ヘドモ、後人ハ易ニアラザレバ天地變化ノ妙ヲ知ベカラズ。天垂象……ハ日月星辰ノ運行常ヲ得ト不レ得ニテ人事ノ吉凶ヲ示シ玉ヘリ。聖人象之ハ天文ノ官ヲ置テ天變ヲウカヾハシメ、天地ト德ヲ合シ、鬼神ト吉凶ヲ合スルノ道アリ。日食月食ハ運行ノ數也トイヘ𪜈、天下道アリテ君臣夫婦ノ禮儀正シキ時ハ、月食ノミ有テ日食ハナシ。人道ノ内外上下正シキ氣ニ感ジテ月ヨリヨクル理也。日ハ君ニ配シ、月ハ臣ニ配シ、后ニ配スレバナリ。月食ノミ有コトハ、君ヨリヨクルノ理ナケレバ也。故ニ孔子ノ春秋ニ日食ノミ記シ玉フハ、人倫道ナキヿヲシメシ玉フ也。河出圖ハ龍馬負レテ圖ヲ出ツ。天降ス其ノ祥ヲト云リ。伏犧氏ノ德天ニ叶ヘリ。其易ヲ作ント思召モ時ニ當レリ。故ニ天ヨリ其應アリ。其時マデハ一二三四五ノ・數モナカリシニ、天ノ數二十有五、地ノ數三十五、十五ノ數ヲ方位マデ正シク負出タルハ神妙也。然レ𪜈數モ名モシラヌ太古ノ時ナレバ、平人ハ連錢アシ毛ナドノ如ク見テ氣モツクマジキカ。伏犧ハコレナク𪜈易ハ作玉フベケレ𪜈、天ト同德感應ノ理ナリ　洛出書ハ神龜載レテ書ヲ出ス。訟呈ス其ノ瑞ヲトイヘリ。禹王ノ德地道ニ叶ヘリ。其文九數也。禹洪水ヲ治メ玉フ時、九河ヲサグリ、中國ヲ九州ニシ玉フ。地理如レ此ナクテハ不レ叶勢ナレバ、其功天意ニ叶テ此瑞ヲ示シ玉ヘル也

易ニ有二四象一所二以ナリ示一ス也。繫レク辭ヲ焉所二以ナリ告一ル也。定ルレニ之ヲ以二吉凶ヲ一所二以ナリ斷一ムル也

夫易ハ何爲者也ヨリ河出圖……聖人則之マデノ結語也。示ハ人ヲシテ見トコロアラシムル也。告ハ人ヲシテ知處アラシムル也。斷ハ人ヲシテ疑處ナカラシムル也トイヘリ

易曰。自天祐之。吉无不利。子曰。祐者助也。天之所助者順也。人之所助者信也。履信思乎順。又以尚賢也。是以自天祐之。吉无不利也

大有ノ上九ノ義ヲ釋シ玉ヘリ。上九ハ大有ノ時ニ當リテ、其位ニ不居ハ富貴ヲ有セザル也。故ニ高ケレ𪜈危カラズ、滿レ𪜈溢レズ。離ノ上ニ居テ六五ノ賢ヲ尊ブハ、其心明ニシテヨク天理ニシタガフ也。初九ハ咎ナキノミ、下ナレバ也。上九ハ上ニ居テ其有ニ不居、吉ナル處也。功アリテ德トセズ、四時ノ序也。天ノ道ニ隨ハ順ノ至也。上ニ居テ賢ニ信任スルハ、其心明カニシテ眞實ナレバ也。信ヲフミ行テ天道ノ順ニシタガハンヿヲ思フ。故ニ人好ミシ、天助テ吉利カギリナシ。上ニ居人信ナケレバ、下タノミナシ。信アレバタノモシク思テ助クル者也。心明ニテ賢ヲ尊ビ予知アリトセズ。故ニ人善ヲ告ルヿヲ樂メリ

子曰。書不盡言。言不盡意。然則聖人之意其不可見乎。子曰。聖人立象以盡意。設卦以盡情僞。繫辭焉以盡其言。變而通之以盡利。鼓之舞之以盡神

書不盡言、言不盡意ハ古語トミエタリ。然則聖人之意其不可見乎ハ、孔子ノ問ヲ設ケ玉ヘリ。聖人立象ヨリ孔子ノ自答也。意ニフクム處ノ深遠ノ理ハ言ニイヒ盡シ難シ。言ハ心ノ聲ナレバ、直言精神ノ感通アリ。書ハ其言ヲ筆ス

レドモ、言ノ跡ナレバ心聲ノ感ハ書ニ得ラレズ。故ニ聖人卦爻ノ象ヲ立テ、聖言ノ含ム處ヲ盡シ玉ヘリ。象中フクム處ノ理限ナシ。學彌至リテ理彌深遠也　設卦ハ文王卦ノ象ニヨリテ六十四卦ノ名ヲ設玉ヘリ。皆人心ノ情僞ニ叶ヘリ。情ハ眞情也。天理ノ性ニ率フ也。四端ノ如キ是也。僞ハ天理ノ性ニソムキタル也。繫辭ハ卦爻ニカケ玉フ處ノ文王周公ノ辭也。其辭書精神アリテ含蓄幽玄也。平人ノ言ノ如ク□工ノ人ノヲ見ルガ如キニハ非ズ。故ニ繫辭ノ文意ヨク聖人ノ言ヲ盡シテ教玉ヘリ　變而通之ハ天道五日ニシテ變ノ跡アラハル、是ヲ一候ト云、七十二候ニシテ一歳ノ變ヲ盡ス、人事コレニシタガフ。變ニシタガヘバ通ズ、順ハザレバ塞ル者也。天下ノ政道ハ人情時變ヲ本トス。時變ニ不レ叶、人情ニモトル時ハ、事善ナリトイヘドモ、天下ノ利フサガリテ不レ通、人民窮ス。故ニ聖人ノ治世ハ時トドモニ變通シテ利用カギリナシ。是ヲ利ヲ盡スト云也。鼓之舞之ハ人民日々ニ善ニウツリテ自不レ知也。禮樂政教ハ鼓舞ノ備也。過化存神ノ妙、自新ニスル民ヲオコス是盡神也。聖人ノ政教マデモ昔ノ跡ニテ時變ニ不レ通ハ、神ヲ盡スコトアタハズ。況ヤ凡知ノ理屈ニマカセテ善政ヲスルト思ヘドモ、鼓舞ノ精神ナク、時ノ變通ヲ不レ知ハ其功ナシ

イ本モ一字空白ナリ

乾坤ハ其レ易ノ之蘊カ耶。乾坤成レテ列ヲ而易立ニ乎其ノ中ニ矣。乾坤毀ル、トキハ則无ニ以テ見ルコト易ヲ。易不レバ可ラ見ル則乾坤或ハ幾ニ乎息ムニ矣

易ハ太虚ノ神道也。神道ヤムコトナク、乾坤列ヲナセリ。乾坤列ヲナシテ易象其中ニ立ツ。蘊ハ含蓄ノ意也。乾坤ノ中ニ易道含蓄シテアリ。タトヘテイヘリ。若乾坤ヤブレバ何ニヨリテカ易ヲ見ンヤ。又易ノ神道不レ行ハレ、功用變

化ミルコトナクバ、乾坤何ニヨリテカ存ゼンヤ。易ノ乾坤ヲ生ズルハ先天ナリ。乾坤易ヲアラハスハ後天也

是故形而上者謂之道。形而下者謂之器。化而裁之謂之變。推而行之謂之通。擧而措之天下之民謂之事業

天地未分ノ時ハ一陰一陽イマダ形象ナシ。道ノ名付ベキナシ。天地萬物出來テ器ヨリ見ル時ハアラハレズシテ上ナル物ヲ道ト云、アラハレテ下ナル物ヲ器ト云。道アレバ形アリ、形アレバ道アリ。物アレバ則アル也。有形ニヨリテ無形ノ道ヲ知也。道器合一ヲ聖人ト云、形ヲフム者也。形ノ道ニ順フヲ賢人ト云、形ハ形、道ハ道、二ニナリタルヲ凡人ト云。五倫ハ器也。父ハ慈ニ、子ハ孝、君ハ仁ニ、臣ハ忠、夫ハ和義ニ、婦ハ貞順、兄ハ良ニ、弟ハ悌、朋友信アルハ道也。故ニ形器ハ道ヨリ生ジテ、道ハ常ニ形ヨリ上ナル者也。器ハ道ヲ得テ其用行ハレ、道ハ器ニヨリテアラハル、者也。禮ハ玉帛ニ非ズトイヘドモ、玉帛ニヨリテ敬ヲアラハシ、樂ハ鐘鼓ニ非ズトイヘドモ、糸竹鐘鼓ニヨリテ和ヲ施スガゴトシ　化裁之ハ天ノ化ニシタガツテ人爲ノ裁制ヲスル時ハ、天トモニ變ジテ人民其變ヲ不レ知、是造化ヲ助ル道也。農業ノゴトキ天地造化ストイヘドモ、人裁制セザル時ハ、其生功トゲズ、田畠ノ草ヲ除クガ如シ。立ル物ヲバ立テ、除ク物ヲバ去ル。政ヲスルモ徳ヲ以テ人民ノ心ヲ化シテ後、禮儀ヲ敎ル時ハ惡ヲ改メ善ニウツリテ、風俗變ズル者也。徳ノ化ナクテ事ノ裁制バカリナレバ、人民イトフテ心服セズ、心術風俗トモニ何トナク惡ニ變ズル者也。故ニ君子ハ古ヘノ道ヲ推キハメテ、至善ヲ期シテ其爲ニヨラズ、古今事カハリテ道同ジキヲ通ト云。今ノ時處位ニ叶タル中ヲアゲテ、天下ニ用ル時ハ、人事行ハレ民業立也

是ノ故ニ夫レ象ハ聖人有テ以テ見ルコト天下ノ之賾ヲ。而〆擬ヘ諸其ノ形容ニ。象ル其ノ物宜ニ。是ノ故ニ謂フ之ヲ象ト。聖人有テ以テ見ルコト天下ノ之動ヲ。而〆觀テ其ノ會通ヲ。以テ行フ其ノ典禮ヲ。繫テ辭ヲ焉以テ斷ルコトハ其ノ吉凶ヲ。是ノ故ニ謂フ之ヲ爻ト

重テ出ス

極ムル天下ノ之賾ヲ者ハ存シ乎卦ニ。鼓スルコトハ天下ノ之動ヲ者存ス乎辭ニ

幽深玄遠ノ理ハ卦爻ノ象ニフクメリ。學ヲ以テキハメ知ベシ。生意ノ活動ハ卦爻ノ辭ニ備レリ。又辭ノ理ニヨッテ善心ノ動ヲ鼓舞スル也

化〆而裁スルコトハ之ヲ存ス乎變ニ。推メ而行コトハ之ヲ存ス乎通ニ。神ニ〆而明ニスルコトハ之ヲ存ス乎其ノ人ニ。默〆而成シ之ヲ不〆言ハ而信アルコトハ存ス乎德行ニ

風化ノ德アリテ時トモニ變ズル知アル人、ヨク禮樂法式ヲ裁制スベシ。推及シテ天下ニ行事ハ、ヨク人情ニ通ジ、民ノ父母タル一体ノ仁アル人ナスベシ。易ノ卦爻ノ象ヲ見テ、業ヲ始メ統ヲ垂、イマダナキ物ヲヒラク事ハ、神明ノ德アル人是ヲナスベシ。卦爻ハ常ニアレモ其人ニ存ズル也。默而……ハ深ク知者ハイヒガタシ。知ノ篤實則行ノナル也。信ノアツキ者ハ、言ヲ不レ用シテ人服ス、德ハ此理ヲ心ニ得テ固有ト成タル也。行ハ心ノ跡也。固有ノ德身ニアフレ、四体不言シテサトレリ。又身ニ善ヲ行ヘバ積テ心ノ德トナリ、心ニ得レバ身ニアラハル。內外始終ヲ

相成スヲ實學ト云也。易學默ノ而成レシ之ヲ。不レメ言ハ而信アリ。存ニスル乎德行一ニ歸ス。是孔門傳授之心法也

繫辭下傳

八卦成レノ列ヲ。象在リ二其ノ中一ニ矣。因テ而重レヌ之ヲ。爻在リ二其ノ中一ニ矣

八卦ハ乾・兌・離・震・巽・坎・艮・坤、也。太極兩儀ヲ生ジ、兩儀四象ヲ生ジ、四象八卦ヲ生ジテ列ヲナセリ。聖人天地ノ象ヲ見テ、八卦ヲ畫シ玉ヘバ、象ハ卦ノ前ニ有トイヘドモ、卦出來テハ又卦中ニ天地万物ノ象アリ。因重之ハ八卦各八卦ヲ生ジテ、六十四卦ナリ、卦ニ爻アリ、六爻ニ天地人三極ノ道備レリ

剛柔相推ス。變在リ二其ノ中一ニ矣。繫ケ辭ヲ焉而命レズ之ヲ。動在リ二其ノ中一ニ矣。吉凶悔吝ハ者。生ル二乎動一ニ者ナリ也。剛柔ハ者立レル本ヲ者ナリ也。變通ハ者趣レク時ニ者也

卦爻ノ變ハ剛柔相推ニヨツテ也。變動ニハ必ズ得失アリ。故ニ聖人辭ヲカケテ其吉凶ヲ命ジ玉ヘリ。吉凶悔吝ハ動ニ生ズレバ也。天地ノ造化剛柔相推テ萬物變化ス。人物（倫（イ））ノ交剛柔相推テ道ヲ得時ハ治リ、道ヲ失フトキハ乱ル、吉凶悔吝ノ生ズル所也。故ニ能剛ニ能柔ナルハ天下ノ本ヲ立ル所也。能剛ナル時ハ天ニ配シ能柔ナル時ハ地ニ合ス。能剛ナルハ天ニ繼テ極ヲ立ルノ志也。能柔ナルハ天下ノ民ニクダリテ民ニ父母タルノ仁也。覆フコト天ノ如ク、載スルコト地ノゴトシ、是本ヲ立ル所也。古今風氣異ナル所ヲ知、言路ヲ開テ人情ヲ知、變ニ通ジテ人民善ヲスルコ

トヲ樂ムハ、其政敎時ニヲモムキテ時ト共ニ行也

吉凶ハ者貞ノ勝ッ者ナリ也

貞ニ正固ノ二字ノ意ヲフクメリ。爰ニテハ固ノ意ツヨシ。志善ニ堅固ナレバ、常ニ吉隨ヒテ吉勝レ凶也。志惡ニ堅固ナレバ常ニ凶ニシタガヒテ凶勝吉也。又君子ニシテ凶多アリ。小人ニシテ吉多アリ。是ハ天地ノ陰陽ト同ジ。昼夜ニテイヘバ子以前ハ陰勝レチ陽ニ、子以後ハ陽勝レツ陰ニ。無道ノ代ハ小人ノ陽ニシテ、君子ノ陰ナリ。故ニ小人ニ吉多シ。君子ニ凶多シ。有道ノ代ハ君子ノ陽ナリ。故ニ君子ニ吉多シ。小人ハ君子ニ教育セラレテ吉中ニ安ジ、無道ノ代ハ小人君子ヲアダトシ、有道ノ代ハ君子小人ヲ愛ス。是君子ハオトナシク、小人ハワラハベシキ故也。若輩ヲ主トスル時ハ老荘トモニ役セラレ、慈老ヲ主トスル時ハ若輩メグマル丶ガ如シ。君子ハ無道ノ代ノ凶ヲ以テ不幸トセズ、却テ心ヲミガク砥石トスル也。君子ノ德ヲミガキ出スモノハ小人ノ横逆也

天地ノ之道ハ貞ニシテ觀スル者ナリ也。日月ノ之道ハ貞ニシテ明カナル者ナリ也。天下ノ之動ハ貞ナル夫ノ一ニスル也

貞正固也。天道ハ至誠也。故ニ其道正シテ不レ違。固シテ常アリ。無言ノ教ナリ。故ニ貞觀トノ玉フナリ。日月ハ陰陽五行ノ精靈也。其象アラハレテ神ナルハ日月ニシクハナシ。天道ノ至誠ニ出テ、誠ヨリ明ラカナリ。天ニカ丶レル聖人也。故ニ其ノ明正固ニシテ常アリ。久シテ不レ已。故ニ貞明トノ玉フ也。天下ノ動ハ萬變ニシテヒトシカラズトイヘドモ、心法正固ナル者ハ夫天理ヲ得テ主トス。故ニ變動中其心純一也。是ヲ主ニ忠信一ト云。本天理ノ至誠ヲ本心トスル者ナレバ、貞觀貞明左右其源ニ逢者也

夫レ乾ハ確然トシテ示二ス人ニ易一ヲ矣。夫レ坤ハ隤然トシテ示二ス人ニ簡一ヲ矣。爻ハ也者效フレ此ニ者ナリ也。象ハ也者像トルレ此ニ者ナリ也

乾ハ天也。確然トスクヤカニシテ一息ノ間斷ナシトイヘ𪜈、其道無事ニヤスラカ也。日月星辰ノ四象ノミカヽリテ、四時行ハレ萬物生ズ。坤ハ地也。隤然ト天道ニウケ隨テ無爲也。水火土石ノ四化ノミツラナリテ、雨露風雷時ニ發シ、万物育ス。天地易簡ノ善ハ知ヤスク隨ヒヤスシ。是則王道也。無言ノ至敎也。其至ニ及デハ天地聖人トイヘドモ盡スコトアタハズ。乾坤ノ道アラハレ示シ、其中ニ行ハルヽハ人道也。天ニ陰陽アリ、地ニ剛柔アリ、人ニ仁義アリ、是天地人自然ノ六爻也。未畫ノ易也。易簡ニシテ天下ノ理得タル者也。故ニ云、爻ハコレニナラフ者也。天行健也。君子以自强不息、コレ象ハコレニカタドルノ至也。乾坤ノ變化ニ效テ六爻ヲ分チ、乾坤ノ陰虛陽實ニカタドリテ、奇偶ヲナスコトモ又其中ニアリ

爻象動二テ乎內一ニ。吉凶見二ハル乎外一ニ。功業見二ル乎變一ニ。聖人ノ之情見二ル乎辭一ニ

內ニ動ハ未事物ニアラハレズ、卦爻ノ上ニ吉凶ノ象アルナリ。動ハ理ノ發シテ見エタル所也。外ハ旣ニ吉凶ノ事物ニ施シ及ビタル也。此吉ハ福利ノ好事ニアラズ、凶モ不吉ノ事ニ非ズ。天ニ有テハ陰陽、人ニ有テハ吉凶、自然ニナクテ不レ叶者ナリ。喪禮ヲ凶禮ト云タグヒ也。死生ハ天地ノ常理ナリ。生ヲ好ミ死ヲ惡ムニアラズ。陽ニ對シ晝ニ對シ生ニ對シテ陰也。死也。夜也。兵ヲ凶器トイヘルガ如シ。人ヲ殺ス備ナル故ニ凶器トイヘ𪜈、文アレバ武アリ、ナクテ不レ叶者也。聖賢ノ功ヲナシ業ヲ立コトハ、吉凶ノ變アリテ其德アラハルヽ者ナリ。無事ニシテ吉凶常ナル

時ハ順テ行バカリナリ。功業ノ跡見難シ。大旱洪水等ノ天變、夷狄中國ノ逆乱ノ變ナドニ、聖賢其任ニアタル時ハ、大功ヲ立大業ヲ成者也。聖人ノ情ハ文王周公ヲサス。辞ハ卦爻ノ辞ナリ。今ヨリ見レバ又孔夫子ノ情易傳ニアラハレタリ

天地之大徳曰生。聖人之大寶曰位。何以守位。曰仁。何以聚人。曰財。理財正辭。禁民爲非曰義

生ハ太虚ノ神道也。生ノ大本ヲ天理ト云。則太極也。此太極ヤ、形色ナク聲臭ナク、其大外ナク其小内ナシ。始ナク終ナキ故ニ無極ノ名アリ。昔モ今モ末代モ終ニアラハレズシテ、ヨク天地ヲ生ジ萬物ヲ生ジ、人ヲ生ズ。アラハレザルユヘニ天下ノ大本也。大本タル所ヨリ太極ノ名アリ。太極兩儀ヲ生ジテ天地位ス。宇宙アリテヨリコノカタ、日トシテ不レ生ト云コトナシ。天地ノ大徳ヲアラハス者ハ聖人也。然レ𪜈位ヲ不レ得下ニ居トキハ爻象ノ理ノミニシテ大業ヲアラハスコトアタハズ。聖人九五ノ位ヲ得ル時ハ、天地ノ造化ヲ助テ溫暑冷寒時ヲタガヘズ、雨露風雷節ニ應ジテ萬物其生ヲトグレバ、五穀水火ノゴトシ。家齊リ國治リ天下平ナリ。故ニ聖人ノ位ハ天下萬民ノ爲ノ大寶也。其位ヲ守テ子孫永久ナルコトハ、民ノ父母タルノ仁政ナリ。仁政ハ天地生々ノ心ニ隨テ行フ處也。大君天地ニ代テ天下ノ人民ヲ子トシ養ヒタマフニ、數十家ヲ聚テ村里ヲナシ、數百家ヲ聚テ郷黨ヲナシ、數千家ヲ聚テ國都ヲナシ、數萬家ヲ聚テ京師ヲナス。人ヲ聚養ニハ財ナケレバアタハズ。財ハ五穀衣類竹木飲食ノ器、スベテ日用ニナクテ不レ叶者也。金銀錢ハ此用物ヲ助ケ通ズル者也。在々所々ノ民國都京師ニ出テ用ヲ達ス。故ニ國都京師ニハ民

生日用ノ器物ヲ出ス工商アリ。ナクテ不レ叶財物ナレドモ、是ヲ治ル道ナケレバ却テ害ヲナス者也。商ニ財用ノ權ヲアタヘズ。商財用ノ權ヲ執トキハ、士貧ク民窮スルニ至ルモノナリ。富商諸侯ト富ヲ爭ヒ、後ニハ諸侯モ財用乏クナル故ニ士民困窮ス。故ニ古ハ天下ノ財用自然ノ勢アリテ工商ハ其利ヲ利トス。正辞ハ君々臣々父々子々夫々婦々長々幼々朋友々々号令時ノ可ニ當テ理ニタガハズ。其外萬事萬物名正シテ僞ナキ也。民ノ非ハ父不レ父、子不レ子、夫不レ夫、婦不レ婦、五倫不正ヲ非ノ第一トス。土地財用ニモ非ヲスルコトアリ。禁ズルハ禁未發治未乱ヲ本トス。既ニ發シテ禁ズルハ末也。義ハ義以方外ノ義ナリ。人ノ義ヲ云、人ノ義ヲ立ルトキハ非ハヲノヅカラ禁ズルナリ。此義ハ用ニ付テノ玉フ也。仁義禮知ハ德性ニ付テノ名也。羞惡ノ心ハ義ノ端トイヘルモ本体ノ上ヨリイヘリ

古ヘ者包犧氏ノ之王タリシ二天下一ニ也。仰デハ則観ミ二象ヲ於天一ニ。俯メハ則観ル二法ヲ於地一ニ。観ル三鳥獸ノ之文ト與ヲ二地ノ之宜一。近クハ取リ二諸身一ニ。遠クハ取ル二諸物一ニ。於レテ是ニ始テ作リテ二八卦一ヲ。以テ通ジ二神明ノ之德一ニ。以テ類ス二萬物ノ之情一ニ

包犧氏ハ伏犧也。始テアラハレ玉フ聖人也。聖德ノ人ハ必天下ニ王タリ。天爵人爵相應ノ時ナリ。此時ハ國郡ノ主ハ賢人君子也。其以前モ聖賢ハ出玉フベケレド、人民ニ欲ナク惑ナケレバ教ヘント思フ心ナシ。不孝不忠ノ者ナケレバ、孝子忠臣ノ名モナキ時也。伏犧氏ノ時ハ天地開闢ヨリ年久シテ、人モ次第ニ多ナリ、事物モ漸出來テ、人民欲アリ、惑アリ。伏犧是ヲ憂玉ヒテ、初テ敎ノ心生ズ。故ニ易ヲ作リ玉ヘリ。仰観ハ陰陽ニヨリテ兩儀ノ爻ヲナシ、日月ニヨツテ大陽大陰ノ爻ヲナシ、星辰ニヨツテ少陽少陰ノ爻ヲナシ、乾坤ニヨツテ三畫卦ヲナシ、乾坤一索シテ

長男ヲ得ルヲ震トス。再索シテ中男ヲ得ヲ坎トス。三索シテ少男ヲ得ルヲ艮トス。又一索シテ長女ヲ得ルヲ巽トス。再索シテ中女ヲ得ルヲ離トス。三索シテ少女ヲ得ルヲ兌トス。八卦備レリ。觀法ハ天ノ陰陽五行ノ施ヲ受テ風雷雨露時ニシタガフハ地ノ法也。鳥獸ノ文ハ羽毛ニモ陰陽ノ數アラハル、也。鯉魚ノ背上ニ三十六鱗アルハ陰數ナリ。龍ノ背上ニ八十一鱗アルハ陽數ノ類也。地ノ宜ハ西北ハ地ノ陽ニシテ高シ。故ニ艮トス。東南ハ地ノ陰ニシテヒクシ。故ニ兌トス。水ハ常ニ東逝スルヲ以テ順トス。西北ニ流ル、ヲ逆川ト云。逆川ニ鮭魚生ズ。逆川ハ天下ノ地形ニ非ズ。其國ノ地勢也。地ノ宜委シクイハヾ限アルベカラズ、草木ニヨツテモ知ベシ。木ハ地ノ剛ヲ得テ生ズ。草ハ地ノ柔ヲ得テ生ズ。故ニ木ハ大剛ノ火ト合テ物ヲ烹ト、ノヘ、草ハ大柔ノ水ニ化シテ人物ヲ養フ。五穀草木皆地ノ宜ニシタガフ也　近取ハ天地ノ全体人身ニ備レリ。遠取ハ身外ノ物竹木草花金石ニモ陰陽ノ理アラズト云コトナシ。草木ノ初テ生ズルハ二葉也。根ノ土中ニカクレテアラハレザルハ太極ノゴトシ。二葉ニ生ジタルハ兩儀ノゴトシ。其二葉枝ト成テ又生ズ。四象八卦六十四卦、下ヨリ上ニカサナリテ生ズルガゴトシ。聖人一度心ヲ付玉ヘバ、天理ノ流行ニアラズト云コトナシ。故ニ卦爻ヲ作テ其精義ハ心ヲ洗ノ心法トナリ、神明ノ德ニ通ジ退テ密ニカクル。其粗ハ萬物ノ情其類々不レ盡ト云コトナシ。此八卦ハ六十四卦也。一卦各八卦ヲ生ズレバ也。六十四卦天地萬物ノ情無レ不レ備

作テ二結繩一ヲ而爲シ二網罟一ト。以テ佃シ以テ漁ス。蓋シ取レルナリ二諸離一ニ

初ハ葛蔓ノ類ヲトリテ繩ニナヒ、結テ網トシ、山野ニシテハ鳥獸ヲトリ、河海ニシテハ魚鼈ヲ取、肉食スルコトヲ

敎玉ヘリ。☲ハ一陰二陽ノ間ニ麗ユヘニ、離ハ麗也トイヘリ、☲☲兩目相承ルハ虚中相ツヾク網ノ象アリ。鳥獸ノ網ニツキ魚鼈ノ罟ニ麗佃漁ノ理也。其時ハイマダ衣服ノ織物ナシ。此結繩織物ノ漸也。絹ノ織物モ兩目シゲク相ツヾキヒシトウチコミタル物也。ナレユクモウキ世ナレバヤ須磨ノ海士ノ塩ヤキ衣マトヲナルラン、トイヘリ。賤ノ衣ノヨミアラキハ今モ虚中アリ、人ノ身ニ麗テ風寒暑濕ヲフセグ者也。又離ハ火也。鳥魚ヤキテ食スベシ。又網ヲ水ニ入タルハ水火既濟ノ象アリ。水上ニ火下ニアリ、烹理アリ、直ニ火ノ上ニ水ヲ置時ハ火消テ用ヲナサズ。火土ヲ生ズ、土水ヲ克ス。土水火ノ間ニ有テ烹ノ用達ス。食物ヲ調ル鍋釜ハ土器其始也。其後鐵ヲ取テ鍋釜トス。火尅金ニテ器トナル。內ニ水ヲ入金生水ノ水アレバ火金ヲ損ズルコトアタハズシテ、物ヲ烹調ル也。肉食ハ天地乳養ノ理也。其上禽獸魚鼈人倫ニマジハレバ其害ヲ去ル也

包犧氏沒ノ神農氏作ル。斲レテ木ヲ爲レ耜ト揉レテ木ヲ爲レ耒ト。耒耨ノ之利以テ敎ニ天下ニ。蓋シ取ルナリ二諸益ニ一

同ジの下(イ)事也あり

神農ノ時彌人多成テ、草木ノ實、肉食ニテハ不足ナリ。神農コレヲ憂玉ヘバ天美種ヲ生ズ。則取テ耕作ノ業ヲ敎タマヘリ。河圖ヲ出シ洛書ヲ出スト同ジ。米草水澤ニ生ジ、麥草野ニ生ズトイヘドモ、平人是ヲ見テ食スルコトヲ不レ知ノミナラズ、是ヲ耕作スルコトハイカデ知ベキ。今ノ田ヲ種(植(イ))麥ヲマクヲ見テ、神農氏ノ神知ヲ知ベシ。世間ニ神農ノ草根ヲナメテ藥ヲ始メタマヘル妙ノミイヘリ。ソレヨリハ耕作ノ業ヲ始メタマヘルコト神ニシテ大ナルユヘニアゲタマヘリ。前ニ伏犧佃漁ノ事ナクバ、鳥獸田畠ニミチテ農業ナルベカラズ。網罟ノ敎ハ農業ノ漸也。天下ノ益ハ

農業ヨリ大ナルハナシ。益ノ卦風雷ノ二体ヲ合ス。風ハ入リ雷ハ動、上入下動、君子民ノ父母タル仁德アリ。故ニ其慈心下ニ入リ通ズ。下民仁政ニ感ジテヨクツトメ動ク。人民ノ勤動ハ耕作ヲ本トス。風雷ヲ器ニトル時ハ二体皆木也。木土ニ入テ動ク象アリ。故ニ鋤鍬ノ制出來タリ、木ノ先ヲ平ニウスクトクシテ、カタニ足ガヽリシ、土ニフミ入テ動シオコスヲ鋤ト云。マガレル木ヲケヅリテ横ニ田畠ヲカヘスヲ鍬ト云。後世鐵ヲキタヒテ是ヲ作リ、柄バカリ木ヲ用タリ。䷩（エキ）ノ象ニトリ玉ヘリ。理ヲ以テイヘバ上ヲ損ジ下ヲ益ヲ益トス。乾ノ下ノ一陽ヲ損ジテ、坤ノ下ノ一陰ヲ益タリ。財散ズル時ハ民アツマルノ義ナリ。財ヲ散ズル道ハ仁愛無欲ノ心法ナリ。是ヲ散ズル法ヲ政ト云、政アシケレバ散ジテ益ニナラザル者也。眞實ニ人民ヲ子トスル仁心ノ誠アレバ、言路ヲ開キ問コトヲ好ミ、ヨク下ノ情ニ通ズ。畢竟知ハ道學ヲ好ミ人情事變ニ通ズルヨリ深ク明ラカナル者也。是巽入ノ心法也

日中ニ爲（ナ）レシ市ヲ。致シ二天下ノ之民ヲ一。聚ム二天下ノ之貨ヲ一。交易メ而退テ各々得ニ其ノ所ヲ一。蓋シ取レルナリ二諸噬嗑ニ一

䷔ハ養ノ道也。初九上九上下ニミチテ中虚ナルハ口中ノ象也。九四ノ一陽中ニアルハ口中ニ物アルノ象ナリ。口中ニ物アリテ下動クハクヒ合スルノ象也。クヒ合ル時ハ味アリテ養トナル。天下ヲ養ノ道有無相交易スルニアリ。離火上ニ明カナルハ日中ノ象ナリ。震雷下ニ動クハ市ノ象也。雷ハ陰陽相スリテ聲ヲナス、交易ノ理也。農人ハ米麥餘アリテ鍬鎌等ノ農具ナク、魚ナシ。故ニ鍜冶農具ヲ持シ、漁者魚ヲ持シ、農人米麥ヲ持テ市ニ行、タガヒニ交易スル也。其外有トコロノ物ヲ以テ無トコロノ物ニカフル時ハ、各其利ヲ得テ用達ス。又賢君上ニ在シテ天下ノオヲ

盡シ、力ヲ用ルノ象アリ。德知上ニ明ニシテ才力下ニ動ク。知ハ力ヲ使、力ハ知ニ隨フ。然レ𪜈離明ノ主自明ニ不レ居、前後ノ陽剛ニ任ス。上九ハ師也。王者是ヲ臣トセズ。太公望ヲ師尙父トイヘルガ如シ。九四ハ臣也。三公九卿大夫士其中ニアリ。剛直ニシテ善言ヲ盡シ、諫言ヲイル、也。六五ノ君天位ニ處シ、明天下ヲオホフトイヘドモ、知ヲカクシテ賢ニクダリ天下ノ言語ヲ開ク。陽位ニシテ陰柔ヲ守リ、明知ニシテ知ヲ先ダテズ。燈臺本クラクシテ四方ヲテラス。夜手前ヲクラクナシ外ニ火アルトキハ、目力ノ及處遠ガゴトシ

神農氏沒ノ黃帝堯舜氏作ル。通ニ其ノ變ヲ一使ムレ民ヲ不ラレ倦マ。神ニシテ而化スレ之ヲ。使ムレ民ヲ宜フセ一之ヲ。

易窮マルトキハ則變ス。變ズルトキハ則通ズ。通ズルトキハ則久シ。是ヲ以テ自レ天祐クレ之ヲ。吉ニシテ无シ不トイフコトレ利アラ。

黃帝堯舜垂レテ衣裳ヲ一而天下治ル。蓋シ取レルナリ諸ヲ乾坤ニ一

伏犧氏ノ時ハ寅ノ時ノゴトシ。神農氏ハ寅ノ終東方少シ白クナリタレ𪜈、イマダ夜中ノゴトシ。黃帝ノ時ハ夜スデニ明テ物ノ色初テ見ユルガ如シ。堯舜ノ時ハ日ノ出ノゴトシ。伏犧神農ノ代ヲヘテ器粗出來、食既ニ足トイヘ𪜈、天地ノ風氣未レ開。故ニ上下貴賤ノ分其實ノミ有テ文イマダアラハレズ。黃帝ニ至テ風氣開ケタレバ、人民夜中ノ体ニテハ不レ安心アリ。故ニ人道ノ禮儀文章黃帝ニ初テ堯舜ニ備レリ。三皇五帝ノ民ハ夙ニ興テ終日善ヲナシ、夜ニ寐テ善心ヲ養ヘリ。三五ノ神君天地風氣ノ變ニ通ジテ民人善ヲズルニ倦コトナキ政教アリ。聖人過化存神ノ妙号令ヲカラズ、時處位ニ隨テ宜ケレバ、人民日々ニ善ニウツリテ、ナス者ヲ不レ知。易ノ道ハ陰陽ノ道ナリ。天地ノ神道

也。陰極リテ陽生ズ。極レバ變ズ。人君天地陰陽ノ變ニ通ジテ治ヲナシ玉フ時ハ、天地ノ造化ヲ助テ其道無窮也。數千歳ノ後朝鮮日本ノ遠國マデモ堯舜ノ御代トテシタヒ思ハヌ者ナシ。故ニ其時代ニハ定レル賦命ノ上ニ重テ天ヨリ助ケ命ゼラレテ、必ズ其富貴ヲ得、必ズ其壽命ヲ得、必ズ其令名ヲ得テ、子々孫々餘慶久シ。天下ノ爲ノ大寶ノ位ヲ得テ、天下ヲ利スル大業ノ本ヲ立ル也。其德ノ至リ治道ノ極無爲ニシテ無事也。衣冠束帶シテ南面シタマフバカリ也。是乾坤ヲ師トシタマヘリ。天尊ク地卑シテ乾坤定リ、日月代明ニ四時ニ行ハレ萬物生ズ。堯舜ノ治如レ此天地ト德ヲ合スルノ至也

刳レ木爲レ舟。剡レ木爲レ楫。舟楫之利以濟二不通一。致レ遠以利二天下一。蓋取二諸渙一。

聖人四海ヲ見玉フコト一家ノゴトク、中國一人ノゴトシ。海ヲヘダテ、遠キ國ハ目ヲ以テ見玉ハザレドモ、天ノ下ニ不通ノ國々アリ、人アルコトヲ知タマヘリ。天ニ代テ人民ヲ子トシタマヘバ、養育ノ叓敎化ノ道ノ不レ及コトヲ憂ヒ玉ヒ、渙ノ卦ニ木ニ乘テ功アリ、大川ヲワタルニ利アリ。天下ヲ利スル象アルニ取テ、木ヲエリテ中ヲ虛ニシ、楫ヲ爲リテ是ヲ進ム。䷺ハ水上ニ木アリ風アリテ、水上ニ木ウカミテ風アル時ハ數千万里ヲ渡スベシ。舟ハ楫ヲ以テ本トス。櫓ト帆ト其中ニアリ。舟ノ初ハ大木ノ中ヲエリテ作リタリ。今近江ノ湖ニアル舟ノモヤウナルベシ。次第ニ大船ヲ作ルニヨリテ板ヲ以テ作リタリ

服レ牛ニ乘レ馬ニ。引レ重ヲ致レ遠ヲ。以テ利ス天下ヲ。蓋シ取ルナリ諸隨ニ

天地ノ間ニ牛馬ノ生ズル無用ニシテ可レ生理ナシ。牛馬ハ人ヨリモ力强クテ無知也。人ヲ助ベキ者也。䷐ノ卦下動キ上悅ブ。馬ニ乘テ遠キヲ行象アリ。物動勞シテ乘人休シ悅ブ義也。澤中ニ動ク、澤ハクラキ處也。クラキニ動クハ無知ニシテ人ニシタガフ象也。無知ナル故ニ理ヲ云テ使フベカラズ。故ニ牛ハ鼻ヲ穿テツカヒ、馬ハ初ハカシラヲマトヒ、手綱ヲカケテ乘、後ニ轡鞍切付三皆等ノ制出來タルト見エタリ。牛ニモ乘、馬ヲモツカヘ𪜈、第一性トスル處ニ付テ用ル也。射御トイヘバ車馬ノ法トノミ心得ル者アレドモ、馬ハ乘馬其始也。陸地ノアル處ハ馬ニ乘テ遠ヲ致シ、牛ヲツカヒテ重ヲ引、有無相通ジ教化及テ遠方ヲ利スルノ道也

重門擊レ柝ヲ以テ待ツ暴客ヲ。蓋シ取ルナリ諸豫ニ

上古ハ家屋風雨ヲ防グノミニテ門ナク戶ザシナシ。舟車馬出來テ遠方ノ者至ル時ハ夷狄ノ暴人ナド來ランコトヲ恐ル。故ニアラカジメ門戶ヲ備テ其內ニ柝ヲウツ、今ノ拍子木ナリ。䷏ノ卦前ノ二陰ハ重門ノ象也。下ノ一陽ハ擊柝ノ象也。三陰內ニ安キハ說豫ノ象也トイヘリ。雷地ヲ出テ震フハ豫ナリ。內ヨリ外ヲ用心スル也。天下太平說樂ノ時武備ヲコタラザル意ナリ

斷レ木ヲ爲レ杵ト。掘レ地ヲ爲レ臼ト。臼杵ノ之利萬民以テ濟フ。蓋シ取ルナリ諸小過ニ

䷽ハ震木上ニ動キ艮土下ニ止ル、米ヲ治ノ象ナリ。杵臼ノ始ハ地ヲ堀テ土ヲカタメ、木ヲ以テツキタリ。其後臼

ヲ石ニテツクリタリ。山ハ一巻石ノ多ナレバ、今ノカラウス小過ノ理ニ叶タリ。或ハ大本ヲエリテ臼トモナシタリ。ソレニテモ上動キ下止ノ象ハ同前也。耒耜ヲ以テ耕稼シ、米麥多出來タレバ粟ヲ脫スル器ナクテ不レ叶。故ニ小過ノ象ニヨツテ杵臼出來タリ。杵臼ハ小人ノ事也。小過ハ小キナル者過タリ。陽ヲ大トシ陰ヲ小トス。中二陽ニシテ上下四陰ナリ。內卦モ一陽二陰ナリ。外卦モ一陽二陰也。共ニ小過タリ。一君二民ハ君子ノ道也。君子少ク小人多ク、君子主トナリ、小人臣從トナル。有道ノ代天地ノ常也。君子主トナリ小人多カラデハ物出來ル叓ナシ。天下ヲ利スルコトナシ

弦(ツルカケ)レテ木ニ爲(シ)レ弧(ユミ)ト。剡(ケヅリ)レテ木ヲ爲(ス)レ矢ト。弧(コ)矢ノ之利以テ威(ヲド)ス二天下ヲ一。蓋シ取(レルナリ)二諸睽(ケイ)一ニ

木弓ヲ弧ト云トイヘリ。昔ハ弓矢ニヨキ木アリタリト見エタリ。木ヲタハメ弦カケテ弓トシ、木ヲケヅリ、サキヲトクシ、ハズヲナシ羽ヲ付テ作タル其始也。心ノソムキタル者ヲバ威ヲ以テ服スベシ。少キ害ハ重門擊柝ニテフセギ、大ナル害ハ弓矢ニテヲドス也。䷥(ケイ)ハ火澤ヲ合テ卦ヲナセリ。火ハノボリ水ハクダル。其心ソムキタリ。シカレドモソムキテ用ヲナス理アリ。弓ハ竪矢ハ横ニシテ用ヲナス、先ヘヤラントテ前ヘ引、本末カヾミタル方ヘ不レ張シテ、引カヘシテソリタル方ヲ張ル、皆ソムキテ用ル理也。吾ニソムキタル者ヲ制スルニハ、其者ヲニクシト思ヒ、ソムキタル者ヲ用テ功アリ。初弓矢ノ制ハ禽獸ヲシタガユルヨリ發リタルガ、禽獸ハ人ニ隨フ者ナレドモ、タケク力强キハ却テ人ヲ害ス。是モソムキタル也。故ニ弓矢ヲ作テ禽獸ヲヲドシ遠ケ、人倫ヲ安ジタマヘリ。物ノ品々チガヒタルハソムキタル也。チガヒタル物ヲ寄テ一体ニセザレバ、天下國家トモニ用達セザル者也。男ハ外女ハ內、

男女ソムキテ家事調ヘリ。天ハ至動、地ハ至靜、天地ソムキテ万物生ズ。一家ノ內モ氣質ノチガヒタル者ヨリ合テ事足モノ也。同ジヤウナル者バカリニテハ用達セズ。硯ハ靜ニ墨ハ動キ、筆ハイヨ〳〵働キテ用達スルガゴトシ。チガヒタル者ヲ一体ニスル處敎也

上古ハ穴居シテ而野處ス。後世ノ聖人易カフルニ之ニ以シ宮室ヲ。上ミネ棟ヲ下ニシ宇ノキヲ。以テ待ツ風雨ヲ。蓋シ取ルナリ諸大壯ニ

今多ハ山ノ東南ニ塚穴アリ。四方ニ石ヲタヽミ上ニ大石ヲアゲ、東南ニ口アリ。內虛ニシテ居ベシ。是イニシヘノ穴居ナリ。冬ハ是ニ居、夏ハ木ノ枝ノナラビヨキニ床ヲカキ、上ニモ茅ヲホヒ、鳥ノ巢ノヤウニシテ居レリ。野ニシテハ長キ柴木ヲ四方ヨリ引ヨセ上ヲユヒ、カヤヲチホヒ、內ヲ虛ニシテ今ノ雉子ドヤノヤウニシテ居タルトミエタリ。引ヨセテムスベバ柴ノ菴ナリトクレバ本ノ野原ナリケリ、ト云哥ノゴトシ。上古ハ人スクヤカニ無病ナリシ故ニ如レ此。後世ハ人多ナリテ五穀魚鳥野菜等ヲ烹熟シテ食スル故ニ、次第ニ寒濕風雨ニイタミテ穴居野處タヘガタシ。故ニ聖人宮室ノ制ヲナシタマヘリ。䷡ノ內卦乾ノ三陽下ニスクヤカナルハ柱ノ象ナリ。震ノ一陽其上ニノボリタルハ棟ノ象ナリ。上ノ二陰双ヘワカレタルハ屋根ノ象ナリ。陰ハ元下ニアル者也。今上ニアルハクダル義アリ。双ベフキヲロシクダリテ宇トナル故ニ、棟ヲ上ニシ宇ヲ下ニストノタマヘリ

古ノ之葬ル者ハ。厚ク衣キスルニ之ニ以テシ薪ヲ。葬ルニ之ヲ中野ニ。不レ封セ不レ樹セ。喪期无シレ數カズ。後世ノ聖人

易フルニ之ニ以スニ棺槨ヲ。蓋シ取レルナリ諸ヲ大過ニ

人生形氣アリ、氣ハ本ヨリ天ト一体ニシテユカズト云コトナシ。數アリテ游散スレバ死ス。死スレバ形ハ土ニ歸ス。理ノ常ナリ。故ニ古人ハ理ニシタガヒテ死体ヲ土ニウヅミ、其上ニ厚ク木ヲキリカケテ置タリ。狼犬ナドノホリカヘサヾル用心ナルベシ。野中ニ如レ此シテ塚モツカズ、樹モ植ザリシナリ。三年ノ喪期ノ喪ナド、云數モナク、人ノ情ノ厚薄ニシタガヒテナゲキタキホドナゲキテ、シユルコトモ、ヲサフルコトモナカリシ也。是伏犧神農ノ時ハ誠ノミニシテ文ナカリシ故也。黄帝ヨリ大壯ノ象ニヨリテ家屋出來タリ、大壯ハ外震也。震ハ動也。風雨飄搖ノ象也。是ヲ以聖人スミガネヲ作テ屋ヲナシタマヘリ。生テ此形如レ此、孝子ハ幽明死生ヲ以テ二ニセズ。大過ハ澤風也。内巽也。巽ハ入也。外兌也。兌ハ土也。木土ニ入ノ象也。是ヲ以テ棺槨ノ制出來タリ。天下大ニ過テ害ナカルベキ者ハ孝也。故ニ土ニ歸スルハ理ナレ𪜈、孝子ノ情ニ隨テ棺出來タリ。厚ニ過タル者也

上古ハ結テ縄ヲ而治ム。後世聖人易フルニ之ニ以ス書契ヲ。百官以テ治リ。萬民以テ察カニス。蓋シ取レルナリ諸ヲ夬クワイニ

上古ハ人淳ニ事簡也。故ニ事ノ大小タヾ縄ヲ結ビテ是ヲシル。大事ニハ大縄ヲ結ビ、小事ニハ小縄ヲ結ビタリ。是ヲ以テ治ヲナスニタレリ。後世ハ人多ク物備リ、事シゲキニヨリテ心外ニハセテ、風俗ウスク僞生ズ。故ニ後世ノ聖人書契ヲ作リ玉フ。書ハ字書（○傍ニ畫カト兩本トモニアリ）也。契ハ判形ナドノ類也。カキ物ヲサセ、判形サセ置テハ後ニ爭コト

アタハズ。君タル人モ書札ヲ以テ國天下ニ約スル時ハ、人民チガヒナカランコトヲ信ジテ、惡ヲ去リ善ヲスルニ進ムナリ。是ヲ以テ百官治リ、万民察ニシテ邪僞ナカリシ也。䷪ハ決也。君子ノ道長シ小人ノ道消スルノ時也。然レ𪜈小人ヲ除キ去ニハアラズ。政敎ヲ以テ其心ノ惡ヲ去也。書契ハ欺詐ヲナサヾラシムルノ初也。小契ヲ以テ小人ヲ治テ、イマダ刑罰ニハ不レ及。上古ニクラベテ薄シトイヘ𪜈、後世ノ及ガタキ處ナリ

是ノ故ニ易ハ者象ナリ也。象ハ者像ナリ也

奇偶ハ陰陽兩儀ノ象也。奇偶ニ各又奇偶ヲ重テ四象ヲ生ズ。大陽大陰少陽少陰ノ象也。四象ニ又各奇偶ヲ重テ八卦ヲ生ズ。是ニヲイテ乾坤六子ノ象四方四偶ノ位備レリ。一卦ニ各八卦ヲ重テ天下ノ象備レリ

彖ハ者材ナリ也

文王ノカケ玉フ彖ノ辭ハ一卦ノ材ヲノタマフ也

爻ハ也者效ナラフニ天下ノ之動ニ者ノナリ也

周公ノカケ玉フ爻ノ辭ハ天下ノ動ニヨツテ其象其理ヲノタマフ也

是ノ故ニ吉凶生ナリテ。而悔吝著ハル也

ヨク悔テ過ヲ改メ善ニウツル時ハアラハレテ吉トナル。吝ニシテ過ヲカザリ不レ改時ハ、アラハレテ凶トナル。人事ノ吉凶也。天爲ノ吉凶アリ。寒暑風雨ノイタルガ如シ。君子コレヲ待ニ道アリテアヅカラズ

陽卦ハ多レ陰。陰卦ハ多レ陽。其ノ故ハ何ゾヤ也。陽卦ハ奇ナリ。陰卦ハ偶ナリ。其ノ德行何ゾヤ也。陽ハ一君ニシテ而二民ナリ。君子ノ之道ナリ也。陰ハ二君ニシテ而一民ナリ。小人ノ之道ナリ也

☳☵☶ヲ陽卦トス。一陽二陰也。スクナキ者ヲ主トス。故ニ陽卦ニハ陰多シ。☴☲☱ヲ陰卦トス。一陰二陽也。スクナキ者ヲ主トス。故ニ陰卦ニハ陽多シ。其數ヲ以テイヘバ陽卦ハ皆五畫ニシテ奇ナリ。陰卦ハ皆四畫ニシテ偶也。其德行ヲ以テイヘバ、陽卦ハ一君ニシテ二民也。君子主ト成テ小人是ニシタガフハ君子ノ道也。陰卦ハ二君ニシテ一民也。父子二人ニテ僕一人、夫婦ニテ下女一人、小身者ノ体也。又君子貧賤ニ成テ居ハ道ナキ世ノ風俗也。小人時ヲ得タル故也。是又小人ノ道也。又此君子小人ハ德ニカヽラズ、位ヲ以テ云テヨク聞ユルナリ。身代ヨキ者ハ下人多、小身者ハ下人少シ

易ニ曰。憧々トシテ往來スレバ。朋從フ爾ノ思ニ。天下何ヲカ思ヒ何ヲカ慮ラン。天下同シテ歸ヲ而殊ニシ塗ヲ。一致ニシテ而百慮ナリ。天下何ヲカ思ヒ何ヲカ慮ラン

子曰ノ二字ヲ除ク、易ノ語ト孔子ノ語トノ分ヲ立ン爲ニ、後人ノ加ヘタルナルベシ。孔夫子咸ノ九四ノ爻ノ辞ヲ取給フ故ニ易曰トアリ。前ノ十三卦ノ象ヲトリ、器ヲ作給コト思慮分別作意ニ非ズ。時ニナクテ不レ叶物故不レ得レ已シテ制シ給ヘリ。陰卦陽卦モ自然ニシテ生ズ、作意アルニ非ズ。凡人ハ益ナキコトヲ昼夜思慮スル故ニ不レ常往來ノ念憧々然タリ。其根ハ好惡ノ欲ヨリ生ズ。其好處ノ朋類間思雜慮ノ妄トナル也。天下道二、仁ト不仁ト也。仁ナ

ル者ハ仁ノ歸同シテナス處ノ道ハ異也。不仁モ亦如レ此。千思百慮トイヘドモ理ニ隨所ハ一也。故ニ君子ハ思慮ヲ費スコトナシ。天地萬物收斂ヲ主トス。發散ハ不レ得レ已也

日往ケバ則月來リ。月往ケバ則日來ル。日月相推ノ。而明生ズ焉。寒往ケバ則暑來リ。暑往ケバ則寒來ル。寒暑相推ノ。而歲成ル焉。往ハ者屈ナリ也。來ハ者信ナリ也。屈信相感メ。而利生ズ焉。尺蠖ノ之屈スルハ。以テ求ルナリレ信ンコヲ也。龍蛇ノ之蟄スルハ。以テ存スルレ身ヲ也

日ハ晝ヲテラシ月ハ夜ヲテラシ、日月相感ジ往來シテ代明也。日北ニ近付晝長ニ隨テ暑氣生ズ。月北ニメグリ、夜長ニ隨テ寒氣生ズ。日月晝夜ヒトシキ時ハ溫凉ノ氣生ズ。日月南北ニ相推シ、溫暑凉寒ノ氣相感ジテ一歲成ル。陰極テハ陽ヲ生ズ。極ル者ハ往テ屈シ、生ズル者ハ來テ信、一氣屈信シテ陰陽アラハレ、陰陽相感ジテ萬物生ズ。利是ヨリ大ナルハナシ。神道利生ノ字爰ニ出タリ。易ハ天地ノ神道也。尺蠖ヲ以テ一氣ノ屈信ニタトフ。屈ハ信ノ根也。故云、天地万物收斂ヲ本トス。收斂セザレバ發散スルコトアタハズ。龍ハヨク伏シ、ヨク藏ル、故ニ、其身ヲ存ズ。羽ナクシテ天ヲカケルホドノ陽氣ヲ得タル者ナレ𪜈、常ハ至陰ノ水中ニ蟄居ス。五六月ノ陽ノ時ヲ得テハ雲シタガヒ、雷雨動ク。君子才德ヲカクシ、民間ニ居ハ冬ノ龍ノゴトシ。收斂中ニ德ヲ養テ、時ヲ得レバ其德當世ニ信ビ、時ヲ得ザレバ其道後世ニ信。又君子財用ヲツムハ屈ノ時也。ツンデ時ニ施スハ信也。富有大業ヲナスノ道也。施スベキ爲ニ積ハ積時ヨリ見ユル者也。積樣各別ナリ。凡人ハ財用ヲ我身ノ爲ニ積。故ニ初積時ヨリアシ、。身ヲ以テ財

ヲ興シ、財ヲ以テ身ヲ興ス、黑白ノカハリ也

精義入レテ神ニ以テ致レス用ヲ也。利レシ用ヲ安レノ身ヲ以テ崇レス德ヲ也

精義入神ハ問學時習ノ功積リ、自然ニ至ル處ナリ。溫故ハ精義ノ事也。知新ハ入神ノ功也。學ハ聖賢言行ノ跡ナレドモ、其跡ニヨツテ心ヲ得時ハ跡ヲ忘ル、是精義ノ功也。跡ニヨラズ法ニナヅマズ、今ニ行ベキ時處位ノ至善ヲ知ハ入神也。則上古ノ聖神時ト共ニ行ヒ玉ヒシ心也。故ニ精義入神ナラザレバ天下ノ用ヲイタスコトアタハズ、用ヲ利スルハ人ヲ安ズルノ叓也。人ヲ安ズルヲ以テ身ヲ安ズルハ仁者ノ心也。善ノ善ナル者也。日々ニ善ヲナシテヤマザルハ德ヲ高クスルノ道也。六藝ノ名人ト云モ其術ニヲイテ精義入神ノ者也。弓ノ百矢ニ一モハヅレザルハ、アタル叓目ヲ以テセズ。目ニテネラヒテハハヅレアリ。馬ノ鞍ニ居ナヲルト上間ノ馬ハシヅマリ、下間ノ馬ハイサミ出來ルハ其乘手ノ心ニ化スル也。手綱鞍ヲ以テキハメテ乘馬ノ力ヲ極ルハ馬術ノヨキニアラズ。弓馬ノ術モ神ニ入テ後用ヲ致ス者也

過レキテ此ヲ以往ハ未ダレ之ヲ或アラレ知ルコト也。窮レメ神ヲ知ルハレ化ヲ德ノ之盛ナルナリ也

善ヲ積テ德ヲ高クスル受用マデハ語ベシ、知シムベシ。ソレヨリ以上ノ叓ハ云コト不レ能、シラシムルコトアタハズ、自得スベシ。窮神知化ノ地位ハ鬼勉ノ及ブトコロニアラズ、德盛ニ成テ後自知ベシ。窮ハキハメイタル也。知ハ知行ノ知ニ同ジ。我物ト成タル也。天地ノ神化則吾神化也。神化ヲキハメ知ナリ

易曰。困于石、據于蒺蔾。入于其宮、不見其妻、凶。非所困而困焉。名必辱。非所據而據焉。身必危。既辱且危。死期將至。妻其可得而見邪

困ノ六三ノ爻ノ義ヲ取テ小人ノ好惡ノ迷ヒヲノ玉フ也。大石ハ動スベカラザル物也。然ルヲ動シウツサントシテ勞シ困ムガ如ク、茨カラタチハヨリ休スベカラザル物也。然ルヲ是ニヨリ近付テ身安カラザルガゴトク、好惡ノ欲ヨリナラヌコトヲ求メナサントシテ、人ニモアザケラレ、身モ危クナル也。自ナセル禍サクベカラザル時ハ滅亡ニ至リヌ。家ニ歸テ妻子ヲ見ルコトモナラザル也。憧々往來ノ好惡ノ念ノトケタル者也

易曰。公用射隼于高墉之上。獲之无不利。隼者禽也。弓矢者器也。射之者人也。君子藏器於身。待時而動。何不利之有。動而不括。是以出而有獲。語成器而動者也

上ハ高ケレ𪜈君位ニ非ズ、三公ノ師保タル者也。周ノ太公望ノゴトシ。故ニ公トノ玉ヘリ。隼ハ鳥ニシテ鳥ヲウチ害ス。人ニシテ人ヲ害スル小人ニタトフ。墉ハ墻ノ内外ノ限也トイヘリ。害墻ノ内ニアル時ハイマダ去ベカラズ。カキノ外ニアル時ハ去ニ不及。今カキノ上ニアリ。内ヲハナレタレ𪜈未去權威。高シテ時節ヲウカヾフ者也。是力ヲ用テ去ベキノ時也。是ヲ去得テ民ノ害除ク。天下ノ患去ルハ國天下ノ利也。仁政ノサマタゲヲ解也。孔夫子

ムスホヽラ、底本ムスホヽフラニ作ル、イ本ニヨル

解ノ上六ノ義ヲ取テノ玉ヘリ。君子文武ヲ身ニ修テ、時ヲ以テ動ク、時ナケレバヤム。動クベキ爲ニ修ルニアラズ、天ノ陰陽人ノ文武ハ德ノ用也。動テムスボヽラザルハ時ト共ニスレバナリ。師ヲ出シテ賊ヲ得ルコ、弓矢ノ器ヲ身ニオサメテ隼ノ害ヲ除クガ如シ。成器ハ文武備ヘタルナリ。雷水ヲ解トス。天地ノ氣ノムスボヽレヲ解也。夏烹濕ノ氣欝結シテ萬物ノ生留滯ス。此時ニ雷雨動キミチテ烹濕ヲ散ジ、欝結ヲ解テ萬物生長ス。一体ノ心氣スヾシ。人心ノ欝結天下ノ留滯ヲナス者ハ小人ノ害也。解ノ時君子進小人退トイヘ𪜈、君子力ヲ用テ急ニセズ。解ノ終ニ至テ解散セズシテ不ㇾ叶勢アリ。憧々往來ノ念イタス處ニアラズ

小人ハ不ㇾ恥ヂ不仁ヲ。不ㇾ畏レ不義ヲ。不ㇾバ見ㇾ利ヲ不ㇾ勸マ。不ㇾバ威サ不ㇾ懲リ。小キ懲メ而大ニ誡ム。此ㇾ小人ノ之福ナリ也。易ニ曰。履テ校ヲ滅ㇾ趾ヲ。无ㇾ咎。此ヲ之謂フナリ也

此小人ハ大身小身ニヨラズ、心ノ小体ニシタガフ者也。小体トハ形ノ欲ヲ云也。大人ハ貴賤ニヨラズ、大体ニ隨フ者也。大体トハ道德ヲ云也。不仁ハ人ナラザル也。小人ハ吾心ノ人ナラザルヲモ恥ト不ㇾ思、不義モ憚リヲソレズ。仁ヲシテ吾身ノ爲ニ利アリトミレバナシ、不義ヲシテ惡キニ懲ザレバヤマズ。小キ不仁不義ヲシテ、大ニコリイマシメタシナムハ小人ノ福也。天ノ慈命也。父母ノ不才ノ子ヲ戒ムルガゴトシ。噬嗑ノ初九ノ爻ノ義ヲ取テノ玉フ、罪人ニ足カセヲ入テイマシメ置ハ、罪少キナル時イマシメコラス者也。故ニ大罪ヲヲカサズシテ咎ナシ䷔ハ離明照シテ震威示ス、刑罰ヲ用ル象也。天下恐レテ惡ナキハ神武ノ德也。校ヲ履テ跡ヲ滅ルハ行シメザル也。小人ハ惡ヲナサシメザルヤウニスルノ象也

善不レバ積ラ不レ足ニ以テ成スニ名ヲ。惡不レバ積ラ不レ足ニ以テ滅スニ身ヲ。小人以テ小善ヲ爲レ无シト益。而弗レ爲也。以テ小惡ヲ爲レ无シト傷レ。而弗レ去ラ也。故ニ惡積リテ而不レ可レ掩フ。罪大ニシテ而不レ可レ解ク。

易ニ曰。何レ校ヲ滅レ耳ヲ凶シ

日々ニ善ヲナシテ心善ニ化スル時ハ善人ノ名アリ。日々ニ惡ヲナシテ心惡ニ化スル時ハ惡人ノ名アリ。終ニ身ヲ亡ニ至ル者也。小人ハ思ヘリ、大ナル善アラバナシテ名ヲトルベシ。少キ善ハ目ニモ不レ立、益ナシト云テセズ。德ヲナスコトハ日々ニ積ノ小善ニアルコトヲ不レ知。タトヒ一善ヲナシテ一朝ノ名ヲ得タリトモ、其身小人ナラバ却テウタガハルベシ。源ナキ水ノゴトクニテ跡ナカルベシ。小惡ハコレホドノ叓ハ罪ニモナラジ、人モイハジト思テスレドモ、日々ニナスコトナレバ、惡積テカクレナク、罪大ニナリテヨケガタシ。滅趾ノ初ニ不レ戒シテ滅耳ニイタレリ。クビカセハ大罪ノ者也。學不學ドモニ不明ノ者シカリ。日用念慮ノ上ニモアリ。少キ安念ノオコリタル時ニ不レ去分モナキ間思雜慮ヲナグサミノヤウニ思ヘバ甚シキハ惡ヲモタクミ、身ヲ亡スニ至リ、シカラザレドモ夜イネガタク、病ヲ生ズル者アリ。アタライトマニ思フベキ善多クナスベキ叓多シ

危キ者ハ安ンズル其ノ位ヲ者ナリ也。亡スル者ハ保ツ其ノ存ヲ者ナリ也。亂ル、者ハ有ツ其ノ治ヲ者ナリ也。是ノ故ニ君子ハ安ケレドモ而不レ忘レ危キヲ。存スレドモ而不レ忘レ亡ンヿヲ。治レドモ而不レ忘レ亂レンヿヲ。是ヲ以テ身安クノ而國家可レ保ツ也。易曰ク。其レ亡ナン其レ亡ナン。繫カレリ二于包桑一

古今凡情ノ体貴賤𪜈ニ如レ是。其中危亡乱年月ノ遲速アリ。危ハイマダ二三十年モカヽハルコトアリ。亡ルモ五年十年ノブルコトアリ。乱ハ三年五年ノ内外也。危コト極テ亡ニ至リ、亡極テ乱ニ至ル也。

是故ニ君子ハ位安ケレ𪜈危キコトヲ不レ忘、威權存スレ𪜈、亡ンヿヲ不レ忘、政令道アレ𪜈乱レンヿヲ不レ忘。ヨク天下ノ困窮ヲスクヒ、人情ヲ察シ、諫ヲイレ、ソシリヲ聞、天下ノ安キヲ以テ其身安ズル者也。易ノ否ノ九五ノ義ヲ取テノ玉フ。桑ハ其根深ク固シ。況ヤアツマリ生ジタルハ甚カタクシテヌケガタシ。亡ンヿヲ不レ忘シテ奢タカブラズ、私知ヲ不レ用、古ヘヲ學ビ今ヲ察シ、賢良ヲ好ム人ノ國家ノユルギナキコト包桑ノゴトシト也

德薄クシテ而位尊シ。知小ニシテ而謀ヿ大ナリ。力小キニシテ而任重シ。鮮シ不ルヿ及バ矣。易ニ曰。鼎折レ足ヲ覆ス公ノ餗ヲ。其ノ形渥タリ。凶シ。言ハ不ルレ勝ヘ其ノ任ニ也

德位ニ不レ叶、謀知ニ不レ叶、職任才力ニ不レ叶。如レ此ニシテ國天下治ベカラズ。長久ナルベカラズ。鼎ノ九四ノ爻ノ義ヲ取テノタマフ。鼎ノ中入物多キニ足ヨハクシテ實ヲコボシ、人ヲ養ハザルガゴトシ。公ハ公義也。公義ノ餗ヲコボツナレバ、オホヤケノ人ヲ養フベキ財用ヲアシクトリアツカヒテ、誰ガ爲ニモナラザル也。後世王矦モ財用

乏シク、大夫士貧窮シ、人民飢寒ニ及ブコトハ、有道ノ代ニ三倍五倍シテ取アグル處ノ財用畢竟誰ガ爲ニモナラズ、富商姦邪ノ手ヲヘテ風俗ヲ乱ルノ用トナレリ。是王侯ノ人才ヲヱラブコトセバク、人臣モ己ガ才力ヲハカラズシテ、アタハザル重職ヲ受テ、賢才ヲス丶メザル故也。其國ニモ害ニ、其家ニモ凶也。渥ハ大任才知ニタヘズシテ見グルシキ皃也。四ハ初ト應ズ。四ハ陰位ナレ𪜈陽爻ナル故ニ、九二ノ賢才ヲイミテ初ニヨル。初ハ陰柔ノ小人ニシテ四ノ大臣ニコビ求ム。其心ニ叶ハンコトヲ欲シテ非ヲ助ク。天下ノ事一人シテナスベカラズ。天下ノ賢知ヲ求テ力ヲ合スベシ。其人ヲ得ル時ハ不レ勞シテ平治イタスベシ。然ルニ四ノ大臣賢才ヲイミテ小人ヲ近付、獨知ヲ用テ天下ノソシリヲイタス。故ニ其形ハヂハヅル也。ハヅルハイマダ不レ亡處アリ。ソシリヲイカリ、イキドホル者ハ亡乱モ亦スミヤカナリ

知ルレハ幾ヲ其レ神カ乎。君子ハ上交不レ諂ヘツラハ。下交不レ瀆ケガレ。其レ知ルレ幾ヲ乎カ。幾ハ者動ノ之微。吉ノ之先見ナル者ノナリ也。君子見テレ幾ヲ而作ス。不レ俟マタレ終ルコヲレ日ヲ。易ニ曰。介カタシニ于石ヨリモ。不レ終ヘレ日ヲ。貞ニノ吉ナリ。介如シレ石ノ焉。寧ロ用シヤレ終ルコヲレ日ヲ。斷可シレ識ヌ矣。君子知レ微ヲ知レ彰アラハルヲ。知レ柔ヲ知ルレ剛ヲ。萬夫ノ之望ミナリ

幾ハイマダ聲色ニアラハレズ、念慮ニオコラズ、形ナキヲ見、聲ナキヲ聞處也。神ハ形ナクシテ用アリ。不行シテスミヤカニ不來シテ至ル者也。故ニ幾ヲ知ノ人ハ神也。吾ヨリ上ツカタノ人ニ交ニハ恭ヲ以テス。恭過テハ諂ニ

至リ易キノ幾不レ交以前ニアリ。吾ヨリ下ツカタノ人ニ交ニハ和ヲ以テス。和過テハ徳ヲケガスニ至リ易キノ幾不レ交以前ニアリ。故ニ諂瀆ニナガレズ、不レ流トキハ恭和ハ心ノ徳也。下交上交ハ人倫日用ノ近事也。是以テ神幾ヲ發明シ玉フ聖意親切ナリ。世間ノ神ヲイヒ幾ヲ云ハ、玄深幽遠ノ事ナリ。入徳ノ益ナシ。動之微ハ一陽來復ノ幾無聲無臭ノ時ナリ。一陰一陽ノ道ハ云ガタシ。繼者ハ善也。是吉ノ先見カ。君子ハ未乱ニ乱ヲ知。故ニ日ヲ終ルヿヲマタズ、豫ノ六二ノ爻ノ義ヲ取テノタマフ。石ハ至靜・無欲・至重・不動ノ物也。君子介然トシテカタキヿ石ノゴトシ。無欲ナルガ故ニ天下其心ヲ動スヿアタハズ。故ニ鬼神ト吉凶ヲ合シテ日ヲ不レ終、貞正ナルガ故ニ吉也。欲ニヒカルヽコトナシ、何ゾ留滯センヤ。決斷ノスミヤカナルコト可レ知ト也。微ハ知ガタシ。是ヲ知トキハ彰ヲ知コト其中ニアリ。君子平生ハ柔ヲ以テ德ヲ養フ、事アル時ハ剛ヲ以テ決斷ス。諸人ノ望思フ處ナリ

顏氏ノ之子其レ殆ド庶幾(チカヒカナ)乎。有レバ二不善一未ダ二嘗テ不一レンバアラ知ラ。知レバレ之ヲ未ダ二嘗テ復タ行一ハ也。易ニ曰。不レ遠ソ復ス。无シレ祇(イタル)レ悔ニ。元吉ナリ

庶幾ハ道体ニ近キ也。聖心ニ及ベルコト程ナキ也。聖心空々トシテ一物ナシ。不善ノ念ナキノミナラズ、善念モ又ナシ。寂然不動感ジテ天下ノ故ニ通ズルノミ也。顏子ノ不善ノ念ハ吾人ノ不善ノ念ノゴトキニハ非ズ。吾人ノ不善ノ念モ又利欲ノミ心トスル下品ノ不善ノ念ニハ非ズ。顏子ノ不善ハ吾人ニアリテハ善念也。善ナレドモ感ジテ通ズル時ナラザレバ、空々如ノ本体ニアラズ。金玉ノホコリモ土石ノホコリモ目中ニ入テ煩ヲナスコトハ一ナリ。故ニ不善トス。ソレダニ一念キザヽントスル處ニテシラズト云コトナシ。是ヲ知ハ心思ニトヾメズ、一点ノ雪ヲ大ナル火

上ニ落スガゴトシ。火上マデ落付ズシテ消スルガゴトシ。況ヤ身ニホドコシ行ニ不レ至、一旦化シテ聖心ニ至ルベキコト程アラジトノ玉フ也。易ノ復ノ初九ノ爻ノ義ヲ取テノ玉フ。不レ遠シテ復ス。吾人念々思テ後ニ知ガ故ニ、空体ニ復スルコト遠シテヲソレ。甚シキハ身ニ施シ行ニアラハレテ悔ニ至ル也。悔テ後改ルハヲソケレ𪜈改ニヨツテ吉也。身ニホドコサズ、行ニアラハレズ、二念トツガズ、一念半念ノ間ニ復スレバ悔ニモ至ラズ。故ニ元吉也

天地絪縕（マジハリテ）ニノ。萬物化醇（アツ）シ。男女構（アハセ）レテ精ヲ萬物化生ス。易ニ曰。三人行クトキハ則損ズ一人ヲ。一人行クトキハ則得ニ其ノ友ヲ。言心ハ致（ムネ）一ナリ也

絪縕ハ陰陽ノ交也。密雲雨ヲナスゴトク、陰陽ノ氣交密スレバ化厚シテ凝、二度ニヲヒテ天ヲ生ジ、地ヲ生ジ、萬物ヲ生ズ。人モ初ハ天地ヲ父母トシ氣化ニヨツテ生ズ。男女出來テ後ハ精ヲアハセテ萬物化生ス。是ヨリ形化スル也。今モ草木ハ氣化也。初テナシタル池水ニ魚生ジ、小虫ノヲノレト生ズルナドハ氣化也。損ノ六三ノ爻ノ義ヲ取テノ玉フ。䷨（ソン）ハ本䷊（タイ）也。陽降リ陰升テ和合シテ春ヲナス、氣化ノ初ナリ。陰陽天地男女皆二人相與ス。泰ノ卦三陰三陽ナル時ハ陰モ一陰アマリ、陽モ一陽アマリ、三人行トキハ一人アマリテ損ズル也。卦体初ト四ト與シ、二ト五ト與シ、三ト上ト與ス。故ニ九三ノ陽餘リ損ゼラレ、升テ上トナル。陽ノ性ハ升ル故也。上六ノ一陰餘リ損ゼラレ降テ三トナル、陰ノ性ハ降故也。三上相カハツテ艮兌トナル。艮ハ少男兌ハ少女也。感應深ク化生永久ナルハ少男少女ニシクハナシ。形化ノ象也。二人相與シテ一致ナル時ハ物成就ス。君臣男女皆シカリ。又損ノ義アリ。上ヲ艮ニシ下ヲ兌ニス。山ノ体高ク澤ノ体深シ。下深キ時ハ上益高シ。下ヲ損シ上ヲ益ノ義ナリ。又澤山下ニアリテ其

氣上ニ通ジ、潤草木萬物ニ及ブ。民五穀ヲ作テ王侯大夫士ヲ養ガゴトシ。王侯ハ位高キ事山ノゴトシ。民ハ下賤ナルコト澤ノゴトシ。民ハ愚ニシテ欺ヤスシ。王侯卿大夫士ハ華美ナリヤスシ。天下ノ潤澤王畿國都ニアツマル時ハ、民日々ニ困窮ス。上奢民窮スル時ハ富商時ヲ得テ、士貧シク民窮スル時ハ常ノ工商利ヲ失ナフ。後ニハ諸侯大夫モ風俗ハ奢リ、取トコロハ窮ス。財用不足故ニ非道アリ、終ニ天下ノ乱トナル。是下ヲ損ジ上ヲ益ノ至ハ天下ノ損タル義也。無道ノ時ノ損是也。又有道ノ損アリ。王侯大夫士仁愛無欲ニシテ風俗質素也。軍役民間ニアリ。農兵ナレバ十一ヲ取テ公用餘アリ。十ニシテ一ハ下ノ餘ナリ。其餘ヲ取テ上ニ積ハ山ノ象也。其積コト上ノ私用ニアラズ。水旱ノ備、夷狄ノ變、舟橋道路池堤等ノスベテ國天下ノ人民ノ爲ノタクハヘ也。父母ノ常ノ用ヲ節シテ、子ノ爲ニタクハフルガゴトシ。山澤氣ヲ通ジ、澤ノ潤山ニノボルトイヘドモ、草木シゲリ神氣厚クナル時ハ流泉出テ又下ヲ潤ス。民五穀財用ヲ生ジテ上ニ奉ズトイヘドモ、上是ヲ取テ萬民ノ用トスルガ如シ。是有道ノ代ノ損ハ上ヲ損ジテ下ニ益、天下長久ニシテ上下安シ。是天下ノ益タル所也

君子安其身而後動。易其心而後語。定其交而後求。君子修此三者。故全也。危以動則民不與也。懼以語則民不應也。无交而求則民不與也。莫之與則傷之者至矣。易曰。莫益之或擊之。立心勿恆。凶。

凡人ハ其身ヲ危シテ進ミ動ク、欲ノ求ヤマザレバ安危ヲハカラズ、動キスマスカ、動キソコナフカヲ存亡ノ仕合ニカケテ見ルバカリナリ。其身ハ欲故ニサモ思ハザレド、見ル者同心セズ。君子ハ欲ノ求ナシ、不レ動シテ不レ叶義理アリ。天ノナセル勢アリテ進退ス。其心ニ得失ヲ必トセザレバ、其身安シ。語ハ心ノ聲也。其心ニ天理ノ眞樂アリ。平易ニシテ言故ニ人感應ス。小人ハ心ニ好惡アリ、得ザランコトヲ恐レ、サハリアルヲ惡ム。心サカシクシテ語ル。故ニ閙者應ゼズ。君子ハ其交リ定リ、同心同德ニシテ後取與ノ禮義アリ、シカラザレバ與フレド不レ悅、求レド不レ與。勢ニヲサレ不レ得レ已シテ與フレバ、跡ヨリヤブル者至ル也。小人ハ當坐ニヤブレザレバ、年ヘテヤブレ有コトハ不レ知。益ノ上九ノ爻ノ義ヲ取テノ玉フ。利ハ衆人ノ欲スル所也。專已ニマサント欲スル時ハ人ノ怨多シ。タヾニ益ナキノミナラズ、終ニハ攻擊（セメ）ルヽコトアリ。利ニヨツテ行者ハ心ニ義理ノ恒ナシ。凶ヲマネクノ道也

乾坤ハ其レ易ノ之門カ邪。乾ハ陽物ナリ也。坤ハ陰物ナリ也。陰陽合セテレ德ヲ。而剛柔有レ體。以テ體（カタド）リ二天地ノ之撰ヲ一。以テ通ズ二神明ノ之德ニ一

易ハ六十四卦ヲサス。六十四卦ハ乾坤ヨリ出門ノゴトシ。乾ノ卦☰ヲ指テ陽物トシ、坤ノ卦☷ヲサシテ陰物トス。陽ヒトリ不レ生、陰ヒトリ不レ成。故ニ純陽純陰ノ德ヲ合シテ剛柔ノ体アリ。乾坤一索シテ男ヲ得☳是ナリ。長男トス剛也。又一索シテ女ヲ得☴是ナリ。長女トス柔也。☵☶ハ中男少男ニシテ皆剛也。☲☱ハ中女少女ニシテ皆柔也。天地ノコトニカタドル者ハ☰☷ハ天地也。☳ハ震ナリ。☴ハ風也。☵ハ水也。☲ハ火也。☶ハ山也。☱ハ澤也。天氣クダリ地氣ノボリ、交泰シテ春ヲナス。雷風相助、山澤氣ヲ通ジ、水火相イトハズ。六十四卦ニ至テハ天

地萬物ノ理悉ク備レリ。神ハ無中ヨリ物ヲ生ズ。易ノ象ニヨツテ物ノ出來ルコト神ノ如シ。卜筮ヲ以テ未來ノ吉凶ヲ知モ神明ノ徳ニ通ズル一也。故ニ天地ト徳ヲ合シ、鬼神ト吉凶ヲ合スルコハ易ニシクハナシ

其ノ稱スルコレ名ヲ也。雜ハレドモ而不レ越ヘ。於アヽ稽フルニ其ノ類ヒヲ其レ衰世ノ之意ロカ耶

卦名ノ次第方角伏犧文王マジハリカハレドモ、名理ヲ越テタガフコトナシ。伏犧ノ易ハ自然ニ生ジタル次第也。文王ノ易ハ用ヲナス次第也。其類ヲカンガフルハ思慮ニ及ベリ。コレ衰世ノ數不レ得レ已ノ苦心也。上古淳素ノ時ハ自然ノマヽニテ、考ル思慮ハナカルベシ



是伏犧先天ノ易也。自然ニ生ジタル次第也。南ハ天ノ陽也。故ニ乾正南ニ位ス。北ハ天ノ陰也。故ニ坤正北ニ位ス。震ハ長男也。一陽北ニ生ズ。故ニ北東ニ居レリ。離ハ火也。東ノ木ニ生ズ。故ニ正東ニ居レリ。兌ハ澤也。東南ハ地ノ陰也。地ハ東南ニミタズシテヒクシ。故ニ水東逝ス。天地ノ澤也。故ニ東南ニ居レリ。西北ハ地ノ陽ニシテ高シ。天地ノ山也。故ニ艮西北ニ居レリ。坎ハ水也。西ノ金ニ生ズ。故ニ正西ニ居レリ。巽ハ風也。風ハ陽ヨリ生ズ。故ニ南西ニ居レリ☴（ソン）☱（ダ）ハ陰卦也トイヘドモ陽多シ。故ニ乾ノ左右ニアリ。父ハ女子ヲ愛シ、女子ハ父ヲ親ムノ情自然ナリ☳（シン）☶（ゴン）ハ陽卦也トイヘドモ陰多シ。故ニ坤ノ左右ニアリ。母ハ男子ヲ愛シ男子ハ母ヲ親ム、自然ノ情ナリ

（イ）は東西南北の字なし



是文王後天ノ卦也。震冬コモリテ北東ニアリトイヘ圧、天地ノ長男也。木徳ナリ。故ニ正東ニ出テ天下ノ春ヲ知也。離ハ東ノ木ニ生ズトイヘ圧、時ヲ得テ次第ニ温煖炎暑ノ盛徳アラハル。故ニ南ニウツリテ天下ノ明ヲツカサドレリ。師保ニシテ宰相タリ。太公望伊尹ノゴトシ。乾ハ長男ニ造化ヲツカサドラシメ、明知ノ賢者ヲ助トシテ、西北無用ノ地ニ退ク。☲ハ攝政ノゴトシ。震ノ東宮幼也。乾ノ大君老テ離天下ノ明位ニ居テ攝政ストイヘ圧、モト陰卦ニシテ臣ノ心ヲ不レ失。天下ノ權手ニアレ圧、時ヲ得テ奪フノ心ナシ、春ノ生道ヲトゲ行フバカリ也。是後世ノ教也。聖賢ノ君天位ニ居タマフ時ハ、先天ノ方位ニテヨシ。コレハマレナルヿナレバ明知無欲ノ賢者ヲアゲテ宰相トシ、政ヲ攝セシムル道理也。祿ヲ世々ニスル大臣權ヲ執時ハ、其國ニモ害アリ。其家ニモ凶ナルコトアレバ、士農ノ中ヨリ賢者ヲアゲテ一代ギリニ用ユレバ、權ヲ執テモ私スベキ勢ナシ。政道ヨロシキバカリ也。坎ノ水生長シ、正北ニ至レリ。北ハ極陰ナレバ也。兌ハ水ノ初テ生ズル也。初生ノ水ハ金ヲハナレズ。故ニ西ニ居レリ。巽ハモト木也。故ニ東南ニユク。坤ハ土也。土ハ火ヨリ生ズ。故ニ南西ニ出。父ハ隱居シテ引入、母ハ家事ノ半ニアヅカレルガ如

シ。女ハ老テ用ル事アリ、老テハ末子ヲ助トス。故ニ兌ノ少女父母ノ中ニ居レリ。心アリテ然ルニアラズ。自然ノ象ニシテ天人相合スル者也。是文王後天用ヲナスノ方位也。先天後天名ヲ稱スル次第マジハレ𪜈、理アリテ相越ザル者ナリ。震東宮ノ時、巽雷風相通ジ、剛柔相助タルハ、東宮ノ御息所ノゴトシ。今正東ニ出テ天下ヲ知玉ヘバ、其功其德天下ノ長女ナル故ニ、東南ニ至レルハ立后ノゴトシ。西北ハ無用ノ方トイヘ𪜈、地ノ陽ニシテ高シ。天ニ二ノ日ナク、國ニ二ノ王ナシ、老ストイヘドモ君在時ハ二人ノ上ナキ象ナリ。震巽ハトモニ木也。木ヲ生ズルハ山ニシクハナシ。故ニ艮北東ニ居レリ。其上艮ハ天地ノアハセメ也。終テ又初ル卦也

夫易ハ彰往而察來。而微顯闡幽。開而當名。辨物正言。斷辭則備矣

〔ハ人顯（イ）なし〕

往ハ春夏秋冬ノ定レルゴトキノ事ヲ見テ、陰陽消息變化ヲ卦爻ノ象ニアラハシメ玉フタグヒ也。察來ハ卜筮ニヨツテ未來ノ吉凶ヲ前知スル類也。微顯ハ人顯ノ顯ヲ知テ顯ノ微ヲシラズ、先聖ノ立法言行其跡ヲ知テ其微意ヲ不レ知、其時處位ニ應ジテ立給ヒシ微意ヲ不レ知トキハ今ニ行テ害アリ。顯ヲ微ニスルハ古跡ノ微意ヲタヅネテ今ニ可レ行至善ヲ知也。闡幽ハ河圖洛書ハ天ノ幽ヲヒラク也。八卦ハ聖人ノ幽ヲヒラク也。草木万物ノ形ヲ見テ、其性ヲ知、味ヲナメテ其能ヲ知、醫藥ノ業ヲ初メ、黃鐘ノ宮ヲヒラキテ十二律ヲナシ、八音ノ樂ヲ作リ璿璣玉衡ヲ作テコヨミヲ初メ玉フゴトキハ、皆神ノスル處ヲ知也。幽ヲヒラキテ生民ノツトメヲナス者也。開而當名ヨリ以下ノ事ハ大全ニ

ミエタリ

其ノ稱スルヿヤ名ヲ也小キナリ。其ノ取レルヿヤ類ヲ也大ナリ。其ノ旨遠シ其ノ辭ハ文ナリ。其ノ言曲(ツマビラカ)ニシテ而中ル。其ノ事肆(ノベ)テ而隱クレタリ。因テ貳(ウタガヒ)ニ以テ濟(スク)ヒ民ノ行ヲ。以テ明ニス失得之報ヲ

此段ノ解大全ニ見エタリ

易ノ之興レルヿ也。其レ於テ中古ニ乎(カ)。作レル易ヲ者(ヒト)ハ其レ有ル憂患乎(カ)

易ハ伏犧氏ニ興ルトイヘ𪜈、夏商ノ末易道漸ク衰ヘテ知者少シ。羲皇ノ易ハ畫ノミ三畫八卦ノ名ノミ有テ、六畫六十四卦ノ名ハイマダナシ。易簡ニシテ後世ノ人奥義通ジガタシ。文王羑里ニトラハレ給テ、始テ六畫卦ノ名ヲアラハシ、辭ヲカケ給テ易道又興レリ。羲皇ハ上古文王ハ中古也。羲皇ノ易ヲ述玉フトイヘ𪜈、六十四卦ノ名及ビ經文ノ辭ハ前世イマダナカリシカバ、作トノ玉フ。仁者ハ不憂ト云ニ、文王ノ憂患ハ何事ゾヤ。平人ハ私ノ憂アリ、仁者ニハ此憂ナシ。故ニ天下後世ヲ思ノ憂アリ。此憂ハ天ヨリ命ジテ憂シム。憂ナキ人ハ文王カトイヘリ。父賢ニシテ子聖也。故ニ憂ベキコトナシ。羑里ゴトキノ大逆ハ寒暑風雨ノ至ルガ如シ。文王ノ心ニヲイテアヅカリ玉ハズ。羑里ノ幽居人倫ノ交ナク、國政ノ事ナシ。イトマアルニヨツテ易傳ニ及ベリ。易傳ハ天下後世ノ憂ヨリ出タリ。文王諸侯ニテ悪人ヲ君トス。當世ニ道行ハレズ、後世ヲ思ヒ玉ヘリ。天ノ命ズル處ナリ

是ノ故ニ履ハ德ノ之基ナリ也。謙ハ德ノ之柄ナリ也。復ハ德ノ之本ナリ也。恒ハ德ノ之固(カタ)メナリ也。損ハ德ノ之

脩ムルナリ也。益ハ徳ノ之裕（ユタカ）ナルナリ也。困ハ徳ノ之辨ナリ也。井ハ徳ノ之地ナリ也。巽ハ徳ノ之制ナリ也

履ハフミ行也。孜々トシテ日々ニ善ヲ爲ハ、徳ヲ積ノモトヒナリ。善ト云ハ仁義禮知信ノ用也。其中禮ノ用多シ。五倫ノ交皆禮アリ。故ニ履ハ禮ナリトイヘリ。基ハ今ノ矢倉天守屏垣ノ土臺ノゴトシ。モトヒトスル處ナリ。䷉（リ）ノ卦天上澤下也。天ニシテ上ニアリ、澤ニシテ下ニ居、上下ノ分尊卑ノ義也。禮ノ本也トイヘリ

謙ハ地ノ下ニ山アリ。地体卑下ニシテ山ハ高大ノ物也。高大ニシテ卑下ノ下ニ處ハ崇高ノ徳ヲ以テヨク人ニクダルノ象也。堯ノ諫鼓謗木、舜ノ問コトヲ好ハ天子ニシテ人民ニクダリ、聖人ニシテ凡夫ニクダリ玉フ也。況ヤ公侯以下ノ位ニシテ徳聖人ニ不レ及ヲヤ。易ノ六十四卦、乾坤トイヘドモ戒ノ辞アリ、タヾ謙ノミ始終吉也。故ニ君子ノ始ヲナシ、終ヲ持ハ謙也。高ケレドモ不レ危、滿レドモアフレザルノ徳也。謙ハ心ノ虚明也。虚中ニ天下ノ益ヲ來ス者ナリ。心虚ニシテ一物ナシ。故ニ問コトヲ好メリ。明ナル故ニヨク其中ヲトレリ䷎（ケン）ノ九三ハ謙ノ主タリ。タヾ三ノミ實ニシテ上下皆虚ナリ。虚ナリトイヘドモ實ナケレバ受ベキ者ナシ。上ニ受下ヲ容天子ニシテチノ上ハ天也。地也。師也。上三爻ハ天地師也。下二爻ハ初六士民ナリ。六二ハ宰相職カネテ大臣ナリ。士民ノ中ヨリ賢才ヲアゲテ天下ノ宰トシ、ヨクイレテ天下ノ知ヲ盡シ、能ヲトゲシムルハ堯舜ノ道ナリ。上天子ヨリ下庶人ニ至マデ一日モハナルベカラザルハ謙也。柄ハ持處也。スキ・クハ・ナタ・カマ柄ナケレバ用達セズ。太刀・鎗（ヤリ）・長刀柄ナケレバ持處ナシ。齊家治國平天下ノ道、謙ナケレバ行ハレズ。故ニ徳ノ柄也

䷗（フク）ハ一陽下ニ生ズ、生々ノ本也。天地ノ大徳ヲ生ト云。復ヲ見テ天地ノ心ヲ知トイヘリ。陰陽トモニ初ハ下ニ生

ジテ上ニ極ル。一念道ニ志シ、善ニ反ルノ心法也。地中ニ雷アリ、雷ハフルヒオコリテ、地中ヲ可レ出者也。イマダ地中ニアリ。地ハ陰也。衆人ニ比ス。道ニ志ストイヘ𪜈、イマダ常人ノ品ヲマヌカレズ。正月ニ至テ變化シテ君子ト成。故ニ下ノ一陽ハ志ニシテ德ノ本也

䷟（コウ）ハ雷風相與シ相助ク。剛上柔下ナリ。長男長女ノ上ニアリ。男外ニ動キ女内ニ順フ、天理ノ常也。人倫ノ正也。故ニ恒トス。恒ハ常久ノ道也。彖云、恒亨利貞利有攸往トイヘリ。恒ノ亨ルハ貞正ナルニヨツテ也。貞正ニシテ不變トイヘ𪜈、一定ナルニハアラズ。一隅ヲ守テ變ヲ不知ハ常久ノ道ニ非ズ。故ニ利有攸往トイヘリ。有攸往ハヨク變通スル也。變通ストイヘドモ往トシテ正ニアラズト云コトナシ。故ニ德ノ固（カタキ）也。堅固ニシテウバフベカラザルナリ

損ハ德ノ備ナリトハ名ヲ損ジテ實ヲマシ、利ヲ損ジテ義ヲマシ、思慮ヲ損ジテ精神ヲマシ、スベテ萬欲ヲ損ジテ天理ヲマスハ德ノ備也。天地萬物収斂ヲ主トス。精神内ニ專ニシテ外物ヲカザス、損ジ盡シテ空々如タルハ聖人ノ心也。發散ハ不レ得レ已也。此時却テ天地萬物吾心中ニアリ。陰陽順逆吾心ノ一事ナリ。好惡ナク適莫ナク意必固我ナシ。義ト𪜈ニ隨テ安シ。損ノ卦タル下ヲ損ジテ上ヲマス。下ハ形ヨリ下ノ器也。上ハ形ヨリ上ノ道德也。器ヲ損ジテ道ヲ益也。帝堯ノ宮殿、黒木作リカヤブキ、大禹ノ飲食ヲウスクシ、宮室ヲヒキクシ、孝ヲ鬼神ニイタシ、溝洫ニ力ヲ盡ス。是皆下器ヲ損ジテ上道ヲ益トコロ也。日々ニ損ジテ日々ニ益ハ聖學也。天理人欲ナラビ不レ立。人欲一分消スレバ天理一分長ズ。小人ノ道消シ、君子ノ道長ズル義也。或問、損ノ卦ノ義理ニ異也。云、易ハ變通シテ

理一定ナラズ、聖人ノ義ヲ取玉フ處ヲ見テ知ベシ。一定ナルハ易ニアラズ

䷩(エキ)ノ卦乾ノ一陽ヲ損ジテ巽トナリ。坤ノ一陰ヲ益テ震トナル。上ヲ損ジテ下ヲ益、下厚トキハ上安シ。財散スル時ハ民聚ル。人民ノ富有ヲ以テ王侯ノ悦トス。民ノ父母タル仁心裕也。又益ヲ求ルノ道ハ善ヲ見テハヨク遷リ、過アレバ能改ルニシクハナシ。此レ如ナレバ悔吝ナクシテ德裕カナリ

䷮(コン)水澤上ニアルハ澤中ニ水アリ。澤下ニアルハ澤カレテ水ナシ。困乏ノ象也。君子小人ノ爲ニ忌惡マレテ、下ニ困窮スル体也。然レドモ君子是ヲ逆トシ凶トセズ。力ヲ內ニ用テ德彌實ナル時ハ、小人ノ横逆却テ君子ノ德ヲミガキ出ス砥石也。德慧術知ハ疢疾ニ存ズ。故ニ云、困ハ德ノ辨也。歳寒知二松栢一ナレバ、平生ハ君子ノ人ニ異ナル德シレガタシ。小人君子ヲ困窮セシメテ其德ヲ明辨シ出ス義ナリ

䷯(セイ)ノ卦初六ノ一陰ハ水限也。九二九三ノ二剛ハ石土也。六四ハ井ノ虛中也。九五ハ虛中ニ實スル水也。上六ハ水上ノ空中也。巽ハ木也。入也。木ハ地上ニアルモノニテ地下ノ水中ニ入ハ水ヲ汲テアグル象也。井ハ其處ニ居テウツラズ、人來テ潤澤ヲトリ、養ヲ受、人水火ニアラザレバ一日モ立ガタシ。故ニ昔ヨリ人居ヲ定ルニハ水ヲ本トス。人間第一ノ水トイヘリ。流水ナキ地ニハ井ヲ求ム此卦ニトレリ。井ノ卦ハ井ナキ以前ニアリ。井ノ名ハ文王ニ初レリ。井ノ水冬溫ニシテ夏冷(ヒヤヽカ)也。水ノ性ナリ。人ノ精血是也。人身モ冬溫ニテ夏冷也。流水ハ冬寒ニ夏溫也。寒暑氣ニ剝(ハク)セラレテ也。人身モシカリ。タヾ井水ノミ本性ヲ不變。其處ニ居テ人ヲ來シ、本性不レ變。故ニ德ノ地也トノタマヘリ

䷸ノ卦九五ノ君九二ノ賢相共ニ陽明ノ君子ニシテ同心同德也。湯ト伊尹トノ如シ。九三ノ諸侯皆陽剛ノ德アリテ、其國ヲ治メ中國ヲ警固ス。戎狄ヲカスコト不レ能。上九ノ師保陽明ノ君子ニシテ能九五ノ君ヲ助ク。六四ノ大臣巽入隨順シテ師保ヲ尊ビ、君命ヲ愼ミ諸侯ヲ和シ、賢臣ヲ愛シ民ヲ惠ム。故ニ初六ノ民ヨク命令ニ隨順ス。六爻皆理ニ巽順ス。故ニ云、德ノ制也。威ヲ以テヲシテ制スルハ德ノ制ニ非ズ。人情事變ニ通ジテ上天理ニ隨ヒ、下人心ノ和ヲ得テ制スルハ德ノ制ナリ

履ハ和メ而至ル。謙ハ尊メ而光ル。復ハ小ニメ而辨ニ於物ヲ。恆ハ雜ハリテ而不レ厭ハ。損ハ先ツ難クメ而後ニ易シ。益ハ長裕ニメ而不レ設ケ。困ハ窮メ而通ズ。井ハ居テ其ノ所ニ而遷ス。巽ハ稱テ而隱クレタリ

履ハ禮也。禮ノ用ハ和ヲ貴シトスルナレバ、聖人ノ禮ヲ制シ玉フヿ、天下ヲ强ルニアラズ。其固有ノ性ニヨリ、時ノ風氣ヲ見テ不レ得レ已シテ立ル也。故ニ人民禮ヲ樂デイトフ心ナシ。君臣上下各其位ヲ履デ、其和ヲ得ルハ禮ノ至レル也。式時處位ニ中ル時ハ事物易簡ニテ世中靜ナル者也。禮式ハ末世ノ多事ヲ、サヘテ、無事ニ歸シタル者也。上古ノ至治ハ易簡ナル故ニ、ヲサフベキ煩事モナケレバ式モナカリシ也。後世ハ式ナケレバ世中コトシゲク、イソガハシク成者也。此意ヲシラデ式ヲ立レバ、却テ事出來ル者也。和シテ至ルニアラズ

謙ニシテ高シテ光ルハ帝堯ニシクハナシ。神聖ノ德アリテ、知ヲクラマシテ、天下ノ賢才ニクダリ、諸臣ノ物申コト凡人ニイサムルガ如シ。其高明廣大ノ知ヲ忘ル。故ニ其德四海ノ外ニ至リ、千万歲ノ末ノ世マデモ仰ギシタハズト云ヿナシ。謙ニシテ卑クシテ踰ベカラザルハ大舜ニシクハナシ。其耕シ漁シタマヒシヨリ問コトヲ好ミ、人ニ取

テ善ヲナシ玉ヘドモ、三公九卿諸侯大夫士ハ云ニ及バズ、帝ノ御子トイヘドモユルコト不レ能

復ハ一念微少ノ時ニ物ノ善惡眞妄ヲワキマフルコト早シ。故ニ惡ハ消シ善ハ長ズ。繼者ハ善ナリ。日新ニ日々ニ新ニシテ、天命トモニヤムコトナシ。復ハ天地ノ心ヲ見ル、天ヲ師トスルノ心法也

恒ハ常道也。人道ノ常也。人ノ無病ハ常ナレバ人モ忘レ我モワスル、ガ如シ。寛裕溫柔ニシテヨクイルレバ、人モイトハズ。吾モイトハズ。世人君子トモ凡人トモ不レ知也

損ハ多ヲユヅリ少キヲトリ、己ヲステ、人ニ隨ヒ、過ヲ改メ善ニウツリ、利ヲステ、義ヲトル。如レ此ノタグヒ皆先ナシガタシトイヘドモ、ナシ得テ後ハ心易直ニシテ樂メリ。怒ル時其怒氣ヲコラスコト甚カタシ。好惡ノ欲心其初コレヲ去コトカタシ。然レドモ本心ノ靈明照シテ怒氣シヅマリ、好惡去テ後其非ヲサトレバ、トゲザルコトヲ悦ベリ。モシ火氣欲心盛ニシテトゲタル時ハ後悔多シテ心ナヤメリ

益ハ物ヲ利スルヲ主トス。仁厚寛裕ノ德、物ニ及デ衆庶其利ヲ利トスルコトキハマリナシ。井ホリテ水ノミ、耕シテ食ス。自力ニアリト思ヘリ。故ニ不設トノ玉フ。上ヲ損ジテ益レ下、財散ジ民聚ル。故ニ長久ニシテ上下裕ナリ

困ハ君子ハ吉也。小人ハ凶也。君子困窮スレバ德彌達ス。故ニ通トノ玉フ。小人困窮スレバ剛ナル者ハアブレ、弱ナル者ハ悲ム。心彌フサガリテ不レ通。或ハ本心ヲ失ヒ或ハ身ヲ亡ス。故ニ凶ナリ

井ハ仁者下位ニ居ノ象ナリ。天下ヲオホフノ仁德アリトイヘドモ、其時其位自ラ心ヲ動シテ人ヲスクフベカラズ。故ニ不動シテ其化他ニウツリ、物ニ及ブコトアリ。七十子ノ孔子ニ學ベルガゴトシ。汲人ノミ其德ヲシレリ

巽ハ微ニ通ジ神ニ入テ密ニカクル。故ニ精義物ノ宜ニカナヘリ。精微中庸ノ道ナリ

履ハ以テレ和ヲ行フ。謙ハ以テ制スレ禮ヲ。復ハ以テ自ミ知ル。恒ハ以テ一ニスレ徳ヲ。損ハ以テ遠カルレ害。益ハ以テ興スレ利ヲ。困ハ以テ寡ナシレ怨モ。井ハ以テ辨フレ義ヲ。巽ハ以テ行フレ權ヲ

和氣身体ニミチフミ行時ハ禮節終アリ。禮樂相離レザル所ナリ

謙ハ心ノ虚明也。ヘリクダリタルハ其光景也。心ニ一物ナシ。私己ナクシテ明ナレバ、ヨロシキヲ知ニ足レリ。故ニ禮ヲ制ス。復ハ一念ノ微ニヲイテ善モ必先コレヲ知、不善モ必先コレヲ知。イマダ人ノ知ニ及バザル地也。故ニ自知トノ玉フ。凡人ト君子トノワカル、處也。早ク知テ天理ノ常ニ歸ルハ君子ノ徒也。ヲソク知テ妄ニナガレ知レドモ復スルコトアタハザルハ凡人也

恒ハ其守リ常有テ天理ニ專也。コレ湯王及ビ伊尹一徳アリトイヘリ

損ハ己ヲ損ジ他ヲ益。故ニ害ニ遠ザカル。害ハ人ヲ損ジ己ヲ益ヨリ生ズルナリ

益ハ物ヲ利ス。天道万物ヲ利スル道ヲ助クル故ニ、天又我ニ多福ヲ與フ。義ヲ以テ利トスレバ、ヲノヅカラ物我一体ノ利ヲ興シテ國家安シ

困窮ハ人ノ助クル所也。人助ヲ得ント思フ心ナシ。故ニ人ノ怨スクナシ。陰中ノ陽也。身労スレバ心安シ。君子困ヲ好ニハアラザレドモ、困ニモ益アルコトヲ知也

井ハ其所ニ居テ安シ。心靜ニシテ安キ者ハ其思慮明辨ナリ。故ニ義ニ精キモノナリ

巽ハ巽入巽順ノ德アリ。巽入ハ見ルコト精シテ事可ニアタル也。巽順ハ天理ニ隨ヒ、人情ニ應ズル也。如レ此ニシテ時處位ヲハカリ、古今ノ事變ニ達ス。故ニ權道ヲ用ルニタレリ。天質才德備リテ又學ニクハシキ者ナリ

易ノ之爲ルレ書也不レ可レ遠カル。爲ルレ道也屢遷ル。變動シテ不レ居。周二流ス六虛一ニ。上下无レ常。剛柔相易ル。不レ可レ爲二典要一ト。唯變ノ所二適クノマヽ一也

易書ニアラハル、處ハ天地自然ノ理ニシテ、人生日用ハナルベカラザルノ道也。故云、遠ザカルベカラズト。易ノ道變通シテ物ニ不レ滯。故云、屢ウツリ、變動シテ不居ト。易ノ道周流シテ六位ニ發ス。六爻虛ニシテ定体ナシ。故ニ或ハ上リ或ハ下リテ常ナク剛柔相易ル者也。典ハ常也。要ハ約也。一定ノ物ナラザレバ如レ此ト常約ヲナスベカラズ、唯變ジテユク處ノマヽ也。卦ノ變ハ天意ニマカス故ニユク處ノマヽ也。其中自然ノ天眞アリテ妄ナラズ

其レ出入スルハ以レ度ヲ。外內使レ知レ懼ラ。又明ニス於二憂患ト與一レ故。无レ有ルレ師保一。如レ臨メルカ二父母一ニ

大全ニ見エタリ

初ニハ率テ二其ノ辭一ニ。而揆ル二其ノ方一ヲ。既ニ有二典常一。苟モ非レバ二其ノ人一ニ。道不二虛ク行レ一

出ル處ノ卦爻ノ辭ニ付テ、其ナスベキ處ノ道ヲハカルハ、典アリテシタガフベク、常アリテフムベキガ如シトイヘドモ、其天意ヲ受テ行處ハ、其人ノ知仁勇ノ德ニヨレリ。其人ナキトキハ道虛シク不レ行。道ハタトヘバ空火ノゴトシ。ウチ出シ薪ニ付テ後火体初テアラハル、ハ、其人ヲ待テ行ハル、ガゴトシ

易之爲書也。原始要終。以爲質也。六爻相雜。唯其時物也。其初難知。其上易知。本末也。初辭擬之。卒成之終。若夫雜物撰德。辨是與非。則非其中爻不備。噫亦要存亡吉凶。則居可知矣。知者觀其彖辭。則思過半矣。二與四同功。而異位。其善不同。二多譽。四多懼。近也。柔之爲道。不利遠者。其要无咎。其用柔中也

右ハ大全ニ見エタリ

三與五同功。而異位。三多凶。五多功。貴賤之等也。其柔危。其剛勝耶

三五ハ共ニ陽位也。三ハ諸侯ノ位、五ハ大君ノ位也。國ヲ治メ天下ヲ治ム、大小異ナレドモ、其功同ジ。三凶多ハ、諸侯ハ下ノ上ニ居テ人君也。陰昧小人ノ質ニテ君子陽剛ノ位ニ居トキハ其任ニタヘズ、終ニハ國ヲ失フノ凶アリ。又剛明ニシテヨク治メ士民悅ビ、隣國シタヒ望時ハ上ノ疑アリテ不妄、德厚知明ニシテ無事ヲ行ヒ、トガモナクホマレモナキヲ吉トス。大君聖賢ナレバ二ノ氣遣ナシ。諸侯陰柔ナレバ師保ヲ置テ國政ヲヨクシ、陽剛ナレバ彌道德ニス、マシメテ天下ノ助トス。サヤウノ大君ハマレナレバ大半諸侯ハ右ノ凶アリテ、代々長久ナルハマレナリ。五ハ大君ナレバ少シヨクテモ其功天下ニアラハル、者也。陰柔ナレバ權下ニウツリテ凶也。剛ニ過テ強惡ナランヨリ

ハマサレリ。剛惡ハ早ク亡ビ、柔惡ハヲソク亡ル者也。此剛ハ陽明ノ剛ナレバ、大君ノ任ニタユル也。明ナル故ニ其剛ヲアラハサズ。上九上六ノ師保ヲ置テ中位ニ叶フ時ハ功多ク吉多シ。タトヒ聖賢ノ徳ナラデモ、其志大道ニアリテ、ヨク賢ニクダル時ハ、天下ハ一國ヨリモ治メ易キ道理アリ、化早ク及者也。大君ノ陽位ニ居テ、又剛ヲ用ル時ハ過タリ。其志上ヲキハメテ師保ノ敬シ愼ム人ナク、陽剛ノ力量ニマカセテ恐ル丶者ナク、高位ヲ樂ム時ハ必亢龍ノ悔アリテ凶ナリ

易ノ之爲ルレ書也。廣大悉ク備レリ。有リ二天道一焉。有二人道一焉。有二地道一焉。兼テ二三才ヲ一而兩ツニスレ之ヲ。故ニ六ツアリ。六ハ者非スレ他ニ也。三才ノ之道ナリ也

天ニ陰陽アリ、地ニ剛柔アリ、人ニ仁義アリ。故ニ重卦ニシテ三才ノ道全シ。初二ヲ地ノ剛柔ニ配シ、三四ヲ人ノ仁義ニ配シ、五上ヲ天ノ陰陽ニ配ス。故ニ三才ヲ兼テ兩ニシテ六也。天地人三極ノ道也。六十四卦ニ至テハ万事万物ノ理備レリ。是易書ノ廣大ナル所也。初ハ民ノ象也。地ヲハナレズ。故ニ俗ニモ土民トイヘリ。二ハ居士ノ象也。其才徳衆ニ越テ、地ノ上ニ出タレドモ、イマダ地ニアリ。士民ハ天下ノ衆也。故ニ賢才ハ廣ク衆ニ求ム。故ニ二ハ天下ノ宰相職ニアタレリ。見龍田ニアリ、徳ノ施シアマネキ處也。三ハ諸侯ノ象也。地ヲ離レテ下ノ上ニ居レリ。人君ノ位ナリ。四ハ大臣ノ象ナリ。三公ハ諸侯ノ上ニ居テ位高シトイヘドモ、陰位ナレバ人臣ナリ。五ハ大君ノ象也。天ニ繼テ極ヲ立ルノ人ナレバ天位トス。上ハ師保ノ象也。大君ノ上ニ居トイヘドモ、尊シテ位ナク、高シテ民ナシ。然レドモ王者ノ師ナレバ天官也。君ノ徳賢聖ニカナフ時ハ、クダリテ宰相職ニ居テ天地ノ造化ヲ助クル者アリ、伊尹

ノゴトキ是ナリ

道ニ有リ二變動一。故ニ曰レフ爻ト。爻ニ有レ等。故ニ曰レフ物ト。物相雜ハル故ニ曰レ文ト。文不レ當ラ。故ニ吉凶生ル焉

道ニ變動アリテ爻生ズ。爻ハ天下ノ動ニ效ナラフ者也。爻中ニ高下遠近貴賤ノ等アリテ、物ノ名アリ。物ノ品々相雜ハル時ハヲノヅカラ文生ズ。物相雜ルノ文自然ノ勢アリテ或ハアタリ或ハアタラズ。故ニ吉凶生ズ。得失ノ吉凶ハ平人ノ事也。自然ノ勢ノ吉凶ハ君子モマヌガレズ、命ナリ

易ノ之興ルレ一也。其レ當ニ二殷ノ之末世周ノ之盛德一邪カ。當ニ二文王ト與レ紂之事一邪カ。是ノ故ニ其ノ辭危シ。危キ者ハ使ムレ平カナラ。易キ者ハ使ムレ傾ケ。其道甚タ大ナリ。百物不レ廢レ。懼リテ以テ終始ス。其ノ要无シレ咎ガ。此ヲ之謂フ二易ノ之道一ト也

伏犧氏ノ易ハ卦畫バカリ也。後世サトリガタキ故ニ、只卜筮ノ事トノミナシ置タリ。文王辭ヲカケ玉ヒテヨリ易道中興ス。此興ハ中興也。天下ハ殷ノ末世ナリ。中興ハ諸侯ナレ𪜈文王ナレバ周ノ盛德ナリ。此故ニ文王ト紂トノ間ニアタレリ。タヾサヘ諸侯ハアシクスレバ亡サレ易シ。道ナキ世ニハ恐多位也。マシテ紂ト云悪人ヲ上ニ置君トシ玉ヒ、且ツ疑ハレ玉ヘバ、文王ノ身安カラズ。其不レ安人ハ子孫ノ代ニハ天下ヲ有チ、子孫永久ナリ。上ニ居テ氣ヅカヒナク、上ミヌフルマヒセシ紂ハ亡テ天下ヲ失ヘリ。是アヤブミ愼ム者ハ平ニ、心易思ヒテ不愼者ハ傾キ亡ル處

ナリ。始終戒愼ヲ不レ失トキハ咎ナシ。コレ則易ノ道ナリ。易道甚大ナル故ニモル、事ナシ

夫レ乾ハ天下ノ之至健ナリ也。德行恒ニ易ノ以テ知ル險ヲ。夫レ坤ハ天下ノ之至順ナリ也。德行恒ニ簡ニノ以知ル阻ヲ。能ク說バシメ諸心ヲ。能研アキラカニノ諸侯ノ之慮ヲ。定メ天下ノ之吉凶ヲ。成ス天下ノ之亹々ヲ者ノ也。是ノ故ニ變化云爲ノ吉事有レ祥。象事知リ器ヲ。占事知ル來ヲ。天地設ケ位ヲ。聖人成ス能ヲ。人謀リ鬼謀リテ百姓與アヅカル能ニ。八卦以レ象ヲ告ク。爻彖以テ情ヲ言フ。剛柔雜居ノ。而吉凶可シ見ツ矣

右ハ本義大全ニ見エタリ

變動ハ以テ利ヲ言フ。吉凶ハ以テ情ヲ遷ル。是ノ故ニ愛惡相攻メテ。而吉凶生ル。遠近相取テ。而悔吝生ル。情僞相感ノ。而感メ而利害生ル。凡ソ易ノ之情。近クノ而不ルトキハ相得ヒ則凶シ。或ハ害スレ之ヲ悔ヒ且ツ吝シ

變動シテ物ヲ開キ務ヲナスハ物ヲ利スル處也。水生木、木生火、火生土、土生金、金生水ト相生ズルハ先天ノ道也。土克水ニテ田ヲ作リ、金克木ニテ屋作、器物出來、火克金ニテ鋤鍬鎌太刀等出來ハ、後天ノ理變動ノ利ナリ。吉凶ハ人情ノ好惡善惡ヨリウツリテ、吉モ凶トナリ、凶モ吉ニ變ズル者也。無心ノ者モニクメバ敵心生ジ、ソムケル者モ愛スレバ服ス。愛スベキ善人ヲニクミ遠ザケテ人ヲ失フノ損、其凶アゲテカゾフベカラズ。ニクミ遠ザクベキ小人ヲ愛シ近付テ、國家ヲ亡ス者多シ。如此ノ吉凶愛惡相攻ヨリ生ズルナリ

遠近相取ハ凶人ニテモ知人ナラズ、餘所ノ者ナレバ害ナキニ近付テ禍ヲ取、氣ノ毒ナルコトアレバ悔ル也。近付親ムベキ善人アレドモ或ハムツカシク思ヒ、或ハ身ノ非ヲ攻ルコトヲハカリナドシテ過ス吝ナリ

情僞……タガヒノ情相叶テ相感ジ相助ル時ハ利生ジ、タガヒノ僞相感ジ、ソムク時ハ害生ズ。是レ凡人ノ上ノ事也。易ニハ世間ノアリサマヲノベ玉フコト多シ。故ニ易ニノ玉フ人情体近ク親ミテ不ニ相叶一時ハ却テ凶生ズ。悪ム心ヨリハ害スル心モヲコル者也。凡人ハ凶害ノ後ニ悔吝アリ。禮ヲ以テ遠ク相交ルハ平人ノ吉也。凡人ノ上ノ用心也。卜筮ヲカラズシテシラル、占ナリ。聖代ニ夷狄ヲ中國ニ加ヘタマハズ、彼ヨリ徳ヲシタヒテ來レバメグミ教玉ヒ、不レ來トモカマヒ玉ハズ、相遠シテ凶害ナキ占ナリ。後世夷狄ヲシタガヘントシテ中國衰微シ、大ナル害トナレリ。聖人ノ占ハ數千歳ノ後マデモタガハズ

將ニレ叛カント者ノハ。其ノ辭ハ慙ハヅ。中心ニ疑ヘル者ノハ其ノ辭ハ枝ハカル。吉人ノ之辞ハ寡シ。躁人ノ之辭ハ多シ。誣スルシフレ善ヲ之人ハ。其ノ辭游リヲヨグ。失ニフ其ノ守一ヲ者ハ其辞屈セリ

大全ニ見エタリ

蕃山全集　第四冊　（全六冊ノ内）

編纂者　正宗敦夫
東京市神田區神保町一ノ三
發行者　蕃山全集刊行會
小川鐵之助
東京市小石川區高田豐川町三七番地
印刷者　厚德社印刷所
長宗泰造
東京市神田區神保町一ノ三文川堂內
發行所　蕃山全集刊行會
振替東京一六八五〇三番
電話神田二三六七番

昭和十五年十月八日印刷
昭和十五年十月十三日發行

一冊豫約價　金四圓五拾錢
全六冊　金貳拾七圓也

製本　柏谷製本所